２０２２年度

# 教 育 要 項
# （シラバス）

順天堂大学保健医療学部

理学療法学科

# 目　　次

## 授業科目

＊ 開講科目には「●」を付しています。（未開講科目のシラバスは開講年次に配信）


Ⅰ．　基礎分野

1.　人間科学系

- 現代社会と倫理
- 心理と行動
- 社会学概論
- 人間関係論(コミュニケーション論)
- 法と社会（日本国憲法）
- 人権とジェンダー
- 社会保障制度と医療経済
- 世界と日本現代史

2.　自然科学系

- 基礎化学
- 基礎生物学
- 基礎物理学
- 基礎数学
- 情報科学
- 統計学
- 生化学
- 生命現象の科学

3.　言語とスポーツ系

- 英語Ⅰ
- 英語Ⅱ
- 英語表現Ⅰ
- 英語表現Ⅱ
- 医療英語
- 中国語Ⅰ
- 中国語Ⅱ
- フランス語Ⅰ
- フランス語Ⅱ
- 国語表現法
- スポーツ理論・実技
- スポーツ健康運動方法論
- 野外スポーツ実習Ⅰ（サマー）
- 野外スポーツ実習Ⅱ（ウインター）

4.　総合

- フレッシャーズゼミナール

Ⅱ．　専門基礎分野

### 1. 人体の構造と機能及び心身の発達

- 解剖学Ⅰ
- 解剖学Ⅱ
- 解剖学実習Ⅰ
- 解剖学実習Ⅱ
- 生理学Ⅰ
- 生理学Ⅱ
- 生理学実習
- 運動学
- 運動学実習
- 人間発達学

### 2. 疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進

- 救命救急学
- 臨床心理学
- カウンセリング論
- 病理学概論
- 外科学
- 整形外科学
- 脳神経外科学
- 内科学
- 精神医学
- 神経内科学
- 小児科学

感染症・免疫学
薬理学
栄養代謝学

### 3. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念

- リハビリテーション医学

医療倫理論
医療安全管理学
地域包括マネジメント論
チーム医療論

## Ⅲ. 専門分野

### 1. 基礎理学療法学

- 理学療法概論
- 日常生活活動学
- 日常生活活動学実習
- 理学療法基礎ゼミナール

理学療法管理学

### 2. 理学療法評価学

- 検査・測定学
- 検査・測定学演習

- 運動療法評価学
- 運動療法評価学実習

理学療法画像評価学

## 3. 理学療法治療学

- 物理療法学
- 物理療法学実習
- 運動器系理学療法学
- 運動器系理学療法学実習
- 神経系理学療法学

神経系理学療法学実習

- 内部障害系理学療法学

内部障害系理学療法学実習

発達障害系理学療法学

スポーツ理学療法学

義肢装具学

義肢装具学演習

リハビリテーション工学

発達障害系理学療法学演習

スポーツ理学療法学演習

関節障害理学療法学演習

認知神経理学療法学演習

急性期理学療法学演習

高齢者理学療法学演習

## 4. 地域理学療法学

地域理学療法学Ⅰ

地域理学療法学Ⅱ

## 5. 臨床実習

- 臨床実習Ⅰ（見学）
- 臨床実習Ⅱ（検査・測定）

臨床実習Ⅲ（評価）

臨床実習Ⅳ（インターン）

臨床実習Ⅴ（地域）

## 6. 総合領域

理学療法研究法

理学療法ゼミナール

卒業研究

理学療法学セミナー

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 現代社会と倫理 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Ethics | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 長沼　淳 | ナンバリング | BAG1000 |
| 担当教員 | 長沼　淳 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 現代社会が直面する倫理的諸問題を概観し、問題の構造が社会のあり方や個々人の持つ価値観と密接な関係があることを確認する。そのうえで、このような多様な価値観が交錯し、一見解決不能にも思える諸問題に対し、どのように人々の利害を調停し、より客観的な道徳を構築していくべきなのか、倫理学が、とりわけ医療の分野でどのような役割を期待され、また果たせるのかを検討する。今後一層多様化が進むことが予想される我が国にあって、医療者も職務遂行上多くの異なる価値観と直面することになる。学生には、そうした場面でどのように行動することが倫理的に適切と考えられるのかという倫理的自律性の基盤を獲得することを目標とする。 |
| 到達目標 | 本講義のねらいは、現代社会における課題とその調停の方法を学び、自らの実践につなげられるようにすることにある。<br>1.倫理的に生きるとはどういうことかについての基本的な見通しを立て、説明することができる。<br>2.個人の尊重と倫理の関係について理解し、自分なりに説明することができる。<br>3.規範を守ることの理解に基づき、実践につなげることができる。<br>4.善悪と個人の価値観の関係について理解することができる。 |
| 授業の位置づけ | 医療を学ぶ上で、倫理的に行動することの意味を理解していることは必須の前提といえる。複雑多様化し高度に発達した現代社会における医療の「倫理」の意味を理解し、実践に移せる能力を磨いておきたい。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1、理学DP-1、放射DP-1 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・現代社会で問題となっている事柄についてニュースや新聞記事などに関心を持ち積極的に情報に触れるようにすること。<br>・授業内で学んだことが実際の場面でどのように取り扱われているかを考えること。<br>・答えを探すというより、問を考える過程に注意を払うこと。<br>・提出物に対するフィードバックは希望者に随時メールにて行う。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業の達成目標について、レポート(20%)ならびに定期試験（80%）において確認し、総合的に判定する。 |
| 評価基準 | ・医療における倫理理解の変遷、その背景を説明できるか。<br>・医療における「自己決定権」の意義を説明できるか。<br>・「患者の主体性」を支援することの意味を説明できるか。<br>・倫理とは答えを出す過程に意味があることをせつめいできるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| ・小テストの結果については、次回講義内で総評を述べるとともに、個別の質問についてはその都度対応する。<br>・試験（レポート）評価は、メールやJ-Passなどで適宜コメントする。 | |
| テキスト | |
| 特になし | |
| 参考文献 | |
| ・テキストは使用せず、毎講義時にプリントを配布する。<br>・参考書は授業内において適宜紹介する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 講義の前後で対応する。事前にメールでアポイントメントをとること。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>4/9<br>（金）<br>5時限 | 長沼　淳 | オリエンテーション<br>倫理学の基本 | 講義 | 【予習】（90分）<br>特になし<br>【復習】（90分）<br>小テストの回答。配布資料の確認。 |
| 2<br>4/16<br>（金） | 長沼　淳 | 生命倫理の誕生と発展①<br>　ヒポクラテスの誓いからジュネーブ宣言まで | 講義 | 【予習】（90分）<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 5時限<br>(未定) | | | | 小テストの回答。パターナリズムから患者の自己決定権確立の流れを確認しておくこと。 |
| 3<br>4/23<br>(金)<br>5時限 | 長沼　淳 | 生命倫理の誕生と発展②<br>　医療技術の発展と新たな問題の発生 | 講義 | 【予習】(90分)<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】(90分)<br>小テストの回答。生命倫理が科学の発展と相関していることを確認しておくこと。 |
| 4<br>4/30<br>(金)<br>5時限 | 長沼　淳 | 生命倫理の誕生と発展③<br>　生命倫理の三原則と先端医療 | 講義 | 【予習】(90分)<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】(90分)<br>小テストの回答。患者の自律と専門家の支援の関係を考えておくこと。 |
| 5<br>5/14<br>(金)<br>5時限 | 長沼　淳 | 自己決定権①<br>　自己決定権が確立する過程 | 講義 | 【予習】(90分)<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】(90分)<br>小テストの回答。近代の成立と個人の確立、自己決定へと向かう過程を確認しておくこと。 |
| 6<br>5/21<br>(金)<br>5時限 | 長沼　淳 | 自己決定権②<br>　他者決定としての自己決定権 | 講義 | 【予習】(90分)<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】(90分)<br>小テストの回答。自分のことは自分だけで決めることができているか考えてみよう。 |
| 7<br>5/28<br>(金)<br>5時限 | 長沼　淳 | デザイナーベビーを考える<br>ビデオを鑑賞する | ビデオを使用 | 【予習】(90分)<br>特になし。<br>【復習】(90分)<br>ビデオのレポートを次回までに完成させておくこと。 |
| 8<br>6/4<br>(金)<br>5時限 | 長沼　淳 | 先週の振り返り<br>　自己決定と家族 | 討論 | 【予習】(90分)<br>自分のレポートを発表できるよう準備しておくこと。<br>【復習】(90分)<br>同じ問題に対する他の人の見解をふまえ、思考の多様性を確認しておくこと。 |
| 9<br>6/11<br>(金)<br>5時限 | 長沼　淳 | 他者危害の原則①<br>　他人に迷惑をかけなければ何をやってもよいとはどういうことか | 講義 | 【予習】(90分)<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】(90分)<br>小テストの回答。他者危害の原則は本当に成り立つのかもう一度考え直してみよう。 |
| 10<br>6/18<br>(金)<br>5時限 | 長沼　淳 | 他者危害の原則②<br>　リバタリアニズムとコミュニタリアニズム | 講義 | 【予習】(90分)<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】(90分)<br>小テストの回答。個人の自由と社会の秩序の関係はどうあるべきなのか、それぞれの立場の利点、欠点を踏まえ再検討しておくこと。 |
| 11<br>6/25<br>(金)<br>5時限 | 長沼　淳 | 愚行権<br>　私らしさと他者との共存 | 講義 | 【予習】(90分)<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】(90分)<br>小テストの回答。合理的な選択と私にとっての価値の追求をどう両立させるのか、自分なりに考えてみよう。 |
| 12<br>7/2<br>(金)<br>5時限 | 長沼　淳 | 環境倫理の諸問題①<br>　土地倫理と世代間倫理 | 講義 | 【予習】(90分)<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】(90分)<br>小テストの回答。環境はなぜ倫理の問題となるのか、自分なりに考えてみよう。 |
| 13<br>7/9(金)5限 | 長沼　淳 | 環境倫理の諸問題②<br>　世代間倫理と貧困問題 | 講義 | 【予習】(90分)<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】(90分)<br>小テストの回答。公平さは同時代人との間でだけ検討するべきなのか、未来世代の権利は誰が確保するのか、自分なりに考えておくこと。 |
| 14<br>7/16<br>(金)<br>5時限 | 長沼　淳 | 環境倫理の諸問題③<br>　豊かさの確保と持続的な発展 | 講義 | 【予習】(90分)<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】(90分) |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 小テストの回答。豊かさとは何なのか考えておこう。 |
| 15<br>7/30<br>（金）<br>5時限 | 長沼　淳 | まとめ<br>　これまでの振り返りと今後の課題 | 講義 | 【予習】（90分）<br>事前配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>定期試験のテーマについて思考を独自に深化させておくこと。 |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 心理と行動 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Psychology and Behavior | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 吉武 尚美 | ナンバリング | BAG1001 |
| 担当教員 | 吉武 尚美 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 保健医療の知識の専門的支援に従事する際には、被支援者のみならず自身の行動や心の働きについても知っておく必要がある。心理学とは人間の心と行動のメカニズムを科学的に解明する学問である。本科目は心理学の概論授業として、諸領域の基本的な概念や理論を学び、自他の心に関して科学的な根拠に基づいた理解を深める。これらの学修を通して、人間性への尊重と共感をもった専門的支援ができることを目指す。 |
| 到達目標 | 1. 人間の心や行動に関する心理学の基本的な概念や理論を説明することができる。<br>2.自他の心や行動を心理学的知見に基づいて理解，予測，制御することができる。<br>3. 様々な社会的事象を心理学的観点から考察することを通じて、心理学的な思考スキルを獲得する。<br>4. 環境や人格の多様性に敏感になり，自他の受容感を高める。 |
| 授業の位置づけ | 本学部で求められる普遍性と個別性，多様性に根差した人間理解のためには心理学の素養は不可欠である。専門的学習や実践に役立つ基礎的知識やスキルを習得することができる本科目は学部での学習の入り口に位置づけられる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1<br>理学DP2<br>放射DP1，DP2 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・教科書を最終授業までに読破する。事前理解度テストを受けて理解を確認すること。<br>・授業ではクイズ、エクササイズ、グループワークを行うとともに，行動観察や実験などの宿題を出すので、積極的に取り組むこと |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 以下を総合して評価する：<br>課題レポート１題　25%，学習意欲（事前確認テスト・リアクションペーパー・グループワークへの参加度合い）25%，定期試験（中間試験／学期末試験）　50% |
| 評価基準 | ・学習の内容を自分の経験と関連付けて理解できているか<br>・心理学の主要領域（認知・発達・社会・健康）における基本的な概念や理論を理解しているか<br>・心理学の概念や理論を用いてより深い自己分析ができたか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やGoogleClassroomを使用して返却する。 | |
| テキスト | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 医療系のための心理学 | 樫村正美・野村俊明 | 講談社 | 978-4-06-518093-8 |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 授業内で適宜紹介する |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | n-yoshitake@juntendo.ac.jp（予約メール必要） |
| 担当教員の実務経験 | カウンセリング機関や教育機関での臨床経験を活かし、実際の症例に関する内容を交えて講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 吉武　尚美 | 【受講ガイダンス】<br>・心理学とは<br>・心理学を学ぶということ | 講義 | 【予習】（90分）<br>心とは何かを自分の言葉で説明できるようにしておく<br>【復習】（90分）<br>心理学を学ぶ意義を整理し，授業で特に学びたい自分の関心事や目的を明確にする。テキストの該当箇所を読んで，授業の内容を体系づけておく |
| 2 | 吉武　尚美 | 【感覚と知覚】<br>1. 感覚・知覚・認知<br>2. ゲシュタルト心理学<br>3. 感覚・知覚の加齢による変化 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1.教科書の該当箇所を読んでおく<br>2.「錯覚」体験を2つ挙げ，状況を描写する<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 教科書を再度読み，用語の理解を定着させる。 |
| 3 | 吉武　尚美 | 【学習と記憶(1)】<br>1. 行動主義心理学による学習理論<br>2. 行動科学の医療場面への応用 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1.教科書の該当箇所を読んでおく<br>2.自らの「学習の体験」を2つ挙げ，状況を描写しておく<br>【復習】（90分）<br>教科書を再度読むとともに，日常の行動を条件づけの視点から説明できるようにする。 |
| 4 | 吉武　尚美 | 【学習と記憶(2)】<br>1. 情報処理理論による学習理論<br>2. 記憶と忘却<br>3. 幼児や高齢者の記憶 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1.教科書の該当箇所を読んでおく<br>2.よく使う暗記の方法を2つ挙げ，長所と短所をまとめる<br>【復習】（90分）<br>情報処理理論の概要を把握し，記憶のプロセスについて理解を定着させる。 |
| 5 | 吉武　尚美 | 【動機づけと情動(1)】<br>1. 動機づけとは<br>2. 動機づけの諸理論 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1. 教科書の該当箇所を読んでおく<br>2. モチベーションを上げる方法を考える<br>【復習】（90分）<br>教科書を再度読み，様々な動機づけの特徴を整理し，理解を定着させる。 |
| 6 | 吉武　尚美 | 【動機づけと情動(2)】<br>1. フラストレーション<br>2. 情動<br>3. アンガーマネジメント | 講義 | 【予習】（90分）<br>1. 教科書の該当箇所を読んでおく<br>2. あなたにとって抵抗し難しい誘惑は何ですか。そして、それをどのようにコントロールしているか考えてみる<br>【復習】（90分）<br>教科書を再度読み，防衛機制を具体例とともに理解する<br>【レポート課題】(300分）<br>変えたい行動や抵抗したい誘惑を1つ取り上げ，心理学の知見をもとに行動変容計画を立て，実践し，効果を評価する（詳細は授業内で指示する） |
| 7 | 吉武　尚美 | 《中間試験》<br><br>【発達(1)】<br>1. 社会性の発達 | 授業内試験<br>講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の該当箇所を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>エリクソンの理論を整理し，理解を定着させる |
| 8 | 吉武　尚美 | 【発達(2)】<br>1. 性格理論<br>2. パーソナリティの検査法<br>3. パーソナリティの発達の要因 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1. 教科書の該当箇所を読んでおく<br>2. 自分のパーソナリティを表す言葉を5つ考える<br>【復習】（90分）<br>パーソナリティの検査法とその限界を整理し，理解を定着させる |
| 9 | 吉武　尚美 | 【発達(3)】<br>1. アイデンティティ | 講義 | 【予習】（90分）<br>1. 教科書の該当箇所を読んでおく<br>2. 初対面の人に自分をどう紹介するか考えてくる<br>【復習】（90分）<br>教科書を再度読み，理解を定着させる<br>【宿題】(180分）<br>授業で学んだことや心理テスト結果を踏まえて，自己紹介スライドを1枚作る（詳細は授業内で指示する） |
| 10 | 吉武　尚美 | 【集団と社会(1)】<br>1. 社会的認知<br>2. 集団の影響 | グループ内発表（自己紹介スライド）<br>講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の該当箇所を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>教科書を再度読み，集団圧力の影響について実験研究とともに理解する |
| 11 | 吉武　尚美 | 【集団と社会(2)】<br>1. 関係の進展<br>2. 対人コミュニケーション | 講義<br>グループワーク | 【予習】（90分）<br>1. 教科書の該当箇所を読んでおく<br>2. アサーションについて調べておく<br>【復習】（90分）<br>対人関係が深化する要因について整理しておく |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 12 | 吉武　尚美 | 【メンタルヘルス(1)】<br>1．精神障害<br>2．心理療法 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1．教科書の該当箇所を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>精神障害の特徴を整理し，理解を深める<br>様々な心理的介入方法の特徴を理解する |
| 13 | 吉武　尚美 | 【メンタルヘルス(2)】<br>発達障害と支援 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の該当箇所を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>発達障害の特徴と支援の方法を整理し，理解を深める |
| 14 | 吉武　尚美 | 【メンタルヘルス(3)】<br>1. ストレスとコーピング<br>2．ポジティブ心理学 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1．マインドフルネスについて調べる<br>2．ポジティブ心理学について調べる<br>【復習】（90分）<br>ポジティブサイコセラピーを通して精神的健康の維持と向上を実感する |
| 15 | 吉武　尚美 | 【メンタルヘルス(4)】<br>死をめぐる心理臨床<br>1．死の受容<br>2．遺族のケア | 講義 | 【予習】（90分）<br>1．教科書の該当箇所を読んでおく<br>2．グリーフワークについて調べておく<br>【復習】（90分）<br>教科書を再度読み，グリーフケアの理解を定着させる |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 社会学概論 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Introduction to Sociology | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 渡　正 | ナンバリング | BAG1002 |
| 担当教員 | 渡　正 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 社会学は、私たちの生きるこの世界を「人と人との関係性」という視点から読み解く。特に現代社会に生起する様々な事柄については、この「人と人との関係性」から作り上げられるものとした上で、その関係のあり方によって、物事の意味や見え方が変わると考える。そして私たちはそうした物事によって影響を受けつつ、社会生活を営むとともに、私たちの日々の活動は、社会に変化をもたらすことになる。本講義では、現代社会における様々な出来事を取り上げ、それらがどのような歴史や特徴をもち、どのような課題があるのかを検討する。それらを社会学的な理論や知識の観点から再度見直すことによって、私たちが生きる現代社会の諸問題についての幅広い考え方を身に付け、今後の社会について自らの視点を持って考え、物事に当たることができるようになることを目指す。 |
| 到達目標 | 1.現代社会における課題を考えるための社会学的理論／知識を理解し説明できる。<br>2.現代社会における課題を理解し、それが生起する背景的な問題を理解できる。<br>3.現代社会における課題を社会学的な観点から解釈し、自らの考えとしてまとめる事ができる。 |
| 授業の位置づけ | 社会の中に生きる私達の生活や行動は社会的出来事と切り離すことはできない。医療も同様に、社会の中に存在し、かつ医療自体も社会的事象である。本授業では医療を含む様々な社会的諸課題の背景について学び、課題を考察するための理論と方法を学習することで、本学部における学修の基礎として位置づける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1、理学DP-1・2、放射DP-1・2 |
| 履修上の注意、履修要件 | 履修者は、予め社会学に対する知識を有している必要はないものの、日本および世界の地理や歴史等についての基礎的な知識や時事問題への関心を有していることが講義の理解に有益である。必要な授業資料はポータルサイトに掲示するので、予習ではそれら資料を読み込んでくることが求められる。また授業内容をもとにした課題レポートを課す場合もあるため、毎回の復習が求められる。履修者の積極的な参加を前提として、対話を重視した授業を行う。<br>新型コロナウイルス感染症の発生状況に応じて、成績評価の基準、方法及び授業計画を変更する場合があります。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験（筆記）70%、課題レポート20%、提出されたワークシート10%の割合で評価を行う。 |
| 評価基準 | 現代社会においては、個人的な事柄と思われる疾病も、その個人が置かれる社会的状況との関連が強く指摘されている。そのため、医療者も医療の対象となる個人を超えて、広く社会的な状況や課題についての知識を理解することは重要である。そのため履修者は、各回の内容を単に覚えるのではなく、社会的な状況がどのように個人に影響を与えるのか、また、個人の活動がどのように社会を変化させていくのか、という様々な領域に関する想像力や思考が重要になる。<br>本授業ではそうした観点のもと、次のような観点で成績評価を行う。<br>1.現代社会における課題を理解するための社会学知識を理解しているか（定期試験）<br>2.現代社会における課題とその背景的問題を把握することができるか（ワーク）<br>3.現代社会における課題を社会学的な観点から考察することができるかを（課題レポート） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 大学生のための社会学入門 | 篠原清夫, 栗田真樹, 水嶋陽子他 | 晃洋書房 | 978-4-7710-2717-6 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| そのほか配布資料を使用します。 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 普段は酒々井のさくらキャンパスにいるので相談等がある学生は、授業の前後の時間か、<br>t-watari［アット］juntendo.ac.jp（アットを@に変換してください）にメールをしてください。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | | 【社会学的想像力とは】<br>社会学の基本的な考え方を紹介する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 2 | | 【近代社会の成立と社会学】<br>大きな社会変動であった近代社会の成立と、それを分析する学としての社会学をコント・デュルケーム・ウェーバーの学説から考える | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 3 | | 【自己の社会学】<br>自己つまり自分とはなにか？について、ミードの議論を紹介することから「私」の存在について、検討する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 4 | | 【日常的行為の社会学】<br>ゴフマンによる日常的行為の社会学から、およびエスノメソドロジーの会話分析から、私たちの日常的行為がいかに成り立っているかを解説する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 5 | | 【制度場面のコミュニケーション】<br>地位―役割理論とIRE連鎖など「ワークの実践」について解説する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 6 | | 【医療場面のコミュニケーション】<br>地位―役割理論とパーソンズの医療社会学について学習する。パーソンズによる医療社会学と地位―役割理論について説明する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 7 | | 【少子高齢化社会の諸相】<br>人口動態および出生率、未婚化・晩婚化、諸国の対応などについて解説し、現代日本における少子高齢化問題について理解する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 8 | | 【貧困問題とは】<br>絶対的貧困、相対的貧困、相対的剥奪やジニ係数について解説し、現代の格差社会の進展と日本の貧困問題について理解する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 9 | | 【社会的排除】<br>社会階層論、社会的排除について解説し、日本における差別（部落・地域）の問題について理解する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 10 | | 【ジェンダーとセクシュアリティの多様性】<br>ジェンダー、セクシュアリティ、セクシュアル・マイノリティについて解説し、マジョリティからの抑圧と性の多様性についてのフェミニズム理論を理解する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 11 | | 【障害の社会学】<br>ICF、障害の個人モデル、障害の社会モデル、共生社会につ | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | いて解説し、障害とは何か、共生社会とは何かについて理解する。 | | の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 12 | | 【民族とナショナリズム】<br>民族、国民、国民国家、ナショナリズムなどについて、B・アンダーソンの「想像の共同体」論の視点から解説する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 13 | | 【メディアはメッセージである】<br>エンコーディング／デコーディング、ホット／クールメディア、メディアの機能分析（順機能・逆機能）などについて解説し、現代社会の各メディアの特徴と機能について理解する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 14 | | 【グローバリゼーション】<br>グローバリゼーション、新自由主義、多文化主義、福祉国家など、現代社会のグローバル化の状況を解説し、グローバル化に伴う経済・社会・政治・文化の問題について理解する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| 15 | | 【現代社会の諸相と健康・医療】<br>消費社会（記号消費）や、ポストモダン、データベース型社会や生権力など、現代社会で生起する事象を考えるための諸理論を解説する。 | | 【予習】（90分）<br>事前にJ-passで掲示される資料を読み、内容の要約や指示した関連事項の予習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業の内容を振り返り、課題についての小レポートを書くこと。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 人間関係論（コミュニケーション論） | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Human Relations and Communication | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 山口 美和 | ナンバリング | BAG1003 |
| 担当教員 | 山口 美和 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 社会生活を営む上で人との関係は必要不可欠なものである。私たちは他者との結びつきや信頼関係の中で自分の居場所を得ることによって自分自身を受け入れることができる。人間関係を理解する上で大切なことは、まず自分を理解することである。本講義では、自分自身を理解することに取り組み、他者とコミュニケーションを取るために必要な「メタ認知能力（今ここにおける自分自身の状況を客観視できる力）」や「メタスキル（自分の周りに影響を与える気持ちや態度のこと）」を高めるための仕掛けを活用しながらコミュニケーションスキルを実践的に学んでいく。将来医療者となる自分自身のコミュニケーション力を向上させることはもちろん、心と心の通い合いによって生まれる温かい人間理解を医療現場で実践できる人になることが本講義の目的である。 |
| 到達目標 | 1．メタ認知とは何か理解し説明することができる。（第1回）<br>2．自分を理解することに取り組み、自己理解を深めることができる。（第２・３・４回）<br>3．自己肯定感について理解し、高めるための取り組みを自ら実践できる。（第１～１５回）<br>4．人間の心の構造と機能を理解し、対話分析を行うことができる。（第５・６回）<br>5．対人関係を円滑にするコミュニケーションについて具体的に理解できる。（第６・７回）<br>6．言語・準言語・非言語コミュニケーションについて具体的に説明できる。（第８回）<br>7．基本的なコミュニケーションスキル「みる」「聴く」「伝える」を理解できる。（第８～１１回）<br>8．「傾聴」の基本を学び、具体的な方法について説明できる。（第１０回）<br>9．感情に関する基本を理解し，自分の感情をコントロールする取り組みを始めることができる。（第１２回）<br>10．自分も相手も大切にした伝え方「アイメッセージ」を学び具体的な方法について説明できる。（第１３回）<br>11．自分も相手も大切にした自己主張「アサーティブネス」の基本を理解し、方法について説明できる。（第１４回）<br>12．医療者として自律した自分になるための方法を理解し実践を始めることができる。（第１５回） |
| 授業の位置づけ | 本授業は，医療者として必要な「基本的臨床技能としてのコミュニケーション力」を自律性を持って発揮できる人間力を育成することを目的とした内容である。学是である「仁(思いやり）」の心を育み，将来医療の専門家として知識や技術を十分発揮するために，医療者としての "土台作り" をしていくための位置づけである。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1、放射DP-1・2 |
| 履修上の注意、履修要件 | ①本講義ではセルフワーク・ペアワーク・グループワークを実施します。毎回，無遅刻無欠席での全員参加をお願いします。<br>（特に秋から冬の寒い期間の講義なので，時間管理・健康管理に対して高い意識を持ち，“責任ある行動ができる医療者”になるために自分を育ててください）<br>②人との関わりが苦手な人は、是非この講義を活用して新たな自分を発見してください。<br>③自分の成長と仲間の成長の貢献のために、積極的な参加をお願いします。<br>④本講義では心の問題について触れることがあります。ワークへの取り組みが難しい情況にある人は、遠慮したり無理したり我慢したりせずに申し出てください。（申し出により不利になるようなことはありません） |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 出席（30%）　リフレクションシートの提出と記述内容(20%)　定期試験：試験時間内にレポートを書く（50%） |
| 評価基準 | （1）毎授業で示した「本日のキーワード」を理解し説明することができるか<br>（2）自己理解を深めた結果として，自己の成長課題を明確にすることができるか<br>（3）各回で取り上げた内容を横断的に関連付けて，人間関係や対人コミュニケーションに対する理解を深めることができているか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 基本的に授業内で行います。最終レポートに関しては，最終授業にてお知らせします。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 「PT･OTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版」 | 山口美和 | 医学書院 | 978-4-260-02787-8 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| 授業内で必要に応じて紹介します。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 随時，電子メールで対応します。barrierfreeclub@yahoo.co.jp |
| 担当教員の実務経験 | リハビリテーション病院勤務の後，地域リハビリテーションに従事。その後学校勤務を経て独立。大学や病院などで医療者のコミュニケーション教育を行いながら，地域リハビリテーション活動を続けている。 |
| 備考 | |
| 授業計画 | |

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 山口　美和 | ●ガイダンス「医療者を目指すあなたへ」<br>1．授業概要説明<br>（1）シラバス説明<br>（2）授業方式と注意点など<br>2．自己紹介（グループワーク）<br><br>3．医療者を目指すあなたへ<br>（1）リアリティ・ショック<br>（2）対人援助職<br>（3）医療者に必要なコミュニケーション力<br>（4）自己肯定感<br>（5）自己管理能力<br>（6）メタ認知能力（セルフワーク） | 講義・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）シラバスをよく読み、授業の概要・成績評価方法・履修上の注意をしっかり把握しておく<br>（2）教科書pⅲ～ⅹⅵに目を通しておく<br>2．＊持ち物：マスコット（ぬいぐるみなど）<br>2．自己紹介の内容を考えておく<br>2．教科書ｐ4･6･8･10･12･14･16･18･20の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書いてくる<br>3．（1）～（6）教科書ｐ2～20を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>3．（1）～（6）教科書2～20を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める<br>3．（6）教科書p18～19「プロセスレコード」をやってみる。ワークシートが巻末付録p209に掲載してあるので、参考にしながらノートに自分自身の誰かとの会話を記録し、自身のコミュニケーションパターンについて客観的に観察・評価してみる |
| 第2回 | 山口　美和 | ●自分を理解する（Ⅰ）<br>1．自己概念（セルフワーク）<br>2．自己肯定感（セルフワーク）<br>3．性格診断テスト（セルフワーク） | 講義・セルフワーク | 【予習】（90分）<br>1～3．教科書ｐ21～29を読んでおく<br>2．教科書ｐ22･24･26･28の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～3．教科書p21～29を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める<br>3．教科書p30表2-2を参考に、自分の低い値の自我状態を高める方法を明確にして具体的な行動計画を立てる |
| 第3回 | 山口　美和 | ●自分を理解する（Ⅱ）<br>1．他者から見た自分（グループワーク）<br>2．自己開示<br>3．フィードバック | 講義・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書ｐ25「チェックしてみよう」の最後の「他者から見た自分の長所」に取り組んでみる（ワークシートは巻末付録p212を使用してください）<br>1～3．配布資料を読んでくる<br>【復習】（90分）<br>1～3．配布資料を再度読み、理解を深める |
| 第4回 | 山口　美和 | ●自分を理解する（Ⅲ）<br>1．自己存在についての意識（セルフワーク）<br>2．自分の態度<br>3．ポーターの態度類型（セルフワーク＋グループワーク）<br>4．医療者に求められる態度 | 講義・セルフワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1～4．教科書ｐ29～40を読んでおく<br>◆教科書ｐ30･32･34･36･38･40の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～4．教科書p29～40を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める |
| 第5回 | 山口　美和 | ●人間関係と対人コミュニケーション（Ⅰ）<br>1．人間の心を理解する<br>（1）心の構造<br>（2）心の機能：人間理解のための方法（セルフワーク） | 講義・セルフワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を再度読み、授業で学んだ内容を確認して理解を深める |
| 第6回 | 山口　美和 | ●人間関係と対人コミュニケーション（Ⅱ）<br>1．対人コミュニケーション分析<br>（1）対話から理解する方法（グループワーク）<br>（2）人間関係を円滑にする対話（セルフワーク） | 講義・セルフワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める |
| 第7回 | 山口　美和 | ●人間関係と対人コミュニケーション（Ⅲ）<br>1．存在への働きかけ<br>（1）存在認知の種類<br>（2）対人関係を良好にする働きかけ(グループワーク) | 講義・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第8回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅰ）<br>1．言語・準言語コミュニケーション<br>2．非言語コミュニケーション（ペアワーク）<br>3．みる力 | 講義・ペアワーク | 【予習】（90分）<br>1～3．教科書ｐ41～50を読んでおく<br>◆教科書ｐ42･44･46･48･50の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 1～3．教科書 p 41～50を読み，授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第9回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅱ）<br>1．「聞く」と「聴く」<br>（ペアワーク）<br>2．聴く技術<br>（ペアワーク） | 講義・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1～2．教科書 p 50～52, p 165～170を読んでおく<br>◆教科書 p 52･166･168･170の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～2．教科書 p 50～52, p 165～170を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第10回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅲ）<br>1．傾聴トレーニング（ペアワーク） | 講義・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 53～60を読んでおく<br>◆教科書 p 54･56･58･60の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 54･56･58･60を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1．できれば友人同士などで傾聴を練習してみる |
| 第11回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅳ）<br>1．伝える<br>（全体ワーク）（ペアワーク） | 講義・全体ワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 60～63,64one point,67を読んでおく<br>2．報告のしかたについて調べてみる<br>◆教科書 p 62･64の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～2．教科書 p 60～63,64one point,67を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第12回 | 山口　美和 | ●感情管理<br>1．医療者に必要な感情管理<br>2．自分の感情をコントロールする方法<br>（ペアワーク） | 講義・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1～2．教科書 p 78～82「感情管理」を読んでおく<br>1～2．これまで体験した「怒り」について思い出し、リストアップしておく<br>◆教科書 p 78･80･82の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～2．教科書 p 78～82「感情管理」を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1～2．教科書 p 81 Work16に取り組む |
| 第13回 | 山口　美和 | ●コミュニケーションスキル（Ⅰ）<br>自分も相手も大切にした伝え方<br>1．アイメッセージ<br>（セルフワーク＋ペアワーク） | 講義・セルフワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 63～65を読んでおく<br>1．過去に誰かから受けた言動によって、自分が傷ついたり嫌な思いをしたりした経験を思い出してリストアップしておく<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 63～65を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1．配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第14回 | 山口　美和 | ●コミュニケーションスキル（Ⅱ）<br>自分と相手を大切にした自己主張<br>1．アサーティブネス<br>（セルフワーク＋ペアワーク） | 講義・セルフワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 65～68を読んでおく<br>1．過去に自分が言いたかったけれど上手く相手に言えなかった体験や、伝えたけれど相手を傷つけてしまった体験についてリストアップしておく<br>◆教科書 p 66･68の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 63～68を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1．配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第15回 | 山口　美和 | ●自律した自分になろう<br>1．自己管理<br>（セルフワーク）（ペアワーク）<br>2．メンタルヘルス対策<br>（セルフワーク） | 講義・セルフワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 69～78を読んでおく<br>◆教科書 p 70･72･74･76の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 69～78を再度読み、授業で学んだ内容を確認する<br>2．配布資料を読み、授業で学んだ内容を再 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 度確認する<br>◆教科書ｐ84･86･88･90･92･94･96･98･100の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 人間関係論（コミュニケーション論） | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Human Relations and Communication | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 山口 美和 | ナンバリング | BAG1003 |
| 担当教員 | 山口 美和 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 社会生活を営む上で人との関係は必要不可欠なものである。私たちは他者との結びつきや信頼関係の中で自分の居場所を得ることによって自分自身を受け入れることができる。人間関係を理解する上で大切なことは、まず自分を理解することである。本講義では、自分自身を理解することに取り組み、他者とコミュニケーションを取るために必要な「メタ認知能力（今ここにおける自分自身の状況を客観視できる力）」や「メタスキル（自分の周りに影響を与える気持ちや態度のこと）」を高めるための仕掛けを活用しながらコミュニケーションスキルを実践的に学んでいく。将来医療者となる自分自身のコミュニケーション力を向上させることはもちろん、心と心の通い合いによって生まれる温かい人間理解を医療現場で実践できる人になることが本講義の目的である。 |
| 到達目標 | 1．メタ認知とは何か理解し説明することができる。（第1回）<br>2．自分を理解することに取り組み、自己理解を深めることができる。（第２・３・４回）<br>3．自己肯定感について理解し、高めるための取り組みを自ら実践できる。（第１～１５回）<br>4．人間の心の構造と機能を理解し、対話分析を行うことができる。（第５・６回）<br>5．対人関係を円滑にするコミュニケーションについて具体的に理解できる。（第６・７回）<br>6．言語・準言語・非言語コミュニケーションについて具体的に説明できる。（第８回）<br>7．基本的なコミュニケーションスキル「みる」「聴く」「伝える」を理解できる。（第８～１１回）<br>8．「傾聴」の基本を学び、具体的な方法について説明できる。（第１０回）<br>9．感情に関する基本を理解し，自分の感情をコントロールする取り組みを始めることができる。（第１２回）<br>10．自分も相手も大切にした伝え方「アイメッセージ」を学び具体的な方法について説明できる。（第１３回）<br>11．自分も相手も大切にした自己主張「アサーティブネス」の基本を理解し、方法について説明できる。（第１４回）<br>12．医療者として自律した自分になるための方法を理解し実践を始めることができる。（第１５回） |
| 授業の位置づけ | 本授業は，医療者として必要な「基本的臨床技能としてのコミュニケーション力」を自律性を持って発揮できる人間力を育成することを目的とした内容である。学是である「仁(思いやり）」の心を育み，将来医療の専門家として知識や技術を十分発揮するために，医療者としての "土台作り" をしていくための位置づけである。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1、放射DP-1・2 |
| 履修上の注意、履修要件 | ①本講義ではセルフワーク・ペアワーク・グループワークを実施します。毎回，無遅刻無欠席での全員参加をお願いします。<br>（特に秋から冬の寒い期間の講義なので，時間管理・健康管理に対して高い意識を持ち，“責任ある行動ができる医療者”になるために自分を育ててください）<br>②人との関わりが苦手な人は、是非この講義を活用して新たな自分を発見してください。<br>③自分の成長と仲間の成長の貢献のために、積極的な参加をお願いします。<br>④本講義では心の問題について触れることがあります。ワークへの取り組みが難しい情況にある人は、遠慮したり無理したり我慢したりせずに申し出てください。（申し出により不利になるようなことはありません） |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 出席（30%）　リフレクションシートの提出と記述内容(20%)　定期試験：試験時間内にレポートを書く（50%） |
| 評価基準 | （1）毎授業で示した「本日のキーワード」を理解し説明することができるか<br>（2）自己理解を深めた結果として，自己の成長課題を明確にすることができるか<br>（3）各回で取り上げた内容を横断的に関連付けて，人間関係や対人コミュニケーションに対する理解を深めることができているか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 基本的に授業内で行います。最終レポートに関しては，最終授業にてお知らせします。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 「PT･OTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版」 | 山口美和 | 医学書院 | 978-4-260-02787-8 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| 授業内で必要に応じて紹介します。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 随時，電子メールで対応します。barrierfreeclub@yahoo.co.jp |
| 担当教員の実務経験 | リハビリテーション病院勤務の後，地域リハビリテーションに従事。その後学校勤務を経て独立。大学や病院などで医療者のコミュニケーション教育を行いながら，地域リハビリテーション活動を続けている。 |
| 備考 | |
| 授業計画 | |

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 山口　美和 | ●ガイダンス「医療者を目指すあなたへ」<br>1．授業概要説明<br>（1）シラバス説明<br>（2）授業方式と注意点など<br>2．自己紹介（グループワーク）<br><br>3．医療者を目指すあなたへ<br>（1）リアリティ・ショック<br>（2）対人援助職<br>（3）医療者に必要なコミュニケーション力<br>（4）自己肯定感<br>（5）自己管理能力<br>（6）メタ認知能力（セルフワーク） | 講義・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）シラバスをよく読み、授業の概要・成績評価方法・履修上の注意をしっかり把握しておく<br>（2）教科書pⅲ～ⅹⅵに目を通しておく<br>2．＊持ち物：マスコット（ぬいぐるみなど）<br>2．自己紹介の内容を考えておく<br>2．教科書ｐ4･6･8･10･12･14･16･18･20の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書いてくる<br>3．（1）～（6）教科書ｐ2～20を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>3．（1）～（6）教科書2～20を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める<br>3．（6）教科書p18～19「プロセスレコード」をやってみる。ワークシートが巻末付録p209に掲載してあるので、参考にしながらノートに自分自身の誰かとの会話を記録し、自身のコミュニケーションパターンについて客観的に観察・評価してみる |
| 第2回 | 山口　美和 | ●自分を理解する（Ⅰ）<br>1．自己概念（セルフワーク）<br>2．自己肯定感（セルフワーク）<br>3．性格診断テスト（セルフワーク） | 講義・セルフワーク | 【予習】（90分）<br>1～3．教科書ｐ21～29を読んでおく<br>2．教科書ｐ22･24･26･28の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～3．教科書p21～29を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める<br>3．教科書p30表2-2を参考に、自分の低い値の自我状態を高める方法を明確にして具体的な行動計画を立てる |
| 第3回 | 山口　美和 | ●自分を理解する（Ⅱ）<br>1．他者から見た自分（グループワーク）<br>2．自己開示<br>3．フィードバック | 講義・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書ｐ25「チェックしてみよう」の最後の「他者から見た自分の長所」に取り組んでみる（ワークシートは巻末付録p212を使用してください）<br>1～3．配布資料を読んでくる<br>【復習】（90分）<br>1～3．配布資料を再度読み、理解を深める |
| 第4回 | 山口　美和 | ●自分を理解する（Ⅲ）<br>1．自己存在についての意識（セルフワーク）<br>2．自分の態度<br>3．ポーターの態度類型（セルフワーク＋グループワーク）<br>4．医療者に求められる態度 | 講義・セルフワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1～4．教科書ｐ29～40を読んでおく<br>◆教科書ｐ30･32･34･36･38･40の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～4．教科書p29～40を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める |
| 第5回 | 山口　美和 | ●人間関係と対人コミュニケーション（Ⅰ）<br>1．人間の心を理解する<br>（1）心の構造<br>（2）心の機能：人間理解のための方法（セルフワーク） | 講義・セルフワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を再度読み、授業で学んだ内容を確認して理解を深める |
| 第6回 | 山口　美和 | ●人間関係と対人コミュニケーション（Ⅱ）<br>1．対人コミュニケーション分析<br>（1）対話から理解する方法（グループワーク）<br>（2）人間関係を円滑にする対話（セルフワーク） | 講義・セルフワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める |
| 第7回 | 山口　美和 | ●人間関係と対人コミュニケーション（Ⅲ）<br>1．存在への働きかけ<br>（1）存在認知の種類<br>（2）対人関係を良好にする働きかけ(グループワーク) | 講義・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第8回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅰ）<br>1．言語・準言語コミュニケーション<br>2．非言語コミュニケーション（ペアワーク）<br>3．みる力 | 講義・ペアワーク | 【予習】（90分）<br>1～3．教科書ｐ41～50を読んでおく<br>◆教科書ｐ42･44･46･48･50の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 1～3．教科書 p 41～50を読み，授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第9回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅱ）<br>1．「聞く」と「聴く」<br>（ペアワーク）<br>2．聴く技術<br>（ペアワーク） | 講義・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1～2．教科書 p 50～52, p 165～170を読んでおく<br>◆教科書 p 52･166･168･170の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～2．教科書 p 50～52, p 165～170を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第10回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅲ）<br>1．傾聴トレーニング（ペアワーク） | 講義・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 53～60を読んでおく<br>◆教科書 p 54･56･58･60の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 54･56･58･60を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1．できれば友人同士などで傾聴を練習してみる |
| 第11回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅳ）<br>1．伝える<br>（全体ワーク）（ペアワーク） | 講義・全体ワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 60～63,64one point,67を読んでおく<br>2．報告のしかたについて調べてみる<br>◆教科書 p 62･64の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～2．教科書 p 60～63,64one point,67を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第12回 | 山口　美和 | ●感情管理<br>1．医療者に必要な感情管理<br>2．自分の感情をコントロールする方法<br>（ペアワーク） | 講義・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1～2．教科書 p 78～82「感情管理」を読んでおく<br>1～2．これまで体験した「怒り」について思い出し、リストアップしておく<br>◆教科書 p 78･80･82の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～2．教科書 p 78～82「感情管理」を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1～2．教科書 p 81 Work16に取り組む |
| 第13回 | 山口　美和 | ●コミュニケーションスキル（Ⅰ）<br>自分も相手も大切にした伝え方<br>1．アイメッセージ<br>（セルフワーク＋ペアワーク） | 講義・セルフワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 63～65を読んでおく<br>1．過去に誰かから受けた言動によって、自分が傷ついたり嫌な思いをしたりした経験を思い出してリストアップしておく<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 63～65を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1．配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第14回 | 山口　美和 | ●コミュニケーションスキル（Ⅱ）<br>自分と相手を大切にした自己主張<br>1．アサーティブネス<br>（セルフワーク＋ペアワーク） | 講義・セルフワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 65～68を読んでおく<br>1．過去に自分が言いたかったけれど上手く相手に言えなかった体験や、伝えたけれど相手を傷つけてしまった体験についてリストアップしておく<br>◆教科書 p 66･68の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 63～68を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1．配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第15回 | 山口　美和 | ●自律した自分になろう<br>1．自己管理<br>（セルフワーク）（ペアワーク）<br>2．メンタルヘルス対策<br>（セルフワーク） | 講義・セルフワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 69～78を読んでおく<br>◆教科書 p 70･72･74･76の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 69～78を再度読み、授業で学んだ内容を確認する<br>2．配布資料を読み、授業で学んだ内容を再 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 度確認する<br>◆教科書ｐ84･86･88･90･92･94･96･98･100の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 人間関係論（コミュニケーション論） | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Human Relations and Communication | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 山口 美和 | ナンバリング | BAG1003 |
| 担当教員 | 山口 美和 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 社会生活を営む上で人との関係は必要不可欠なものである。私たちは他者との結びつきや信頼関係の中で自分の居場所を得ることによって自分自身を受け入れることができる。人間関係を理解する上で大切なことは、まず自分を理解することである。本講義では、自分自身を理解することに取り組み、他者とコミュニケーションを取るために必要な「メタ認知能力（今ここにおける自分自身の状況を客観視できる力）」や「メタスキル（自分の周りに影響を与える気持ちや態度のこと）」を高めるための仕掛けを活用しながらコミュニケーションスキルを実践的に学んでいく。将来医療者となる自分自身のコミュニケーション力を向上させることはもちろん、心と心の通い合いによって生まれる温かい人間理解を医療現場で実践できる人になることが本講義の目的である。 |
| 到達目標 | 1．メタ認知とは何か理解し説明することができる。（第1回）<br>2．自分を理解することに取り組み、自己理解を深めることができる。（第２・３・４回）<br>3．自己肯定感について理解し、高めるための取り組みを自ら実践できる。（第１～１５回）<br>4．人間の心の構造と機能を理解し、対話分析を行うことができる。（第５・６回）<br>5．対人関係を円滑にするコミュニケーションについて具体的に理解できる。（第６・７回）<br>6．言語・準言語・非言語コミュニケーションについて具体的に説明できる。（第８回）<br>7．基本的なコミュニケーションスキル「みる」「聴く」「伝える」を理解できる。（第８～１１回）<br>8．「傾聴」の基本を学び、具体的な方法について説明できる。（第１０回）<br>9．感情に関する基本を理解し，自分の感情をコントロールする取り組みを始めることができる。（第１２回）<br>10．自分も相手も大切にした伝え方「アイメッセージ」を学び具体的な方法について説明できる。（第１３回）<br>11．自分も相手も大切にした自己主張「アサーティブネス」の基本を理解し、方法について説明できる。（第１４回）<br>12．医療者として自律した自分になるための方法を理解し実践を始めることができる。（第１５回） |
| 授業の位置づけ | 本授業は，医療者として必要な「基本的臨床技能としてのコミュニケーション力」を自律性を持って発揮できる人間力を育成することを目的とした内容である。学是である「仁(思いやり）」の心を育み，将来医療の専門家として知識や技術を十分発揮するために，医療者としての "土台作り" をしていくための位置づけである。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1、放射DP-1・2 |
| 履修上の注意、履修要件 | ①本講義ではセルフワーク・ペアワーク・グループワークを実施します。毎回，無遅刻無欠席での全員参加をお願いします。<br>（特に秋から冬の寒い期間の講義なので，時間管理・健康管理に対して高い意識を持ち，“責任ある行動ができる医療者”になるために自分を育ててください）<br>②人との関わりが苦手な人は、是非この講義を活用して新たな自分を発見してください。<br>③自分の成長と仲間の成長の貢献のために、積極的な参加をお願いします。<br>④本講義では心の問題について触れることがあります。ワークへの取り組みが難しい情況にある人は、遠慮したり無理したり我慢したりせずに申し出てください。（申し出により不利になるようなことはありません） |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 出席（30%）　リフレクションシートの提出と記述内容(20%)　定期試験：試験時間内にレポートを書く（50%） |
| 評価基準 | （1）毎授業で示した「本日のキーワード」を理解し説明することができるか<br>（2）自己理解を深めた結果として，自己の成長課題を明確にすることができるか<br>（3）各回で取り上げた内容を横断的に関連付けて，人間関係や対人コミュニケーションに対する理解を深めることができているか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 基本的に授業内で行います。最終レポートに関しては，最終授業にてお知らせします。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 「PT･OTのための これで安心 コミュニケーション実践ガイド 第2版」 | 山口美和 | 医学書院 | 978-4-260-02787-8 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| 授業内で必要に応じて紹介します。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 随時，電子メールで対応します。barrierfreeclub@yahoo.co.jp |
| 担当教員の実務経験 | リハビリテーション病院勤務の後，地域リハビリテーションに従事。その後学校勤務を経て独立。大学や病院などで医療者のコミュニケーション教育を行いながら，地域リハビリテーション活動を続けている。 |
| 備考 | |
| 授業計画 | |

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 山口　美和 | ●ガイダンス「医療者を目指すあなたへ」<br>1．授業概要説明<br>（1）シラバス説明<br>（2）授業方式と注意点など<br>2．自己紹介（グループワーク）<br><br>3．医療者を目指すあなたへ<br>（1）リアリティ・ショック<br>（2）対人援助職<br>（3）医療者に必要なコミュニケーション力<br>（4）自己肯定感<br>（5）自己管理能力<br>（6）メタ認知能力（セルフワーク） | 講義・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）シラバスをよく読み、授業の概要・成績評価方法・履修上の注意をしっかり把握しておく<br>（2）教科書pⅲ～ⅹⅵに目を通しておく<br>2．＊持ち物：マスコット（ぬいぐるみなど）<br>2．自己紹介の内容を考えておく<br>2．教科書ｐ4･6･8･10･12･14･16･18･20の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書いてくる<br>3．（1）～（6）教科書ｐ2～20を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>3．（1）～（6）教科書2～20を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める<br>3．（6）教科書p18～19「プロセスレコード」をやってみる。ワークシートが巻末付録p209に掲載してあるので、参考にしながらノートに自分自身の誰かとの会話を記録し、自身のコミュニケーションパターンについて客観的に観察・評価してみる |
| 第2回 | 山口　美和 | ●自分を理解する（Ⅰ）<br>1．自己概念（セルフワーク）<br>2．自己肯定感（セルフワーク）<br>3．性格診断テスト（セルフワーク） | 講義・セルフワーク | 【予習】（90分）<br>1～3．教科書ｐ21～29を読んでおく<br>2．教科書ｐ22･24･26･28の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～3．教科書p21～29を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める<br>3．教科書p30表2-2を参考に、自分の低い値の自我状態を高める方法を明確にして具体的な行動計画を立てる |
| 第3回 | 山口　美和 | ●自分を理解する（Ⅱ）<br>1．他者から見た自分（グループワーク）<br>2．自己開示<br>3．フィードバック | 講義・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書ｐ25「チェックしてみよう」の最後の「他者から見た自分の長所」に取り組んでみる（ワークシートは巻末付録p212を使用してください）<br>1～3．配布資料を読んでくる<br>【復習】（90分）<br>1～3．配布資料を再度読み、理解を深める |
| 第4回 | 山口　美和 | ●自分を理解する（Ⅲ）<br>1．自己存在についての意識（セルフワーク）<br>2．自分の態度<br>3．ポーターの態度類型（セルフワーク＋グループワーク）<br>4．医療者に求められる態度 | 講義・セルフワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1～4．教科書ｐ29～40を読んでおく<br>◆教科書ｐ30･32･34･36･38･40の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～4．教科書p29～40を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める |
| 第5回 | 山口　美和 | ●人間関係と対人コミュニケーション（Ⅰ）<br>1．人間の心を理解する<br>（1）心の構造<br>（2）心の機能：人間理解のための方法（セルフワーク） | 講義・セルフワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を再度読み、授業で学んだ内容を確認して理解を深める |
| 第6回 | 山口　美和 | ●人間関係と対人コミュニケーション（Ⅱ）<br>1．対人コミュニケーション分析<br>（1）対話から理解する方法（グループワーク）<br>（2）人間関係を円滑にする対話（セルフワーク） | 講義・セルフワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認して理解を深める |
| 第7回 | 山口　美和 | ●人間関係と対人コミュニケーション（Ⅲ）<br>1．存在への働きかけ<br>（1）存在認知の種類<br>（2）対人関係を良好にする働きかけ(グループワーク) | 講義・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>1．（1）（2）配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第8回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅰ）<br>1．言語・準言語コミュニケーション<br>2．非言語コミュニケーション（ペアワーク）<br>3．みる力 | 講義・ペアワーク | 【予習】（90分）<br>1～3．教科書ｐ41～50を読んでおく<br>◆教科書ｐ42･44･46･48･50の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 1～3．教科書 p 41～50を読み，授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第9回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅱ）<br>1．「聞く」と「聴く」<br>（ペアワーク）<br>2．聴く技術<br>（ペアワーク） | 講義・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1～2．教科書 p 50～52, p 165～170を読んでおく<br>◆教科書 p 52･166･168･170の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～2．教科書 p 50～52, p 165～170を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第10回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅲ）<br>1．傾聴トレーニング（ペアワーク） | 講義・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 53～60を読んでおく<br>◆教科書 p 54･56･58･60の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 54･56･58･60を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1．できれば友人同士などで傾聴を練習してみる |
| 第11回 | 山口　美和 | ●コミュニケーション力を育もう（Ⅳ）<br>1．伝える<br>（全体ワーク）（ペアワーク） | 講義・全体ワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 60～63,64one point,67を読んでおく<br>2．報告のしかたについて調べてみる<br>◆教科書 p 62･64の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～2．教科書 p 60～63,64one point,67を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第12回 | 山口　美和 | ●感情管理<br>1．医療者に必要な感情管理<br>2．自分の感情をコントロールする方法<br>（ペアワーク） | 講義・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1～2．教科書 p 78～82「感情管理」を読んでおく<br>1～2．これまで体験した「怒り」について思い出し、リストアップしておく<br>◆教科書 p 78･80･82の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1～2．教科書 p 78～82「感情管理」を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1～2．教科書 p 81 Work16に取り組む |
| 第13回 | 山口　美和 | ●コミュニケーションスキル（Ⅰ）<br>自分も相手も大切にした伝え方<br>1．アイメッセージ<br>（セルフワーク＋ペアワーク） | 講義・セルフワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 63～65を読んでおく<br>1．過去に誰かから受けた言動によって、自分が傷ついたり嫌な思いをしたりした経験を思い出してリストアップしておく<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 63～65を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1．配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第14回 | 山口　美和 | ●コミュニケーションスキル（Ⅱ）<br>自分と相手を大切にした自己主張<br>1．アサーティブネス<br>（セルフワーク＋ペアワーク） | 講義・セルフワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 65～68を読んでおく<br>1．過去に自分が言いたかったけれど上手く相手に言えなかった体験や、伝えたけれど相手を傷つけてしまった体験についてリストアップしておく<br>◆教科書 p 66･68の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 63～68を読み、授業で学んだ内容を再度確認する<br>1．配布資料を読み、授業で学んだ内容を再度確認する |
| 第15回 | 山口　美和 | ●自律した自分になろう<br>1．自己管理<br>（セルフワーク）（ペアワーク）<br>2．メンタルヘルス対策<br>（セルフワーク） | 講義・セルフワーク・ペアワーク・グループワーク | 【予習】（90分）<br>1．教科書 p 69～78を読んでおく<br>◆教科書 p 70･72･74･76の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く<br>【復習】（90分）<br>1．教科書 p 69～78を再度読み、授業で学んだ内容を確認する<br>2．配布資料を読み、授業で学んだ内容を再 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 度確認する<br>◆教科書ｐ84･86･88･90･92･94･96･98･100の左上「わたしの長所（自分の長所を書き込もう）を書く |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 法と社会（日本国憲法） | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | The Constitution of Japan | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 片山　和則 | ナンバリング | BAG1004 |
| 担当教員 | 片山　和則 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 憲法上保障されている自由・権利・平等、そしてそれらを保障するための統治機構（国会・内閣・裁判所）について学修する。できるだけ具体的な事例を扱い、憲法問題が身近なところにも存在するということを確認する。本講義を通して、憲法的な考え方を身に付けることを目標とする。そしてその憲法的な考え方で身近な事例を自分自身で考えられるようになることが最終的な目標である。具体的には、自分と異なる考え方を持つ人を尊重することについて真剣に考えられるようになることである。日本国憲法を理解し、自身の人生や生活の一助となるような価値観と考え方を修得することを目指す。<br><br>【関連するディプロマポリシー（DP）】<br>DP① グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力<br>DP② 自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力<br>DP③ 母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力<br>DP④ グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力 |
| 到達目標 | 本授業を通して、憲法的な考え方を身につけることを目標とします。<br>そしてその憲法的な考え方で身近な事例を自分自身で考えられるようになることが最終的な目標です。<br>具体的には、自分と異なる考え方を持つ人を尊重することについて真剣に考えられるようになることが本講義の目標です。<br>日本国憲法を少しずつ理解し、自身の人生や生活の一助となるような価値観と理解を求められたらと考えている。<br>令和になってから、何かと話題になる天皇制や天皇・皇族の人権問題について説明する。<br>また、現岸田政権下において憲法改正議論がさらに本格化する見込みであるため憲法改正と平和主義(自衛隊を国防軍にすべきか等)についても可能な限り詳しく説明する。 |
| 授業の位置づけ | 基礎分野/人間科学系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1、理学DP-1、放射DP-1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 事前学習は必要ではありませんが、その都度の授業で学習したことを「本当かな？」という批判的視点で検証してみる姿勢が大切です。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験(100%)により評価する。ただし、授業中に積極的に発言するなど授業に貢献した場合は、加点要素とする。 |
| 評価基準 | 憲法の歴史と原理について理解できているか、日本国憲法の人権規定について理解できているか、が評価のポイントとなります。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 個別に対応する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 講義毎にレジュメを配布する<br>伊藤正巳 『憲法入門 （有斐閣叢書）』 有斐閣 第４最新版<br>戸松秀典 『プレップ憲法』 弘文堂　第4版<br>こちらを参考図書としてあげておく。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 当該授業(集中講義)終了後に教室もしくは非常勤講師控室にて行う。 |
| 担当教員の実務経験 | 順天堂大学国際教養学部ほか、大学にて10年間以上、法学および日本国憲法担当講師としての経験がある。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 片山　和則 | 授業を始める前に　オリエンテーション | 講義 | 【予習】（90分）<br>日本国憲法の学習の仕方、計画を立てること。憲法を学ぶ上での基礎的知識(法学特有 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | の表現等)をしっかりと覚えること。<br>【予習】：半期の学習計画を立てること。<br>【復習】(90分)<br>法学特有のテクニカルタームをしっかりと覚えること。 |
| 2 | 片山　和則 | 立憲主義と日本国憲法 | 講義 | 【予習】（90分）<br>立憲主義と日本国憲法について理解する。<br>【予習】：立憲主義について考えること。<br>【復習】(90分)<br>憲法に基づく政治の在り方について考えること。 |
| 3 | 片山　和則 | 日本国憲法の誕生と基本原理 | 講義 | 【予習】（90分）<br>日本国憲法の誕生と基本原理について理解すること。<br>【予習】：今ある日本国憲法がなぜ誕生したかについて考えること。<br>【復習】(90分)<br>憲法の基本原理について理解すること。 |
| 4 | 片山　和則 | 人権享有主体性、憲法13条 | 講義 | 【予習】（90分）<br>憲法13条について理解すること。特に13条は基本的人権の中心となる条文のため必ず理解すること。<br>【予習】：憲法13条とは何か考えること。<br>【復習】(90分)<br>基本的人権における13条の役割について理解すること。 |
| 5 | 片山　和則 | 法の下の平等 | 講義 | 【予習】（90分）<br>法の下の平等と家族生活について理解すること。<br>【予習】：家族とは何かについて考えること。<br>【復習】(90分)<br>法の下の平等とは何か、平等の概念について理解すること。 |
| 6 | 片山　和則 | 思想良心の自由、信教の自由と政教分離原則 | 講義 | 【予習】（90分）<br>思想良心の自由、信教の自由、政教分離原則について理解すること。<br>【予習】：宗教と国家の在り方について考えること。<br>【復習】(90分)<br>宗教をめぐる問題、非宗教性の概念について理解すること。 |
| 7 | 片山　和則 | 表現の自由と市民活動 | 講義 | 【予習】（90分）<br>表現の自由について理解すること。表現の自由は、基本的人権の中心となる部分であるため必ず理解すること。<br>【予習】：表現の自由と出版、プライバシーの問題について考えること。<br>【復習】(90分)<br>表現の自由とプライバシーの問題について理解すること |
| 8 | 片山　和則 | 学問・教育の自由 | 講義 | 【予習】（90分）<br>学問・教育の自由について理解すること。<br>【予習】：学問の自由とは何かについて考えること。<br>【復習】(90分)<br>学問の自由、大学の自治について理解すること。 |
| 9 | 片山　和則 | 職業選択の自由 | 講義 | 【予習】（90分）<br>職業選択の自由について理解すること。<br>【予習】：職業の在り方について考えること。<br>【復習】(90分)<br>職業選択の自由、職業・差別・人権の問題は重なっていることを理解すること。 |
| 10 | 片山　和則 | 財産権 | 講義 | 【予習】（90分）<br>財産権について理解すること。<br>【予習】：個人の財産、私有財産制度につい |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | て考える。<br>【復習】(90分)<br>公共の福祉の概念について理解すること。 |
| 11 | 片山　和則 | 適正手続き、刑事被告人の権利、憲法31条 | 講義 | 【予習】（90分）<br>適正手続き、刑事被告人の権利について理解すること。特に31条は基本的人権の中心となる部分であるため必ず理解すること。<br>【予習】：人権の概念、大切さを考える。<br>【復習】(90分)<br>憲法31条、刑事裁判における適正手続きの大切さを理解する。 |
| 12 | 片山　和則 | 社会権 | 講義 | 【予習】（90分）<br>福祉国家理念を基礎にした 20世紀的人権としての社会権が、日本国憲法においてどのように保障されているのかについて検討する。具体的には、生存権と教育を受ける権利について理解すること。<br>【予習】：社会保障について考えること<br>【復習】(90分)国家により自由について理解すること。 |
| 13 | 片山　和則 | 国会 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1） 権力分立の原理、2）国会の組織、3）国会の活動、4）国会と議院の機能<br>とりわけ権力分立の重要性について理解する。<br>【予習】：国会の機能、議院の機能について考えること。<br>【復習】(90分)<br>国会の地位について理解すること。 |
| 14 | 片山　和則 | 内閣 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1） 権力分立の原理、2）国会の組織、3）国会の活動、4）国会と議院の機能<br>とりわけ権力分立の重要性について理解する。<br>【予習】：国会の機能、議院の機能について考えること。<br>【復習】(90分)<br>国会の地位について理解すること。 |
| 15 | 片山　和則 | 裁判所 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1） 司法権とその限界、2）裁判所の組織・権能、3）司法権の独立、4）裁判員制度<br>とりわけ裁判所の役割について理解する。また授業のまとめを最後に簡単に行う。<br>【予習】：司法権の限界、範囲、独立について考える。<br>【復習】(90分)<br>定期試験に備えること。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 人権とジェンダー | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Human Rights and Gender | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 佐野　潤子 | ナンバリング | BAG1005 |
| 担当教員 | 佐野　潤子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 国際的に医療、健康、保健、スポーツなどの分野で貢献することを目指す受講生にとって、人権とジェンダーの理解と自覚を高めることを目的とする。ジェンダー理論と歴史を学ぶとともに現実の生活問題としてもとらえるため、新聞記事などさまざまなメディアや調査や統計を通して問題提起し、理解を深める。社会問題や国際問題を「ジェンダー」と「人権」のキーワードから考察する。 |
| 到達目標 | 1. 人権、ジェンダーの概念をもつ。<br>2. ジェンダーという価値観が、私たちの普段の社会生活にどれだけ密接に関わっているか、またその価値観に支えられた制度によって、どのように操作されているのかを理解する。<br>3. ジェンダーに関する事柄について見抜く力をもち、自分らしく生き、他者を尊重し、社会を支える一人として、歩んでいくための力を身につける。 |
| 授業の位置づけ | 基盤科目（グローバル市民形成科目） |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 【関連するディプロマポリシー（DP）】<br>DP①-C3 グローバル化が進む国際社会における人間とその社会的、文化的な営みを包括的に理解するため、自然と人間、生命と健康、人間と社会、世界と日本など国際教養に関わる広範な知識を習得し、それらを統合し、活用する能力<br>DP②-C1 自分とは異なる人間や文化を理解しようと心を開き、多様性を尊重し、寛容さを持って相互交流を図ることのできる能力<br>DP③-C1 母語そして外国語でのコミュニケーション能力を駆使し、多様な人々と繋がり、自らの考えを論理的に説明し、相互の関係を築く能力<br>DP④-C1 グローバル市民として活躍するための基盤となる国際的な教養に加え、文化を超えて活躍できる専門性（グローバル社会、異文化コミュニケーション、グローバルヘルスサービス領域）を備え、人類が直面する問題を発見し、解決策を探る多面的かつ柔軟な思考力と行動力 |
| 履修上の注意、履修要件 | 講義の出席　コメントカードの記入必須　講義の順番は時により変更することがある。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 講義中に出す小課題（50%）と期末レポート（５0%）との合計点により最終評価を行う。 |
| 評価基準 | 毎回各課題によって、字数を指定する。最終レポートの際も字数を指定する予定である。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で適宜返却する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 各講義により資料を配布する予定。課題図書・参考図書を講義内で紹介する。ドキュメンタリー番組の視聴もある。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 講義前後に質問、意見などを受け付ける。また随時提出するコメントカードに記入してもらい、講義でフィードバックする。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 佐野　潤子 | 人権とは、ジェンダーとは －ガイダンス<br>性別に関係なく充実した生活とは何かを考える。世界の仕組みは「女」、「男」になるように私たちを誘導しているといえる。ジェンダーは社会や文化によって形づくられた役割であることを学ぶ。 | | 【予習】<br>人権、ジェンダーと聞いて何を思うか、キーワードをできるだけ挙げる。（90分）<br>【復習】<br>講義内に配布する授業計画を再度読み、授業全体のイメージをつかむこと。<br>（90分） |
| 2 | 佐野　潤子 | 家族とジェンダー<br>「家」から近代家族の定着を振り返る。近代家族の担い手でであった人々は、同時にジェンダー役割分業観の担い手でもあったことを理解する。 | | 【予習】<br>最近のニュースなど関連する内容を把握する。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 3 | 佐野　潤子 | 家族内のジェンダー不平等と平等 | | 【予習】 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | これまで当然とみなされていた家庭内無報酬労働の捉えかたや、いわゆる「三歳児神話」の問題の考察を深める。 | | 自分の家族について振り返る。将来の子育てのスタイルについて現在の考えをまとめる。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 4 | 佐野　潤子 | ジェンダー意識の変容と結婚<br>1975年の国連国際婦人年から徐々に変容したといわれるジェンダー意識を、各種統計などから検討する。特に若い女性のジェンダー意識の変化がどのように結婚の選択に影響を与えているのかを考える | | 【予習】<br>前回の講義内容を理解すること。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 5 | 佐野　潤子 | 女性の就業①<br>男女雇用機会均等法の成立とその後の女性労働の課題を捉え、ワークライフバランスの視点から男性中心の働き方の問題、すなわち長時間労働の問題も考察する。 | | 【予習】<br>前回の講義内容を理解すること。自分自身の働き方などを考える。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 6 | 佐野　潤子 | 女性の就業②<br>いく通りもの女性の生き方の選択や道すじを労働市場と家庭の視点から相互関係の結果、浮かび上がるキャリア・パターンをみる。 | | 【予習】<br>前回の講義内容を理解すること。ニュースなどで扱われている労働問題のテーマを最低一つは把握すること。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 7 | 佐野　潤子 | 非正規労働とジェンダー<br>性別役割分業の問題性を、非正規労働の労働条件という社会構造次元で問う。女性と男性で非正規労働の位置づけの共通点、差異を検証する。 | | 【予習】<br>前回の講義内容を理解すること。自身の経験からアルバイトと正社員の違い、メリットデメリットを考える。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 8 | 佐野　潤子 | 男性学<br>フェミニズム運動の歴史をふりかえり、女性学に対する男性学も考察する。男性だからこそ、強いられてきたことや困難なことはなかったのか、「男らしさ」とはなにかを考察する。 | | 【予習】<br>前回の講義内容を理解すること。「〇〇らしく」と言われた経験があるか振り返る。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 9 | 佐野　潤子 | 男性の家庭役割とジェンダー<br>「育メン」ブームとも言われているが、男性の家事、育児参加への促進要因、阻害要因を明らかにする。その上で少子化問題も考察する。 | | 【予習】<br>前回の講義内容を理解すること。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 10 | 佐野　潤子 | 教育とジェンダー<br>戦後から公には教育の男女平等が唱えられてきたが、現実の教育達成はどうであろう。家庭内教育と、学校教育におけるみえないジェンダー問題を探る。 | | 【予習】<br>前回の講義内容を理解すること。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 11 | 佐野　潤子 | メディアとジェンダー<br>メディア表現に見られる女性･男性像をいくつか事例をあげながら検証する。日常生活の中で、例示したようなジェンダーの視点から意識的にメディア を見る。 | | 【予習】<br>前回の講義内容を理解すること。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 12 | 佐野　潤子 | 子どもの人権①<br>子どもの貧困について考える。子どもをめぐる社会状況や、施設の統廃合問題や保育所の待機児童問題も考察する。 | | 【予習】<br>前回の講義内容を理解すること。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 13 | 佐野　潤子 | 子どもの人権②<br>児童虐待に関する我が国の法律上の規定と世界共通の定義とを比較検討することにより、虐待の本質について考察する。またわが国の現状と望ましい支援の原則、社会の理解を深め、児童虐待への対応力をより高める。 | | 【予習】<br>前回の講義内容を理解すること。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 14 | 佐野　潤子 | 世界の人権・ジェンダー<br>国際統計などをみながら世界の人権・ジェンダーの動きを概観する。ジェンダーを学ぶことを通して、人権についての問題意識を深め、地球的視野で考察することができる。 | | 【予習】<br>前回の講義内容を理解すること。（90分）<br>【復習】<br>授業内容を復習すること。（90分） |
| 15 | 佐野　潤子 | まとめとテスト<br>講義内容のまとめを行い、理解度を確認するためテストを行う。 | | 【予習】<br>今までの授業の振り返りを行っておくこと（90分）<br>【復習】<br>まとめの振り返りを行うこと（90分） |
| | | | | |
| | | | | [講義日程]<br>8/22,23,25,26各日1-4限 および 8/26：1-3限 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 社会保障制度と医療経済 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Social Security System & Health Care Economics | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 田倉　智之 | ナンバリング | BAG1006 |
| 担当教員 | 田倉　智之 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 医療介護を取り巻く社会経済環境や地域コミュニティは、近年、大きく変遷をしており関連ニーズの一部も様変わりしてきている。このような中、看護等による臨床成果のさらなる改善には、保健医療分野の価値を議論し就業環境等を向上させることも重要である。そのためには、保健看護活動と関係の深い、医療保険制度を中心にしつつ介護保険や薬事制度などの周辺分野の動向を理解することが望まれる。本科目では、その理解を促す健康経済学（看護経済学；経営管理、技術評価、医療政策、行動経済などの基本的な理論と手法）を軸にしつつ、医療保険制度等の潮流を体系的に修学する。可能な限り双方向の授業を試みるので、積極的な授業参加を期待したい。 |
| 到達目標 | 健康経済学などの基礎的な知識や関連するケースを学び、保健医療分野の社会経済的な意義について考えることが可能になる。<br>1.保健医療を実践する上で最低限必要な医療制度の仕組みを理解する。<br>2.制度と現実の医療現場で起こる乖離の要因や解決策を理解する。 |
| 授業の位置づけ | 医療サービスは、医療福祉行政と密接に結びついており、診療報酬体系や関連法規、または健康行動の理論を学習することで、それらとの関連をより深く理解する。加えて現行制度における提供サービスの意義（価値）を学び、医療現場発の政策提言ができる素養を醸成する。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-CⅡ |
| 履修上の注意、履修要件 | 現代社会で起こっている、医療制度に関わる時事問題やトピックスに興味を持ち、新聞やマスコミ報道に触れることで、一定の社会性を養って欲しい。疑問点があれば自ら調べて理解を深める姿勢が望まれる。具体的には次の項目などを事前に調べておくことを期待する。<br><br>「受講に必要な最低限の知識」<br>①高等学校卒業程度の国語（現代文の読解、記述能力）、②高等学校卒業程度の数学、③一般新聞の記事程度の医療／経済に関わる一般知識<br><br>「学習上の留意点」<br>①受講にあたり、科目を通して考えるテーマ（課題）を最初に設定することを勧める。②原則、パワーポイントを投影しハンドアウトを提供するが、授業の最後（または科目の最終回）に一定のレポートを課す。③時代に即した重要なテーマを選定し、皆で議論する時間を取るので、自身の考え方を発信できるように準備があると良い。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | レポート(50%)、定期試験(50%) |
| 評価基準 | 1.保健医療を実践する上で最低限必要な医療制度の仕組みが説明できる。<br>2.制度と現実の医療現場で起こる乖離の要因や解決策が提示できる。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| レポートは最終回の講義時にコメントと共に返却する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 医療の価値と価格ー決定と説明の時代へ | 田倉智之 | 医学書院 | 978-260-04352-6 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 授業内で案内 |
| 担当教員の実務経験 | 旧厚生省の直轄研究所たる国立医療・病院管理研究所並びに社会保障・人口問題研究所、さらには日本医師会のシンクタンクにおける勤務経験をいかして極力、双方向の反転化授業に努める。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 田倉 | 社会経済と医療分野<br>キーワード：社会保障制度、国内総生産、国民医療費 | 講義 | 予習：医療介護分野に対する疑問や意見を課題として仮設定する。テキストのP.2～9，12～22等を読む。（2時間） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 復習：関連法規も触れつつ、医療分野を取り巻く経済基調や社会保障財政の動向を理解する。（2時間） |
| 2 | 田倉 | 医療保険制度の概要<br>キーワード：診療報酬制度、医師技術料、安定供給 | 講義 | 予習：テキストのP.165～179等を読む。（2時間）<br><br>復習：改正介護保険法にも触れつつ、国民皆保険制度の歴史・理念と医療保険政策の潮流を理解する。（2時間） |
| 3 | 田倉 | 診療報酬制度の論点<br>キーワード：医療財源、診療アクセス、患者自己負担 | 講義 | 予習：テキストのP.37～44等を読む。（2時間）<br><br>復習：国内外の支払制度（医療政策）の種別や特徴と主な論点を理解する。（2時間） |
| 4 | 田倉 | 健康分野の価値評価<br>キーワード：限界効用、功利主義、リスク評価、予測モデル | 講義 | 予習：テキストのP.73～92等を読む。（2時間）<br><br>復習：改正医薬品医療機器法にも触れつつ、効用理論等を応用した価値評価の概念・手法の基礎を理解する。（2時間） |
| 5 | 田倉 | 健康分野の価格水準<br>キーワード：国民皆保険制度、不完全競争市場、需要と供給 | 講義 | 予習：テキストのP.110～133等を読む。（2時間）<br><br>復習：ミクロ経済学や保険収載制度、改正介護保険法を背景とした価格理論を理解する。（2時間） |
| 6 | 田倉 | 医療分野の費用算定<br>キーワード：原価計算、収支分析 | 講義 | 予習：テキストのP.134～145等を読む。（2時間）<br><br>復習：会計学（医療費原価計算、病院収支、介護施設収支）等の理論・手法による費用分析を習得する。（2時間） |
| 7 | 田倉 | 診療技術の難易度<br>キーワード：医師技術料、デルファイ法、難度と負荷 | 講義 | 予習：テキストのP.157～160等を読む。（2時間）<br><br>復習：国内外の医師等技術料の評価手法の種別と特性（難易度と総合負荷）を理解する。（2時間） |
| 8 | 田倉 | アウトカムの評価<br>キーワード：健康関連ＱＯＬ、患者効用値、幸福論 | 講義 | 予習：テキストのP.86～92，146～153等を読む。（2時間）<br><br>復習：改正医薬品医療機器法にも触れつつ、臨床指標と健康関連ＱＯＬ／患者効用値や幸福論の基礎的な算定手法を理解する。（2時間） |
| 9 | 田倉 | 医療サービスの生産性<br>キーワード：費用対効果分析、生産性分析 | 講義 | 復習：テキストのP.93～97，234～238等を読む。（2時間）<br><br>予習：医療介護資源の生産性評価や医療技術の費用対効果評価の理論と手法を習得する。（2時間） |
| 10 | 田倉 | 医療経営と意思決定<br>キーワード：品質管理、意思決定論、交渉理論 | 講義 | 予習：テキストのP.23～36，242～244等を読む。（2時間）<br><br>復習：経営学（品質管理等）の基礎と健康関連の意思決定と交渉戦略の意義を理解する。（2時間） |
| 11 | 田倉 | 医療市場と厚生経済学<br>キーワード：一般均衡分析、厚生経済学、機会費用、情報非対象 | 講義 | 予習：テキストのP.83～92，123～133，165～169等を読む。（2時間）<br><br>復習：マクロ経済学による医療市場の特性や資源配分（パレート等）の概念を理解する。（2時間） |
| 12 | 田倉 | 行動経済学と関連理論<br>キーワード：行動経済学、認知バイアス | 講義 | 予習：テキストのP.98～103，128～130等を読む。（2時間） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 復習：改正介護保険法にも触れつつ、ゲーム理論等を背景に行動や認知に伴うバイアスの概念や対策の手法を習得する。（2時間） |
| 13 | 田倉 | 医療政策系の研究事例<br>キーワード：分子標的薬剤、冠動脈治療材、救急システム | 講義 | 予習：テキストのP.184～213を読む。（2時間）<br><br>復習：医療技術（医薬品や治療材）や病院経営に関わる健康経済学的な評価のケースを学ぶ。（2時間） |
| 14 | 田倉 | まとめ②<br>キーワード：医療価値、アカウンタビリティ、課題解決 | 講義 | 予習：最初のオリエンテーション時の課題設定について整理をしつつまとめる。（2時間）<br><br>復習：健康経済学の意義と応用について整理を行い最初に設定された課題について考察する。（2時間） |
| 15 | 田倉 | まとめ②<br>キーワード：医療価値、アカウンタビリティ、課題解決 | 講義 | 予習：最初のオリエンテーション時の課題設定について整理をしつつまとめる。（2時間）<br><br>復習：健康経済学の意義と応用について整理を行い最初に設定された課題について考察する。（2時間） |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 世界と日本現代史 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Modern Japanese History and the World | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 小暮 実徳 | ナンバリング | BAG1007 |
| 担当教員 | 小暮 実徳 | | |

授業概要

| | |
|---|---|
| 全体内容 | 現在の日本は、どのようなプロセスを経て成立したのか？このような問題意識から、その直接的事件として、アメリカ合衆国ペリー司令官による日本開国、その後の日本による西欧的近代化に注目する。この中で、日本と古くからの関係を有するオランダが、どのように本国・植民地との政治外交的視点から、それをその対日積極外交に結び付けていったか、また何故それが終焉を迎えることになったかを、史料に基づき具体的に学ぶことは重要である。<br>開国後日本は、西欧科学技術の導入をオランダに要請した。ここから同国との関係が密になり、また極めて良好となった。この中で注目される具体的事例として、“長崎海軍伝習所”を挙げることが出来る。この学校ではオランダ人教官がオランダ語を使用して、海軍関連にとどまらない幅広い西欧文明・科学技術の所産を、日本人学生に教授した。この学校こそが、日本の近代化の礎石と言えるのである。<br>この余り周知ではない長崎海軍伝習所、その授業内容を中心に、関連する具体的な歴史的事実を詳細に追うことで、当時成立した日蘭間の特別な関係を理解する。この新知見からの日蘭関係を学び、それを当時の世界史的見地から総合することで、現代の世界における日本の立場を、歴史学的見地から説明できるようになる。 |
| 到達目標 | いわゆる“鎖国期”においても、西欧国として唯一オランダは、日本との商業関係を維持していた。1853年アメリカ合衆国ペリー司令官による威圧的な開国要求に屈服し、翌年日本はそれを受け入れる。しかし日本は、これに屈せず、西欧先進科学技術を積極的に導入すること、すなわち西欧式近代化により、欧米列強に対抗できる富国強兵の道を決意した。ここで注目すべきは、日本は直接の開国者であるアメリカ合衆国ではなく、旧知のオランダに、その要請を行ったことである。<br>現在の日本の高度な科学技術の原点が、この時期にあることは、現在も余り知られていない。この看過されている歴史的事実を史料に基づき具体的に学び、幕末・維新期のオランダの対日貢献について理解することで、現在の世界における日本の立場を、当時の正しい歴史認識について説明できるようになる。 |
| 授業の位置づけ | 基礎分野/人間科学系　選択科目 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | ◎　DP1-CB<br>△　DP4-CA |
| 履修上の注意、履修要件 | |

成績評価の方法

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 平常点(65%)：授業へ積極的な参加、また事前・事後学習を含めた取り組み方を評価する。<br>試験(35%)：授業内容に基づき、かつ自らの知見を伴う小論文形式の課題提出。 |
| 評価基準 | A+講義内容を充分理解し，設問に対して必要な内容を的確かつ論理的に記述した解答<br>A 講義内容を充分理解し，設問に対して必要な内容を論理的に記述した解答<br>B 講義内容を総じて理解し，設問に対して不充分だが論理的に記述した解答<br>C 講義内容の大概を理解し，設問に対して不充分だが一定の評価が可能な解答 |

試験・課題等に対するフィードバック方法

授業中および授業終了後に適時質問を受ける。
最終授業では、全体に対するフィードバックを行う。

テキスト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 東西海上交流の起源- オランダと海国日本の黎明 | 小暮実徳 | 彩流社 | 4779122899 | |

参考文献

田保橋潔『増訂近代日本外国関係史』（原書房）
金井圓『近世日本とオランダ』（放送大学教育振興会）
森岡美子『世界史の中の出島－日欧通行史上長崎の果たした役割』（長崎文献社）
小暮実徳『幕末期のオランダ対日外交政策－「国家的名声と実益」への挑戦』（彩流社）

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 授業に関する学生の質問は順天堂パスポートで随時受け付け、必ず返信する |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | 1. 授業のガイダンス<br>2. 開国後の幕府による日本海軍創設への意図<br>3. オランダ人員への待遇、注文された船への支払い等<br>4. 将軍陛下への別段要求書翻訳<br>5. オランダ本国植民省の判断<br>6. オランダ人教育者への条件とその資質の重要性 |

| | |
|---|---|
| | 7. スンビン号献上・蒸気船建造着手に関するオランダ本国植民省の見解<br>8. オランダ海軍分遣隊実態<br>9. 長崎海軍伝習所における教育の実態<br>10. 日本人伝習生による巡航訓練と江戸航海の成功<br>11. カッテンダイケ司令官による第二次長崎海軍伝習所<br>12. 長崎海軍伝習所の突然の閉鎖命令とその後の活動<br>13. 日本特有の諸問題の指摘と将来への期待 - カッテンダイケ司令官報告書<br>14. まとめと受講生の理解を確認するための試験<br>15. 試験の結果を踏まえた解説 |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 全：小暮実徳 | 【現代社会と歴史】<br>義務教育程度の歴史の大枠を確認した上で新たな歴史の見方を学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>中学校で学習する程度の歴史の知識を確認する。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 2 | 金子　元 | 【戦前日本政治の構造】明治憲法下の日本政治の特質とその推移を理解する。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 3 | 金子　元 | 【軍部の台頭】<br>昭和戦前期における政党政治の崩壊と軍部の台頭の要因と様態を学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 4<br>5/22 | 金子　元 | 【日中戦争の開戦】<br>日中戦争開戦にいたるまでの過程と戦争の展開および前線の兵士と銃後の国民がどのように当時を生きたかを学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 5<br>5/29 | 金子　元 | 【太平洋戦争の開戦】<br>当時の国際環境のなかで日本政府がいかにして太平洋戦争開戦を決定したかについて学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 6<br>6/5 | 金子　元 | 【太平洋戦争の展開】<br>第二次世界大戦と太平洋戦争の推移と戦禍を学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 7<br>6/12 | 金子　元 | 【敗戦と占領】<br>太平洋戦争の敗戦とGHQの戦後改革について学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 8<br>6/19 | 金子　元 | 【冷戦と講和】<br>第二次大戦終了後の新たな国際対立の様相と日本の国際社会復帰について学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 9<br>6/26 | 金子　元 | 【高度成長期の政治と社会】<br>高度成長がどのような政治的条件のもとに実現し、どのような社会変化をもたらしたのかについて学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 10<br>7/3 | 金子　元 | 【「経済大国」と「自立外交」(1)】<br>ベトナム戦争以降の国際社会の変化のなかで日本政府がどのような政治を行い、市民がどのように対応したのかを学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 11<br>7/10 | 金子　元 | 【「経済大国」と「自立外交」(2)】<br>前回のつづきとして、もっぱら田中角栄政権期の内政と外交を学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 12<br>7/17 | 金子　元 | 【新自由主義の台頭と対米関係の模索】<br>世界的な新自由主義の流れのなかで、日本が直面した政治と外交の問題について学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 13<br>7/31 | 金子　元 | 【バブル経済と冷戦終結】<br>いわゆるバブル経済の原因と帰結および冷戦終結にいたる国際環境について学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 14<br>8/7 | 金子　元 | 【冷戦後の世界と政界再編】<br>冷戦終了後の国際環境の変化とそれに対応した日本国内の政治改革の動きについて学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |
| 15<br>8/14 | 金子　元 | 【これからの世界と日本】<br>現代における政治と社会の諸問題を学び、今後の展望を考察する。 | | 【予習】（90分）<br>配布されたプリントを読み、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義で配布されたプリントを用い、復習を行う。 |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 基礎化学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Basic Chemistry | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 山倉　文幸 | ナンバリング | BAP1100/BAR1100 |
| 担当教員 | 山倉　文幸 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 理学療法士及び診療放射技術師として知っておく必要がある化学の基礎を学ぶことを目的とする。主に高等学校で化学を充分学ばなかった学生を対象とし、生化学や生理学の理解のための基礎知識の修得を目指す。学習内容としては、原子、分子に関する基礎的な内容から始め、物質の基本的な化学的性質に関して学ぶ。計算などを少なくし、身近な現象を扱うことで化学の世界に興味が持てるような授業を目指す。また高等学校で化学を選択しなかった学生でも理解できるように、丁寧な授業展開と学生参加型の学修方法を取り入れる。 |
| 到達目標 | 保健医療学部の学士として、また市民として化学的に現象を考える事ができる様に、基本的な化学の知識や考え方を身につける。また、生化学・生理学を学ぶ基礎知識を身につける。具体的には　１．物質を作っている単位である原子、分子、イオンについて構造と結合の仕方を説明できる。　２．物質の状態である気体、液体、固体の関係を説明でき、気体と液体の性質を理解できる。特に水の特異な性質を理解し説明できる。　３．水に溶ける、溶けないとはどの様にして決まるか理解し、溶液の濃度の表し方を説明できる。　　４．酸、塩基、ｐＨとは何か、緩衝溶液の仕組み、および浸透圧が起こる仕組みを理解し、説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 生活に密接に結びついている色々な現象の背景に化学がある事に気づきことができる。また、基礎生物学と共に、基礎分野の生化学、生命現象の科学、そして専門基礎分野の生理学I及びII、薬理学を理解するための基礎知識を身に付けるのに役立つ。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-2、理学DP-3、放射DP-3 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・準備学習：　1.毎授業の終わりまでに、次回の授業の資料をj-passに載せるので、次回までに良く目を通し、さらに関連するテキストの項目も読んでおく。　（４５-９０分）　　２．授業の終わりに次週までの課題が出たときには、次週までに解いておくこと。（４５分）<br>・学習上の留意点：　１．毎回質問票又は出席票を配ります。授業中に聞けなかった疑問点があればこれらを利用して聞くか、j-passまたはe-mailで質問してください。。高等学校で化学を履修しなかった学生は特に疑問点をそのままにせず、積極的に活用して下さい。　２．毎回授業中に小テスト（ google form等を用いる）を行うので、その問題と試験前に出す例題をよく勉強し、理解するように。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 評価方法：筆記試験である期末試験(レポートの可能性あり）で５０%の評価、google form を用いた小テスト、レポート等で残りの５０%を評価する。 |
| 評価基準 | 評価基準：目標の各項目について基本的な概念を説明する事ができるか。気体の状態方程式、溶液の濃度、ｐＨ等については簡単な計算が出来るか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 小テストの解答はgoogle formのサイトで解答時に提示されます。授業中の質問は次の週に解説します。レポートは採点後返却します。期末試験を実施したときは終了後に正解を解説します。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 化学の視点-健康へのアプローチ | 山倉文幸、大森大二郎、馬場猛 | 東京教学社 | 978-4-8082-3052-4 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| テキスト以外にパワーポイントに従った補足のプリントを配ります。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 質問は、授業中に直接聞くか、授業後に教室で直接かe-mail、またはj-passで聞いて下さい。また、e-mailでの質問は随時受け付けます。hyamaku@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 山倉<br>6/7 | 科学的考え方、宇宙の始まりと現在、原子の構成<br>１．科学的考え方の基本的な要素は何か。事実に基づく判断の重要性を学ぶ。<br>２．ビデオ「Powers of Ten」を見てミクロの世界から宇宙の果てまでこの世界の成り立ちを考える。現代物理学が語る | 講義 | 【予習】（90分）<br>抗酸化サプリメントについて調べてみよう。<br>【復習】（90分）<br>宇宙の将来についての現在の宇宙物理学での考えを調べてみよう |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 宇宙の始まりと原子の誕生を経て現在に至る歴史を学ぶ。<br>後半に小テストを行う。 | | |
| 2 | 山倉<br>6/14 | ・私たちの世界を作る小さな単位を学ぶ<br>１．原子の表現法を学ぶ。２．同位体を学ぶ。関連した原子力発電について学ぶ。<br>３．原子の構造を学ぶ。　４．イオン結合を学ぶ<br>後半に小テストを行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>配布された資料とテキスト第１章1-1,1-3を読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>原子力発電のメリット、デメリットについて調べよう。 |
| 3 | 山倉<br>6/21 | ・化学結合を理解する　１．共有結合と金属結合を学ぶ<br>２．電気陰性度と分子の極性を学ぶ<br>物質の示す状態：気体、液体、固体について学ぶ（前半）<br>１．気体が示す性質について学ぶ。モルとは何かを知る。<br>２．生物進化の過程における酸素の重要性を学ぶ。<br>後半に小テストを行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>配布された資料と教科書第１章1-4~1-7,第2章2-1.2-2,2-4,2-5,第３　3-1を読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>指定された問題を次週までに解いておく。生体の酸化傷害について調べてみる。 |
| 4 | 山倉<br>6/28 | 物質の示す状態：気体、液体、固体について学ぶ（後半）<br>気体の状態方程式を理解する。絶対温度、モルについて学ぶ。<br>グループワークで問題を解く。<br>水の特異な性質(前半)<br>１．液体の持つ性質を学ぶ。<br>２．蒸発熱・水素結合について理解する。<br>３．水の密度について理解する。<br>後半に小テストを行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>配布された資料を読み、水の特異な性質について調べてくる。第３章　3-3を読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>水と生命の関わりについて調べる。 |
| 5 | 山倉<br>7/5 | 水の特異な性質(後半)<br>１．水の表面張力について理解する<br>２．水に溶ける、溶けないという現象とその裏にある原理を理解する。<br>３．両親媒性について理解する。<br>各種ミネラルウオータのｐＨと硬度を測定する実習を行い、結果を考察する。（遠隔授業の場合バーチャルな実験を行う）<br>後半に小テストを行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>石けんの働く仕組みを調べておく。<br>【復習】（90分）<br>毛細管現象について調べて、出された課題を解いておく。 |
| 6 | 山倉<br>7/12 | 水溶液の性質を知る（1回目）<br>１．水溶液の濃度の表し方とその計算法を知る。質量パーセント濃度、モル濃度について理解する。<br>２．酸、塩基とはーブレステッド・ローリーの定義を理解する。<br>３．可逆反応、化学平衡について理解する。<br>４．強酸と弱酸の違い、その例を知る。<br>後半に小テストを行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>配布された資料と教科書第3章3-5,第4章4-1,4-2,第５章5-3,5-4を読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>溶液の濃度、酸・塩基の定義、化学平衡について出された課題を解いておく。 |
| 7 | 山倉<br>7/19 | 水溶液の性質を知る（２回目）<br>１．強酸と弱酸の違い、その例を知る。<br>２．酸の強さとｐＨの値の意味を理解する。<br>３．中和と塩について理解する。<br>４．緩衝作用と緩衝液 について理解する。　５．血液のｐＨが一定に保たれているのはなぜか？<br>後半に小テストを行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>配布された資料と第４章4-3,4-6を読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>強酸と弱酸、ｐＨの値、緩衝液についての課題を解いておく。全体を網羅した例題を渡すので、次週までに解いておく。 |
| 8 | 山倉<br>7/26 | 水溶液の性質を知る（３回目）<br><br>浸透圧とその体での重要な働きを知る。<br>例題の解答と解説を行う。<br>後半に小テストを行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定された例題を解いておく。第３章3-8を読んでおく<br>【復習】（90分）<br>例題のうち出来なかったところを中心に良く復習し理解しておく。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 基礎生物学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Basic Biology | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 鎌田　弥生 | ナンバリング | BAP1101/BAR1101 |
| 担当教員 | 鎌田　弥生 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 医療職に必要不可欠な生物学の基本事項を学修し、生命とは何かを考える。初めに生命の基本となる細胞の構造と機能を理解し、生体を構成する分子や恒常性維持のメカニズムについて学ぶ。また発生・分化、遺伝と生物進化、生命誕生と死に関する事項の学修を通じて、「生きるとは何か」という生命の本質を理解する。本講義では、医療の基礎となる生物学を学ぶことで、私たちの生命がどのような仕組みで維持されているのかを理解し、それを専門分野に応用できる基礎的能力を養う。 |
| 到達目標 | 1)　細胞の構造を説明できる。<br>2)　生体を構成する物質とエネルギー産生について説明できる。<br>3)　遺伝子について説明できる。<br>4)　生体の恒常性維持の仕組みを説明できる。<br>5)　生命誕生から老化・死までの仕組みを理解し、説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 医療を学ぶ上で基礎となる生物学の基本的知識を身に付けると共に、自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、自律的学習能力と科学的探究心を養う。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP3：自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力<br>理学CP Ⅰ：自律的学習能力と科学的探究心<br>放射CP Ⅰ：自律的学習能力と科学的探究心 |
| 履修上の注意、履修要件 | 生物学は医療を学ぶ上で基礎となる科目です。高等学校で生物を履修しなかった人はこの科目を選択することをお勧めします。後期に開講する生命現象の科学も同時に受講すると理解がさらに深まります。わからないことはそのままにせず、本で調べる、友人に聞く、先生に質問するなど、疑問の解決に努めて下さい。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業時間内に毎回行う小テストと、定期試験により評価する。<br>場合により、定期試験をレポート試験に変更する可能性もある。 |
| 評価基準 | ・授業内容の各項目について、大学の教科書のレベルで説明することが出来る。<br>・専門基礎科目を学ぶ上で必要となる生物学の基礎的な知識範囲を理解できているか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業時間内に行った小テストの解答は次の授業の際に解説する。<br>小テストで理解が不十分だった項目に関しては、次の授業の際に詳しく補足説明する。 | |
| テキスト | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| やさしい基礎生物学　第2版 | 南雲　保／編著 | 羊土社 | 978-4-7581-2051-7 |

| |
|---|
| 参考文献 |
| ・配布講義資料を用いる<br>・参考書（購入の必要はありませんが、参考図書として推奨します）<br>ケイン基礎生物学, 上村慎治 監訳, 東京化学同人<br>ケイン生物学, 上村慎治 監訳, 東京化学同人<br>その他として図書館に備わっている生物学、生化学、分子生物学などの書籍 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 授業終了後に教室で質問を受け付けます。<br>毎回の授業で実施する小テスト（Googleフォーム）にも質問欄を設けています。<br>随時、メールによる質問も可能です。ykamata@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 鎌田　弥生 | 【細胞の構造と生命の成り立ち】<br>細胞が生命の最小単位であることを理解し、細胞の基本構造とその多様性を認識すると共に、生命の起源や多細胞生物の成り立ちを学ぶ。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、細胞の構造と細胞内小器官の働きについて理解を深める。原始地球における生命誕生と生物の進化につい |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | て復習し、生命の成り立ちについて、もう一度考えてみよう。 |
| 2 | 鎌田　弥生 | 【生体を構成する物質】<br>生体を構成する成分（タンパク質、糖質、脂質、核酸、ビタミン、ミネラル）の特徴を理解し、吸収と分解・排泄のメカニズムを学ぶ。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、生体構成成分に関して理解を深める。興味を持った項目について、参考図書などでさらに詳しく調べてみよう。 |
| 3 | 鎌田　弥生 | 【生体とエネルギー】<br>生体内で代謝活動を営む酵素の働きや性質を理解し、生体エネルギーの産生を行う代謝系（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系）について学ぶ。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、生命維持における酵素とエネルギーの役割について理解を深める。生体のエネルギー通貨であるATPの構造、役割、産生経路について、要点を整理しておく。 |
| 4 | 鎌田　弥生 | 【遺伝子の構造と機能】<br>遺伝子を構成する成分を理解し、セントラルドグマとは何かを学ぶ。分子生物学の基本的事項について理解する。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、セントラルドグマの概念について理解を深める。RNAの種類と働きについて、要点をまとめておく。 |
| 5 | 鎌田　弥生 | 【細胞の増殖・分化】<br>多細胞生物の体は形や働きの異なる様々な細胞から成り立っている。第5回は細胞の増殖・分化の仕組みと意義を理解し、がんの発生についても学ぶ。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、正常細胞とがん細胞の増殖・分化のメカニズムの違いについて、理解を深める。体細胞分裂と減数分裂の違いを確実に理解しておく。 |
| 6 | 鎌田　弥生 | 【多細胞生物の恒常性維持のしくみ】<br>多細胞生物は個体の生命を維持するために細胞間情報伝達システムが不可欠である。第6回は生体の恒常性維持機構と生体防御機構の基本事項を学ぶ。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、細胞間情報伝達と自律神経系に関して理解を深める。神経系のシナプスを介した情報伝達について要点をまとめ、疾患との関わりについても考えてみよう。 |
| 7 | 鎌田　弥生 | 【遺伝のしくみ】<br>遺伝の生物学的な機構を学修し、ヒトの遺伝性疾患の基礎知識を習得する。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、遺伝の基本的な仕組みと遺伝病に関して理解を深める。常染色体遺伝病と伴性遺伝病の違いについて要点をまとめておく。 |
| 8 | 鎌田　弥生 | 【生命体の一生】<br>生物個体には必ず寿命があり、生まれた時から死に向かってその時間を刻んでいく。第8回は生殖と発生、さらに成長と老化・死についても考え、生命体の一生を学ぶ。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、生命の誕生と死、再生医療について理解を深める。幹細胞の種類について要点をまとめ、現時点で再生医療の研究がどこまで進んでいるのか調べてみよう。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 基礎物理学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Basic Physics | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 初田　真知子 | ナンバリング | BAP1102/BAR1102 |
| 担当教員 | 初田　真知子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 医療従事者として医療現場で活かす物理を学修する。腰痛も人体の重さを支えている筋力と関節で支える力との兼ね合いで引き起こされることを静力学で学ぶ。動力学の法則として慣性の法則・運動の法則・作用反作用の法則を学修し、放射線の現場で必要な物体の衝突現象を理解して説明できるようにする。虹や夕焼けというような美しい現象は、波動力学で説明できることを学修する。生体の活動や心臓が動くのも電気現象である。電子、電磁波などの放射線の正体を学修する。電磁波が引き起こす電磁誘導現象も電磁気学で学ぶ。このように身の回りや医療現場で重要な物理現象を理解して説明できるようにする。<br>学修テーマは次の4つである：①静力学、②動力学、③波動力学、④電磁気学 |
| 到達目標 | ・人体における筋力と関節で支える力のバランスを、ボディメカニックスとして説明できる。<br>・物体に働く力と動きについて、慣性の法則・運動の法則・作用・反作用の法則で説明、および計算できる。<br>・波、光の現象を、重ね合わせの原理を用いて説明できる。<br>・電気・磁気の正体と電磁誘導を説明できるようにし、人体における感電の危険性やMRI測定における危険性を回避できるようにする。 |
| 授業の位置づけ | ・利用現場で必要であり、特に理学療法士に必要なボディメカニクスを学ぶ授業である。<br>・診療放射線技師にとって必要な放射線の理解に必要な物理学の基本を学ぶ。<br>・診療放射線学科の必修である応用物理の前に修得する科目である。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-2、理学DP-4、放射DP-2・5 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・診療放射線学科の学生で高校で物理を履修しなかった場合は必ず履修すること。<br>・授業では実験や討論があるので、j-passで通知する実験に必要な物と課題の準備し思考実験しておいてから、授業では積極的に参加して下さい。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業実験・課題への参加度、課題、小テスト（60%）、定期試験（40%）により総合的に評価する。 |
| 評価基準 | ・人体における筋力と関節で支える力のバランスを、トルクのつり合いと力のつり合いについて立式ができ、結果を求め、その意味を検討することができるか。<br>・物体に働く力と動きについて、慣性の法則・運動の法則・作用・反作用の法則について立式ができ、結果を求め、その意味を検討することができるか。<br>・波、光の現象を、重ね合わせの原理を用いて説明できるか。<br>・電気・磁気の正体と電磁誘導を説明でき、静電気力、電気ポテンシャルについて立式と結果を求め、その意味を検討できるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内に返却し、振り返りを実施する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 身近な素材で実験する物理 | 初田真知子、伊知地国夫、矢田雅哉 | 丸善出版 | 978-4-621-30594-2 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 【参考書】<br>・力学と電磁気学　原康夫　東京教学社<br>・ 生命科学のための基礎シリーズ　物理　大島康郎監修、川久保達之、工藤成史、古野泰二、前田忠計　実教出版<br>・授業で随時連絡する |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | mhatsuda@juntendo.ac.jp メール連絡で随時対応する。 |
| 担当教員の実務経験 | ・順天堂大学医学部、スポーツ健康科学部、医療看護学部、国際教養学部、保健医療学部で物理を教えてきている。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 初田　真知子 | 力のつり合い<br>どっちが軽い？―<br>・物体が静止する時の条件を学習する。<br>・グループディスカッション・実験：物体を2人で持ち上げ | アクティブラーニングとして、「持ち上げ実験」について、グループ討議、グル | 【予習】（90分）<br>・「ベクトルの分解と合成」ができるようにしておく。物体を2人で持ち上げる時、近づいて持つのと、離れて持つのとどちらが楽か |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | る時、どちらが軽いか、グループディスカッション後に実験を行う。<br>・力の分解をベクトルによる作図で求められるようにする。 | ープ実験、意見交換を行う。<br>講義の後に、例題を解く。 | 考えておく。<br>【復習】（90分）<br>・力の向きを作図できるようにして、力の分解と合成ができるようにする。<br>・テキストの練習問題を解く。 |
| 2 | 初田　真知子 | トルクのつり合い<br>人体の重心はどこ？―<br>・回転運動におけるトルクのつり合い、簡単化するとてこの原理を学習する。<br>・グループディスカッション・実験：人体の重心はどこか、グループディスカッション後に実験を行う。<br>・てこの原理を応用して、人体の重心を確認し、計算できるようにする。さらにトルクを応用して、より良い介護動作、体位変換や前傾姿勢時の腰への負担を考察する。 | アクティブラーニングとして、「割りばし・クリップ実験」について、グループ討議、グループ実験、意見交換を行う。<br>講義の後に、例題を解く。 | 【予習】（90分）<br>・「重心」の定義を調べておく。<br>・「てこの原理(トルクのつり合い)」を応用して、どうしたら人体の重心がわかるか測定方法を考えておく。<br>【復習】（90分）<br>・てこの原理（トルクのつり合い）を応用できるように、かつ計算できるようにする。<br>・テキストの練習問題を解く。 |
| 3 | 初田　真知子 | 等速直線運動<br>宇宙の2人は助かるか？―<br>・等速直線運動、慣性の法則、作用反作用の法則を学習する。<br>・グループディスカッション・実験：カートに乗った2人が押し合い、引き合いした時に、どのようになるか、グループディスカッション後に実験を行う<br>・等速運動の2人が宇宙船にたどり着く方法を説明できるようにする。等速運動の問題を解けるようにする。 | アクティブラーニングとして、「慣性の法則」について、グループ討議、グループ実験、意見交換を行う。<br>講義の後に、例題を解く。 | 【予習】（90分）<br>・「慣性の法則」を調べ、なぜ動いている物体は摩擦がなければ止まらないのかを考えておく。<br>・「作用・反作用の法則」を調べ、カートに乗った2人が押し合ったらどうなるかを考えておく。<br>【復習】（90分）<br>・1体及び2体の等速運動できるようにしておく。<br>・テキストの練習問題を解く。 |
| 4 | 初田　真知子 | 等加速度運動<br>重いと早く落下するか？―<br>・自由落下及び、運動の法則を学習する。<br>・グループディスカッション・実験：重さの異なる物体を同時に落下させるガリレオの実験について、グループディスカッション後に実験を行う。<br>・自由落下を理解し、運動の法則を用いて計算できるようにする。<br>・小テストを実施する。 | アクティブラーニングとして、「ガリレオ実験」について、グループ討議、グループ実験、意見交換を行う。<br>講義の後に、例題を解く。 | 【予習】（90分）<br>・「自由落下」について、重い物体と軽い物体を同時に落としたら、どちらが先に着地するのか考えておく。<br>【復習】（90分）<br>・等加速度運動を解けるようにしておく。<br>・テキストの練習問題を解く。 |
| 5 | 初田　真知子 | 波・光波<br>虹と夕焼けを見よう―<br>・波の波長、振動数、振幅を学習する。光の色と波長の関係と屈折を学習する。<br>・グループディスカッション・実験：波とボールの運動の違いは何か、色とは何か、グループディスカッション後に実験を行う。<br>・ばねの波長、振動数、振幅の実験、その後、光の色と波長、屈折の実験を行い、虹と夕焼けを説明できるようにする。 | アクティブラーニングとして、「ばねで波を作ろう実験」について、グループ討議、グループ実験、意見交換を行う。<br>講義の後に、例題を解く。 | 【予習】（90分）<br>・「波長・振動数・振幅」について調べておく。<br>・波はなぜ直進だけでなく屈折するのか、考えておく。<br>・虹はなぜ虹色のアーチなのか、夕焼けはなぜ赤いのかを考えておく。<br>【復習】（90分）<br>・波の屈折現象を説明できるようにする。<br>・テキストの練習問題を解く。 |
| 6 | 初田　真知子 | 波・光波<br>CDにレーザー光を当てると？―<br>・波の重ね合わせ、光の回折と干渉現象を学習する。<br>・グループディスカッション・実験：ばねに右からの波と左からの波を作るとどうなるか、CDにレーザー光をあてるとどうなるか、グループディスカッション後に実験を行う。<br>・ばねの波、光の波の性質としての回折格子の現象を説明できるようにする。 | アクティブラーニングとして、「CDの虹色実験」について、グループ討議、グループ実験、意見交換を行う。<br>講義の後に、例題を解く。 | 【予習】（90分）<br>・「波の重ね合わせ」「回折」「干渉」について調べておく。<br>・CDにレーザーを当てるとどうなるか、実験してみたり考えておく。<br>【復習】（90分）<br>・回折格子を説明できるようにする。<br>・テキストの練習問題を解く。 |
| 7 | 初田　真知子 | 電気<br>百人おどしで電気を感じよう―<br>・静電気とオームの法則を学習する。<br>・グループディスカッション・実験：百人おどしをするとどうなるか、体脂肪計のしくみはどのようなものか、グループディスカッション後に実験を行う。<br>・バンデグラフ等で静電気を発生させ、皆で手をつないで電気が流れる様子を実験する。人体の抵抗をテスターで測定する実験を行う。手を水で濡らすと、抵抗が非常に小さくなり、感電の危険性があることも実験する。静電気のしくみを理解し、人体にも電気が流れる事を学習する。体脂肪計の測定原理も考察する。<br>・小テストを実施する。 | アクティブラーニングとして、「電気の味見実験、人体の抵抗実験」について、グループ討議、グループ実験、意見交換を行う。<br>講義の後に、例題を解く。 | 【予習】（90分）<br>・「電気」の正体が何かを調べておく。<br>・「オームの法則」を調べておく。体脂肪計がある人は、自分の体脂肪を測定しておく。またその測定原理を考えておく。<br>【復習】（90分）<br>・静電気を説明できるようにし、オームの法則を計算できるようにしておく。<br>・テキストの練習問題を解く。 |
| 8 | 初田　真知子 | 磁気と電磁誘導<br>IH調理器で光らせよう―<br>・磁気と電磁誘導のしくみを学習する。 | アクティブラーニングとして、「IH調理器による電磁誘導実 | 【予習】（90分）<br>・IH調理器の原理を調べておく。<br>・「電磁誘導」についても調べておく。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ・グループディスカッション・実験：IH調理器に閉じた電線の豆電球を近づけるとどうなるか、グループディスカッション後に実験を行う。<br>・IH調理器の電磁波による電磁誘導を学ぶ。電線の巻き数を変えて、豆電球の明るさが巻き数に比例する事も実験する。電磁誘導を説明できるようにする。さらに、MRIなどの変動磁場の中のペースメーカーは、誘導電流による誤作動の危険性がある事も確認する。 | 験」について、グループ討議、グループ実験、意見交換を行う。<br>講義の後に、例題を解く。 | 【復習】（90分）<br>・電磁誘導を説明できるようにし、危険性を正しく判断できるようにしておく。<br>・テキストの練習問題を解く。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 基礎数学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Basic Mathematics | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 黒河 千恵 | ナンバリング | BAP1103/BAR1104 |
| 担当教員 | 黒河 千恵 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 医療現場における放射線を安全かつ効率的に扱うためには、物理学や工学、画像処理分野の知識が必要となる。これらの知識を修得するためには、数学は必要不可欠な科目である。本講義では、高校で習った数学の復習からスタートし、応用数学を学ぶまでに必要となる最低限の基礎的数学の知識を修得する。具体的な講義の内容は以下の通りである。①ベクトルと行列の計算、②三角関数、③初等関数の微分・積分（定積分と不定積分）、④級数展開（テイラー展開）、⑤フーリエ級数とフーリエ展開、⑥フーリエ変換と逆変換。<br>到達目標は高校数学の内容を完全に理解し、関連する問題の計算ができるようになることである。これらの学修を通して、医療専門職者になるために必要な数学を学ぶための準備を整える。 |
| 到達目標 | ベクトルと行列の性質を理解し、計算できる。<br>三角関数の性質や相互関係を理解し、その応用やそれを用いた計算ができる。<br>関数の微分・積分の考え方を理解し、それを用いた計算ができる。<br>級数展開の性質を理解し、周期関数に対するフーリエ展開の意味を説明できる。また、フーリエ展開を用いたフーリエ変換とその逆変換を理解し、簡単な計算問題を解くことができる。 |
| 授業の位置づけ | 高校で学習した数学の復習、ならびに1年生後期の応用数学を学ぶための準備を行う。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-2、理学DP-5、放射DP-3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 事前に、シラバスに沿って参考文献等でその定義を調べておくこと。<br>演習問題は必ず手を動かして下さい。わからないことは、次の講義の前までに解決するようにして下さい。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業・課題への参加度(30%)、課題レポート・小テスト（30%）、定期試験（40%）により評価する。 |
| 評価基準 | 講義の項目中の高校数学の内容を完全に理解し、関連する問題を解くことができるか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内に返却し、振り返りを実施する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 各自が高校で使用していた教科書（数II、数B、数III）、もしくはそれに準じた参考書<br>授業で随時配布する | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ckuroka@juntendo.ac.jp ＊研究室（＊号館＊号室）　事前メール連絡で随時対応する。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>6/24<br>（水） | 黒河　千恵 | 【ベクトルの計算】<br>ベクトルの演算則、内積の性質、ベクトルの平行と垂直、について学び、演習問題を解く。 | 講義中で配布するテキストの解説と、それに沿った例題の演習 | 【予習】（90分）<br>ベクトルの定義について理解しておく。<br>【復習】（90分）<br>授業で出題されたベクトルの演算則、内積を用いた問題を解く。 |
| 2<br>7/1<br>（水） | 黒河　千恵 | 【行列の計算】<br>行列の和と差、数との積、行列の積と演算法則について学び、演習問題を解く。さらに、行列の変形による連立一次方程式の解法について学び、演習問題を解く。 | 講義中で配布するテキストの解説と、それに沿った例題の演習 | 【予習】（90分）<br>行列の演算法則について、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>授業で出題された行列の演算則を用いた問題を解く。 |
| 3<br>7/8<br>（水） | 黒河　千恵 | 【三角関数・指数関数・対数関数】<br>三角関数の定義と性質を学び、三角関数を用いた計算問題を解く。さらに、指数関数と対数関数の定義と性質を学び、これらを用いた計算問題を解く。 | 講義中で配布するテキストの解説と、それに沿った例題の演習 | 【予習】（90分）<br>三角関数、指数関数、対数関数の定義と性質について、まとめておく。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（90分）<br>授業で出題された問題を解く。 |
| 4<br>7/15<br>（水） | 黒河　千恵 | 【初等関数の微分】<br>高校で学んだ1変数関数の微分の基礎事項を復習し、演習問題を解く。 | 講義中で配布するテキストの解説と、それに沿った例題の演習 | 【予習】（90分）<br>1変数関数の微分について、復習しておく。<br>【復習】（90分）<br>授業で出題された1変数関数の微分の問題を解く。 |
| 5<br>7/22<br>（水） | 黒河　千恵 | 【初等関数の積分：定積分、不定積分】<br>高校で学んだ1変数関数の定積分の基礎事項を復習する。<br>1変数関数の不定積分を学び、演習問題を解く。 | 講義中で配布するテキストの解説と、それに沿った例題の演習 | 【予習】（90分）<br>1変数関数の積分について、復習しておく。<br>【復習】（90分）<br>授業で出題された1変数関数の積分（定積分と不定積分）の問題を解く。 |
| 6<br>7/29<br>（水） | 黒河　千恵 | 【級数展開（テイラー展開）】<br>級数展開とは何かを学び、テーラーの定理を理解し、基本的な級数展開の演習問題を解く。 | 講義中で配布するテキストの解説と、それに沿った例題の演習 | 【予習】（90分）<br>級数展開とは何か、調べておく。またどのような場合に使用されるか調べておく。<br>【復習】（90分）<br>授業で出題された級数展開の問題を解く。 |
| 7<br>8/5<br>（水） | 黒河　千恵 | 【フーリエ級数とフーリエ展開】<br>フーリエ級数の基礎を学習し、フーリエ級数展開について、その収束性などを学ぶ。また、医療における応用について学ぶ。 | 講義中で配布するテキストの解説と、それに沿った例題の演習 | 【予習】（90分）<br>フーリエ級数とは何か、調べておく。<br>【復習】（90分）<br>授業で出題されたフーリエ級数に関する問題を解く。 |
| 8<br>8/12<br>（水） | 黒河　千恵 | 【フーリエ変換と逆変換】<br>フーリエ変換の定義について学習し、フーリエ変換を用いたフーリエ積分、および逆変換について学ぶ | 講義中で配布するテキストの解説と、それに沿った例題の演習 | 【予習】（90分）<br>フーリエ変換とは何か、調べておく。<br>【復習】（90分）<br>フーリエ変換やその逆変換の物理的意味について理解しておく。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 情報科学 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Information Science | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 岡田 佐知子 | ナンバリング | BAP1104/BAR1106 |
| 担当教員 | 岡田 佐知子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 情報技術の高度化やインターネットの普及に伴い、社会の情報化が急速に進行している。我々の日常においても、どこにいてもスマートフォンが手放せないくらい、情報の活用により便利で効率的な生活を送ることができている。しかし情報に余りに頼りすぎると、システムが動かなかった時などに混乱が起き、社会に大きな影響を与える可能性がある。また個人情報の漏洩などのリスクがあることにも気を付けなくてはならない。情報化社会の中で上手く生きていくためには、情報のもたらす恩恵とリスクを十分に理解したうえで情報の活用方法を考える必要がある。本講義では、①情報化社会を支える基盤としてのコンピュータの仕組みやネットワーク、データベース等の基本知識の修得、②Word、Excel等を用いたコンピュータの操作スキルの修得、③少人数のグループによる、情報検索とプレゼンテーションの演習を通じて、情報化社会を生きていくうえでの基本技術を修得することを目標とする。 |
| 到達目標 | 1. 情報科学に関する基本知識の習得<br>2. 基本的なコンピュータの操作スキルの修得 |
| 授業の位置づけ | 本講義は基礎分野の自然科学の1科目として位置づけられているが、本講義で学ぶ情報・データリテラシーは今後分野を問わず学習・研究を遂行する上で重要なスキルである。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-C1・3-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で扱った内容は復習し、理解したうえで次の授業に臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業への参加度(10%)、講義中の課題(20%)、定期試験(70%) |
| 評価基準 | 講義：情報科学に関する基本知識を習得できたか<br>演習：演習で扱った内容を理解し、自分で使えるようになったか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 講義内に適宜紹介する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 講義時間前後、また、 sa-okada@juntendo.ac.jpへの事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 医療情報システムの開発 5年<br>診療データの解析 15年 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 岡田　佐知子 | 初回ガイダンス・情報科学概論<br>・講義の進め方について説明する<br>・情報科学について考える<br>・データ・情報・知識と現代社会について考える<br>・AIについて考える<br>・情報技術の変遷を解説する<br>・演習室のPCにログインし、メール送信等の演習を行う | 講義<br>演習 | 【予習】（90分）<br>高校までに学んだ情報の授業内容について思い出してみる<br>【復習】（90分）<br>身の回りにある情報科学の活用事例に関してまとめる |
| 2 | 岡田　佐知子 | 情報科学の基礎知識<br>・ディジタル、論理回路など情報科学の基礎技術を解説する<br>・コンピュータの構成要素について解説する<br>・演習室のPCのソフトウエア、ハードウエアを確認する | 講義<br>演習 | 【予習】（90分）<br>コンピュータの内部、外部にあるものについて例をあげてみる<br>【復習】（90分）<br>自分が所有している情報機器のハードウエアを確認する |
| 3 | 佐藤　真理 | 情報通信ネットワーク(1) | 講義 | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ・基本的な通信技術について解説する<br>・ネットワークの種類について解説する<br>・インターネット,Web, メールの仕組みについて解説する | | 自分の身の回りの通信技術を使ったものについて、例をあげてみる<br>【復習】（90分）<br>HTML、URL、POP、SMTPについて説明できるようにする |
| 4 | 佐藤　真理 | 情報通信ネットワーク(2)<br>・セキュリティの考え方とその技術について解説する<br>・情報通信ネットワークに関する演習を行う | 講義<br>演習 | 【予習】（90分）<br>前回講義の内容を復習する<br>【復習】（90分）<br>自分の身の回りの通信技術について調べる |
| 5 | 岡田　佐知子 | データベース<br>・データモデルについて概説する<br>・リレーショナルデータベースについて解説する<br>・身近な例を取り上げ、データモデルの作成、データの収集の演習を行う | 講義<br>演習 | 【予習】（90分）<br>身の回りにあるデータの構造について考える<br>【復習】（90分）<br>代表的なデータモデルの特徴についてまとめる |
| 6 | 岡田　佐知子 | アルゴリズム<br>・アルゴリズムについて解説する<br>・最大最小、平均を求めるアルゴリズムの作成演習を行う<br>・システム開発技術について解説する | 講義<br>演習 | 【予習】（90分）<br>アルゴリズムとは何かを調べる<br>【復習】（90分）<br>講義で取り上げた手法を使ってみる |
| 7 | 岡田　佐知子 | データの後利用<br>・一次データと二次データ、構造化データと非構造化データ等について解説する<br>・データの後利用に必要な技術について解説する<br>・現代社会のデータ活用事例について解説する<br>・AIを利用したデータ活用について解説する<br>・データの後利用に関わる課題について解説する<br>・セキュリティに関する法律、情報リテラシーに関して解説する | 講義 | 【予習】（90分）<br>データと情報の違いについて調べる<br>【復習】（90分）<br>データの活用方法と課題を考える |
| 8 | 杉村 雅文 | 医療情報システム<br>・病院の業務の流れを解説する<br>・電子カルテを中心とする病院情報システムについて解説し、そのメリットについて考察する<br>・医療情報がどのように使われているのかを考察する | 講義 | 【予習】（90分）<br>自分が医療機関にかかった時の流れを思い出す<br>【復習】（90分）<br>医療情報システムと一般の情報システムとの共通点と相違点をまとめる |
| 9 | 夏井 淳一 | イスラエルに学ぶITイノベーション<br>なぜイスラエルでは多くのITイノベーションが生まれるのか？スタートアップ大国イスラエルでの実例を取り上げ、ITイノベーションにつながるヒントを考察する | 講義 | 【予習】（90分）<br>インターネットでイスラエルのことを調べて情報収集する<br>【復習】（90分）<br>イスラエルのデジタルヘルススタートアップ1社を選び深掘りする |
| 10 | 岡田　佐知子 | ワープロソフト演習<br>・ワープロソフトの基本的な使い方を実習する<br>・レポート作成演習を行う<br>・論文検索の演習を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>身近なプリントを観察する<br>【復習】（90分）<br>ワープロソフトでの文書作成の手順を確認する |
| 11 | 岡田　佐知子 | 表計算ソフト演習(1)<br>・表計算ソフトの基本的な使い方を実習する<br>・インターネット上のデータソースからデータを取得し、グラフ作成を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>教科書や新聞に載っている図表を観察する<br>【復習】（90分）<br>表計算ソフトの基本操作を確認する |
| 12 | 岡田　佐知子 | 表計算ソフト演習(2)<br>・ピボットテーブルを用いた集計を実習する | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回講義の内容を復習する<br>【復習】（90分）<br>ピボットテーブルを使い、集計してみる |
| 13 | 岡田　佐知子 | 表計算ソフト演習(3)<br>・表計算ソフトでの基本的な関数の使い方を実習する | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回講義の内容を復習する<br>【復習】（90分）<br>授業で取り上げた関数を使い、集計してみる |
| 14 | 岡田　佐知子 | 表計算ソフト演習(4)<br>・表計算ソフトで関数を用いた基本的なデータ解析を実習する<br>・統計ソフトの基本的な使い方を実習する | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回講義の内容を復習する<br>【復習】（90分）<br>授業で取り上げた関数を自分で使ってみる |
| 15 | 岡田　佐知子 | 表計算ソフト演習(5)<br>・これまでに学んだ手法を用いて、データ解析の演習を行う<br>・マクロの使い方を実習する | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回講義の内容を復習する<br>【復習】（90分）<br>自分で考えた処理について、関数で実装してみる |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 情報科学 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Information Science | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 岡田 佐知子 | ナンバリング | BAP1104/BAR1106 |
| 担当教員 | 岡田 佐知子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 情報技術の高度化やインターネットの普及に伴い、社会の情報化が急速に進行している。我々の日常においても、どこにいてもスマートフォンが手放せないくらい、情報の活用により便利で効率的な生活を送ることができている。しかし情報に余りに頼りすぎると、システムが動かなかった時などに混乱が起き、社会に大きな影響を与える可能性がある。また個人情報の漏洩などのリスクがあることにも気を付けなくてはならない。情報化社会の中で上手く生きていくためには、情報のもたらす恩恵とリスクを十分に理解したうえで情報の活用方法を考える必要がある。本講義では、①情報化社会を支える基盤としてのコンピュータの仕組みやネットワーク、データベース等の基本知識の修得、②Word、Excel等を用いたコンピュータの操作スキルの修得、③少人数のグループによる、情報検索とプレゼンテーションの演習を通じて、情報化社会を生きていくうえでの基本技術を修得することを目標とする。 |
| 到達目標 | 1. 情報科学に関する基本知識の習得<br>2. 基本的なコンピュータの操作スキルの修得 |
| 授業の位置づけ | 本講義は基礎分野の自然科学の1科目として位置づけられているが、本講義で学ぶ情報・データリテラシーは今後分野を問わず学習・研究を遂行する上で重要なスキルである。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-2-C1・3-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で扱った内容は復習し、理解したうえで次の授業に臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業への参加度(10%)、講義中の課題(20%)、定期試験(70%) |
| 評価基準 | 講義：情報科学に関する基本知識を習得できたか<br>演習：演習で扱った内容を理解し、自分で使えるようになったか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 講義内に適宜紹介する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 講義時間前後、また、 sa-okada@juntendo.ac.jpへの事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 医療情報システムの開発 5年<br>診療データの解析 15年 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 岡田　佐知子 | 初回ガイダンス・情報科学概論<br>・講義の進め方について説明する<br>・情報科学について考える<br>・データ・情報・知識と現代社会について考える<br>・AIについて考える<br>・情報技術の変遷を解説する<br>・演習室のPCにログインし、メール送信等の演習を行う | 講義<br>演習 | 【予習】（90分）<br>高校までに学んだ情報の授業内容について思い出してみる<br>【復習】（90分）<br>身の回りにある情報科学の活用事例に関してまとめる |
| 2 | 岡田　佐知子 | 情報科学の基礎知識<br>・ディジタル、論理回路など情報科学の基礎技術を解説する<br>・コンピュータの構成要素について解説する<br>・演習室のPCのソフトウエア、ハードウエアを確認する | 講義<br>演習 | 【予習】（90分）<br>コンピュータの内部、外部にあるものについて例をあげてみる<br>【復習】（90分）<br>自分が所有している情報機器のハードウエアを確認する |
| 3 | 佐藤　真理 | 情報通信ネットワーク(1) | 講義 | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ・基本的な通信技術について解説する<br>・ネットワークの種類について解説する<br>・インターネット,Web, メールの仕組みについて解説する | | 自分の身の回りの通信技術を使ったものについて、例をあげてみる<br>【復習】（90分）<br>HTML、URL、POP、SMTPについて説明できるようにする |
| 4 | 佐藤　真理 | 情報通信ネットワーク(2)<br>・セキュリティの考え方とその技術について解説する<br>・情報通信ネットワークに関する演習を行う | 講義<br>演習 | 【予習】（90分）<br>前回講義の内容を復習する<br>【復習】（90分）<br>自分の身の回りの通信技術について調べる |
| 5 | 岡田　佐知子 | データベース<br>・データモデルについて概説する<br>・リレーショナルデータベースについて解説する<br>・身近な例を取り上げ、データモデルの作成、データの収集の演習を行う | 講義<br>演習 | 【予習】（90分）<br>身の回りにあるデータの構造について考える<br>【復習】（90分）<br>代表的なデータモデルの特徴についてまとめる |
| 6 | 岡田　佐知子 | アルゴリズム<br>・アルゴリズムについて解説する<br>・最大最小、平均を求めるアルゴリズムの作成演習を行う<br>・システム開発技術について解説する | 講義<br>演習 | 【予習】（90分）<br>アルゴリズムとは何かを調べる<br>【復習】（90分）<br>講義で取り上げた手法を使ってみる |
| 7 | 岡田　佐知子 | データの後利用<br>・一次データと二次データ、構造化データと非構造化データ等について解説する<br>・データの後利用に必要な技術について解説する<br>・現代社会のデータ活用事例について解説する<br>・AIを利用したデータ活用について解説する<br>・データの後利用に関わる課題について解説する<br>・セキュリティに関する法律、情報リテラシーに関して解説する | 講義 | 【予習】（90分）<br>データと情報の違いについて調べる<br>【復習】（90分）<br>データの活用方法と課題を考える |
| 8 | 杉村 雅文 | 医療情報システム<br>・病院の業務の流れを解説する<br>・電子カルテを中心とする病院情報システムについて解説し、そのメリットについて考察する<br>・医療情報がどのように使われているのかを考察する | 講義 | 【予習】（90分）<br>自分が医療機関にかかった時の流れを思い出す<br>【復習】（90分）<br>医療情報システムと一般の情報システムとの共通点と相違点をまとめる |
| 9 | 夏井 淳一 | イスラエルに学ぶITイノベーション<br>なぜイスラエルでは多くのITイノベーションが生まれるのか？スタートアップ大国イスラエルでの実例を取り上げ、ITイノベーションにつながるヒントを考察する | 講義 | 【予習】（90分）<br>インターネットでイスラエルのことを調べて情報収集する<br>【復習】（90分）<br>イスラエルのデジタルヘルススタートアップ1社を選び深掘りする |
| 10 | 岡田　佐知子 | ワープロソフト演習<br>・ワープロソフトの基本的な使い方を実習する<br>・レポート作成演習を行う<br>・論文検索の演習を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>身近なプリントを観察する<br>【復習】（90分）<br>ワープロソフトでの文書作成の手順を確認する |
| 11 | 岡田　佐知子 | 表計算ソフト演習(1)<br>・表計算ソフトの基本的な使い方を実習する<br>・インターネット上のデータソースからデータを取得し、グラフ作成を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>教科書や新聞に載っている図表を観察する<br>【復習】（90分）<br>表計算ソフトの基本操作を確認する |
| 12 | 岡田　佐知子 | 表計算ソフト演習(2)<br>・ピボットテーブルを用いた集計を実習する | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回講義の内容を復習する<br>【復習】（90分）<br>ピボットテーブルを使い、集計してみる |
| 13 | 岡田　佐知子 | 表計算ソフト演習(3)<br>・表計算ソフトでの基本的な関数の使い方を実習する | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回講義の内容を復習する<br>【復習】（90分）<br>授業で取り上げた関数を使い、集計してみる |
| 14 | 岡田　佐知子 | 表計算ソフト演習(4)<br>・表計算ソフトで関数を用いた基本的なデータ解析を実習する<br>・統計ソフトの基本的な使い方を実習する | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回講義の内容を復習する<br>【復習】（90分）<br>授業で取り上げた関数を自分で使ってみる |
| 15 | 岡田　佐知子 | 表計算ソフト演習(5)<br>・これまでに学んだ手法を用いて、データ解析の演習を行う<br>・マクロの使い方を実習する | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回講義の内容を復習する<br>【復習】（90分）<br>自分で考えた処理について、関数で実装してみる |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 統計学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Statistics | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 野尻　宗子 | ナンバリング | BAP1105/BAR1107 |
| 担当教員 | 野尻　宗子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 医療現場では、患者の状態、ケアの程度、医療従事者に関連する様々なデータが存在、あるいは生成されている．医学データを集計し有効に活用するためには、統計の基礎を理解し、データを取り扱う能力を身に付ける必要がある．本講義では、身近なデータの具体例を挙げながら、必須となる統計の基礎知識を学習し、保健・医療に統計がどのように役立つのかを理解する．またデータが持つ特徴やデータ間の関連性を説明するために、数値を用いたデータの要約の方法や検定・推定などの知識を修得し、代表的な統計手法について実例・演習を中心に学習する．特に、後半ではデータサイエンスの実践として、ExcelやPythonでの演習を行い、統計の基礎である記述統計、相関、回帰や機械学習（教師あり、教師なし）の実習も行い、コンピュータがデータを読み込むことで自動的にルールやパターンを見出し、その結果を活かして分類や予測を行う仕組みを体験していく。 |
| 到達目標 | 到達目標<br>１．データの種類の理解，適切なグラフ表示ができる．<br>２．平均，標準偏差などの統計量の理解．相関と回帰の理解する．<br>３．確率と確率分布の理解．正規分布などを理解する．<br>４．母集団と標本の理解する．<br>５．臨床研究デザインの理解と解析結果の解釈および簡単な臨床データを使った解析ができる．<br>６．Excel、Pythonを通し、記述統計・機械学習の分析が出来るようになる．<br>７．１－６を踏まえ、情報リテラシー、数量的リテラシー、論理的思考力、問題解決力を身に着け、必要なデータを収集・分析し、その傾向を踏まえて課題を解決できるようになる． |
| 授業の位置づけ | 情報通信技術の進化に伴って生活環境が急速に変化しているが、統計・データサイエンスは、特に医療現場では必要な技能である。その考え方や基本的な手法を身に付けておけば、日常の様々な場面でも役に立つはずである。知識を吸収するだけでなく、物事を様々な角度から眺め、自分で深く考える姿勢を養えるようになることが重要である。数学はその抽象性ゆえ、前提条件を満たせば結果を様々な事柄に適用できるが（数学の実用性）、統計学は数学の実用性への理解を促進する。さらに、情報学の内容や総合的な探究の時間の取組などとも関連付け、様々な場面で活用できる統計活用力を身に着けることができる。統計的な内容の学習を通し、数学への興味や関心を高めるようにしていく． |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-C1、理学DP4-C1、放射DP4-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・統計の考え方に慣れることを一番の目的とし，授業に積極的に取り組む姿勢を重視する．<br>・四則演算とルートの計算が可能な電卓を毎回持参すること．<br>・高校数学IIbを履修していなかった者は、数学の勉強会や自習をしておくことが望ましい．<br>・授業の進み具合に応じて内容の順序等が入れ替わることがある。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業態度・取り組む姿勢20%、課題レポート20%、筆記試験60%にて評価する。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には、減点の対象とする． |
| 評価基準 | 授業態度・取り組む姿勢20%、課題レポート20%、演習問題（実習）20%、筆記試験40%にて評価する。なお、授業態度が授業進行上において悪いと判断した場合には、減点の対象とする． |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| １．レポート課題　宇宙怪人しまりす医療統計を学ぶ (岩波科学ライブラリー (114)) (日本語) 単行本 – 2005/12/6　佐藤 俊哉 (著)<br>授業中に課したレポートの評価のポイントを説明する．<br>２．演習問題（実習）は、後半に行う実習で与えられた課題とサンプルデータセットを使い、プログラムとそのアウトプット、解釈を提出する。正解は、授業あるいはJ-PASSに載せる．<br>３．授業中の演習問題は、授業中に考え方の解説と必要に応じてJ-PASSに解答を載せる． | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| テキスト：授業時の配布資料．<br><br>参考書：<br>統計学入門．東京大学教養学部統計学教室 編 (1991)<br>竹村彰通. データサイエンス入門　第2版　（データサイエンス大系）. 学術図書出版社 (2021)． | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 授業の前後． |
| 担当教員の実務経験 | 医学部　M3「疫学」(2015年度～現在) |

| | |
|---|---|
| | 順天堂大学　革新的医療技術開発研究センター　生物統計家（2014年度～現在） |
| 備考 | 講義では簡単な数学を使うが、発展的な数理的な考え方も紹介していく．統計の考え方に慣れることを一番の目的とし，授業に積極的に取り組む姿勢を重視する。四則演算とルートの計算が可能な電卓（電子辞書でもよい）を毎回持参すること．また、ExcelやPythonを用いた演習も行う． |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 野尻 | ・医療統計の重要性を理解する。<br>・分布の代表値　箱ひげ図・外れ値・ヒストグラム・散布図，分布の中心の指標として，平均値，中央値，最頻値，割合，率を理解する．ばらつきの指標として，範囲(レンジ)，四分位範囲，分散，標準偏差といった基本統計量を求めて，データの分布の特徴を捉える方法を理解する． | 講義および演習問題 | 【予習】（90分）<br>身近な臨床研究の事例を調べる．<br>【復習】（90分）<br>授業の復習． |
| 2 | 野尻 | 2つ以上の量的変数について散布図を作成し，変数間の関係を視覚的に捉えて，相関係数や回帰分析でデータを要約できることを理解した上で，変数間の関係を評価できる． | 講義および演習問題 | 【予習】（90分）<br>相関、回帰について調べる．<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する． |
| 3 | 野尻 | 分割表<br>2つ以上の質的変数について分割表を作成し，度数や割合の比較やオッズ比をもとに，変数間の関係を捉えることができる． | 講義および演習問題 | 【予習】（90分）<br>分割表とは何か，どう使うか調べる．<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する． |
| 4 | 野尻 | 確率<br>様々な事象の起こりやすさを数値で表す確率について，その概念と求め方や統計学における意味を理解する． | 講義と演習 | 【予習】（90分）<br>確率について，その概念と求め方を調べる．<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する． |
| 5 | 野尻 | 確率・確率分布<br>確率変数や確率分布の概念を学び，確率変数の期待値や分散の意味を理解する．正規分布の基本的な確率分布とその統計学的性質を理解する．同時確率分布・周辺確率分布の違いを理解する．誤差・中心極限定理を理解する． | 講義および演習問題 | 【復習】（90分）<br>期待値、分散の定義を調べてくる．<br>二項分布、正規分布、ポアソン分布を調べる．<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する． |
| 6 | 野尻 | 母集団と標本<br>母平均や母比率の推定<br>母集団の特性を知るために，母集団と標本を区別し，標本に基づく統計量（標本平均や標本割合）をもとに，母数（パラメータ）で表現される母集団の特徴を推測するという考え方を理解する． | 講義および演習問題 | 【復習】（90分）<br>中心極限定理を調べておく．<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する． |
| 7 | 野尻 | 検定<br>母集団分布の母数に関して帰無仮説と対立仮説を立てて，標本に基づいて帰無仮説を棄却するか否かを判断するための方法を理解する．平均値の差の検定・独立性の検定の理解をする． | 講義および演習問題 | 【予習】（90分）<br>母集団と標本の違いについて調べる．<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する． |
| 8 | 野尻 | データサイエンスの実践（演習科目）<br>Excelを使った演習（データの可視化・記述統計）<br>Excelを使って統計グラフの作成と代表値・統計量の計算演習を行う。 | 講義、演習 | 【予習】（90分）<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する． |
| 9 | 野尻 | データサイエンスの実践（演習科目）<br>Excelを使った演習（相関と回帰）<br>Excelデータによる散布図、近似曲線、基本統計量の復習、相関係数、回帰分析を行う． | 講義と演習 | 【予習】（90分）<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する． |
| 10 | 野尻 | データサイエンスの実践（演習科目）<br>Pythonを使った演習<br>Pythonを使った基本的なプログラミングを実習する．<br>四則演算、代入、ソート、抽出、集計、可視化などを学ぶ. | 講義と演習 | 【予習】（90分）<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する． |
| 11 | 野尻 | データサイエンスの実践（演習科目）<br>Pythonを使った演習（教師あり学習）<br>線形回帰、分類（ロジスティックモデル）などを学ぶ。 | 講義と演習 | 【予習】（90分）<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する． |
| 12 | 野尻 | データサイエンスの実践（演習科目）<br>Pythonを使った演習（教師あり学習）<br>決定木は機械学習の手法のひとつで、デシジョンツリー | 講義と演習 | 【予習】（90分）<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する． |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | （decision tree）とも呼ばれている． 樹形図、ツリー構造型の図を作り出し、分類を行なうためのルールを作成する分析手法　決定木・ランダムフォレストを学ぶ. | | |
| 13 | 野尻 | データサイエンスの実践（演習科目）<br>Pythonを使った演習（教師あり学習）<br>教師あり学習とは、既知となった過去の入力データと出力データを機械学習アルゴリズムにあらかじめ与えることで、それらを「正解データ」として計算する機械学習であり、その中でニューラルネットワーク、ナイーブベイズ法、K近傍法などを学ぶ. | 講義と演習 | 【予習】（90分）<br>【復習】（90分）<br>配布資料を復習する. |
| 14 | 野尻 | データサイエンスの実践（演習科目）<br>Pythonを使った演習（教師なし機械学習）<br>教師なし機械学習では過去のデータを何かしらの観点に基づいて似ているデータ同士を分類する． 教師がない(正解ラベルがない)状態での分類となり、教師なし学習ではこのグルーピングそのものが学習となり、主なタスクとなる.教師なし学習の具体的な手法として、主成分分析やクラスター分析などを学習する. | 講義と演習 | 【予習】（90分）<br>【復習】（90分）<br>授業内容を復習する. |
| 15 | 横山美帆<br>齊藤アンネ優子<br>野尻 | 臨床医の先生に、臨床研究での統計の重要性についてご講義をしてもらう. | 講義と演習 | 【予習】（90分）<br>【復習】（90分）<br>配布資料を復習する. |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 生命現象の科学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Life Sciences | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 鎌田　弥生 | ナンバリング | BAP1107/BAR1109 |
| 担当教員 | 鎌田　弥生 | | |

授業概要

| | |
|---|---|
| 全体内容 | 基礎生物学の内容を発展させて、生命科学の基礎から最先端までを学修する。現在、分子生物学を基盤にした先端バイオ技術が医療にも応用されつつある。本講義では、分子生物学・細胞生物学・免疫学等の基本事項を学び、医療分野で実用化されている分子標的治療や再生医療などの最先端の治療法の成り立ちを理解する。医療職を目指すにあたり必須となる最新の生命科学の知識を身に付けることを目標とする。 |
| 到達目標 | 1)　タンパク質と酵素について説明できる。<br>2)　核酸の構造及び遺伝子発現について説明できる。<br>3)　細胞の構造及び細胞間・細胞内シグナル伝達系について説明できる。<br>4)　免疫系の基本的な仕組みを理解し、疾患との関わりやワクチンについて説明できる。<br>5)　がんに関する基本的な事項を理解し、説明できる。<br>6)　バイオテクノロジーとその医療応用について理解し、説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 最先端の医学・医療を学ぶ上で基礎となる生命科学の知識を身に付けると共に、自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、自律的学習能力と科学的探究心を養う。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP3：自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力<br>理学CPⅠ：自律的学習能力と科学的探究心<br>放射CPⅠ：自律的学習能力と科学的探究心 |
| 履修上の注意、履修要件 | 生命科学は、創薬や新しい診断・治療法の開発など医療の発展になくてはならないものです。選択科目ですが、医療職を目指す学生として積極的に受講して下さい。わからないことはそのままにせず、理解できるまで本で調べる、友人に聞く、先生に質問するなど、疑問の解決に努めて下さい。基礎生物学の内容を踏まえて講義を展開するため、高等学校で生物を学んでいない人は前期の基礎生物学も受講することが望ましいです。 |

成績評価の方法

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 授業時間内に行う小テストと、定期試験により評価する。<br>場合により、定期試験をレポート試験に変更する可能性もある。 |
| 評価基準 | ・授業内容の各項目について、大学の教科書のレベルで説明することが出来る。<br>・専門基礎科目を学ぶ上で必要となる生命科学の知識範囲を理解できているか。 |

試験・課題等に対するフィードバック方法

授業時間内に行った小テストの解答は次の授業の際に解説する。
小テストで理解が不十分だった項目に関しては、次の授業の際に詳しく補足説明する。

テキスト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 理系総合のための生命科学 第５版 | 東京大学生命科学教科書編集委員会／編 | 羊土社 | 978-4-7581-2102-6 | |

参考文献

・配布講義資料を用いる。
・参考書（購入の必要はありませんが、参考図書として推奨します）
現代生命科学 第2版, 東京大学生命科学教科書編集委員会 編, 羊土社
ケイン基礎生物学, 上村慎治 監訳, 東京化学同人
ケイン生物学 第5版, 上村慎治 監訳, 東京化学同人
感染と免疫 第4版, 入村達郎, 伝田香里 監訳, 東京化学同人
免疫ペディア, 熊ノ郷淳／編, 羊土社
その他として図書館に備わっている生物学、生化学、分子生物学、免疫学、微生物学などの書籍

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 授業終了後に教室で質問を受け付けます。<br>毎回の授業で実施する小テスト（Googleフォーム）にも質問欄を設けています。<br>随時、メールによる質問も可能です。ykamata@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 鎌田　弥生 | 【生命科学の基本概念】<br>生命科学の基本的概念を学ぶ。また、生物の基本構造や生物 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読ん |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | の増殖と恒常性維持の基礎的な事項を理解する。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | | でおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、生命科学の概念や生物の系統分類について理解を深める。興味を持ったことは参考図書などでさらに詳しく調べてみよう。 |
| 2 | 鎌田　弥生 | 【タンパク質】<br>タンパク質は細胞を構成する重要な有機化合物の一つで、あらゆる生命活動において重要な役割を果たしている。第2回はタンパク質の構造について学び、生体触媒である酵素についても理解を深める。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、タンパク質と酵素の基本事項について理解を深める。酵素の役割について、身近な具体例をあげて考えてみよう。 |
| 3 | 鎌田　弥生 | 【DNA複製・修復・遺伝子発現】<br>生命の設計図であるDNAは親から子へと遺伝情報を伝える役割と、設計図が保有する遺伝情報を使って、細胞や個体の形や働きを実現する役割を持つ。第3回は核酸の構造やDNA複製と修復の巧妙な機構を理解すると共に、遺伝子発現の仕組みを学ぶ。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、核酸の基本事項とDNAの複製・修復について理解を深める。放射線や抗がん剤によるDNA損傷と修復の仕組みについて調べ、まとめておく。 |
| 4 | 鎌田　弥生 | 【遺伝子発現の制御】<br>生物の遺伝情報はDNAの塩基配列にある。第4回は遺伝子の構造とクロマチンの構造を理解し、遺伝子の転写と翻訳、さらに遺伝子発現制御についても学ぶ。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、遺伝情報の転写から翻訳までの一連の流れについて理解を深める。原核生物と真核生物の遺伝子発現調節の相違点をまとめておく。 |
| 5 | 鎌田　弥生 | 【生体膜と細胞の構造】<br>生体膜を構成する物質とその構造、原核細胞と真核細胞の基本的な違いについて理解する。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、生体膜の基本構造と膜輸送について理解を深める。細胞の構造と細胞内小器官の役割についてまとめておく。 |
| 6 | 鎌田　弥生 | 【細胞内物流システム・細胞運動】<br>真核細胞の膜区画の間にみられる物質輸送システムを中心に、細胞内輸送の基本的な仕組みについて学び、物質の取り込みと分泌、細胞内における物質の消化などのメカニズムについても理解する。また、細胞骨格と細胞運動について理解を深める。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、細胞内で合成されたタンパク質の輸送経路と細胞骨格について理解を深める。オートファジーとプロテアソームの違いについてまとめ、それぞれの役割について考える。 |
| 7 | 鎌田　弥生 | 【免疫-1】<br>皮膚・気道・腸管などに備わったバリア機能による外部防御のメカニズムについて理解する。また、腸管免疫に関する動画を視聴し、外部防御について理解を深める。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読み、足りない部分は参考書等を読んで補うこと。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、免疫の基本概念と外部防御について復習する。なぜ腸内環境を整えると健康に良いと言われているのか、その理由について免疫の視点から考えてみる。 |
| 8 | 鎌田　弥生 | 【免疫-2】<br>生体の初期防御システムである自然免疫の仕組みを理解する。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読み、足りない部分は参考書等を読んで補うこと。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、自然免疫の基本概念について理解を深める。自然免疫で中心的な役割を担う細胞についてまとめておく。必要に応じて参考図書を利用するとよい。 |
| 9 | 鎌田　弥生 | 【免疫-3】<br>哺乳類の免疫系は過去に遭遇した病原体などの異物を記憶し、同じ異物に再び遭遇した際に初回より速やかに排除する | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読み、足りない部分は参考書等を読んで補うこ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ことができる。これを免疫記憶と呼び、環境に応じて獲得されることから、獲得免疫という。第9回は獲得免疫の仕組みを学び、ワクチンについても理解を深める。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | | と。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、獲得免疫に関して理解を深め、自然免疫との相違点について考える。獲得免疫で働く細胞についてまとめておく。必要に応じて参考図書を利用するとよい。 |
| 10 | 鎌田　弥生 | 【免疫-4】<br>アレルギー・自己免疫疾患・免疫不全等の発症メカニズムの基本事項を学ぶ。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読み、足りない部分は参考書等を読んで補うこと。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、免疫の異常がもたらす疾患について理解を深める。アレルギーと自己免疫の相違点をまとめておく。必要に応じて参考図書を利用するとよい。 |
| 11 | 鎌田　弥生 | 【シグナル伝達-1】<br>細胞間の情報のやり取り（シグナル伝達）について学ぶ。細胞外から供給されるホルモン、増殖因子、神経伝達物質などは細胞外でシグナル伝達分子として機能し、受容体に作用する。第11回は細胞間のシグナル伝達の仕組みについて、代表例をいくつか取り上げ、その中で共通する作動原理を理解する。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、細胞間情報伝達に関して理解を深める。分泌型情報伝達と神経系の情報伝達について要点をまとめておく。 |
| 12 | 鎌田　弥生 | 【シグナル伝達-2】<br>受容体に細胞外シグナル分子が結合すると、細胞内の因子が次々にシグナルを受け渡し、転写調節やアポトーシスによる細胞死などを起こす。第12回は細胞内シグナル伝達系の仕組みを理解し、近年、臨床で用いられている分子標的薬のメカニズムについても学修する。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、細胞内シグナル伝達の基本事項について理解を深める。シグナル伝達系に作用する薬について調べてみよう。 |
| 13 | 鎌田　弥生 | 【がん】<br>細胞増殖のサイクルの過程である細胞周期という現象に触れ、細胞周期進行のメカニズムの基本を理解する。また、がんを引き起こす様々な要因から、がん遺伝子やがん抑制遺伝子の働き、がんの浸潤・転移の分子機構を学ぶ。さらに、がんの新しい治療法や、がん免疫についても理解を深める。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、細胞増殖とがん発生のメカニズムについて理解を深める。がん免疫についてまとめておく。 |
| 14 | 鎌田　弥生 | 【最先端の生命科学技術 - 1】<br>バイオテクノロジーについて学ぶ。遺伝子診断にも応用されているPCR法やDNAシークエンシング、遺伝子やタンパク質の細胞内での存在を生きたまま観察するイメージング技術や遺伝子導入技術など、実験の背景にある生命科学を理解し、次世代の生命科学を創造する力を身に付けることを目指す。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、バイオテクノロジーの基本事項を復習すると共に、PCR検査、遺伝子組換え食品など私たちの身近で実用化されているバイオテクノロジー技術について、理解を深める。 |
| 15 | 鎌田　弥生 | 【最先端の生命科学技術 - 2】<br>iPS細胞など最先端の生命科学の話題を理解し、生命の倫理についても考える。iPS細胞に関する動画を視聴し、再生医療について理解を深める。講義後に行う小テストで理解度を確認する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の授業内容に相当する箇所を良く読んでおく。<br>【復習】（90分）<br>教科書と配布資料を再読し、iPS細胞の実用化がもたらす利点と問題点について考える。必要に応じて、参考図書などを利用すると良い。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 須藤　路子 | ナンバリング | BAP1200/BAR1200 |
| 担当教員 | 須藤　路子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、社会で活躍できる英語力を養成することを目標にする。具体的には、学内で実施されるTOEFL受験に対応できる英語の基礎を確立する入門クラスである。TOEFLは医療機関での資格認定に利用できる試験であり、問題のレベルは日本人にはかなり高度である。英語の講義を聞く、文献を読む、英語で答える際に不可欠なスキルであるListening, Reading, Writingの力をチェックする試験である。本講義は、Listening, Readingを重視し、TOEFL受験に慣れるため読解に不可欠な文法の基礎を含め語彙の拡充を目指す。リスニングは容易なレベルからスタートしレベルアップを図り、実力向上を目指す。授業では語彙テストの他に、英語で書く簡単なWritingの課題も含め、コミュニケーション力の向上を目指す。 |
| 到達目標 | 1. 英語で基礎的なプレゼンテーションを実施できる。<br>2. シチュエーションごとに基礎的な会話を理解できる。<br>3. 英語として適切な表現を使用し、実践的なコミュニケーションができる。<br>4. TOEFLスコアの目標値を設定し、達成のための課題を実行する。 |
| 授業の位置づけ | グローバル社会で活躍するための基礎となる英語コミュニケーション力を習得し、グローバル人材としての異文化への理解を身に付ける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | [履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br>Class PLは、Proficient Learners'Classである。<br><br>[履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修上の注意（科目独自のルール）]<br>1. 原則、すべて英語で実施する。<br>2. 年に回実施されるTOEFL学内受験を受験し、15%以上のスコアアップを目指す。<br>3. 単語数について、40%以上の増加を目指す。<br>4. 受講者の習熟度に応じて、標準として定める時間以上の学習を必要とする場合がある。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | Oral examination (20%), Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(50%),TOEFLスコア(20%), Presentation(10%)で評価する。<br>詳細は、クラスのオリエンテーションにおいて提示する。 |
| 評価基準 | 1.　英語でプレゼンテーションを行い、内容を相手に理解させることができる。（Presentation）<br>2.　シチュエーションごとに基礎的な会話を理解し、英語として適切な表現で実践的なコミュニケーションができる。（Oral examination）（TOEFLスコア）<br>3.　授業における回答（Vocab quizzesとTOEFL exercisesの評価を含む）によって取り組み状況を評価する。（Class participation） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Oral examination, Oral presentationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。TOEFLスコアのついても全体指導と個人指導を実施する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | 978-4-523-17734-0 | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功・秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | 978-4-86392-413-0 | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | 旺文社編 | 旺文社 | 978-4-01-094192-8 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| Handoutsは、各回の授業において配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ［連絡先］<br>msudou@juntendo.ac.jp |

| | |
|---|---|
| | ［オフィスアワー］<br>火曜日12:15-12:45　3:00-3:30<br>上記以外ははアポイントを取ること。 |
| 担当教員の実務経験 | 学内TOEFL導入以来、TOEFL教育を実施<br>第二言語としての英語習得を専門とし、特に音声教育が専門<br>英語発音矯正講習等実施し、実験研究・論文多数 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1回目 | 須藤路子 | オリエンテーション、Introduction: overview, self-introductions<br>TOEFLスコアによりクラス分けを実施する。授業目的、授業方法(基本、授業は英語で実施する)、シラバス、評価方法等を説明する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。 | （予習：90分）<br>学内TOEFLを受験する。<br>TOEFL vocab: Day 1を学習する。<br>TOEFL exercise: 品詞 を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL結果を分析し、学内受験２回目の目標設定をする。 |
| 2回目 | 須藤路子 | Greetingsに関する表現を学習し、実践する。“How do you do?" “How's everything?” “Nice to meet you.” “Let me introduce you to my friend.” などの表現を学習し、実践する。<br>TOEFL exercise: 品詞 を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 1を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 2を学習する。<br>TOEFL exercise: 動詞 を学習する<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 1 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 品詞を復習する。 |
| 3回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 2を学習する<br>TOEFL exercise: 動詞 を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 3を学習する。<br>TOEFL exercise: 句動詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 2の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 動詞 を復習する。 |
| 4回目 | 須藤路子 | What's your major?<br>Schools で使う表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 3を学習する。<br>TOEFL exercise: 句動詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 4 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 3 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 句動詞 phrasal verbsを復習する。 |
| 5回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 4 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(1)を学習する | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(2)を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 4 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 時制を復習する。 |
| 6回目 | 須藤路子 | What does she look like?<br>Appearances に関する表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(2)を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 1-5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 主語と動詞の一致を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 5 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 時制(2)を復習する。 |
| 7回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 1-5 vocab quiz<br>TOEFL exercise: 主語と動詞の一致を学習する。<br>TOEFL 11 Patternsをグループで作成する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 6 を学習する。<br>TOEFL exercise: 代名詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 1-5 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 主語と動詞の一致を復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | グループワークを実施する。 | |
| 8回目 | 須藤路子 | Let's take a trip!<br>Travels に関する表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 6 を学習する。<br>TOEFL exercise: 代名詞を学習する。<br>TOEFL 11 Patternsをグループで作成する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。<br>グループワークを実施する。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 7 を学習する。<br>TOEFL exercise: 名詞・冠詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 6 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 代名詞を復習する。 |
| 9回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 7 を学習する。<br>TOEFL exercise: 名詞・冠詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab Day 8 を学習する。<br>TOEFL exercise: 前置詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 7 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 名詞・冠詞を復習する。 |
| 10回目 | 須藤路子 | How about going out for dinner?<br>Restaurants における表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 8 を学習する。<br>TOEFL exercise: 前置詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab: Day 9 を学習する。<br>TOEFL exercise: 不定詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 7 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 名詞・冠詞を復習する。 |
| 11回目 | 須藤路子 | Reading exercise: newspapers<br>新聞の読み方を学習する。<br>TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 9 を学習する。<br>TOEFL exercise: 不定詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>Oral presentation の為に収集したデータに基づき、テキストを作成する。<br>Oral presentation の為に作成したテキストを基に、発音、delivery 等を練習する。<br>TOEFL vocab: Day 10を学習する。<br>TOEFL exercise: 動名詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>新聞の読み方を復習する。<br>TOEFL vocab: Day 9 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 不定詞を復習する。 |
| 12回目 | 須藤路子 | Oral presentations:新聞の記事に関してOral presentationを行う。<br>SS chapter: 6 Let's go shopping!<br>Shopping に関する表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 10を学習する。<br>TOEFL exercise: 動名詞を学習する。 | パワーポイントを使用し、英語でプレゼンテーションを行う。聞いている学生は、発表者のプレゼンテーションの評価を行い、提出する。評価基準は、授業時提示する。 | （予習：2.5時間）<br>TOEFL exercise のテキストを使用し、誤答箇所を復習し、模試の準備をする。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 10の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 動名詞を復習する。 |
| 13回目 | 須藤路子 | TOEFL模試を実施する。<br>How are you feeling?<br>Feelings に関する表現を学習する。 | TOEFLのSection 1とSection 2を模試形式で実施する。 | （予習：1.5時間）<br>Conversation for communicationの場面における会話ができるように、Oral examination の準備をする。<br><br>（復習：1.5時間）<br>授業で配布されたTOEFL exerciseの誤答を学習する。 |
| 14回目 | 須藤路子 | Oral examination を実施する。<br>TOEFL vocab: Day 11を学習する。<br><br>Vocab quiz 6-10<br>TOEFL exercise: 動名詞を学習する。 | Oral examinationをインタビュー形式とペアワーク形式で実施する。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 12を学習する。<br>TOEFL exercise: 分詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>Vocab exercise, Conversation for communication のすべてのLesson を復習す |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | る。<br>TOEFL vocab: Day 11を覚える。<br>TOEFL exercise: 動名詞を復習する。 |
| 15回目 | 須藤路子 | Oral examinationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。Evaluation と英語学習法について説明する。<br>TOEFL vocab: Day 13を学習する。<br>TOEFL exercise: 分詞を学習する。 | ペアワークを行い、今後の学習方法について、実践してみる。 | （予習：90分）<br>TOEFL 模試 Section 2 (Structure and Written Expression), Section 3 (Reading Comprehension) を解答してくる。<br><br>（復習：90分）<br>Vocab exercise, Conversation for communication のすべてのLesson を復習する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松原　理佐 | ナンバリング | BAP1200/BAR1200 |
| 担当教員 | 松原　理佐 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、社会で活躍できる英語力を養成することを目標にする。具体的には、学内で実施されるTOEFL受験に対応できる英語の基礎を確立する入門クラスである。TOEFLは医療機関での資格認定に利用できる試験であり、問題のレベルは日本人にはかなり高度である。英語の講義を聞く、文献を読む、英語で答える際に不可欠なスキルであるListening, Reading, Writingの力をチェックする試験である。本講義は、Listening, Readingを重視し、TOEFL受験に慣れるため読解に不可欠な文法の基礎を含め語彙の拡充を目指す。リスニングは容易なレベルからスタートしレベルアップを図り、実力向上を目指す。授業では語彙テストの他に、英語で書く簡単なWritingの課題も含め、コミュニケーション力の向上を目指す。 |
| 到達目標 | 1. 英語で基礎的なプレゼンテーションを実施できる。<br>2. シチュエーションごとに基礎的な会話を理解できる。<br>3. 英語として適切な表現を使用し、実践的なコミュニケーションができる。<br>4. TOEFLスコアの目標値を設定し、達成のための課題を実行する。 |
| 授業の位置づけ | グローバル社会で活躍するための基礎となる英語コミュニケーション力を習得し、グローバル人材としての異文化への理解を身に付ける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | [履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修上の注意（科目独自のルール）]<br>1. 年に回実施されるTOEFL学内受験を受験し、15%以上のスコアアップを目指す。<br>2. 単語数について、40%以上の増加を目指す。<br>3. 受講者の習熟度に応じて、標準として定める時間以上の学習を必要とする場合がある。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | Oral examination (20%), Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(50%),TOEFLスコア(20%), Presentation(10%)で評価する。<br>詳細は、クラスのオリエンテーションにおいて提示する。 |
| 評価基準 | 1.　英語でプレゼンテーションを行い、内容を相手に理解させることができる。（Presentation）<br>2.　シチュエーションごとに基礎的な会話を理解し、英語として適切な表現で実践的なコミュニケーションができる。（Oral examination）（TOEFLスコア）<br>3.　授業における回答（Vocab quizzesとTOEFL exercisesの評価を含む）によって取り組み状況を評価する。（Class participation） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Oral examination, Oral presentationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。TOEFLスコアについても全体指導と個人指導を実施する。 | |

テキスト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | 978-4-523-17734-0 | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功・秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | 978-4-86392-413-0 | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | 旺文社編 | 旺文社 | 978-4-01-094192-8 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| Handoutsは、各回の授業において配布する。 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | ［連絡先］<br>@juntendo.ac.jp<br><br>［オフィスアワー］ |

| | |
|---|---|
| | 火曜日12:15-12:45　3:00-3:30<br>上記以外はアポイントを取ること。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1回目 | 松原　理佐 | オリエンテーション、Introduction: overview, self-introductions<br>TOEFLスコアによりクラス分けを実施する。授業目的、授業方法(基本、授業は英語で実施する)、シラバス、評価方法等を説明する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。 | （予習：0.5時間）<br>学内TOEFLを受験する。<br>TOEFL vocab: Day 1を学習する。<br>TOEFL exercise: 品詞 を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL結果を分析し、学内受験２回目の目標設定をする。 |
| 2回目 | 松原　理佐 | Greetingsに関する表現を学習し、実践する。“How do you do?" “How's everything?” “Nice to meet you.” “Let me introduce you to my friend.” などの表現を学習し、実践する。<br>TOEFL exercise: 品詞 を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 1を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 2を学習する。<br>TOEFL exercise: 動詞 を学習する<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 品詞を復習する。 |
| 3回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 2を学習する<br>TOEFL exercise: 動詞 を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 3を学習する。<br>TOEFL exercise: 句動詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 2の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 動詞 を復習する。 |
| 4回目 | 松原　理佐 | What's your major?<br>Schools で使う表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 3を学習する。<br>TOEFL exercise: 句動詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 4 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 3 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 句動詞 phrasal verbsを復習する。 |
| 5回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 4 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(1)を学習する | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(2)を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 4 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 時制を復習する。 |
| 6回目 | 松原　理佐 | What does she look like?<br>Appearances に関する表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(2)を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 主語と動詞の一致を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 5 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 時制(2)を復習する。 |
| 7回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 1-5 vocab quiz<br>TOEFL exercise: 主語と動詞の一致を学習する。<br>TOEFL 11 Patternsをグループで作成する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。<br>グループワークを実施する。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 6 を学習する。<br>TOEFL exercise: 代名詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-5 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 主語と動詞の一致を復習する。 |
| 8回目 | 松原　理佐 | Let's take a trip! | 原則、授業を全て英 | （予習：0.5時間） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Travels に関する表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 6 を学習する。<br>TOEFL exercise: 代名詞を学習する。<br>TOEFL 11 Patternsをグループで作成する。 | 語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。<br>グループワークを実施する。 | TOEFL vocab: Day 7 を学習する。<br>TOEFL exercise: 名詞・冠詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 6 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 代名詞を復習する。 |
| 9回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 7 を学習する。<br>TOEFL exercise: 名詞・冠詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab Day 8 を学習する。<br>TOEFL exercise: 前置詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 7 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 名詞・冠詞を復習する。 |
| 10回目 | 松原　理佐 | How about going out for dinner?<br>Restaurants における表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 8 を学習する。<br>TOEFL exercise: 前置詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab: Day 9 を学習する。<br>TOEFL exercise: 不定詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 7 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 名詞・冠詞を復習する。 |
| 11回目 | 松原　理佐 | Reading exercise: newspapers<br>新聞の読み方を学習する。<br>TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 9 を学習する。<br>TOEFL exercise: 不定詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>Oral presentation の為に収集したデータに基づき、テキストを作成する。<br>Oral presentation の為に作成したテキストを基に、発音、delivery 等を練習する。<br>TOEFL vocab: Day 10を学習する。<br>TOEFL exercise:  動名詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>新聞の読み方を復習する。<br>TOEFL vocab: Day 9 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 不定詞を復習する。 |
| 12回目 | 松原　理佐 | Oral presentations:新聞の記事に関してOral presentationを行う。<br>SS chapter: 6 Let's go shopping!<br>Shopping に関する表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 10を学習する。<br>TOEFL exercise:  動名詞を学習する。 | パワーポイントを使用し、英語でプレゼンテーションを行う。聞いている学生は、発表者のプレゼンテーションの評価を行い、提出する。評価基準は、授業時提示する。 | （予習：2.5時間）<br>TOEFL exercise のテキストを使用し、誤答箇所を復習し、模試の準備をする。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 10の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 動名詞を復習する。 |
| 13回目 | 松原　理佐 | TOEFL模試を実施する。<br>How are you feeling?<br>Feelings に関する表現を学習する。 | TOEFLのSection 1とSection 2を模試形式で実施する。 | （予習：1.5時間）<br>Conversation for communicationの場面における会話ができるように、Oral examinationの準備をする。<br><br>（復習：0.5時間）<br>授業で配布されたTOEFL exerciseの誤答を学習する。 |
| 14回目 | 松原　理佐 | Oral examination を実施する。<br>TOEFL vocab: Day 11を学習する。<br><br>Vocab quiz 6-10<br>TOEFL exercise:  動名詞を学習する。 | Oral examinationをインタビュー形式とペアワーク形式で実施する。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 12を学習する。<br>TOEFL exercise:  分詞を学習する。<br><br>（復習：1時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication のすべてのLesson を復習する。<br>TOEFL vocab: Day 11を覚える。<br>TOEFL exercise:  動名詞を復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 15回目 | 松原　理佐 | Oral examinationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。Evaluation と英語学習法について説明する。<br>TOEFL vocab: Day 13を学習する。<br>TOEFL exercise:  分詞を学習する。 | ペアワークを行い、今後の学習方法について、実践してみる。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL 模試 Section 2 (Structure and Written Expression), Section 3 (Reading Comprehension) を解答してくる。<br><br>（復習：0.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication のすべてのLesson を復習する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松原　理佐 | ナンバリング | BAP1200/BAR1200 |
| 担当教員 | 松原　理佐 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、社会で活躍できる英語力を養成することを目標にする。具体的には、学内で実施されるTOEFL受験に対応できる英語の基礎を確立する入門クラスである。TOEFLは医療機関での資格認定に利用できる試験であり、問題のレベルは日本人にはかなり高度である。英語の講義を聞く、文献を読む、英語で答える際に不可欠なスキルであるListening, Reading, Writingの力をチェックする試験である。本講義は、Listening, Readingを重視し、TOEFL受験に慣れるため読解に不可欠な文法の基礎を含め語彙の拡充を目指す。リスニングは容易なレベルからスタートしレベルアップを図り、実力向上を目指す。授業では語彙テストの他に、英語で書く簡単なWritingの課題も含め、コミュニケーション力の向上を目指す。 |
| 到達目標 | 1. 英語で基礎的なプレゼンテーションを実施できる。<br>2. シチュエーションごとに基礎的な会話を理解できる。<br>3. 英語として適切な表現を使用し、実践的なコミュニケーションができる。<br>4. TOEFLスコアの目標値を設定し、達成のための課題を実行する。 |
| 授業の位置づけ | グローバル社会で活躍するための基礎となる英語コミュニケーション力を習得し、グローバル人材としての異文化への理解を身に付ける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | [履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修上の注意（科目独自のルール）]<br>1. 年に回実施されるTOEFL学内受験を受験し、15%以上のスコアアップを目指す。<br>2. 単語数について、40%以上の増加を目指す。<br>3. 受講者の習熟度に応じて、標準として定める時間以上の学習を必要とする場合がある。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | Oral examination (20%), Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(50%),TOEFLスコア(20%), Presentation(10%)で評価する。<br>詳細は、クラスのオリエンテーションにおいて提示する。 |
| 評価基準 | 1.　英語でプレゼンテーションを行い、内容を相手に理解させることができる。（Presentation）<br>2.　シチュエーションごとに基礎的な会話を理解し、英語として適切な表現で実践的なコミュニケーションができる。（Oral examination）（TOEFLスコア）<br>3.　授業における回答（Vocab quizzesとTOEFL exercisesの評価を含む）によって取り組み状況を評価する。（Class participation） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Oral examination, Oral presentationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。TOEFLスコアについても全体指導と個人指導を実施する。 | |

テキスト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | 978-4-523-17734-0 | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功・秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | 978-4-86392-413-0 | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | 旺文社編 | 旺文社 | 978-4-01-094192-8 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| Handoutsは、各回の授業において配布する。 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | ［連絡先］<br>@juntendo.ac.jp<br><br>［オフィスアワー］ |

| | |
|---|---|
| | 火曜日12:15-12:45　3:00-3:30<br>上記以外はアポイントを取ること。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1回目 | 松原　理佐 | オリエンテーション、Introduction: overview, self-introductions<br>TOEFLスコアによりクラス分けを実施する。授業目的、授業方法(基本、授業は英語で実施する)、シラバス、評価方法等を説明する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。 | （予習：0.5時間）<br>学内TOEFLを受験する。<br>TOEFL vocab: Day 1を学習する。<br>TOEFL exercise: 品詞 を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL結果を分析し、学内受験２回目の目標設定をする。 |
| 2回目 | 松原　理佐 | Greetingsに関する表現を学習し、実践する。“How do you do?" “How's everything?” “Nice to meet you.” “Let me introduce you to my friend.” などの表現を学習し、実践する。<br>TOEFL exercise: 品詞 を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 1を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 2を学習する。<br>TOEFL exercise: 動詞 を学習する<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 品詞を復習する。 |
| 3回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 2を学習する<br>TOEFL exercise: 動詞 を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 3を学習する。<br>TOEFL exercise: 句動詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 2の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 動詞 を復習する。 |
| 4回目 | 松原　理佐 | What's your major?<br>Schools で使う表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 3を学習する。<br>TOEFL exercise: 句動詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 4 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 3 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 句動詞 phrasal verbsを復習する。 |
| 5回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 4 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(1)を学習する | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(2)を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 4 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 時制を復習する。 |
| 6回目 | 松原　理佐 | What does she look like?<br>Appearances に関する表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(2)を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 主語と動詞の一致を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 5 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 時制(2)を復習する。 |
| 7回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 1-5 vocab quiz<br>TOEFL exercise: 主語と動詞の一致を学習する。<br>TOEFL 11 Patternsをグループで作成する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。<br>グループワークを実施する。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 6 を学習する。<br>TOEFL exercise: 代名詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-5 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 主語と動詞の一致を復習する。 |
| 8回目 | 松原　理佐 | Let's take a trip! | 原則、授業を全て英 | （予習：0.5時間） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Travels に関する表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 6 を学習する。<br>TOEFL exercise: 代名詞を学習する。<br>TOEFL 11 Patternsをグループで作成する。 | 語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。<br>グループワークを実施する。 | TOEFL vocab: Day 7 を学習する。<br>TOEFL exercise: 名詞・冠詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 6 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 代名詞を復習する。 |
| 9回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 7 を学習する。<br>TOEFL exercise: 名詞・冠詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab Day 8 を学習する。<br>TOEFL exercise: 前置詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 7 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 名詞・冠詞を復習する。 |
| 10回目 | 松原　理佐 | How about going out for dinner?<br>Restaurants における表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 8 を学習する。<br>TOEFL exercise: 前置詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab: Day 9 を学習する。<br>TOEFL exercise: 不定詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 7 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 名詞・冠詞を復習する。 |
| 11回目 | 松原　理佐 | Reading exercise: newspapers<br>新聞の読み方を学習する。<br>TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 9 を学習する。<br>TOEFL exercise: 不定詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：0.5時間）<br>Oral presentation の為に収集したデータに基づき、テキストを作成する。<br>Oral presentation の為に作成したテキストを基に、発音、delivery 等を練習する。<br>TOEFL vocab: Day 10を学習する。<br>TOEFL exercise:  動名詞を学習する。<br><br>（復習：0.5時間）<br>新聞の読み方を復習する。<br>TOEFL vocab: Day 9 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 不定詞を復習する。 |
| 12回目 | 松原　理佐 | Oral presentations:新聞の記事に関してOral presentationを行う。<br>SS chapter: 6 Let's go shopping!<br>Shopping に関する表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 10を学習する。<br>TOEFL exercise:  動名詞を学習する。 | パワーポイントを使用し、英語でプレゼンテーションを行う。聞いている学生は、発表者のプレゼンテーションの評価を行い、提出する。評価基準は、授業時提示する。 | （予習：2.5時間）<br>TOEFL exercise のテキストを使用し、誤答箇所を復習し、模試の準備をする。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 10の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 動名詞を復習する。 |
| 13回目 | 松原　理佐 | TOEFL模試を実施する。<br>How are you feeling?<br>Feelings に関する表現を学習する。 | TOEFLのSection 1とSection 2を模試形式で実施する。 | （予習：1.5時間）<br>Conversation for communicationの場面における会話ができるように、Oral examinationの準備をする。<br><br>（復習：0.5時間）<br>授業で配布されたTOEFL exerciseの誤答を学習する。 |
| 14回目 | 松原　理佐 | Oral examination を実施する。<br>TOEFL vocab: Day 11を学習する。<br><br>Vocab quiz 6-10<br>TOEFL exercise:  動名詞を学習する。 | Oral examinationをインタビュー形式とペアワーク形式で実施する。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 12を学習する。<br>TOEFL exercise:  分詞を学習する。<br><br>（復習：1時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication のすべてのLesson を復習する。<br>TOEFL vocab: Day 11を覚える。<br>TOEFL exercise:  動名詞を復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 15回目 | 松原　理佐 | Oral examinationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。Evaluation と英語学習法について説明する。<br>TOEFL vocab: Day 13を学習する。<br>TOEFL exercise:  分詞を学習する。 | ペアワークを行い、今後の学習方法について、実践してみる。 | （予習：0.5時間）<br>TOEFL 模試 Section 2 (Structure and Written Expression), Section 3 (Reading Comprehension) を解答してくる。<br><br>（復習：0.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication のすべてのLesson を復習する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松本　恵美子 | ナンバリング | BAP1200/BAR1200 |
| 担当教員 | 松本　恵美子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、社会で活躍できる英語力を養成することを目標にする。具体的には、学内で実施されるTOEFL受験に対応できる英語の基礎を確立する入門クラスである。TOEFLは医療機関での資格認定に利用できる試験であり、問題のレベルは日本人にはかなり高度である。英語の講義を聞く、文献を読む、英語で答える際に不可欠なスキルであるListening, Reading, Writingの力をチェックする試験である。本講義は、Listening, Readingを重視し、TOEFL受験に慣れるため読解に不可欠な文法の基礎を含め語彙の拡充を目指す。 |
| 到達目標 | 1.医療用語を含んだ語彙をTOEFL学習を通じて豊かにする<br>2.様々な活動を通じてリスニングの底力を養う<br>3.医療、健康などのテーマの素材を用い、英語の構造を確認し、読解力を養う |
| 授業の位置づけ | 基礎分野　言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で行う活動には積極的に参加すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | Oral examination (20%),<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(50%),<br>TOEFLスコア(20%),<br>Presentation(10%)で評価する。 |
| 評価基準 | Oral examination (20%),<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(50%),<br>TOEFLスコア(20%),<br>Presentation(10%)で評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて個人面談を行います。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | | | | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | | | | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | | | | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 1. A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 (小中 秀彦, 南雲堂, 2013)<br>2. TOEFL(R)TEST必ず☆でる単 スピードマスター (林 功, 秋本 陽二, Jリサーチ出版, 2018) |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 教員にアポイントを取ってください。 |
| 担当教員の実務経験 | 大学生用英語教科書の執筆、監修。TOEIC, TOEFL, IELTS等資格試験対策本、出版36冊。<br>専門は言語テスティング、英語教授法、TESOL。現在の研究分野は医療英語のカリキュラム開発。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| | 松本恵美子 | TOEFL(Test of English as a Foreign Language)とTOEFL ITP（TOEFL Institutional Test Program)の概要について。オリエンテーション、TOEFL学習方法、目標の設定。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>【復習】（90分）<br>TOEFL学習の計画を立てる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartA (短い会話問題) | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 3 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartB (長い会話問題) | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 4 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartC (講義問題) | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 5 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression 演習 | 5 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 6 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression<br>演習 | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 7 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（指示語に関する問題） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 8 | 松本恵美子 | 模擬テスト | テスト | 予習90分　復習90分 |
| 9 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（詳細に関する問題） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 10 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（全体に関する問題） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 11 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（医学・健康） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 12 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（天文学・生物学） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（人類学・動物学） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 14 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（社会学・心理学） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 15 | 松本恵美子 | 復習テスト | 講義 | 予習90分　復習90分 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 吉岡 貴雄 | ナンバリング | BAP1200/BAR1200 |
| 担当教員 | 吉岡 貴雄 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、社会で活躍できる英語力を養成することを目標にする。具体的には、学内で実施されるTOEFL受験に対応できる英語の基礎を確立する入門クラスである。TOEFLは医療機関での資格認定に利用できる試験であり、問題のレベルは日本人にはかなり高度である。英語の講義を聞く、文献を読む、英語で答える際に不可欠なスキルであるListening, Reading, Writingの力をチェックする試験である。本講義は、Listening, Readingを重視し、TOEFL受験に慣れるため読解に不可欠な文法の基礎を含め語彙の拡充を目指す。リスニングは容易なレベルからスタートしレベルアップを図り、実力向上を目指す。授業では語彙テストの他に、英語で書く簡単なWritingの課題も含め、コミュニケーション力の向上を目指す。 |
| 到達目標 | アカデミックな英語の技術を試すTOEFL ITPにおいて450点が獲得できるレベルの設問を解き、文法、リスニング各セクションに慣れる。文法のStructureセクション、リスニングのショートカンバセーションにおいて設問タイプが認識でき、対応できるようになる。複数文節の文章を理解し、英語独特の音のつながりを聞き取り、TOEFL特有のアカデミックな語彙の習得することを目指す。 |
| 授業の位置づけ | TOEFLの得点と、TOEFLで用いられる学術的な英語は、学生の今後の学業や仕事の幅をひろげてくれるツールになることを忘れず授業を行います。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で求められた事柄には積極的に取り組んでください。TOEFLの得点を向上させるという目標を強く持ってください。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 語彙クイズ30%、定期テスト(復習テスト）40%、TOEFLテスト30% |
| 評価基準 | 語彙クイズ、復習テストで規定以上の成績をおさめる。<br>TOEFLテストで年度初めの結果より上昇させる。<br>（それぞれの規定点数は授業で説明する） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で返却し、必要な個所を復習します。更に復習を奨励します。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功, 秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | | | | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| その他のクラス教材は担当者が用意します。 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | ありません。授業の前後に質問を受けることは可能です。また、質問は教員の宿題として責任をもって取り組みます |
| 担当教員の実務経験 | アメリカの大学、大学院修了。TOEFL PBT、TOEFL iBT受験経験。TOEFL準備講座担当10年以上。 |
| 備考 | スケジュール等の変更がある場合は授業中に行ないます。 |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 吉岡　貴雄 | 【初回オリエンテーション】TOEFL概要、Structure、リスニングセクション演習、語彙学習説明 | | 【予習】（90分）【復習】（90分）語彙復習 |
| 2 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Structureセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）【復習】（70分）語彙復習 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Structureセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 4 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Structureセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 5 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Structureセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 6 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Structureセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 7 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 8 | 吉岡　貴雄 | 【復習テスト】Structureセクション、ショートカンバセーションセクションの演習と語彙復習クイズ（これまでの範囲を見直すテスト） | | 【予習】（120分）語彙復習、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 9 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、復習テストReview、Written Expressionセクション、ロングカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングカンバセーション音読 |
| 10 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ロングカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングカンバセーション音読 |
| 11 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ロングカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングカンバセーション音読 |
| 12 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ロングトークセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングトーク音読 |
| 13 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ロングトークセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングトーク音読 |
| 14 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ロングトークセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングトーク音読 |
| 15 | 吉岡　貴雄 | 【復習テスト】文法、リスニング演習と、語彙復習テスト（これまでの範囲を見直すテスト） | | 【予習】（120分）語彙復習、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（90分）語彙テキストを継続して学習すること |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 須藤　路子 | ナンバリング | BAP1200/BAR1200 |
| 担当教員 | 須藤　路子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、社会で活躍できる英語力を養成することを目標にする。具体的には、学内で実施されるTOEFL受験に対応できる英語の基礎を確立する入門クラスである。TOEFLは医療機関での資格認定に利用できる試験であり、問題のレベルは日本人にはかなり高度である。英語の講義を聞く、文献を読む、英語で答える際に不可欠なスキルであるListening, Reading, Writingの力をチェックする試験である。本講義は、Listening, Readingを重視し、TOEFL受験に慣れるため読解に不可欠な文法の基礎を含め語彙の拡充を目指す。リスニングは容易なレベルからスタートしレベルアップを図り、実力向上を目指す。授業では語彙テストの他に、英語で書く簡単なWritingの課題も含め、コミュニケーション力の向上を目指す。 |
| 到達目標 | 1. 英語で基礎的なプレゼンテーションを実施できる。<br>2. シチュエーションごとに基礎的な会話を理解できる。<br>3. 英語として適切な表現を使用し、実践的なコミュニケーションができる。<br>4. TOEFLスコアの目標値を設定し、達成のための課題を実行する。 |
| 授業の位置づけ | グローバル社会で活躍するための基礎となる英語コミュニケーション力を習得し、グローバル人材としての異文化への理解を身に付ける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | [履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br>Class PLは、Proficient Learners'Classである。<br><br>[履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修上の注意（科目独自のルール）]<br>1. 原則、すべて英語で実施する。<br>2. 年に回実施されるTOEFL学内受験を受験し、15%以上のスコアアップを目指す。<br>3. 単語数について、40%以上の増加を目指す。<br>4. 受講者の習熟度に応じて、標準として定める時間以上の学習を必要とする場合がある。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | Oral examination (20%), Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(50%),TOEFLスコア(20%), Presentation(10%)で評価する。<br>詳細は、クラスのオリエンテーションにおいて提示する。 |
| 評価基準 | 1.　英語でプレゼンテーションを行い、内容を相手に理解させることができる。（Presentation）<br>2.　シチュエーションごとに基礎的な会話を理解し、英語として適切な表現で実践的なコミュニケーションができる。（Oral examination）（TOEFLスコア）<br>3.　授業における回答（Vocab quizzesとTOEFL exercisesの評価を含む）によって取り組み状況を評価する。（Class participation） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Oral examination, Oral presentationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。TOEFLスコアのついても全体指導と個人指導を実施する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | 978-4-523-17734-0 | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功・秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | 978-4-86392-413-0 | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | 旺文社編 | 旺文社 | 978-4-01-094192-8 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| Handoutsは、各回の授業において配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ［連絡先］<br>msudou@juntendo.ac.jp |

| | |
|---|---|
| | ［オフィスアワー］<br>火曜日12:15-12:45　3:00-3:30<br>上記以外ははアポイントを取ること。 |
| 担当教員の実務経験 | 学内TOEFL導入以来、TOEFL教育を実施<br>第二言語としての英語習得を専門とし、特に音声教育が専門<br>英語発音矯正講習等実施し、実験研究・論文多数 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1回目 | 須藤路子 | オリエンテーション、Introduction: overview, self-introductions<br>TOEFLスコアによりクラス分けを実施する。授業目的、授業方法(基本、授業は英語で実施する)、シラバス、評価方法等を説明する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。 | （予習：90分）<br>学内TOEFLを受験する。<br>TOEFL vocab: Day 1を学習する。<br>TOEFL exercise: 品詞 を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL結果を分析し、学内受験２回目の目標設定をする。 |
| 2回目 | 須藤路子 | Greetingsに関する表現を学習し、実践する。“How do you do?" “How's everything?” “Nice to meet you.” “Let me introduce you to my friend.” などの表現を学習し、実践する。<br>TOEFL exercise: 品詞 を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 1を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 2を学習する。<br>TOEFL exercise: 動詞 を学習する<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 1 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 品詞を復習する。 |
| 3回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 2を学習する<br>TOEFL exercise: 動詞 を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 3を学習する。<br>TOEFL exercise: 句動詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 2の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 動詞 を復習する。 |
| 4回目 | 須藤路子 | What's your major?<br>Schools で使う表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 3を学習する。<br>TOEFL exercise: 句動詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 4 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 3 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 句動詞 phrasal verbsを復習する。 |
| 5回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 4 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(1)を学習する | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(2)を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 4 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 時制を復習する。 |
| 6回目 | 須藤路子 | What does she look like?<br>Appearances に関する表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(2)を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 1-5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 主語と動詞の一致を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 5 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 時制(2)を復習する。 |
| 7回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 1-5 vocab quiz<br>TOEFL exercise: 主語と動詞の一致を学習する。<br>TOEFL 11 Patternsをグループで作成する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 6 を学習する。<br>TOEFL exercise: 代名詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 1-5 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 主語と動詞の一致を復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | グループワークを実施する。 | |
| 8回目 | 須藤路子 | Let's take a trip!<br>Travels に関する表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 6 を学習する。<br>TOEFL exercise: 代名詞を学習する。<br>TOEFL 11 Patternsをグループで作成する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。<br>グループワークを実施する。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 7 を学習する。<br>TOEFL exercise: 名詞・冠詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 6 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 代名詞を復習する。 |
| 9回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 7 を学習する。<br>TOEFL exercise: 名詞・冠詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab Day 8 を学習する。<br>TOEFL exercise: 前置詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 7 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 名詞・冠詞を復習する。 |
| 10回目 | 須藤路子 | How about going out for dinner?<br>Restaurants における表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 8 を学習する。<br>TOEFL exercise: 前置詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab: Day 9 を学習する。<br>TOEFL exercise: 不定詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 7 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 名詞・冠詞を復習する。 |
| 11回目 | 須藤路子 | Reading exercise: newspapers<br>新聞の読み方を学習する。<br>TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 9 を学習する。<br>TOEFL exercise: 不定詞を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：90分）<br>Oral presentation の為に収集したデータに基づき、テキストを作成する。<br>Oral presentation の為に作成したテキストを基に、発音、delivery 等を練習する。<br>TOEFL vocab: Day 10を学習する。<br>TOEFL exercise: 動名詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>新聞の読み方を復習する。<br>TOEFL vocab: Day 9 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 不定詞を復習する。 |
| 12回目 | 須藤路子 | Oral presentations:新聞の記事に関してOral presentationを行う。<br>SS chapter: 6 Let's go shopping!<br>Shopping に関する表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 10を学習する。<br>TOEFL exercise: 動名詞を学習する。 | パワーポイントを使用し、英語でプレゼンテーションを行う。聞いている学生は、発表者のプレゼンテーションの評価を行い、提出する。評価基準は、授業時提示する。 | （予習：2.5時間）<br>TOEFL exercise のテキストを使用し、誤答箇所を復習し、模試の準備をする。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 10の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 動名詞を復習する。 |
| 13回目 | 須藤路子 | TOEFL模試を実施する。<br>How are you feeling?<br>Feelings に関する表現を学習する。 | TOEFLのSection 1とSection 2を模試形式で実施する。 | （予習：1.5時間）<br>Conversation for communicationの場面における会話ができるように、Oral examination の準備をする。<br><br>（復習：1.5時間）<br>授業で配布されたTOEFL exerciseの誤答を学習する。 |
| 14回目 | 須藤路子 | Oral examination を実施する。<br>TOEFL vocab: Day 11を学習する。<br><br>Vocab quiz 6-10<br>TOEFL exercise: 動名詞を学習する。 | Oral examinationをインタビュー形式とペアワーク形式で実施する。 | （予習：90分）<br>TOEFL vocab: Day 12を学習する。<br>TOEFL exercise: 分詞を学習する。<br><br>（復習：90分）<br>Vocab exercise, Conversation for communication のすべてのLesson を復習す |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | る。<br>TOEFL vocab: Day 11を覚える。<br>TOEFL exercise: 動名詞を復習する。 |
| 15回目 | 須藤路子 | Oral examinationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。Evaluation と英語学習法について説明する。<br>TOEFL vocab: Day 13を学習する。<br>TOEFL exercise: 分詞を学習する。 | ペアワークを行い、今後の学習方法について、実践してみる。 | （予習：90分）<br>TOEFL 模試 Section 2 (Structure and Written Expression), Section 3 (Reading Comprehension) を解答してくる。<br><br>（復習：90分）<br>Vocab exercise, Conversation for communication のすべてのLesson を復習する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松原　理佐 | ナンバリング | BAP1200/BAR1200 |
| 担当教員 | 松原　理佐 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、社会で活躍できる英語力を養成することを目標にする。具体的には、学内で実施されるTOEFL受験に対応できる英語の基礎を確立する入門クラスである。TOEFLは医療機関での資格認定に利用できる試験であり、問題のレベルは日本人にはかなり高度である。英語の講義を聞く、文献を読む、英語で答える際に不可欠なスキルであるListening, Reading, Writingの力をチェックする試験である。本講義は、Listening, Readingを重視し、TOEFL受験に慣れるため読解に不可欠な文法の基礎を含め語彙の拡充を目指す。リスニングは容易なレベルからスタートしレベルアップを図り、実力向上を目指す。授業では語彙テストの他に、英語で書く簡単なWritingの課題も含め、コミュニケーション力の向上を目指す。 |
| 到達目標 | 1. 英語で基礎的なプレゼンテーションを実施できる。<br>2. シチュエーションごとに基礎的な会話を理解できる。<br>3. 英語として適切な表現を使用し、実践的なコミュニケーションができる。<br>4. TOEFLスコアの目標値を設定し、達成のための課題を実行する。 |
| 授業の位置づけ | グローバル社会で活躍するための基礎となる英語コミュニケーション力を習得し、グローバル人材としての異文化への理解を身に付ける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | [履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修上の注意（科目独自のルール）]<br>1. 年に回実施されるTOEFL学内受験を受験し、15%以上のスコアアップを目指す。<br>2. 単語数について、40%以上の増加を目指す。<br>3. 受講者の習熟度に応じて、標準として定める時間以上の学習を必要とする場合がある。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | Oral examination (20%), Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(50%),TOEFLスコア(20%), Presentation(10%)で評価する。<br>詳細は、クラスのオリエンテーションにおいて提示する。 |
| 評価基準 | 1.　英語でプレゼンテーションを行い、内容を相手に理解させることができる。（Presentation）<br>2.　シチュエーションごとに基礎的な会話を理解し、英語として適切な表現で実践的なコミュニケーションができる。（Oral examination）（TOEFLスコア）<br>3.　授業における回答（Vocab quizzesとTOEFL exercisesの評価を含む）によって取り組み状況を評価する。（Class participation） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Oral examination, Oral presentationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。TOEFLスコアについても全体指導と個人指導を実施する。 | |

テキスト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | 978-4-523-17734-0 | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功・秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | 978-4-86392-413-0 | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | 旺文社編 | 旺文社 | 978-4-01-094192-8 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| Handoutsは、各回の授業において配布する。 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | ［連絡先］<br>r.matsubara.oo@juntendo.ac.jp<br><br>［オフィスアワー］ |

| | |
|---|---|
| | 火曜日12:15-12:45　3:00-3:30<br>上記以外はアポイントを取ること。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1回目 | 松原　理佐 | オリエンテーション、Introduction: overview, self-introductions<br>TOEFLスコアによりクラス分けを実施する。授業目的、授業方法(基本、授業は英語で実施する)、シラバス、評価方法等を説明する。 | 講義 | （予習：1.5時間）<br>学内TOEFLを受験する。<br>TOEFL vocab: Day 1を学習する。<br>TOEFL exercise: 品詞 を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL結果を分析し、学内受験２回目の目標設定をする。 |
| 2回目 | 松原　理佐 | Greetingsに関する表現を学習し、実践する。“How do you do?" “How's everything?” “Nice to meet you.” “Let me introduce you to my friend.” などの表現を学習し、実践する。<br>TOEFL exercise: 品詞 を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 1を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 2を学習する。<br>TOEFL exercise: 動詞 を学習する<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 品詞を復習する。 |
| 3回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 2を学習する<br>TOEFL exercise: 動詞 を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 3を学習する。<br>TOEFL exercise: 句動詞を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 2の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 動詞 を復習する。 |
| 4回目 | 松原　理佐 | What's your major?<br>Schools で使う表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 3を学習する。<br>TOEFL exercise: 句動詞を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 4 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 3 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 句動詞 phrasal verbsを復習する。 |
| 5回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 4 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(1)を学習する | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(2)を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 4 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 時制を復習する。 |
| 6回目 | 松原　理佐 | What does she look like?<br>Appearances に関する表現を学習し、実践する。<br>TOEFL vocab: Day 5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 時制(2)を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-5 を学習する。<br>TOEFL exercise: 主語と動詞の一致を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 5 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 時制(2)を復習する。 |
| 7回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 1-5 vocab quiz<br>TOEFL exercise: 主語と動詞の一致を学習する。<br>TOEFL 11 Patternsをグループで作成する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。<br>グループワークを実施する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 6 を学習する。<br>TOEFL exercise: 代名詞を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-5 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 主語と動詞の一致を復習する。 |
| 8回目 | 松原　理佐 | Let's take a trip!<br>Travels に関する表現を学習し、実践する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニ | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 7 を学習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | TOEFL vocab: Day 6 を学習する。<br>TOEFL exercise: 代名詞を学習する。<br>TOEFL 11 Patternsをグループで作成する。 | ング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。<br>グループワークを実施する。 | TOEFL exercise: 名詞・冠詞を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 6 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 代名詞を復習する。 |
| 9回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 7 を学習する。<br>TOEFL exercise: 名詞・冠詞を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab Day 8 を学習する。<br>TOEFL exercise: 前置詞を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 7 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 名詞・冠詞を復習する。 |
| 10回目 | 松原　理佐 | How about going out for dinner?<br>Restaurants における表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 8 を学習する。<br>TOEFL exercise: 前置詞を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab: Day 9 を学習する。<br>TOEFL exercise: 不定詞を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 7 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 名詞・冠詞を復習する。 |
| 11回目 | 松原　理佐 | Reading exercise: newspapers<br>新聞の読み方を学習する。<br>TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 9 を学習する。<br>TOEFL exercise: 不定詞を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>Oral presentation の為に収集したデータに基づき、テキストを作成する。<br>Oral presentation の為に作成したテキストを基に、発音、delivery 等を練習する。<br>TOEFL vocab: Day 10を学習する。<br>TOEFL exercise:  動名詞を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>新聞の読み方を復習する。<br>TOEFL vocab: Day 9 の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 不定詞を復習する。 |
| 12回目 | 松原　理佐 | Oral presentations:新聞の記事に関してOral presentationを行う。<br>SS chapter: 6 Let's go shopping!<br>Shopping に関する表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 10を学習する。<br>TOEFL exercise:  動名詞を学習する。 | パワーポイントを使用し、英語でプレゼンテーションを行う。聞いている学生は、発表者のプレゼンテーションの評価を行い、提出する。評価基準は、授業時提示する。 | （予習：2.5時間）<br>TOEFL exercise のテキストを使用し、誤答箇所を復習し、模試の準備をする。<br><br>（復習：0.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 10の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 動名詞を復習する。 |
| 13回目 | 松原　理佐 | TOEFL模試を実施する。<br>How are you feeling?<br>Feelings に関する表現を学習する。 | TOEFLのSection 1とSection 2を模試形式で実施する。 | （予習：1.5時間）<br>Conversation for communicationの場面における会話ができるように、Oral examination の準備をする。<br><br>（復習：1.5時間）<br>授業で配布されたTOEFL exerciseの誤答を学習する。 |
| 14回目 | 松原　理佐 | Oral examination を実施する。<br>TOEFL vocab: Day 11を学習する。<br><br>Vocab quiz 6-10<br>TOEFL exercise:  動名詞を学習する。 | Oral examinationをインタビュー形式とペアワーク形式で実施する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 12を学習する。<br>TOEFL exercise:  分詞を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication のすべてのLesson を復習する。<br>TOEFL vocab: Day 11を覚える。<br>TOEFL exercise:  動名詞を復習する。 |
| 15回 | 松原　理佐 | Oral examinationの評価は、授業にて提示し、改善点を解 | ペアワークを行い、 | （予習：1.5時間） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 目 | | 説・指導する。Evaluation と英語学習法について説明する。<br>TOEFL vocab: Day 13を学習する。<br>TOEFL exercise: 分詞を学習する。 | 今後の学習方法について、実践してみる。 | TOEFL 模試 Section 2 (Structure and Written Expression), Section 3 (Reading Comprehension) を解答してくる。<br><br>（復習：1.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication のすべてのLesson を復習する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松本　恵美子 | ナンバリング | BAP1200/BAR1200 |
| 担当教員 | 松本　恵美子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、社会で活躍できる英語力を養成することを目標にする。具体的には、学内で実施されるTOEFL受験に対応できる英語の基礎を確立する入門クラスである。TOEFLは医療機関での資格認定に利用できる試験であり、問題のレベルは日本人にはかなり高度である。英語の講義を聞く、文献を読む、英語で答える際に不可欠なスキルであるListening, Reading, Writingの力をチェックする試験である。本講義は、Listening, Readingを重視し、TOEFL受験に慣れるため読解に不可欠な文法の基礎を含め語彙の拡充を目指す。 |
| 到達目標 | 1.医療用語を含んだ語彙をTOEFL学習を通じて豊かにする<br>2.様々な活動を通じてリスニングの底力を養う<br>3.医療、健康などのテーマの素材を用い、英語の構造を確認し、読解力を養う |
| 授業の位置づけ | 基礎分野　言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で行う活動には積極的に参加すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | Oral examination (20%),<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(50%),<br>TOEFLスコア(20%),<br>Presentation(10%)で評価する。 |
| 評価基準 | Oral examination (20%),<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(50%),<br>TOEFLスコア(20%),<br>Presentation(10%)で評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて個人面談を行います。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | | | | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | | | | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | | | | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 1. A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 (小中 秀彦, 南雲堂, 2013)<br>2. TOEFL(R)TEST必ず☆でる単 スピードマスター (林 功, 秋本 陽二, Jリサーチ出版, 2018) |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 教員にアポイントを取ってください。 |
| 担当教員の実務経験 | 大学生用英語教科書の執筆、監修。TOEIC, TOEFL, IELTS等資格試験対策本、出版36冊。<br>専門は言語テスティング、英語教授法、TESOL。現在の研究分野は医療英語のカリキュラム開発。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| | 松本恵美子 | TOEFL(Test of English as a Foreign Language)とTOEFL ITP（TOEFL Institutional Test Program)の概要について。オリエンテーション、TOEFL学習方法、目標の設定。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>【復習】（90分）<br>TOEFL学習の計画を立てる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartA (短い会話問題) | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 3 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartB (長い会話問題) | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 4 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartC (講義問題) | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 5 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression 演習 | 5 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 6 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression<br>演習 | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 7 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（指示語に関する問題） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 8 | 松本恵美子 | 模擬テスト | テスト | 予習90分　復習90分 |
| 9 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（詳細に関する問題） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 10 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（全体に関する問題） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 11 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（医学・健康） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 12 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（天文学・生物学） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（人類学・動物学） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 14 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（社会学・心理学） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 15 | 松本恵美子 | 復習テスト | 講義 | 予習90分　復習90分 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松本　恵美子 | ナンバリング | BAP1200/BAR1200 |
| 担当教員 | 松本　恵美子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、社会で活躍できる英語力を養成することを目標にする。具体的には、学内で実施されるTOEFL受験に対応できる英語の基礎を確立する入門クラスである。TOEFLは医療機関での資格認定に利用できる試験であり、問題のレベルは日本人にはかなり高度である。英語の講義を聞く、文献を読む、英語で答える際に不可欠なスキルであるListening, Reading, Writingの力をチェックする試験である。本講義は、Listening, Readingを重視し、TOEFL受験に慣れるため読解に不可欠な文法の基礎を含め語彙の拡充を目指す。 |
| 到達目標 | 1.医療用語を含んだ語彙をTOEFL学習を通じて豊かにする<br>2.様々な活動を通じてリスニングの底力を養う<br>3.医療、健康などのテーマの素材を用い、英語の構造を確認し、読解力を養う |
| 授業の位置づけ | 基礎分野　言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で行う活動には積極的に参加すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | Oral examination (20%),<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(50%),<br>TOEFLスコア(20%),<br>Presentation(10%)で評価する。 |
| 評価基準 | Oral examination (20%),<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(50%),<br>TOEFLスコア(20%),<br>Presentation(10%)で評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて個人面談を行います。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | | | | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | | | | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | | | | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 1. A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 (小中 秀彦, 南雲堂, 2013)<br>2. TOEFL(R)TEST必ず☆でる単 スピードマスター (林 功, 秋本 陽二, Jリサーチ出版, 2018) |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 教員にアポイントを取ってください。 |
| 担当教員の実務経験 | 大学生用英語教科書の執筆、監修。TOEIC, TOEFL, IELTS等資格試験対策本、出版36冊。<br>専門は言語テスティング、英語教授法、TESOL。現在の研究分野は医療英語のカリキュラム開発。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| | 松本恵美子 | TOEFL(Test of English as a Foreign Language)とTOEFL ITP（TOEFL Institutional Test Program)の概要について。オリエンテーション、TOEFL学習方法、目標の設定。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>【復習】（90分）<br>TOEFL学習の計画を立てる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartA (短い会話問題) | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 3 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartB (長い会話問題) | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 4 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartC (講義問題) | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 5 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression 演習 | 5 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 6 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression<br>演習 | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 7 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（指示語に関する問題） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 8 | 松本恵美子 | 模擬テスト | テスト | 予習90分　復習90分 |
| 9 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（詳細に関する問題） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 10 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（全体に関する問題） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 11 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（医学・健康） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 12 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（天文学・生物学） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（人類学・動物学） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 14 | 松本恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（社会学・心理学） | 講義 | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 15 | 松本恵美子 | 復習テスト | 講義 | 予習90分　復習90分 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 吉岡 貴雄 | ナンバリング | BAP1200/BAR1200 |
| 担当教員 | 吉岡 貴雄 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、社会で活躍できる英語力を養成することを目標にする。具体的には、学内で実施されるTOEFL受験に対応できる英語の基礎を確立する入門クラスである。TOEFLは医療機関での資格認定に利用できる試験であり、問題のレベルは日本人にはかなり高度である。英語の講義を聞く、文献を読む、英語で答える際に不可欠なスキルであるListening, Reading, Writingの力をチェックする試験である。本講義は、Listening, Readingを重視し、TOEFL受験に慣れるため読解に不可欠な文法の基礎を含め語彙の拡充を目指す。リスニングは容易なレベルからスタートしレベルアップを図り、実力向上を目指す。授業では語彙テストの他に、英語で書く簡単なWritingの課題も含め、コミュニケーション力の向上を目指す。 |
| 到達目標 | アカデミックな英語の技術を試すTOEFL ITPにおいて450点が獲得できるレベルの設問を解き、文法、リスニング各セクションに慣れる。文法のStructureセクション、リスニングのショートカンバセーションにおいて設問タイプが認識でき、対応できるようになる。複数文節の文章を理解し、英語独特の音のつながりを聞き取り、TOEFL特有のアカデミックな語彙の習得することを目指す。 |
| 授業の位置づけ | TOEFLの得点と、TOEFLで用いられる学術的な英語は、学生の今後の学業や仕事の幅をひろげてくれるツールになることを忘れず授業を行います。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で求められた事柄には積極的に取り組んでください。TOEFLの得点を向上させるという目標を強く持ってください。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 語彙クイズ30%、定期テスト(復習テスト）40%、TOEFLテスト30% |
| 評価基準 | 語彙クイズ、復習テストで規定以上の成績をおさめる。<br>TOEFLテストで年度初めの結果より上昇させる。<br>（それぞれの規定点数は授業で説明する） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で返却し、必要な個所を復習します。更に復習を奨励します。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功, 秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| その他のクラス教材は担当者が用意します。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ありません。授業の前後に質問を受けることは可能です。また、質問は教員の宿題として責任をもって取り組みます |
| 担当教員の実務経験 | アメリカの大学、大学院修了。TOEFL PBT、TOEFL iBT受験経験。TOEFL準備講座担当10年以上。 |
| 備考 | スケジュール等の変更がある場合は授業中に行ないます。 |
| 授業計画 | |

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 吉岡　貴雄 | 【初回オリエンテーション】TOEFL概要、Structure、リスニングセクション演習、語彙学習説明 | | 【予習】（90分）【復習】（90分）語彙復習 |
| 2 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Structureセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）【復習】（70分）語彙復習 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Structureセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 4 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Structureセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 5 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Structureセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 6 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Structureセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 7 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ショートカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 8 | 吉岡　貴雄 | 【復習テスト】Structureセクション、ショートカンバセーションセクションの演習と語彙復習クイズ（これまでの範囲を見直すテスト） | | 【予習】（120分）語彙復習、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 9 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、復習テストReview、Written Expressionセクション、ロングカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングカンバセーション音読 |
| 10 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ロングカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングカンバセーション音読 |
| 11 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ロングカンバセーションセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングカンバセーション音読 |
| 12 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ロングトークセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングトーク音読 |
| 13 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ロングトークセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングトーク音読 |
| 14 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、Written Expressionセクション、ロングトークセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習・ロングトーク音読 |
| 15 | 吉岡　貴雄 | 【復習テスト】文法、リスニング演習と、語彙復習テスト（これまでの範囲を見直すテスト） | | 【予習】（120分）語彙復習、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（90分）語彙テキストを継続して学習すること |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 須藤　路子 | ナンバリング | BAP1201/BAR1201 |
| 担当教員 | 須藤　路子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語Iを引き継ぎ、社会で活躍できる英語力を養成することを目標とする。TOEFL受験で習熟度が不足している領域を認識し、その弱点を克服するため重点的に学修し、実力を向上するための発展クラスである。具体的には、文法の基礎は前期で理解できている前提で、更に語彙を拡充し、TOEFL受験に対応できるような読解、リスニングの実力の向上を目指す。とりわけ語彙はリスニングでも読解でも不足すると最大の障壁となるため重視する。実践的な応用力を養成するため、リスニングの練習を重ね、読解力の向上のため、より多くの練習を重ねる。毎週の授業でより難解な語彙テストの他に、英語で書くWritingの課題を含め、実践的なコミュニケーション力の養成を目指す。 |
| 到達目標 | 1. 英語で基礎的なプレゼンテーションを実施できる。<br>2. シチュエーションごとに基礎的な会話を理解できる。<br>3. 英語として適切な表現を使用し、実践的なコミュニケーションができる。<br>4. TOEFLスコアの目標値を達成する。 |
| 授業の位置づけ | グローバル社会で活躍するための基礎となる英語コミュニケーション力を習得し、グローバル人材としての異文化への理解を身に付ける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | [履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br>Class PLは、Proficient Learners'Classである。<br><br>[履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修上の注意（科目独自のルール）]<br>1. 原則、すべて英語で実施する。<br>2. 年に回実施されるTOEFL学内受験を受験し、15%以上のスコアアップを目指す。<br>3. 単語数について、40%以上の増加を目指す。<br>4. 受講者の習熟度に応じて、標準として定める時間以上の学習を必要とする場合がある。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | TOEFLスコア(60%),Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(30%),Presentation(10%)で評価する。<br>詳細は、クラスのオリエンテーションにおいて提示する。 |
| 評価基準 | 1.　英語でプレゼンテーションを行い、内容を相手に理解させることができる。（Presentation）<br>2.　グローバルスタンダードにより、英語習熟度を測定する。また、シチュエーションごとに基礎的な会話を理解し、英語として適切な表現で実践的なコミュニケーションができる。(TOEFLスコア)<br>3.　授業における回答（Vocab quizzesとTOEFL exercisesの評価を含む）によって取り組み状況を評価する。（Class participation） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Oral presentationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。TOEFLスコアについては、クラス全体に対し、その評価を説明し、併せて個人面談を実施する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | 978-4-523-17734-0 | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功・秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | 978-4-86392-413-0 | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | (旺文社編 | (旺文社 | 978-4-01-094192-8 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| Handoutsは、授業において配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ［連絡先］<br>msudou@juntendo.ac.jp |

| | |
|---|---|
| ワー | ［オフィスアワー］<br>火曜日12:15-12:45　3:00-3:30<br>上記以外ははアポイントを取ること。 |
| 担当教員の実務経験 | 学内TOEFL導入以来、TOEFL教育を実施<br>第二言語としての英語習得を専門とし、特に音声教育が専門<br>英語発音矯正講習等実施し、実験研究・論文多数 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1回目 | 須藤路子 | オリエンテーション。<br>後期の授業についての説明と解説を行う。 | 原則、授業を全て英語で実施する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 14を学習する。<br>TOEFL exercise:  比較を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>授業内容を復習する。 |
| 2回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exercisenを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 15を学習する。<br>TOEFL exercise:  比較を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>会話をペアワークにより行う。また、口頭により学習した英語表現を質疑応答する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 16を学習する。<br>TOEFL exercise: 否定を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 15の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 比較を復習する。 |
| 3回目 | 須藤路子 | TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 16を学習する。<br>TOEFL exercise: 否定を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 17を学習する。<br>TOEFL exercise: 受動態を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 16の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 否定を復習する。 |
| 4回目 | 須藤路子 | English in movies<br>映画を鑑賞し、口語表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 17を学習する。<br>TOEFL exercise: 受動態を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 18を学習する。<br>TOEFL exercise: 関係詞を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>映画で使用した口語表現を学習する。授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。<br>TOEFL vocab: Day 17を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 受動態を復習する。 |
| 5回目 | 須藤路子 | TOEFL vocab: Day 18を学習する。<br>TOEFL exercise: 関係詞を学習する。<br>TOEFL Listening Section | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 19を学習する。<br>TOEFL exercise: 接続詞 を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>映画で使用した口語表現を学習する。授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。<br>TOEFL vocab: Day 18を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 関係詞を復習する。 |
| 6回目 | 須藤路子 | ［授業内容］<br>TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 19を学習する。<br>TOEFL exercise: 接続詞 を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 20を学習する。<br>TOEFL exercise: 語彙 を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 19を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 接続詞を復習する。 |
| 7回目 | 須藤路子 | ［授業内容］<br>TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 20を学習する。<br>TOEFL exercise: 語彙を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 15-20を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 20を覚える。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 練習を行い、正答の確認を行う。 | 授業で配布されるTOEFL exercise: 語彙を復習する。 |
| 8回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Vocab quiz 15-20<br>TOEFL exerciseを実施する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-20を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-20を復習する。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 9回目 | 須藤路子 | TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Vocab quiz<br>TOEFL exerciseを実施する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | ［予習：1.5時間］<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab: Academic words<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 10回目 | 須藤路子 | 自分が選んだテーマに関し、講義形式のpresentationを実施する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br>TOEFL exerciseを実施する。 | パワーポイントを使用し、英語でプレゼンテーションを行う。聞いている学生は、発表者のプレゼンテーションの評価を行い、提出する。評価基準は、授業時提示する。 | （予習：1.5時間）<br>Oral presentation の為に作成したテキストを基に、発音、delivery 等を練習する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 11回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br>TOEFL exerciseを実施する。<br><br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL exercise のテキストを使用し、模試の準備をする。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 12回目 | 須藤路子 | TOEFL 模試のListening Comprehensionを実施し、解説を行う。<br>TOEFL vocab quiz: Academic wordsを学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。<br>リスニング・スピーキング練習を行い、グループワークで正答の確認を行う。 | （予習：2時間）<br>TOEFL 模試 Section 2 (Structure and Written Expression), Section 3 (Reading Comprehension) を自分で解答してくる。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL模試の誤答を学習する。 |
| 13回目 | 須藤路子 | Writing exercise: CV writingを実施する。<br>TOEFL 摸試の解答をチェックする。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークでCVを作成し、ペアにフィードバックし、再度ペアで修正を実施する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL模試のSection 2（配布分）を各自解答してくる。<br><br>（復習：1.5時間）<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。 |
| 14回目 | 須藤路子 | Pronunciation Clinicを実施する。<br>「伝わる英語の話し方」の英語発音訓練を実施する。 | スピーチサイエンスに理論に基づく発音矯正の講義を行い、実際に音声を生成する。 | 予習1.5時間（復習：1.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication, TOEFL exercise のすべての Lesson を復習する。 |
| 15回目 | 須藤路子 | Evaluation と英語学習法について説明する。 | 学内TOEFL2回目の結果をもとに、英語コミュニケーション力の向上について説明する。 | 予習1.5時間（復習：1.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication, TOEFL exercise のすべての Lesson を復習する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語表現I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English Expressions I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 福田 健一 | ナンバリング | BAP1202/BAR1202 |
| 担当教員 | 福田 健一 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語の慣用表現（定型表現、定番表現、熟語）は丸暗記するものだと考えられていますが、ストックされた慣用表現だけでは慣用表現力を十分高めるには完全ではありません。そこで必要なのが、フロートとしての慣用表現です。例えば、表現上の慣用表現の役割に注目する必要があります。この考え方が理解できれば、それに応じたトレーニングやエクササイズを自由に組み立てることができます。英語の慣用表現には、3つの注目すべき役割があります。<br><br>1. 慣用表現は、わかりやすく自分の思いを表現できます。<br>2. 慣用表現は、英語での表現を簡単にできます。<br>3. 慣用表現は、表現の流れをうまく調整することができます。<br><br>ここで皆さんは、今までうまくできなかった英語の慣用表現をすることができます。授業においては、簡単な慣用表現を憶えて例文や会話例を実践することにより、英語表現力を向上することになります。 |
| 到達目標 | 1.慣用表現力を使って、英語を理解できるようにする。<br>2.英語の会話力を向上させることにする。<br>3.英語の総合的な実践能力を高めることにする。 |
| 授業の位置づけ | 英語の慣用表現は、思いを言語で表現するのに最適です。例えば、誰かに何かをしてもらって恐縮した気持ちを表現するのに「どうも、すみません。ありがとうございます」という慣用表現を使えば無難でしょう。つまり、相手が話し手の意図を理解する上で一番効率の良い表現ということです。英語表現力を向上させるには、こういう英語の慣用表現を学ぶ必要があります。<br><br>日本人は、体系的に英語の慣用表現を学んでいません。ここでは、英語慣用表現を体系的に学ぶことによって、英語表現力を増すことが目的です。<br><br>学ぶ内容としては、提案や依頼を表す慣用表現や感情を表現するものを学習過程でこの表現を学び、実際に使えるようにします。また、理解度を増やすために現実で使われている慣用表現を様々な視点で学ぶことにします。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1<br><br>保健医療学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学や医療に係わる基本知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び医療技術を教授して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とします。卒業時に、その資質・能力を身につけたものに対し、学士の学位を授与します。 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業には積極的に参加すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業への積極的参加、出席　20%<br>リスニング、会話、文法、リーディング演習　50%<br>試験　30% |
| 評価基準 | 授業を通して積極的な授業参加を行い、また、英語の慣用表現を実践的に使えるようにすること。それに伴い、英語の表現力を向上させ、英語表現としての英会話能力を向上することができた学生に対して、高い評価を与える。<br><br>英語は現在、世界共通語として使われています。その際に、英語としてのコモン・コアを理解しながら、多くの典型的な慣用表現を理解することができることが大事であり、その理解度に応じて、評価をする。<br><br>特に、国際社会で必要な英語表現としてのコミュニケーション能力を向上させた学生に対して高い評価を与える。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて個人面談を行います。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 会話を組み立てる英語プレハブ慣用表現１５０ | 田中茂範.岡本茂紀 | コスモピア | 9784864540742 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 授業後に質問するか、教員にアポイントを取ってください。<br>k.fukuda.ui@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | TOEFL,TOEIC,英検,ビジネス英語などの英語の単独著書を、23冊出版。（2022年4月現在） |

| | |
|---|---|
| 備考 | 積極的に授業参加する学生を評価します。 |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 福田　健一 | generally speaking<br>to my surprise<br>to my disappointment<br>I'm curious about<br>I'm delighted with<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 2 | 福田　健一 | I'm disappointed about<br>I'm sure (that)、I'm not sure (that)<br>I'm confident (that)<br>I'm positive (that)<br>I'm afraid (that)<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 3 | 福田　健一 | I'm skeptical about<br>It is certain (that)<br>It is possible (that)<br>It is probable (that)<br>It appears (to me) (that)<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 4 | 福田　健一 | It seems (to me) (that)<br>It looks like<br>I should have done<br>I must have done<br>I would have done<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 5 | 福田　健一 | I would have done | 教科書を中心に授業 | 【予習】（60分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | I could have done<br>It is necessary (for A) to do<br>It is convenient (for A) to do<br>It is natural (for A) to do<br><br>実践・応用・理解すること。 | を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 6 | 福田　健一 | It is embarrassing (for A) to do<br>I'm available to do<br>I'm free to do<br>I'm ready to do<br>Let me do<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 7 | 福田　健一 | I'd like to do<br>I'd rather do / I'd rather not do<br>I'm willing to do<br>I feel like doing<br>Can you ... ?<br><br>今までの総合復習。<br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（120分）<br>これまでの総合的な復習 |
| 8 | 福田　健一 | Could you ... ?<br>Would you ... ?<br>I was wondering if you could<br>May I ... ?<br>Can I ... ?<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 9 | 福田　健一 | Is it possible (for me) to do<br>Do you mind if I ... ?<br>Do you mean (that) ... ?<br>Are you telling me (that) ... ?<br>Can we say (that) ... ?<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | |
| 10 | 福田　健一 | Just to make sure<br>You said (that) ... , is that right?<br>Be sure to do<br>Don't forget to do<br>Can I just remind you (that) ... ?<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 11 | 福田　健一 | Try to remember (that)<br>you may<br>you really ought to do<br>you had better<br>Why don't you ... ?<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 12 | 福田　健一 | Would like to do ?<br>How about ... ?<br>Why don't we ... ?<br>Let's<br>Shall we ... ?<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 13 | 福田　健一 | Don't<br>You may not<br>You must not<br>You are not allowed to do<br>Get A to do<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 習してみてください。 | |
| 14 | 福田　健一 | make A do<br>have A do<br>let A do<br>ask + 人 + WH節<br>tell + 人 + WH節 / to do<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 15 | 福田　健一 | show + 人 + WH節 / to do<br>the point is (that)<br>the thing is (that)<br>in other words<br>what I'm saying is (that)<br><br>前期の総合的な復習をすること。<br>具体的に例文を憶えること。<br>慣用表現の役割を確認すること。<br>慣用表現の実践力を高めること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（120分）<br>【復習】（120分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松原　理佐 | ナンバリング | BAP1201/BAR1201 |
| 担当教員 | 松原　理佐 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語Iを引き継ぎ、社会で活躍できる英語力を養成することを目標とする。TOEFL受験で習熟度が不足している領域を認識し、その弱点を克服するため重点的に学修し、実力を向上するための発展クラスである。具体的には、文法の基礎は前期で理解できている前提で、更に語彙を拡充し、TOEFL受験に対応できるような読解、リスニングの実力の向上を目指す。とりわけ語彙はリスニングでも読解でも不足すると最大の障壁となるため重視する。実践的な応用力を養成するため、リスニングの練習を重ね、読解力の向上のため、より多くの練習を重ねる。毎週の授業でより難解な語彙テストの他に、英語で書くWritingの課題を含め、実践的なコミュニケーション力の養成を目指す。 |
| 到達目標 | 1. 英語で基礎的なプレゼンテーションを実施できる。<br>2. シチュエーションごとに基礎的な会話を理解できる。<br>3. 英語として適切な表現を使用し、実践的なコミュニケーションができる。<br>4. TOEFLスコアの目標値を達成する。 |
| 授業の位置づけ | グローバル社会で活躍するための基礎となる英語コミュニケーション力を習得し、グローバル人材としての異文化への理解を身に付ける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | [履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修上の注意（科目独自のルール）]<br>1. 年に回実施されるTOEFL学内受験を受験し、15%以上のスコアアップを目指す。<br>2. 単語数について、40%以上の増加を目指す。<br>3. 受講者の習熟度に応じて、標準として定める時間以上の学習を必要とする場合がある。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | TOEFLスコア(60%),Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(30%),Presentation(10%)で評価する。<br>詳細は、クラスのオリエンテーションにおいて提示する。 |
| 評価基準 | 1.　英語でプレゼンテーションを行い、内容を相手に理解させることができる。（Presentation）<br>2.　グローバルスタンダードにより、英語習熟度を測定する。また、シチュエーションごとに基礎的な会話を理解し、英語として適切な表現で実践的なコミュニケーションができる。(TOEFLスコア)<br>3.　授業における回答（Vocab quizzesとTOEFL exercisesの評価を含む）によって取り組み状況を評価する。（Class participation） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Oral presentationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。TOEFLスコアについては、クラス全体に対し、その評価を説明し、併せて個人面談を実施する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | 978-4-523-17734-0 | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功・秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | 978-4-86392-413-0 | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | (旺文社編 | (旺文社 | 978-4-01-094192-8 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| Handoutsは、授業において配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ［連絡先］<br>@juntendo.ac.jp<br><br>［オフィスアワー］ |

| | |
|---|---|
| | 火曜日12:15-12:45　3:00-3:30<br>上記以外はアポイントを取ること。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1回目 | 松原　理佐 | オリエンテーション。<br>後期の授業についての説明と解説を行う。 | | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 14を学習する。<br>TOEFL exercise:  比較を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>授業内容を復習する。 |
| 2回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 15を学習する。<br>TOEFL exercise:  比較を学習する。 | 会話をペアワークにより行う。また、口頭により学習した英語表現を質疑応答する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 16を学習する。<br>TOEFL exercise: 否定を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 15の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 比較を復習する。 |
| 3回目 | 松原　理佐 | TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 16を学習する。<br>TOEFL exercise: 否定を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 17を学習する。<br>TOEFL exercise: 受動態を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 16の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 否定を復習する。 |
| 4回目 | 松原　理佐 | English in movies<br>映画を鑑賞し、口語表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 17を学習する。<br>TOEFL exercise: 受動態を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 18を学習する。<br>TOEFL exercise: 関係詞を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>映画で使用した口語表現を学習する。授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。<br>TOEFL vocab: Day 17を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 受動態を復習する。 |
| 5回目 | 松原　理佐 | TOEFL vocab: Day 18を学習する。<br>TOEFL exercise: 関係詞を学習する。<br>TOEFL Listening Section | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 19を学習する。<br>TOEFL exercise: 接続詞 を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>映画で使用した口語表現を学習する。授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。<br>TOEFL vocab: Day 18を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 関係詞を復習する。 |
| 6回目 | 松原　理佐 | ［授業内容］<br>TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 19を学習する。<br>TOEFL exercise: 接続詞 を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 20を学習する。<br>TOEFL exercise: 語彙 を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 19を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 接続詞を復習する。 |
| 7回目 | 松原　理佐 | ［授業内容］<br>TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 20を学習する。<br>TOEFL exercise: 語彙を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 15-20を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 20を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 語彙を復習する。 |
| 8回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Vocab quiz 15-20 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニ | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-20を学習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | TOEFL exerciseを実施する。 | ング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-20を復習する。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 9回目 | 松原　理佐 | TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Vocab quiz<br>TOEFL exerciseを実施する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | ［予習：1.5時間］<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab: Academic words<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 10回目 | 松原　理佐 | 自分が選んだテーマに関し、講義形式のpresentationを実施する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br>TOEFL exerciseを実施する。 | パワーポイントを使用し、英語でプレゼンテーションを行う。聞いている学生は、発表者のプレゼンテーションの評価を行い、提出する。評価基準は、授業時提示する。 | （予習：1.5時間）<br>Oral presentation の為に作成したテキストを基に、発音、delivery 等を練習する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 11回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br>TOEFL exerciseを実施する。<br><br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL exercise のテキストを使用し、模試の準備をする。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 12回目 | 松原　理佐 | TOEFL 模試のListening Comprehensionを実施し、解説を行う。<br>TOEFL vocab quiz: Academic wordsを学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。<br>リスニング・スピーキング練習を行い、グループワークで正答の確認を行う。 | （予習：2時間）<br>TOEFL 模試 Section 2 (Structure and Written Expression), Section 3 (Reading Comprehension) を自分で解答してくる。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL模試の誤答を学習する。 |
| 13回目 | 松原　理佐 | Writing exercise: CV writingを実施する。<br>TOEFL 摸試の解答をチェックする。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークでCVを作成し、ペアにフィードバックし、再度ペアで修正を実施する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL模試のSection 2（配布分）を各自解答してくる。<br><br>（復習：1.5時間）<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。 |
| 14回目 | 松原　理佐 | Pronunciation Clinicを実施する。<br>「伝わる英語の話し方」の英語発音訓練を実施する。 | スピーチサイエンスに理論に基づく発音矯正の講義を行い、実際に音声を生成する。 | 予習：1.5時間（復習：1.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication, TOEFL exercise のすべての Lesson を復習する。 |
| 15回目 | 松原　理佐 | Evaluation と英語学習法について説明する。 | 学内TOEFL2回目の結果をもとに、英語コミュニケーション力の向上について説明する。 | 予習：1.5時間（復習：1.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication, TOEFL exercise のすべての Lesson を復習する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松本　恵美子 | ナンバリング | BAP1201/BAR1201 |
| 担当教員 | 松本　恵美子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語Iを引き継ぎ、社会で活躍できる英語力を養成することを目標とする。TOEFL受験で習熟度が不足している領域を認識し、その弱点を克服するため重点的に学修し、実力を向上するための発展クラスである。具体的には、文法の基礎は前期で理解できている前提で、更に語彙を拡充し、TOEFL受験に対応できるような読解、リスニングの実力の向上を目指す。とりわけ語彙はリスニングでも読解でも不足すると最大の障壁となるため重視する。実践的な応用力を養成するため、リスニングの練習を重ね、読解力の向上のため、より多くの練習を重ねる。 |
| 到達目標 | 1.医療用語を含んだ語彙をTOEFL学習を通じて豊かにする<br>2.様々な活動を通じてリスニングの底力を養う<br>3.医療、健康などのテーマの素材を用い、英語の構造を確認し、読解力を養う |
| 授業の位置づけ | 基礎分野　言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で行う活動には積極的に参加すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | TOEFLスコア 60%<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(30%), Presentation(10%)で評価する。 |
| 評価基準 | TOEFLスコア 60%<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(30%), Presentation(10%)で評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて個人面談を行います。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | | | | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | | | | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | | | | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 1. A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 (小中 秀彦, 南雲堂, 2013)<br>2. TOEFL(R)TEST必ず☆でる単 スピードマスター (林 功, 秋本 陽二, Jリサーチ出版, 2018) |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 教員にアポイントを取ってください。 |
| 担当教員の実務経験 | 大学生用英語教科書の執筆、監修。TOEIC, TOEFL, IELTS等資格試験対策本、出版36冊。専門は言語テスティング、英語教授法、TESOL。現在の研究分野は医療英語のカリキュラム開発。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 松本　恵美子 | TOEFL(Test of English as a Foreign Language)とTOEFL ITP（TOEFL Institutional Test Program)の概要について。オリエンテーション、TOEFL学習方法、目標の設定。 | | 【予習】（90分）【復習】（90分）<br>TOEFL学習の計画を立てる |
| 2 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartA (短い会話問題) | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 3 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartB（長い会話問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 4 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartC（講義問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 5 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression 演習 | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 6 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression<br>演習 | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 7 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（指示語に関する問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 8 | 松本　恵美子 | 模擬テスト | | 予習９０分　予習９０分 |
| 9 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（詳細に関する問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 10 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（全体に関する問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 11 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（医学・健康） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 12 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（天文学・生物学） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 13 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（人類学・動物学） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 14 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（社会学・心理学） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 15 | 松本　恵美子 | 復習テスト | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 吉岡 貴雄 | ナンバリング | BAP1201/BAR1201 |
| 担当教員 | 吉岡 貴雄 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語Iを引き継ぎ、社会で活躍できる英語力を養成することを目標とする。TOEFL受験で習熟度が不足している領域を認識し、その弱点を克服するため重点的に学修し、実力を向上するための発展クラスである。具体的には、文法の基礎は前期で理解できている前提で、更に語彙を拡充し、TOEFL受験に対応できるような読解、リスニングの実力の向上を目指す。とりわけ語彙はリスニングでも読解でも不足すると最大の障壁となるため重視する。実践的な応用力を養成するため、リスニングの練習を重ね、読解力の向上のため、より多くの練習を重ねる。毎週の授業でより難解な語彙テストの他に、英語で書くWritingの課題を含め、実践的なコミュニケーション力の養成を目指す。 |
| 到達目標 | アカデミックな英語の技術を試すTOEFL ITPにおいて480～500点が獲得できるレベルの設問を解き、文法、リスニング、リーディング各セクションへの対応法を磨く。文法、リスニングは前期の発展形式の設問に、リーディングはロングパッセージに取り組む。英語の感覚を高め、テストに活かす。TOEFL特有のアカデミックな語彙を分野別に学び、確実に増やす。 |
| 授業の位置づけ | TOEFLの得点と、TOEFLで用いられる学術的な英語は、学生の今後の学業や仕事の幅をひろげてくれるツールになることを忘れず授業を行います。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で求められた事柄には積極的に取り組んでください。TOEFLの得点を向上させるという目標を強く持ってください。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 語彙クイズ20%、定期テスト(復習テスト)20%、TOEFLテスト60% |
| 評価基準 | 語彙クイズ、復習テストで規定以上の成績をおさめる。<br>TOEFLテストで年度初めの結果より上昇させる。<br>（それぞれの規定点数は授業で説明する） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で返却し、必要な個所を復習します。更に復習を奨励します。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功, 秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | | | | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| その他のクラス教材は担当者が用意します。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ありません。授業の前後に質問を受けることは可能です。また、質問は教員の宿題として責任をもって取り組みます |
| 担当教員の実務経験 | アメリカの大学、大学院修了。TOEFL PBT、TOEFL iBT受験経験。TOEFL準備講座担当10年以上。 |
| 備考 | スケジュール等の変更がある場合は授業中に行ないます。 |
| 授業計画 | |

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 吉岡　貴雄 | 【初回オリエンテーション】クラス概要、Written Expression、リスニング、リーディングセクション演習、分野別語彙学習説明 | | 【予習】90分【復習】（90分）語彙復習 |
| 2 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ショートカンバセーション、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 3 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ショートカンバセーション、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 4 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングカンバセーション、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 5 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングカンバセーション、Structure、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 6 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングトーク、Structure、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 7 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングトーク、Structure、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 8 | 吉岡　貴雄 | 【復習テスト】すべてのセクションの演習と語彙復習クイズ（これまでの範囲を見直すテスト） | | 【予習】（120分）語彙復習、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 9 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、復習テストReview、ショートカンバセーション、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 10 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ショートカンバセーション、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 11 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングカンバセーション、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 12 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングカンバセーション、Structure、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 13 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングトーク、Structure、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 14 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングトーク、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 15 | 吉岡　貴雄 | 【復習テスト】文法、リスニング、リーディング演習と語彙復習テスト（これまでの範囲を見直すテスト） | | 【予習】（120分）語彙復習、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（90分）語彙テキストを継続して学習すること |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 須藤　路子 | ナンバリング | BAP1201/BAR1201 |
| 担当教員 | 須藤　路子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語Iを引き継ぎ、社会で活躍できる英語力を養成することを目標とする。TOEFL受験で習熟度が不足している領域を認識し、その弱点を克服するため重点的に学修し、実力を向上するための発展クラスである。具体的には、文法の基礎は前期で理解できている前提で、更に語彙を拡充し、TOEFL受験に対応できるような読解、リスニングの実力の向上を目指す。とりわけ語彙はリスニングでも読解でも不足すると最大の障壁となるため重視する。実践的な応用力を養成するため、リスニングの練習を重ね、読解力の向上のため、より多くの練習を重ねる。毎週の授業でより難解な語彙テストの他に、英語で書くWritingの課題を含め、実践的なコミュニケーション力の養成を目指す。 |
| 到達目標 | 1. 英語で基礎的なプレゼンテーションを実施できる。<br>2. シチュエーションごとに基礎的な会話を理解できる。<br>3. 英語として適切な表現を使用し、実践的なコミュニケーションができる。<br>4. TOEFLスコアの目標値を達成する。 |
| 授業の位置づけ | グローバル社会で活躍するための基礎となる英語コミュニケーション力を習得し、グローバル人材としての異文化への理解を身に付ける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | [履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br>Class PLは、Proficient Learners'Classである。<br><br>[履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修上の注意（科目独自のルール）]<br>1. 原則、すべて英語で実施する。<br>2. 年に回実施されるTOEFL学内受験を受験し、15%以上のスコアアップを目指す。<br>3. 単語数について、40%以上の増加を目指す。<br>4. 受講者の習熟度に応じて、標準として定める時間以上の学習を必要とする場合がある。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | TOEFLスコア(60%),Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(30%),Presentation(10%)で評価する。<br>詳細は、クラスのオリエンテーションにおいて提示する。 |
| 評価基準 | 1.　英語でプレゼンテーションを行い、内容を相手に理解させることができる。（Presentation）<br>2.　グローバルスタンダードにより、英語習熟度を測定する。また、シチュエーションごとに基礎的な会話を理解し、英語として適切な表現で実践的なコミュニケーションができる。(TOEFLスコア)<br>3.　授業における回答（Vocab quizzesとTOEFL exercisesの評価を含む）によって取り組み状況を評価する。（Class participation） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Oral presentationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。TOEFLスコアについては、クラス全体に対し、その評価を説明し、併せて個人面談を実施する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | 978-4-523-17734-0 | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功・秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | 978-4-86392-413-0 | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | (旺文社編 | (旺文社 | 978-4-01-094192-8 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| Handoutsは、授業において配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ［連絡先］<br>msudou@juntendo.ac.jp |

| | |
|---|---|
| ワー | ［オフィスアワー］<br>火曜日12:15-12:45　3:00-3:30<br>上記以外ははアポイントを取ること。 |
| 担当教員の実務経験 | 学内TOEFL導入以来、TOEFL教育を実施<br>第二言語としての英語習得を専門とし、特に音声教育が専門<br>英語発音矯正講習等実施し、実験研究・論文多数 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1回目 | 須藤路子 | オリエンテーション。<br>後期の授業についての説明と解説を行う。 | 原則、授業を全て英語で実施する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 14を学習する。<br>TOEFL exercise:  比較を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>授業内容を復習する。 |
| 2回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exercisenを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 15を学習する。<br>TOEFL exercise:  比較を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>会話をペアワークにより行う。また、口頭により学習した英語表現を質疑応答する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 16を学習する。<br>TOEFL exercise: 否定を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 15の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 比較を復習する。 |
| 3回目 | 須藤路子 | TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 16を学習する。<br>TOEFL exercise: 否定を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 17を学習する。<br>TOEFL exercise: 受動態を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 16の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 否定を復習する。 |
| 4回目 | 須藤路子 | English in movies<br>映画を鑑賞し、口語表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 17を学習する。<br>TOEFL exercise: 受動態を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 18を学習する。<br>TOEFL exercise: 関係詞を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>映画で使用した口語表現を学習する。授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。<br>TOEFL vocab: Day 17を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 受動態を復習する。 |
| 5回目 | 須藤路子 | TOEFL vocab: Day 18を学習する。<br>TOEFL exercise: 関係詞を学習する。<br>TOEFL Listening Section | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 19を学習する。<br>TOEFL exercise: 接続詞 を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>映画で使用した口語表現を学習する。授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。<br>TOEFL vocab: Day 18を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 関係詞を復習する。 |
| 6回目 | 須藤路子 | ［授業内容］<br>TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 19を学習する。<br>TOEFL exercise: 接続詞 を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 20を学習する。<br>TOEFL exercise: 語彙 を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 19を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 接続詞を復習する。 |
| 7回目 | 須藤路子 | ［授業内容］<br>TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 20を学習する。<br>TOEFL exercise: 語彙を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 15-20を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 20を覚える。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 練習を行い、正答の確認を行う。 | 授業で配布されるTOEFL exercise: 語彙を復習する。 |
| 8回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Vocab quiz 15-20<br>TOEFL exerciseを実施する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-20を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-20を復習する。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 9回目 | 須藤路子 | TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Vocab quiz<br>TOEFL exerciseを実施する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | ［予習：1.5時間］<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab: Academic words<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 10回目 | 須藤路子 | 自分が選んだテーマに関し、講義形式のpresentationを実施する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br>TOEFL exerciseを実施する。 | パワーポイントを使用し、英語でプレゼンテーションを行う。聞いている学生は、発表者のプレゼンテーションの評価を行い、提出する。評価基準は、授業時提示する。 | （予習：1.5時間）<br>Oral presentation の為に作成したテキストを基に、発音、delivery 等を練習する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 11回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br>TOEFL exerciseを実施する。<br><br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL exercise のテキストを使用し、模試の準備をする。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 12回目 | 須藤路子 | TOEFL 模試のListening Comprehensionを実施し、解説を行う。<br>TOEFL vocab quiz: Academic wordsを学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。<br>リスニング・スピーキング練習を行い、グループワークで正答の確認を行う。 | （予習：2時間）<br>TOEFL 模試 Section 2 (Structure and Written Expression), Section 3 (Reading Comprehension) を自分で解答してくる。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL模試の誤答を学習する。 |
| 13回目 | 須藤路子 | Writing exercise: CV writingを実施する。<br>TOEFL 摸試の解答をチェックする。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークでCVを作成し、ペアにフィードバックし、再度ペアで修正を実施する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL模試のSection 2（配布分）を各自解答してくる。<br><br>（復習：1.5時間）<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。 |
| 14回目 | 須藤路子 | Pronunciation Clinicを実施する。<br>「伝わる英語の話し方」の英語発音訓練を実施する。 | スピーチサイエンスに理論に基づく発音矯正の講義を行い、実際に音声を生成する。 | 予習1.5時間（復習：1.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication, TOEFL exercise のすべての Lesson を復習する。 |
| 15回目 | 須藤路子 | Evaluation と英語学習法について説明する。 | 学内TOEFL2回目の結果をもとに、英語コミュニケーション力の向上について説明する。 | 予習1.5時間（復習：1.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication, TOEFL exercise のすべての Lesson を復習する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松原　理佐 | ナンバリング | BAP1201/BAR1201 |
| 担当教員 | 松原　理佐 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語Iを引き継ぎ、社会で活躍できる英語力を養成することを目標とする。TOEFL受験で習熟度が不足している領域を認識し、その弱点を克服するため重点的に学修し、実力を向上するための発展クラスである。具体的には、文法の基礎は前期で理解できている前提で、更に語彙を拡充し、TOEFL受験に対応できるような読解、リスニングの実力の向上を目指す。とりわけ語彙はリスニングでも読解でも不足すると最大の障壁となるため重視する。実践的な応用力を養成するため、リスニングの練習を重ね、読解力の向上のため、より多くの練習を重ねる。毎週の授業でより難解な語彙テストの他に、英語で書くWritingの課題を含め、実践的なコミュニケーション力の養成を目指す。 |
| 到達目標 | 1. 英語で基礎的なプレゼンテーションを実施できる。<br>2. シチュエーションごとに基礎的な会話を理解できる。<br>3. 英語として適切な表現を使用し、実践的なコミュニケーションができる。<br>4. TOEFLスコアの目標値を達成する。 |
| 授業の位置づけ | グローバル社会で活躍するための基礎となる英語コミュニケーション力を習得し、グローバル人材としての異文化への理解を身に付ける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | [履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修要件]<br>学内TOEFL受験のスコアによりクラス分けを行うので、指定クラスを受講する。<br><br>[履修上の注意（科目独自のルール）]<br>1. 年に回実施されるTOEFL学内受験を受験し、15%以上のスコアアップを目指す。<br>2. 単語数について、40%以上の増加を目指す。<br>3. 受講者の習熟度に応じて、標準として定める時間以上の学習を必要とする場合がある。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | TOEFLスコア(60%),Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(30%),Presentation(10%)で評価する。<br>詳細は、クラスのオリエンテーションにおいて提示する。 |
| 評価基準 | 1.　英語でプレゼンテーションを行い、内容を相手に理解させることができる。（Presentation）<br>2.　グローバルスタンダードにより、英語習熟度を測定する。また、シチュエーションごとに基礎的な会話を理解し、英語として適切な表現で実践的なコミュニケーションができる。(TOEFLスコア)<br>3.　授業における回答（Vocab quizzesとTOEFL exercisesの評価を含む）によって取り組み状況を評価する。（Class participation） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Oral presentationの評価は、授業にて提示し、改善点を解説・指導する。TOEFLスコアについては、クラス全体に対し、その評価を説明し、併せて個人面談を実施する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | 978-4-523-17734-0 | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功・秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | 978-4-86392-413-0 | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | (旺文社編 | (旺文社 | 978-4-01-094192-8 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| Handoutsは、授業において配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ［連絡先］<br>@juntendo.ac.jp<br><br>［オフィスアワー］ |

| | |
|---|---|
| | 火曜日12:15-12:45　3:00-3:30<br>上記以外はアポイントを取ること。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1回目 | 松原　理佐 | オリエンテーション。<br>後期の授業についての説明と解説を行う。 | | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 14を学習する。<br>TOEFL exercise:  比較を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>授業内容を復習する。 |
| 2回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 15を学習する。<br>TOEFL exercise:  比較を学習する。 | 会話をペアワークにより行う。また、口頭により学習した英語表現を質疑応答する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 16を学習する。<br>TOEFL exercise: 否定を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 15の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 比較を復習する。 |
| 3回目 | 松原　理佐 | TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 16を学習する。<br>TOEFL exercise: 否定を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 17を学習する。<br>TOEFL exercise: 受動態を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 16の単語を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 否定を復習する。 |
| 4回目 | 松原　理佐 | English in movies<br>映画を鑑賞し、口語表現を学習する。<br>TOEFL vocab: Day 17を学習する。<br>TOEFL exercise: 受動態を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 18を学習する。<br>TOEFL exercise: 関係詞を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>映画で使用した口語表現を学習する。授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。<br>TOEFL vocab: Day 17を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 受動態を復習する。 |
| 5回目 | 松原　理佐 | TOEFL vocab: Day 18を学習する。<br>TOEFL exercise: 関係詞を学習する。<br>TOEFL Listening Section | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 19を学習する。<br>TOEFL exercise: 接続詞 を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>映画で使用した口語表現を学習する。授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。<br>TOEFL vocab: Day 18を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 関係詞を復習する。 |
| 6回目 | 松原　理佐 | ［授業内容］<br>TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 19を学習する。<br>TOEFL exercise: 接続詞 を学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 20を学習する。<br>TOEFL exercise: 語彙 を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 19を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 接続詞を復習する。 |
| 7回目 | 松原　理佐 | ［授業内容］<br>TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Day 20を学習する。<br>TOEFL exercise: 語彙を学習する。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 15-20を学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 20を覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exercise: 語彙を復習する。 |
| 8回目 | 須藤路子 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Vocab quiz 15-20 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニ | （予習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-20を学習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | TOEFL exerciseを実施する。 | ング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Day 1-20を復習する。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 9回目 | 松原　理佐 | TOEFL exercise: Structure and written expressionを実施する。<br>TOEFL vocab: Vocab quiz<br>TOEFL exerciseを実施する。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | ［予習：1.5時間］<br>Oral presentation のテーマを設定し、そのためのデータ、情報をインターネット、雑誌、新聞等から収集する。<br>TOEFL vocab: Academic words<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 10回目 | 松原　理佐 | 自分が選んだテーマに関し、講義形式のpresentationを実施する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br>TOEFL exerciseを実施する。 | パワーポイントを使用し、英語でプレゼンテーションを行う。聞いている学生は、発表者のプレゼンテーションの評価を行い、提出する。評価基準は、授業時提示する。 | （予習：1.5時間）<br>Oral presentation の為に作成したテキストを基に、発音、delivery 等を練習する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 11回目 | 松原　理佐 | TOEFL listening exerciseを実施する。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br>TOEFL exerciseを実施する。<br><br>ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | ペアワークで課題の会話を行う。リスニング・スピーキング練習を行い、正答の確認を行う。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL exercise のテキストを使用し、模試の準備をする。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL vocab: Academic wordsを覚える。<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを復習する。 |
| 12回目 | 松原　理佐 | TOEFL 模試のListening Comprehensionを実施し、解説を行う。<br>TOEFL vocab quiz: Academic wordsを学習する。 | ペアワークで課題の会話を行う。<br>リスニング・スピーキング練習を行い、グループワークで正答の確認を行う。 | （予習：2時間）<br>TOEFL 模試 Section 2 (Structure and Written Expression), Section 3 (Reading Comprehension) を自分で解答してくる。<br>TOEFL vocab: Academic wordsを学習する。<br><br>（復習：1.5時間）<br>TOEFL模試の誤答を学習する。 |
| 13回目 | 松原　理佐 | Writing exercise: CV writingを実施する。<br>TOEFL 摸試の解答をチェックする。 | 原則、授業を全て英語で実施する。<br>ペアワークでCVを作成し、ペアにフィードバックし、再度ペアで修正を実施する。 | （予習：1.5時間）<br>TOEFL模試のSection 2（配布分）を各自解答してくる。<br><br>（復習：1.5時間）<br>授業で配布されるTOEFL exerciseを行う。 |
| 14回目 | 松原　理佐 | Pronunciation Clinicを実施する。<br>「伝わる英語の話し方」の英語発音訓練を実施する。 | スピーチサイエンスに理論に基づく発音矯正の講義を行い、実際に音声を生成する。 | 予習：1.5時間（復習：1.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication, TOEFL exercise のすべての Lesson を復習する。 |
| 15回目 | 松原　理佐 | Evaluation と英語学習法について説明する。 | 学内TOEFL2回目の結果をもとに、英語コミュニケーション力の向上について説明する。 | 予習：1.5時間（復習：1.5時間）<br>Vocab exercise, Conversation for communication, TOEFL exercise のすべての Lesson を復習する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松本　恵美子 | ナンバリング | BAP1201/BAR1201 |
| 担当教員 | 松本　恵美子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語Iを引き継ぎ、社会で活躍できる英語力を養成することを目標とする。TOEFL受験で習熟度が不足している領域を認識し、その弱点を克服するため重点的に学修し、実力を向上するための発展クラスである。具体的には、文法の基礎は前期で理解できている前提で、更に語彙を拡充し、TOEFL受験に対応できるような読解、リスニングの実力の向上を目指す。とりわけ語彙はリスニングでも読解でも不足すると最大の障壁となるため重視する。実践的な応用力を養成するため、リスニングの練習を重ね、読解力の向上のため、より多くの練習を重ねる。 |
| 到達目標 | 1.医療用語を含んだ語彙をTOEFL学習を通じて豊かにする<br>2.様々な活動を通じてリスニングの底力を養う<br>3.医療、健康などのテーマの素材を用い、英語の構造を確認し、読解力を養う |
| 授業の位置づけ | 基礎分野　言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で行う活動には積極的に参加すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | TOEFLスコア 60%<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(30%), Presentation(10%)で評価する。 |
| 評価基準 | TOEFLスコア 60%<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(30%), Presentation(10%)で評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて個人面談を行います。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | | | | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | | | | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | | | | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 1. A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 (小中 秀彦, 南雲堂, 2013)<br>2. TOEFL(R)TEST必ず☆でる単 スピードマスター (林 功, 秋本 陽二, Jリサーチ出版, 2018) |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 教員にアポイントを取ってください。 |
| 担当教員の実務経験 | 大学生用英語教科書の執筆、監修。TOEIC, TOEFL, IELTS等資格試験対策本、出版36冊。専門は言語テスティング、英語教授法、TESOL。現在の研究分野は医療英語のカリキュラム開発。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 松本　恵美子 | TOEFL(Test of English as a Foreign Language)とTOEFL ITP（TOEFL Institutional Test Program)の概要について。オリエンテーション、TOEFL学習方法、目標の設定。 | | 【予習】（90分）【復習】（90分）<br>TOEFL学習の計画を立てる |
| 2 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartA (短い会話問題) | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 3 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartB（長い会話問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 4 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartC（講義問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 5 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression 演習 | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 6 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression<br>演習 | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 7 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（指示語に関する問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 8 | 松本　恵美子 | 模擬テスト | | 予習９０分　予習９０分 |
| 9 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（詳細に関する問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 10 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（全体に関する問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 11 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（医学・健康） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 12 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（天文学・生物学） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 13 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（人類学・動物学） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 14 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（社会学・心理学） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 15 | 松本　恵美子 | 復習テスト | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松本　恵美子 | ナンバリング | BAP1201/BAR1201 |
| 担当教員 | 松本　恵美子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語Iを引き継ぎ、社会で活躍できる英語力を養成することを目標とする。TOEFL受験で習熟度が不足している領域を認識し、その弱点を克服するため重点的に学修し、実力を向上するための発展クラスである。具体的には、文法の基礎は前期で理解できている前提で、更に語彙を拡充し、TOEFL受験に対応できるような読解、リスニングの実力の向上を目指す。とりわけ語彙はリスニングでも読解でも不足すると最大の障壁となるため重視する。実践的な応用力を養成するため、リスニングの練習を重ね、読解力の向上のため、より多くの練習を重ねる。 |
| 到達目標 | 1.医療用語を含んだ語彙をTOEFL学習を通じて豊かにする<br>2.様々な活動を通じてリスニングの底力を養う<br>3.医療、健康などのテーマの素材を用い、英語の構造を確認し、読解力を養う |
| 授業の位置づけ | 基礎分野　言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で行う活動には積極的に参加すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | TOEFLスコア 60%<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(30%), Presentation(10%)で評価する。 |
| 評価基準 | TOEFLスコア 60%<br>Class participation (Vocab quizzes, TOEFL confirmation tests, TOEFL exercisesを含む)(30%), Presentation(10%)で評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて個人面談を行います。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | | | | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | | | | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | | | | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 1. A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 (小中 秀彦, 南雲堂, 2013)<br>2. TOEFL(R)TEST必ず☆でる単 スピードマスター (林 功, 秋本 陽二, Jリサーチ出版, 2018) |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 教員にアポイントを取ってください。 |
| 担当教員の実務経験 | 大学生用英語教科書の執筆、監修。TOEIC, TOEFL, IELTS等資格試験対策本、出版36冊。専門は言語テスティング、英語教授法、TESOL。現在の研究分野は医療英語のカリキュラム開発。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 松本　恵美子 | TOEFL(Test of English as a Foreign Language)とTOEFL ITP（TOEFL Institutional Test Program)の概要について。オリエンテーション、TOEFL学習方法、目標の設定。 | | 【予習】（90分）【復習】（90分）<br>TOEFL学習の計画を立てる |
| 2 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartA (短い会話問題) | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 3 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartB（長い会話問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 4 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening PartC（講義問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 5 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression 演習 | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 6 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Structure & Written Expression<br>演習 | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 7 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（指示語に関する問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 8 | 松本　恵美子 | 模擬テスト | | 予習９０分　予習９０分 |
| 9 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（詳細に関する問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 10 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>設問別演習（全体に関する問題） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 11 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（医学・健康） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 12 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Listening<br>分野別演習　（天文学・生物学） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 13 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（人類学・動物学） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 14 | 松本　恵美子 | 単語テスト<br>Reading Comprehension<br>分野別演習（社会学・心理学） | | 【予習】（120分）<br>単語テストの予習<br>【復習】（70分）<br>授業内容の暗唱、復習 |
| 15 | 松本　恵美子 | 復習テスト | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 吉岡 貴雄 | ナンバリング | BAP1201/BAR1201 |
| 担当教員 | 吉岡 貴雄 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語Iを引き継ぎ、社会で活躍できる英語力を養成することを目標とする。TOEFL受験で習熟度が不足している領域を認識し、その弱点を克服するため重点的に学修し、実力を向上するための発展クラスである。具体的には、文法の基礎は前期で理解できている前提で、更に語彙を拡充し、TOEFL受験に対応できるような読解、リスニングの実力の向上を目指す。とりわけ語彙はリスニングでも読解でも不足すると最大の障壁となるため重視する。実践的な応用力を養成するため、リスニングの練習を重ね、読解力の向上のため、より多くの練習を重ねる。毎週の授業でより難解な語彙テストの他に、英語で書くWritingの課題を含め、実践的なコミュニケーション力の養成を目指す。 |
| 到達目標 | アカデミックな英語の技術を試すTOEFL ITPにおいて480～500点が獲得できるレベルの設問を解き、文法、リスニング、リーディング各セクションへの対応法を磨く。文法、リスニングは前期の発展形式の設問に、リーディングはロングパッセージに取り組む。英語の感覚を高め、テストに活かす。TOEFL特有のアカデミックな語彙を分野別に学び、確実に増やす。 |
| 授業の位置づけ | TOEFLの得点と、TOEFLで用いられる学術的な英語は、学生の今後の学業や仕事の幅をひろげてくれるツールになることを忘れず授業を行います。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業で求められた事柄には積極的に取り組んでください。TOEFLの得点を向上させるという目標を強く持ってください。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 語彙クイズ20%、定期テスト(復習テスト)20%、TOEFLテスト60% |
| 評価基準 | 語彙クイズ、復習テストで規定以上の成績をおさめる。<br>TOEFLテストで年度初めの結果より上昇させる。<br>（それぞれの規定点数は授業で説明する） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で返却し、必要な個所を復習します。更に復習を奨励します。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| A Shorter Course in Usage and Vocabulary 5分間 ポイントで解く語法・語彙問題 | 小中 秀彦 | 南雲堂 | | |
| TOEFL(R)TEST必ず☆でる単スピードマスター | 林 功, 秋本 陽二 | Jリサーチ出版 | | |
| TOEFL ITP テスト リスニング問題攻略 | | | | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| その他のクラス教材は担当者が用意します。 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | ありません。授業の前後に質問を受けることは可能です。また、質問は教員の宿題として責任をもって取り組みます |
| 担当教員の実務経験 | アメリカの大学、大学院修了。TOEFL PBT、TOEFL iBT受験経験。TOEFL準備講座担当10年以上。 |
| 備考 | スケジュール等の変更がある場合は授業中に行ないます。 |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 吉岡　貴雄 | 【初回オリエンテーション】クラス概要、Written Expression、リスニング、リーディングセクション演習、分野別語彙学習説明 | | 【予習】90分【復習】（90分）語彙復習 |
| 2 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ショートカンバセーション、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 3 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ショートカンバセーション、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 4 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングカンバセーション、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 5 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングカンバセーション、Structure、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 6 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングトーク、Structure、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 7 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングトーク、Structure、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 8 | 吉岡　貴雄 | 【復習テスト】すべてのセクションの演習と語彙復習クイズ（これまでの範囲を見直すテスト） | | 【予習】（120分）語彙復習、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習 |
| 9 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、復習テストReview、ショートカンバセーション、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 10 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ショートカンバセーション、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 11 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングカンバセーション、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 12 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングカンバセーション、Structure、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 13 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングトーク、Structure、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 14 | 吉岡　貴雄 | 語彙クイズ、ロングトーク、Written Expression、リーディングセクション演習 | | 【予習】（120分）語彙クイズ準備、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（70分）語彙復習、パッセージ音読 |
| 15 | 吉岡　貴雄 | 【復習テスト】文法、リスニング、リーディング演習と語彙復習テスト（これまでの範囲を見直すテスト） | | 【予習】（120分）語彙復習、語彙暗記（英語から日本語の意味が分かるように、英語の音から日本語の意味が分かるように）<br>【復習】（90分）語彙テキストを継続して学習すること |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語表現I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English Expressions I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | Marcellus Nealy | ナンバリング | BAP1202/BAR1202 |
| 担当教員 | Marcellus Nealy | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | Language is a tool for communication. It allows us to share our ideas, experiences, and emotions with others. Communication rather than test-taking should be the ultimate goal of any language study. The test is simply a marker that allows you to assess your progress with learning a language. In this class, our goal will be to strengthen and develop your ability to communicate in English. This will be done through vocabulary building, the study of idiomatic phrases, grammar review, and lots of practice. Because communication is an interactive process, you will be expected to work in pairs or small groups. Since fluency in English communication depends on actual practice combined with strategic study, the class will be activity-based, and emphasis will be placed on active learning. You will be expected to do role-play, make videos that depict various situations, give presentations, act out scenes in a drama or play, and various other tasks that are designed to provide you with the maximum opportunity to practice speaking English. Since communication requires constant vocabulary building and grammar practice, you will also be expected to complete weekly homework assignments that are designed to help you increase your vocabulary and improve your understanding of English grammar. |
| 到達目標 | Build vocabulary<br>Strengthen grammar<br>Increase speaking confidence<br>Increase spoken fluency |
| 授業の位置づけ | 基礎分野/言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1 CP3 |
| 履修上の注意、履修要件 | This class is based heavily on an active learning approach.  For the lessons to be effective, your full cooperation and positive attitudes are needed.<br><br>Poor attitudes, unwillingness to engage in classroom activities, sleeping in class, playing on smart devices, and any other behavior that is counterproductive to your learning is strictly prohibited and will be dealt with harshly. |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | Attendance - 10%<br>Participation - 30%<br>Assignments - 30%<br>Class Projects - 30% |
| 評価基準 | Please note that attendance and participation are linked. If you are not in class, it means you are not participating. Therefore, your participation points will automatically decrease along with your attendance points. |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Direct feedback in class<br>Email messages<br>Notes on written assignments | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 医療系学生のためのつたわる英語[Web音声付] | 代田浩之 (監修), 並木有希 (編集), Marcellus Nealy (編集), Tom Kain (編集) | 南江堂 | 4524228136 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| Linguistic needs vary between individuals and groups. For this reason, textbooks will not be assigned until after I have done an initial assessment of students' needs and abilities. However, you will be expected to purchase two or three textbooks. |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | By appointment |
| 担当教員の実務経験 | 2015 - present<br>Juntendo University<br>Faculty of Medicine<br>Associate Professor |

| | |
|---|---|
| | 2013-present<br>NHK WORLD<br>Announcer, Narrator<br><br>2013 - present<br>Benesse Holdings, Inc.<br>Challenge English Project<br>Consultant<br><br>2007 - 2015<br>Temple University Japan Campus<br>Continuing Education Department<br>Lecturer |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Nealy, Marcellus | Getting to know each other.<br>Learning ways of introducing yourself. | | complete weekly homework assignments |
| 2 | Nealy, Marcellus | Talk about Japan food<br>Sharing details: Who, What, Where,<br>When, Why, How (5WH) | | complete weekly homework assignments |
| 3 | Nealy, Marcellus | Talk about Japan II - sight seeing<br>Sharing details: Who, What, Where,<br>When, Why, How (5WH) | | complete weekly homework assignments |
| 4 | Nealy, Marcellus | Video Project #1 - You will be given an assignment that is to be started in class and completed outside of the classroom. The details of the assignment depend on the progress of the group. Therefore, details will be given in class.<br><br>Practice for Sharing details: Who, What, Where,<br>When, Why, How (5WH) | | Weekly homework assignments<br>Completion of Video Project |
| 5 | Nealy, Marcellus | Talk about Japan II - culture<br><br>Writing a good paragraph | | Weekly homework assignments |
| 6 | Nealy, Marcellus | Talk about Japan IV - customs<br><br>Writing a good paragraph" | | Weekly homework assignments |
| 7 | Nealy, Marcellus | Talking about others - country<br>Writing a good paragraph" | | Weekly homework assignments |
| 8 | Nealy, Marcellus | Video Project #2 - You will be given an assignment that is to be started in class and completed outside of the classroom. The details of the assignment depend on the progress of the group. Therefore, details will be given in class. | | Weekly homework assignments<br>Completion of Video Project |
| 9 | Nealy, Marcellus | Talking about others - culture<br>Writing a proper introduction | | Weekly homework assignments |
| 10 | Nealy, Marcellus | Hobbies<br>Writing a proper conclusion | | Weekly homework assignments |
| 11 | Nealy, Marcellus | Pop Culture<br>The 5 point essay | | Weekly homework assignments |
| 12 | Nealy, Marcellus | Talk about philosophical ideas: Meaning of life<br>The 5 point essay<br>Cliches<br>Transitions | | Weekly homework assignments |
| 13 | Nealy, Marcellus | Talking about philosophic ideas<br>The 5 point essay<br>The art of persuation | | Weekly homework assignments<br>Completion of Video Project |
| 14 | Nealy, Marcellus | Video Project #3 - You will be given an assignment that is to be started in class and completed outside of the classroom. The details of the assignment depend on the progress of the group. Therefore, details will be given in | | Work on video project |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | class.<br><br>Persuasion in practice | | |
| 15 | Nealy, Marcellus | Submit video projects.<br>Final discussion | | none |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語表現I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English Expressions I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 福田 健一 | ナンバリング | BAP1202/BAR1202 |
| 担当教員 | 福田 健一 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語の慣用表現（定型表現、定番表現、熟語）は丸暗記するものだと考えられていますが、ストックされた慣用表現だけでは慣用表現力を十分高めるには完全ではありません。そこで必要なのが、フロートとしての慣用表現です。例えば、表現上の慣用表現の役割に注目する必要があります。この考え方が理解できれば、それに応じたトレーニングやエクササイズを自由に組み立てることができます。英語の慣用表現には、3つの注目すべき役割があります。<br><br>1. 慣用表現は、わかりやすく自分の思いを表現できます。<br>2. 慣用表現は、英語での表現を簡単にできます。<br>3. 慣用表現は、表現の流れをうまく調整することができます。<br><br>ここで皆さんは、今までうまくできなかった英語の慣用表現をすることができます。授業においては、簡単な慣用表現を憶えて例文や会話例を実践することにより、英語表現力を向上することになります。 |
| 到達目標 | 1.慣用表現力を使って、英語を理解できるようにする。<br>2.英語の会話力を向上させることにする。<br>3.英語の総合的な実践能力を高めることにする。 |
| 授業の位置づけ | 英語の慣用表現は、思いを言語で表現するのに最適です。例えば、誰かに何かをしてもらって恐縮した気持ちを表現するのに「どうも、すみません。ありがとうございます」という慣用表現を使えば無難でしょう。つまり、相手が話し手の意図を理解する上で一番効率の良い表現ということです。英語表現力を向上させるには、こういう英語の慣用表現を学ぶ必要があります。<br><br>日本人は、体系的に英語の慣用表現を学んでいません。ここでは、英語慣用表現を体系的に学ぶことによって、英語表現力を増すことが目的です。<br><br>学ぶ内容としては、提案や依頼を表す慣用表現や感情を表現するものを学習過程でこの表現を学び、実際に使えるようにします。また、理解度を増やすために現実で使われている慣用表現を様々な視点で学ぶことにします。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1<br><br>保健医療学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学や医療に係わる基本知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び医療技術を教授して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とします。卒業時に、その資質・能力を身につけたものに対し、学士の学位を授与します。 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業には積極的に参加すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業への積極的参加、出席　20%<br>リスニング、会話、文法、リーディング演習　50%<br>試験　30% |
| 評価基準 | 授業を通して積極的な授業参加を行い、また、英語の慣用表現を実践的に使えるようにすること。それに伴い、英語の表現力を向上させ、英語表現としての英会話能力を向上することができた学生に対して、高い評価を与える。<br><br>英語は現在、世界共通語として使われています。その際に、英語としてのコモン・コアを理解しながら、多くの典型的な慣用表現を理解することができることが大事であり、その理解度に応じて、評価をする。<br><br>特に、国際社会で必要な英語表現としてのコミュニケーション能力を向上させた学生に対して高い評価を与える。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて個人面談を行います。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 会話を組み立てる英語プレハブ慣用表現１５０ | 田中茂範.岡本茂紀 | コスモピア | 9784864540742 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 授業後に質問するか、教員にアポイントを取ってください。<br>k.fukuda.ui@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | TOEFL,TOEIC,英検,ビジネス英語などの英語の単独著書を、23冊出版。（2022年4月現在） |

| | |
|---|---|
| 備考 | 積極的に授業参加する学生を評価します。 |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 福田　健一 | generally speaking<br>to my surprise<br>to my disappointment<br>I'm curious about<br>I'm delighted with<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 2 | 福田　健一 | I'm disappointed about<br>I'm sure (that)、I'm not sure (that)<br>I'm confident (that)<br>I'm positive (that)<br>I'm afraid (that)<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 3 | 福田　健一 | I'm skeptical about<br>It is certain (that)<br>It is possible (that)<br>It is probable (that)<br>It appears (to me) (that)<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 4 | 福田　健一 | It seems (to me) (that)<br>It looks like<br>I should have done<br>I must have done<br>I would have done<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 5 | 福田　健一 | I would have done | 教科書を中心に授業 | 【予習】（60分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | I could have done<br>It is necessary (for A) to do<br>It is convenient (for A) to do<br>It is natural (for A) to do<br><br>実践・応用・理解すること。 | を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 6 | 福田　健一 | It is embarrassing (for A) to do<br>I'm available to do<br>I'm free to do<br>I'm ready to do<br>Let me do<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 7 | 福田　健一 | I'd like to do<br>I'd rather do / I'd rather not do<br>I'm willing to do<br>I feel like doing<br>Can you ... ?<br><br>今までの総合復習。<br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（120分）<br>これまでの総合的な復習 |
| 8 | 福田　健一 | Could you ... ?<br>Would you ... ?<br>I was wondering if you could<br>May I ... ?<br>Can I ... ?<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 9 | 福田　健一 | Is it possible (for me) to do<br>Do you mind if I ... ?<br>Do you mean (that) ... ?<br>Are you telling me (that) ... ?<br>Can we say (that) ... ?<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | |
| 10 | 福田　健一 | Just to make sure<br>You said (that) ... , is that right?<br>Be sure to do<br>Don't forget to do<br>Can I just remind you (that) ... ?<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 11 | 福田　健一 | Try to remember (that)<br>you may<br>you really ought to do<br>you had better<br>Why don't you ... ?<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 12 | 福田　健一 | Would like to do ?<br>How about ... ?<br>Why don't we ... ?<br>Let's<br>Shall we ... ?<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 13 | 福田　健一 | Don't<br>You may not<br>You must not<br>You are not allowed to do<br>Get A to do<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 習してみてください。 | |
| 14 | 福田　健一 | make A do<br>have A do<br>let A do<br>ask + 人 + WH節<br>tell + 人 + WH節 / to do<br><br>実践・応用・理解すること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 15 | 福田　健一 | show + 人 + WH節 / to do<br>the point is (that)<br>the thing is (that)<br>in other words<br>what I'm saying is (that)<br><br>前期の総合的な復習をすること。<br>具体的に例文を憶えること。<br>慣用表現の役割を確認すること。<br>慣用表現の実践力を高めること。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（120分）<br>【復習】（120分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語表現I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English Expressions I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 百渓 英一 | ナンバリング | BAP1202/BAR1202 |
| 担当教員 | 百渓 英一 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 21世紀は英語によるコミュニケーションのスキルは社会で活躍するには不可欠である。その実践的な英語力の養成が本講義の目標である。本講義は、1年必修科目英語I、英語 II に続く選択科目クラスでTOEFL受験に特化したクラスではないが、TOEFLのWritingも意識し、英語を実践的に使用するための授業とする。具体的には、英語によるネット情報の把握だけではなく、情報内容の要約、内容に関する意見等を英語でまとめ、それを発表することを中心とする。そのための基本の学習と練習を重ねる。テーマに即した英語による簡単な発表を参加者に課すほか、より多くの語彙を学修し、コミュニケーション力の向上を目指す。コミュニケーションは一人では成立しないため、その向上には積極的に英語を用いた授業参加が求められる。 |
| 到達目標 | ①テキストのSection 1. PresentationとSection2, Application dialogの内容を完全に暗記します。長文を区切って文章の意味を捉える力をつけます。<br>②Application dialogの役割を取り替えてスムースなやり取りができるように練習します。<br>③Section 5 Vocabulary buildingと<br>④Section 6 Japanese-English drillで様々な会話で使える単語やパターンを学びます。会話力がつけば、英文を読むことも楽になります。使いみちの広い単語やイディオムについても使えるようにしましょう。<br>講義の状況で他のSectionも学びます。<br>⑤それぞれのトピックスについても是非興味を持って調べたり、関心を持ってください。 |
| 授業の位置づけ | 基礎分野　言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 最初の講義でどのように講義を進めていくかの説明とテキストの活用法について説明します。<br>事前に、シラバスに沿ってテキストを予習しておくこと。その日の講義内容について特に会話パターンは丸暗記をしてください。次の講義の時に空で唱えられるようにしてください。<br>○付属のCD-ROMの音源をスマートフォンなどに入れて、聞けるようにすると実力がつくでしょう。<br>○講義ごとに前回の講義で学んだ内容についての小テストを実施します。小テストは講義中に採点して回収して点数を記録します。次回の講義で返却します。<br>○小テストの内容は定期試験にも出しますから、きっちり保存してください。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業・課題への参加度　(20%)、小テスト(30%)、定期試験（50%）により評価する。 |
| 評価基準 | 授業・課題への参加度　(20%)、小テスト(30%)、定期試験（50%）により評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 小テストは次回講義にて返却 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 研究社<br>アメリカ口語教本<br>中級用<br>英文タイトル　Spoken American English<br>著者　William L Clark | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 16：30～18：00 |
| 担当教員の実務経験 | 2013-2016年東都医療大学教授として、基礎看護英語の講義を担当。<br>実務的な英語はアメリカ、フランス、タイ、ケニヤ、メキシコなど海外研究機関での国際共同研究や指導、国際学会の主催や参加、国内での外国人博士研究員や研修生の指導を通じて生きた英語コミュニケーションの経験が40年ほどある。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 百渓 英一 | Lesson1. DIY-Do It Yourselfの Section1. Presentationについて先生が読んでCDのネイティブの声を聞きます。 | ○読み上げ練習をします。眼で文を見て声を出す、周りの声 | 【予習】Lesson1. DIY-Do It Yourselfの Section1. 2.を読んで理解してくること。（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | も聞きながら。<br>○Presentationの文章構造、イディオムなどを文章を区切ってよく見ましょう。区切り線(/)を鉛筆で書き入れるのもあり。<br>○Footnoteの単語や熟語を覚えます。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>□CDでネイティブの会話を聞きましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | 【復習】Section1. 2.を暗記します。（90分）<br>Section5. 6を復習して覚える。<br>Footnoteの英語の日本語訳を覚える。<br>小テストの予習をしてください。 |
| 2 | 百溪 英一 | 【小テスト】前回の講義の小テストをします。主にApplication dialogとFoot noteの中から問題が出ます。<br>DIY-Do It Yourself | Lesson1 Section1と2. ついて読み上げと会話練習を復習。<br>○読み上げ練習や文章を区切ってよく見ましょう。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、テキストを見ずにAパートBパートに分かれて練習します。<br>△Section3 のConversation Syleで応用力をつけましょう。<br>△Section5でボキャブラリーを増やしましょう。 | 【予習】Lesson1. DIY-Do It YourselfのSection1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>【復習】Lesson1, の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分）<br>Footnoteの英語の日本語訳を覚える。<br>次回の小テストの予習をしてください。 |
| 3 | 百溪 英一 | Lesson2. The Pen Is Mightier Than the Sword, Section1. Presentationについて先生が読んで、CDの声を聞きます。<br>○読み上げ練習をします。眼で文を見て声を出す、周りの声も聞きながら<br>○Presentationの文章構造、イディオムなどを文章を区切ってよく見ましょう。区切り線(/)を鉛筆で書き入れるのもあり。<br>○Footnoteの単語や熟語を覚えます。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>□CDでネイティブの発音を聞きましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立 | ○読み上げ練習をします。眼で文を見て声を出す、周りの声も聞きながら<br>○Presentationの文章構造、イディオムなどを文章を区切ってよく見ましょう。区切り線(/)を鉛筆で書き入れるのもあり。<br>○Footnoteの単語や熟語を覚えます。<br>□Presentationの状況をイメージして | 【予習】Lesson2のThe Pen Is Mightier Than The Sword Section1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>前回のSection1. 2.について実施される小テストの勉強をしてきてください。（90分）<br>【復習】Lesson2 の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。Section5. 6を復習して覚える。<br>Footnoteの英語の日本語訳を覚える。<br>次回の小テストの予習をしてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ちます。内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | Application Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>□CDでネイティブの発音を聞きましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | |
| 4 | 百溪 英一 | 【小テスト】前回の講義の小テストをします。主にApplication dialogとFoot noteの中から問題が出ます。<br>The Pen Is Mightier Than the Sword | ○読み上げ練習や文章を区切ってよく見ましょう。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、テキストを見ずにAパートBパートに分かれて練習します。<br>△Section3 のConversation Syleで応用力をつけましょう。<br>△Section5でボキャブラリーを増やしましょう。 | 【予習】Lesson2. The Pen Is Mightier Than the Swordの Section1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>【復習】Lesson2 の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分）<br>Footnoteの英語の日本語訳を覚える。<br>次回の小テストの予習をしてください。 |
| 5 | 百溪 英一 | Lesson 3 . Coffee Time  Section1. Presentationについて先生が読んで、CDのネイティブの声を聞きます。<br>○読み上げ練習をします。眼で文を見て声を出す、周りの声も聞きながら。<br>○Presentationの文章構造、イディオムなどを文章を区切ってよく見ましょう。区切り線(/)を鉛筆で書き入れるのもあり。<br>○Footnoteの単語や熟語を覚えます。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>□CDでネイティブの発音を聞きましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | ○読み上げ練習をします。眼で文を見て声を出す、周りの声も聞きながら。<br>○Presentationの文章構造、イディオムなどを文章を区切ってよく見ましょう。区切り線(/)を鉛筆で書き入れるのもあり。<br>○Footnoteの単語や熟語を覚えます。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>□CDでネイティブの発音を聞きましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を | 【予習】Lesson 3 Coffee Timeの Section1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>前回のSection1. 2.について実施される小テストの勉強をしてきてください。<br>【復習】Lesson3の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分）<br>Section5. 6を復習して覚える。<br>Footnoteの英語の日本語訳を覚える。<br>次回の小テストの予習をしてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 本文にメモすると役立ちます。内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | |
| 6 | 百溪 英一 | 【小テスト】前回の講義の小テストをします。主にApplication dialogとFoot noteの中から問題が出ます。<br>Lesson3　Coffee Time<br>Lesson3 Section1と 2.について読み上げと会話練習を復習。<br>○読み上げ練習や文章を区切ってよく見ましょう。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、テキストを見ずにAパートBパートに分かれて練習します。<br>△Section3 のConversation Syleで応用力をつけましょう。<br>△Section5でボキャブラリーを増やしましょう。 | Lesson3 Section1と2.について読み上げと会話練習を復習。<br>○読み上げ練習や文章を区切ってよく見ましょう。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、テキストを見ずにAパートBパートに分かれて練習します。<br>△Section3 のConversation Syleで応用力をつけましょう。<br>△Section5でボキャブラリーを増やしましょう。 | 【予習】Lesson3のCoffee timeの Section1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>前回のSection1. 2.について実施される小テストの勉強をしてきてください。<br>【復習】Lesson3, . の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分）<br>Footnoteの英語の日本語訳を覚える。<br>次回の小テストの予習をしてください。 |
| 7 | 百溪 英一 | Lesson4. Greenpeace　Section1.<br>Presentationについて先生が読んで、CDのネイティブの声を聞きます。<br>○読み上げ練習をします。眼で文を見て声を出す、周りの声も聞きながら<br>○Presentationの文章構造、イディオムなどを文章を区切ってよく見ましょう。区切り線(/)を鉛筆で書き入れるのもあり。<br>○Footnoteの単語や熟語を覚えます。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>□CDでネイティブの発音を聞きましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | Presentationについて先生が読んで、CDのネイティブの声を聞きます。<br>○読み上げ練習をします。眼で文を見て声を出す、周りの声も聞きながら<br>○Presentationの文章構造、イディオムなどを文章を区切ってよく見ましょう。区切り線(/)を鉛筆で書き入れるのもあり。<br>○Footnoteの単語や熟語を覚えます。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>□CDでネイティブの発音を聞きましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | 【予習】Lesson4. GreenpeaceのSection1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>前回のSection1. 2.について実施される小テストの勉強をしてきてください。<br>【復習】Lesson4のSection1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分）<br>Section5. 6を復習して覚える。<br>Footnoteの英語の日本語訳を覚える。<br>次回の小テストの予習をしてください。 |
| 8 | 百溪 英一 | 【小テスト】前回の講義の小テストをします。主にApplication dialogとFoot noteの中から問題が出ます。<br>Lesson4　Greenpeace | Lesson4 Section1と2. ついて読み上げと会話練習を復習。 | 【予習】Lesson4. Greenpeaceの Section1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>前回のSection1. 2.について実施される小テ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Lesson4 Section1と 2. ついて読み上げと会話練習を復習。<br>○読み上げ練習や文章を区切ってよく見ましょう。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、テキストを見ずにAパートBパートに分かれて練習します。<br>△Section3 のConversation Syleで応用力をつけましょう。<br>△Section5でボキャブラリーを増やしましょう。 | ○読み上げ練習や文章を区切ってよく見ましょう。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、テキストを見ずにAパートBパートに分かれて練習します。<br>△Section3 のConversation Syleで応用力をつけましょう。<br>△Section5でボキャブラリーを増やしましょう。 | ストの勉強をしてきてください。<br>【復習】Lesson4の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分）<br>次回の小テストの予習をしてください。 |
| 9 | 百溪 英一 | Lesson5. Charity Begins at Home Section1. Presentationについて先生が読んで、CDのネイティブの声を聞きます。<br>○読み上げ練習をします。眼で文を見て声を出す、周りの声も聞きながらで文章が脳の海馬に蓄えられていきます。<br>○Presentationの文章構造、イディオムなどを文章を区切ってよく見ましょう。区切り線(/)を鉛筆で書き入れるのもあり。<br>○Footnoteの単語や熟語を覚えます。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>□CDでネイティブの発音を聞きましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立つ。 | Section1. Presentationについて先生が読んで、CDのネイティブの声を聞きます。<br>○読み上げ練習をします。眼で文を見て声を出す、周りの声も聞きながらで文章が脳の海馬に蓄えられていきます。<br>○Presentationの文章構造、イディオムなどを文章を区切ってよく見ましょう。区切り線(/)を鉛筆で書き入れるのもあり。<br>○Footnoteの単語や熟語を覚えます。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>□CDでネイティブの発音を聞きましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立つ。 | 【予習】Lesson5. Charity Begins at Homeの Section1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>【復習】Lesson5の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分）<br>Section5. 6を復習して覚える。<br>Footnoteの英語の日本語訳を覚える。<br>次回の小テストの予習をしてください。 |
| 10 | 百溪 英一 | 【小テスト】前回の講義の小テストをします。主にApplication dialogとFoot noteの中から問題が出ます。<br>Charity Begins at Home<br>Lesson5 Section1と 2について読み上げと会話練習を復習。<br>○読み上げ練習や文章を区切ってよく見ましょう。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、テキストを見ずにAパートBパートに分かれて練習します。 | Lesson5 Section1と 2について読み上げと会話練習を復習。<br>○読み上げ練習や文章を区切ってよく見ましょう。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全 | 【予習】Lesson5. Charity Begins at Homeの Section1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>【復習】Lesson5の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分）<br>次回の小テストの予習をしてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | △Section3 のConversation Styleで応用力をつけましょう。<br>△Section5でボキャブラリーを増やしましょう。 | 体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、テキストを見ずにAパートBパートに分かれて練習します。<br>△Section3 のConversation Styleで応用力をつけましょう。<br>△Section5でボキャブラリーを増やしましょう。 | |
| 11 | 百溪 英一 | Lesson6. On-Line Section1. Presentation | Lesson6. On-Line Section1. Presentationについて先生が読んで、CDのネイティブの声を聞きます。<br>○読み上げ練習をします。眼で文を見て声を出す、周りの声も聞きながらで文章が脳の海馬に蓄えられていきます。<br>○Presentationの文章構造、イディオムなどを文章を区切ってよく見ましょう。区切り線(/)を鉛筆で書き入れるのもあり。<br>○Footnoteの単語や熟語を覚えます。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>□CDでネイティブの発音を聞きましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立つ。 | 【予習】Lesson6. On-Lineの Section1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>前回のSection1. 2.について実施される小テストの勉強をしてきてください。<br>【復習】Lesson6の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分）<br>Section5. 6を復習して覚える。<br>Footnoteの英語の日本語訳を覚える。<br>次回の小テストの予習をしてください。 |
| 12 | 百溪 英一 | 【小テスト】前回の講義の小テストをします。主にApplication dialogとFoot noteの中から問題が出ます。<br>Lesson6 Section1と 2について読み上げと会話練習を復習。<br>○読み上げ練習や文章を区切ってよく見ましょう。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、テキストを見ずにAパートBパートに分かれて練習します。<br>△Section3 のConversation Styleで応用力をつけましょう。<br>△Section5でボキャブラリーを増やしましょう。 | | 【予習】Lesson 6 . On-Lineの Section1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>前回のSection1. 2.について実施される小テストの勉強をしてきてください。<br>【復習】Lesson6の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分）<br>次回の小テストの予習をしてください。 |
| 13 | 百溪 英一 | Lesson7. Working for The TimesのSection1, Presentationを先生が読んで、CDのネイティブの声を聞きます。<br>○読み上げ練習をします。眼で文を見て声を出す、周りの声も聞きながらで文章が脳の海馬に蓄えられていきます。<br>○Presentationの文章構造、イディオムなどを文章を区切ってよく見ましょう。区切り線(/)を鉛筆で書き入れるのもあり。 | | 【予習】Lesson7. Working for the Timesの Section1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>前回のSection1. 2.について実施される小テストの勉強をしてきてください。<br>【復習】Lesson7 の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ○Footnoteの単語や熟語を覚えます。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>□CDでネイティブの発音を聞きましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。 | | Section5. 6を復習して覚える。<br>Footnoteの英語の日本語訳を覚える。<br>次回の小テストの予習をしてください。 |
| 14 | 百溪 英一 | 【小テスト】前回の講義の小テストをします。主に Application dialogとFoot noteの中から問題が出ます。<br>Working for The Times<br>Lesson7 Section1と 2. ついて読み上げと会話練習を復習。<br>○読み上げ練習や文章を区切ってよく見ましょう。<br>□Presentationの状況をイメージしてApplication Dialogueで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。<br>□次いで、テキストを見ずにAパートBパートに分かれて練習します。<br>△Section3 のConversation Styleで応用力をつけましょう。<br>△Section5でボキャブラリーを増やしましょう。 | | 【予習】Lesson7. Working for The TimesのSection1. 2.を読んで内容を覚えてくる。（90分）<br>前回のSection1. 2.について実施される小テストの勉強をしてきてください。<br>【復習】Lesson7の Section1. 2.の内容を理解して暗記する。（90分） |
| 15 | 百溪 英一 | 【定期試験】<br>各LessonのSection1と2などから穴埋め問題や簡単な文法、単語、日本語と英語の繋がりなどを答えてもらう問題などが出題されます。<br>小テストの内容も出ます。<br>CDのネイティブの会話文を聴いて内容に合った日本語を選ぶやさしいヒアリングのテストもやります。 | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語表現II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English Expressions II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | Marcellus Nealy | ナンバリング | BAP1203/BAR1203 |
| 担当教員 | Marcellus Nealy | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | Language is a tool for communication. It allows us to share our ideas, experiences, and emotions with others. Communication rather than test-taking should be the ultimate goal of any language study. The test is simply a marker that allows you to assess your progress with learning a language. In this class, our goal will be to strengthen and develop your ability to communicate in English. This will be done through vocabulary building, the study of idiomatic phrases, grammar review, and lots of practice. Because communication is an interactive process, you will be expected to work in pairs or small groups. Since fluency in English communication depends on actual practice combined with strategic study, the class will be activity-based, and emphasis will be placed on active learning. You will be expected to do role-play, make videos that depict various situations, give presentations, act out scenes in a drama or play, and various other tasks that are designed to provide you with the maximum opportunity to practice speaking English. Since communication requires constant vocabulary building and grammar practice, you will also be expected to complete weekly homework assignments that are designed to help you increase your vocabulary and improve your understanding of English grammar. |
| 到達目標 | Build vocabulary<br>Strengthen grammar<br>Increase speaking confidence<br>Increase spoken fluency |
| 授業の位置づけ | 基礎分野　言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1 CP3 |
| 履修上の注意、履修要件 | This class is based heavily on an active learning approach.  For the lessons to be effective, your full cooperation and positive attitudes are needed.<br><br>Poor attitudes, unwillingness to engage in classroom activities, sleeping in class, playing on smart devices, and any other behavior that is counterproductive to your learning is strictly prohibited and will be dealt with harshly. |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | Attendance - 10%<br>Participation - 30%<br>Assignments - 30%<br>Class Projects - 30% |
| 評価基準 | Please note that attendance and participation are linked. If you are not in class, it means you are not participating. Therefore, your participation points will automatically decrease along with your attendance points. |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Direct feedback in class<br>Email messages<br>Notes on written assignments | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 医療系学生のためのつたわる英語[Web音声付] | 代田浩之 (監修), 並木有希 (編集), Marcellus Nealy (編集), Tom Kain (編集) | 南江堂 | 4524228136 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| Linguistic needs vary between individuals and groups. For this reason, textbooks will not be assigned until after I have done an initial assessment of students' needs and abilities. However, you will be expected to purchase two or three textbooks. |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | By appointment |
| 担当教員の実務経験 | 2015 - present<br>Juntendo University<br>Faculty of Medicine<br>Associate Professor |

| | |
|---|---|
| | 2013-present<br>NHK WORLD<br>Announcer, Narrator<br><br>2013 - present<br>Benesse Holdings, Inc.<br>Challenge English Project<br>Consultant<br><br>2007 - 2015<br>Temple University Japan Campus<br>Continuing Education Department<br>Lecturer |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | Nealy, Marcellus | How was your vacation<br>Discussion practice | | complete weekly homework assignments<br>予習：90分　復習：90分 |
| 2 | Nealy, Marcellus | Listening practice through movies:<br>"What Dreams May Come"<br>Sharing details: Who, What, Where,<br>When, Why, How (5WH) | | complete weekly homework assignments<br>予習：90分　復習：90分 |
| 3 | Nealy, Marcellus | Discussion practice through movies:<br>"What Dreams May Come"<br>Sharing details: Who, What, Where,<br>When, Why, How (5WH) | | complete weekly homework assignments<br>予習：90分　復習：90分 |
| 4 | Nealy, Marcellus | Video Project #1 -Afterlife tourist video. You will be given an assignment that is to be started in class and completed outside of the classroom. The details of the assignment depend on the progress of the group. Therefore, details will be given in class.<br><br>Practice for Sharing details: Who, What, Where,<br>When, Why, How (5WH) | | Weekly homework assignments<br>Completion of Video Project<br>予習：90分　復習：90分 |
| 5 | Nealy, Marcellus | Near Death Experiences<br>Listening practice<br>Writing a good paragraph | | Weekly homework assignments<br>予習：90分　復習：90分 |
| 6 | Nealy, Marcellus | Near Death Experiences II<br>Discussion practice<br>Writing a good paragraph" | | Weekly homework assignments<br>予習：90分　復習：90分 |
| 7 | Nealy, Marcellus | Religion, Spirituality, Healthcare<br>Expressing opinion practice<br>Writing a good paragraph" | | Weekly homework assignments<br>予習：90分　復習：90分 |
| 8 | Nealy, Marcellus | Video Project #2 - comparing religions of the world<br>You will be given an assignment that is to be started in class and completed outside of the classroom. The details of the assignment depend on the progress of the group. Therefore, details will be given in class. | | Weekly homework assignments<br>Completion of Video Project<br>予習：90分　復習：90分 |
| 9 | Nealy, Marcellus | The role Empathy in healthcare I<br>discussion, deep thinking practice<br>Writing a proper introduction | | Weekly homework assignments<br>予習：90分　復習：90分 |
| 10 | Nealy, Marcellus | The role Empathy in healthcare I<br>discussion, deep thinking practice<br>Writing a proper conclusion | | Weekly homework assignments<br>予習：90分　復習：90分 |
| 11 | Nealy, Marcellus | Understanding yourself for better healthcare I<br>The five point essay | | Weekly homework assignments<br>予習：90分　復習：90分 |
| 12 | Nealy, Marcellus | Understanding yourself for better healthcare II<br>The five point essay | | Weekly homework assignments<br>予習：90分　復習：90分 |
| 13 | Nealy, Marcellus | Talking about philosophic ideas<br>The 5 point essay<br>The art of persuation | | Weekly homework assignments<br>Completion of Video Project<br>予習：90分　復習：90分 |
| 14 | Nealy, | Listening practice through movies: | | Work on video project |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | Marcellus | "Patch Adams"<br>Sharing details: Who, What, Where, When, Why, How (5WH) | | 予習：90分　復習：90分 |
| 15 | Nealy, Marcellus | Final discussion<br>Patient centered care<br>Cultural competency<br>Trust<br><br>What kind of healthcare provider do you want to become? | | 予習：90分　復習：90分 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 英語表現II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | English Expressions II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 福田 健一 | ナンバリング | BAP1203/BAR1203 |
| 担当教員 | 福田 健一 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 英語の慣用表現は、気持ちを言葉で表現するのに最適です。つまり、相手が話し手の意図を理解する上で一番効率の良い表現です。仮に、慣用的な言い方を知らず、意図は通じるかも知れませんが自然な感じがしないし、場合によっては失礼な印象を与えることもあります。慣用表現ですが、提案や依頼を表す慣用表現や感情を表現するものの多くは、コモン・コアに含まれるはずです。英語を学び、英語で表現する人は、学習過程でこの表現を学び、実際に使うことを選ぶのが必要です。後期では、これらのことを念頭に多様な実践的な勉強を進めていきます。皆さんの慣用表現力が高まるでしょう。 |
| 到達目標 | 1.効率よく思いを表現する。<br>2.言いたいことの型を提供して、英語での表現の組み立てを容易にする。<br>3.思考の流れと言語活動を調整できるようにする。 |
| 授業の位置づけ | 英語の慣用表現は、思いを言語で表現するのに最適です。例えば、誰かに何かをしてもらって恐縮した気持ちを表現するのに「どうも、すみません。ありがとうございます」という慣用表現を使えば無難でしょう。つまり、相手が話し手の意図を理解する上で一番効率の良い表現ということです。英語表現力を向上させるには、こういう英語の慣用表現を学ぶ必要があります。<br><br>日本人は、体系的に英語の慣用表現を学んでいません。ここでは、英語慣用表現を体系的に学ぶことによって、英語表現力を増すことが目的です。<br><br>学ぶ内容としては、提案や依頼を表す慣用表現や感情を表現するものを学習過程でこの表現を学び、実際に使えるようにします。また、理解度を増やすために現実で使われている慣用表現を様々な視点で学ぶことにします。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1<br><br>保健医療学部では、「本学の学是である「仁」の精神に基づき、人間尊重の理念と高い倫理観と豊かな人間性を育み、医学や医療に係わる基本知識に裏打ちされた科学的根拠に基づく専門的知識及び医療技術を教授して、確かな実践能力と態度を身につけ、自己成長を目指して主体的に学修を継続することのできる資質の高い医療専門職者を養成する」ことを教育研究上の目的とします。卒業時に、その資質・能力を身につけたものに対し、学士の学位を授与します。 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業には積極的に参加すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業への積極的参加、出席　20%<br>リスニング、会話力、文法、リーディング演習　50%<br>試験　30% |
| 評価基準 | 授業を通して積極的な授業参加を行い、また、英語の慣用表現を実践的に使えるようにすること。それに伴い、英語の表現力を向上させ、英語表現としての英会話能力を向上することができた学生に対して、高い評価を与える。<br><br>英語は現在、世界共通語として使われています。その際に、英語としてのコモン・コアを理解しながら、多くの典型的な慣用表現を理解することができることが大事であり、その理解度に応じて、評価をする。<br><br>特に、国際社会で必要な英語表現としてのコミュニケーション能力を向上させた学生に対して高い評価を与える。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて個人面談を行います。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 会話を組み立てる英語プレハブ慣用表現１５０ | 田中茂範.岡本茂紀 | コスモピア | 9784864540742 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 授業後に質問するか、教員にアポイントを取ってください。<br>k.fukuda.ui@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | TOEFL,TOEIC,英検,ビジネス英語などの英語単独著書を23冊出版。（2022年4月現在） |
| 備考 | 積極的に授業参加する学生を評価します。 |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 福田　健一 | what matters is (that)<br>all you have to do is (that)<br>the point to be emphasized here is (that)<br>the bottom line is (that)<br>I mean<br><br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 2 | 福田　健一 | what should I say (?)<br>I can't think of the right expression<br>let me see<br>by the way<br>to change the subject<br><br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 3 | 福田　健一 | anyway<br>seriously, though<br>Let's get back to the point<br>you could say that , but<br>I agree with you up to a point , but<br><br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 4 | 福田　健一 | that seems reasonable , but<br>I may be wrong , but<br>cay you give me an example ?<br>What do you mean but that ?<br>Could you be more specific ?<br><br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 5 | 福田　健一 | I'm going to do<br>I'm planning to do<br>I'm supposed to do<br>I'm scheduled to do<br>in order to do | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | |
| 6 | 福田　健一 | so as to do<br>so that<br>only to do<br>this (that) is why<br>this (that) is the reason<br><br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 7 | 福田　健一 | the reason is (that)<br>this (that) is how<br>this (that) is the way<br>as many as<br>no less than<br><br>今までの総合復習と<br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（120分）<br>これまでの総合的な復習 |
| 8 | 福田　健一 | no better than<br>little more than<br>it's not so much A as B<br>more than any other<br>no more than<br><br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 9 | 福田　健一 | nothing is more A than B<br>the more A , the more B<br>all the more (because)<br>I wish I could<br>if it were not for<br><br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 習してみてください。 | |
| 10 | 福田　健一 | if it had not been for<br>as if / as though<br>if only<br>if ... should<br>it's no use doing<br><br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 11 | 福田　健一 | nothing but<br>there's no telling<br>not always<br>not A without B<br>in a ... manner<br><br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 12 | 福田　健一 | in such a way as to do<br>in a way (that)<br>either A or B<br>not only A but also B<br>both A and B<br><br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 13 | 福田　健一 | neither A nor B<br>as soon as<br>no sooner A than B<br>had hardly A when B<br>as long as<br><br>実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |
| 14 | 福田　健一 | now that<br>once<br>unless<br>in case<br>no matter what | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習を | 【予習】（60分）<br>【復習】（60分）<br><br>試験は行いませんが、レポート提出で評価を決めます。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 実践・応用・理解すること。<br>会話能力を高める。 | してください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | |
| 15 | 福田　健一 | whatever<br>even if<br>enough to do<br>so ... that<br>too to do<br><br>後期の総合的な復習をすること。<br>憶えた例文を話すことができるようにする。<br>慣用表現の理解を深める。<br>慣用表現の多様な実践力を高める。 | 教科書を中心に授業を行います。<br>ですから、予習復習をすることができますので、予習復習をしてください。<br>教科書に小テストが付いていますので、授業中に行うことにします。<br><br>また、CD-ROMが書籍に付いていますので、実際に聞いて練習してみてください。 | 【予習】（120分）<br>【復習】（120分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 医療英語 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Medical English | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 百渓 英一 | ナンバリング | BAP1204/BAR1204 |
| 担当教員 | 百渓 英一 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 理学療法学科学生を対象とした本講義のポイントは以下の通りである。<br>①臨床の様々な現場で患者との英語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を修得する。実際に使えない英語は意味がないので、発音練習の中でアクセント、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使することにより、かなり喋れるようになることを目指す。<br>②専門分野の知識と理解深めるためには英語力が不可欠である。講義を通じて必要な単語を覚えて英文の構造の理解を学ぶことで、英語が読み取れるようになる。本講義の内容は、解剖学、生理学、病理学などの専門科目の内容とリンクするので国家試験に向けた学びも英語を通じて強化することができる。英語論文や抄録の翻訳にもチャレンジして最新情報を取り入れる力をつける。<br>③学修した内容については小テストを実施して確認をする。従って予習や復習が大切である。小テストの内容については講義の中で説明します。<br>④理学療法士が勤務する医療の現場で遭遇する状況での患者や仲間との英語でのコミュニケーションの実用的なフレーズを学びます。 |
| 到達目標 | 世界はグローバル化の時代に入りました。2004年には600万人程だった外国人旅行者が2014には1200万人を超えました。<br>そのために、医療の領域における国際共通語である英語力のニーズも高まってきたということです。<br>・本科目では外国人患者様や医療者とのコミュニケーションスキルの実現に有用な専門領域に関連する話題を英語で表現できるようにします。<br>・医療や介護の現場における働く仲間の理解、基礎的英単語や英語を通じて医学全般の最新知識を身につけていける力を養うことを目標とします。<br>・すでに学んできた医療系基礎の用語を英語でも覚えていきます。<br>・英語を母国語とする患者さんや医療チームの仲間と現場で使うのが楽しみになるような使える実践的なフレースも増やします。<br>・それぞれの講義では皆さんの英語で話す話題が増えて教養にも役立つ講義を目指します。 |
| 授業の位置づけ | ・本講義の目的は本学科で学んできた専門的医療知識や考え方を、より論理的な言語である英語で理解することにより他科目の学習の復習もできます。<br>・医学の歴史や日本の医療の現実、感染症、免疫、などを最小限の英単語でどこまで理解できるかを学びます。<br>・医療を学ぶ学生として、また日本人として自分の専門性や自分自身を英語で語れるようにする重要性を学びます。<br>・実習や卒業後の医療現場での実務の中で最低限どのくらい英語を知っていればよいのかの目処をつけてもらいます。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-CI：①④<br>共通DP1-CII： ①<br>共通DP1-CII： ①②③④<br>理学DP1-CI：①②④<br>理学DP2-CI：①②④⑤⑥<br>理学DP3-CI：①②④⑤⑥<br>理学DP4-CI：①②④⑤⑥<br>共通DP3-CI：①②③④⑥<br>理学DP5-CI：①②③④⑥<br>理学DP2-CI：①②③④ |
| 履修上の注意、履修要件 | 事前に、講義用のホームページで予告される学習内容とシラバスに沿ってテキストを予習しておくこと。<br>その日の講義内容について特にどのようなテーマのUnitなのかをできるだけ知っておいてください。<br>各Unitで学ぶ内容を見てわからない単語があれば調べておくこと。<br>その状況を想像しながら英語のテキストを読むようにしてください。<br>講義ごとに前回の講義で学んだ内容について、Topical DialogとInformationから小テスト問題が出ますので覚えてください。<br>家庭学習でもネイティブの発音をCDを聞いたり、HPを開いて聞いて耳を慣らします。音源をスマートフォンに入れていつでも聞けるようにしても良いでしょう。<br>定期試験は本文からの出題と小テストの内容となります。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業・課題への参加度 （20%）、小テスト(30%)、定期試験（50%）により評価する。 |
| 評価基準 | テキスト中の各ユニットのテーマの内容の理解と、なぜ学ぶ必要があるのかを理解する。<br>各ユニットの中に出てくる専門用語その他の英語表現について的確に意味がつかめて訳ができること。<br>各ユニットの中に出てくるテーマについて英語で話題に参加できる力をつけること。<br>専門科目で学んだ事、学ぶことの概要を英語で表現することができるか。<br>医療現場で患者さんと会話する場合に、相手の心の状況を踏まえて、感じの良い会話、丁寧な会話表現ができるように表現の違いを学ぶ。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 小テストについてはGoogle formを用いて行い、回答を返信後に生の点数が自動的に返されます。<br>さらに、英語表現の場合には回答に幅があるため、担当講師が各回答を検証して、回答の幅がある場合には点数の修正を行います。<br>小テストの結果についての傾向や注意事項については必要に応じで講義の中で解説します。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 医学系学生のための総合英語 | 高津昌宏ほか | 南雲堂 | 9784523176466 | |

参考文献

当該学年の講義に特化したインターネットホームページを解説して、必要な講義支援資料やYoutube動画などの情報を提供します。
HPについては講義開始前に、大学の事務局から提示されます。

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | （14：50～16：20） |
| 担当教員の実務経験 | 2013-2016年東都医療大学（東都大学）教授として、基礎看護英語、解剖生理学、病理学の講義を担当。看護系専門学校などでも同様に解剖生理学、病理学、生理学、微生物学などの基礎医学系講義を担当してきた。また担当教員は順天堂大学医学部神経学講座の協力研究員や非常勤講師として多発性硬化症やクローン病などの医学研究を行っています。<br>担当教員自身の実務的な英語はアメリカ、フランス、タイ、ケニヤ、メキシコなど海外研究機関での国際共同研究や指導、国際学会の主催や参加、国内での外国人博士研究員や研修生の指導を通じて生きた英語コミュニケーションの経験が40年間ほどあるので、様々な状況での専門知識の英語での解説や、英語を使う外国人とのユーモアも交えた交流のヒントが提供できるでしょう。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 百溪 英一 | Unit 1-1.　The Human Bodyでは医療スタッフとして重要な解剖学や生理学に関連した重要な英語表現を学びます。<br>特に、細胞、組織、臓器、器官系といった構造的な知識（解剖組織学的知識）と大まかな機能（生理学的知識）を英語で話ができるように、本文に出てくる基本的な英単語がわかるかの確認をします。Unit1は２回の講義でやります。 | Unit 1.The Human Bodyの 本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。<br>内容は1年生の解剖生理学で学んだ内容ですから、英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読み話の内容や展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて会話のキャッチボールを練習します。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても英語で話題提供できるくらい知りましょう。 | Unit 1.The Human Bodyの 本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。<br>内容は1年生の解剖生理学で学んだ内容ですから、英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読み話の内容や展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて会話のキャッチボールを練習します。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても英語で話題提供できるくらい知りましょう。 |
| 2 | 百溪 英一 | Unit 1-2.　The Human Bodyでは医療スタッフとして重要な解剖学や生理学に関連した重要な英語表現をさらに学びます。<br>Vocabulary, Topical Dialog, Translation, Informationを学びます。<br>特に、細胞、組織、臓器、器官系といった構造的な知識（解剖組織学的知識）と大まかな機能（生理学的知識）を英語で話ができるように、本文に出てくる基本的な英単語がわかるかの確認をします。<br>Informationの解剖図の日本語や英語は間違いなく思えましょう。 | ○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読み話の内容や展開を覚えます。次い | 【予習】Unit 1. The Human Bodyを読んで内容を理解してくること。<br>Vocabulary, Topical Dialog, Translation, Informationに目を通しておく。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テスト（本文や単語）の予習をしてください。<br>Topical Dialogについても自分がAかBになったつもりでイメージしてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | で、AパートBパートに分かれて会話のキャチボールを練習します。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。 | |
| 3 | 百溪 英一 | Unit 2. Nutrition and Fitness<br>人が生体の恒常性を維持するためにはそのためのエネルギーを外部から供給しなければなりません。そのために食品として栄養を摂取するわけです。しかし、食べ物が乏しく、一日中食べ物探しをしていた時代と代わり、現代は飽食の時代となり、過食による肥満や成人病が社会問題になっています。本Unit2ではこの問題に関わる実用的で重要な話題を学びます。Unit2は１回の講義でやります。 | ○Unit 2 の本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。<br>栄養と生活習慣病という現代病について英語で学びます。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br><br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。<br>○Unit１についての小テストをやります。 | 【予習】Unit 2. Nutrition and Fitnessを読んで内容を理解して、わからない単語を調べておくこと。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>次回の講義でやる小テストの予習をしてください。 |
| 4 | 百溪 英一 | Unit 3-1. Communicable Diseases<br>目的：数年来、社会を脅かしてきているCOVID-19以外にも多くの伝染病が知られている。このUnitでは重要な伝染用の病原体やその伝播様式、その予防方法などを英語でどのように言うのかを学びます。医療者として伝染病について話をして、情報交流する機会は多く、海外の情報の取得にも感染症の英語表現や英単語を覚えておくべきです。<br>このUunit3は２回の講義で学びます。 | ○前回の講義の単語テストをやります。<br>○ 本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は伝染病の病原菌や伝染経路その予防法などを英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。 | 【予習】Unit 3. Communicable Diseasesを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください。 |
| 5 | 百溪 英一 | Unit 3-2. Communicable Diseases<br>前回に続いて本文を読んでフレーズを覚えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声出しして読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボー | ○Topical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次 | 【予習】Unit 3. Communicable Diseasesを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語とフレージを覚えてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ルを練習します。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。 | いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | |
| 6 | 百溪 英一 | Unit 4-1. Hygiene and Public Health<br>Unit3で学んだ伝染病の予防のためにはUnit4の公衆衛生が重要です。公衆衛生の概念が確立からしたのは微生物の発見に始まる近代医学の歴史と、公衆衛生の基本となる上下水道の整備から、SARSの話題まで英語で学びます。<br>このUunit4は２回の講義で学びます。 | ○前回の講義の単語テストをやります。<br>○ 本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は伝染病と公衆衛生の歴史と発展を英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。 | 【予習】Unit 4. Hygiene and Public Healthを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テストの予習をしてください。 |
| 7 | 百溪 英一 | Unit 4-2. Hygiene and Public Health<br>目的：Unit4の内容を詳しく学びます。<br>前回に続いて公衆衛生学について学びます。単語やフレーズを覚えましょう。 | ○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | 【予習】Unit 4. Hygiene and Public Healthを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください。<br>次回の講義で行われる小テストのための予習をしてください。 |
| 8 | 百溪 英一 | Unit 5. Reforming Japanese Health care<br>医療職として日本の医療制度について知るべきです。日本の医療制度は世界的にも優れたものとされていますが、様々な問題点も内在していることを学びます。医療の経済や３分診療の問題点、介護保険導入の問題点、介護者の苦労について学びます。<br>このUunit5は1回の講義で学びます。 | ○前回の講義の小テストをやります。<br>○本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は日本の医療制度と問題点、高齢化社会を英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚 | 【予習】Unit 5. Reforming Japanese Health careを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | |
| 9 | 百溪 英一 | Unit6 Needlestick Injuries in Medicine<br>針刺し事故という医療現場での医療者(主に医師や看護師)のリスクについての話題を学びます。日米の針刺し事故の違いについて、医療の職場を安全性という観点から客観的に見ることを学びます。針刺し事故により生じる感染病の種類についても学びます。こういった重要な話題について英語でも交流できることは重要です。<br>このUunit6は1回の講義で学びます。 | ○前回の講義の小テストをやります。<br>○本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は日本の医療制度と問題点、高齢化社会を英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | 【予習】Unit 6. R Needlestick Injuries in Medicineを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>このunitの小テストの予習をしてください。 |
| 10 | 百溪 英一 | Unit 7-1. Dr. Kitasato and the Development of Medicine in Japan<br>日本の伝染病、細菌学の黎明期を作った、北里柴三郎の実績を学びます。重要なことは北里以前の日本には感染病に関する科学的な研究がなかったことも知りましょう。さらに、自らが興味を持って学んだ細菌学の研究のみならず、その知見や研究成果を国民の公衆衛生の向上に還元して、伝染病の法律制定のために政府に圧力をかけるなど、研究室に閉じこもった学者ではない高い志と実践についても学びたいと思います。<br>微生物培養や免疫抗体などの英語表現についても学びます。<br>◎このUunit7は1回の講義で学びます。 | ○前回の講義の小テスト（本文の単語中心）をやります。<br>○本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は日本の医学史のなかの北里柴三郎と野口英世をの業績を学びます。英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading | 【予習】Unit 7. Dr. Kitasato and the Development of Medicine in Japanを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テストに向けて予習をしてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | Comprehensionに答えます。 | |
| 11 | 百溪 英一 | Unit 8. The Medical Laboratory Technologist<br>病院における医療チームの一員である臨床検査技師の仕事について英語で学びます。また、臨床検査技師が取り扱う検体（サンプル）やどのような検査をしているのかについても学びます。<br>◎このUunit8は１回の講義で学びます。 | ○前回の講義の小テスト（本文の単語中心）をやります。<br>○本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は臨床検査技師の仕事を英語で詳しく知りましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | 【予習】Unit 8. The Medical Laboratory Technologist を読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テストの予習をしてください。 |
| 12 | 百溪 英一 | Unit 10-1. Radiological Technology<br>医療チームの一員として、多くの疾病の診断や治療に必要な放射線を利用した技術を取り扱う専門家である診療放射線技師の仕事について英語で学びます。放射線という危険な技術を扱うために高度な知識と技術の進展やどのように貢献しているのかを学ぶことは医療スタッフとしても大切です。<br>◎このUunit10は1回の講義で学びます。 | ○前回の講義の単語テストをやります。<br>○本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は診療放射線技師の仕事と取り扱う機器等を英語で学びます。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を読みましょう。言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語も覚えます。<br>□内容についても話 | 【予習】Unit 10. Radiological Technologyを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テストの予習をしてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 題提供できるくらい知りましょう。 | |
| 13 | 百溪 英一 | Unit 11-1. Physical Therapy<br>医療チームの一員として、患者と接しながら多岐にわたる仕事を担う、理学療法士の仕事について学びます。理学療法士の歴史、大きく6つの領域に分かれている理学療法士の仕事についても知りましょう。心肺領域、老年医学領域、神経学領域、整形外科領域、小児科領域。表皮領域があります。関連する専門用語も覚えます。<br>◎このUunit11は1回の講義で学びます。 | ○前回の講義の小テストをやります。<br>○ 本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は理学療法の歴史、専門分野などを英語で学びます。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。 | 【予習】Unit 13. Speech-Language Therapy as a Vocationを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テストの予習をしてください。 |
| 14 | 百溪 英一 | Unit 14. Orthoptic and Visual Science<br>○前回の講義の単語テストをやります。<br>○読み上げ練習をします。視覚矯正法、視覚科学、取り扱う腫瘍疾病について英語で学びます。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | ○主題の概要をイメージしてメインテキストとストーリーと単語を学びます。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語も覚えましょう。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | 【予習】Unit 12と13の本文を読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください。 |
| 15 | 百溪 英一 | 【期末試験】<br>テキスト：各LessonのSectionから英単語の意味、日本語と英語の繋がり、本文中の内容を覚えているか（日本語でも英語でも）の確認問題、穴埋めや単語の記述なども出します。講義中に大切だと説明した単語や熟語についてはしっかり覚えましょう。<br>医療スタッフ向けの英語表現の実際についても学んでおくこと。<br>小テストの内容がヒントとなりますが問題数は多くなります。 | 多岐選択式プラス記述式（英単語など）で実施します。60分間です。 | 講義専用のホームページなどを活用して、試験のためだけでない医療英語の基礎力と応用力をつけてください。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 医療英語 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Medical English | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 百渓 英一 | ナンバリング | BAP1204/BAR1204 |
| 担当教員 | 百渓 英一 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 診療放射線学科学生を対象とした本講義のポイントは以下の通りである。<br>①臨床の様々な現場で患者との英語によるコミュニケーションを実現するための基礎となる慣用表現を修得する。実際に使えない英語は意味がないので、発音練習の中でアクセント、フレーズ、イントネーションなども知り、基本的単語と簡単な構文を駆使することにより、かなり喋れるようになることを目指す。<br>②専門分野の知識と理解深めるためには英語力が不可欠である。講義を通じて必要な単語を覚えて英文の構造の理解を学ぶことで、英語が読み取れるようになる。本講義の内容は、解剖学、生理学、病理学などの専門科目の内容とリンクするので国家試験に向けた学びも英語を通じて強化することができる。英語論文や抄録の翻訳にもチャレンジして最新情報を取り入れる力をつける。<br>③学修した内容については小テストを実施して確認をする。従って予習や復習が大切である。小テストの内容については講義の中で説明します。<br>④理学療法士が勤務する医療の現場で遭遇する状況での患者や仲間との英語でのコミュニケーションの実用的なフレーズを学びます。 |
| 到達目標 | 世界はグローバル化の時代に入りました。2004年には600万人程だった外国人旅行者が2014には1200万人を超えました。<br>そのために、医療の領域における国際共通語である英語力のニーズも高まってきたということです。<br>・本科目では外国人患者様や医療者とのコミュニケーションスキルの実現に有用な専門領域に関連する話題を英語で表現できるようにします。<br>・医療や介護の現場における働く仲間の理解、基礎的英単語や英語を通じて医学全般の最新知識を身につけていける力を養うことを目標とします。<br>・すでに学んできた医療系基礎の用語を英語でも覚えていきます。<br>・英語を母国語とする患者さんや医療チームの仲間と現場で使うのが楽しみになるような使える実践的なフレースも増やします。<br>・それぞれの講義では皆さんの英語で話す話題が増えて教養にも役立つ講義を目指します。 |
| 授業の位置づけ | ・本講義の目的は本学科で学んできた専門的医療知識や考え方を、より論理的な言語である英語で理解することにより他科目の学習の復習もできます。<br>・医学の歴史や日本の医療の現実、感染症、免疫、などを最小限の英単語でどこまで理解できるかを学びます。<br>・医療を学ぶ学生として、また日本人として自分の専門性や自分自身を英語で語れるようにする重要性を学びます。<br>・実習や卒業後の医療現場での実務の中で最低限どのくらい英語を知っていればよいのかの目処をつけてもらいます。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-CI：①④<br>共通DP1-CII： ①<br>共通DP1-CII： ①②③④<br>理学DP1-CI：①②④<br>理学DP2-CI：①②④⑤⑥<br>理学DP3-CI：①②④⑤⑥<br>理学DP4-CI：①②④⑤⑥<br>共通DP3-CI：①②③④⑥<br>理学DP5-CI：①②③④⑥<br>理学DP2-CI：①②③④ |
| 履修上の注意、履修要件 | 事前に、講義用のホームページで予告される学習内容とシラバスに沿ってテキストを予習しておくこと。<br>その日の講義内容について特にどのようなテーマのUnitなのかをできるだけ知っておいてください。<br>各Unitで学ぶ内容を見てわからない単語があれば調べておくこと。<br>その状況を想像しながら英語のテキストを読むようにしてください。<br>講義ごとに前回の講義で学んだ内容について、Topical DialogとInformationから小テスト問題が出ますので覚えてください。<br>家庭学習でもネイティブの発音をCDを聞いたり、HPを開いて聞いて耳を慣らします。音源をスマートフォンに入れていつでも聞けるようにしても良いでしょう。<br>定期試験は本文からの出題と小テストの内容となります。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業・課題への参加度 （20%）、小テスト(30%)、定期試験（50%）により評価する。 |
| 評価基準 | テキスト中の各ユニットのテーマの内容の理解と、なぜ学ぶ必要があるのかを理解する。<br>各ユニットの中に出てくる専門用語その他の英語表現について的確に意味がつかめて訳ができること。<br>各ユニットの中に出てくるテーマについて英語で話題に参加できる力をつけること。<br>専門科目で学んだ事、学ぶことの概要を英語で表現することができるか。<br>医療現場で患者さんと会話する場合に、相手の心の状況を踏まえて、感じの良い会話、丁寧な会話表現ができるように表現の違いを学ぶ。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 小テストについてはGoogle formを用いて行い、回答を返信後に生の点数が自動的に返されます。<br>さらに、英語表現の場合には回答に幅があるため、担当講師が各回答を検証して、回答の幅がある場合には点数の修正を行います。<br>小テストの結果についての傾向や注意事項については必要に応じで講義の中で解説します。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 医学系学生のための総合英語 | 高津昌宏ほか | 南雲堂 | 9784523176466 | |

参考文献

当該学年の講義に特化したインターネットホームページを解説して、必要な講義支援資料やYoutube動画などの情報を提供します。
HPについては講義開始前に、大学の事務局から提示されます。

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | （14：50～16：20） |
| 担当教員の実務経験 | 2013-2016年東都医療大学（東都大学）教授として、基礎看護英語、解剖生理学、病理学の講義を担当。看護系専門学校などでも同様に解剖生理学、病理学、生理学、微生物学などの基礎医学系講義を担当してきた。また担当教員は順天堂大学医学部神経学講座の協力研究員や非常勤講師として多発性硬化症やクローン病などの医学研究を行っています。<br>担当教員自身の実務的な英語はアメリカ、フランス、タイ、ケニヤ、メキシコなど海外研究機関での国際共同研究や指導、国際学会の主催や参加、国内での外国人博士研究員や研修生の指導を通じて生きた英語コミュニケーションの経験が40年間ほどあるので、様々な状況での専門知識の英語での解説や、英語を使う外国人とのユーモアも交えた交流のヒントが提供できるでしょう。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 百溪 英一 | Unit 1-1.　The Human Bodyでは医療スタッフとして重要な解剖学や生理学に関連した重要な英語表現を学びます。<br>特に、細胞、組織、臓器、器官系といった構造的な知識（解剖組織学的知識）と大まかな機能（生理学的知識）を英語で話ができるように、本文に出てくる基本的な英単語がわかるかの確認をします。Unit1は２回の講義でやります。 | Unit 1.The Human Bodyの 本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。<br>内容は1年生の解剖生理学で学んだ内容ですから、英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読み話の内容や展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて会話のキャッチボールを練習します。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても英語で話題提供できるくらい知りましょう。 | Unit 1.The Human Bodyの 本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。<br>内容は1年生の解剖生理学で学んだ内容ですから、英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読み話の内容や展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて会話のキャッチボールを練習します。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても英語で話題提供できるくらい知りましょう。 |
| 2 | 百溪 英一 | Unit 1-2.　The Human Bodyでは医療スタッフとして重要な解剖学や生理学に関連した重要な英語表現をさらに学びます。<br>Vocabulary, Topical Dialog, Translation, Informationを学びます。<br>特に、細胞、組織、臓器、器官系といった構造的な知識（解剖組織学的知識）と大まかな機能（生理学的知識）を英語で話ができるように、本文に出てくる基本的な英単語がわかるかの確認をします。<br>Informationの解剖図の日本語や英語は間違いなく思えましょう。 | ○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読み話の内容や展開を覚えます。次い | 【予習】Unit 1. The Human Bodyを読んで内容を理解してくること。<br>Vocabulary, Topical Dialog, Translation, Informationに目を通しておく。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テスト（本文や単語）の予習をしてください。<br>Topical Dialogについても自分がAかBになったつもりでイメージしてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | で、AパートBパートに分かれて会話のキャチボールを練習します。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。 | |
| 3 | 百溪 英一 | Unit 2. Nutrition and Fitness<br>人が生体の恒常性を維持するためにはそのためのエネルギーを外部から供給しなければなりません。そのために食品として栄養を摂取するわけです。しかし、食べ物が乏しく、一日中食べ物探しをしていた時代と代わり、現代は飽食の時代となり、過食による肥満や成人病が社会問題になっています。本Unit2ではこの問題に関わる実用的で重要な話題を学びます。Unit2は１回の講義でやります。 | ○Unit 2 の本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。<br>栄養と生活習慣病という現代病について英語で学びます。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br><br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。<br>○Unit１についての小テストをやります。 | 【予習】Unit 2. Nutrition and Fitnessを読んで内容を理解して、わからない単語を調べておくこと。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>次回の講義でやる小テストの予習をしてください。 |
| 4 | 百溪 英一 | Unit 3-1. Communicable Diseases<br>目的：数年来、社会を脅かしてきているCOVID-19以外にも多くの伝染病が知られている。このUnitでは重要な伝染用の病原体やその伝播様式、その予防方法などを英語でどのように言うのかを学びます。医療者として伝染病について話をして、情報交流する機会は多く、海外の情報の取得にも感染症の英語表現や英単語を覚えておくべきです。<br>このUunit3は２回の講義で学びます。 | ○前回の講義の単語テストをやります。<br>○ 本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は伝染病の病原菌や伝染経路その予防法などを英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。 | 【予習】Unit 3. Communicable Diseasesを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください。 |
| 5 | 百溪 英一 | Unit 3-2. Communicable Diseases<br>前回に続いて本文を読んでフレーズを覚えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声出しして読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボー | ○Topical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次 | 【予習】Unit 3. Communicable Diseasesを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語とフレージを覚えてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ルを練習します。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。 | いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | |
| 6 | 百溪 英一 | Unit 4-1. Hygiene and Public Health<br>Unit3で学んだ伝染病の予防のためにはUnit4の公衆衛生が重要です。公衆衛生の概念が確立からしたのは微生物の発見に始まる近代医学の歴史と、公衆衛生の基本となる上下水道の整備から、SARSの話題まで英語で学びます。<br>このUunit4は２回の講義で学びます。 | ○前回の講義の単語テストをやります。<br>○ 本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は伝染病と公衆衛生の歴史と発展を英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。 | 【予習】Unit 4. Hygiene and Public Healthを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テストの予習をしてください。 |
| 7 | 百溪 英一 | Unit 4-2. Hygiene and Public Health<br>目的：Unit4の内容を詳しく学びます。<br>前回に続いて公衆衛生学について学びます。単語やフレーズを覚えましょう。 | ○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | 【予習】Unit 4. Hygiene and Public Healthを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください。<br>次回の講義で行われる小テストのための予習をしてください。 |
| 8 | 百溪 英一 | Unit 5. Reforming Japanese Health care<br>医療職として日本の医療制度について知るべきです。日本の医療制度は世界的にも優れたものとされていますが、様々な問題点も内在していることを学びます。医療の経済や３分診療の問題点、介護保険導入の問題点、介護者の苦労について学びます。<br>このUunit5は1回の講義で学びます。 | ○前回の講義の小テストをやります。<br>○本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は日本の医療制度と問題点、高齢化社会を英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚 | 【予習】Unit 5. Reforming Japanese Health careを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | |
| 9 | 百溪 英一 | Unit6 Needlestick Injuries in Medicine<br>針刺し事故という医療現場での医療者(主に医師や看護師)のリスクについての話題を学びます。日米の針刺し事故の違いについて、医療の職場を安全性という観点から客観的に見ることを学びます。針刺し事故により生じる感染病の種類についても学びます。こういった重要な話題について英語でも交流できることは重要です。<br>このUunit6は1回の講義で学びます。 | ○前回の講義の小テストをやります。<br>○本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は日本の医療制度と問題点、高齢化社会を英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | 【予習】Unit 6. R Needlestick Injuries in Medicineを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>このunitの小テストの予習をしてください。 |
| 10 | 百溪 英一 | Unit 7-1. Dr. Kitasato and the Development of Medicine in Japan<br>日本の伝染病、細菌学の黎明期を作った、北里柴三郎の実績を学びます。重要なことは北里以前の日本には感染病に関する科学的な研究がなかったことも知りましょう。さらに、自らが興味を持って学んだ細菌学の研究のみならず、その知見や研究成果を国民の公衆衛生の向上に還元して、伝染病の法律制定のために政府に圧力をかけるなど、研究室に閉じこもった学者ではない高い志と実践についても学びたいと思います。<br>微生物培養や免疫抗体などの英語表現についても学びます。<br>◎このUunit7は1回の講義で学びます。 | ○前回の講義の小テスト（本文の単語中心）をやります。<br>○本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は日本の医学史のなかの北里柴三郎と野口英世をの業績を学びます。英語で復習です。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading | 【予習】Unit 7. Dr. Kitasato and the Development of Medicine in Japanを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テストに向けて予習をしてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | Comprehensionに答えます。 | |
| 11 | 百溪 英一 | Unit 8. The Medical Laboratory Technologist<br>病院における医療チームの一員である臨床検査技師の仕事について英語で学びます。また、臨床検査技師が取り扱う検体（サンプル）やどのような検査をしているのかについても学びます。<br>◎このUunit8は１回の講義で学びます。 | ○前回の講義の小テスト（本文の単語中心）をやります。<br>○本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は臨床検査技師の仕事を英語で詳しく知りましょう。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | 【予習】Unit 8. The Medical Laboratory Technologist を読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テストの予習をしてください。 |
| 12 | 百溪 英一 | Unit 10-1. Radiological Technology<br>医療チームの一員として、多くの疾病の診断や治療に必要な放射線を利用した技術を取り扱う専門家である診療放射線技師の仕事について英語で学びます。放射線という危険な技術を扱うために高度な知識と技術の進展やどのように貢献しているのかを学ぶことは医療スタッフとしても大切です。<br>◎このUunit10は1回の講義で学びます。 | ○前回の講義の単語テストをやります。<br>○本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は診療放射線技師の仕事と取り扱う機器等を英語で学びます。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を読みましょう。言葉のキャチボールを練習します。英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語も覚えます。<br>□内容についても話 | 【予習】Unit 10. Radiological Technologyを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テストの予習をしてください。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 題提供できるくらい知りましょう。 | |
| 13 | 百溪 英一 | Unit 11-1. Physical Therapy<br>医療チームの一員として、患者と接しながら多岐にわたる仕事を担う、理学療法士の仕事について学びます。理学療法士の歴史、大きく6つの領域に分かれている理学療法士の仕事についても知りましょう。心肺領域、老年医学領域、神経学領域、整形外科領域、小児科領域。表皮領域があります。関連する専門用語も覚えます。<br>◎このUunit11は1回の講義で学びます。 | ○前回の講義の小テストをやります。<br>○ 本文を先生が読んで、CDのネイティブの声を聞いて復唱。内容は理学療法の歴史、専門分野などを英語で学びます。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。<br>○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。 | 【予習】Unit 13. Speech-Language Therapy as a Vocationを読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください、<br>小テストの予習をしてください。 |
| 14 | 百溪 英一 | Unit 14. Orthoptic and Visual Science<br>○前回の講義の単語テストをやります。<br>○読み上げ練習をします。視覚矯正法、視覚科学、取り扱う腫瘍疾病について英語で学びます。その時、喋りのリズム、切るところ(/)や抑揚（↑ ↓）を本文にメモすると役立ちます。○本文を読んでReading Comprehensionに答えます。<br>○主題の概要をイメージしてTopical Dialogで会話文を覚えます。AとBの会話文全体を声を出して読んで、話の展開を覚えます。次いで、AパートBパートに分かれて言葉のキャチボールを練習します。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語を覚えます。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | ○主題の概要をイメージしてメインテキストとストーリーと単語を学びます。<br>英語会話を聞く時、自分の覚えているフレーズだとすぐに分かるのです。<br>○NoteやInformationの単語や熟語も覚えましょう。<br>□内容についても話題提供できるくらい知りましょう。 | 【予習】Unit 12と13の本文を読んで内容を理解してくること。<br>【復習】NoteとInformationに出てくる医学生物学用語を覚えてください。 |
| 15 | 百溪 英一 | 【期末試験】<br>テキスト：各LessonのSectionから英単語の意味、日本語と英語の繋がり、本文中の内容を覚えているか（日本語でも英語でも）の確認問題、穴埋めや単語の記述なども出します。講義中に大切だと説明した単語や熟語についてはしっかり覚えましょう。<br>医療スタッフ向けの英語表現の実際についても学んでおくこと。<br>小テストの内容がヒントとなりますが問題数は多くなります。 | 多岐選択式プラス記述式（英単語など）で実施します。60分間です。 | 講義専用のホームページなどを活用して、試験のためだけでない医療英語の基礎力と応用力をつけてください。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 中国語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Chinese I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 祝　頌燕 | ナンバリング | BAP1205/BAR1205 |
| 担当教員 | 祝　頌燕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 現在中国語を母語とする人は約13億人以上、第二言語としても約2億人が使用しているといわれ、世界最大の話者人口を有する言語である。本講義では、中国語の発音と文法を基礎から学修し、初歩的なコミュニケーション能力を身に付けることを目的し、中国語勉強の土台をつくるプログラムである。授業の前半は発音をしっかりマスターし、後半から文法、会話に挑み、読み、聞き、書きをバランスよく学修することを目指す。基礎単語約300～400語，簡単な日常挨拶語を学修することを目標とする。 |
| 到達目標 | 1、声調を含む発音を正しく発声することができる。<br>2、基本単語約300～400語、ピンインの読み方と綴り方を身につけ、読んだり書いたりすることができる。<br>3、基本文型、基本文法を理解し、読んだり書いたりすることができる。<br>4、日常の行動や好みについて話したり、簡単な意見（賛成、反対）を中国語で表現できる。 |
| 授業の位置づけ | 第二外国語 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 中国語は文法がやさしく、単語も日本語と同じか似ているものが多いので、日本人には習得しやすい言語と思われるでしょう。しかし、中国語は日本語とは全く違う言語であり、同じ漢字でも発音も全然違うし、日本語にはない発音も多いため、教科書に付属の音声ＣＤを繰り返し聞いて、発音の練習を重ね、正しい発音をマスターすること。毎回の予習、復習、どちらも音声教材を利用して、大きな声で繰り返し発音し、覚えること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 課題の提出、出席状況や学習態度（60%）期末試験（40%） |
| 評価基準 | 日常会話ができる |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で適宜に返却する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 初級中国語きっかけ24 | 相原茂　蘇紅 | 朝日出版社 | | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 『初めての中国語学習辞典』相原　茂　　朝日出版社<br>『どうちがう？似たもの中国語』相原　茂　　蘇紅　朝日出版社 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 授業終了後、随時対応する。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 祝　頌燕 | オリエンテーション<br>中国という14億人の人口がいる国とは？<br>中国語とは？<br>授業、試験、評価を説明する | 講義 | 【予習】シラバスをよく確認しておく。教科書33~34ページを読み、中国語に対する基本的な理解を得たうえで授業に臨む（90分）<br>【復習】中国と中国語を知っておく(90分) |
| 2 | 祝　頌燕 | lesson1<br>声調<br>単母音<br>複母音 | 講義 | 【予習】音声ダウンロードする。音声教材を用い、声調と母音を聞いておく（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、母音の違いを把握し正しい発音する（90分） |
| 3 | 祝　頌燕 | lesson２<br>母音の復習<br>声母（子音）<br>無気音と有気音<br>そり舌音<br>消えるoとe | 講義 | 【予習】音声教材を用い、子音を聞いておく（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、子音の違いを聞き分ける（90分） |
| 4 | 祝　頌燕 | lesson3 | 講義 | 【予習】音声教材を用い、鼻母音を聞いてお |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 前回の復習<br>鼻音を伴う母音<br>またしても消えるe | | く（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、鼻母音の違いを把握し発音しながら練習する（90分） |
| 5 | 祝　頌燕 | lesson４<br>前回の復習<br>声調変化<br>ｒ化<br>軽声<br>声調の組み合わせ | 講義 | 【予習】音声教材を用い、声調変化とｒ化を聞いておく（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、軽声と声調変化を把握し発音しながら練習する（90分） |
| 6 | 祝　頌燕 | 発音の復習<br>ピンインの書き取り練習<br>発音矯正<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を用い、ピンインを聞いておく（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、ピンインの綴りと声調記号を覚える。挨拶言葉をすぐ言えるように練習する（90分） |
| 7 | 祝　頌燕 | lesson5　　キャンパスで（１）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 8 | 祝　頌燕 | lesson６　　キャンパスで（２）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 9 | 祝　頌燕 | lesson7　　学食で（１）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 10 | 祝　頌燕 | lesson８　　学食で（２）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 11 | 祝　頌燕 | lesson９　　浅草で（１）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 12 | 祝　頌燕 | lesson10　　浅草で（２）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 13 | 祝　頌燕 | lesson11　　コンビニで<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 14 | 祝　頌燕 | lesson12　　喫茶店で<br>新出単語 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | | 【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 15 | 祝　頌燕 | 前期のまとめと復習<br>ヒヤリング、スピーキングの練習 | 講義 | 【予習】前期学んだことに目を通しておく（90分）<br>【復習】授業で学んだことをしっかり覚える。前期期末試験に備える（90分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 中国語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Chinese I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 祝　頌燕 | ナンバリング | BAP1205/BAR1205 |
| 担当教員 | 祝　頌燕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 現在中国語を母語とする人は約13億人以上、第二言語としても約2億人が使用しているといわれ、世界最大の話者人口を有する言語である。本講義では、中国語の発音と文法を基礎から学修し、初歩的なコミュニケーション能力を身に付けることを目的し、中国語勉強の土台をつくるプログラムである。授業の前半は発音をしっかりマスターし、後半から文法、会話に挑み、読み、聞き、書きをバランスよく学修することを目指す。基礎単語約300～400語，簡単な日常挨拶語を学修することを目標とする。 |
| 到達目標 | 1、声調を含む発音を正しく発声することができる。<br>2、基本単語約300～400語、ピンインの読み方と綴り方を身につけ、読んだり書いたりすることができる。<br>3、基本文型、基本文法を理解し、読んだり書いたりすることができる。<br>4、日常の行動や好みについて話したり、簡単な意見（賛成、反対）を中国語で表現できる。 |
| 授業の位置づけ | 第二外国語 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 中国語は文法がやさしく、単語も日本語と同じか似ているものが多いので、日本人には習得しやすい言語と思われるでしょう。しかし、中国語は日本語とは全く違う言語であり、同じ漢字でも発音も全然違うし、日本語にはない発音も多いため、教科書に付属の音声ＣＤを繰り返し聞いて、発音の練習を重ね、正しい発音をマスターすること。毎回の予習、復習、どちらも音声教材を利用して、大きな声で繰り返し発音し、覚えること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 課題の提出、出席状況や学習態度（60%）期末試験（40%） |
| 評価基準 | 日常会話ができる |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で適宜に返却する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 初級中国語きっかけ24 | 相原茂　蘇紅 | 朝日出版社 | | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 『初めての中国語学習辞典』相原　茂　　朝日出版社<br>『どうちがう？似たもの中国語』相原　茂　　蘇紅　朝日出版社 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 授業終了後、随時対応する。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 祝　頌燕 | オリエンテーション<br>中国という14億人の人口がいる国とは？<br>中国語とは？<br>授業、試験、評価を説明する | 講義 | 【予習】シラバスをよく確認しておく。教科書33~34ページを読み、中国語に対する基本的な理解を得たうえで授業に臨む（90分）<br>【復習】中国と中国語を知っておく(90分) |
| 2 | 祝　頌燕 | lesson1<br>声調<br>単母音<br>複母音 | 講義 | 【予習】音声ダウンロードする。音声教材を用い、声調と母音を聞いておく（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、母音の違いを把握し正しい発音する（90分） |
| 3 | 祝　頌燕 | lesson２<br>母音の復習<br>声母（子音）<br>無気音と有気音<br>そり舌音<br>消えるoとe | 講義 | 【予習】音声教材を用い、子音を聞いておく（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、子音の違いを聞き分ける（90分） |
| 4 | 祝　頌燕 | lesson3 | 講義 | 【予習】音声教材を用い、鼻母音を聞いてお |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 前回の復習<br>鼻音を伴う母音<br>またしても消えるe | | く（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、鼻母音の違いを把握し発音しながら練習する（90分） |
| 5 | 祝　頌燕 | lesson４<br>前回の復習<br>声調変化<br>ｒ化<br>軽声<br>声調の組み合わせ | 講義 | 【予習】音声教材を用い、声調変化とｒ化を聞いておく（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、軽声と声調変化を把握し発音しながら練習する（90分） |
| 6 | 祝　頌燕 | 発音の復習<br>ピンインの書き取り練習<br>発音矯正<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を用い、ピンインを聞いておく（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、ピンインの綴りと声調記号を覚える。挨拶言葉をすぐ言えるように練習する（90分） |
| 7 | 祝　頌燕 | lesson5　　キャンパスで（１）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 8 | 祝　頌燕 | lesson６　　キャンパスで（２）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 9 | 祝　頌燕 | lesson7　　学食で（１）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 10 | 祝　頌燕 | lesson８　　学食で（２）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 11 | 祝　頌燕 | lesson９　　浅草で（１）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 12 | 祝　頌燕 | lesson10　　浅草で（２）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 13 | 祝　頌燕 | lesson11　　コンビニで<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 14 | 祝　頌燕 | lesson12　　喫茶店で<br>新出単語 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | | 【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 15 | 祝　頌燕 | 前期のまとめと復習<br>ヒヤリング、スピーキングの練習 | 講義 | 【予習】前期学んだことに目を通しておく（90分）<br>【復習】授業で学んだことをしっかり覚える。前期期末試験に備える（90分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 中国語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Chinese II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 祝　頌燕 | ナンバリング | BAP1206/BAR1206 |
| 担当教員 | 祝　頌燕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 中国語Ⅰの文法をまんべんなくマスターするためのプログラムである。学生は前期で学修した中国語Ⅰをしっかり覚えた上で、一層複雑な文法、会話の勉強に挑む。予習と復習をきちんと行い、文法をしっかりマスターし、授業中の会話にも積極的に参加することにより、日常生活に必要なコミュニケ―ション能力を身に付ける。常用語400～500語による中国語単文の日本語訳と日本語の中国語訳ができ、中国語検定準4級に合格することを目標とする。 |
| 到達目標 | 1、 声調を含む発音を正しく発音することができる。<br>2、 基礎単語約800語、ピンインの読み方と綴り方を身に付け、読んだり書いたりすることができる。<br>3、 基本文型、基本文法を理解し、読んだり書いたりすることができる。<br>4、 日常の行動や好みについて話したり、相手とのやりとりができる。 |
| 授業の位置づけ | 第二外国語 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 前期に中国語Ⅰを受講していることが受講条件となる。前期に引き続き、音声教材を繰り返し聞いて、正しく発音すること。基本文法を理解したうえで、ヒヤリング、スピーキングをしっかり練習すること。毎回の予習、復習、どちらも音声教材を利用して、大きな声で繰り返し発音し、覚えること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 課題の提出、出席状況や学習態度（60%）期末テスト、小テスト（40%） |
| 評価基準 | 初級中国語を聴く、話す、読む、書くことが出来る |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で適宜に返却する | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 初級中国語きっかけ２４ | 相原茂　　蘇紅 | 朝日出版社 | | |
| 参考文献 | | | | |
| 『はじめての中国語学習辞典』相原　茂　　朝日出版社<br>『どうちがう？似たもの中国語』相原　茂　　蘇紅　朝日出版社 | | | | |
| その他 | | | | |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 授業終了後、随時対応する。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 祝　頌燕 | 前期の復習<br>発音チェック<br>会話表現の復習<br>夏休みについての会話 | 講義 | 【予習】前期学んだ内容を音声教材で確認、夏休みについての会話文を作っておく（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、単語、基本表現、会話文を身に付ける（90分） |
| 2 | 祝　頌燕 | lesson13　　電気店で<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 3 | 祝　頌燕 | lesson14　　ドラッグストアで<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | | |
| 4 | 祝　頌燕 | lesson15　居酒屋で<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 5 | 祝　頌燕 | lesson16　中華料理店で<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 6 | 祝　頌燕 | lesson17　タクシー乗り場で<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 7 | 祝　頌燕 | lesson18　電話をかける<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 8 | 祝　頌燕 | lesson19　電車の中で<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 9 | 祝　頌燕 | lesson20　温泉旅館で（１）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 10 | 祝　頌燕 | lesson21　温泉旅館で（２）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 11 | 祝　頌燕 | lesson22　街で（1）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 12 | 祝　頌燕 | lesson23　街で（２）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 13 | 祝　頌燕 | lesson24　北京へいらっしゃい！<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | | |
| 14 | 祝　頌燕 | DVD観賞<br>中国の文化、社会、習慣への理解を深める | | 【予習】中国の歴史、文化、社会、生活習慣について、知識を得ておく。（90分）<br>【復習】興味のあるものをインタネットでさらに調べる。（90分） |
| 15 | 祝　頌燕 | 後期のまとめと復習<br>ヒヤリング、スピーキングの練習 | 講義 | 予習】後期学んだことに目を通しておく。（90分）<br>【復習】授業で学んだことをしっかり覚える。後期期末試験に備える（90分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 中国語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Chinese II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 祝　頌燕 | ナンバリング | BAP1206/BAR1206 |
| 担当教員 | 祝　頌燕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 中国語Ｉの文法をまんべんなくマスターするためのプログラムである。学生は前期で学修した中国語Ｉをしっかり覚えた上で、一層複雑な文法、会話の勉強に挑む。予習と復習をきちんと行い、文法をしっかりマスターし、授業中の会話にも積極的に参加することにより、日常生活に必要なコミュニケ―ション能力を身に付ける。常用語400～500語による中国語単文の日本語訳と日本語の中国語訳ができ、中国語検定準4級に合格することを目標とする。 |
| 到達目標 | １、 声調を含む発音を正しく発音することができる。<br>２、 基礎単語約800語、ピンインの読み方と綴り方を身に付け、読んだり書いたりすることができる。<br>３、 基本文型、基本文法を理解し、読んだり書いたりすることができる。<br>４、 日常の行動や好みについて話したり、相手とのやりとりができる。 |
| 授業の位置づけ | 第二外国語 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 前期に中国語Ｉを受講していることが受講条件となる。前期に引き続き、音声教材を繰り返し聞いて、正しく発音すること。基本文法を理解したうえで、ヒヤリング、スピーキングをしっかり練習すること。毎回の予習、復習、どちらも音声教材を利用して、大きな声で繰り返し発音し、覚えること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 課題の提出、出席状況や学習態度（60%）期末テスト、小テスト（40%） |
| 評価基準 | 初級中国語を聴く、話す、読む、書くことが出来る |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で適宜に返却する | |

テキスト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 初級中国語きっかけ２４ | 相原茂　　蘇紅 | 朝日出版社 | | |

参考文献

『はじめての中国語学習辞典』相原　茂　　朝日出版社
『どうちがう？似たもの中国語』相原　茂　　蘇紅　朝日出版社

| | |
|---|---|
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 授業終了後、随時対応する。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 祝　頌燕 | 前期の復習<br>発音チェック<br>会話表現の復習<br>夏休みについての会話 | 講義 | 【予習】前期学んだ内容を音声教材で確認、夏休みについての会話文を作っておく（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、単語、基本表現、会話文を身に付ける（90分） |
| 2 | 祝　頌燕 | lesson13　　電気店で<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 3 | 祝　頌燕 | lesson14　　ドラッグストアで<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | | |
| 4 | 祝　頌燕 | lesson15　居酒屋で<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 5 | 祝　頌燕 | lesson16　中華料理店で<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 6 | 祝　頌燕 | lesson17　タクシー乗り場で<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 7 | 祝　頌燕 | lesson18　電話をかける<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 8 | 祝　頌燕 | lesson19　電車の中で<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 9 | 祝　頌燕 | lesson20　温泉旅館で（１）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 10 | 祝　頌燕 | lesson21　温泉旅館で（２）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 11 | 祝　頌燕 | lesson22　街で（1）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 12 | 祝　頌燕 | lesson23　街で（２）<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil<br>ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |
| 13 | 祝　頌燕 | lesson24　北京へいらっしゃい！<br>新出単語<br>本文<br>語法ポイント<br>Driil | 講義 | 【予習】音声教材を繰り返し聞き、新出単語と本文を音読し、内容を把握する（90分）<br>【復習】音声教材を聞き、学習した内容をすべてすらすら言えるようにする。（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ヒヤリング、スピーキングの練習<br>応答練習 | | |
| 14 | 祝　頌燕 | DVD観賞<br>中国の文化、社会、習慣への理解を深める | | 【予習】中国の歴史、文化、社会、生活習慣について、知識を得ておく。（90分）<br>【復習】興味のあるものをインタネットでさらに調べる。（90分） |
| 15 | 祝　頌燕 | 後期のまとめと復習<br>ヒヤリング、スピーキングの練習 | 講義 | 予習】後期学んだことに目を通しておく。（90分）<br>【復習】授業で学んだことをしっかり覚える。後期期末試験に備える（90分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | フランス語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | French I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 五十嵐　雅子 | ナンバリング | BAP1207/BAR1207 |
| 担当教員 | 五十嵐　雅子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | フランス語の初学者を対象とし、基礎的な会話表現を理解し、活用できることを目指す。歴史を刻むパリのエッフェル塔、ベルサイユ宮殿、ルーブル美術館など、あるいは光あふれる地中海の保養地やプロバンスなど、観光先進国フランスの文化と社会の魅力を映像で紹介し、生きた言葉の理解を深める。簡単な挨拶とABCから始め、綴りと発音の関係を学び、基礎的な会話のリスニングと口頭練習を繰り返し、そこに出てくる単語や文法項目の把握と理解を確認しながら進めていく。挨拶や自己紹介、日本文化の紹介などを通じて、フランス語圏の人々とコミュニケーションをとることができれば、日本にいても世界が一段と広がることであろう。 |
| 到達目標 | 1. フランス語のアルファベットを覚える<br>2. つづりと音の関係を覚え、フランス語特有の発音ができるようになる<br>3. フランスの文化や日常の映像を通じてヨーロッパ文化の一端を理解し、説明できる<br>4. 基本的な挨拶や自己紹介、身の回りの話題についての簡単な会話を交わすことができる<br>5. 基本的な文法とその仕組みを覚え、展開活用することができる<br>6. Webを活用し、簡単な文章を読むことができる |
| 授業の位置づけ | 言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 人生の豊かさを育む科目です。フランスを知りたい、新しい言葉を学びたいなど好奇心を持って授業に臨みましょう<br>音を聞いて学ぶ学習法が中心です。スマホやパソコンなどで映像を見たり、音声を聞いたり、授業外の余暇時間を活用して下さい。初級外国語の学習成果は触れている時間の長さで決まります<br>授業の教科書に基づいた映像教材のほかに、ネットにアップされている入門教材や、フランス社会に関する映像を活用し、学びの幅を広げていきます。カフェ、マルシェ、シネマ、メゾン、シャトー、プチ～などの言葉やマドレーヌ、ガトーショコラに代表されるお菓子の名前、ココリコ(芸人)などフランス語由来の日本語はたくさんあります。judo、manga、sushiなど日本語もフランス語に入っています。探してみましょう。<br>授業の進み方によって、シラバスは変更されることがあります。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 小テストなどの課題３０％　期末のテスト５０％　授業への参加態度(予習復習を含む)１０％ |
| 評価基準 | 小テストなどの課題３０％　期末のテスト５０％　授業への参加態度(予習復習を含む)１０％ |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業中を原則とします | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| きみはな　きみと話したい！フランス語スマート版　Parlons et Lisons le français　　朝日出版社<br>そのほか　Web辞書、Web映像・音声などを予習復習に活用します | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 授業の前後が確実です。それ以外に時間が必要な場合は、授業の前後に口頭で予約してください。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 五十嵐　雅子 | Introduction<br>初級外国語の勉強方法についての説明<br>フランス語の音に慣れる<br>【基本】　音声を聞いて繰り返すこと<br>アルファベ　綴りと発音の関係を学ぶ。<br>予習・復習の方法<br>Webサイトの使い方　アルファベを例に<br>（音声・映像・会話練習・辞書） | 講義 | 【予習】（90分）<br>Webによる予習。(教科書のタイトルで検索 https://text.asahipress.com/text-web/france/kimihana/index.html )<br>【復習】（90分）音声ダウンロードにより、Arphabet(アルファベ)の復習。<br>フランス語のつづりと音の関係の確認。<br>音声を聞いて繰り返す |
| 2 | | Leçon１-1　あいさつ、自己紹介<br>Dialogue：　聞き取り、繰り返し、覚える。 | 講義 | 【予習】（90分）Webの動画(dialogue)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 書く。聞き取り、和文仏訳。<br>文法：国籍を表す形容詞 職業を表す単語 | | 単語は教科書の最後に掲載されているが、授業での予習プリントのLeçonごとの単語集を利用する。意味を調べるより、繰り返し発音し、音での学びを進めることを優先する。<br>【復習】（90分）動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 3 | | Leçon 1-2　あいさつ、自己紹介<br>Petits Dialogues<br>文法：主語人称代名詞<br>動詞êtreの活用<br>前回の確認　Dialogue　文法　単語 | 講義 | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue　文法の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 4 | | Leçon　1-3　あいさつ、自己紹介<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いWeb動画<てみる。<br>Exercices　Lecture<br>Web動画<友達紹介> | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 5 | | Leçon　2-1　ほら、あります<br>Dialogue：　聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。聞き取り、和文仏訳。<br>提示表現/何だろう？/誰のだろう？ | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 6 | | Leçon　2-2　ほら、あります<br>Petits Dialogues<br>文法：名詞の性・数　不定冠詞　定冠詞<br>場所の前置詞<br>前回の確認　Dialogue　文法　単語 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue　文法の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 7 | | Leçon　2-3 ほら、あります<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices　Lecture<br>Web動画<パリのデパート> | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 8 | | 中間まとめ　２つのDialogues<br>これまでの復習と確認　発音と綴り<br>特に動詞 êtreの活用　身の回りの単語<br>Phrases clé | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 9 | | Leçon　3-1　持っている？<br>Dialogue：　聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。聞き取り、和文仏訳。<br>Phrases clé：Tu as des frère?<br>＜フランス語の数＞０～２０ | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 10 | | Leçon　3-2　持っている？<br>Petits Dialogues<br>文法：動詞avoirの活用<br>疑問文/否定文/応答文<br>前回の確認　Dialogue　文法　単語 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue　文法の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 11 | | Leçon　3-3　持っている？・数字<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices　Lecture<br>Web動画<フランスの人口> | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 12 | | Leçon　4-1　どんな言葉？<br>Dialogue：　聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。聞き取り、和文仏訳。<br>Phrases clé：Elle parle français<br>Comment est ton sac？ | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 13 | | Leçon　4-2　どんな言葉？<br>Petits Dialogues<br>文法：er動詞の活用 形容詞の位置･性数･指示形容詞･疑問形容詞･所有形容詞<br>前回の確認　Dialogue　文法　単語 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue　文法の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 14 | | Leçon　4-3　どんな言葉？<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices　Lecture<br>Web動画<どんな言葉が話されているか> | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 15 | | まとめ　テスト | | 【予習】（90分）これまでの復習 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Dialogues　Phrases clé　Grammaire<br>Vocabulaire　などの総復習と確認 | | 文法事項の確認<br>テストの準備<br>【復習】（90分）<br>テスト内容の確認 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | フランス語I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | French I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 五十嵐　雅子 | ナンバリング | BAP1207/BAR1207 |
| 担当教員 | 五十嵐　雅子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | フランス語の初学者を対象とし、基礎的な会話表現を理解し、活用できることを目指す。歴史を刻むパリのエッフェル塔、ベルサイユ宮殿、ルーブル美術館など、あるいは光あふれる地中海の保養地やプロバンスなど、観光先進国フランスの文化と社会の魅力を映像で紹介し、生きた言葉の理解を深める。簡単な挨拶とABCから始め、綴りと発音の関係を学び、基礎的な会話のリスニングと口頭練習を繰り返し、そこに出てくる単語や文法項目の把握と理解を確認しながら進めていく。挨拶や自己紹介、日本文化の紹介などを通じて、フランス語圏の人々とコミュニケーションをとることができれば、日本にいても世界が一段と広がることであろう。 |
| 到達目標 | 1. フランス語のアルファベットを覚える<br>2. つづりと音の関係を覚え、フランス語特有の発音ができるようになる<br>3. フランスの文化や日常の映像を通じてヨーロッパ文化の一端を理解し、説明できる<br>4. 基本的な挨拶や自己紹介、身の回りの話題についての簡単な会話を交わすことができる<br>5. 基本的な文法とその仕組みを覚え、展開活用することができる<br>6. Webを活用し、簡単な文章を読むことができる |
| 授業の位置づけ | 言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 人生の豊かさを育む科目です。フランスを知りたい、新しい言葉を学びたいなど好奇心を持って授業に臨みましょう<br>音を聞いて学ぶ学習法が中心です。スマホやパソコンなどで映像を見たり、音声を聞いたり、授業外の余暇時間を活用して下さい。初級外国語の学習成果は触れている時間の長さで決まります<br>授業の教科書に基づいた映像教材のほかに、ネットにアップされている入門教材や、フランス社会に関する映像を活用し、学びの幅を広げていきます。カフェ、マルシェ、シネマ、メゾン、シャトー、プチ～などの言葉やマドレーヌ、ガトーショコラに代表されるお菓子の名前、ココリコ(芸人)などフランス語由来の日本語はたくさんあります。judo、manga、sushiなど日本語もフランス語に入っています。探してみましょう。<br>授業の進み方によって、シラバスは変更されることがあります。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 小テストなどの課題３０％　期末のテスト５０％　授業への参加態度(予習復習を含む)１０％ |
| 評価基準 | 小テストなどの課題３０％　期末のテスト５０％　授業への参加態度(予習復習を含む)１０％ |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業中を原則とします | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| きみはな　きみと話したい！フランス語スマート版　Parlons et Lisons le français　　朝日出版社<br>そのほか　Web辞書、Web映像・音声などを予習復習に活用します | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 授業の前後が確実です。それ以外に時間が必要な場合は、授業の前後に口頭で予約してください。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 五十嵐　雅子 | Introduction<br>初級外国語の勉強方法についての説明<br>フランス語の音に慣れる<br>【基本】　音声を聞いて繰り返すこと<br>アルファベ　綴りと発音の関係を学ぶ。<br>予習・復習の方法<br>Webサイトの使い方　アルファベを例に<br>（音声・映像・会話練習・辞書） | 講義 | 【予習】（90分）<br>Webによる予習。(教科書のタイトルで検索 https://text.asahipress.com/text-web/france/kimihana/index.html )<br>【復習】（90分）音声ダウンロードにより、Arphabet(アルファベ)の復習。<br>フランス語のつづりと音の関係の確認。<br>音声を聞いて繰り返す |
| 2 | | Leçon１-1　あいさつ、自己紹介<br>Dialogue：　聞き取り、繰り返し、覚える。 | 講義 | 【予習】（90分）Webの動画(dialogue)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 書く。聞き取り、和文仏訳。<br>文法：国籍を表す形容詞 職業を表す単語 | | 単語は教科書の最後に掲載されているが、授業での予習プリントのLeçonごとの単語集を利用する。意味を調べるより、繰り返し発音し、音での学びを進めることを優先する。<br>【復習】（90分）動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 3 | | Leçon 1-2　あいさつ、自己紹介<br>Petits Dialogues<br>文法：主語人称代名詞<br>動詞êtreの活用<br>前回の確認　Dialogue　文法　単語 | 講義 | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue　文法の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 4 | | Leçon　1-3　あいさつ、自己紹介<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いWeb動画<てみる。<br>Exercices　Lecture<br>Web動画<友達紹介> | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 5 | | Leçon　2-1　ほら、あります<br>Dialogue：　聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。聞き取り、和文仏訳。<br>提示表現/何だろう？/誰のだろう？ | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 6 | | Leçon　2-2　ほら、あります<br>Petits Dialogues<br>文法：名詞の性・数　不定冠詞　定冠詞<br>場所の前置詞<br>前回の確認　Dialogue　文法　単語 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue　文法の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 7 | | Leçon　2-3 ほら、あります<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices　Lecture<br>Web動画<パリのデパート> | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 8 | | 中間まとめ　２つのDialogues<br>これまでの復習と確認　発音と綴り<br>特に動詞 êtreの活用　身の回りの単語<br>Phrases clé | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 9 | | Leçon　3-1　持っている？<br>Dialogue：　聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。聞き取り、和文仏訳。<br>Phrases clé：Tu as des frère?<br>＜フランス語の数＞０～２０ | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 10 | | Leçon　3-2　持っている？<br>Petits Dialogues<br>文法：動詞avoirの活用<br>疑問文/否定文/応答文<br>前回の確認　Dialogue　文法　単語 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue　文法の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 11 | | Leçon　3-3　持っている？・数字<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices　Lecture<br>Web動画<フランスの人口> | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 12 | | Leçon　4-1　どんな言葉？<br>Dialogue：　聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。聞き取り、和文仏訳。<br>Phrases clé：Elle parle français<br>Comment est ton sac？ | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 13 | | Leçon　4-2　どんな言葉？<br>Petits Dialogues<br>文法：er動詞の活用 形容詞の位置･性数･指示形容詞･疑問形容詞･所有形容詞<br>前回の確認　Dialogue　文法　単語 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue　文法の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 14 | | Leçon　4-3　どんな言葉？<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices　Lecture<br>Web動画<どんな言葉が話されているか> | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習　小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 15 | | まとめ　テスト | | 【予習】（90分）これまでの復習 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Dialogues　Phrases clé　Grammaire<br>Vocabulaire　などの総復習と確認 | | 文法事項の確認<br>テストの準備<br>【復習】（90分）<br>テスト内容の確認 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | フランス語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | French II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 五十嵐　雅子 | ナンバリング | BAP1208/BAR1208 |
| 担当教員 | 五十嵐　雅子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | フランス語Ｉに続いて、フランス語の基礎の習熟を図る。日常生活の会話表現をもとに、すでに学んだフランス語の基本的な知識を振り返り、音声データによるリスニング、口頭練習を繰り返す過程で、新しい単語や言い回しの知識と運用能力を付けていく。グルメ、ワインやファッションなどヨーロッパ文化の中心であるフランスの歴史や風俗、習慣、フランス人気質にも触れ、言葉の背景をより深く理解する手立てとする。ラテン系のルーツを持つフランス語は、11世紀初頭の「ノルマンの征服」の時代には英国の宮廷の言葉となり、以後の英語の歴史に大きな影響を与えることとなった。フランス語の学修によって、これまで学んできた英語がより厚みのあるものとなることが期待できる。 |
| 到達目標 | 1. フランス語のアルファベットを正しく発音できる<br>2. つづりと音の関係を習得し、文章を正しい発音で読むことができる。<br>3. フランスの文化や日常の映像を通じてヨーロッパ文化の一端を理解し、説明できる<br>4. 簡単な挨拶や自己紹介、身の回りの話題についての会話を交わすことができる<br>5. 基本的な文法を覚え、展開活用することができる。<br>6.　Ｗｅｂ辞書等を使って簡単な文章を読むことができる |
| 授業の位置づけ | 言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 前期の継続です。<br>人生の豊かさを育む科目です。フランスを知りたい、新しい言葉を学びたいなど好奇心を持って授業に臨みましょう<br>音を聞いて学ぶ学習法が中心です。スマホやパソコンなどで映像を見たり、音声を聞いたり、授業外の余暇時間を活用して下さい。初級外国語の学習成果は触れている時間の長さで決まります。<br>授業のテキストに基づいた映像教材のほかに、ネットにアップされている入門教材や、フランス社会や文化に関する映像を活用し、学びの幅を広げていきます。<br>カフェ、マルシェ、シネマ、メゾン、シャトー、プチ～などの言葉やマドレーヌ、ガトーショコラに代表されるお菓子の名前、ココリコ(芸人)などフランス語由来の日本語はたくさんあります。judo、manga、sushiなど日本語もフランス語に入っています。探してみましょう。<br>授業の進み方によって、シラバスは変更されることがあります。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 小テストなどの課題３０％　期末テスト５０％　授業への参加態度(予習復習を含む)１０％ |
| 評価基準 | 小テストなどの課題３０％　期末テスト５０％　授業への参加態度(予習復習を含む)１０％ |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業中を原則とします | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| きみはな　きみと話したい！フランス語スマート版　Parlons et Lisons le français　plus facilement　朝日出版社<br>そのほか　Web辞書、Web映像・音声などを予習復習に活用します | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 原則授業の前後。メールによる事前予約 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 五十嵐　雅子 | 初級外国語の勉強方法について確認<br>【基本】　音声を聞いて繰り返すこと<br>アルファベ　綴りと発音の関係を再確認。未知の文章を読む<br>予習・復習の方法<br>いろいろなWebサイトの使い方<br>（音声・映像・会話練習・辞書）<br>Web＜フランスについての映像＞ | | 【予習】（90分）<br>Webによる予習。(教科書のタイトルで検索<br>https://text.asahipress.com/text-web/france/kimihana/index.html)<br>【復習】（90分）音声ダウンロードによりフランス語の文字と音の関係の確認。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | Webで基本的音声のサイトを複数聞いて正しい発音を再現する。 |
| 2 | | Leçon 5-1 買いもの<br>Dialogue： 聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。和文仏訳。<br>・数字：Je voudrais/Combien de<br>Vocabulaire：食品に関する単語 | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 3 | | Leçon 5-2 買いもの<br>Petits Dialogues<br>文法：動詞vouloirの活用 部分冠詞<br>中性代名詞en 指示代名詞ceci,celà<br>前回の確認 Dialogue 文法 単語 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue 文法の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 4 | | Leçon 5-3 買いもの 数字<br>Webの動画(通常速度)を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices 数字21～2010 Lecture<br>Web＜パリのマルシェ＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 5 | | Leçon 6-1 どこに？<br>Dialogue： 聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。和文仏訳。<br>Phrases clé：曜日、月、日付、四季<br>Web<日、月、四季＞ | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 6 | | Leçon 6-2 どこに？<br>Petits Dialogues<br>文法：aller, venirの活用 前置詞＋定冠詞の縮約 ～国へ・～国から 強勢形人称代名詞、疑問副詞<br>Web＜ 日付、英語との対比＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue 文法の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 7 | | Leçon 6-3 どこに？<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices Lecture<br>Web＜Festivals en France＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 8 | | 中間まとめ 2つのDialogues<br>これまでの復習と確認 発音と綴り<br>特に動詞の活用 身の回りの単語<br>Phrases clé | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 9 | | Leçon 7-1 何時に？ 時刻の表現<br>Dialogue： 聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。和文仏訳。<br>Phrases clé：Quelle heures est-il?<br>Web＜フランス語の数＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 10 | | Leçon 7-2 何時に？<br>Petits Dialogues<br>文法：動詞pouvoir,voir,finirの活用<br>不定代名詞、非人称構文<br>前回の確認 Dialogue 文法 単語 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue 文法の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 11 | | Leçon 7-3 何時に？<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices Lecture<br>Web＜オルセー美術館と印象派＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 12 | | Leçon 8-1 するつもり？<br>Dialogue：Dans un restaurant 聞き取り、繰り返し、覚える。書く。和文仏訳。<br>Phrases clé：des entrées, des plats de viande, des plats de poisson<br>Web＜Dans un Restaurant I> | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 13 | | Leçon 8-2 するつもり？<br>Petits Dialogues<br>文法：動詞prendre faire partir boirの活用 疑問代名詞 近接未来 近接過去 中性代名詞y<br>前回の確認 Dialogue 文法 単語<br>Web＜Dans un Restaurant II＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue 文法の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 14 | | Leçon 8-3 するつもり？<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習 小テストの準備 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Exercices Lecture<br>Web＜les Gides gastronomiques＞ | | 【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 15 | | まとめ　テスト<br>Dialogues Phrases clé　Grammaire<br>Vocabulaires　などの総復習と確認 | | 【予習】（90分）これまでの復習<br>文法事項の確認　テストの準備<br>【復習】（90分）<br>テスト内容の確認 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | フランス語II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | French II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 五十嵐　雅子 | ナンバリング | BAP1208/BAR1208 |
| 担当教員 | 五十嵐　雅子 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | フランス語Ｉに続いて、フランス語の基礎の習熟を図る。日常生活の会話表現をもとに、すでに学んだフランス語の基本的な知識を振り返り、音声データによるリスニング、口頭練習を繰り返す過程で、新しい単語や言い回しの知識と運用能力を付けていく。グルメ、ワインやファッションなどヨーロッパ文化の中心であるフランスの歴史や風俗、習慣、フランス人気質にも触れ、言葉の背景をより深く理解する手立てとする。ラテン系のルーツを持つフランス語は、11世紀初頭の「ノルマンの征服」の時代には英国の宮廷の言葉となり、以後の英語の歴史に大きな影響を与えることとなった。フランス語の学修によって、これまで学んできた英語がより厚みのあるものとなることが期待できる。 |
| 到達目標 | 1. フランス語のアルファベットを正しく発音できる<br>2. つづりと音の関係を習得し、文章を正しい発音で読むことができる。<br>3. フランスの文化や日常の映像を通じてヨーロッパ文化の一端を理解し、説明できる<br>4. 簡単な挨拶や自己紹介、身の回りの話題についての会話を交わすことができる<br>5. 基本的な文法を覚え、展開活用することができる。<br>6.　Ｗｅｂ辞書等を使って簡単な文章を読むことができる |
| 授業の位置づけ | 言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 前期の継続です。<br>人生の豊かさを育む科目です。フランスを知りたい、新しい言葉を学びたいなど好奇心を持って授業に臨みましょう<br>音を聞いて学ぶ学習法が中心です。スマホやパソコンなどで映像を見たり、音声を聞いたり、授業外の余暇時間を活用して下さい。初級外国語の学習成果は触れている時間の長さで決まります。<br>授業のテキストに基づいた映像教材のほかに、ネットにアップされている入門教材や、フランス社会や文化に関する映像を活用し、学びの幅を広げていきます。<br>カフェ、マルシェ、シネマ、メゾン、シャトー、プチ～などの言葉やマドレーヌ、ガトーショコラに代表されるお菓子の名前、ココリコ(芸人)などフランス語由来の日本語はたくさんあります。judo、manga、sushiなど日本語もフランス語に入っています。探してみましょう。<br>授業の進み方によって、シラバスは変更されることがあります。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 小テストなどの課題３０％　期末テスト５０％　授業への参加態度(予習復習を含む)１０％ |
| 評価基準 | 小テストなどの課題３０％　期末テスト５０％　授業への参加態度(予習復習を含む)１０％ |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業中を原則とします | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| きみはな　きみと話したい！フランス語スマート版　Parlons et Lisons le français　plus facilement　朝日出版社<br>そのほか　Web辞書、Web映像・音声などを予習復習に活用します | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 原則授業の前後。メールによる事前予約 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 五十嵐　雅子 | 初級外国語の勉強方法について確認<br>【基本】　音声を聞いて繰り返すこと<br>アルファベ　綴りと発音の関係を再確認。未知の文章を読む<br>予習・復習の方法<br>いろいろなWebサイトの使い方<br>（音声・映像・会話練習・辞書）<br>Web＜フランスについての映像＞ | | 【予習】（90分）<br>Webによる予習。(教科書のタイトルで検索<br>https://text.asahipress.com/text-web/france/kimihana/index.html)<br>【復習】（90分）音声ダウンロードによりフランス語の文字と音の関係の確認。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | Webで基本的音声のサイトを複数聞いて正しい発音を再現する。 |
| 2 | | Leçon 5-1 買いもの<br>Dialogue： 聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。和文仏訳。<br>・数字：Je voudrais/Combien de<br>Vocabulaire：食品に関する単語 | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 3 | | Leçon 5-2 買いもの<br>Petits Dialogues<br>文法：動詞vouloirの活用 部分冠詞<br>中性代名詞en 指示代名詞ceci,celà<br>前回の確認 Dialogue 文法 単語 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue 文法の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 4 | | Leçon 5-3 買いもの 数字<br>Webの動画(通常速度)を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices 数字21～2010 Lecture<br>Web＜パリのマルシェ＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 5 | | Leçon 6-1 どこに？<br>Dialogue： 聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。和文仏訳。<br>Phrases clé：曜日、月、日付、四季<br>Web<日、月、四季＞ | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 6 | | Leçon 6-2 どこに？<br>Petits Dialogues<br>文法：aller, venirの活用 前置詞＋定冠詞の縮約 ～国へ・～国から 強勢形人称代名詞、疑問副詞<br>Web＜ 日付、英語との対比＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue 文法の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 7 | | Leçon 6-3 どこに？<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices Lecture<br>Web＜Festivals en France＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 8 | | 中間まとめ 2つのDialogues<br>これまでの復習と確認 発音と綴り<br>特に動詞の活用 身の回りの単語<br>Phrases clé | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 9 | | Leçon 7-1 何時に？ 時刻の表現<br>Dialogue： 聞き取り、繰り返し、覚える。<br>書く。和文仏訳。<br>Phrases clé：Quelle heures est-il?<br>Web＜フランス語の数＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 10 | | Leçon 7-2 何時に？<br>Petits Dialogues<br>文法：動詞pouvoir,voir,finirの活用<br>不定代名詞、非人称構文<br>前回の確認 Dialogue 文法 単語 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue 文法の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 11 | | Leçon 7-3 何時に？<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Exercices Lecture<br>Web＜オルセー美術館と印象派＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 12 | | Leçon 8-1 するつもり？<br>Dialogue：Dans un restaurant 聞き取り、繰り返し、覚える。書く。和文仏訳。<br>Phrases clé：des entrées, des plats de viande, des plats de poisson<br>Web＜Dans un Restaurant I> | | 【予習】（90分）Webの動画(遅い速度)を見る。聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単語は単語集で確認する。<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 13 | | Leçon 8-2 するつもり？<br>Petits Dialogues<br>文法：動詞prendre faire partir boirの活用 疑問代名詞 近接未来 近接過去 中性代名詞y<br>前回の確認 Dialogue 文法 単語<br>Web＜Dans un Restaurant II＞ | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>Dialogue 文法の復習 小テストの準備<br>【復習】（90分）音声・動画を見る<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 14 | | Leçon 8-3 するつもり？<br>Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。 | | 【予習】（90分）Webの動画を見る。<br>聞き取り、繰り返す。書いてみる。<br>単元全体の復習 小テストの準備 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | Exercices Lecture<br>Web＜les Gides gastronomiques＞ | | 【復習】（90分）<br>Dialogueを繰り返す。単語、文法を復習 |
| 15 | | まとめ　テスト<br>Dialogues Phrases clé　Grammaire<br>Vocabulaires　などの総復習と確認 | | 【予習】（90分）これまでの復習<br>文法事項の確認　テストの準備<br>【復習】（90分）<br>テスト内容の確認 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 国語表現法 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Japanese Technical Writing | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 柿崎　廣幸 | ナンバリング | BAP1209/BAR1209 |
| 担当教員 | 柿崎　廣幸 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 医療技術の分野は､人の生命に直結し､人間を相手とする分野である。そこでは言葉によるコミュニケーションが不可欠である。そのために自分の考えをきちんとまとめて伝える能力や言葉のやりとりを通して他人と理解し合う能力が必要となる。コミュニケーションの基幹をなすのは「話す」ことと「書く」ことであるが、ここでは「書く」ことを中心に講義を進める。さて高度な情報化、技術化社会の出現で「書く」ことがより重要な意味を持つ時代になってきているが、それは自分の考えやメッセージを正確に伝えられるかどうかで時代を生き抜く適性を判断されるということを意味しているとも言える。本講義では、まず学生の「書く力」を正確に把握し、講義、読解、作文演習、添削、小テストなどを通じて国語表現力（文章表現力）を身に付けることを目的とする。 |
| 到達目標 | ・日本語の表記（現代仮名遣い、送り仮名、句読点、外来語の表記、常用漢字等）について理解し、正しく使うことができる。<br>・日本語の特質（文法、主語と述語、修飾語と被修飾語の関係、敬語等）を理解し、明解な文章を書くことができる。<br>・与えられたテーマについて適正に構成し、論理的な文章を書くことができる。<br>・医療に関する記事や文学作品などに興味を持ち、それを学修や生活に生かすことができる。<br>・レポート、論文、はがき、手紙、案内状、メール文等のさまざまな文章を書くことができる。 |
| 授業の位置づけ | 言語とスポーツ系 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1C1、理学DP-1C1、放射DP-1C1<br>他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力は、将来医療現場において患者との対応に必須である。言葉（国語）の正しい表現法を学ぶことで他者を理解したり、社会や医療現場で通じる実践的な自己表現を獲得できる。 |
| 履修上の注意、履修要件 | 講義には国語辞書（携帯に便利なもので可、電子辞書も可）を必ず持参のこと。高校で使用した「国語便覧」があれば確保しておくこと。文章を書く基本的なことから段階的に講義を進め、前半はほぼ毎時小テストを実施し、次時に返却、解説をするので欠席、遅刻はしないこと。やむを得ず欠席した場合は欠時に使用したプリント、資料をすぐ担当者から手に入れ自己学修をすることが必要である。また次時で使用する教材の一部分を講義の最後に必ず配布するので予習すること。また返却された小テスト、添削された課題作文等を復習、検討して学んだことをしっかり定着させることも肝要なことである。「書くことは読むことに裏付けられている。」とよくいうが、読書の量が文章力を保証するということである。講義の中で適宜読んでほしい文章、作品等を紹介するので、「読む」という行為にも力を入れること。なお、大学の立地条件を生かし、神田神保町の古書店街で将来の文献探索のために役立つようにフィールドワークを行う。神保町には医療関係専門の古書店もある。また多くの医療関係の本を備えた大型書店もあるので知っておくことが必要である。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 講義中の小テスト(３０%)、課題作文（５０%）、その他課題（２０%）で評価する。 |
| 評価基準 | 講義中の小テスト(３０%)、課題作文（５０%）、その他課題（２０%）で評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| ・授業内で返却、講評、解説する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| ・教材は毎時担当者で用意する。参考書「新しい国語表記ハンドブック」（第八版）三省堂 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ・教員のオフィスアワーを確認すること。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 柿崎　廣幸 | 初回ガイダンス<br>１、授業の概要説明、<br>２、 日本語の表記、仮名遣い、漢字、文字について理解する。<br>３、 句読点等文章表現に必要な基本的事項、ルールを説明する。ルールを身につけ、ルールに則ることがかえって面倒でないことを理解する。<br>３、「自己紹介」の文を書く。最初の講義なので学生諸君と担当者の互いの理解のために紹介の文を書く。<br>４、次回の「文体の使い分け、話しことば、書きことば、あいまいな表現、文の乱れ」の資料配付。 | | 【予習】（90分）<br>1,シラバスをよく読んでおく。<br>2, 辞書、ノート等の準備の確認。<br>【復習】（90分）<br>日本語の表記の基本的事項、ルールについて、初めて学んだこと、今まで誤って覚えていたことなどを整理して、見直し、正しい知識を定着させ、次回の小テストの準備をする。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 柿崎　廣幸 | 1， 小テストの実施。<br>2， 「自己紹介の文」についての講評。<br>3， 文体には｢敬体、常体｣があり、相手や目的に応じて使うこと、文章中に不用意に話しことばを用いないことなどを学ぶ。<br>4， 複数の解釈ができる文や主語と述語、修飾語と被修飾語のねじれがある文、呼応の関係が不適切な文のおかしさを理解し、それを適切な文にすることを学ぶ。<br>5， 次回の「文を区切る、表現の工夫、接続詞、指示語」の資料配付。 | | 【予習】（90分）<br>1， 文体の種類と、話しことば、書きことばを調べて、それぞれどのように使い分けるかをまとめておく。<br>2， あいまいな文、文の乱れの原因は何か、主語と述語、修飾語と被修飾語、呼応の関係などを調べておく。<br>【復習】（90分）<br>1，文体、話しことば、書きことば、あいまいな表現、文の乱れについて再度見直し、次回の小テストの準備をする。 |
| 3 | 柿崎　廣幸 | 1， 小テストの実施。<br>2， 前回の小テストの返却、講評。<br>3， 一つ文が長いと読み手にとって分かりにくいこと、対応関係が乱れることを防ぐために、簡潔に書くことを理解する。<br>4， 比喩、擬声語、擬態語、倒置法､体言止め、文末表現などさまざまな表現技法を理解する。<br>5， 接続語句は文と文との論理的関係を示し、指示語は前の文の内容を後の文に持ち込むことにより両文を関係付けることを理解する。適切な使い方を学び論理的な文章を書けるようにする。<br>6， 次回の｢悪文治療｣の資料配付。 | | 【予習】（90分）<br>1， 一つの文が長いとなぜ読みにくいかを考えてみる。<br>2， 比喩、擬声語、擬態語、倒置法などの表現法について確認しておく。<br>3， 接続詞、指示語にはどのようなものがあり、どのような働きをするか確認しておく。<br>【復習】（90分）<br>1， 文を区切って書くことの必要、さまざまな表現技法、接続語句、指示語の適切な使い方を再度確認し、次回の小テストの準備をする。<br>2， 返却された小テストの復習。 |
| 4 | 柿崎　廣幸 | 1， 小テストの実施。<br>2， 前回の小テストの返却、講評。<br>3，「悪文治療」、ここまで正しい表記や基本的な表現の仕方について学んできた。そのまとめとして、文章をいろいろな観点から点検して、不適切な表現を指摘し改めることで自分の表現力を高める。<br>4， 次回の「神保町フィールドワーク」の説明と資料配付。<br>5， 6回「感じたことを表現する。」の資料配付。 | | 【予習】（90分）<br>1， いわゆる｢悪文｣といわれる文を改め適切な文にするにはこれまで学んだことを総動員する必要があるので、１回から３回まで学んだことをすべて再確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>1， これまで学んだことを、再度見直し、どのような文章も適切な表現に改めることができるようにする。<br>なお、｢悪文治療｣の小テストは６回の講義で実施。<br>2　返却された小テストの復習。 |
| 5 | 柿崎　廣幸 | 1， 教室にて点呼。注意事項伝達。<br>2， 神保町に移動。<br>3， フィールドワーク<br>4， 各自点呼を受け解散。（点呼の場所は天候によるので当日指示。） | | 【予習】（90分）<br>1， 配布された資料をよく見ておく。神保町について調べておく。<br>【復習】（90分）<br>2，指示された要領でフィールドワークのレポートを書く。次回提出。 |
| 6 | 柿崎　廣幸 | 1，｢悪文治療｣の小テスト。<br>2， ４回の小テストの返却。<br>3， 「フィールドワーク」の講評。<br>4，「感じたことを表現する。」文章を書くことは自分の思いを表現することである。思いのもとは感じることである。ここでは写真を見て感じたことをもとに想像し、そこから生じた思いを表現してみる。回収。<br>4，次回「情景を表現する。」の資料配付。 | | 【予習】（90分）<br>1，配布された資料を見て、感じたことをまとめておく。<br>【復習】（90分）<br>1， 感じたことから生じた自分の思いを十分に表現できたかを確認する。<br>2， 返却された小テストの復習。 |
| 7 | 柿崎　廣幸 | 1， 前回の小テストの返却、講評。<br>2， 「フィールドワーク」のレポートの返却、講評。<br>3， 「情景を表現する。」表現するには､情報を的確に把握することが大事である。今回は一枚の写真を提示する。写真にはさまざまな情報がある。目に見える情報はもちろん、目に見えない情報も見て取れる。それらを的確に読み取り表現してみる。回収。<br>4， 次回「紹介の文章を書く。」の資料配付。 | | 【予習】（90分）<br>1，配布された資料から読み取れる情報をまとめておく。<br>【復習】（90分）<br>1， 見える情報、見えない情報を読み取り、それらを表現に十分に生かすことができたかを確認する。<br>2， 返却された小テストの復習。 |
| 8 | 柿崎　廣幸 | 1， 前回の作文の返却、講評。<br>2， 「紹介の文章を書く」紹介するというのは、あることについて、それが何なのか、どのようなものなのかということを、他の人に伝えることである。それを知らない人にも理解できるような文章を書くことが大切である。以上のことを踏まえ｢自分を紹介する｣文章を書いてみる。書くための材料を集める方法、整理の仕方を学ぶ。<br>3， 次回｢自分の意見を文章に書く｣の資料配付。 | | 【予習】（90分）<br>1， 配布された資料を読み、「自分を紹介する文章」を書くために必要な材料を集め、まとめておく。<br>【復習】（90分）<br>1， 知らない人にも十分に分かるように自分を紹介できたか検証してみる。<br>2， 返却された作文の検証。 |
| 9 | 柿崎　廣幸 | 1， 前回の作文の返却、講評。<br>2，「自分の意見を文章に書く。」意見を述べるためには、普段から社会のさまざまな事象に対して関心を持ち、考えを深め､自分自身の考えや行動を見つめ直すことが必要となる。構成メモの作成の方法を学ぶ。回収。 | | 【予習】（90分）<br>1，配布された資料を読み、自分の考えをまとめておく。構成メモにできる範囲で記入しておく。<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 3， 次回「与えられた課題で文章を書く。」 課題「心に残るあること。」の資料配付。 | | 1， 自分の意見、主張を読み手に納得させることができる文章が書けたかを検証してみる。<br>2， 返却された作文の検証。 |
| 10 | 柿崎　廣幸 | 1， 前回の作文の返却。講評。<br>2， 「与えられた課題で文章を書く」就職試験などでは、与えられた課題で文章を書くことが基本である。ここではこれまで学んできた文章の書き方を駆使し、課題「心に残るあること」の意図に即した、読み手を引きつける文章を書いてみる。(回収)<br>3， 次回「医療に関する記事」の説明。新聞等で自分が興味をもった医療に関する記事を収集しておく。 | | 【予習】（90分）<br>1，過去を振り返り「心に残るあること。」をいくつか挙げ、その事実、なぜ残っているのか、そのとき感じたこと、考えたこと、自分にあたえた影響などをまとめておく。<br>【復習】（90分）<br>1， 自分の考えや思いが、読み手に明確に伝わるように書けたか、具体例によって明解に書けたか、その「あること」の前と後の自分の違いを書けたかなどを確認する。<br>2， 返却された作文の検証。 |
| 11 | 柿崎　廣幸 | 1，前回の作文の返却、講評。<br>2，医療の進歩は人類に進歩と幸せをもたらす。新しい治療法、検査法、新薬の開発など明るい話題も多いが、一方では、医療事故、医療従事者の犯罪など暗い話題もある。また医療保険制度の改定などは大きな話題となる。将来医療の仕事に従事する者はこれらのことに無関心であることは許されない。ここでは最新の医療に関する記事(新聞等)を読み、文章として検討し、それについての自分の考え、感想などを書いてみる。(回収)なお、記事は受講生、担当者で持ち寄る。<br>2，「医療に関する文学」の説明、資料配付。 | | 【予習】（90分）<br>1，記事を収集し、よく読んで、その記事の周辺の情報などを調べておく。またその記事に対する自分の考えや感想をまとめておく。<br>【復習】（90分）<br>1， 医療の記事に関心を持つことができたか。<br>2， 関心を持った記事について、自分の考え、感想を十分に書くことができたかを確認する。<br>3， 返却された作文の検証。 |
| 12 | 柿崎　廣幸 | 1，前回の作文の返却。講評。<br>2，「医療」と「文学」は何の関係もないようだが、実は強い関連があるといえる。例えば「生と死」ということを考えると、これは「医療」でも「文学」でも大きなテーマである。古いところでは森鴎外は軍医であり文学者でもあった。彼のように医療従事者には昔から現在まで小説、エッセイ、詩などを書く人が多い。文学や芸術を学ぶことで､人間性豊かな医療ケアが期待されるのではないだろうか。ここではいくつかの作品を紹介し、短編を読み自分の考え、感想を書いてみる。(回収)<br>3，次回「はがき、手紙の書き方」の資料配付。 | | 【予習】（90分）<br>1， これまでに読んだ医療に関する小説などを確認しておく。<br>2， 資料に紹介された作品について調べておく。<br>【復習】（90分）<br>1， 医療と文学の関係性を理解できたか確認しておく。<br>2， 資料などを参考にして、これから読もうとする作品を選んでみる。<br>3， 返却された作文の検証。 |
| 13 | 柿崎　廣幸 | 1， 前回の作文の返却。講評。<br>2， 「はがき、手紙の書き方」個性的なものもよいが、ここでは形式を学ぶ。実際に書いて、長い歴史を経て形作られた形式を理解し､形式に従って書くことで相手に不快感を与えず、楽に書くことができることを理解する。（回収）<br>3， 次回「実用的な手紙の書き方」の資料配付。 | | 【予習】（理解90分）<br>1， 配布された資料をよく読んでおく。<br>2， 形式を理解し、実際にはがき、手紙を書いてみる。<br>【復習】（90分）<br>1， 形式の持つ意味が理解できたか確認する。<br>2， 形式に従って、はがき、手紙を書くことができたかを検証する。<br>3， 返却された作文の検証。 |
| 14 | 柿崎　廣幸 | 1， 前回書いたはがき、手紙の返却、講評。<br>2， 「実用的な手紙の書き方」ここでいう手紙は企業、役所、学校などで使用される依頼文、案内状、などである。<br>前回同様、形式に寄って書くことを理解する。事務的効率を考え、簡潔に礼儀正しい文を書くことを身に付け実際に書いてみる。（回収）<br>3，次回「レポートの書き方、メール文の書き方」の資料配付。 | | 【予習】（90分）<br>1， 配布された資料を読んで実用的な手紙とはどういうものかを理解しておく。<br>2， 再度手紙の形式の持つ意味を確認しておく。<br>【復習】（90分）<br>1， 実用的な手紙にはどのようなものがあるかを確認する。<br>2， 依頼文、案内状を形式に従って正しく書くことができたかを検証する。<br>3， 返却されたはがき、手紙の検証。 |
| 15 | 柿崎　廣幸 | 1， 前回書いた手紙の返却、講評。<br>2， 「レポートの書き方」レポートとは、調査、研究などの結果を客観的に報告する文章である。テーマの設定や資料・データの収集などの準備の方法とレポートの構成、記述の方法を理解し、よりよいレポートの書く方法を学ぶ。<br>3， メール文についてはマナーを踏まえて相手に応じた文面の使い分けを学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>1， ここまでいくつかのレポートを書いているはずであるが、再度レポートの書き方の基本を配布された資料を参考に確認しておく。<br>2， メール文についての資料を読んで疑問点などを把握しておく。<br>【復習】（90分）<br>1， レポートの書き方について理解できたかを確認する。<br>2， メール文のマナーについて理解できたかを確認する。<br>3， 返却された手紙の検証。 |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | スポーツ理論・実技 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Sports Theory and Practice | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 青木　和浩 | ナンバリング | BAP1210/BAR1210 |
| 担当教員 | 青木　和浩、門屋　悠香、勝又　健太、村上　光輝、岸　秀忠、福家　瑠都 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 健康やスポーツの基礎となる体力を高めるためのトレーニングの基礎理論及び実践方法についての理解を深める。個々の体力に応じた様々なトレーニングの実践及び対象者の目的に応じた各種スポーツの方法について実技を中心に学修する。本講義では、トレーニングの基礎理論とその具体的方法について、体育館等での実技を通して、健康やスポーツ科学への学問的な理解を深めることと各自の健康づくりや体力向上を目的として展開する。実技内容は、レクリエーションスポーツ、ネット型ゲーム、ストレッチング、有酸素トレーニング、無酸素トレーニング、筋力トレーニング等を実施する。また実技を通して対人へのコミュニケーション能力の養成も目標とする。 |
| 到達目標 | 1.各種スポーツの実践を通して、健康づくりや体力向上の取り組みを学ぶとともに生涯にわたりスポーツに親しみ実践していく態度を養う。<br>2.実技の授業を通じて、コミュニケーション能力を育み、豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力を養う。 |
| 授業の位置づけ | 本科目は、初年次共通科目として位置付けられている。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業内容は教場や天候等の状況により、授業計画が前後することがあるので、授業内のアナウンスやJ-Passを確認すること。授業内の評価は、出席状況や授業内での課題、小レポートで評価を行う。課題レポートは、授業の振り返りを基にレポートを作成する。授業中は、安全面に十分注意し、事故や怪我の無いように高い倫理観をもって望んでほしい。<br>※新型コロナ感染対策により、オンライン授業での実施となる場合もある。その際は、オンライン上でも実技可能な服装や環境を準備し、安全面にも配慮しながら実施する。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業内の評価（80%）、課題レポート（20%） |
| 評価基準 | ・各種スポーツに関するルールや技術を習得できる（授業内評価）<br>・スポーツ理論と実践を理解する（課題レポート） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| ・資料がある場合は、授業内で配布する | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | k-aoki@juntendo.ac.jp スポーツ健康科学部　体力トレーニング研究室（1509号室）　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 青木 | 初回ガイダンス<br>（1）授業計画と進め方を説明する<br>（2）評価方法の説明をする<br>（3）課題レポートの説明する | 講義 | 【予習】（90分）<br>シラバスの内容を熟読しておく<br>【復習】（90分）<br>授業計画を参考に授業の進め方について理解する。 |
| 2 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ①<br>「レクリエーションゲーム1」<br>（1）レクリエーションゲームのルールを学ぶ<br>（2）レクリエーションゲームの基礎練習を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>レクリエーションゲームについて、どのようなスポーツかを調べておく<br>【復習】（90分）<br>レクリエーションゲームのルールを復習する |
| 3 | 青木　他 | トレーニング①<br>「ストレッチング」<br>（1）ストレッチングの効果を学ぶ<br>（2）複数のストレッチングを実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>ストレッチングの種類を調べておく<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | ストレッチングの種類と実施上の留意点を復習する |
| 4 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ②<br>「レクリエーションゲーム2」<br>（1）グループに分かれてレクリエーションゲームを行う<br>（2）ゲームの運営を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回と異なるレクリエーションゲームの種類を調べる<br>【復習】（90分）<br>レクリエーションゲームのルールを復習する |
| 5 | 青木　他 | トレーニング②<br>「有酸素運動」<br>（1）有酸素運動の効果を学ぶ<br>（2）有酸素運動を実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>有酸素運動の種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施した有酸素運動の効果と実施上の留意点を復習する |
| 6 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ③<br>「ボールゲーム1」<br>（1）ボールを用いたゲームのルールを学ぶ<br>（2）ボールを用いたゲームの基礎練習を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>ボールゲームの種類とルールを調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施したボールゲームの運動効果とルールを復習する |
| 7 | 青木　他 | トレーニング③<br>「筋力トレーニング」<br>（1）筋力トレーニングの効果を学ぶ<br>（2）筋力トレーニングを実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>筋力トレーニングの種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施した筋力トレーニングの運動効果と実施上の留意点を復習する |
| 8 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ④<br>「ボールゲーム2」<br>（1）グループに分かれてボールゲームを行う<br>（2）ゲームの運営を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回と異なるボールゲームの種類とルールを調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施したボールゲームの運動効果とルールを復習する |
| 9 | 青木　他 | トレーニング④<br>「無酸素運動」<br>（1）無酸素運動の効果を学ぶ<br>（2）複数の無酸素運動を実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>無酸素運動の種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施した無酸素運動の運動効果と実施上の留意点を復習する |
| 10 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ⑤<br>「ボールゲーム3」<br>（1）ボールゲームのルールを学ぶ<br>（2）ボールゲームの基礎練習を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>ボールゲームの種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>ボールゲームの運動効果とルール、実施上の留意点を復習する |
| 11 | 青木　他 | トレーニング⑤<br>「自重を用いた運動」<br>（1）自重を用いた運動の効果を学ぶ<br>（2）自重を用いた複数の運動を実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>自重を用いた運動の種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施した自重を用いた運動の効果と実施上の留意点を復習する |
| 12 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ⑥<br>「ネット型ゲーム1」<br>（1）グループに分かれてネット型ゲームを行う<br>（2）ゲームの運営を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>ネット型スポーツの種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施したネット型ゲームの運動効果とルール、実施上の留意点を復習する |
| 13 | 青木　他 | トレーニング⑤<br>「トレーニング内容の立案と実施」<br>（1）各自で実施する健康増進・体力向上を目的としたトレーニング内容の立案する<br>（2）立案に基づいた運動を実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>これまでのトレーニングの授業で実施した内容をまとめる<br>【復習】（90分）<br>立案内容と実施内容が合っていたかを確認しておく |
| 14 | 青木　他 | 体力測定<br>（1）現在の自身の体力測定を行う<br>（2）生涯スポーツを実施する上での運動処方を検討する | 演習 | 【予習】（90分）<br>高校時代の体力テスト結果を調べておく<br>【復習】（90分）<br>測定結果と他者との比較を行い、自身の特徴を確認する |
| 15 | 青木　他 | レポート作成<br>これまでの授業実施内容から、生涯スポーツに親しむために必要な運動や授業で得られた感想を整理しレポート作成を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>これまでの授業内容の留意点をまとめておく<br>【復習】（90分）<br>レポート内容を確認し、各自の生涯スポーツへのかかわり方を考える |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | スポーツ理論・実技 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Sports Theory and Practice | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 青木　和浩 | ナンバリング | BAP1210/BAR1210 |
| 担当教員 | 青木　和浩、門屋　悠香、勝又　健太、村上　光輝、岸　秀忠、福家　瑠都 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 健康やスポーツの基礎となる体力を高めるためのトレーニングの基礎理論及び実践方法についての理解を深める。個々の体力に応じた様々なトレーニングの実践及び対象者の目的に応じた各種スポーツの方法について実技を中心に学修する。本講義では、トレーニングの基礎理論とその具体的方法について、体育館等での実技を通して、健康やスポーツ科学への学問的な理解を深めることと各自の健康づくりや体力向上を目的として展開する。実技内容は、レクリエーションスポーツ、ネット型ゲーム、ストレッチング、有酸素トレーニング、無酸素トレーニング、筋力トレーニング等を実施する。また実技を通して対人へのコミュニケーション能力の養成も目標とする。 |
| 到達目標 | 1.各種スポーツの実践を通して、健康づくりや体力向上の取り組みを学ぶとともに生涯にわたりスポーツに親しみ実践していく態度を養う。<br>2.実技の授業を通じて、コミュニケーション能力を育み、豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力を養う。 |
| 授業の位置づけ | 本科目は、初年次共通科目として位置付けられている。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業内容は教場や天候等の状況により、授業計画が前後することがあるので、授業内のアナウンスやJ-Passを確認すること。授業内の評価は、出席状況や授業内での課題、小レポートで評価を行う。課題レポートは、授業の振り返りを基にレポートを作成する。授業中は、安全面に十分注意し、事故や怪我の無いように高い倫理観をもって望んでほしい。<br>※新型コロナ感染対策により、オンライン授業での実施となる場合もある。その際は、オンライン上でも実技可能な服装や環境を準備し、安全面にも配慮しながら実施する。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業内の評価（80%）、課題レポート（20%） |
| 評価基準 | ・各種スポーツに関するルールや技術を習得できる（授業内評価）<br>・スポーツ理論と実践を理解する（課題レポート） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| ・資料がある場合は、授業内で配布する | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | k-aoki@juntendo.ac.jp スポーツ健康科学部　体力トレーニング研究室（1509号室）　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 青木 | 初回ガイダンス<br>（1）授業計画と進め方を説明する<br>（2）評価方法の説明をする<br>（3）課題レポートの説明する | 講義 | 【予習】（90分）<br>シラバスの内容を熟読しておく<br>【復習】（90分）<br>授業計画を参考に授業の進め方について理解する。 |
| 2 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ①<br>「レクリエーションゲーム1」<br>（1）レクリエーションゲームのルールを学ぶ<br>（2）レクリエーションゲームの基礎練習を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>レクリエーションゲームについて、どのようなスポーツかを調べておく<br>【復習】（90分）<br>レクリエーションゲームのルールを復習する |
| 3 | 青木　他 | トレーニング①<br>「ストレッチング」<br>（1）ストレッチングの効果を学ぶ<br>（2）複数のストレッチングを実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>ストレッチングの種類を調べておく<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | ストレッチングの種類と実施上の留意点を復習する |
| 4 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ②<br>「レクリエーションゲーム2」<br>（1）グループに分かれてレクリエーションゲームを行う<br>（2）ゲームの運営を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回と異なるレクリエーションゲームの種類を調べる<br>【復習】（90分）<br>レクリエーションゲームのルールを復習する |
| 5 | 青木　他 | トレーニング②<br>「有酸素運動」<br>（1）有酸素運動の効果を学ぶ<br>（2）有酸素運動を実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>有酸素運動の種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施した有酸素運動の効果と実施上の留意点を復習する |
| 6 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ③<br>「ボールゲーム1」<br>（1）ボールを用いたゲームのルールを学ぶ<br>（2）ボールを用いたゲームの基礎練習を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>ボールゲームの種類とルールを調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施したボールゲームの運動効果とルールを復習する |
| 7 | 青木　他 | トレーニング③<br>「筋力トレーニング」<br>（1）筋力トレーニングの効果を学ぶ<br>（2）筋力トレーニングを実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>筋力トレーニングの種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施した筋力トレーニングの運動効果と実施上の留意点を復習する |
| 8 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ④<br>「ボールゲーム2」<br>（1）グループに分かれてボールゲームを行う<br>（2）ゲームの運営を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>前回と異なるボールゲームの種類とルールを調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施したボールゲームの運動効果とルールを復習する |
| 9 | 青木　他 | トレーニング④<br>「無酸素運動」<br>（1）無酸素運動の効果を学ぶ<br>（2）複数の無酸素運動を実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>無酸素運動の種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施した無酸素運動の運動効果と実施上の留意点を復習する |
| 10 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ⑤<br>「ボールゲーム3」<br>（1）ボールゲームのルールを学ぶ<br>（2）ボールゲームの基礎練習を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>ボールゲームの種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>ボールゲームの運動効果とルール、実施上の留意点を復習する |
| 11 | 青木　他 | トレーニング⑤<br>「自重を用いた運動」<br>（1）自重を用いた運動の効果を学ぶ<br>（2）自重を用いた複数の運動を実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>自重を用いた運動の種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施した自重を用いた運動の効果と実施上の留意点を復習する |
| 12 | 青木　他 | レクリエーションスポーツ⑥<br>「ネット型ゲーム1」<br>（1）グループに分かれてネット型ゲームを行う<br>（2）ゲームの運営を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>ネット型スポーツの種類を調べておく<br>【復習】（90分）<br>実施したネット型ゲームの運動効果とルール、実施上の留意点を復習する |
| 13 | 青木　他 | トレーニング⑤<br>「トレーニング内容の立案と実施」<br>（1）各自で実施する健康増進・体力向上を目的としたトレーニング内容の立案する<br>（2）立案に基づいた運動を実施する | 演習 | 【予習】（90分）<br>これまでのトレーニングの授業で実施した内容をまとめる<br>【復習】（90分）<br>立案内容と実施内容が合っていたかを確認しておく |
| 14 | 青木　他 | 体力測定<br>（1）現在の自身の体力測定を行う<br>（2）生涯スポーツを実施する上での運動処方を検討する | 演習 | 【予習】（90分）<br>高校時代の体力テスト結果を調べておく<br>【復習】（90分）<br>測定結果と他者との比較を行い、自身の特徴を確認する |
| 15 | 青木　他 | レポート作成<br>これまでの授業実施内容から、生涯スポーツに親しむために必要な運動や授業で得られた感想を整理しレポート作成を行う | 演習 | 【予習】（90分）<br>これまでの授業内容の留意点をまとめておく<br>【復習】（90分）<br>レポート内容を確認し、各自の生涯スポーツへのかかわり方を考える |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | スポーツ健康運動方法論 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Sports, Health, and Exercise Sciences | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 青木　和浩 | ナンバリング | BAP1211/BAR1211 |
| 担当教員 | 青木　和浩 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、スポーツや健康にかかわる様々な運動方法について学ぶ。授業内容は、体力要素に関する基礎理論及び各種運動処方の方法論について理解を深める。健康の維持増進や体力の向上を目指した運動方法やアスリートの競技力向上を目指した運動方法の理論と実践方法を展開する。具体的な項目として、子ども・中年・高齢者・障害者・アスリートに応じたスポーツ健康科学の理論、基本的指導法、対象者に応じた運動指導の留意点、健康づくり運動の実践例の紹介など、スポーツや健康に関する運動プログラの実践方法を学修する。更に応用としてスポーツ健康科学を広い視点でとらえ、年齢に応じた体力・運動指導や実践方法の提案やその評価方法に関する理解なども目標とする。 |
| 到達目標 | 1.様々な対象者における健康の維持増進や体力向上のための運動方法の理論を理解することができる。<br>2.様々な対象者における健康の維持増進や体力向上のための運動プログラムの実践方法を説明できる。<br>3.自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して自己研鑽に励み、自己成長していく能力を養う。 |
| 授業の位置づけ | 本授業は、初年次共通科目に位置付けられている。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP-1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 様々な対象者に応じた運動方法の理論と実践について、各分野の専門家をゲストスピーカーとしてお呼びします。事前の予習や事後の復習を怠ることなく、積極的な姿勢で受講してください。各講義中に小課題、ディスカッションを実施します。また、自己の専門分野に関わる運動プログラムの実践方法について課題作成、レポートを課し、その内容も評価します。受講生の積極な姿勢を期待しています。<br>※新型コロナ感染予防のため、オンライン授業での実施をする場合もあります。その場合、授業運用の若干の変更もあるので留意すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業内容ごとの評価（70%）、課題レポート（30%） |
| 評価基準 | ・各テーマの内容を十分に理解し、運動処方の実践方法を理解できること（授業内）。<br>・全テーマから、自身の将来を見据えた運動処方の提案することができること（課題レポート）。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| ・配布講義資料を使用する | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | k-aoki@juntendo.ac.jp スポーツ健康科学部　体力トレーニング研究室（1509号室）　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 青木 | 初回ガイダンス<br>（1）授業計画と進め方を説明する<br>（2）評価方法の説明をする<br>（3）課題作成の方法を説明する | 講義 | 【予習】（90分）<br>スポーツと健康について調べておく<br>【復習】（90分）<br>授業計画を参考に授業の進め方について理解する。 |
| 2 | 青木　他 | 運動方法の基礎（アスリート①）<br>（1）アスリートの身体的特徴を学ぶ<br>（2）アスリートの運動方法の特徴を学ぶ<br>（3）アスリートの競技力向上に関する運動プログラムについて学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「アスリート」の体の特徴について予習しておく<br>【復習】（90分）<br>各自の専門分野における「アスリート」の特徴をレポートしておく |
| 3 | 青木　他 | 運動処方の実践方法（アスリート②）<br>（1）アスリートとドーピング問題を学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「アスリート」を対象とした問題点を調べて |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | （2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）適切な課題解決方法を提案する | | おく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自の提案内容を整理しておく |
| 4 | 青木　他 | 運動方法の基礎（児童・生徒）<br>（1）児童・生徒の身体的特徴を学ぶ<br>（2）児童・生徒の運動方法の特徴を学ぶ<br>（3）児童・生徒の健康増進や体力向上に関するプログラムについて学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「児童・生徒」の体力に関する問題点を調べておく<br>【復習】（90分）<br>各自の専門分野における「児童・生徒」の特徴をレポートしておく |
| 5 | 青木　他 | 運動方法の実践方法（児童・生徒）<br>（1）児童・生徒を対象とした健康増進や体力向上を目指した運動実践の方法を学ぶ<br>（2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）適切な課題解決方法を作成する | 演習 | 【予習】（90分）<br>「児童・生徒」を対象とした運動方法の具体的なメニューを調べておく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自の提案内容を整理しておく |
| 6 | 青木　他 | 運動方法の基礎（成人）<br>（1）成人の身体的特徴を学ぶ<br>（2）成人の体力向上に関する留意点を学ぶ<br>（3）成人の生理学的側面をについて学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「成人」の体力に関する問題点を調べておく<br>【復習】（90分）<br>各自の専門分野における「成人」の特徴をレポートしておく |
| 7 | 青木　他 | 運動方法の実践方法（成人）<br>（1）成人を対象とした体力向上を目指した運動実践の方法を学ぶ<br>（2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）成人の体力に関する課題と対策を作成する | 演習 | 【予習】（90分）<br>「成人」を対象とした運動方法の具体的なメニューを調べておく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自のまとめを整理しておく |
| 8 | 青木　他 | 運動方法の基礎（アスリート②）<br>（1）アスリートの動きを学ぶ<br>（2）バイオメカニクスに関する基礎知識を学ぶ<br>（3）アスリートの競技力評価について学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>バイオメカニクスについて調べておく<br>【復習】（90分）<br>バイオメカニクスの基礎をまとめておく |
| 9 | 青木　他 | 運動方法の実践方法（アスリート②）<br>（1）バイオメカニクスを用いた運動方法を学ぶ<br>（2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）アスリートにおける課題と解決方法をまとめる | 演習 | 【予習】（90分）<br>スポーツバイオメカニクスについて調べておく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自の提案内容を整理しておく |
| 10 | 青木　他 | 運動方法の基礎（高齢者）<br>（1）高齢者の心と体の特徴を学ぶ<br>（2）高齢者の運動方法の留意点を学ぶ<br>（3）高齢者の健康増進や体力向上方法について学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「高齢者」の心と体に関する問題点を調べておく<br>【復習】（90分）<br>各自の専門分野における「高齢者」の特徴をレポートしておく |
| 11 | 青木　他 | 運動方法の実践方法（高齢者）<br>（1）高齢者を対象とした健康増進や体力向上を目指した実践方法を学ぶ<br>（2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）各自、適切なプログラムを作成する | 演習 | 【予習】（90分）<br>「成人」を対象とした健康増進の具体的なメニューを調べておく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自の提案内容を整理しておく |
| 12 | 青木　他 | 運動方法の基礎（障害者）<br>（1）障害者の身体的特徴を学ぶ<br>（2）障害者の運動方法の留意点を学ぶ<br>（3）障害者の健康増進や体力向上方法について学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「障害者」の健康や体力に関する問題点を調べておく<br>【復習】（90分）<br>各自の専門分野における「障害者」の特徴をレポートしておく |
| 13 | 青木　他 | 運動処方の実践方法（障害者）<br>（1）障害者を対象とした健康増進や体力向上を目指した実践方法を学ぶ<br>（2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）各自、適切なプログラムを作成する | 演習 | 【予習】（90分）<br>「障害者」を対象とした健康増進の具体的なメニューを調べておく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自の提案内容を整理しておく |
| 14 | 青木　他 | スポーツと健康における諸問題<br>（1）各自でこれまでの授業菜中で得られた知識から諸問題をまとめる（2）諸問題の解決方法をレポートする | 演習 | 【予習】（90分）<br>課題作成の準備を行う<br>【復習】（90分）<br>課題作成の振り返りを行う |
| 15 | 青木　他 | 運動プログラムの実践提案<br>（1）各自、対象者に応じた運動プログラムを作成し、レポ | 演習 | 【予習】（90分）<br>課題の準備を行う |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ートを作成する。 | | 【復習】（90分）<br>課題の評価における振り返りを行う |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | スポーツ健康運動方法論 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Sports, Health, and Exercise Sciences | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 青木　和浩 | ナンバリング | BAP1211/BAR1211 |
| 担当教員 | 青木　和浩 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、スポーツや健康にかかわる様々な運動方法について学ぶ。授業内容は、体力要素に関する基礎理論及び各種運動処方の方法論について理解を深める。健康の維持増進や体力の向上を目指した運動方法やアスリートの競技力向上を目指した運動方法の理論と実践方法を展開する。具体的な項目として、子ども・中年・高齢者・障害者・アスリートに応じたスポーツ健康科学の理論、基本的指導法、対象者に応じた運動指導の留意点、健康づくり運動の実践例の紹介など、スポーツや健康に関する運動プログラの実践方法を学修する。更に応用としてスポーツ健康科学を広い視点でとらえ、年齢に応じた体力・運動指導や実践方法の提案やその評価方法に関する理解なども目標とする。 |
| 到達目標 | 1.様々な対象者における健康の維持増進や体力向上のための運動方法の理論を理解することができる。<br>2.様々な対象者における健康の維持増進や体力向上のための運動プログラムの実践方法を説明できる。<br>3.自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して自己研鑽に励み、自己成長していく能力を養う。 |
| 授業の位置づけ | 本授業は、初年次共通科目に位置付けられている。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP-1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 様々な対象者に応じた運動方法の理論と実践について、各分野の専門家をゲストスピーカーとしてお呼びします。事前の予習や事後の復習を怠ることなく、積極的な姿勢で受講してください。各講義中に小課題、ディスカッションを実施します。また、自己の専門分野に関わる運動プログラムの実践方法について課題作成、レポートを課し、その内容も評価します。受講生の積極な姿勢を期待しています。<br>※新型コロナ感染予防のため、オンライン授業での実施をする場合もあります。その場合、授業運用の若干の変更もあるので留意すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業内容ごとの評価（70%）、課題レポート（30%） |
| 評価基準 | ・各テーマの内容を十分に理解し、運動処方の実践方法を理解できること（授業内）。<br>・全テーマから、自身の将来を見据えた運動処方の提案することができること（課題レポート）。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| ・配布講義資料を使用する | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | k-aoki@juntendo.ac.jp スポーツ健康科学部　体力トレーニング研究室（1509号室）　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 青木 | 初回ガイダンス<br>（1）授業計画と進め方を説明する<br>（2）評価方法の説明をする<br>（3）課題作成の方法を説明する | 講義 | 【予習】（90分）<br>スポーツと健康について調べておく<br>【復習】（90分）<br>授業計画を参考に授業の進め方について理解する。 |
| 2 | 青木　他 | 運動方法の基礎（アスリート①）<br>（1）アスリートの身体的特徴を学ぶ<br>（2）アスリートの運動方法の特徴を学ぶ<br>（3）アスリートの競技力向上に関する運動プログラムについて学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「アスリート」の体の特徴について予習しておく<br>【復習】（90分）<br>各自の専門分野における「アスリート」の特徴をレポートしておく |
| 3 | 青木　他 | 運動処方の実践方法（アスリート②）<br>（1）アスリートとドーピング問題を学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「アスリート」を対象とした問題点を調べて |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | （2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）適切な課題解決方法を提案する | | おく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自の提案内容を整理しておく |
| 4 | 青木　他 | 運動方法の基礎（児童・生徒）<br>（1）児童・生徒の身体的特徴を学ぶ<br>（2）児童・生徒の運動方法の特徴を学ぶ<br>（3）児童・生徒の健康増進や体力向上に関するプログラムについて学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「児童・生徒」の体力に関する問題点を調べておく<br>【復習】（90分）<br>各自の専門分野における「児童・生徒」の特徴をレポートしておく |
| 5 | 青木　他 | 運動方法の実践方法（児童・生徒）<br>（1）児童・生徒を対象とした健康増進や体力向上を目指した運動実践の方法を学ぶ<br>（2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）適切な課題解決方法を作成する | 演習 | 【予習】（90分）<br>「児童・生徒」を対象とした運動方法の具体的なメニューを調べておく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自の提案内容を整理しておく |
| 6 | 青木　他 | 運動方法の基礎（成人）<br>（1）成人の身体的特徴を学ぶ<br>（2）成人の体力向上に関する留意点を学ぶ<br>（3）成人の生理学的側面をについて学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「成人」の体力に関する問題点を調べておく<br>【復習】（90分）<br>各自の専門分野における「成人」の特徴をレポートしておく |
| 7 | 青木　他 | 運動方法の実践方法（成人）<br>（1）成人を対象とした体力向上を目指した運動実践の方法を学ぶ<br>（2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）成人の体力に関する課題と対策を作成する | 演習 | 【予習】（90分）<br>「成人」を対象とした運動方法の具体的なメニューを調べておく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自のまとめを整理しておく |
| 8 | 青木　他 | 運動方法の基礎（アスリート②）<br>（1）アスリートの動きを学ぶ<br>（2）バイオメカニクスに関する基礎知識を学ぶ<br>（3）アスリートの競技力評価について学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>バイオメカニクスについて調べておく<br>【復習】（90分）<br>バイオメカニクスの基礎をまとめておく |
| 9 | 青木　他 | 運動方法の実践方法（アスリート②）<br>（1）バイオメカニクスを用いた運動方法を学ぶ<br>（2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）アスリートにおける課題と解決方法をまとめる | 演習 | 【予習】（90分）<br>スポーツバイオメカニクスについて調べておく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自の提案内容を整理しておく |
| 10 | 青木　他 | 運動方法の基礎（高齢者）<br>（1）高齢者の心と体の特徴を学ぶ<br>（2）高齢者の運動方法の留意点を学ぶ<br>（3）高齢者の健康増進や体力向上方法について学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「高齢者」の心と体に関する問題点を調べておく<br>【復習】（90分）<br>各自の専門分野における「高齢者」の特徴をレポートしておく |
| 11 | 青木　他 | 運動方法の実践方法（高齢者）<br>（1）高齢者を対象とした健康増進や体力向上を目指した実践方法を学ぶ<br>（2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）各自、適切なプログラムを作成する | 演習 | 【予習】（90分）<br>「成人」を対象とした健康増進の具体的なメニューを調べておく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自の提案内容を整理しておく |
| 12 | 青木　他 | 運動方法の基礎（障害者）<br>（1）障害者の身体的特徴を学ぶ<br>（2）障害者の運動方法の留意点を学ぶ<br>（3）障害者の健康増進や体力向上方法について学ぶ | 演習 | 【予習】（90分）<br>「障害者」の健康や体力に関する問題点を調べておく<br>【復習】（90分）<br>各自の専門分野における「障害者」の特徴をレポートしておく |
| 13 | 青木　他 | 運動処方の実践方法（障害者）<br>（1）障害者を対象とした健康増進や体力向上を目指した実践方法を学ぶ<br>（2）具体的な実践方法をディスカッションする<br>（3）各自、適切なプログラムを作成する | 演習 | 【予習】（90分）<br>「障害者」を対象とした健康増進の具体的なメニューを調べておく<br>【復習】（90分）<br>ディスカッション内容と各自の提案内容を整理しておく |
| 14 | 青木　他 | スポーツと健康における諸問題<br>（1）各自でこれまでの授業菜中で得られた知識から諸問題をまとめる（2）諸問題の解決方法をレポートする | 演習 | 【予習】（90分）<br>課題作成の準備を行う<br>【復習】（90分）<br>課題作成の振り返りを行う |
| 15 | 青木　他 | 運動プログラムの実践提案<br>（1）各自、対象者に応じた運動プログラムを作成し、レポ | 演習 | 【予習】（90分）<br>課題の準備を行う |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ートを作成する。 | | 【復習】（90分）<br>課題の評価における振り返りを行う |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 野外スポーツ実習Ⅰ（サマー） | 授業形態 | |
| 英語科目名 | Fitness Class I(Summer Class) (summer class) | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 辻川　比呂斗 | ナンバリング | BAP1212/BAR1212 |
| 担当教員 | 辻川　比呂斗 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 日常とは異なる自然環境の中において、自然の持つ雄大さ、素晴らしさ、怖さ等をアウトドアアクティビティを通じて体験することにより、面白さ、楽しみ方を学び、生涯スポーツを実践していくための資質の向上を図る。<br>また自然環境におけるマナーやエチケット、ルールを理解し、実践することを学び、集団活動を通じて協調性や社会性、道徳性等を習得する。<br>実習中においては、単に技術やマナーの習得のみならず、自然環境への配慮についても考える機会を設ける。実習内容は、ライフジャケットの扱い方、艇の運搬と管理、乗艇の基礎、パドリング基礎、転覆時の対応、緊急避難方法、ツアーの楽しみ方、シュノーケリング、スタンドアップパドルボード（SUP）の楽しみ方、海釣りについて実施する。講義としてカヤックについての基礎知識、マリンスポーツに潜むリスク及びその危機管理・救命法などについて学ぶ。<br><br>※新型コロナウイルスの感染状況により、南伊豆における3泊4日の宿泊研修を2泊3日のキャンプ型または日帰り研修として実施する可能性も検討する。それに伴い、実施種目に関して若干変更する場合もある。<br>キーワード：サマーアクティビティ、チームビルディング、アクティブラーニング、主体性の探求 |
| 到達目標 | 1．季節（夏季）に応じたアウトドアアクティビティにおける技術を身につける。（知識・技術）<br>2．自然環境への配慮についても考え、人間の生活が環境に与える負荷について説明でき、行動できる。（意欲・態度）<br>3．自然環境における配慮やマナーを修得する。<br>4．集団活動を通じて協調性や社会性、道徳性等を修得する。 |
| 授業の位置づけ | 基盤科目（導入科目） |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 【関連するディプロマポリシー（DP）】<br>共通DP-1　人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力<br>共通DP-3　自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力<br>理学DP-1　人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力<br>放射DP-1　人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・準備学習<br>　事前ガイダンスにおいて、実習前に予め必要な知識、体力および用具等についてのアナウンスを行う。そのため、実前ガイダンスに参加することで実習に最低限必要な情報を得る機会であり、必ず参加しなければならない。<br>・学習上の留意点<br>　本実習は集中講義であり、かつ非日常的ともいえる野外での活動となるため、急激な運動量の増加やそれに伴う体力の消耗が予想される。実習参加に際し、期間中の体調管理に十分配慮し、無理をせず担当者に報告することができるよう自己管理能力の向上も期待する。本実習において、カヤックのSUP等の経験の有無は問わない。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 1．各班付きの指導者および科目担当責任者が観察する。　40%（技術20%、習熟度20%）<br>2．実習中の講義およびグループワーク経過を指導者が観察する。　授業に対する意欲・参加態度（20%）<br>3．実習ノート内容　（10%）<br>4．実習中の講義とグループワーク経過を指導者が観察する。　（10%）<br>5．各班付きの指導者および科目担当責任者が観察する。（20%） |
| 評価基準 | 1．季節（夏季）に応じたアウトドアアクティビティにおける技術を身につける。（知識・技術）<br>2．自然環境への配慮についても考え、人間の生活が環境に与える負荷について説明でき、行動できる。（意欲・態度）<br>3．自然環境における配慮やマナーを修得する。<br>4．集団活動を通じて協調性や社会性、道徳性等を修得する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 実習内で適宜指導していく。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| テキスト：実習展開に応じ、随時資料等を配布する。<br><br>参考文献：『プール・ライフガーディング教本』特定非営利活動法人　日本ライフセービング協会　編　大修館書店 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 実習前は科目責任者である辻川（hiroto@juntendo.ac.jp）まで、実習中は教員スタッフ全員に質問、相談して下さい。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 直前ガイダンス　実習内容についての情報共有・パドリングの仕方・服装について・専門用語の説明など | 講義 | 【予習】実習履修希望者は必ず事前オリエンテーションに参加し、予めパドリングの仕方や服装についての学習を進める（2時間）<br>【復習】必要な装備について、調べ、各自揃える準備をする。（2時間） |
| 2 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 講義<br>・伊豆地方における傷病の特性 | 講義およびグループワーク | 【予習】実習要項の該当ページを予め読み込んでおく。（2時間）<br>【復習】学んだ内容についてまとめ、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 3 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 講義<br>ウォータースポーツに潜むリスクおよびその危機管理 | 講義およびグループワーク | 【予習】実習要項の該当ページを予め読み込んでおく。（2時間）<br>【復習】学んだ内容についてまとめ、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 4 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 講義<br>・救命法などについて<br>・釣り仕掛け作り | 講義およびグループワーク | 【予習】実習要項の該当ページを予め読み込んでおく。（2時間）<br>【復習】学んだ内容についてまとめ、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 5 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 水上講習①<br>ライフジャケットの扱い方、艇の運搬と管理、乗艇の基礎 | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 6 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 水上講習②<br>パドリング基礎①　転覆時の対応、緊急避難方法 | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 7 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 水上講習③<br>パドリング基礎②　様々なストローク、方向転換 | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 8 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 水上講習④<br>ツアーの楽しみ方①、<br>シュノーケリング①　用具の確認、使い方 | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 9 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 水上講習⑤<br>ツアーの楽しみ方②、<br>シュノーケリング②　ライフジャケットをつけた水中観察 | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 10 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 水上講習⑥<br>応用①レースゲーム 、飛び込みチャレンジ<br>シュノーケリング③　潜水 | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 11 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 水上講習⑦<br>スタンドアップパドルボード①　用具の確認、漕ぎ方、乗艇方法 | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 12 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 水上講習⑧<br>スタンドアップパドルボード②　ストローク、SUPを用いたアクティビティ | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 13 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 水上講習⑨<br>海釣り　仕掛けの作り方、フィッシングスポーツにおける留意点、海釣り体験 | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 14 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | ふりかえり<br>実習してきた内容を振り返り、「得たこと、学んだこと」について班員達と分かちあう。 | グループワーク | 【予習】各プログラムについて実施してきたことについて、各自で思い出し予めまとめておく。（2時間）<br>【復習】教員からの実習ノートを読み込み、グループ内で振り返りをおこなう。（2時間） |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 野外スポーツ実習II（ウィンター） | 授業形態 | |
| 英語科目名 | Outdoor Activity Practice II（winter class） | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 辻川　比呂斗 | ナンバリング | BAP1213/BAR1213 |
| 担当教員 | 辻川　比呂斗 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 日常生活とは異なる自然環境の中で、自然の持つ偉大さ、素晴らしさ、怖さ等を感じながら、野外スポーツ（冬季スポーツ）を体験することにより、その面白さを実感し、自身の生涯スポーツ実践に向けての資質を養う。<br>また自然環境におけるマナーやエチケット等を理解し、実践することを学び、集団活動を通じて協調性や社会性、道徳性等を習得する。<br>実習中においては、単に技術やマナーの習得のみならず、自然環境への配慮についても考える機会を設ける。実習内容は、服装、用具の点検、班別テスト、歩行、登行技術及び方向転換、滑走と停止、班別実習（プルークボーゲン、滑走プルーク、パラレルターン）、総合滑走、フリー滑走を行う。講義としてスキーの科学、ウインタースポーツと障害・外傷について学ぶ。<br>※新型コロナウイルスの感染状況に応じて、宿泊研修が困難な場合、日帰りでの実習もしくは延期・中止となる場合がある。<br>キーワード：ウインターアクティビティ、チームビルディング、アクティブラーニング、主体性の探求 |
| 到達目標 | 1．季節（冬季）に応じたアウトドアアクティビティにおける技術を身につける。（知識・技術）<br>2．自然環境への配慮についても考え、人間の生活が環境に与える負荷について説明でき、行動できる。（意欲・態度）<br>3．自然環境における配慮やマナーを修得する。<br>4．集団活動を通じて協調性や社会性、道徳性等を修得する。 |
| 授業の位置づけ | 基盤科目（導入科目） |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 【関連するディプロマポリシー（DP）】<br>共通DP-1　人間尊重の理念と高い倫理観を持ち、豊かな人間性を備えて人間の生活と健康状態における普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示し、社会に貢献できる能力<br>共通DP-3　自己の専門分野に対する向上心と研究心を持ち、生涯を通して継続して自己研鑽に励み、自己成長していく能力<br>理学DP-1　人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力<br>放射DP-1　人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・準備学習<br>　事前ガイダンスにおいて、実習前に予め必要な知識、体力および用具等についてのアナウンスを行う。そのため、実前ガイダンスに参加することで実習に最低限必要な情報を得る機会であり、必ず参加しなければならない。<br>・学習上の留意点<br>　本実習は集中講義であり、かつ非日常的ともいえる野外での活動となるため、急激な運動量の増加やそれに伴う体力の消耗が予想される。実習参加に際し、期間中の体調管理に十分配慮し、無理をせず担当者に報告することができるよう自己管理能力の向上も期待する。本実習において、スキー等の経験の有無は問わない。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 1．季節（冬季）に応じたアウトドアアクティビティにおける技術を身につける。（知識・技術）　各班付きの指導者および科目担当責任者が観察する。（40%：技術20%、習熟度20%）<br>2．自然環境への配慮についても考え、人間の生活が環境に与える負荷について説明でき、行動できる。（意欲・態度）　実習中の講義およびグループワーク経過を指導者が観察する。授業に対する意欲・参加態度（20%）<br>3．自然環境における配慮やマナーを修得する。　実習ノート内容および実習中の講義およびグループワーク経過を指導者が観察する。（20%）<br>4．集団活動を通じて協調性や社会性、道徳性等を修得する。　各班付きの指導者および科目担当責任者が観察する。（20%） |
| 評価基準 | 1．季節（冬季）に応じたアウトドアアクティビティにおける技術を身につける。（知識・技術）<br>2．自然環境への配慮についても考え、人間の生活が環境に与える負荷について説明でき、行動できる。（意欲・態度）<br>3．自然環境における配慮やマナーを修得する。<br>4．集団活動を通じて協調性や社会性、道徳性等を修得する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 実習内で適宜指導していく。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| テキスト：実習展開に応じ、随時資料等を配布する。<br>参考文献：『日本スキー教程「技術と指導」』財団法人全日本スキー連盟　スキージャーナル株式会社 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 実習前は科目責任者である辻川（hiroto@juntendo.ac.jp）まで、実習中は教員スタッフ全員に質問、相談して下さい。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|

| 回 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 直前ガイダンス　実習内容についての情報共有・寒冷地での服装について・専門用語の説明など | 講義 | 【予習】実習履修希望者は必ず事前オリエンテーションに参加し、予め冬季アクティビティの服装や実施に関する知識について学習を進める（2時間）<br>【復習】必要な装備について、調べ、各自揃える準備をする。（2時間 |
| 2 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | チームビルディングについて　班別での自己紹介・個人目標・チーム目標の設定 | 講義およびグループワーク | 【予習】実習要項・配布資料の該当ページを予め読み込んでおく。（2時間）<br>【復習】学んだ内容についてまとめ、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 3 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 講義<br>スキーの科学「①スキー用語と動作について、②ターンの原理」 | 講義およびグループワーク | 【予習】実習要項の該当ページを予め読み込んでおく。（2時間）<br>【復習】学んだ内容についてまとめ、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 4 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 講義およびグループワーク | 講義　ウインタースポーツにおける障害について、用具の手入れについて | 【予習】実習要項の該当ページを予め読み込んでおく。（2時間）<br>【復習】学んだ内容についてまとめ、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 5 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 雪上講習①<br>・服装、用具の点検<br>・歩行、登行技術および方向転換 | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 6 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 雪上講習②<br>班別テスト、滑走と停止<br>直滑降・斜滑降・方向転換 | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 7 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 雪上講習③<br>班別実習①　班毎に分かれて行う。（プルークボーゲン、滑走プルーク、パラレルターン） | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 8 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 雪上講習④<br>班別実習②　班毎に分かれて行う。（プルークボーゲン、滑走プルーク、パラレルターン） | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 9 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 雪上講習⑤<br>班別実習③　班毎に分かれて行う。（プルークボーゲン、滑走プルーク、パラレルターン） | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 10 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 雪上講習⑥<br>班別実習④　班毎に分かれて行う。（総合滑走①） | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 11 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 雪上講習⑦<br>班別実習⑤　班毎に分かれて行う。（総合滑走①） | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 12 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 雪上講習⑧<br>班別実習⑥　班毎に分かれて行う。（フリー滑走①） | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 13 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | 雪上講習⑨<br>班別実習⑦　班毎に分かれて行う。（フリー滑走②） | 実技 | 【予習】各プログラムについて、班毎に打ち合わせを行い、必要な物品や知識についての確認を行う。（2時間）<br>【復習】各自その時間に学んだ内容について班毎話し合い、実習ノートを作成する。（2時間） |
| 14 | 辻川、「招聘講師担当予定」 | ふりかえり<br>実習してきた内容を振り返り、「得たこと、学んだこと」について班員達と分かちあう。 | グループワーク | 【予習】各プログラムについて実施してきたことについて、各自で思い出し予めまとめておく。（2時間）<br>【復習】教員からの実習ノートを読み込み、グループ内で振り返りをおこなう。（2時間） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | フレッシャーズゼミナール | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Freshers Seminar | 開講学期 | 2022年度前期、2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | BAP1300 |
| 担当教員 | 高橋　哲也、池田 浩、宮森　隆行、藤原　俊之、眞壁 寿、松田 雅弘、森沢 知之、飛山 義憲、藤野 雄次、髙橋 容子、春山　幸志郎、相澤 純也、山口　智史、齊藤　正和、中村　絵美、澤　龍一、作山　晃裕、和田　太 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシー（ノートテイキング、情報検索、レポート作成法など）を学修する。さらに理学療法の各専門領域や周辺領域の最新トピックスについて講義を受け、聞いた内容を少人数のグループでディスカッションをする。特に後期は２年生と合同でゼミナールを行い、同じグループの他者に自分の意見を伝え、他者の意見を聞くことで、能動的な学習姿勢、協調的態度、医療人としての基本的なマナーを学ぶ。また少人数のグループで特定のテーマについて調査し、ディスカッションを通じて内容をまとめ、他のグループに向けてプレゼンテーションを行うことにより、少人数グループ学習による能動的な学習姿勢、協調的態度及び社会の中で働く医療人としての基本的なマナーを学ぶ。 |
| 到達目標 | １）大学で学ぶことの意味を知り、ノートテイキング、情報検索、レポート作成法などを身に着ける<br>２）理学療法関係分野の最新トピックスを聞き、他者に自分の意見を伝え、他者の意見を聞くことで、能動的な学習姿勢、協調的態度、医療人としての基本的なマナーを身に着ける<br>３）少人数グループ学習による能動的な学習姿勢、協調的態度及び社会の中で働く医療人としての基本的なマナーを身に着ける。 |
| 授業の位置づけ | ・4年間通じて配置されている1年次のゼミナールある<br>・大学生の学習を支援するとともに、小人数のグループで積極的なディスカッション能力を育成する<br>・将来のキャリアプランを育むために、先輩の体験談なども参考にして、自己実現に対する支援を行う |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP-1・2・4・5・8 |
| 履修上の注意、履修要件 | 大学で学ぶために必要なアカデミックリテラシーは大学生活の基本になるため、積極的な学修姿勢で臨むこと。また、各専任講師の講義は各分野の最前線に触れることができる貴重な機会であることから、問題意識と新たな知識に触れる好奇心を持って臨むこと。さらに、少人数のグループ学習は、能動的な学習姿勢、協調的態度及び社会の中で働く医療人としての基本的なマナーを学ぶために極めて重要であるため、積極的な受講を期待する。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 課題発表2題（40%）<br>ミニテスト（30%）<br>同一ゼミ内の他者からの評価（30%） |
| 評価基準 | 課題発表2題（40%）：学生評価、教員評価<br>ミニテスト（30%）：教員評価<br>同一ゼミ内の他者からの評価（30%）：学生評価<br><br>最終的な評価は総合的に判断する |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| JUNTENDO-PASSPORTのクロスプロファイル機能を使用して行う。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 特になし。必要に応じてプリントを授業の時に配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜日17：00-18：00　保健医療学部理学療法学科（御茶ノ水センタービル）507号室<br>te-takahashi@juntendo.ac.jp　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 担当する医師、理学療法士は臨床経験、教育経験、研究の経験を要している。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 【オリエンテーション】<br>保健医療学部理学療法学科のディプロマポリシーやカリキュラムポリシーを確認し、大学での学びに必要なスタディ・スキルについて学ぶ。ゼミ発表と担当教員の紹介も併せて行う。 | | 【予習】（90分）<br>学生便覧の該当箇所を読んでくること<br>【復習】（90分）<br>ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーを再度確認しておくこと |
| 2 | 医学教育研究 | 【医療人としての基本的態度を学ぶ２】 | | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 室教員 | 「日本医学教育歴史館」で順天度及び医療の歴史を学ぶ | | 順天堂大学日本医学教育歴史館ホームページを確認しておくこと<br>http://www.juntendo.ac.jp/jmehm/<br>【復習】（90分）<br>見学資料を再度見直し理解を深めること |
| 3 | 情報センター職員<br>学術メディアセンター職員 | 【アカデミックリテラシー1】<br>大学図書館における情報収集方法について学ぶ。 | | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 4 | 藤原　俊之<br>全科目担当者 | 【医療人としての基本的態度を学ぶ１】<br>リハビリテーション医学の最新トピックスについて講義を受け、聞いた内容を少人数のグループでディスカッションをする。 | | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 5 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 【アカデミックリテラシー2】<br>ノートのとり方・テキストの読み方について学ぶ。講義を受け、聞いた内容を少人数のグループでディスカッションをする。 | | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 6 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 【アカデミックリテラシー3】<br>アカデミック・ライティングの基本スキルや効果的な方法、レポートの書き方を学ぶ。<br>講義を受け、聞いた内容を少人数のグループでディスカッションをする。 | | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 7 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 【アカデミックリテラシー4】<br>わかりやすいプレゼンテーションを行うためにプレゼンテーションの基本スキルを学ぶ。<br>講義を受け、聞いた内容を少人数のグループでディスカッションをする。 | | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 8 | 坂井　建雄<br>全科目担当者 | 【理学療法の理解１】<br>解剖学の最新トピックスについて講義を受け、聞いた内容を少人数のグループでディスカッションをする。 | | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 9 | 長岡　功<br>全科目担当者 | 【理学療法の理解２】<br>生化学の最新トピックスについて講義を受け、聞いた内容を少人数のグループでディスカッションをする。 | | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 10 | 池田　浩<br>全科目担当者 | 【理学療法の理解３】<br>スポーツ整形外科学の最新トピックスについて講義を受け、聞いた内容を少人数のグループでディスカッションをする。 | | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 11 | 神経系理学療法学担当教員<br>全科目担当者 | 【理学療法の理解４】<br>神経系理学療法学の最新トピックスについて講義を受け、聞いた内容を少人数のグループでディスカッションをする。 | | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 12 | 内部障害系理学療法学担当教員<br>全科目担当者 | 【理学療法の理解５】<br>内部障害系理学療法の最新トピックスについて講義を受け、聞いた内容を少人数のグループでディスカッションをする。 | | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 13 | 全科目担当者 | 【ミニプレゼンテーション１】<br>少人数のグループで特定のテーマについて調査した内容をディスカッションし、まとめる。ミニプレゼンテーションに向けたテーマ、役割分担を決める。 | | 【予習】（90分）<br>与えられた役割を実行しディスカッションの準備をする<br>【復習】（90分）<br>プレゼンテーションの準備をする |
| 14 | 全科目担当者 | 【ミニプレゼンテーション２】 | | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 各グループで特定のテーマについてまとめたものを他のグループに向けてプレゼンテーションを行う。（前半組） | | プレゼンテーションの準備をする<br>【復習】（90分）<br>プレゼンテーションの資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させる |
| 15 | 全科目担当者 | 【ミニプレゼンテーション３】<br>各グループで特定のテーマについてまとめたものを他のグループに向けてプレゼンテーションを行う。（後半組） | | 【予習】（90分）<br>プレゼンテーションの準備をする<br>【復習】（90分）<br>プレゼンテーション資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させる |
| 16 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 後期オリエンテーション<br>保健医療学部理学療法学科のディプロマポリシーやカリキュラムポリシーを確認し、大学での学びに必要なスタディ・スキルについて再確認する。<br>上級生との交流を通して、理学療法学を学ぶ態度を再確認する。 | | 【予習】（90分）<br>前期で得られた理学療法学に関連する知識を整理し、自己紹介とともに紹介できるようにしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>共有された理学療法学に関連する知識や経験を十分に復習すること。 |
| 17 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>理学療法（士）の関連するテーマを定め、テーマについて学年間でのグループワークを行い、最後にプレゼンテーションを行い、理学療法についての理解を深める。 | | 【予習】（90分）<br>事前に与えられた理学療法（士）の関連するテーマについて調べて自分の意見を準備しておくこと<br>【復習】（90分）<br>自身の報告および発表に対するフィードバックを復習するとともに、共有された他者の報告および発表を復習し、次回のディスカッションに活かすこと |
| 18 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>理学療法（士）の関連するテーマを定め、テーマについて学年間でのグループワークを行い、最後にプレゼンテーションを行い、理学療法についての理解を深める。 | | 【予習】（90分）<br>事前に与えられた理学療法（士）の関連するテーマについて調べて自分の意見を準備しておくこと<br>【復習】（90分）<br>自身の報告および発表に対するフィードバックを復習するとともに、共有された他者の報告および発表を復習し、次回のディスカッションに活かすこと |
| 19 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>理学療法（士）の関連するテーマを定め、テーマについて学年間でのグループワークを行い、最後にプレゼンテーションを行い、理学療法についての理解を深める。 | | 【予習】（90分）<br>事前に与えられた理学療法（士）の関連するテーマについて調べて自分の意見を準備しておくこと<br>【復習】（90分）<br>自身の報告および発表に対するフィードバックを復習するとともに、共有された他者の報告および発表を復習し、次回のディスカッションに活かすこと |
| 20 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>理学療法（士）の関連するテーマを定め、テーマについて学年間でのグループワークを行い、最後にプレゼンテーションを行い、理学療法についての理解を深める。 | | 【予習】（90分）<br>事前に与えられた理学療法（士）の関連するテーマについて調べて自分の意見を準備しておくこと<br>【復習】（90分）<br>自身の報告および発表に対するフィードバックを復習するとともに、共有された他者の報告および発表を復習し、次回のディスカッションに活かすこと |
| 21 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>理学療法（士）の関連するテーマを定め、テーマについて学年間でのグループワークを行い、最後にプレゼンテーションを行い、理学療法についての理解を深める。 | | 【予習】（90分）<br>事前に与えられた理学療法（士）の関連するテーマについて調べて自分の意見を準備しておくこと<br>【復習】（90分）<br>自身の報告および発表に対するフィードバックを復習するとともに、共有された他者の報告および発表を復習し、次回のディスカッションに活かすこと |
| 22 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>理学療法（士）の関連するテーマを定め、テーマについて学年間でのグループワークを行い、最後にプレゼンテーションを行い、理学療法についての理解を深める。 | | 【予習】（90分）<br>事前に与えられた理学療法（士）の関連するテーマについて調べて自分の意見を準備しておくこと<br>【復習】（90分）<br>自身の報告および発表に対するフィードバックを復習するとともに、共有された他者の報 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 告および発表を復習し、次回のディスカッションに活かすこと |
| 23 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>理学療法（士）の関連するテーマを定め、テーマについて学年間でのグループワークを行い、最後にプレゼンテーションを行い、理学療法についての理解を深める。 | | 【予習】（90分）<br>事前に与えられた理学療法（士）の関連するテーマについて調べて自分の意見を準備しておくこと<br>【復習】（90分）<br>自身の報告および発表に対するフィードバックを復習するとともに、共有された他者の報告および発表を復習し、次回のディスカッションに活かすこと |
| 24 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>理学療法（士）の関連するテーマを定め、テーマについて学年間でのグループワークを行い、最後にプレゼンテーションを行い、理学療法についての理解を深める。 | | 【予習】（90分）<br>事前に与えられた理学療法（士）の関連するテーマについて調べて自分の意見を準備しておくこと<br>【復習】（90分）<br>自身の報告および発表に対するフィードバックを復習するとともに、共有された他者の報告および発表を復習し、次回のディスカッションに活かすこと |
| 25 | 全科目担当者 | ゼミ毎に特定のテーマを相談し、議論の上で決定し、調査などの役割分担を決める。 | | 【予習】（90分）<br>プレゼンテーションの準備をする<br>【復習】（90分）<br>プレゼンテーションの準備をする |
| 26 | 全科目担当者 | ゼミ毎に特定のテーマについて調査し、ディスカッションを通じて内容をまとめる。 | | 【予習】（90分）<br>プレゼンテーションの準備をする<br>【復習】（90分）<br>プレゼンテーションの準備をする |
| 27 | 全科目担当者 | ゼミ毎に特定のテーマについて調査し、ディスカッションを通じて内容をまとめる。 | | 【予習】（90分）<br>プレゼンテーションの準備をする<br>【復習】（90分）<br>プレゼンテーションの準備をする |
| 28 | 全科目担当者 | 【プレゼンテーション１】<br>まとめた内容をポスターにしてプレゼンテーションを行う。 | | 【予習】（90分）<br>プレゼンテーションの準備をする<br>【復習】（90分）<br>プレゼンテーションの資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させる |
| 29 | 全科目担当者 | 【プレゼンテーション２】<br>まとめた内容をポスターにしてプレゼンテーションを行う。 | | 【予習】（90分）<br>プレゼンテーションの準備をする<br>【復習】（90分）<br>プレゼンテーションの資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させる |
| 30 | 全科目担当者 | 【プレゼンテーション３】<br>まとめた内容をポスターにしてプレゼンテーションを行う。 | | 【予習】（90分）<br>プレゼンテーションの準備をする<br>【復習】（90分）<br>プレゼンテーションの資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させる |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 解剖学I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Anatomy I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 坂井 建雄 | ナンバリング | PBP2000 |
| 担当教員 | 坂井 建雄 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 人体を支持する骨格は個々の骨が関節でつながれて形作られ、骨格筋は骨格を動かして身体の運動を行い、両者を合わせて運動器という。身体は全身でまた各部位でさまざまな運動を行っており、そのそれぞれが骨格と骨格筋の協調によって行われる。下肢は全身を支えて直立二足歩行を行い、上肢は手でものをつかんで操り、腹部は内臓の保持と腰のひねり、胸部は呼吸運動、頸部は首の支持と傾斜・回旋、頭部は顎を動かし表情を作るなど、こういったあらゆる身体運動を可能にするのは、206個ほどの骨とそこに付着し収縮する骨格筋であり、それぞれの骨と関節と骨格筋の構造を正確に学ぶことによって、身体運動の仕組みを深く理解することができる。骨格筋は特定の神経によって支配され収縮する。骨については個々の骨の名称・位置と形状・構造の特徴及び骨格筋については名称・位置と形状・骨への付着部位・運動作用・支配神経について学ぶ。 |
| 到達目標 | ・人体の骨格を構成する骨の名称、形態について説明できる。<br>・人体の骨格の関節について、名称、構造、可動性について説明できる。<br>・人体の骨格筋について、名称、形態、起始、停止、作用、神経支配について説明できる。<br>・人体の主要な関節の運動と筋の作用について説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 理学療法学の基礎となる運動器の構造を、機能と関連づけて学習する。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-C1、共通DP3-C1・2、理学DP3-C1・2、理学DP 4-C1・2、理学DP 5-C1・2 |
| 履修上の注意、履修要件 | 解剖学の学習では、骨や筋肉の名称を覚えることが目的ではありません。骨にどのような特徴があり、関節によってつながれてどのように動くのか、また筋肉の一つ一つが骨につながってどのように関節を動かすのか、そのように身体の構造を機能と関連づけて知ることが大切です。骨格と関節と筋の構造は運動機能と直結しており、理学療法士の仕事に役立つ最重要の基礎になります。教科書だけでなく、参考書の解剖アトラスを駆使して、しっかりした運動器の解剖学の知識と理解を身につけてください。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験および授業内の小テスト（オンラインで実施）の結果により評価を行う。 |
| 評価基準 | 運動器（骨格、関節、筋）の構造を機能と関連づけて説明できるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却。 | |
| テキスト | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 『標準解剖学』 | 坂井建雄 | 医学書院 | 978-4-260-02473-0 |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 参考書：坂井建雄・松村譲兒監訳（2017）『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』第3版　医学書院 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 初回の講義にて連絡する。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2022/4/8<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【骨格系総論】<br>骨の構造・機能、関節の種類と構造 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第1章AとC、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」40-55頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した人体の骨と関節の総論について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 2<br>2022/4/15<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【筋系総論】<br>骨格筋の構造・機能、神経、補助装置、筋の作用と運動 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第1章AとC、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」56-63頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 講義で説明した人体の骨格筋の総論について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 3<br>2022/4/22<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【上肢の骨格】<br>上肢帯と自由上肢の骨の名称と形態、関節 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第6章A・B・D、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」240-297頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した上肢の骨と関節について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 4<br>2022/5/9<br>月 4限 | 坂井　建雄 | 【上肢の筋1】<br>上肢帯と上腕の筋 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第6章C、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」298-315、332-339頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した上肢帯と上腕の筋について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 5<br>2022/5/20<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【上肢の筋2】<br>前腕と手の筋 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第6章C、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」316-331、340-355頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した前腕と手の筋について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 6<br>2022/5/27<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【末梢神経・血管1】<br>上肢の神経・血管、頭頸部の神経 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第6章E・G、第8章J、第9章E、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」362-407頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した上肢と頭頸部の神経・血管について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 7<br>2022/6/3<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【下肢の骨格】<br>下肢帯と自由下肢の骨の名称と形態、関節 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第7章A・B・D、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」410-479頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した下肢の骨と関節について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 8<br>2022/6/10<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【下肢の筋1】<br>下肢帯と大腿の筋 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第7章C、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」480-491、508-515頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した下肢帯と下肢の筋について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 9<br>2022/6/17<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【下肢の筋2】<br>下腿と足の筋 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第7章C、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」492-507、516-529頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した下腿と足の筋について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 10<br>2022/6/24<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【体肢の運動と筋】<br>体肢の関節運動と筋の作用 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第6・7章CとD、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」240-355頁、410-507頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した体肢の関節運動と筋の作用について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 11<br>2022/7/1<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【末梢神経・血管2】<br>下肢の神経・血管、体幹の神経 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第7章E・G「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」198-213頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した下肢と体幹の神経・血管に |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | ついて、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 12<br>2022/7/8<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【体幹の骨格】<br>脊柱と胸郭を構成する骨の名称と形態、関節 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第2章AとB、第4章AとB、第5章AとB、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」102-145頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した体幹の骨と関節について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 13<br>2022/7/15<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【体幹の筋】<br>胸壁筋、腹壁筋、背筋、会陰筋、体幹の運動 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第2章B、第3章B、第5章D、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」146-191頁を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した体幹の筋について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 14<br>2022/7/22<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【頭蓋】<br>頭蓋（神経頭蓋・顔面頭蓋）の骨の名称と形態、関節 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第8章AとBを確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した頭部の骨と関節について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 15<br>2022/7/29<br>金 2限 | 坂井　建雄 | 【頭頸部の筋】<br>頭部の筋、頸部の筋、頭頸部の運動 | 講義、プリントを配布、授業終了後に小テストに回答する。 | 【予習】（90分）<br>「標準解剖学」第2章B、第3章B、第5章DとIを確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した頭頸部の筋について、正確に知識として獲得しておくこと。 |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 解剖学II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Anatomy II | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 小池　正人 | ナンバリング | PBP2001 |
| 担当教員 | 小池　正人、坂井 建雄、安西　なつめ | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 人体の機能は、生命を維持する植物機能と生命を活用する動物機能とに大別される。本講義では、人体の器官、臓器のうち、解剖学Iで扱ったもの以外を取り扱う。これにより、解剖学Iでの学修内容とあわせて、人体の構造全体について理解することを目指す。具体的には、前半の諸講義において、動物機能を営む器官系のうち、神経系（中枢神経系と末梢神経系）を重点的に扱う。さらに感覚の種類に基づく各種感覚器系について学修する。後半では、植物機能を営む器官系である消化器系、呼吸器系、循環器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、免疫系についてその大要を理解するための講義を行う。加えて内臓機能の調節に関わる自律神経についても学修する。 |
| 到達目標 | ・ 生命維持を行う内臓系の器官の名称、形態、機能について説明できる。<br>・ 循環系の構成の概要について説明できる。<br>・ 内臓機能の調節と生体防御の仕組みについて説明できる。<br>・ 神経系（中枢神経系と末梢神経系）の構成と中枢神経系の各部位の役割について概説できる。<br>・ 主要な下行伝導路である皮質脊髄路とその調節機構について説明できる。<br>・ 各種感覚器の構造と役割、体性感覚の上行伝導路について説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 本講義の内容は、別途開講される生理学の諸講義との関連が深い。後期の解剖学実習IIでは、解剖学IおよびIIで学習した内容に基づき、運動器と神経組織を中心とした肉眼及び顕微鏡を用いた観察を行い、知識の定着を確実なものにする。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-2-C1、理学DP-3-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 解剖学の学習では、器官や部位の名称を覚えることが目的ではありません。器官を身体の部位の中に位置づけて、形状・部分について知ること、さらに器官系の中に位置づけて内部構造と働きについて知ること、それらを通して器官の構造と機能を関連づけることが大切です。自分の身体について積極的に疑問をもちそれを解決するという学修姿勢をもって講義に臨んで頂ければと考えております。とくに神経系・感覚器系については、リハビリテーションの現場で遭遇する、運動障害や感覚障害がどのようにして起こるのかについての理解を心掛け、目的を絞って学習することが重要です。各回の講義は指定教科書を各自で読んで理解できるようになることを目指しているので、復習により講義に関連した部分の指定教科書の章末問題や小テストなどでしっかりと知識を定着させ、試験に臨んでいただきたいと思います。全ての講義に出席することが重要ですが、やむを得ず欠席した場合は教科書、参考書、プリントなどで自己学修をすることが必要です。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 原則、講義ごとの小テスト（３０％）、定期試験（７０％）とする。 |
| 評価基準 | 以下の点に着目して評価する<br>・ 生命維持を行う内臓系の器官の名称、形態、機能について説明できるか。<br>・ 循環系の構成の概要について説明できるか。<br>・ 内臓機能の調節と生体防御の仕組みについて説明できる。<br>・ 神経系（中枢神経系と末梢神経系）の構成と中枢神経系の各部位の役割について概説できるか。<br>・ 主要な下行伝導路である皮質脊髄路とその調節機構について説明できるか。<br>・ 各種感覚器の構造と役割、体性感覚の上行伝導路について説明できるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 『系統看護学講座 解剖生理学』第10版 | 坂井建雄; 岡田隆夫 | 医学書院 | 978-4-260-03171-4 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 坂井建雄『標準解剖学』（医学書院, 2017） |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | mkoike@juntendo.ac.jp 医学部神経生物学・形態学（A棟9F南）　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 坂井　建雄 | 【人体の構造と機能】 | 講義 | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4/8 | | 人体の構造、器官系、細胞と組織、内部環境 | | 「系統看護学講座 解剖生理学」第1章を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した人体の総論について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 2<br>4/15 | 安西 なつめ | 【消化器1】<br>口腔、食道、腹部の消化管 | 講義 | 【予習】（90分）<br>「系統看護学講座 解剖生理学」第2章AとBを確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した消化器の構造と機能について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 3<br>4/22 | 安西 なつめ | 【消化器2】<br>肝臓、膵臓、腹膜腔、腸間膜 | 講義 | 【予習】（90分）<br>「系統看護学講座 解剖生理学」第2章CとDを確認しておくこと。<br>【復習】<br>講義で説明した消化器の構造と機能について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 4<br>5/13 | 安西 なつめ | 【呼吸器】<br>鼻腔、喉頭、気管・気管支、肺、胸膜 | 講義 | 【予習】（90分）<br>「系統看護学講座 解剖生理学」第5章AとBを確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した呼吸器の構造と機能について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 5<br>5/20 | 坂井　建雄 | 【循環器1】<br>縦隔、心臓の構造と機能 | 講義 | 【予習】（90分）<br>「系統看護学講座 解剖生理学」第4章A～Cを確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した縦隔と心臓の構造と機能について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 6<br>5/27 | 坂井　建雄 | 【循環器2】<br>全身の動脈、静脈、リンパ管、胎児循環 | 講義 | 【予習】（90分）<br>「系統看護学講座 解剖生理学」第4章D～Fを確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した血管系の構造と機能について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 7<br>6/3 | 坂井　建雄 | 【泌尿器】<br>腎臓、尿管、膀胱 | 講義 | 【予習】（90分）<br>「系統看護学講座 解剖生理学」第5章を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した腎・泌尿器の構造と機能について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 6/10 | 坂井　建雄 | 【自律神経と内分泌】<br>内分泌腺、ホルモン、交感神経、副交感神経 | 講義 | 【予習】（90分）<br>「系統看護学講座 解剖生理学」第6章を確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した自律神経と内分泌の仕組みについて、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 9<br>6/17 | 安西 なつめ | 【血液と生体防御】<br>血液、造血器、リンパ組織、脾臓、胸腺 | 講義 | 【予習】（90分）<br>「系統看護学講座 解剖生理学」第3章Cと第9章Bを確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した血液と生体防御の仕組みについて、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 10<br>6/24 | 安西 なつめ | 【生殖器】<br>男性生殖器、女性生殖器 | 講義 | 【予習】（90分）<br>「系統看護学講座 解剖生理学」第10章A～Cを確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義で説明した男性・女性生殖器の構造と機能について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 11<br>6/27<br>月曜4限 | 小池　正人 | 【神経系の構成】<br>神経系の基本的な構成、脳と脊髄の構造の概要と血管支配、髄膜、脳脊髄循環、脳の血管支配 | 講義 | 【予習】（90分）<br>「系統看護学講座 解剖生理学」の8章A「神経系の構造と機能」、B「脊髄と脳」の⑤⑥、F「感覚機能と上行性伝導路」①?④の項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>講義中の確認テスト、および講義中に指定し |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | た指定教科書の章末問題を中心とした課題は講義における最重要事項であるため、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 12<br>7/4<br>月曜4限 | 小池　正人 | 【末梢神経系】<br>末梢神経系の基本的な構成、感覚の種類についての概要、脊髄神経の基本走行、脳神経の走行と機能 | 講義 | 【予習】（90分）<br>前々回の末梢神経系の概略、前回の脊髄・脳幹（延髄･橋･中脳）についての講義内容を十分に復習しておくこと。<br>「系統看護学講座 解剖生理学」の8章C「脊髄神経と脳神経」およびF「感覚機能と上行性伝導路」①-④、９章A「皮膚の構造と機能」の項を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義中の確認テスト、および講義中に指定した指定教科書の章末問題を中心とした課題は講義における最重要事項であるため、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 13<br>7/8 | 日置　寛之 | 【中枢神経系】<br>脊髄・延髄･橋･中脳･小脳・間脳・大脳の構造および機能 | 講義 | 【予習】（90分）<br>前回の中枢神経系の概略についての講義内容を十分に復習しておくこと。<br>「系統看護学講座 解剖生理学」の8章B「脊髄と脳」の項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>講義中の確認テスト、および講義中に指定した指定教科書の章末問題を中心とした課題は講義における最重要事項であるため、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 14<br>7/11<br>月曜4限 | 小池　正人 | 【感覚器、体性感覚の伝導路】<br>感覚の種類と体性感覚および特殊感覚の受容器の構造、体性感覚の伝導路 | 講義 | 【予習】（90分）<br>講義12の中枢神経系についての講義内容を十分に復習しておくこと。<br>「系統看護学講座 解剖生理学」の8章F「感覚機能と上行性伝導路」、G「眼の構造と視覚」の①②、H「耳の構造と聴覚・平衡覚」の①、I「味覚と嗅覚」、９章A「皮膚の構造と機能」の項を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義中の確認テスト、および講義中に指定した指定教科書の章末問題を中心とした課題は講義における最重要事項であるため、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 15<br>7/22 | 日置　寛之 | 【皮質脊髄路とその調節】<br>代表的な下行性伝導路である皮質脊髄路の走行と、小脳および大脳基底核による調節機構、筋肉の神経支配 | 講義 | 【予習】（90分）<br>講義12の中枢神経系についての講義内容、特に大脳皮質・大脳基底核・小脳について十分に復習しておくこと。<br>「系統看護学講座 解剖生理学」の7章C「骨格筋」③、8章E「運動機能と下行伝導路」の項を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義中の確認テスト、および講義中に指定した指定教科書の章末問題を中心とした課題は講義における最重要事項であるため、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 解剖学実習I | 授業形態 | 実験・実習 |
| 英語科目名 | Practice of Anatomy I | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 坂井 建雄 | ナンバリング | PBP2002 |
| 担当教員 | 坂井 建雄 | | |

授業概要

| | |
|---|---|
| 全体内容 | 運動器を構成する骨格と骨格筋は、人体の中で3次元的に配置され、つながりあって働いている。本実習の目的は、これまでの講義で学んだ運動器についての解剖学的な知識を応用して、骨格の位置と形態・特徴的な構造を3次元的に理解すること、更に骨格筋の位置と形態・付着部位と作用を人体の動きと対応させて理解することである。人体骨格模型を用いて単独の骨の観察とスケッチ、骨格での筋の付着部位の同定、連結させた状態での関節の動きの実習、更に学生自身の体表からの骨格・骨格筋・筋運動の観察を通して、人体での骨格と骨格筋の構造と働きについての理解を深める。また本学医学部の人体解剖実習における解剖体及び解剖標本を利用して、実際の人体そのものを観察するとともに、医学の教育と研究が献体者からの厚意や社会からの支援によって行われていることを理解する。 |
| 到達目標 | ・人体の骨格を構成する骨の名称、形態について説明できる。<br>・人体の骨格の関節について、名称、構造、可動性について説明できる。<br>・人体の骨格筋について、名称、形態、起始、停止、作用、神経支配について説明できる。<br>・人体の主要な関節の運動と筋の作用について説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 理学療法学の基礎となる運動器の構造について、実習を通して学習する。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-C1、共通DP3-C1・2、理学DP3-C1・2、理学DP 4-C1・2、理学DP 5-C1・2 |
| 履修上の注意、履修要件 | 解剖学の学習では、骨や筋肉の名称を覚えることが目的ではありません。骨にどのような特徴があり、関節によってつながれてどのように動くのか、また筋肉の一つ一つが骨につながってどのように関節を動かすのか、そのように身体の構造を機能と関連づけて知ることが大切です。骨格と関節と筋の構造は運動機能と直結しており、理学療法士の仕事に役立つ最重要の基礎になります。教科書だけでなく、参考書の解剖アトラスを駆使して、しっかりした運動器の解剖学の知識と理解を身につけてください。<br>【人体解剖見学】<br>前期に2回医学部の解剖実習室で人体解剖見学を実施する。<br>事前説明?月?日（?）?：?～：御茶ノ水センタービル6階601教室<br>1回目　6月20日（月）13：10～　「上肢の解剖」<br>2回目　12月12日（月）13：10～　「下肢の解剖」 |

成績評価の方法

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 実習中の態度および提出された課題によって評価する |
| 評価基準 | 運動器の各部の名称と構造について、正確に説明できる。 |

試験・課題等に対するフィードバック方法

授業内やJuntendo Passportを使用して返却。

テキスト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系』第3版 | 坂井建雄・松村譲児監訳 | 医学書院 | 978-4-260-02534-8 | |

参考文献

参考書：坂井建雄（2017）『標準解剖学』医学書院

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 初回の実習にて連絡する。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2022/10/3月<br>（3コマ連続） | 坂井　建雄<br>解剖学・生体構造科学<br>全教員 | 【骨学実習1】<br>全身の骨格、脊柱、骨盤 | 骨格模型を観察し、課題についての回答とスケッチを、レポートとして提出する。 | 【予習】(90分)<br>「標準解剖学」第1章A②、第4章B、第5章B、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」40-55、102-105、140-143頁を確認しておくこと。<br>【復習】(90分) |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 実習で観察した人体の骨格について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 2<br>2022/10/17<br>月<br>（３コマ連続） | 坂井　建雄<br>解剖学・生体構造科学全教員 | 【骨学実習2】<br>下肢・下肢帯の骨格 | 骨格模型を観察し、課題についての回答とスケッチを、レポートとして提出する。 | 【予習】(90分)<br>「標準解剖学」第7章B、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」410-479頁を確認しておくこと。<br>【復習】(90分)<br>実習で観察した下肢・下肢帯の骨格について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 3<br>2022/10/24<br>月<br>（３コマ連続） | 坂井　建雄<br>解剖学・生体構造科学全教員 | 【関節・筋実習1】<br>下肢・下肢帯の関節・筋 | 骨格模型を用いて骨の連結（関節）を組み立てる。筋の起始・停止・走行を描画するレポートを提出する。 | 【予習】(90分)<br>「標準解剖学」第7章C・D、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」428-529頁を確認しておくこと。<br>【復習】(90分)<br>実習で観察した下肢・下肢帯の関節・筋について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 4<br>2022/10/31<br>月<br>（３コマ連続） | 坂井　建雄<br>解剖学・生体構造科学全教員、理学療法学科教員 | 【体表解剖実習1】<br>下半身の体表解剖学 | 学生同士で、主要な骨格部位と筋肉を体表から観察し触知する。学習内容を報告するレポートを提出する。 | 【予習】(90分)<br>骨学実習1・2、関節・筋実習1の内容をよく復習しておくこと。「標準解剖学」第4章B、第5章B、第7章A-D、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」30-37、140-145、410-411、550-553頁を確認しておくこと。<br>【復習】(90分)<br>実習で観察した骨盤・下肢の骨格・関節・筋について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 5<br>2022/11/7<br>月<br>（３コマ連続） | 坂井　建雄<br>解剖学・生体構造科学全教員 | 【骨学実習3】<br>頭蓋、胸郭 | 骨格模型を観察し、課題についての回答とスケッチを、レポートとして提出する。 | 【予習】(90分)<br>「標準解剖学」第2章B、第8章B、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」134-139頁を確認しておくこと。<br>【復習】(90分)<br>実習で観察した頭蓋・胸郭の骨格について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 6<br>2022/11/14<br>月<br>（３コマ連続） | 坂井　建雄<br>解剖学・生体構造科学全教員 | 【骨学実習4】<br>上肢・上肢帯の骨格 | 骨格模型を観察し、課題についての回答とスケッチを、レポートとして提出する。 | 【予習】(90分)<br>「標準解剖学」第6章B、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」240-297頁を確認しておくこと。<br>【復習】(90分)<br>実習で観察した上肢・上肢帯の骨格について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 7<br>2022/11/21<br>月<br>（３コマ連続） | 坂井　建雄<br>解剖学・生体構造科学全教員 | 【関節・筋実習2】<br>上肢・上肢帯の関節・筋 | 骨格模型を用いて骨の連結（関節）を組み立てる。筋の起始・停止・走行を描画するレポートを提出する。 | 【予習】(90分)<br>「標準解剖学」第6章C・D、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」260-355頁を確認しておくこと。<br>【復習】(90分)<br>実習で観察した上肢・上肢帯の関節・筋について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| 8<br>2022/11/28<br>月<br>（３コマ連続） | 坂井　建雄<br>解剖学・生体構造科学全教員、理学療法学科教員 | 【体表解剖実習2】<br>上半身の体表解剖学 | 学生同士で、主要な骨格部位と筋肉を体表から観察し触知する。学習内容を報告するレポートを提出する。 | 【予習】(90分)<br>骨学実習3・4、関節・筋実習2の内容をよく復習しておくこと。「標準解剖学」第2章B、第3章B、第5章B、第6章A-D、第8章B、第9章B、「プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系」30-37、102-105、240-257、376-379頁を確認しておくこと。<br>【復習】(90分)<br>実習で観察した頭頸部・体幹・上肢の骨格・関節・筋について、正確に知識として獲得しておくこと。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 解剖学実習II | 授業形態 | 実験・実習 |
| 英語科目名 | Practice of Anatomy II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 小池　正人 | ナンバリング | PBP2003 |
| 担当教員 | 小池　正人 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本実習は、解剖学Ⅱの講義で扱った諸器官の理解を促すための実習と運動器と神経系を中心とした顕微鏡レベルの人体の構造（組織学）の基本について学修する。具体的には、四大組織（皮膚と消化管）、皮膚（上皮、結合組織、感覚受容器）、運動器（骨、軟骨、骨格筋、腱、血管）、神経系（中枢神経系、末梢神経系）、循環器系（心臓）に焦点を絞り、ヒトないし動物由来の切片を用いた光学顕微鏡観察（バーチャルスライドの利用も含む）を行う。さらに、中枢神経系については本学医学部の解剖体を用いて、脳と脊髄（全脳やスライス標本）の構造について観察を行う。 |
| 到達目標 | ・ 顕微鏡を用いて組織細胞を観察できるようになる。<br>・ 人体の組織が上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織の4大組織からなることを、実例を挙げて説明できる。<br>・ 皮膚と消化管の基本構造を組織学的に説明できる。<br>・ 嚥下について解剖学的に説明できる。<br>・ 運動器を構成する骨格筋、腱、骨、軟骨について組織学的に説明できる。<br>・ 心臓の基本構造を組織学的に説明できる。<br>・ 脊髄と末梢神経、皮膚の感覚受容器、神経筋接合部について組織学的に説明できる。<br>・ 脳の基本構造について解剖学的に説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 前期に履修する解剖学Ⅰ、Ⅱは、肉眼解剖学的な観点で人体の構成についての理解を目指している。後期の解剖学実習IIでは、組織学的な観点での人体の構成を理解することを目指しており、解剖学Ⅰ、Ⅱでの学習内容を補完する役割を果たす。特に本実習では、サルコペニア、ロコモ、フレイルに関連する構造に絞って実際の標本を用いた観察を行うことを目指している。<br>全８回中６回は組織切片の顕微鏡観察やバーチャルスライドによる組織学実習と、まとめの講義（嚥下、関節の構造など）からなる。特に、皮膚、小腸、膝関節、踵、手指などのミクロとマクロを繋ぐ同じ標本を、観点を変えて何度も観察することで、筋肉、腱、関節、末梢神経などの運動器系の一般構造についての深い理解を目指す。解剖学Ⅰでは各種筋の起始停止、支配神経について学習したが、解剖学実習IIではその共通の構造についての顕微鏡観察を行うことになる。最後の２回の脳解剖実習では、解剖学IIで学習した中枢神経系について、組織標本と人脳のスライス標本を用いてその構造の概要についての理解を深めることを目的とする。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1C1・2C1、理学DP-1C1・2C1・3C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 各実習では関連する解剖学Ⅰ、Ⅱの講義について明示するので、前期で学習した内容を事前に復習することが望ましい。<br>予習用の教材として昨年度の実習講義を配信するので、大いに活用して欲しい。<br>実習は全て出席を原則とする。遅刻早退も原則認めない。<br>2-5回目の実習で配布される確認テストを用いて、自身の学修状況を確認すること。<br>組織学実習・脳解剖実習それぞれでまとめの小テストを行い、最終成績に加味する予定である。<br>指定教科書のプロメテウスアトラスの像と対比しながら何が顕微鏡下で観察できるか予測することが重要である。<br>脳解剖実習では、ご遺体の脳を観察するので、実習にあたっては特に礼意を失わないように注意しなければならない。実習風景や標本の撮影はもちろん、実習の内容をSNSなどに投稿することは厳禁である。<br>MRIビューアを用いた脳の観察は、全国で本学のみ実施されている。積極的に取り組んでもらいたい。<br>COVID-19の状況次第では学年を2グループに分けて実習を実施する可能性がある。事前の連絡に従うこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 出席及び組織学実習・脳解剖実習それぞれでまとめの小テストの成績を加味して評価する。 |
| 評価基準 | ・ 皮膚と消化管の基本構造を4大組織の観点でに説明できるか。<br>・ 運動器を構成する骨格筋、腱、骨、軟骨について4大組織の観点で説明できるか。<br>・ 心臓の基本構造を組織学的に説明できるか。<br>・ 嚥下について解剖学的に説明できるか。<br>・ 脊髄と末梢神経、皮膚の感覚受容器、神経筋接合部について組織学的に説明できるか。<br>・ 脳の基本構造について解剖学的に説明できるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 『系統看護学講座 解剖生理学』第10版 | 坂井建雄; 岡田隆夫 | 医学書院 | 978-4-260-03171-4 | |
| 『プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系』第3版 | 坂井建雄; 松村 譲兒 | 医学書院 | 978-4-260-02534-8 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| オリジナルの実習書ないしプリントを配布する。<br>参考書　坂井建雄『標準解剖学』（医学書院, 2017） |

| | |
|---|---|
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | mkoike@juntendo.ac.jp 医学部神経生物学・形態学（A9F北側）　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 医学部<br>神経生物学・形態学教員<br>9/28<br>形態系実習室（３コマ連続） | 【組織学実習ガイダンス・細胞・4大組織】<br>講義<br>・ 実習全体の目的、実習の諸注意・評価法について理解する。<br>・ 人体の階層性について理解する。<br>・ 手指、空腸を例に、組織が上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織の4大組織からなることを大まかに理解する。<br>実習<br>・ 肝臓の切片を用いて顕微鏡の操作方法についてガイダンスを行う。<br>・ 肝臓の切片を用いて１つの細胞を同定する。<br>・ バーチャルスライドで手指の観察を行う。<br>・ 手指の皮膚、空腸の上皮の観察を行う。 | 実習講義と顕微鏡・バーチャルスライドを用いた実習からなる。 | 【予習】（90分）<br>１． 前期の解剖学II講義の関連項目（細胞と組織、腹部の消化管、肝臓、皮膚）について復習しておくこと。<br>２． 「系統看護学講座 解剖生理学」の1章B「素材からみた人体」の①②⑥、2章B「腹部消化管の構造と機能」の③、C「膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能」の②、9章A「皮膚の構造と機能」の①の項を読んでおくこと。<br>３． プロメテウスアトラスで手指の局所解剖について調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習での観察内容を元に、「系統看護学講座 解剖生理学」の関連項目を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 2 | 医学部<br>神経生物学・形態学教員<br>10/12<br>形態系実習室（３コマ連続） | 【上皮、結合組織、皮膚、軟骨】<br>講義<br>・ 皮膚の構造を通して上皮および結合組織について理解する<br>・ 結合組織の種類について理解する<br>・ 特殊な結合組織としての軟骨について理解する<br><br>実習<br>・ 皮膚の三層構造を観察する。<br>・ 皮膚の真皮、皮下組織、アキレス腱の標本の観察をもとに、結合組織について理解する。<br>・ 気管軟骨を例に軟骨組織について理解する。 | 実習講義と顕微鏡・バーチャルスライドを用いた実習からなる。 | 【予習】（90分）<br>１． 前期の解剖学II講義の関連項目（気管と気管支、皮膚）について復習しておくこと。<br>２． 「系統看護学講座 解剖生理学」の、9章A「皮膚の構造と機能」の①の項を読んでおくこと。<br>３． プロメテウスアトラスで踵の局所解剖について調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習での観察内容を元に、「系統看護学講座 解剖生理学」の関連項目を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 3 | 医学部<br>神経生物学・形態学教員<br>10/26<br>形態系実習室（３コマ連続） | 【骨組織、関節】<br>講義<br>・ 長管骨の一般的な構造を理解する。<br>・ 骨組織を構成する骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞の分布と骨単位ついて理解する。<br>・ 骨のリモデリングについて理解する。<br>・ 膜内骨化と軟骨内骨化について理解する。<br>・ 骨組織の長軸方向の成長の仕組みについて理解する。<br>・ 関節の構造について理解する。<br><br>実習<br>・ 骨の内部構造を肉眼で観察する。<br>・ 手根の横断像の観察を元に、緻密骨を構成する骨単位を観察する。<br>・ 膝関節の縦断像の観察をもとに、伸長中の骨と骨組織でみられる骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞を観察する。<br>・ 膝関節の縦断像の観察をもとに、関節の一般構造、関節軟骨、滑膜を観察する。 | 実習講義と顕微鏡・バーチャルスライドを用いた実習からなる。 | 【予習】（90分）<br>１． 前期の解剖学I講義第1、4回について復習しておくこと。<br>２． 「系統看護学講座 解剖生理学」の、7章A「骨格とはどのようなものか」、B「骨の連結」の項を読んでおくこと。<br>３． プロメテウスアトラスで骨の一般構造、手掌、膝関節の局所解剖について調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習での観察内容を元に、「系統看護学講座 解剖生理学」の関連項目を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 4 | 医学部<br>神経生物学・形態学教員<br>11/9<br>形態系実習室（３コマ連続） | 【筋組織】<br>講義<br>・ 骨格筋の構造と筋収縮のメカニズムについて理解する。<br>・ 心臓の構造、心筋と骨格筋の組織学的相違点について理解する。<br>・ 横紋筋と平滑筋の違いと人体における平滑筋の分布について理解する。<br>実習<br>・ 手指の縦断像、手掌の横断像の観察をもとに、骨格筋の構造と筋収縮のメカニズムについて理解する。<br>・ 心臓の標本の観察を元に、心筋の構造について理解する。<br>・ 空腸の標本を元に平滑筋の構造を観察する。 | 実習講義と顕微鏡・バーチャルスライドを用いた実習からなる。 | 【予習】（90分）<br>１． 前期の解剖学I講義、解剖学II講義の関連項目（腹部の消化管、心臓の構造、全身の動脈）について復習しておくこと。<br>２． 「系統看護学講座 解剖生理学」の、2章B「腹部消化管の構造と機能」の③、4章B「心臓の構造」の③、7章C「骨格筋」の項を読んでおくこと。<br>３． プロメテウスアトラスで手指、手掌の局所解剖について調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習での観察内容を元に、「系統看護学講座 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 解剖生理学」の関連項目を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 5 | 医学部<br>神経生物学・形態学教員<br>11/16<br>形態系実習室（３コマ連続） | 【神経組織】<br>講義<br>・ 神経系の解剖学的・機能的構成について理解する。<br>・ 末梢神経系の伝える情報の種類について理解する。<br>・ ニューロンの構造について理解する。<br>・ 中枢神経系の一般的な組織構築について理解する。<br>・ 末梢神経系の一般的な組織構築について理解する。<br><br>実習<br>・ 坐骨神経の標本を用いて末梢神経の一般構造を観察する。<br>・ 三叉神経の標本を用いて神経節を観察する。<br>・ 手指と筋の標本を用いて、末梢神経の終末の構造を観察する。<br>・ 脊髄の標本を用いて、中枢神経系の神経細胞とグリア細胞を観察する。<br>・ 空腸の標本を用いて、神経叢を観察する。 | 実習講義と顕微鏡・バーチャルスライドを用いた実習からなる。 | 【予習】（90分）<br>1.前期の解剖学II講義第11-15回について復習しておくこと。<br>2.「系統看護学講座 解剖生理学」の7章C「骨格筋」③、8章A「神経系の構造と機能」の①④、B「脊髄と脳」の①、C「脊髄神経と脳神経」①、F「感覚機能と上行性伝導路」の①?④、9章A「皮膚の構造と機能」の①の項を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習での観察内容を元に、「系統看護学講座 解剖生理学」の関連項目を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 6 | 医学部<br>神経生物学・形態学教員<br>12/14<br>形態系実習室（３コマ連続） | 【まとめ、確認テスト】<br>講義<br>・ 人体の部位による上皮の種類の違いについて理解する。<br>・ 喉頭・食道の縦断像を例に、嚥下の仕組みについて理解する。<br>・ 運動器の一般的な構成について理解する。<br>実習<br>・ 喉頭の構造の概観を観察する。<br>・ 運動器（手掌・踵・膝関節）の標本を用いて、各構成成分の組織学的特徴を上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織の4大組織の観点から再度学習する。 | 実習講義と顕微鏡・バーチャルスライドを用いた実習からなる。 | 【予習】（90分）<br>1． これまでの5回の解剖学実習IIで観察した内容について4大組織の観点から復習しておくこと。<br>2． 「系統看護学講座 解剖生理学」の1章B「素材からみた人体」の①②⑥、2章A「口・咽頭・食道の構造と機能」の②、B「腹部消化管の構造と機能」の③、3章A「呼吸器の構造」の②、7章C「骨格筋」の③、D「末梢循環系の構造」の①、7章A「骨格とはどのようなものか」、B「骨の連結」、C「骨格筋」、8章C「脊髄神経と脳神経」の①、F「感覚機能と上行性伝導路」の①?④、9章A「皮膚の構造と機能」の①の項を読んでおくこと。<br>3． プロメテウスアトラスで骨の一般構造、手指、手掌、踵、膝関節の局所解剖について調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習での観察内容を元に、「系統看護学講座 解剖生理学」の関連項目を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 7 | 医学部<br>神経生物学・形態学教員<br>1/11<br>解剖実習室（３コマ連続） | 【中枢神経系の肉眼解剖】<br>講義<br>・ 中枢神経系の構成について理解する。<br>実習<br>・ 人脳、人脳スライス標本、模型などを用いて、脳の全景・縦断像・スライス標本・脳神経・脳血管の観察を行う。 | 実習講義と脳標本を用いた実習からなる。 | 【予習】（90分）<br>1． 前期の解剖学II講義第11-15回について復習しておくこと。<br>2． 「系統看護学講座 解剖生理学」の8章A「神経系の構造と機能」の①④、B「脊髄と脳」、C「脊髄神経と脳神経」の②、8章E「運動機能と下行伝導路」、F「感覚機能と上行性伝導路」の⑤、の項を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習での観察内容を元に、「系統看護学講座 解剖生理学」の関連項目を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。限られた時間の実習になるので、東京都医学研・脳神経病理データベース内の脳の肉眼写真を参照し復習すること。https://pathologycenter.jp |
| 8 | 医学部<br>神経生物学・形態学教員<br>医学部<br>放射線診断学教員<br>診療放射線学科<br>後藤政美<br>中澤美咲<br>1/18<br>形態系実習室（３コマ連続） | 【MRIビューアを用いた中枢神経系の観察】<br>実習<br>・ MRIビューアを用いて、前回確認した代表的なスライス標本とMRI像の対比、皮質脊髄路の描出による走行の確認、脳血管について学習する。<br>確認テスト<br>６回目までの組織学、７、８回目の神経解剖学についての確認テストをそれぞれ行う。確認テストの得点は総合成績に加味される。 | 実習講義とMRIビューアを用いた実習からなる。 | 【予習】（90分）<br>1． 前期の解剖学II講義第11-15回、前回の実習内容について復習しておくこと。<br>2． 「系統看護学講座 解剖生理学」の8章A「神経系の構造と機能」の①④、B「脊髄と脳」、C「脊髄神経と脳神経」の②、8章E「運動機能と下行伝導路」、F「感覚機能と上行性伝導路」の⑤、の項を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習での観察内容を元に、「系統看護学講座 解剖生理学」の関連項目を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。<br>東京都医学研・脳神経病理データベース内の |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 脳の肉眼写真を参照し復習すること。<br>https://pathologycenter.jp |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 生理学I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Physiology I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 家崎 貴文 | ナンバリング | PBP2004 |
| 担当教員 | 家崎 貴文 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 人体の機能は、植物性機能と動物性機能に大別されるが、生理学においては主として植物性機能について学修する。植物性機能には、生体維持の基本である「細胞と組織」、「体液と電解質」や、生命活動の基本である「血液」、「循環」、「呼吸」、「消化・吸収」、「代謝」、「排泄」、「内分泌」、「自律神経」などが含まれる。また、細胞の正常な活動の前提条件である生体の恒常性（ホメオスタシス）の概念を理解するとともに、ホメオスタシスの維持のため、これらの機能が相互に密接に関連していることを理解する。生体維持や生命活動の基盤となる様々な仕組みを、各臓器、システムごとに系統的に学ぶことにより、人体の生理機能の全体像を理解し、種々の疾病時における病態を理解するための基礎的な知識を身に付ける。 |
| 到達目標 | ・生命の維持のメカニズムの概略を理解し説明できる。<br>・細胞膜や細胞小器官の役割や機能を理解し説明できる。<br>・血液の組成や成分およびその機能の概略を理解し説明できる。<br>・消化・吸収、循環、呼吸、排泄、代謝等、生命活動の基本を理解し説明できる。<br>・内分泌系や自律神経系による内臓機能の調節について理解し説明できる。<br>・身体機能の防御と適応のしくみについて理解し説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 本講義を通して、人体の生理機能の全体像を理解し、種々の疾病時における病態を理解するための基礎的な知識を身に付ける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2 C I<br>理学DP3 C I |
| 履修上の注意、履修要件 | 1. 各自必ず予習を行うこと。<br>2. 講義の際に、不明な点は積極的に質問すること。<br>3. 復習を心がけ知識を定着させるように習慣づけること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験により評価する。 |
| 評価基準 | 各講義の内容に関して、必要最低限の知識を理解し、説明することができるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内でのフィードバックおよびJuntendo Passportを用いる。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 系統看護学講座　解剖生理学　第11版　医学書院 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 家崎　貴文　iesaki@juntendo.ac.jp　保健医療学部診療放射線学科　事前メール連絡で随時対応<br>渡邉　マキノ　makinow@juntendo.ac.jp　医学部生理学第二講座　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 家崎　貴文 | 【生命現象と人体】<br>生命を維持するためのメカニズムの概略や、体液の区分とその組成、体内水分、体内環境の調節のメカニズムについて学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書（系統看護学講座　解剖生理学　第10版、　医学書院）の該当部分（第1章C）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 2 | 家崎　貴文 | 【細胞の機能】<br>細胞小器官や細胞膜の機能を、細胞の構造と関連付けて学ぶ。また、細胞を構成する物質やエネルギーの生成についても学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第1章B）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 3 | 渡邉　マキノ | 【血液】 | 講義 | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 体液と電解質や、血液の組成および各成分の機能について学ぶ。また、血漿タンパク質や、止血、凝固・線溶の機序についても学習する。 | | 指定教科書の該当部分（第3章C）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 4 | 渡邉　マキノ | 【消化1】<br>消化器系の概要について学ぶ。また、消化管運動の機序やそれによる内容物の混和と移送についても学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第2章A～C）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 5 | 渡邉　マキノ | 【消化2】<br>消化液の分泌様式と機序や、それによる食物消化の促進、栄養素の消化・吸収の機序について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第2章A～C）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 6 | 渡邉　マキノ | 【循環1】<br>循環器系において中心的な役割を果たす心臓の機能およびその調節について学ぶ。また、心筋細胞の電気的活動についても学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第4章C）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 7 | 家崎　貴文 | 【循環2】<br>循環器系のシステムとしての血管系、微小循環、血圧およびその調節について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第4章E、F）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 8 | 家崎　貴文 | 【循環3】<br>循環器系の病態生理について、代表的な病態であるショックや心不全、高血圧等を通して学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第4章E）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 9 | 家崎　貴文 | 【呼吸1】<br>肺の換気機能による肺内腔のガスの入れ換えや、換気障害の病態生理について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第3章B）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 10 | 家崎　貴文 | 【呼吸2】<br>気相から液相へのガス交換、血液によるガスの運搬、および呼吸の調節機構について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第3章B）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 11 | 家崎　貴文 | 【内分泌1】<br>ホルモンによる内臓機能の調節の概要について学ぶ。また、視床下部、下垂体、甲状腺から分泌されるホルモンの作用について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第6章B、C）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 12 | 家崎　貴文 | 【内分泌2】<br>副甲状腺、副腎、膵臓から分泌されるホルモンや、性ホルモンの作用について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第6章C～E）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 13 | 家崎　貴文 | 【身体機能の防御と適応】<br>身体機能を防御するための、皮膚や免疫系の役割、機能について学ぶ。また、代謝、運動、体温調節等についても学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第9章B～D）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 14 | 渡邉　マキノ | 【泌尿・体液1】<br>腎臓の機能、特に尿生成の役割、機序について、腎臓の構造 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第5章A、C）を読ん |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | と関連付けて学習する。 | | でおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 15 | 渡邉　マキノ | 【泌尿・体液2】<br>体内水分量の出納や調節、主な電解質の役割や濃度、およびその再吸収について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第5章A、C）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 生理学II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Physiology II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 小西　清貴 | ナンバリング | PBP2005 |
| 担当教員 | 小西　清貴 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、「神経細胞」「感覚」「運動」「統合機能」などの動物性機能（神経機能）を中心に学修する。神経細胞が連なる神経系により、我々は外界の情報を受容し、様々な情報を統合し、その結果を行動に反映させる。これらの各ステップについて、その仕組みを学ぶ。「神経細胞」では、神経細胞の静止電位、活動電位と神経伝導、神経伝達について、「感覚」では、体性感覚、視覚、聴覚、嗅覚、味覚それぞれの末梢の感覚受容器及び中枢神経伝導路について、「運動」では、脊髄を中心に、脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質での運動形成機構について、「統合機能」では、高次認知機能、情動、睡眠を中心に、神経解剖学の内容を参照しつつ、体系的な講義を行う。 |
| 到達目標 | ・静止電位、活動電位および興奮の軸索伝導、シナプス伝達の仕組みについて理解し説明できる。<br>・体性感覚、視覚、聴覚、嗅覚、味覚系の機能および動作原理を理解し説明できる。<br>・反射、運動学習、随意運動が成立するための脳内機序を理解し説明できる。<br>・本能行動の脳内機構、記憶などの高次認知機能の脳内機構、睡眠のメカニズムと脳波について理解し説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 生理学（神経分野）は神経系の基本的機能を幅広く扱うもので、その後に修める神経系疾患の病態の理解に必須となる基盤である。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2 |
| 履修上の注意、履修要件 | 1. 各自必ず予習を行うこと。<br>2. 講義の際に、不明な点は積極的に質問すること。<br>3. 復習を心がけ知識を定着させるように習慣づけること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験により評価する。 |
| 評価基準 | 試験において例年概ね６０％の得点率で合格としている。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 系統看護学講座　解剖生理学　第１０版、医学書院<br>講義資料を適宜配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | skonishi@juntendo.ac.jp 医学部生理学第一講座（新研究棟６階）　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 小西　清貴 | 【静止電位・活動電位と興奮の伝導・伝達】<br>静止膜電位および活動電位を成立させるイオンとイオンチャネルによる仕組みを学ぶ。膜の局所で発生した活動電位がどのように軸索を伝導し、神経細胞間で伝達されるかを学ぶ。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書（系統看護学講座　解剖生理学　第１０版、医学書院）の該当部分（第８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 2 | 小西　清貴 | 【骨格筋】<br>骨格筋の性質、および神経伝達や収縮機構について学習する。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第７章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 3 | 田中　政輝 | 【自律神経】<br>交感神経系および副交感神経系の構造と機能および神経伝達 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第６章）を読んでお |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 物質について学習する。 | する。 | くこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 4 | 田中　政輝 | 【体性感覚】<br>体性感覚の種類と、それらの感覚受容器、情報伝達経路についての基本的知識を習得する。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 5 | 田中　政輝 | 【視覚】<br>眼球、特に網膜の構造、および眼球から大脳皮質までの視覚経路の障害と視野欠損の関係を学習する。大脳皮質視覚連合野の2つの経路の機能的特徴について学習する。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 6 | 田中　政輝 | 【聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚】<br>聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚それぞれについて、感覚受容と伝導神経回路について学ぶ。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 7 | 田中　政輝 | 【脊髄】<br>膝蓋腱反射を中心に、脊髄反射の神経回路について学習する。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 8 | 田中　政輝 | 【脳幹】<br>脳幹の基本的な働きを理解すると共に、脳幹反射と脳死の関係などの基礎知識を学習する。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 9 | 田中　政輝 | 【大脳基底核と小脳、大脳運動野】<br>基底核回路の概略、運動調節系としての役割、およびパーキンソン病の病態を学習する。小脳および大脳運動野の神経回路の概略、運動調節系としての役割を理解し、運動失調の病態を学習する。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 10 | 田中　政輝 | 【間脳と辺縁系、睡眠】<br>本能行動、情動行動における間脳と辺縁系の神経機構、および睡眠時の脳波的特徴を学習す | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 11 | 田中　政輝 | 【大脳皮質】<br>さまざまな大脳認知機能とその機能局在を学習し、脳損傷時の症状から脳損傷部位を推論する。記憶の種類とそれらの神経機構を理解し、記憶障害の症状からその病態を推論する。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 12 | 小西　清貴 | 【神経細胞、骨格筋、自律神経】<br>神経細胞の静止電位と活動電位、伝導と伝達、骨格筋の収縮、交感神経系および副交感神経系の構造と機能および神経伝達物質について学習する。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第６，７、８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 13 | 小川　昭利 | 【感覚】<br>眼球、特に網膜の構造、および眼球から大脳皮質までの視覚経路の障害と視野欠損の関係を学習する。聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚それぞれについて、感覚受容と伝導神経回路について学ぶ。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 14 | 田中　政輝 | 【運動】<br>膝蓋腱反射を中心に、脊髄反射の神経回路について学習する。脳幹の基本的な働きを理解すると共に、脳幹反射と脳死 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第８章）を読んでおくこと。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | の関係などの基礎知識を学習する。基底核回路の概略、運動調節系としての役割、およびパーキンソン病の病態を学習する。小脳および大脳運動野の神経回路の概略、運動調節系としての役割を理解し、運動失調の病態を学習する。 | | 【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |
| 15 | 長田　貴宏 | 【統合機能】<br>本能行動、情動行動における間脳と辺縁系の神経機構、および睡眠時の脳波的特徴を学習する。さまざまな大脳認知機能とその機能局在を学習し、脳損傷時の症状から脳損傷部位を推論する。 | 対面形式（予定）で予習した箇所を講義する。 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分（第８章）を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義と小テストでの学習内容を確認すること。 |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 生理学実習 | 授業形態 | 実験・実習 |
| 英語科目名 | Practice of Physiology | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 小西　清貴 | ナンバリング | PBP2006 |
| 担当教員 | 小西　清貴、渡邉　マキノ、家崎 貴文 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本実習では、人体の植物性及び動物性機能について、既に講義で学んだ内容を実体験することにより、人体の各機能についてさらに理解を深める。植物性機能としては循環機能として心電図（双極肢誘導、単極肢誘導など）の実習を行う。動物性機能では、骨格筋、末梢神経、中枢神経を中心とした内容を扱い、筋電図（伝導速度計測、Hoffmann反射など）、脳波（α波、誘発電位など）の計測等を行う。人体の各機能の観察・計測を実体験し、その手技を学ぶとともに、各機能を個体レベルで多方面から理解・考察する能力を養う。 |
| 到達目標 | ・心電図について理解し、測定することができる。<br>・脳波の原理を理解し、その使用法を実践できる。<br>・筋電図の原理を理解し、その使用法を実践できる。<br>・認知課題と関連する認知機能とを理解し、認知機能検査を実践できる。 |
| 授業の位置づけ | 座学の講義で修めた生理学分野の内容を体験を通して再確認し理解を深めるための機会である。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2<br>理学DP3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 1. 各自必ず予習を行うこと。<br>2. 実習の際に、不明な点は積極的に質問すること。<br>3. 復習を心がけ知識を定着させるように習慣づけること。<br>4. 実習終了後は備品を整頓し、よく確認して、紛失または破損した場合は担当教員に申し出ること。不具合を放置すると次回の人たちが迷惑するので、必ず報告すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 出席、レポート、発表会への貢献により評価する。 |
| 評価基準 | 出席および実習中および発表中の参加態度で評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 実習中に対応するかJuntendo Passportを使用する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 系統看護学講座　解剖生理学　第11版、医学書院<br>実習資料を配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 小西　清貴　skonishi@juntendo.ac.jp 医学部医学部生理学第一講座（新研究棟６階）　事前メール連絡で随時対応<br>家崎　貴文　iesaki@juntendo.ac.jp　保健医療学部診療放射線学科　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 （3コマ連続） | 小西 清貴、家崎　貴文 | 実習のイントロダクション | 実習書および補足事項の説明を講義形式で行う | 【予習】（90分）<br>生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習書に全体に目を通して理解するように努めること。 |
| 2 （3コマ連続） | 科目担当教員 | 筋電図、脳波、認知機能、循環機能など４項目のローテーション | 班に分かれてその日のテーマの内容を実習する | 【予習】（90分）<br>実習書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 3 （3コマ連続） | 科目担当教員 | 筋電図、脳波、認知機能、循環機能など４項目のローテーション | 班に分かれてその日のテーマの内容を実習する | 【予習】（90分）<br>実習書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 実習での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 4 （3コマ連続） | 科目担当教員 | 筋電図、脳波、認知機能、循環機能など４項目のローテーション | 班に分かれてその日のテーマの内容を実習する | 【予習】（90分）<br>実習書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 5 （3コマ連続） | 科目担当教員 | 筋電図、脳波、認知機能、循環機能など４項目のローテーション | 班に分かれてその日のテーマの内容を実習する | 【予習】（90分）<br>実習書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 6 （3コマ連続） | 科目担当教員 | 筋電図、脳波、認知機能、循環機能など４項目のうちの１項目について、実習で収集したデータをまとめ、発表のためのパワーポイントにまとめる | 班に分かれてデータのまとめを行う | 【予習】（90分）<br>実習の担当部分を復習しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>発表にむけて復習しよく理解するように努めること。 |
| 7 （3コマ連続） | 科目担当教員 | まとめたパワーポイントを使ったプレゼンの練習を行う | 班に分かれて発表準備を行う | 【予習】（90分）<br>実習の担当部分を復習しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>発表にむけて復習しよく理解するように努めること。 |
| 8 （3コマ連続） | 科目担当教員 | 実習内容の発表会 | 班ごとに発表を行う | 【予習】（90分）<br>発表の担当部分を復習しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>他の発表を復習すること。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 運動学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Kinesiology | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 眞壁 寿 | ナンバリング | PBP2007 |
| 担当教員 | 眞壁 寿、藤野 雄次、春山　幸志郎 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 運動学は人の身体運動について学ぶ理学療法の基礎となる重要な科目の1つである。その領域は広く、筋骨格系の構造・機能、身体に加わる力との関係、身体運動の発現とその制御機序、運動技能の獲得過程などを扱う学問である。本講義では、力、力のモーメント、身体てこ、仕事とエネルギーなどの運動力学と関節の構造と機能、筋張力と関節トルク、身体各部の関節、脊柱体幹の運動学を修得する。また姿勢、重心、姿勢制御、歩行周期、歩行の距離・時間因子、歩行時の重心移動と下肢関節運動、歩行時の床反力、足底圧中心、歩行時の筋活動、歩行時のエネルギー消費、運動学習理論、学習の転移、フィードバック、パフォーマンスと運動技能などを修得する。 |
| 到達目標 | ・筋骨格系の構造、機能、関節運動（肩、肘、手、手指、股、膝、足、脊柱）と靱帯および筋の作用を理解し、説明できる。<br>・身体に加わる力、モーメントなどの力学的諸原理を用いて、身体運動を運動学的（kinematic）及び運動力学的（kinetic）に記述、理解、説明できる。<br>・身体重心の位置、支持基底面の広さ、身体アライメント、立ち直り及び平衡反応、姿勢制御戦略、感覚情報などの観点から姿勢の保持と安定を理解し、説明できる。<br>・歩行周期、歩行の距離と時間因子を理解し、正常歩行の関節運動、筋活動、重心移動、床反力などを歩行周期との関連で説明できる。<br>・異常歩行の原因とそのメカニズムを理解し、説明できる。<br>・運動技能を獲得するうえでの学習理論の枠組みを理解し、説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 運動学では身体運動の仕組みを学びます。運動学で学んだ筋骨格系の構造や機能、関節運動、姿勢や動作の基礎知識を基に、疾患・障害を有する対象者の特徴的な姿勢・動作を分析するための専門科目です。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-CⅠ、共通DP3-CⅠ、理学DP3-CⅠ、理学DP4-CⅠ、理学DP5-CⅠ |
| 履修上の注意、履修要件 | 運動学は、身体運動を研究する学問であり、その諸原理は解剖学、生理学、物理学から得ている。高校での力学の基礎、特に変位、速度、加速度、力、力の合成と分解、仕事とエネルギーを復習しておくことを勧めます。講義の前半は、筋骨格系の構造、機能、関節運動と靱帯および筋の作用について講義を行う。解剖学の学習と平行して行うことを勧める。講義の後半は、姿勢、人体の重心、歩行周期、正常歩行、異常歩行、運動学習などを学習する。運動学は身体運動を扱う理学療法士にとって重要な科目の一つです。積極的な学習を行ってください。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験（100%）により評価する。 |
| 評価基準 | ・筋骨格系の構造、機能、関節運動（肩、肘、手、手指、股、膝、足、脊柱）と靱帯および筋の作用を理解し、説明できる。<br>・身体に加わる力、モーメントなどの力学的諸原理を用いて、身体運動を運動学的（kinematic）及び運動力学的（kinetic）に記述、理解、説明できる。<br>・身体重心の位置、支持基底面の広さ、身体アライメント、立ち直り及び平衡反応、姿勢制御戦略、感覚情報などの観点から姿勢の保持と安定を理解し、説明できる。<br>・歩行周期、歩行の距離と時間因子を理解し、正常歩行の関節運動、筋活動、重心移動、床反力などを歩行周期との関連で説明できる。<br>・異常歩行の原因とそのメカニズムを理解し、説明できる。<br>・運動技能を獲得するうえでの学習理論の枠組みを理解し、説明できる。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 15レクチャーシリーズ　理学療法・作業療法テキスト運動学 | 石川朗、種村留美（総編集） | 中山書店 | 978-4-521-73664-8 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| ・筋骨格系のキネシオロジー（原著第3版）Donald A. Neumann（原著者）Paul D. Andrew、有馬慶美、日髙正巳（監訳）医歯薬出版（参考書）<br>・エッセンシャルキネシオロジー　機能的運動学の基礎と臨床　弓岡光徳、溝田勝彦、村田伸（監訳）南江堂（参考書）<br>・身体運動学　関節の制御機構と筋機能　市橋則明（編集）Medical View（参考書）<br>・ペリー　歩行分析　正常歩行と異常歩行　Jacquelin Perry（原著者）　武田功（総括監訳者）医歯薬出版（参考書）<br>・脳卒中片麻痺者に対する歩行リハビリテーション　阿部浩明、大畑光司（編集）　MEDICAL VIEW（参考書）<br>・観察による歩行分析　月城慶一、江原義弘、盆子原秀三（訳）医学書院（参考書）<br>・配布講義資料を使用する。 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜日9：00～10：30保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）505号室 |

| | |
|---|---|
| ワー | h.makabe.lv@juntendo.ac.jp （御茶ノ水センタービル5階505号室） 事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 病院での臨床経験を活かし、実際の症例に関する内容を交えて実習を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 眞壁　寿 | ・運動学（kinematics）と運動力学(kinetics)<br>・並進運動、回転運動<br>・力、力の合成と分解、モーメント、つりあい<br>・身体てこ、仕事量、仕事率、運動と位置エネルギー、力学的エネルギーの保存 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・ニュートンの運動法則<br>・変位、速度、加速度<br>・ベクトルの合成と分解<br>【復習】（90分）<br>・力、力の合成と分解、モーメント<br>・身体てこ、仕事、エネルギー |
| 2 | 眞壁　寿 | ・関節の分類、関節運動<br>・骨格筋の構造、形状、筋収縮のしくみ、筋線維の種類、運動単位、筋収縮様式、筋のはたらき（動筋、拮抗筋、共同筋）<br>・筋張力、筋の張力特性（長さ、収縮様式、収縮速度）、関節トルク | 講義 | 【予習】（90分）<br>・筋収縮のしくみ<br>【復習】（90分）<br>・関節の分類、関節運動<br>・筋収縮のしくみ、筋線維の種類、筋収縮様式、筋のはたらき<br>・筋の張力特性、関節トルク |
| 3 | 眞壁　寿 | ・肩関節を構成する骨、靱帯、関節包、その他の構成組織<br>・胸鎖関節、肩鎖関節、肩甲胸郭関節、肩甲上腕関節、肩甲上腕リズム<br>・上腕と肩甲骨の運動に関与する筋、肩関節の安定性に関与する筋<br>・三角筋と肩峰下インピンジメント | 講義 | 【予習】（90分）<br>・肩関節の基本構造<br>【復習】（90分）<br>・肩関節の基本構造<br>・肩甲上腕リズム<br>・肩関節複合体の各関節の基本構造<br>・上腕と肩甲骨の運動と安定に関与する筋 |
| 4 | 眞壁　寿 | ・肘関節を構成する骨、関節、靱帯、肘外反角、ヒューター線・三角<br>・前腕を構成する骨、関節、肘関節と前関節包内運動、肘関節の運動に関与する筋、前腕の運動に関与する筋<br>・肘関節の可動域制限の原因、肘関節部の末梢神経障害 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・肘関節と前腕の基本構造<br>【復習】（90分）<br>・肘関節と前腕の基本構造<br>・肘関節と前腕の関節運動に関わる靱帯と筋の作用<br>・肘関節の制限と末梢神経障害 |
| 5 | 眞壁　寿 | ・手関節の構造と機能、橈骨手根関節、手根中央関節、手関節の靱帯<br>・手関節の関節運動、手関節の運動に関係する筋<br>・手関節と手の筋の神経支配 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・手関節の基本構造<br>【復習】（90分）<br>・手関節の基本構造<br>・手関節の関節運動と運動に関係する筋<br>・手関節と手の筋の神経支配 |
| 6 | 眞壁　寿 | ・手指の構造と機能、手根中手関節、中手指節関節、指節間関節<br>・手内筋、手外筋、指伸展機構の補助組織、テノデーシス作用、母指の運動に関与する手外筋、腱鞘<br>・手のアーチ、手関節部の末梢神経障害、手の変形 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・手指の基本構造<br>【復習】（90分）<br>・手指の基本構造<br>・手内筋、手外筋、テノデーシス作用<br>・手のアーチ、末梢神経障害、手の変形 |
| 7 | 眞壁　寿 | ・股関節を構成する骨と関節、股関節の関節包と靱帯<br>・股関節の関節運動、関節包内運動<br>・股関節の運動に関与する筋<br>・股関節筋群と脊柱・骨盤のアライメント | 講義 | 【予習】（90分）<br>・股関節の基本構造<br>【復習】（90分）<br>・股関節の関節運動<br>・股関節の運動に関与する筋 |
| 8 | 眞壁　寿 | ・膝関節を構成する骨と関節<br>・膝関節の関節包と靱帯、半月板、滑液包<br>・膝関節の関節運動、脛骨大腿関節の骨運動、脛骨大腿骨関節の関節包内運動、膝蓋大腿関節の運動<br>・膝関節の運動に関与する筋、膝関節の靱帯損傷 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・膝関節の基本構造<br>【復習】（90分）<br>・膝関節の基本構造<br>・膝関節の骨運動と関節包運動<br>・膝関節の運動に関わる靱帯と筋作用 |
| 9 | 眞壁　寿 | ・足関節・足部を構成する骨と関節<br>・足関節・足部の靱帯<br>・足関節・足部の関節運動<br>・足関節・足部の運動に関与する筋<br>・足部の機能，足部のアーチ構造 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・足関節と足部の基本構造<br>【復習】（90分）<br>・足関節と足部の基本構造<br>・足関節と足部の関節運動、関与する筋<br>・足部のアーチ構造とその役割 |
| 10 | 眞壁　寿 | ・脊柱（頚部、胸部、腰部）の基本構造<br>・脊柱の彎曲、靱帯、運動、脊髄神経 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・脊柱の基本構造 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ・脊柱（頚部、胸部、腰部）の関節と運動、運動に関与する筋<br>・椎間板変性、ヘルニア | | 【復習】（90分）<br>・脊柱の基本構造、彎曲<br>・脊柱の関節と運動、運動に関与する筋<br>・椎間板変性、ヘルニア |
| 11 | 眞壁　寿 | ・姿勢、重心、安静立位姿勢のアライメント、安静立位姿勢の制御<br>・外乱動揺下での立位制御、立ち直り、平衡反応、運動戦略<br>・姿勢制御における感覚機構、予測的姿勢制御<br>・人体の重心点の算出 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・立位姿勢での重心線<br>・支持基底面とは<br>【復習】（90分）<br>・姿勢、重心、立位姿勢での重心線<br>・外乱動揺下での立位制御、運動戦略<br>・予測的姿勢制御、重心点の算出 |
| 12 | 眞壁　寿 | ・歩行周期、立脚相と遊脚相、歩行の距離因子、歩行の時間因子<br>・歩行時の身体重心移動と下肢の関節運動<br>・歩行時の床反力と足底圧中心<br>・歩行時の筋活動<br>・歩行速度とエネルギー消費量 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・歩行周期<br>【復習】（90分）<br>・歩行時の重心移動、下肢関節運動、筋活動、床反力、足圧中心 |
| 13 | 眞壁　寿 | ・異常歩行のメカニズム<br>・各関節（足関節、膝関節、股関節）に関する異常歩行<br>・骨盤と体幹に関する異常歩行、<br>・代表的な異常歩行<br>・歩行評価ためのツール | 講義 | 【予習】（90分）<br>・代表的な異常歩行<br>【復習】（90分）<br>・異常歩行の原因、メカニズム |
| 14 | 眞壁　寿 | ・正常歩行の神経制御<br>・様々な測定機器による歩行の評価、3次元動作解析装置、身体セグメント協調性評価、表面筋電図による評価、加速度波形による評価 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・正常歩行の神経制御<br>【復習】（90分）<br>・表面筋電図による評価<br>・協調性、加速度による評価 |
| 15 | 眞壁　寿 | ・運動学習と記憶<br>・運動学習の3つの段階<br>・運動学習効果と練習の質と量について<br>・学習の転移と動機づけ<br>・運動学習におけるフィードバック<br>・運動パフォーマンスとスキル<br>・運動学習の諸理論について | 講義 | 【予習】（90分）<br>・記憶について<br>【復習】（90分）<br>・運動学習の段階<br>・運動学習の諸理論 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 運動学実習 | 授業形態 | 実験・実習 |
| 英語科目名 | Practice of Kinesiology | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 眞壁 寿 | ナンバリング | PBP2008 |
| 担当教員 | 眞壁 寿、藤野 雄次、春山　幸志郎、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 運動学で修得した知識をもとに、体表からの視診や触診を通して、正常な関節構成体の構造と機能を確認する。また種々の身体運動や動作を運動学的に分析することを通じて、身体運動や動作の特徴やその仕組み、運動学的な計測手法について理解する。本実習では、上下肢帯及び上下肢の機能解剖と関節運動、脊柱及び体幹の機能解剖と関節運動、筋力、筋トルク計測方法、筋電図計測方法、筋力と筋放電量との関係、身体動作時の筋活動量計測、重心動揺計の計測方法、感覚入力と立位時重心動揺、立位姿勢における立ち直りやバランス反応、身体動作時の重心及び重心の加速度算出、身体動作時の床反力計測、ビデオカメラや3次元動作解析装置を用いた身体動作分析、歩行の時間・距離因子、歩行時の下肢運動計測や床反力計測などを習得する。また臨床応用に向け、高齢者、変形性股関節症、膝関節症、片麻痺、パーキンソン病、運動失調患者の姿勢動作の特徴と分析を行う。 |
| 到達目標 | ・上下肢帯および上下肢を構成する組織を体表から捉えることができる。また、上下肢の各関節運動の運動学的特徴を理解する。<br>・頭頸部ならびに体幹を構成する組織のランドマークとなる骨と表層の筋を体表から捉えることができる。<br>・関節トルクの概念、関節トルクと関節角度、筋収縮様式、関節運動速度との関係を理解する。また、筋電図の概念とその解析内容を理解し、筋活動と発揮筋力との関係、筋疲労と周波数成分との関係を説明できる。<br>・人体の重心位置の算出方法、立位姿勢のアライメント評価方法、身体重心位置と支持基底面との関係を理解する。重心動揺計の概念、重心動揺計の計測方法、安静立位時の重心動揺に及ぼす要因、外乱を加えた際の立ち直りとバランス反応を理解する。<br>・3次元動作解析装置、床反力計、ビデオカメラを用いた歩行や身体動作分析を理解する。 |
| 授業の位置づけ | 運動学実習では、運動学で学習した知識をもとに、実際の身体運動を分析することを通じて、その知識や仕組みについて理解を深めていきます。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-CⅠ、共通DP3-CⅠ、理学DP3-CⅠ、理学DP4-CⅠ、理学DP5-CⅠ |
| 履修上の注意、履修要件 | ・運動学で修得した知識の理解をさらに深め、人の動きを運動学的に診ることへの興味、関心をさらに高めてください。<br>・動きやすい服装（トレーニングウエア，トレーニングパンツ）に着替えて実習に臨んでください。<br>・測定機器の取り扱いについては教員の指示に従い、注意して測定機器を取り扱ってください。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 成績評価方法　レポート・プレゼンテーション（80%）、ルーブリック評価（20%）により評価する。 |
| 評価基準 | ・上下肢帯および上下肢を構成する組織を体表から捉えることができる。また、上下肢の各関節運動の運動学的特徴を説明できる。<br>・頭頸部ならびに体幹を構成する組織のランドマークとなる骨と表層の筋を体表から捉えることができる。<br>・関節トルクの概念、関節トルクと関節角度、筋収縮様式、関節運動速度との関係を理解する。また、筋電図の概念とその解析内容を理解し、筋活動と発揮筋力との関係、筋疲労と周波数成分との関係を説明できる。<br>・人体の重心位置の算出方法、立位姿勢のアライメント評価方法、身体重心位置と支持基底面との関係を理解する。重心動揺計の概念、重心動揺計の計測方法、安静立位時の重心動揺に及ぼす要因、外乱を加えた際の立ち直りとバランス反応を説明できる。<br>・3次元動作解析装置、床反力計、ビデオカメラを用いた歩行や身体動作分析を説明できる。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 実習内やJuntendo Passportを使用して返却 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法運動学実習 | 石川朗・種村留美 | 中山書店 | 978-4-521-73666-2 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 運動学　　石川朗　種村留美（総編集）　中山書店（参考書）<br>臨床運動学　石川朗　種村留美（総編集）　中山書店（参考書） |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜日9：00～10：30保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）505号室<br>眞壁　寿：h.makabe.lv@juntendo.ac.jp （御茶ノ水センタービル5階505号室）　事前メール連絡で随時対応<br>藤野雄次：y.fujino.pb@juntendo.ac.jp （御茶ノ水センタービル5階）事前メール連絡で随時対応<br>春山幸志郎：k.haruyama.us@juntendo.ac.jp（御茶ノ水センタービル5階）事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 病院での臨床経験を活かし、実際の症例に関する内容を交えて実習を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>3コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 運動学実習オリエンテーションにて、運動学実習の進め方、グループ分け、レポート作成と提出の仕方などを説明する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習（グループワーク）<br>・肩甲骨回旋角度、肩関節外転角度を実際に計測し、肩甲上腕リズムについての考察を行う。<br>・ハンドヘルドダイナモメータを使用し、肘関節角度の大きさを変えて関節モーメントを計算する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>上肢帯および上肢の関節運動（1）（2）教科書p35-56<br>筋力、教科書p77-86<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯および上肢の関節運動（1）（2）教科書p35-56<br>筋力、教科書p77-86<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 2 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 運動学実習オリエンテーションにて、運動学実習の進め方、グループ分け、レポート作成と提出の仕方などを説明する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・肩甲骨回旋角度、肩関節外転角度を実際に計測し、肩甲上腕リズムについての考察を行う。<br>・ハンドヘルドダイナモメータを使用し、肘関節角度の大きさを変えて関節モーメントを計算する。 | 講義、グループワーク | 予習】（90分）<br>上肢帯および上肢の関節運動（1）（2）教科書p35-56<br>筋力、教科書p77-86<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯および上肢の関節運動（1）（2）教科書p35-56<br>筋力、教科書77-86<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 3 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 運動学実習オリエンテーションにて、運動学実習の進め方、グループ分け、レポート作成と提出の仕方などを説明する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・肩甲骨回旋角度、肩関節外転角度を実際に計測し、肩甲上腕リズムについての考察を行う。<br>・ハンドヘルドダイナモメータを使用し、肘関節角度の大きさを変えて関節モーメントを計算する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>上肢帯および上肢の関節運動（1）（2）教科書p35-56<br>筋力、教科書p77-86<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯および上肢の関節運動（1）（2）教科書p35-56<br>筋力、教科書77-86<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 4<br>3コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 筋収縮様式と運動との関係、関節角度と筋発揮力、2関節筋と関節可動域との関係を実習する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・腕立て伏せ運動を行い、腕立て伏せ運動の各相に働く筋とその筋の収縮様式を実習する。<br>・手関節肢位と握力の大きさとの関係を実習する。<br>・膝関節伸展位と屈曲位における股関節可動域の違いを実習する。 | 講義、グループワーク | 【【予習】（90分）<br>下肢帯および下肢の関節運動、教科書p11-22<br>上肢帯および上肢の機能解剖、教科書p23-34<br>上肢帯および上肢の関節運動（2）、教科書p45－56<br><br>【復習】（90分）<br>下肢帯および下肢の関節運動、教科書p11-22<br>上肢帯および上肢の機能解剖、教科書p23-34<br>上肢帯および上肢の関節運動（2）、教科書p45－56<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 5 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 筋収縮様式と運動との関係、関節角度と筋発揮力、2関節筋と関節可動域との関係を実習する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・腕立て伏せ運動を行い、腕立て伏せ運動の各相に働く筋とその筋の収縮様式を実習する。<br>・手関節肢位と握力の大きさとの関係を実習する。<br>・膝関節伸展位と屈曲位における股関節可動域の違いを実習する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>下肢帯および下肢の関節運動、教科書p11-22<br>上肢帯および上肢の機能解剖、教科書p23-34<br>上肢帯および上肢の関節運動（2）、教科書p45－56<br><br>【復習】（90分）<br>下肢帯および下肢の関節運動、教科書p11-22<br>上肢帯および上肢の機能解剖、教科書p23-34<br>上肢帯および上肢の関節運動（2）、教科書p45－56 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 6 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 筋収縮様式と運動との関係、関節角度と筋発揮力、2関節筋と関節可動域との関係を実習する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・腕立て伏せ運動を行い、腕立て伏せ運動の各相に働く筋とその筋の収縮様式を実習する。<br>・手関節肢位と握力の大きさとの関係を実習する。<br>・膝関節伸展位と屈曲位における股関節可動域の違いを実習する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>下肢帯および下肢の関節運動、教科書p11-22<br>上肢帯および上肢の機能解剖、教科書p23-34<br>上肢帯および上肢の関節運動（2）、教科書p45－56<br><br>【復習】（90分）<br>下肢帯および下肢の関節運動、教科書p11-22<br>上肢帯および上肢の機能解剖、教科書p23-34<br>上肢帯および上肢の関節運動（2）、教科書p45－56<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 7<br>3コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 骨盤の傾斜角度が座位および立位アライメントに及ぼす影響、骨盤運動と下肢の運動連鎖の関係を実習する。以下の実習課題をグループで行い、その結果と考察をレポートにまとめ、翌週に報告する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・骨盤を通常位、前傾位、後傾位での座位姿勢アライメントを評価する。<br>・骨盤を通常位、前傾位、後傾位での立位姿勢アライメントを評価する。<br>・骨盤の動き（前後傾、回旋、前後移動）に伴う、下肢運動連鎖を評価する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>脊柱・体幹の関節運動、教科書p67-76<br>姿勢1制止姿勢、教科書p97-106<br><br>【復習】（90分）<br>脊柱・体幹の関節運動、教科書p67-76<br>姿勢1制止姿勢、教科書p97-106<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 8 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 骨盤の傾斜角度が座位および立位アライメントに及ぼす影響、骨盤運動と下肢の運動連鎖の関係を実習する。以下の実習課題をグループで行い、その結果と考察をレポートにまとめ、翌週に報告する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・骨盤を通常位、前傾位、後傾位での座位姿勢アライメントを評価する。<br>・骨盤を通常位、前傾位、後傾位での立位姿勢アライメントを評価する。<br>・骨盤の動き（前後傾、回旋、前後移動）に伴う、下肢運動連鎖を評価する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>脊柱・体幹の関節運動、教科書p67-76<br>姿勢1制止姿勢、教科書p97-106<br><br>【復習】（90分）<br>脊柱・体幹の関節運動、教科書p67-76<br>姿勢1制止姿勢、教科書p97-106<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 9 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 骨盤の傾斜角度が座位および立位アライメントに及ぼす影響、骨盤運動と下肢の運動連鎖の関係を実習する。以下の実習課題をグループで行い、その結果と考察をレポートにまとめ、翌週に報告する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・骨盤を通常位、前傾位、後傾位での座位姿勢アライメントを評価する。<br>・骨盤を通常位、前傾位、後傾位での立位姿勢アライメントを評価する。<br>・骨盤の動き（前後傾、回旋、前後移動）に伴う、下肢運動連鎖を評価する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>脊柱・体幹の関節運動、教科書p67-76<br>姿勢1制止姿勢、教科書p97-106<br><br>【復習】（90分）<br>脊柱・体幹の関節運動、教科書p67-76<br>姿勢1制止姿勢、教科書p97-106<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 10<br>3コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | Pauwels理論を通して身体のてこを理解し、杖使用や姿勢変化によって股関節にかかる負荷の大きさの変化を実習する。身体重心位置と支持基底面との関係から身体の安定性を捉える実習をする。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・杖使用、片足立ち、重り負荷、姿勢変化による股関節にか | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【課題】 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | かる負荷の変化をPauwelsの理論を用いて評価する。<br><br>・様々な姿勢をとり支持基底面や重心位置を変化させ、身体の安定性を体験する。この体験から身体の安定性を支持基底面と重心位置との関係から捉え直す。 | | グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 11 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | Pauwels理論を通して身体のてこを理解し、杖使用や姿勢変化によって股関節にかかる負荷の大きさの変化を実習する。身体重心位置と支持基底面との関係から身体の安定性を捉える実習をする。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・杖使用、片足立ち、重り負荷、姿勢変化による股関節にかかる負荷の変化をPauwelsの理論を用いて評価する。<br><br>・様々な姿勢をとり支持基底面や重心位置を変化させ、身体の安定性を体験する。この体験から身体の安定性を支持基底面と重心位置との関係から捉え直す。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 12 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | Pauwels理論を通して身体のてこを理解し、杖使用や姿勢変化によって股関節にかかる負荷の大きさの変化を実習する。身体重心位置と支持基底面との関係から身体の安定性を捉える実習をする。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・杖使用、片足立ち、重り負荷、姿勢変化による股関節にかかる負荷の変化をPauwelsの理論を用いて評価する。<br><br>・様々な姿勢をとり支持基底面や重心位置を変化させ、身体の安定性を体験する。この体験から身体の安定性を支持基底面と重心位置との関係から捉え直す。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 13<br>3コマ連続 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 筋電図の基本概念、測定手法、基礎的解析手法、筋収縮力と筋活動との関係、周波数解析、筋電図による筋疲労評価などを学習する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>フリーソフトLabchartをダウンロードし、以下の実習を行う。<br>・トルクマシンによって下肢筋電図を測定する。<br>・筋電図解析ソフトを用いて筋活動量を積分とRMSにて定量化し、筋発揮トルクと筋活動量との関係を解析する。<br>・下肢筋疲労実験を行い、筋疲労前後における筋電図の周波数スペクトルの変化を解析する。 | 講義、グループワーク | 予習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 14 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 筋電図の基本概念、測定手法、基礎的解析手法、筋収縮力と筋活動との関係、周波数解析、筋電図による筋疲労評価などを学習する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>フリーソフトLabchartをダウンロードし、以下の実習を行う。<br>・トルクマシンによって下肢筋電図を測定する。<br>・筋電図解析ソフトを用いて筋活動量を積分とRMSにて定量化し、筋発揮トルクと筋活動量との関係を解析する。<br>・下肢筋疲労実験を行い、筋疲労前後における筋電図の周波数スペクトルの変化を解析する。 | 講義、グループワーク | 予習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 15 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 筋電図の基本概念、測定手法、基礎的解析手法、筋収縮力と筋活動との関係、周波数解析、筋電図による筋疲労評価などを学習する。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>フリーソフトLabchartをダウンロードし、以下の実習を行う。<br>・トルクマシンによって下肢筋電図を測定する。 | 講義、グループワーク | 予習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ・筋電図解析ソフトを用いて筋活動量を積分とRMSにて定量化し、筋発揮トルクと筋活動量との関係を解析する。<br>・下肢筋疲労実験を行い、筋疲労前後における筋電図の周波数スペクトルの変化を解析する。 | | 題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 16<br>3コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 歩行パラメータ測定と動画撮影による正常歩行の観察と分析を行う。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・10m歩行の測定を行い、正常歩行の距離因子（歩幅、重複歩距離、歩隔、足角）、時間因子（歩行速度、歩行周期、歩行率）を求める。<br>・正常歩行の動画を撮影し、各歩行周期での関節運動、筋活動について観察を行う。<br>・応用として最大歩行速度、低速歩行、AFO装着歩行、wide base歩行、小刻み歩行などを行い、上記の歩行パラメータの計測、動画による関節運動、筋活動を観察する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 17 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 歩行パラメータ測定と動画撮影による正常歩行の観察と分析を行う。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・10m歩行の測定を行い、正常歩行の距離因子（歩幅、重複歩距離、歩隔、足角）、時間因子（歩行速度、歩行周期、歩行率）を求める。<br>・正常歩行の動画を撮影し、各歩行周期での関節運動、筋活動について観察を行う。<br>・応用として最大歩行速度、低速歩行、AFO装着歩行、wide base歩行、小刻み歩行などを行い、上記の歩行パラメータの計測、動画による関節運動、筋活動を観察する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 18 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 歩行パラメータ測定と動画撮影による正常歩行の観察と分析を行う。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・10m歩行の測定を行い、正常歩行の距離因子（歩幅、重複歩距離、歩隔、足角）、時間因子（歩行速度、歩行周期、歩行率）を求める。<br>・正常歩行の動画を撮影し、各歩行周期での関節運動、筋活動について観察を行う。<br>・応用として最大歩行速度、低速歩行、AFO装着歩行、wide base歩行、小刻み歩行などを行い、上記の歩行パラメータの計測、動画による関節運動、筋活動を観察する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【復習】（90分）<br>上肢帯・上肢の運動学、実習課題、教科書p35-p56<br><br>【課題】<br>グループ（10名）に 分かれ、左記の実習課題を行う。翌週の同曜日にグループで1つのレポートを提出する。 |
| 19<br>3コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 重心動揺計（バランスコーダBW-6000）、トルクマシン（Easy The Plus）、3次元動作解析装置（Vicon）などの機器を使用した計測体験を行う。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>・重心動揺計の計測パラメータの意味を理解する。<br>・トルクマシンで計測できる筋収縮様式を理解し、角速度と筋力との関係、筋収縮様式と筋力との関係を理解する。<br>・3次元動作解析装置のマーカ装着位置、解析可能なパラメータの意味を理解する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>筋力、教科書p77-86<br>姿勢（2）姿勢制御、教科書p107-130<br>生体力学、教科書p117-130<br><br>【復習】（90分）<br>姿勢（2）姿勢制御、教科書p107-130 |
| 20 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 重心動揺計（バランスコーダBW-6000）、トルクマシン（Easy The Plus）、3次元動作解析装置（Vicon）などの機器を使用した計測体験を行う。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>・重心動揺計の計測パラメータの意味を理解する。<br>・トルクマシンで計測できる筋収縮様式を理解し、角速度と筋力との関係、筋収縮様式と筋力との関係を理解する。<br>・3次元動作解析装置のマーカ装着位置、解析可能なパラメータの意味を理解する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>筋力、教科書p77-86<br>姿勢（2）姿勢制御、教科書p107-130<br>生体力学、教科書p117-130<br><br>【復習】（90分）<br>姿勢（2）姿勢制御、教科書p107-130 |
| 21 | 眞壁　寿 | 重心動揺計（バランスコーダBW-6000）、トルクマシン | 講義、グループワー | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 藤野雄次<br>春山幸志郎 | （Easy The Plus）、3次元動作解析装置（Vicon）などの機器を使用した計測体験を行う。<br><br>講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>・重心動揺計の計測パラメータの意味を理解する。<br>・トルクマシンで計測できる筋収縮様式を理解し、角速度と筋力との関係、筋収縮様式と筋力との関係を理解する。<br>・3次元動作解析装置のマーカ装着位置、解析可能なパラメータの意味を理解する。 | ク | 筋力、教科書p77-86<br>姿勢（2）姿勢制御、教科書p107-130<br>生体力学、教科書p117-130<br><br>【復習】（90分）<br>姿勢（2）姿勢制御、教科書p107-130 |
| 22<br>3コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>Gait assessment and intervention tool (G.A.I.T)、Wisconsin gait scale (WGS)、各疾患の歩行分析チェック表などを用いて、疾患者の異常歩行を分析する。その結果をパワーポイントにまとめ、発表を行う。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>動作分析、教科書p131-142<br>歩行、教科書p143-152<br>【復習】（90分）<br>動作分析、教科書p131-142<br>歩行、教科書p143-152<br>【課題】<br>歩行分析の結果をまとめ、発表を行う。 |
| 23 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 講義<br>実習内容の説明とそれに関連する基礎的な事項<br>実習<br>Gait assessment and intervention tool (G.A.I.T)、Wisconsin gait scale (WGS)、各疾患の歩行分析チェック表などを用いて、疾患者の異常歩行を分析する。その結果をパワーポイントにまとめ、発表を行う。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>動作分析、教科書p131-142<br>歩行、教科書p143-152<br>【復習】（90分）<br>動作分析、教科書p131-142<br>歩行、教科書p143-152<br>【課題】<br>歩行分析の結果をまとめ、発表を行う。 |
| 24 | 眞壁　寿<br>藤野雄次<br>春山幸志郎 | 実習<br>Gait assessment and intervention tool (G.A.I.T)、Wisconsin gait scale (WGS)、各疾患の歩行分析チェック表などを用いて、疾患者の異常歩行を分析する。その結果をパワーポイントにまとめ、発表を行う。<br><br>授業の総まとめ | グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）<br>動作分析、教科書p131-142<br>歩行、教科書p143-152<br>【復習】（90分）<br>動作分析、教科書p131-142<br>歩行、教科書p143-152<br>【課題】<br>歩行分析の結果をまとめ、発表を行う。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 人間発達学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Human Development | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 松田 雅弘 | ナンバリング | PBP2009 |
| 担当教員 | 松田 雅弘 | | |

授業概要

| | |
|---|---|
| 全体内容 | 本講義では、受胎～死に至るまでの一生涯の人間の発達過程について、運動面・認知面・発達心理・社会性などの経時的な変化に関する過程について理解する。特に乳幼児期～青年前期までの発達・成長は人間の基盤となり、その理解は発達期又はその他のリハビリテーション分野においても重要な知識や応用力を身に付けることになる。そのため人間の形態的・構造的な成長だけでなく、発達過程における脳機能の変化について熟知する必要があり、そのことで運動・認知・心理・社会などの各側面から総合的に人間の発達を理解する。 |
| 到達目標 | ・運動面、認知面、情動面、心理・社会性の発達など多角的に人間発達を多角的に説明することができる。<br>・発達理論の概要を説明することができる。<br>・生涯発達する過程を理解し、各発達年齢でのKey pointについて説明できる。<br>・運動面の発達に関しては出現する反射・反応について説明できる。 |
| 授業の位置づけ | ・人間発達学は理学療法を学ぶうえで人の生死を含め、生涯を通じた発達の概要を学ぶため、理学療法士の対象となる全対象者の状態を把握するために重要となる<br>・発達系理学療法学の基礎となる運動発達、認知発達、社会的発達の基礎を学び、障害児者の病態把握に重要となる |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP1-C Ⅰ、C Ⅱ<br>DP3-C Ⅰ<br>DP4-C Ⅰ<br>DP5-C Ⅰ<br>DP2-C Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | ・3年次の「発達系理学療法学」、「発達系理学療法学演習」の基本となる学問であり、神経理学療法を学ぶうえでも重要となる。また、第1回目に理学療法士国家試験問題を配布し、理学療法士として求められる「人間発達学」の知識を確認しながら講義を受講して欲しい。<br>・Active learningの実施形態のため、理学療法学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことを望む |

成績評価の方法

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 成績は下記の項目を総合的は判断する。<br>・定期試験　　40%<br>・小テスト　　20%<br>・レポート課題と反転講義の評価　40%<br>（規定以上の日数を出席すること、原則、欠席・遅刻・早退はなし。所定の方法で連絡すること） |
| 評価基準 | ・定期試験、小テスト、レポート課題は担当教員が評価を行う<br>・反転講義は学生による自己評価、他者評価、教育評価によって評価を行う<br>・最終評価は総合的に判断する |

試験・課題等に対するフィードバック方法

【課題】
・JUNTENDO PASSPORTまたはGoogle classroomの機能を使用して提出とフィードバックを行う。
【試験】
・試験終了後に適宜フィードバックを行う。

テキスト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| リハビリテーションのための人間発達学　第3版 | 大城昌平（編） | メディカルプレス | 978-4-907347-90-1 | |

参考文献

【教科書】
・リハビリテーションのための人間発達学　第3版：大城昌平（編）、メディカルプレス、2021年
（第3版出版予定である）
【参考図書】
・人間発達学テキスト：細田多穂（監）、南江堂、2014年
・発達を学ぶ-人間発達学レクチャー-：森岡周、協同医書出版、2015年
・機能的姿勢-運動スキルの発達-：高橋智宏（監訳）、協同医書出版、2011年
・子どもの感覚運動機能の発達と支援：大城昌平・他（編）、メジカルビュー、2018年
【その他】
・必要に応じて書籍の紹介、プリントを配布する。

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜日　12：10～13：10　保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）503号室<br>t.matsuda.ye@juntendo.ac.jp　事前にメール連絡で随時対応 |

| | |
|---|---|
| 担当教員の実務経験 | 【教育経験】<br>2016～2018年　城西国際大学理学療法学科にて「人間発達学」講義担当<br>2019~現在　　順天堂大学理学療法学科にて「人間発達学」講義担当<br>【実務経験】<br>・発達支援センター、療育機関、特別支援学校、保育所などでの理学療法士としての実務経験<br>・発達系理学療法に関する研究<br>・子どもロコモなどの運動器に関する啓蒙活動 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 松田雅弘 | ・オリエンテーション<br>・反転講義の説明<br>・人間発達とは何か（発達の定義、代表的な発達理論）<br>・発達、成長違いと生死について<br>・理学療法士に求められる人間発達学とは<br>・小テスト | 対面の講義形式 | 【予習】（90分）<br>教科書のp2～14を一読しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料、配布資料の確認<br>発達理論の理解を深める |
| 2 | 松田雅弘 | ・胎児期、新生児期の発達<br>・小テスト | 対面の講義形式 | 【予習】（90分）<br>教科書のp15～30を一読しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料、配布資料の確認 |
| 3 | 松田雅弘 | ・乳児期の発達<br>・小テスト | 対面の講義形式 | 【予習】（90分）<br>教科書のp31～50を一読しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料、配布資料の確認 |
| 4 | 松田雅弘 | ・幼児期前期・後期の発達<br>・学童期の発達<br>・小テスト | 対面の講義形式 | 【予習】（90分）<br>教科書のp51～84を一読しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料、配布資料の確認 |
| 5 | 松田雅弘 | ・青年期～老齢期の発達の特徴<br>・小テスト | 対面の講義形式 | 【予習】（90分）<br>教科書のp85～134を一読しておくこと<br>発表準備<br>【復習】（90分）<br>講義資料、配布資料の確認 |
| 6 | 松田雅弘 | ・脳・神経系、知覚・認知機能の発達と障害<br>・小テスト | 反転講義形式（学生のプレゼンテーション） | 【予習】（90分）<br>教科書のp136～153、p196~213を一読しておくこと<br>発表準備<br>【復習】（90分）<br>講義資料、配布資料の確認 |
| 7 | 松田雅弘 | 【反転講義】<br>・身体構造、情緒・社会性の発達と障害<br>・課題レポートの提出 | 反転講義形式（学生のプレゼンテーション） | 【予習】（90分）<br>教科書のp176~194、p232～244を一読しておくこと<br>反転講義の班は発表準備<br>【復習】（90分）<br>講義資料、配布資料の確認 |
| 8 | 松田雅弘 | 【反転講義】<br>・言語機能の発達と障害、内部機能の発達と障害<br>・課題レポートの提出 | 反転講義形式（学生のプレゼンテーション） | 【予習】（90分）<br>教科書のp156～171、p216~229を一読しておくこと<br>反転講義の班は発表準備<br>【復習】（90分）<br>講義資料、配布資料の確認 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 救命救急学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Emergency medicine | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 射場　敏明 | ナンバリング | PBP2100 |
| 担当教員 | 射場　敏明 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 救急医療においては、常に時間軸を意識した診療が必要とされる。すなわち診断や処置に時間を要すれば転帰が変わり得ること意識して診療に当たる必要がある。また対象となる疾病が多岐にわたるため、迅速かつ包括的な判断が重要視されることも覚えておかねばならない。本講義においては、救急領域で診療する頻度の高い疾病の解説とバイタルサインを含む全身観察の手法や局所観察の意義、更にその具体的な方法と解釈の留意点について解説し、加えて具体的な事例について検討を行う。 |
| 到達目標 | 頻度の高い疾病の病態とその対処法について正しい知識を得る |
| 授業の位置づけ | 専門基礎分野/疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 理学DP1-C1・2-C1・3-C1・4-C1・5-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 将来医療職につくことを意識し、内容にとどまらず学習態度にも留意する<br>4月25日（月）：柳川先生<br>5月30日（月）：渡邉先生<br>6月6日 （月）：野村先生<br>6月13日（月）：門田先生<br>6月20日（月）：相原先生<br>調整中：比企先生<br>調整中：山田先生 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業への参加度50%、講義毎の小テスト・レポート50%で評価を行う |
| 評価基準 | 頻度の高い疾病の病態とその対処法について正しい知識を小テストを用いて確認。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 出席、受講態度、試験結果を総合評価し、フィードバックする | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 救急診療指針　改訂第5版 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 講義の前後で質疑応答を受け付ける |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 渡邉　心 | 医療従事者として最低限の急性腹症を知る。<br>急性腹症を理解するために<br>①腹部全体の解剖を理解する<br>②代表的な疾患名を理解する<br>③これら疾患の診断、治療を理解する。<br>④本講義終了時には患者の訴えから可能性のある代表的疾患を挙げられるようにしていただきたい。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>講義では主に②に③について解説する。<br>特に教科書指定はないが事前に腹腔内臓器（後腹膜も含む）<br>の解剖の予習をしてくること。<br>体表と臓器の位置関係を最低限把握して講義に臨むこと。<br>【復習】（90分） |
| 2 | 柳川　洋一 | 外傷の疫学、基本的な病名の理解、肉眼所見、画像診断、起こりうる症状 | 講義 | 【予習】（90分）<br>解剖学、生理学 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（90分）<br>解剖学、生理学 |
| 3 | 門田　勝彦 | 【救命救急医学　脳神経系の救急疾患】<br>脳神経系の救急疾患は、代表的な症候である意識障害を一例としても、原疾患や病像がきわめて多様であり、その治療には幅広い知識が求められる。<br>救急医療における脳神経系疾患の代表的な脳血管障害、頭部外傷、神経感染症の臨床について診断から初期治療に至る系統的な知識を修得し、現時点で、これらの急性期患者に対する診療放射線技師の役割についても学ぶ。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1．意識レベルの評価判定のためのGCS（Glasgow Coma Scale）とJCS（Japan Coma Scale）について調べておくこと。<br>2．脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の臨床的特徴と対応する画像所見についてまとめておくこと。<br>3．頭部外傷患者に対し、頭部CTを撮影する基準およびCT所見（直接所見・間接所見）をまとめておくこと。<br>4．神経感染症にはどのような疾患があるかを調べておくこと。<br>5．診療放射線技師として意識障害患者についてどのような注意点に配慮が必要か調べておくこと。<br><br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 4 | 相原　恒一郎 | 【循環器領域①】<br>・循環器領域の、解剖・生理と救急外来で扱う循環器疾患について、国家試験レベルを念頭に学習する。<br>・失神・不整脈・胸痛等の救急外来でよく遭遇する症状に焦点をしぼり初期対応を学習する。 | 講義 | 【予習】（60分）<br>循環器領域の解剖・生理について、事前に自習しておくとよい。<br>当日講義資料あり。<br>【復習】（90分）<br>講義後レポート提出あり |
| 5 | 比企 誠 | 【循環器領域②】<br>・循環器領域の、解剖・生理と救急外来で扱う循環器疾患について、国家試験レベルを念頭に学習する。<br>・失神・不整脈・胸痛等の救急外来でよく遭遇する症状に焦点をしぼり初期対応を学習する。 | 講義 | 【予習】（60分）<br>循環器領域の解剖・生理について、事前に自習しておくとよい。<br><br>【復習】（90分）<br>講義後レポート提出あり |
| 6 | 野村　智久 | 中毒、感染症、精神科救急、その他について、概念、症状、診断、対応の基本 | 講義 | 【予習】（90分）<br>解剖、生理学を踏まえ、自分の知っている中毒、感染症、精神科救急をイメージしておくこと<br>【復習】（90分） |
| 7 | 山田京志 | Basic Life Support(BLS)講義<br>・正しい心肺蘇生(CPR: Cardio-Pulmonary Rescitation)を学ぶ<br>・質の高いCPRの重要性を学ぶ<br>・AED(Automated External Defibrillator, 自動体外式除細動器)の使用方法を学ぶ<br>・BLSのアルゴリズムを学ぶ | BLS講義、BLS実習 | 【予習】BLSアルゴリズムの確認<br><br>【復習】次週に行う実習のための復習 |
| 8 | 山田京志 | BLS実習<br>・安全確認から胸骨圧迫まで（実習）<br>・胸骨圧迫（実習）<br>・人工呼吸（実習）<br>・胸骨圧迫と人工呼吸の組み合わせ（実習）<br>・AEDの使い方（実習）<br>・全体を通し練習（実習）<br>・実技発表、まとめ | BLS講義・BLS実習 | 【予習】（90分）<br>・BLS講義の復習<br>・BLSアルゴリズムの確認<br>【復習】（90分）<br>・BLSの反復練習 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 臨床心理学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Clinical Psychology | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 松永 祐輔 | ナンバリング | PBP2101 |
| 担当教員 | 松永 祐輔 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 臨床心理学は、人間心理的な適応や発達、障害・苦悩などの特徴を明らかにして、問題の査定や軽減・解消を目指す学問である。本講義では、臨床心理学の基礎的な理解を目的に、心理アセスメントや代表的理論の概要を学ぶ。前半では、まず臨床心理学の基礎として、我々の認知や対人関係、記憶、言語など、臨床心理学を学ぶ上で必要な心理学の知見を学ぶ。その上で、精神障害の理解を目的に、統合失調症や気分障害、発達障害、認知症などについて、臨床心理学的側面から学ぶ。後半では、心理アセスメントの特徴、精神分析や来談者中心療法など、臨床心理学を理解する上で重要な技法や代表的理論について学ぶ。 |
| 到達目標 | 臨床心理学の基礎理論や関係する他の心理学理論を理解している。その上で、発達心理および臨床心理について、児童・青年期心理、成人・高齢者心理、患者・障害者心理を理解しているほか、臨床心理検査法や、心理療法およびカウンセリングについても理解している。 |
| 授業の位置づけ | 本講義で扱う内容は、特に来談者中心療法等は、現在の医療における様々な分野で重視されている概念である。本講義は、医療従事者として患者のこころを尊重するための基本的な姿勢や考え方を学ぶ科目である。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | ディプロマポリシー、コンピテンシーとは、以下の項目について、臨床心理学的側面について関係している。<br>共通DP1-C1：倫理とプロフェッショナリズム<br>理学DP2：理学療法を必要としている人々を全人的に理解する能力<br>理学DP3：人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身に付いている<br>理学DP5：理学療法学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力 |
| 履修上の注意、履修要件 | ノートを必ず持参すること。資料等は必要に応じて適宜配布する。<br><br>小テストはGoogle formを使用する予定である。<br><br>また、授業のなかで、質問紙調査を行う場合がある。参加することによって、質問紙調査研究の実際を体験することができ、心理学を学ぶ上でメリットとなる。<br>しかし、参加・不参加は履修者本人の自由であり、参加・不参加および回答内容などによる成績への影響は一切ない。<br>履修者本人・保護者が調査研究への参加を希望しない場合、および、参加したものの研究での使用を希望しない場合、講義内やメールなどでその旨を科目責任者まで連絡すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験（70%）、授業中に実施する小テスト等の課題や平常点（30%） |
| 評価基準 | 臨床心理学の基礎理論を理解し説明できるか。<br>児童・青年期心理、成人・高齢者心理、患者・障害者心理を理解しているか。<br>臨床心理検査法や、心理療法およびカウンセリングについても理解しているか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で実施した小テストは授業内で解説する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 授業の際に提示する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 授業中、および終了後にチャットで質問を受け付ける。 |
| 担当教員の実務経験 | 高齢者専門の病院や透析クリニックにて、6年程度の実務経験がある。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>4/14（木） | 松永祐輔 | 【オリエンテーション】<br>授業の展開や成績評価のほか、臨床心理学の基本的な考え方などを解説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>心理学や臨床心理学、精神障害、その他、こころに関係するこれまでの知識を整理しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内で実施した小テストの内容を含め、授業で得た知識を定着させること。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2<br>4/28<br>（木） | 松永祐輔 | 【心理学の基礎理論1】<br>学習や記憶を含めた認知心理学の知見を解説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>心理学や臨床心理学、精神障害、その他、こころに関係するこれまでの知識を整理しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内で実施した小テストの内容を含め、授業で得た知識を定着させること。 |
| 3<br>5/12<br>（木） | 松永祐輔 | 【心理学の基礎理論2】<br>生涯発達心理学として、乳幼児期から、青年期、老年期などのそれぞれの特徴を解説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>心理学や臨床心理学、精神障害、その他、こころに関係するこれまでの知識を整理しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内で実施した小テストの内容を含め、授業で得た知識を定着させること。 |
| 4<br>5/26<br>（木） | 松永祐輔 | 【精神障害の理解】<br>発達障害や感情障害、統合失調症、認知症などの精神障害について、心理学的側面から解説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>心理学や臨床心理学、精神障害、その他、こころに関係するこれまでの知識を整理しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内で実施した小テストの内容を含め、授業で得た知識を定着させること。 |
| 5<br>6/9<br>（木） | 松永祐輔 | 【臨床心理検査法】<br>心理アセスメントの特徴について、実際の心理検査の体験も含め、解説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>心理学や臨床心理学、精神障害、その他、こころに関係するこれまでの知識を整理しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内で実施した小テストの内容を含め、授業で得た知識を定着させること。 |
| 6<br>6/23<br>（木） | 松永祐輔 | 【精神分析】<br>フロイトの理論を中心に、防衛機制や転移を含め、解説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>心理学や臨床心理学、精神障害、その他、こころに関係するこれまでの知識を整理しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内で実施した小テストの内容を含め、授業で得た知識を定着させること。 |
| 7<br>7/7<br>（木） | 松永祐輔 | 【認知行動療法】<br>認知行動療法について、認知療法、行動療法のそれぞれの特徴も含め、解説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>心理学や臨床心理学、精神障害、その他、こころに関係するこれまでの知識を整理しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内で実施した小テストの内容を含め、授業で得た知識を定着させること。 |
| 8<br>7/21<br>（木） | 松永祐輔 | 【来談者中心療法】<br>ロジャーズの理論を中心に、カウンセリングで用いられる具体的技法を含めて解説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>心理学や臨床心理学、精神障害、その他、こころに関係するこれまでの知識を整理しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内で実施した小テストの内容を含め、授業で得た知識を定着させること。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | カウンセリング論 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Counseling Theory | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 道谷 里英 | ナンバリング | PBP2102 |
| 担当教員 | 道谷 里英 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 人々が直面する問題がより複雑、高度化している現代社会において、専門的な対人援助の重要性がますます高まっている。本講義においては、対人援助活動の一つであるカウンセリングに焦点を当て、カウンセリングの定義、類似する他の対人援助活動との違い、カウンセリングを行う者に求められる基本的な態度や技能、カウンセリングのプロセスを学ぶ。カウンセリングを学ぶことを通じて、援助する側と援助される側との関係性を踏まえて、より良い対人援助のあり方を学ぶことを目的とする。 |
| 到達目標 | 1. 心理的な援助であるカウンセリングの理念や基本的なあり方を理解する。<br>2. 援助者として必要な態度や資質について理解する。<br>3. 援助を求める人に共感し、その人を受容するための支持的な聴き方の基礎を身につける。<br>4. 援助者としての自分自身の心の声に耳を傾け、セルフケアの方法を理解する。 |
| 授業の位置づけ | リハビリテーションを行う上では患者との信頼関係が不可欠です。本科目は、信頼関係を構築するための基礎的な態度やあり方について、カウンセリングの考え方を通じて学ぶ科目です。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 理学DP1-CⅠ-②<br>理学DP4-CⅠ-②<br>理学DP5-CⅠ-①② |
| 履修上の注意、履修要件 | 本科目ではカウンセリングの知識だけでなく、スキルを学ぶことが含まれるため、各学生には能動的に授業に参加する姿勢を強く求めます。毎回、ランダムに指定した座席に着席をしてもらうため、事前に掲示された座席表を確認してください。また、集合形式での授業実施のため、講師が一人ひとりへフィードバックを行うことは困難ですが、その代り、受講生同士が積極的にフィードバックし合う時間を設けます。相手を尊重し、相手の成長につながるようコメントをするようにお願いします。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験6割、授業ごとのリアクションペーパーや課題の提出4割で評価します。 |
| 評価基準 | 1. 心理的な援助であるカウンセリングの理念やリハビリテーションとの関連を理解し、説明することができるか。<br>2. 援助者として求められる態度や資質について理解し、説明することができるか。<br>3. 援助を求める人を支えるための話を聴くうえで大切な態度や行動を理解し、自分自身の課題を説明することができるか。<br>4. 援助者としてのセルフケアの方法を理解し、説明することができるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 毎回のリアクションペーパーに対して、次回の授業で数名の学生のコメントを紹介し、総括的なコメントを行うことによりフィードバックを行います。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 理学療法士(PT)・作業療法士(OT)のための治療心理学:患者によりそう行動アプローチ | 武田 建, 中俣 恵美 , 出田 めぐみ | 創元社 | 978-4422410852 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | r-michitani@juntendo.ac.jp メールで個別にアポイントを取ってください。 |
| 担当教員の実務経験 | 民間企業および大学でのキャリア・カウンセリングやメンタルヘルスに関するカウンセリングの実務経験を活かして講義を行います。 |
| 備考 | |
| 授業計画 | |

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 道谷 里英 | 【オリエンテーション】カウンセリングが誕生した社会的背景や人々のwell-beingとの関連、類似する援助行動との違いを理解する。 | 講義とグループワーク | 【予習】（90分）過去を振り返って、あなたにとって役に立った援助（治療）と、あまり役に立たなかった援助（治療）を思い出し、口頭で発表する準備をしてきてください。<br>【復習】授業で提示された復習用課題を行い、知識を定着させること。 |
| 2 | 道谷 里英 | 【共感と受容】対人援助の基本姿勢として強調される「共感」や「受容」への理解を深める。 | 講義とグループワーク | 【予習】（90分）あなたが誰かを助けた経験を振り返ってみてください。相手の相談にのったり、援助したりすることに難しさを感じ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | たことはありますか。もしあれば、どのような点が難しかったでしょうか。経験がない場合は、想像で構いませんので、どのような点が難しそうかを500字程度でまとめて持参すること（要提出）。<br>【復習】（90分）授業で提示された復習用課題を行い、知識を定着させること。 |
| 3 | 道谷 里英 | 【支持的な聴き方：ステップ①批判せず傾聴する】主に反射のスキルを用いながら、相手が語ることを批判せず受け取り、ついていく聴き方を学ぶ。 | 講義とペアワーク | 【予習】（90分）事前課題として提示されたテキストの該当箇所を通読し、自身の経験と比較し、疑問点を明らかにしておくこと。<br>【復習】（90分）授業で提示された復習用課題を行い、知識を定着させること。 |
| 4 | 道谷 里英 | 【支持的な聴きステップ②客観的に聴く】主に質問のスキルを用いながら、相手を客観的に理解するための聴き方を学ぶ。 | 講義とペアワーク | 【予習】（90分）事前課題として提示されたテキストの該当箇所を通読し、自身の経験と比較し、疑問点を明らかにしておくこと。<br>【復習】（90分）授業で提示された復習用課題を行い、知識を定着させること。 |
| 5 | 道谷 里英 | 【支持的な聴き方：ステップ③共感に至るように聴く】ステップ①②をバランスさせながら相手を深く理解するための聴き方を学ぶ。 | 講義とペアワーク | 【予習】（90分）事前課題として提示されたテキストの該当箇所を通読し、自身の経験と比較し、疑問点を明らかにしておくこと。<br>【復習】（90分）授業で提示された復習用課題を行い、知識を定着させること。 |
| 6 | 道谷 里英 | 【支持的な聴き方：総合的実習】ステップ①から③をふまえて、支持的な聴き方を実践する。 | 講義とペアワーク | 【予習】（90分）事前課題として提示されたテキストの該当箇所を通読し、自身の経験と比較し、疑問点を明らかにしておくこと。<br>【復習】（90分）授業で提示された復習用課題を行い、知識を定着させること。 |
| 7 | 道谷 里英 | 【セルフケアとしてのカウンセリング】援助者としての自らの心の声に耳を傾け、セルフケアを実践するための方法を学ぶ。 | 講義と個人ワーク | 【予習】（90分）事前課題として提示されたテキストの該当箇所を通読し、自身の経験と比較し、疑問点を明らかにしておくこと。<br>【復習】（90分）授業で提示された復習用課題を行い、知識を定着させること。 |
| 8 | 道谷 里英 | 定期試験とまとめ | 試験実施と講義 | 【予習】（90分）復習用課題をすべて振り返る。また、支持的な聴き方を実践していくうえでの自分の課題をまとめておくこと。<br>【復習】（90分）授業で学んだカウンセリングに関する知識をリハビリテーションの実践にどのように活かしていけるかを考えるとともに、日々どのように話を聴く力を高めていくかを考えること。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 病理学概論 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Pathology | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 樋野 興夫 | ナンバリング | PBP2103 |
| 担当教員 | 樋野 興夫 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 「病理学」とは、病気の根幹を追求しようとする「the study of the diseased tissues」を機軸とする。病理学は、実験を通して病気のメカニズムを解明していく「実験病理」とヒトの臓器、組織を主に形態学的に診断する「人体病理」に大別される。更に人体病理は解剖病理と診断病理に大別される。診断病理には、細胞診、術中迅速診断、生検や手術の組織診断がある。特殊染色、免疫組織化学染色、蛍光抗体法、電子顕微鏡観察は補助診断として用いられる。本講義では、将来医療職に従事する学生の「病気に対する正しい理解」を深めることを目的とするものであり、具体的に様々な病変の『正常細胞と異常細胞の違い』を学ぶことで、『病気』の具象的なイメージを捉えることである。 |
| 到達目標 | 1. 世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見通せるようになる。<br><br>2. 俯瞰的に「がん」の理を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材となる。<br><br>3. 複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔く人材となる |
| 授業の位置づけ | 専門基礎分野　人体の構造と機能及び疾病の成り立ち |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 特になし |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業への参加度（講義内の発表を含む）、課題レポートでの総合評価 |
| 評価基準 | 授業への参加度（講義内の発表を含む）、課題レポートでの総合評価 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で返却 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 病理学概論<br>「カラーで学べる病理学」（Nouvella Hirokawa 発行） | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 授業前後で対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 樋野 興夫 | 病気と病理学：病気とは何か、老化現象と病気の関係等 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分を読んでくること。<br>【復習】（90分）<br>授業内で触れたキーワード等について、指定教科書等を使ってにまとめておくこと。 |
| 2 | 樋野 興夫 | 生体の基本反応：組織･細胞に生じる異常と修復・炎症、免疫等 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分を読んでくること。<br>【復習】（90分）<br>授業内で触れたキーワード等について、指定教科書等を使ってにまとめておくこと。 |
| 3 | 樋野 興夫 | 病因と病気：先天異常・感染症、環境による疾患 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分を読んでくること。<br>【復習】（90分）<br>授業内で触れたキーワード等について、指定教科書等を使ってにまとめておくこと。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 樋野 興夫 | 病因・病態の理解：癌・生活習慣、難病 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分を読んでくること。<br>【復習】（90分）<br>授業内で触れたキーワード等について、指定教科書等を使ってにまとめておくこと。 |
| 5 | 樋野 興夫 | 循環器,呼吸器の疾患：心疾患、血管の疾患、肺、胸膜等の疾患の病理 | | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分を読んでくること。<br>【復習】（90分）<br>授業内で触れたキーワード等について、指定教科書等を使ってにまとめておくこと。 |
| 6 | 樋野 興夫 | 消化器の疾患：食道、胃、腸等、肝臓、胆道・胆嚢、膵臓等の病理 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分を読んでくること。<br>【復習】（90分）<br>授業内で触れたキーワード等について、指定教科書等を使ってにまとめておくこと。 |
| 7 | 樋野 興夫 | 腎、泌尿器、生殖器等の病理 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分を読んでくること。<br>【復習】（90分）<br>授業内で触れたキーワード等について、指定教科書等を使ってにまとめておくこと。 |
| 8 | 樋野 興夫 | 運動器、感覚器の疾患の病理、病理学について総括・試験 | | 【予習】（90分）<br>指定教科書の該当部分を読んでくること。<br>【復習】（90分）<br>授業内で触れたキーワード等について、指定教科書等を使ってにまとめておくこと。 |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 外科学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Surgery | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 坂本　一博 | ナンバリング | PBP2104 |
| 担当教員 | 坂本　一博 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 外科学では、手術後のリハビリテーションの実施にあたって必要な基本的知識を学ぶ。具体的には、各臓器の解剖、生理に加えて、代表的な疾患の病態生理、診断方法、治療方法を解説する。特に消化器外科手術（上部消化管、下部消化管、肝胆膵）、呼吸器外科手術、心臓血管外科手術（心臓外科、血管外科）、乳腺外科手術、小児外科手術、形成外科手術については、手術適応に加えて、各手術の特徴や術前・術後の管理、術後の回復の特徴、術後発生しうる身体機能の低下、術後合併症について必要な知識を修得することで、チーム医療の学びの場とする。外科学の発展や最近の手術の進歩、各分野の話題、治療のエビデンスなどを実際の症例を交えて解説し、外科手術術後の社会復帰や家庭復帰など、外科手術とリハビリテーションの関連を学修する。 |
| 到達目標 | ・外科治療を受ける患者や外科治療を受けて間もない患者の病態を理解し、特殊な状況における理学療法の目標を的確に捉えることができる。<br>・外科治療における病態の特殊性を理解し、患者の病状について説明できる。<br>・外科治療を把握し、リハビリテーションがどのように関わるのかを理解し、リハビリテーションの果たすべき役割を説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 専門基礎分野　疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 理学DP2-C1,理学DP3-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 外科学では、外科学の変遷と現在行われている外科治療の特徴を理解し、患者の病態を把握することを常に意識するように心掛け、疑問を解決する学修姿勢をもって講義に臨むこと。外科学では、外科総論と診療科（心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科、食道胃外科、大腸肛門外科、肝胆膵外科、消化器低侵襲外科）の各論の講義がある。それぞれの外科治療における患者の病態を理解することが重要である。各外科治療により術前及び術後の患者の状態は異なるため、毎回、履修する項目も異なる。従って、欠席せずに授業内容を修得すること。やむを得ず欠席した場合はすぐにプリント、課題などで自己学修をすることが必要である。復習は授業ごとの課題や小テストでしっかりと知識を定着させることが肝要である。現在の外科治療においても、術前の患者リスクの軽減や術後の早期回復のため、理学療法は重要であり、各講義とも実践的な立場を重視した授業を行う。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 講義中の課題（30%）、小テスト（70%）により評価する。 |
| 評価基準 | 講義中の課題（30%）、小テスト（70%）により評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 【参考書】<br>新臨床外科学（第4版）（医学書院）<br>Sabiston Textbook of Surgery,　19th ed.（ELSEVIER）<br>標準外科学　第12版（医学書院）<br>病気がみえるvol.9婦人科・乳腺外科　第2版（ﾒﾃﾞｨｯｸﾒﾃﾞｨｱ）<br>日本乳癌学会編科学的根拠に基づく乳癌診療ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ<br>①治療編②疫学・診断編（金原出版） | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 病院での臨床経験を活かし、外科学の変遷と実際の外科治療について講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 坂本　一博 | 【外科学総論】<br>外科学総論では、外科学の変遷と現在の外科治療一般について講義を行う。各手術治療において、術前・術後の患者状態の把握から、術前リスクを評価し術後早期回復を目指す外科の周術期管理を理解する。すべての外科講義は連続するものではないため、各講義内容を理解していくことが重要である。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1．外科治療の概要、特徴について確認しておくこと<br>2．一般的な術前評価検査について確認しておくこと<br>3．術後合併症にはどのようなものがあるか、検索しておくこと |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 2 | 岡　伸一 | 実際の手術の動画などを用いたスライドによる講義 | 講義 | 【予習】（90分）<br>腹腔鏡手術について調べる。<br>【復習】（90分）<br>講義で学んだ内容につき理解を深める。 |
| 3 | 市田洋文 | 肝胆膵外科領域は対象となる臓器・疾患・対応する術式が多岐に渡る。解剖学的にも複雑かつ高侵襲・高難度手術が多い。肝胆膵外科領域の疾患・手術・術後管理について概説する。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>１．肝胆膵外科領域の解剖について理解しておくこと<br>２．肝胆膵外科領域にはどのような疾患があるか調べておくこと<br>３．肝胆膵外科領域の手術にはどのようなものがあるか調べておくこと<br>・参考書　標準外科学　第15版<br><br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 4 | 魚森　俊喬 | 乳腺疾患について基本的知識を習得し、特に乳腺疾患で重要である乳癌に関する治療法（手術、ホルモン治療、化学療法、放射線治療）および遺伝性乳癌など注目されている分野の知識を獲得する。<br><br>・乳腺の解剖・生理　・乳癌の疫学とリスクファクター<br>・乳腺腫瘤の鑑別と診断　・乳癌の基本的な治療法 | 講義 | 授業キーワードについては、各自十分に理解したうえで、講義に臨むこと。<br>特に各臓器の外科的解剖、生理を理解して講義に臨むことが望ましい。 |
| 5 | 稲葉博隆 | 心臓血管外科手術とその術後経過、理学療法との関係 | 講義 | 教科書、論文、インターネットなど方法は問わないが、以下のキーワードを理解しておくこと。　弁膜症、人工弁、弁形成術、冠動脈、冠動脈バイパス術、オフポンプバイパス術、大動脈瘤、大動脈解離、人工血管、人工心肺 |
| 6 | 福井麻里子 | 呼吸器外科手術の内容や周術期管理、合併症に対する対応を学ぶ。また、周術期呼吸器リハビリの必要性について学ぶ | 講義 | 【予習】(90分)<br>肺がん手術についてまとめておく。<br>【復習】（90分）<br>講義、小テストで得た知識は実際の臨床に直結した知識であるため、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 7 | 有井　瑠美 | 【小児外科】<br>小児外科の代表的な疾患の病態生理、診断方法、治療方法を学ぶ。各手術の特徴や術前・術後の管理、術後の回復の特徴、術後発生しうる身体機能の低下、術後合併症、小児特有の問題について必要な知識を修得する。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>発生学・小児の生理学的特徴、発達の生理などの基礎的知識を整理・予習しておく。<br>【復習】（90分）<br>小テストの内容を見直し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 8 | 峯　真司<br>橋本　貴史 | 上部消化管悪性腫瘍と診断された患者は術前精査を行い、必要に応じて術前化学療法や放射線治療を行い、外科的切除を行う。これらの経過中に経口摂取量の低下がみられるケースも多く、これに伴って体力・筋力の低下を引き起こし術後合併症や長期入院、予後の悪化へとつながる。また食道癌術後の影響で嚥下機能障害や呼吸機能機能障害、反回神経麻痺を生じることもある。これらに対するリハビリの重要性を概説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>上部消化管悪性腫瘍について調べる。<br>【復習】（90分）<br>講義で学んだ内容につき理解を深める。 |
| 9 | 宗像　慎也 | 術後のリハビリテーションの実施にあたって必要な基本的知識を学ぶ。臓器の解剖、生理に加えて、代表的な疾患の病態生理、診断方法、治療方法を解説する。また術前・術後の管理、術後の回復の特徴、術後発生しうる身体機能の低下、術後合併症について必要な知識を修得することで、チーム医療の学びの場とする。 | 講義 | 下部消化管外科学に必要な解剖、病態生理を事前に予習しておく。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 整形外科学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Orthopaedics | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 池田 浩 | ナンバリング | PBP2105 |
| 担当教員 | 池田 浩、中村　絵美 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、総論として運動器疾患に対する基礎知識を学ぶ。<br>①解剖学、生理学などを中心として、運動器（骨・関節、脊髄・末梢神経、筋）の正常構造と機能を学ぶ、②主な運動器疾患の病態を学ぶ、③主な運動器疾患に対する問診、徒手検査、画像検査、生理学的検査の結果に基づく診断方法を学ぶ、④主な運動器疾患に対する治療方法を、理学療法を含めて学ぶ。<br>各論として各種の運動器疾患について学ぶ。<br>①骨・関節の外傷（骨折、脱臼、靭帯損傷を含む）、②脊椎疾患（脊髄損傷を含む）、③神経障害、④関節リウマチ、⑤骨軟部腫瘍（良性及び悪性腫瘍）、⑥骨代謝疾患（骨粗鬆症を含む）、⑦変形性関節症（変形性膝関節症を含む）、⑧小児疾患（先天性股関節を含む）、⑨スポーツ外傷と障害について、診察法、検査法、治療法を学ぶ。運動器疾患の予防における理学療法士の役割についても学ぶ。 |
| 到達目標 | ①運動器疾患の基本となる骨・関節、脊髄・末梢神経、筋の正常構造と機能を説明することができる。<br>②整形外科疾患に対する診断法、検査法及び治療法を説明することができる。 |
| 授業の位置づけ | 運動器疾患を把握する上で基礎となる授業である。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP-3-C-1 |
| 履修上の注意、履修要件 | ①講義テストに出題された内容を、定期試験までに習得する。<br>②常に疑問を持ち、自分なりに仮説を立てて、自分自身で考えて、結論を導き出す習慣を身につけること。<br>③授業中は、積極的に自分の言葉で自分の意見を発言すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業の講義テスト（15%）、定期試験（85%）の合計点により最終評価を行う。 |
| 評価基準 | ①運動器疾患の基本となる骨・関節、脊髄・末梢神経、筋の正常構造と機能を説明することができるか？<br>②整形外科疾患に対する診断法、検査法及び治療法を説明することができるか？ |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内、クラスルーム（Google）、JUNTENDO PASSPORTを通じて行う。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| ①標準整形外科学 第14版、医学書院、2020年<br>②病気がみえる　運動器・整形外科、メディックメディア、2017年 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜日15時～16時（事前に連絡のこと） |
| 担当教員の実務経験 | 昭和62年 順天堂大学医学部整形外科学講座研修医（平成元年4月まで）<br>平成 5年 国立湊病院整形外科部長（平成5年6月まで）<br>平成 5年 石井病院整形外科医長（平成8年6月まで）<br>平成 8年 順天堂大学医学部整形外科学講座助手（平成10年11月まで）<br>平成10年 米国 Hospital for Special Surgery 留学 Clinical Fellow（平成11年4月まで）<br>平成11年 順天堂大学医学部整形外科学講座講師「膝関節」（平成18年10月まで）<br>平成12年 順天堂大学医学部附属順天堂医院整形外科病棟医長（平成13年6月まで）<br>平成13年 順天堂大学医学部附属順天堂医院整形外科医局長（平成15年6月まで）<br>平成14年 順天堂大学医学部附属順天堂医院リハビリテーション室（平成14年5月まで）<br>平成14年 国立スポーツ科学センタースポーツクリニック非常勤医師（平成27年3月まで）<br>平成15年 順天堂大学大学院医学研究科博士課程整形外科・運動器医学講師（併任）「再生・再建医学」（平成18年10月まで）<br>平成16年 順天堂大学医学部附属順天堂医院整形外科外来医長（平成18年10月まで）<br>平成18年 順天堂大学医学部整形外科学講座助教授「膝関節」（平成19年3月まで）<br>平成18年 順天堂大学大学院医学研究科博士課程整形外科・運動器医学助教授（併任）「再生・再建医学」（平成19年3月まで）<br>平成19年 順天堂大学医学部整形外科学講座先任准教授「スポーツ医学」（平成31年3月まで）<br>平成19年 順天堂大学大学院医学研究科博士課程整形外科・運動器医学先任准教授（併任）「再生・再建医学」（平成31年3月まで）<br>平成20年 お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師「学校安全と救急看護」（平成24年3月まで）<br>平成31年 順天堂大学保健医療学部理学療法学科教授「整形外科」（現在に至る）<br>平成31年 順天堂大学医学部整形外科学講座准教授「スポーツ医学」（現在に至る） |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1回目 4/11（月）2限 | 池田　浩 | 整形外科総論 | 講義 | 【予習】骨・筋肉の役割について調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 2回目 4/18（月）2限 | 池田　浩 | 運動器（骨・関節、脊髄・末梢神経、筋）の正常構造と機能 | 講義 | 【予習】軟骨の役割について調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 3回目 4/25（月）2限 | 池田　浩 | 運動器疾患の病態 | 講義 | 【予習】変形性膝関節症の病態について調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 4回目 5/9（月）2限 | 池田　浩 | 運動器疾患に対する治療方法 | 講義 | 【予習】変形性膝関節症の治療法について調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 5回目 5/16（月）2限 | 池田　浩 | 骨・関節の外傷（骨折） | 講義 | 【予習】骨折の合併症について調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 6回目 5/23（月）2限 | 池田　浩 | 骨・関節の外傷（脱臼、靭帯損傷など） | 講義 | 【予習】脱臼しやすい関節について調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 7回目 5/30（月）2限 | 池田　浩 | 脊椎疾患（脊髄損傷を含む） | 講義 | 【予習】腰椎椎間板ヘルニアについて調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 8回目 6/6（月）2限 | 池田　浩 | 神経障害 | 講義 | 【予習】手の末梢神経障害について調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 9回目 6/13（月）2限 | 池田　浩 | 関節リウマチ | 講義 | 【予習】関節リウマチの診断法について調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 10回目 6/20（月）2限 | 池田　浩 | 骨軟部腫瘍（良性及び悪性腫瘍） | 講義 | 【予習】良性腫瘍と悪性腫瘍の違いについて調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 11回目 6/27（月）2限 | 池田　浩 | 運動器疾患の診断方法（問診、視診、徒手検査、画像検査、生理学的検査） | 講義 | 【予習】変形性膝関節症の診断方法について調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 12回目 7/4（月）2限 | 池田　浩 | 骨代謝疾患（骨粗鬆症を含む） | 講義 | 【予習】骨粗鬆症の原因について調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 13回目 7/11（月）2限 | 池田　浩 | 変形性関節症（変形性膝関節症を含む） | 講義 | 【予習】変形性膝関節症のリスクファクターについて調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| 14回目 7/18（月）2限 | 池田　浩 | スポーツ外傷と障害 | 講義 | 【予習】スポーツ外傷とスポーツ障害の違いについて調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 15回目<br>7/25（月）<br>2限 | 池田　浩 | ロコモティブシンドローム | 講義 | 【予習】ロコモティブシンドロームについて調べる。（90分）<br>【復習】講義テストに出題された内容についてまとめる。（90分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 脳神経外科学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Neurosurgery | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 近藤 聡英 | ナンバリング | PBP2106 |
| 担当教員 | 近藤 聡英 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、脳神経外科学で扱う主要疾患について疾患概念、病態、検査、診断と手術を含めた治療を概説し、各疾患とリハビリテーションと関わりについて言及する。<br>目標として、以下①?⑨に示す脳神経外科疾患の病態生理、診断法、外科及び非外科的治療法に関する基礎的知識を修得し、それぞれの疾患の治療においてリハビリテーションが果たす役割を理解し説明できることとする。特に、患者の機能回復には様々な職種が共同で治療にあたるチーム医療が重要であることを理解できることを目指す。<br>①脳ヘルニア・脳浮腫、②脳血管障害（脳出血、脳梗塞など）、③脳腫瘍、④神経外傷、⑤てんかんなどの機能的疾患、⑥中枢神経系に発生する先天奇形、⑦脊椎・脊髄疾患、⑧脳膿瘍などの感染性疾患、⑨その他 |
| 到達目標 | 中枢神経疾患の発症、機序、診断、治療について理解し、各疾患に対する外科的治療手段への理解を深める。将来の実臨床で方針を決定する際の基本知識として、学習内容を応用することができる。 |
| 授業の位置づけ | 専門分野　疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 理学DP3-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 授業前に、シラバスに沿って参考書等で内容について確認をしておくこと。プレテストは同範囲から出題されるため十分な予習が望ましい。ポストテストで理解を深め、自己学習（復習）にてより深い知識を会得する。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 課題レポート(30%)、課題小テスト（20%）、定期試験（50%）により評価する。 |
| 評価基準 | 課題レポート(30%)、課題小テスト（20%）、定期試験（50%）により評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 小テストについては、授業内にフィードバックを行う。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 【テキスト】<br>病気がみえるvol7　脳・神経<br><br>【参考書】<br>・標準脳神経外科学（改訂第14版） | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | knd-aki@juntendo.ac.jp<br>メールにて、質問および問い合わせに随時対応する |
| 担当教員の実務経験 | 臨床経験に基づく、中枢神経系疾患に対する外科的介入を中心に講義を行う |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 近藤　聡英 | 脳神経外科概論<br>中枢神経系に対する外科介入の種類と意義について理解するために、中枢神経系の生理および正常解剖と系統解剖について学ぶ。今後頻出する神経放射線学的画像について理解する。 | | 【予習】（90分）中枢神経系解剖について解剖学で学んだことを見直しておく。神経内科ハンドブック　神経学的検査法　神経放射線学的検査の項を熟読する<br>【復習】（90分）授業で提示された代表的画像診断を神経解剖の見地から見直しておく |
| 2 | 近藤　聡英 | 中枢神経系外傷<br>中枢神経に発生する外傷性変化の種類、機序、診断について理解をし、それに対する外科介入の意義を画像診断をふまえて学ぶ | | 【予習】（90分）中枢神経外傷の種類について神経内科ハンドブック　頭部外傷・脊髄外傷の項を熟読する<br>【復習】（90分）授業で提示された代表的外傷性疾患を画像診断の見地から見直しておく |
| 3 | 近藤　聡英 | 脳血管障害（出血性病変）<br>脳血管障害の中で特に出血性病変の種類、機序、診断につい | | 【予習】（90分）神経内科ハンドブック　脳脊髄血管障害　分類と診断・治療の項を熟読する |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | て理解をし、それに対する外科介入の意義を画像診断をふまえて学ぶ | | 【復習】（90分）授業で提示された代表的中枢神経系出血性疾患を画像診断の見地から復習する |
| 4 | 近藤　聡英 | 脳血管障害（虚血性病変）<br>脳血管障害の中で特に虚血性病変の種類、機序、診断について理解をし、それに対する外科介入の意義を画像診断をふまえて学ぶ | | 【予習】（90分）神経内科ハンドブック　脳脊髄血管障害　分類と診断・治療の項を熟読する<br>【復習】（90分）授業で提示された代表的中枢神経系虚血性疾患を画像診断の見地から復習する |
| 5 | 近藤　聡英 | 脳腫瘍（脳実質腫瘍）<br>中枢神経系に発生する腫瘍性病変において特に実質腫瘍を中心に種類、診断について理解する。<br>中枢神経系実質に対する外科介入の方法と意義につき、悪性疾患に対する治療概念とともに理解する。 | | 【予習】（90分）神経内科ハンドブック　脳腫瘍脊髄腫瘍　脳腫瘍概論の項を熟読する<br>【復習】（90分）授業で提示された神経膠腫および転移性脳腫瘍の画像診断と治療および予後を復習する |
| 6 | 近藤　聡英 | 脳腫瘍（脳実質外腫瘍）<br>中枢神経系に発生する腫瘍性病変において特に頭蓋内脳実質外病変を中心に種類、診断について理解する。<br>前回の実質病変に外科介入の方法の理解を元に、実質外病変治療の意義および機能温存概念を治療法とともに理解する。 | | 【予習】（90分）神経内科ハンドブック　脳腫瘍脊髄腫瘍　髄膜腫および神経鞘腫の項を熟読する<br>【復習】（90分）授業で提示された代表的腫瘍の画像診断と治療および予後を復習する |
| 7 | 近藤　聡英 | 脊髄脊椎病変<br>脊髄に発生する腫瘍性病変について、その種類や症候、診断について理解する。<br>また、脊椎変性疾患についての外科的介入法やその意義について理解する。<br>神経内科・整形外科等、複数診療科が担当しうる疾患であるものの、発生頻度が高くそれぞれ異なった見地からの医療介入がありうることを理解する。 | | 【予習】（90分）神経内科ハンドブック　脳腫瘍脊髄腫瘍　脊髄腫瘍および脊椎疾患の項を熟読する<br>【復習】（90分）授業で提示された代表的脊椎脊髄疾患の画像診断と治療および経過を復習する |
| 8 | 近藤　聡英 | 機能外科<br>パーキンソン病、てんかん、疼痛に関する外科治療について、その方法と意義について理解をする | | 【予習】（90分）神経内科ハンドブック　において、「てんかん」、「片側顔面けいれん」、「三叉神経痛」の項を熟読する。神経内科　パーキンソン病の授業における発生機序を復習する<br>【復習】（90分）授業で提示された代表的疾患の治療および意義を復習する |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 内科学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Internal Medicine | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 代田　浩之 | ナンバリング | PBP2107 |
| 担当教員 | 代田　浩之、家崎 貴文 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 理学療法士は医学的リハビリテーションの専門職であり、リハビリテーションを実践するためには個々の患者の疾患を理解し、身体能力を医学的視点から適切に評価しなければならない。そのためには臨床医学の中心である内科学の基本的知識を身に付ける必要がある。本講義では、リハビリテーションの実施に当って必要な内科領域の基礎的疾患を体系的に理解し、リハビリテーションとの関連を学ぶことを学修目標とする。具体的には内科学総論によって内科学を大局的に捉え、各論では、循環器・呼吸器・消化器・代謝内分泌などの中から代表的疾患を中心に、その疫学、病態生理、症候、診断、治療及び予防などについて幅広く学修し、リハビリテーションを実践する上で必要な基本的知識を修得する。更にはリハビリテーションの実施にあたって必要な診察・手技・画像読影・臨床検査の解釈などについて、より実践的に学修する。内科疾患の予防における理学療法士の役割についても学ぶ。 |
| 到達目標 | 1. 内科系の主な疾病の疫学及び病態生理と診断法・治療法を理解することで、理学療法に必要な基礎知識を身につける。<br>2. 理学療法の提供に必要な内科的診断の知識と技術を習得する。 |
| 授業の位置づけ | 本講義を通して、内科系の主な疾病について学修し、理学療法の提供に必要な内科的診断の知識と技術を習得する。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2 ＣＩ<br>理学DP3 ＣＩ |
| 履修上の注意、履修要件 | 1. 各自必ず予習を行うこと。<br>2. 専門用語に関しては予め調べて理解しておくこと。<br>3. 関連する解剖学や生理学の内容に関して講義の復習をしておくこと。<br>4. 講義の際に、不明な点は積極的に質問すること。<br>5. 復習を心がけ知識を定着させるように習慣づけること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験により評価する。 |
| 評価基準 | 理学療法の提供に必要な内科的系疾患の基本的な知識を理解し説明できるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内でのフィードバックおよびJuntendo Passportを用いる。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学（第3版）　医学書院<br>レクチャーシリーズ　理学療法テキスト　内部障害理学療法学　循環･代謝（改訂第2版）　中山書店 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 事前メールにて随時対応。<br>代田 浩之（daida@juntendo.ac.jp）<br>家崎 貴文（iesaki@juntendo.ac.jp） |
| 担当教員の実務経験 | 医学部、医療看護学部において多くの講義を担当 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>(9/29) | 代田浩之 | 内科学の概要・診断と治療<br>老年学<br><br>内科学全般の診断法･治療法の概要理解する。<br>加齢と老化のプロセスを理解し、支援の仕方を学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 2<br>(10/6) | 代田浩之 | 症候学<br>内科疾患の症候と診断プロセスを理解する。<br>腫瘍内科学<br>腫瘍内科の概要を学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 3<br>(10/13) | 代田浩之 | 循環器疾患Ⅰ<br>心電図･不整脈<br>心電図の基礎知識と不整脈の概要を学ぶ。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 心不全<br>心不全の病態生理と診断及び治療を学習する。 | | 講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 4<br>(10/20) | 代田浩之 | 循環器疾患 II<br>虚血性心疾患･高血圧･大動脈疾患･末梢動脈疾患･静脈疾患の病態･診断･治療の概要を理解する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 5<br>(10/27) | 代田浩之 | 循環器疾患 III<br>先天性心疾患･弁膜症･心筋症の病態と診断及び治療の概要を理解する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 6<br>(11/10) | 塩田智美 | 呼吸器疾患 I<br>呼吸器疾患の病態と診断及び治療の概要を理解する（1）。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 7<br>(11/17) | 塩田智美 | 呼吸器疾患 II<br>呼吸器疾患の病態と診断及び治療の概要を理解する（2）。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 8<br>(11/24) | 上田久美子 | 消化管疾患<br>消化管疾患の病態と診断及び治療の概要を理解する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 9<br>(12/1) | 福原京子 | 肝胆膵疾患<br>肝胆膵疾患の病態と診断及び治療の概要を理解する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 10<br>(12/8) | 安藤美樹 | 血液･造血器疾患<br>血液・造血器疾患の病態と診断及び治療の概要を理解する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 11<br>(12/15) | 加賀英義 | 代謝性疾患<br>代謝性疾患の病態と診断及び治療の概要を理解する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 12<br>(12/22) | 加賀英義 | 内分泌疾患<br>内分泌疾患の病態と診断及び治療の概要を理解する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 13<br>(1/12) | 鈴木祐介 | 腎･泌尿器疾患<br>腎・泌尿器疾患の病態と診断及び治療の概要を理解する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 14<br>(1/19) | 松下雅和 | アレルギー･･膠原病･免疫不全症<br>アレルギー･･膠原病･免疫不全症の病態と診断及び治療の概要を理解する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 15<br>(1/26) | 齊田瑞恵 | 感染症<br>感染症の病態と診断及び治療の概要を理解する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分を読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 精神医学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Psychiatry | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 加藤 忠史 | ナンバリング | PBP2108 |
| 担当教員 | 加藤 忠史 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 精神疾患のリハビリテーションでは言うまでもなく、身体疾患においても精神医学的アプローチ、つまり当事者の心理的背景を正しく理解し全人的アプローチを伴ったリハビリテーションが重要であるといえる。本講義では、基礎知識として精神症状の理解と対応を精神疾患の診断や治療法も含め理解し、それらを医療現場で応用できるまでの知識を取得することを目標とする。そのために精神障害の分類や精神症状の理解と対応を把握した上で、「認知症」「薬物依存」「統合失調症」「気分障害」「神経症性障害」「児童・思春期精神障害」「リエゾン精神医学」「地域精神医療と社会復帰」などについて学修する。 |
| 到達目標 | 各回の授業内容参照 |
| 授業の位置づけ | 疾病と障害成り立ち及び回復過程の促進 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1C1<br>理学DP-3C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 事前に教科書で予習すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業・課題への参加度（30%）、定期試験(70%)により評価する。 |
| 評価基準 | 授業・課題への参加度（30%）、定期試験(70%)により評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内に返却し、振り返りを実施する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 【テキスト】標準理学療法学・作業療法学　精神医学 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | （臼井）火曜・金曜　15:00~16:00<br>（勝田）月曜13：00～14：00<br>（前嶋）金曜　15:00~16:00<br>（河野）月曜　9：00～10：00<br>（宮田）火曜午後・水曜午前中<br>（竹下）月曜13：00～14：00<br>（市川）tomoyai@juntendo.ac.jp<br>順天堂大学医学部付属浦安病院常勤。メールにて適時受け付けます。 |
| 担当教員の実務経験 | 病院での臨床経験のある医師が、講義を担当する。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 竹下 佳秀 | 【内容】<br>器質性精神障害の疾患の概念・症状の特徴を習得し、臨床技術に応用する。<br><br>【達成目標】<br>脳器質性精神障害の経過と原因疾患、経過夜症状の特徴を学び、そのリハビリテーションについて学ぶ | | 【予習】（90分）<br>器質性精神障害の定義について理解しておく。<br>【復習】（90分）<br>授業で触れた疾患について各自自習する。 |
| 2 | 市川　朝也 | 【内容・達成目標】<br>統合失調症がどのような病気かについて学ぶ。<br>統合失調症の急性期・慢性期による精神症状の特徴、社会生活における制限の特徴について理解する。<br>統合失調症の病型や診断基準を理解する。<br>統合失調症の経過と予後を理解する。<br>統合失調症の治療法とリハビリテーションの基本について理解する。 | | 【予習】（90分）統合失調症の精神症状や病型、診断基準を理解しておく。<br>【復習】（90分）統合失調症の経過や予後、社会生活上の制限、治療法、リハビリテーションについて復習する。 |
| 3 | 前嶋 仁 | 【内容・達成目標】<br>気分障害の概念について理解することができる。<br>気分障害の分類について理解することができる。<br>気分障害の症状、治療、リハビリテーションについて理解することができる。 | | 【予習】（90分）気分障害の定義について理解しておく。<br>【復習】（90分）気分障害による症状と治療、およびその回復について復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 宮田 真美子 | 【内容・達成目標】<br>精神遅滞（知的障害）心理的発達の障害（広汎性発達障害、特異的発達障害を含む）小児期および青年期に通常発症する行動および情動の障害（注意欠如・多動性障害等）の特性を理解し、対応のポイントを習得する。 | | 【予習】（90分）精神遅滞と心理発達障害の概念を理解しておく。<br>【復習】（90分）各疾患の特性について理解を深める |
| 5 | 勝田 成昌 | 【神経症性障害】神経症性障害の概念を学び、代表的な疾患それぞれの臨床的特徴を習得する。学修を通して、医療専門職者になるために必要な医学的知識を学ぶための準備を整える。<br><br>【達成目標】<br>神経症性障害の概念を学び、診断について理解をする。神経症性障害の種類とそれぞれの臨床的特徴を習得する。不安障害、パニック障害、適応障害等の代表的な疾患について理解を深める。 | | 【予習】（90分）教科書の該当ページを読んでおく。<br>【復習】（90分）授業で説明のあったそれぞれの疾患の臨床的特徴を復習する。 |
| 6 | 臼井 千恵 | 【内容・達成目標】<br>依存症候群の定義を理解する。<br>アルコール・依存性薬物による精神的・社会的障害を理解する。<br>アルコール・薬物依存症者の回復について理解する。 | | 【予習】（90分）依存症候群の定義について理解しておく。<br>【復習】（90分）アルコール・依存性薬物による精神的・社会的障害、その回復について復習する。 |
| 7 | 山﨑 貴弘 | 【内容・達成目標】<br>摂食障害、睡眠障害の概要について理解する。またそれらの原因に基づき薬物、心性両面からの加療について理解する。 | | 【予習】（90分）摂食障害、不眠の定義について理解しておく。<br>【復習】（90分）それらの要因に基づき薬物と心性両面から加療について考察する。 |
| 8 | 河野 るみ子 | 【内容・達成目標】<br>精神疾患の中でも「成人のパーソナリティおよび行動の障害」は、精神病レベルと異なる位置づけにあることを学ぶ。そしてパーソナリティを形成する要因は何か、また、その要因の内容によってどんなパーソナリティになるのかを把握し、それをふまえて導き出せる治療法を推察し、推奨されるリハビリテーションのアプローチを検討する。<br>また、これらのパーソナリティ障害を背景にした行動の障害(嗜癖～犯罪)の種類を理解し、その知識を習得した上でリハビリテーション上のアプローチに生かす。 | | 【予習】（90分）パーソナリティおよび行動の障害の概念と成り立ちを理解しておく<br>【復習】（90分）パーソナリティおよび行動の障害の具体的症状とリハビリテーション上のアプローチを習得する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 神経内科学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Neurology | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 羽鳥　浩三 | ナンバリング | PBP2109 |
| 担当教員 | 羽鳥　浩三、藤原　俊之、眞壁 寿、松田 雅弘、藤野 雄次、春山　幸志郎、山口　智史、和田　太 | | |

授業概要

| | |
|---|---|
| 全体内容 | 人間の動きを理解するうえで、解剖や生理学的な知識が重要であることは勿論であるが、神経疾患においては加えて病因（血管障害、変性疾患、自己免疫疾患、感染症など）、臨床症候、検査（特に画像検査、電気生理学的検査など）、治療法、経過、予後について理解する必要がある。運動障害は脳・脊髄・末梢神経・筋肉のいずれに障害が生じても惹起されるが、その障害部位により意識障害、運動麻痺、筋力低下、痙性、不随意運動、失調等の特徴的で複雑な症候を生じる。更に神経疾患は治療により急速な症状変動が起こることがあり、治療法や治療経過についての理解も重要である。理学療法においては、これらの症候を知り、疾患自体や時間経過による症状変化を理解したうえで、適切な目標を設定してプログラムを立案しなくてはならない。そのために理学療法士が理解すべき神経疾患の各項目につき学修する。脳血管障害の予防における理学療法士の役割についても学ぶ。 |
| 到達目標 | ・神経局在診断から原因診断のプロセスを理解・修得し、人の運動に関わる大脳皮質や基底核などの機能を系統的に学び、運動障害に対する理学療法の目標を的確に捉えることができる。<br>・治療可能な神経疾患の治療法を把握し、これらの治療にリハビリテーションがどのように関わるのかを理解することによってリハビリテーションの果たすべき役割を説明できる。<br>・後遺症を残す疾患、薬剤・外科治療の効果がない疾患、慢性的に進行していく疾患にリハビリテーションが果たす役割を考えながら疾患を説明できる。<br>・視診による観察は大切であり画像や動画を用いて行う授業により、患者の病状について説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 専門基礎分野/疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 病の多い神経疾患の特徴を理解し、目の前にある運動障害について、なぜそうなるのかという疑問を常に意識するように心掛け、疑問を解決する学習姿勢をもって講義に臨むこと。医学一般、特に神経内科学は解剖学用語を覚える必要はあるが、暗記の学問ではなく、理解することが重要である。一貫した授業内容の積み重ねの上に成り立つため、欠席せずに授業内容を修得すること。やむを得ず欠席した場合はすぐにプリント、課題などで自己学修をすることが必要である。復習は授業ごとの課題や小テストでしっかりと知識を定着させることが肝要である。脳神経内科は理論的な学問であるため、試験前のまとめての暗記では理解することは不可能であるが、一度理解できればこれほどダイナミックで面白い学問はないことを実感して欲しい。 |

成績評価の方法

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 講義中の課題（30%）、定期試験（70%）により評価する。 |
| 評価基準 | 臨床に携わるものとして、特に脳神経内科は難治疾患が多く、患者に寄り添える技量が必要となる。そのため、授業態度、積極性や人柄も考慮する。 |

試験・課題等に対するフィードバック方法

原則授業中に行う

テキスト

参考文献

・病気がみえるvol7　脳・神経
・ベッドサイドの神経の診かた
・神経内科ハンドブック

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜11：00～12：00、金曜14：00～16：00（第四除く） |
| 担当教員の実務経験 | 病院での臨床経験を活かし、講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 羽鳥　浩三 | 【神経内科総論（1）】<br>神経疾患の発症形態、好発年齢、進行様式、予後など様々な神経疾患の臨床的特徴を理解する。神経内科疾患にはどのような疾患があるのかを知り、その臨床的特徴を理解することが、以降の授業にも反映されるためよく理解する必要がある。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1．神経内科疾患の概要、特徴についてまとめておくこと<br>2．神経内科疾患にはどのような疾患があるか調べておくこと<br>3．「ベッドサイドの神経の診かた」の該当する項を読んでおくこと |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 2 | 羽鳥　浩三 | 【神経内科総論（2）】<br>運動障害に関わる大脳皮質、基底核、脳幹、小脳の機能を学ぶ。運動障害に直面した際の神経学的なアプローチの仕方を学ぶ。特に上位運動ニューロンの障害と下位運動ニューロンの障害について理解することは、運動障害の局在診断を行うためのInitial stepとして極めて重要で、必ず修得することが求められる。機能解剖について画像を用いて解説する。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． 運動に関与する錐体路、錐体外路の機能解剖について調べておくこと<br>2． そのうえで小脳、脳幹が運動の遂行にどのような働きがあるのか可能な範囲で調べておくこと<br>3． 感覚の種類と運動とのかかわりを調べておくこと<br>4． 「ベッドサイドの神経の診かた」の該当する項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 3 | 羽鳥　浩三 | 【神経内科総論（3）】<br>神経内科疾患の多くは運動障害を伴う。運動障害は脳・脊髄・末梢神経・筋肉のいずれに障害が生じても惹起されるが、その障害部位により運動麻痺、筋力低下、痙性、不随意運動、失調等の特徴的で複雑な神経症候を生じる。理学療法においては、これらの症候について解剖学的・生理学的観点から神経局在診断を行い、疾患の原因や時間経過による症状変化を理解する。神経解剖及び神経生理について運動障害の観点からSchemeを用いて視覚的に画像供覧する。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． 運動障害のうち痙縮と固縮についてまとめておくこと<br>2． 不随意運動の種類を調べておくこと<br>3． 「ベッドサイドの神経の診かた」の該当する項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 4 | 羽鳥　浩三 | 【神経学的検査法（3）各種評価スケール】<br>神経疾患の診断に必要な評価方法について学ぶ。これらの神経学的評価法は実際の現場で頻繁に用いられている。リハビリテーションにおいても障害を適切に把握し客観的に評価するためには、各疾患に有用かつ信頼性と妥当性のある評価法を適切に選択し評価する能力を養う。神経内科疾患に密接にかかわる評価法の具体例の提示と実践について演習を行う。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． 機能検査、意識障害の評価（Glasgow Coma ScaleとJapan Coma Scale）、脳卒中の評価（NIHSS）、パーキンソン病（Unified Parkinson's Disease Rating Scale ?UPDRS)など神経内科疾患に密接にかかわる評価法にはどのようなものがあるかまとめておくこと<br>2． 信頼性と妥当性について調べておくこと<br>3． 「ベッドサイドの神経の診かた」の神経診察の該当する項及び神経内科ハンドブック第5版：鑑別診断と治療」の症候から鑑別診断及び診断と治療の該当する疾患の項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 5 | 羽鳥　浩三 | 【神経症候学と神経診察法】<br>神学的診察の目的は、神経系に異常があるかどうかの判断と、もし異常がある場合には、どこに異常があるかをできるだけ正確に推定することである。病変の分布（局在）を正確にとらえることは、より的確な病因診断に結び付くので、常に完全な神経学的診察を理学療法士として把握する努力が必要である。そのうえで心にとめるべき点を学ぶ。<br>以下、注意点<br>・神経学的診察に先立つ一般理学所見を見落とさない。<br>・頭のてっぺんから足のつま先まですべての所見をとる習慣をつける。<br>・精神状態から高次脳機能、脳神経、運動、感覚と系統的に行う習慣を身につける。<br>最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． 神経診察に用いる診察用具について調べておくこと<br>2． 意識の状態、高次脳機能、脳神経機能、運動、反射、不随意運動の有無、感覚、自律神経など、神経診察法の流れについてまとめておくこと。<br>3． 「ベッドサイドの神経の診かた」の神経診察の該当する項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 6 | 羽鳥　浩三 | 【神経学的検査法（1）画像検査】<br>本授業では神経疾患の画像検査の概要と実際の画像の基本的な解釈について学ぶ。神経疾患の局在から病因を理解するうえでCT及びMRI検査についての理解は大切である。神経疾患についての学修すべき画像所見も多い。各疾病について原因、発生機序、検査法、治療法等を理解し、疾病の画像所見と画像の経時的変化を学修することも大切である。神経症候から局在診断を行い、実際の画像所見と矛盾がないか、演習する。また血管造影検査、脳血流シンチ（SPECT）、PET-CT検査についてもその概要を解説する。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． MRI、CT画像の違いについて調べておくこと。<br>2． MRI、CT、血管造影、脳血流シンチ（SPECT）、PET-CTを行う目的をまとめておくこと<br>3． 神経内科ハンドブック 第5版: 鑑別診断と治療」の神経学的検査法の該当する項を読んでおくこと<br>【復習】90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 7 | 羽鳥　浩三 | 【神経学的検査法（2）電気生理学的検査法】<br>筋電図検査の概説と適応、脳波検査の概要と適応について学ぶ。実際のデータをテキストから引用し脳波、筋電図の適応と実践方法の概要について学ぶ。意識障害、睡眠、てんかんなど脳波検査が病態評価、診断及び治療に有用な疾患についての実際の脳波所見を提示する。末梢神経障害や筋疾患についても同様に具体的なデータを提示する。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． 脳波検査が病態評価、診断及び治療に有用である疾患についてまとめておく<br>2． 神経内科ハンドブック 第5版: 鑑別診断と治療」の神経学的検査法の該当する項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 8 | 羽鳥　浩三 | 【神経内科各論-（1）脳血管障害】<br>脳血管障害は無症候性、局所性脳機能障害（一過性脳虚血発作、脳卒中）、脳血管性痴呆、高血圧性脳症に分類される。脳卒中はさらに脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形に伴う頭蓋内出血、脳梗塞に分類される。これら脳血管障害の臨床について診断から治療に至る系統的な知識を修得し、現時点で理学療法の最も主要な対象であることの役割についても学ぶ。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． National Institute of Neurological Disorder and Stroke Committee脳血管疾患分類第3版（NINDS-Ⅲ）による分類を調べておくこと<br>2． 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の臨床的特徴と対応する画像所見についてまとめておくこと。<br>3． 神経内科ハンドブック第5版：鑑別診断と治療」の診断と治療、脳脊髄血管障害の項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 9 | 羽鳥　浩三 | 【神経内科各論-（2）神経変性疾患：概要と代表的疾患】<br>変性疾患とは特別の誘因がなく、ある特定の神経細胞群がゆっくり変性していく疾患の総称である。遺伝性を示す疾患群が多いが、原因が不明であった。近年分子遺伝学の進歩によって病態が徐々に明らかにされつつあるが、治療については依然として困難な場合が多い。リハビリテーションの領域で最も治療困難な変性疾患の概要について画像及び動画を用いて解説する。運動障害をきたす代表的なパーキンソン病と関連疾患についてリハビリテーションの実際について考え学ぶ。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． 神経変性疾患にはどのようなものが　あるかまとめておくこと<br>2． 変性疾患に対するリハビリテーションの目的を調べておくこと<br>3． 神経内科ハンドブック 第5版: 鑑別診断と治療」の診断と治療、変性疾患の項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 10 | 羽鳥　浩三 | 【神経内科各論-（3）神経筋疾患】<br>炎症性筋疾患、神経筋接合部の異常に基づく疾患、進行性筋ジストロフィーなど他の筋疾患の臨床、病因、診断について学ぶ。治療法のない筋疾患も多く理学療法が果たす役割は疾患の管理にとどまらず、社会福祉を含めた幅広い領域において求められる。そのうえでトータルケアについても学ぶ。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． 多発筋炎・皮膚筋炎など炎症性筋疾患の臨床的特徴をまとめておくこと<br>2． 重症筋無力症、Lambert-Eaton症候群、ボツリヌス中毒の臨床的特徴をまとめておくこと<br>3． 治療可能な筋疾患と治療困難な筋疾患について調べておくこと<br>4． 神経内科ハンドブック 第5版: 鑑別診断と治療」の診断と治療、筋疾患の該当する項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 11 | 羽鳥　浩三 | 【神経内科各論-（4）末梢神経疾患】<br>末梢性神経疾患の分類は障害される神経のパターンにより単ニューロパチー、多発性単ニューロパチー、多発ニューロパチーに分類される。これらの末梢神経疾患の臨床症状による分類と原因（軸索障害と髄鞘障害）による分類を学び、末梢神経疾患の病態に基づく運動障害について考える力を養う。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． 末梢神経疾患とはどのような疾患があるかを調べておくこと<br>2． 単ニューロパチー、多発性単ニューロパチー、多発ニューロパチーの違いをまとめておくこと<br>3． 神経内科ハンドブック 第5版: 鑑別診断と治療」の診断と治療、末梢神経障害の該当する項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 12 | 羽鳥　浩三 | 【神経内科各論-（5）免疫性神経疾患】<br>中枢神経白質の髄鞘及びオリゴデンドロサイトの障害による脱髄性疾患の最も代表的な多発性硬化症について学ぶ。併せ | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． 脱髄疾患の特徴について脳卒中との相異をまとめておくこと |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | て急性散在性脳脊髄炎など類縁疾患について知識を修得する。加えて免疫性神経疾患の管理上の注意点について学ぶ。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | | 2． 多発性硬化症について調べておくこと<br>3． 神経内科ハンドブック 第5版: 鑑別診断と治療」の診断と治療、脱髄性疾患の該当する項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 13 | 羽鳥　浩三 | 【神経内科各論-（6）神経感染症】<br>脳炎、髄膜炎、脊髄炎などの感染性神経疾患について学ぶ。併せて感染性疾患についての対応や注意すべき留意事項について学ぶ。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>1． 神経感染症にはどのような疾患があるかを調べておくこと<br>2． 理学療法士として感染症についてどのような注意点に配慮が必要か調べておくこと<br>3． 神経内科ハンドブック 第5版: 鑑別診断と治療」の診断と治療、炎症性疾患の感染症に該当する項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 14 | 羽鳥　浩三 | 【神経内科各論-（7）他科との関連のある神経内科疾患：脳神経外科疾患と内科疾患、整形外科疾患】<br>脳神内科頭部外傷、脊髄損傷、水頭症、脳腫瘍や小児の二分脊椎などの脳神経外科疾患について学ぶ。内科疾患においては自己免疫性疾患や炎症性疾患などによって二次的に運動障害を合併することが多く、運動障害を来しうる内科疾患をしっかり把握する必要がある。脊柱管狭窄症などの骨・関節疾患はしばしば神経症状を伴うことから整形外科疾患についても画像を中心に学び、運動障害が他科の疾患と密接にかかわることを学ぶ。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>神経内科ハンドブック第5版：鑑別診断と治療」の診断と治療、内科疾患に伴う神経系障害、脊椎疾患、脳腫瘍、脊髄腫瘍、頭部外傷、脊髄外相の項を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>及びテストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 15 | 羽鳥　浩三 | 【神経内科各論-（8）神経疾患治療】<br>神経内科疾患には治療法のない難病も多い。神経疾患の治療薬は、長期的に内服を要するものが多く、その中でも副腎皮質ステロイド薬や免疫調節薬など管理・対応に注意を要する薬剤もある。理学療法士が知っておくべき知識を修得する。最後に小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>神経疾患に用いられる薬剤について特に副腎皮質ステロイド薬とパーキンソン病治療薬について調べておくこと<br>【復習】（90分）<br>1． リハビリテーションを行う際に必ず押させていかなければならない薬剤をリストアップし、種類別に使用目的と副作用についてまとめること<br>2． 小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 小児科学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Pediatrics | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 清水　俊明 | ナンバリング | PBP2110 |
| 担当教員 | 清水　俊明 | | |

授業概要

| | |
|---|---|
| 全体内容 | 小児の最大の特徴は成長・発達していくことであり、それぞれの月齢、年齢における発達のマイルストーンや身長･体重・頭囲の変化を理解することが大切である。また周産期における胎児・新生児に影響を及ぼす様々な要因を理解し、周産期の問題が胎児・新生児に与える影響のみならず、その後の児の成長・発達に及ぼす影響を学修することも重要である。更に種々の疾病によって生じる小児の生理機能に及ぼす影響やその結果生じてくる症状を学修し、小児に認められる代表的な症候とその原因疾患についても理解する必要がある。本講義では、これらの小児における疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進に必要な知識を講義していく。 |
| 到達目標 | ・新生児、幼児、学童、思春期と、各世代の小児の生理、特徴について説明できる。<br>・各世代による発育・発達について説明できる。<br>・基本的な小児科学知識について、理解し説明できる。<br>・各疾患（脳性麻痺、水頭症、二分脊椎、悪性腫瘍、遺伝子病、染色体異常、先天奇形などの系統疾患）の特性を説明でき、なぜリハビリテーションが必要であるか、その役割を理解、説明できる。<br>・画像検査における一定の評価能力を身に付ける。 |
| 授業の位置づけ | 専門基礎分野　疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 理学DP-1C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 事前に、シラバスに沿って参考文献等で小児の生理、特徴や、テーマとなる疾患の特性、画像所見などを予習してから講義に臨む習慣をつける。疑問点は積極的に質問して解決を図り、疑問のままの形で残さない様にする。常にリハビリテーションとの関係性を念頭に置いて学習する。 |

成績評価の方法

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 1.成績評価方法<br>授業・課題への参加度 （30%）、定期試験（70%）により評価する。なお授業態度・取り組み姿勢が悪いと判断した場合は減点の対象とする。 |
| 評価基準 | 2.成績評価基準<br>・小児の基本的な生理、特徴、発達を理解、説明できるか。<br>・理学療法を要する小児疾患、画像検査所見を説明でき、リハビリテーションの関わりを説明できるか。 |

試験・課題等に対するフィードバック方法

授業内やJuntendo Passportを使用して返却。

テキスト

参考文献

【テキスト】
・標準小児科学第8版
内山　聖（監修）　医学書院
【参考書】
・プリントを授業の時に配布する。

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜 15：00～17：00<br>その他<mkishiro@juntendo.ac.jp><br>医学部小児科医局（医局棟5階503号室：内線3325）<br>事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 病院での臨床経験、医学部学生、体育学部健康学科学生および看護学生講義の経験を活かし、実際の症例に関する内容、学生が知りたいと思う内容を交えての講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 稀代　雅彦 | 【小児科学総論（1）】<br>正常小児の生理・特徴を知り学ぶ。さらに先天性疾患に関する基本的な医学知識を理解する。 | | 【予習】（90分）<br>「標準小児科学第8版」の「小児の成長」の項を一読しておき、基本的な内容・専門用語等を理解しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>再度「標準小児科学第8版」および配布プリントに目を通し、講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む。 |
| 2 | 東海林　宏道 | 【小児科学総論（2）】<br>正常新生児の生理・特徴を知り学ぶ。さらに新生児疾患に関する基本的な医学知識を理解する。 | | 【予習】（90分）<br>「標準小児科学第8版」の「小児の成長」および「新生児疾患」の項を一読しておき、基本的な内 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 容・専門用語等を理解しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>再度「標準小児科学第8版」および配布プリントに目を通し、講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む。 |
| 3 | 岩崎　友弘 | 【小児科学総論（3）】<br>小児の発育・発達を知り学ぶ。さらに発達の異常に関する基本的な医学知識を理解する。 | | 【予習】（90分）<br>「標準小児科学第8版」の「小児の発達」および「発達障害」の項を一読しておき、基本的な内容・専門用語等を理解しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>再度「標準小児科学第8版」および配布プリントに目を通し、講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む。 |
| 4 | 高橋　健 | 【小児科学各論（1）】<br>染色体異常、系統疾患（先天奇形、Down症候群を含む）を知り学ぶ。これらの疾患、異常に関する基本的な医学知識を理解する。 | | 【予習】（90分）<br>「標準小児科学第8版」の「遺伝性疾患、染色体異常、奇形」の項を一読しておき、基本的な内容・専門用語等を理解しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>再度「標準小児科学第8版」および配布プリントに目を通し、講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む。 |
| 5 | 北村　裕梨 | 【小児科学各論（2）】<br>遺伝子に関する基本的事項、遺伝子病を知り学ぶ。これらの疾患、異常に関する基本的な医学知識を理解する。 | | 【予習】（90分）<br>「標準小児科学第8版」の「遺伝性疾患、染色体異常、奇形」の項を一読しておき、基本的な内容・専門用語等を理解しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>再度「標準小児科学第8版」および配布プリントに目を通し、講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む。 |
| 6 | 安部　信平 | 【小児科学各論（3）】<br>脳性麻痺に関する基本的事項、病態、症状、基礎疾患を知り、基本的な医学知識を理解する。 | | 【予習】（90分）<br>「標準小児科学第8版」の「神経疾患」の項を一読しておき、基本的な内容・専門用語等を理解しておくこと。　【復習】（90分）<br>再度「標準小児科学第8版」および配布プリントに目を通し、講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む。 |
| 7 | 池野　充 | 【小児科学各論（4）】<br>水頭症（Arnold-Chiari奇形等）、二分脊椎に関する基本的事項、病態、症状、基礎疾患を知り、基本的な医学知識を理解する。 | | 【予習】（90分）<br>「標準小児科学第8版」の「神経疾患」の項を一読しておき、基本的な内容・専門用語等を理解しておくこと。　【復習】（90分）<br>再度「標準小児科学第8版」および配布プリントに目を通し、講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む。 |
| 8 | 藤村　純也 | 【小児科学各論（5）】<br>悪性腫瘍（白血病、腫瘍性疾患）に関する基本的事項、病態、症状、治療を知り、基本的な医学知識を理解する。 | | 【予習】（90分）<br>「標準小児科学第8版」の「血液・造血器疾患」および「腫瘍性疾患」の項を一読しておき、基本的な内容・専門用語等を理解しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>再度「標準小児科学第8版」および配布プリントに目を通し、講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 感染症・免疫学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Infectious Disease and Immunology | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 内藤　俊夫 | ナンバリング | PBP2111 |
| 担当教員 | 内藤　俊夫 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 理学療法士は感染症を持つ患者との接触の機会が多い。感染症の基本を理解し、適切な感染予防と拡大防止について理解をする必要がある。頻度の高い感染症の病態生理、診断、治療の基本を学ぶ。また職業感染予防および感染対策の基本について学ぶ。加えて理学療法士が感染症疾患の回復・予防に貢献できる要素を考察する。 |
| 到達目標 | ・頻度の高い感染症の病態生理、診断、治療について理解している<br>・職業感染予防について理解している<br>・感染対策の基本について理解している" |
| 授業の位置づけ | 専門基礎分野　疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 1. 各自必ず予習を行うこと。<br>2. 専門用語に関しては予め調べて理解しておくこと。<br>3. 復習を心がけ知識を定着させるように習慣づけること。" |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業の参加度30％・定期試験70％ |
| 評価基準 | 授業の参加度30％・定期試験70％ |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 病院での臨床経験、医学部学生、体育学部健康学科学生および看護学生講義の経験を活かし、実際の症例に関する内容、学生が知りたいと思う内容を交えての講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 堀　賢 | ・感染対策の基本（手指衛生、標準予防策、感染経路別予防策）について学習する<br>・職業感染症と予防について" | | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分と配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 2 | 内藤　俊夫 | 感染症総論<br>感染症の診断、治療、抗菌薬、HIV感染症、免疫不全、ワクチン | | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分と配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 3 | 鈴木　麻衣 | 細菌感染症1　グラム陽性球菌（肺炎球菌、ブドウ球菌、連鎖球菌）<br>細菌性肺炎、腎盂腎炎、咽頭炎、蜂嵩織炎 | | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分と配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 4 | 森　博威 | 細菌感染症2　グラム陰性桿菌（大腸菌、クレブシェラ、緑膿菌、サルモネラ、キャンピロバクター）<br>膀脱炎、腎孟腎炎、胆管炎、細菌性腸炎 | | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分と配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 5 | 森　博威 | 重症感染症、敗血症、ショック<br>髄膜炎、感染性心内膜炎、骨髄炎、動物咬症、破傷風 | | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分と配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 6 | 森　博威 | ウイルス感染症<br>麻疹、伝染性単核球症、単純ヘルペスウイルス、帯状疱疹ウイルス、ノロウイルス、ロタウイルス、肝炎ウ イルス | | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分と配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 7 | 森　博威 | 結核、非結核性抗酸菌症、真菌感染症、食中毒、感染症法、学校保健法 | | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分と配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 8 | 森　博威 | 新型コロナウイルス感染症、輸入感染症、寄生虫感染症、まとめ | | 【予習】（90分）<br>指定参考書の該当部分と配布プリントを読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 薬理学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Pharmacology | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 櫻井　隆 | ナンバリング | PBP2112 |
| 担当教員 | 櫻井　隆 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 薬物は、生体の機能分子に作用して様々な機序によって効果を発現し、疾病によって乱れた身体の機能を正常な状態に近づけるように働くが、万能ではなく、身体に有害な作用をもたらすこともある。これら薬の作用、有害作用の発現には個人差があり、複数の薬物を用いると薬効が変化する薬物相互作用も見られる。疾病の治療、予防や検査において使用される薬物を理解するため、主要な薬物について作用機序、有害作用や使用に当たっての注意点などを学修する。また薬効・有害作用の個人差、薬物相互作用の理解等に重要な薬物の体内動態について学ぶ。薬の不適切な使用は人体に害をもたらすだけでなく、社会的な問題ともなりうることから、多くの法律により規制されている。これらの法令、適切な管理についても学ぶ。 |
| 到達目標 | ・薬物の投与方法と体内動態について説明できる。<br>・主要な薬物の作用機序、重要な副作用について説明できる。<br>・薬効・副作用の個人差、薬物相互作用、安全に使用するための注意点について説明できる。<br>・薬物に関する主要な法令や管理、薬害について説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 専門基礎分野/疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-C1、理学DP3-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・解剖学、生理学、生化学、内科学等で学んだ知識を活用（再学習）し、薬の体内動態、主な作用・副作用が生じるメカニズムを理解していく。<br>・事前にシラバス記載の課題を行い、授業内容に基づいてこれまで学んだことの復習をしておくこと。<br>・小テスト（ポストテスト）により理解度を確認し、配布資料について重要事項を復習しておくこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 【成績評価方法】<br>定期試験により評価する。 |
| 評価基準 | 【成績評価基準】<br>・薬物の投与方法、体内動態を踏まえて安全に使用するための注意点について説明できるか<br>・主な薬物の作用機序、重要な副作用について説明できるか<br>・薬物に関する主な法令や管理、薬害について説明できるか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| ・小テストの解答後、正解、解説を配布する。<br>・定期試験の参考問題を配布し、最終回の授業において重要問題についての解説を行う。<br>・課題等に対するフィードバックは授業内で行う。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 【テキスト】：特になし<br>プリントを授業の時に配布する。<br>【参考書】：『系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進③　薬理学』　医学書院 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | メール（櫻井： tsakurai@juntendo.ac.jp） での事前連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 櫻井　隆 | 【総論1：薬の作用・副作用、薬害】<br>薬は病気の予防、検査、治療に用いられる化学物質である。薬と生体の間に起こる相互作用をあつかう学問である薬理学の基礎として、薬物の作用、有害作用（副作用）や薬害の歴史について学ぶ。 | 講義 | 【予習】（90分） 薬に関連してこれまで学習した内容を再確認すること。<br>厚生労働省ホームページ「薬害を学ぼう」<br>http://www.mhlw.go.jp/bunya/iyakuhin/yakugai/index.html<br>『薬害を学ぼう』視聴覚教材<br>[3]被害者の声 2.サリドマイド<br>[4]代表的な薬害の概要 ・サリドマイド |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | について視聴しておくこと。<br>【復習】（90分） 講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 2 | 櫻井　隆 | 【総論2：薬の投与方法、体内動態】<br>体内に投与された薬物は、吸収、分布、代謝、排泄という経過をたどる。いろいろな要因により変化する薬の効果を理解する上で重要な薬物の体内動態の基礎を学ぶ。 | 講義 | 【予習】（90分） 肝臓、腎臓など薬の代謝、排泄に関わる臓器について、これまで学習した内容を再確認すること。<br>【復習】（90分） 講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 3 | 大久保　洋平 | 【中枢神経系に作用する薬物】<br>運動機能に影響を及ぼす中枢神経系の疾患とその治療薬について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分） 中枢神経系についてこれまで学習した内容を再確認すること。<br>【復習】（90分） 講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 4 | 大久保　洋平 | 【末梢神経系に作用する薬物】<br>運動・感覚神経系に関連する疾患とその治療薬について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分） 末梢神経系のうち運動・感覚神経系についてこれまで学習した内容を再確認すること。<br>【復習】（90分） 講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 5 | 大久保　洋平 | 【自律神経系の機能と薬物】<br>自律神経系の機能の概要と関連する代表的な薬物について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分） 末梢神経系のうち自律神経系についてこれまで学習した内容を再確認すること。<br>【復習】（90分） 講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 6 | 村山　尚 | 【循環器系・呼吸器系・消化器系に作用する薬物】<br>循環器系、呼吸器系、消化器系の疾患とその治療薬について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分） 循環器系、呼吸器系、消化器系についてこれまで学習した内容を再確認しておくこと。<br>【復習】（90分） 講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 7 | 村山　尚 | 【代謝・内分泌・炎症・アレルギー疾患に作用する薬物】<br>代謝・内分泌・炎症・アレルギー疾患とその治療薬について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分） 代謝、内分泌、炎症、アレルギーについて再確認しておくこと。<br>【復習】（90分） 講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |
| 8 | 櫻井　隆 | 【総論3：薬に関する法令・管理、薬効の個人差、ポリファーマシー】<br>薬の作用は、遺伝的背景、年齢、性別、基礎疾患、薬物相互作用などにより大きく変化する。薬効や有害作用に影響を与える因子についての基礎を学ぶ。薬は多くの法律により規制されている。薬に関する法令、適切な管理、新薬の開発、添付文書についても学ぶ。 | 講義 | 【予習】（90分）1, 2回目の授業で学習した薬理学総論の内容を再確認すること。<br>【復習】（90分）講義での学習内容を復習しよく理解するように努めること。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 栄養代謝学 | 授業形態 | |
| 英語科目名 | Nutrition | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 田村　好史 | ナンバリング | PBP2113 |
| 担当教員 | 田村　好史 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 各種栄養素の摂取は、健康の維持に極めて重要である。栄養には三大栄養素の他にミネラル、ビタミン、微量元素などがあり、いずれも正常な代謝状態の維持に重要な役割を担う。ヒトにおけるエネルギー産生には主に糖質と脂質の酸化が中心となるが、それらの過多は高血圧、糖代謝障害、脂質代謝異常などの生活習慣病を惹起する。その一方で、ビタミンや微量元素のミネラルの不足があると各種の欠乏症を生じ、生命の恒常性の維持が困難になる。本講義では、栄養素が代謝に与える影響について科学的根拠に基づき総合的に学ぶ。生活習慣病の予防における理学療法士の役割についても学ぶ。 |
| 到達目標 | ・身体に必須の栄養素について説明することが出来る。<br>・生活習慣病の発症における栄養と代謝の意義について、運動との関連を含めて説明することが出来る。<br>・骨格筋の肥大や萎縮における栄養素や運動の役割について説明することが出来る。 |
| 授業の位置づけ | 専門基礎分野/疾病と傷害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 理学DP3-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 各授業はそれぞれ独立した部分と、授業間で連関して思考する部分があるため、欠席せずに授業内容を修得すること。やむを得ず欠席した場合はすぐにプリント、課題などで自己学修をすることが必要である。復習は授業ごとの課題や小テストでしっかりと知識を定着させることが肝要である。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 講義中の課題など（30%）、定期試験（70%）を目安として統合し評価する。 |
| 評価基準 | ・身体に必須の栄養素、生活習慣病の発症における栄養と代謝の意義、運動との関連、骨格筋の肥大や萎縮における栄養素や運動の役割について説明することが出来る。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要時に授業内やJuntendo Passportなどを使用して返却。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 【参考書】<br>・エクササイズ科学　健康体力つくりと疾病・介護予防のための基礎と実践　編集：田中喜代次（筑波大学教授）田畑　泉（立命館大学教授）文光堂<br>・糖尿病診療ガイドライン　2019　（http://www.jds.or.jp/modules/publication/index.php?content_id=4）<br>・糖尿病　理学療法診療ガイドライン（https://www.jstage.jst.go.jp/article/rigaku/43/3/43_273/_pdf）<br>【参考情報サイト】<br>・糖尿病ネットワーク　　https://dm-net.co.jp/ | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ys-tamur@juntendo.ac.jp 第2教育棟　6F613号室　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 糖尿病やメタボリックシンドロームに対する診療 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 田村　好史 | 【栄養代謝学　概論】<br>生活習慣には、栄養、運動を始めとした様々な要素がある。本講義では、身体に必要な栄養素とともに、現代ではなぜ世界中で生活習慣病がなぜ増えているのか、その背景について概説し、栄養代謝学や運動の重要性を教授する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>メタボリックシンドロームや糖尿病について、その基礎知識について参考図書・サイトなどにより調べておく。<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 2 | 田村　好史 | 【肥満と栄養代謝】<br>全世界的に生活習慣病が増加している理由の一つとして、食生活の乱れや運動不足が肥満を助長していることが挙げられ、欧米諸国では深刻な問題となっている。本講義では、な | 講義 | 【予習】（90分）<br>肥満がどのように生じ、なぜ生活習慣病に結びつくのか、参考図書・サイトなどにより調べておく。<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | ぜ肥満になると生活習慣病になりやすくなるのか、についてエビデンス、メカニズムを交えて概説する。 | | 小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 3 | 田村　好史 | 【アジア人非肥満者における栄養代謝】<br>アジアでは、肥満者がそれほど多く無いのにもかかわらず、生活習慣病患者が多い。食生活の乱れや運動不足が肥満になる前の段階から直接生活習慣病を増加させていると推測される。本講義では、なぜアジア人では非肥満者であっても生活習慣病になりやすいのか、についてエビデンス、メカニズムを交えて概説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>アジア人では非肥満者であっても生活習慣病になりやすいのか、について参考図書・サイトなどにより調べておく。<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 4 | 筧　佐織 | 【骨格筋の肥大・萎縮と栄養代謝１】<br>我が国では超超高齢社会によりフレイル・サルコペニア・担癌患者におけるカヘキシーを起点とした要介護者が大幅に増えることが予想されている。その上で骨格筋量の増加や萎縮予防は極めて重要な役割を担っている。本講義では、フレイル・サルコペニア・カヘキシーに対する栄養代謝や運動の役割について主に基礎的なメカニズムを交えて概説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>骨格筋の肥大と萎縮のメカニズムについて参考図書・サイトなどにより調べておく。<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 5 | 筧　佐織 | 【骨格筋の肥大・萎縮と栄養代謝２】<br>前回の授業に引き続き、基礎的なメカニズムを踏まえた上で、本講義では、フレイル・サルコペニア・カヘキシーに対する栄養や運動の役割について主に臨床的なエビデンスを中心に概説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>骨格筋の肥大と萎縮に対する栄養や運動の役割について参考図書・サイトなどにより調べておく。<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 6 | 加賀　英義 | 【糖尿病に対する栄養代謝学のエビデンス】<br>糖尿病の予防や治療において食事・運動療法は重要な役割を担っている。本講義では代謝疾患の予防や治療のための栄養学的に正しい栄養組成や量について学ぶとともに、運動に関するエビデンスについて概説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>糖尿病をはじめとする代謝疾患に対する食事・運動療法のエビデンスについて参考図書・サイトなどにより調べておく。<br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 7 | 野村　卓生 | 【糖尿病理学療法について】<br>糖尿病患者では、骨格筋萎縮、筋力低下が生じやすいため、理学療法から取り組むべき課題が多い。本講義では、栄養代謝学も踏まえた糖尿病に対する理学療法の位置づけやその内容について概説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>糖尿病治療における理学療法の意義について、糖尿病理学療法ガイドラインに目を通し、理解を深めておく。<br>https://www.jstage.jst.go.jp/article/rigaku/43/3/43_273/_pdf<br><br>【復習】（90分）<br>小テストで得た知識は実際の臨床に直結した生きた知識であり、再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 8 | 田村　好史 | 【栄養代謝学　まとめとテスト】<br>栄養代謝学は、様々な観点から考えるべき学問であり、本講義ではこれまでの授業を総括した上で、総合テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>これまでのすべての講義や小テストについて復習する。<br>【復習】（90分）<br>まとめとテストについて、その内容を再度見直す。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | リハビリテーション医学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Rehabilitation Medicine | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 藤原　俊之 | ナンバリング | PBP2200 |
| 担当教員 | 藤原　俊之、和田　太 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、リハビリテーションの理念を学び、リハビリテーション医学、社会的リハビリテーション、地域リハビリテーションについても広く学ぶ。リハビリテーション医学においては、疾病からもたらされる障害に関して診断・評価を行うことが重要となる。その上で各患者（児）が有する問題点を障害のレベル別に整理し、治療の方針と内容・期間を決定し、機能予後の予測を行うことが必要である。そこで、ICF及びICIDHの概念を理解することにより、全人的医療であるリハビリテーション医学を学ぶとともに、脳血管障害、運動器、内部障害、がんなどの疾病特性に合わせたリハビリテーション治療についても学び、各障害の捉え方、各疾患、障害に対するリハビリテーション治療の方法を学ぶ。 |
| 到達目標 | ・リハビリテーションの理念を理解し、リハビリテーション医学、社会的リハビリテーション、地域リハビリテーションについて説明できる。<br>・国際生活機能分類（ICF）に基づいて、患者の身体機能・構造、活動、参加を説明できる。<br>・各疾患の特性に合わせたリハビリテーション治療につき説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 理学療法学はリハビリテーション医学における一領域であり。リハビリテーションの理念を理解し、各疾患の特性に合わせたリハビリテーション治療を理解し、総合的な障害診断、評価、治療を理解することは、理学療法学の基本である。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP－1－C－Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、理学DP-１－C－Ⅰ、Ⅱ、共通DP-２－C－Ⅰ、理学DP－３－C－Ⅰ、理学DP－４－Ⅰ、共通DP－3－C－Ⅰ、理学DP－２－C－Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | 各回の講義前後には必ず予習、復習を行うこと（各講義開始前に前回講義内容の確認テストを行う）。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 確認テスト（30%）、定期試験(50%)、課題プレゼンテーション(20%)の合計点による最終評価を行う。 |
| 評価基準 | 小テスト、レポート、期末テストはすべて教員の評価で実施する。<br>・毎回の講義をしっかり聴き、最新の情報を自ら調べる姿勢とその成果を評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJUNTENDO PASSPORTを用いてフィードバックを行う。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 現代リハビリテーション医学　千野直一監修　金原出版　ISBN-10: 4307750527 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 初回の講義にて連絡する。 |
| 担当教員の実務経験 | 病院での臨床経験を活かし、実践的な講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 藤原　俊之 | 【リハビリテーション医学概論】<br>リハビリテーションの理念とリハビリテーション医学について学ぶ。チーム医療としてのリハビリテーション医学における理学療法士の役割とその求められる能力について学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「リハビリテーション医学総論」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 2 | 藤原　俊之 | 【運動学・神経生理学】<br>運動障害を理解する上で縦横な運動学、神経生理学について学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「機能解剖・生理・運動学」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 3 | 藤原　俊之 | 【機能障害評価】<br>リハビリテーション医学に必須である機能障害の評価法について理解する。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「機能障害の評価」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 4 | 藤原　俊之 | 【日常生活活動の評価】<br>日常生活活動の概念を理解し、ADL評価法を理解し、その活用について学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「日常生活活動(動作)の評価」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 5 | 藤原　俊之 | 【リハビリテーション診断学・治療学】 | 講義 | 【予習】 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 電気診断学、画像診断、歩行解析などのリハビリテーション診断学と多様なリハビリテーション治療学について学ぶ。 | | 教科書「リハビリテーション診断」「リハビリテーション治療学」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 6 | 藤原　俊之 | 【摂食嚥下の評価とリハビリテーション】<br>摂食嚥下機能の生理とその評価法とリハビリテーションについて学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「摂食嚥下の評価とリハビリテーション」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 7 | 藤原　俊之 | 【脳卒中・外傷性脳損傷のリハビリテーション】<br>脳卒中及び外傷性脳損傷の診断、評価、リハビリテーション治療について学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「脳血管障害および脳の疾患」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 8 | 藤原　俊之 | 【脊髄損傷・神経疾患のリハビリテーション】<br>脊髄損傷・神経筋疾患の診断、評価、リハビリテーション治療について学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「脊髄損傷・二分脊髄」「神経・筋疾患」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 9 | 藤原　俊之 | 【運動器疾患のリハビリテーション】<br>運動器疾患の診断、評価、リハビリテーション治療について学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「関節リウマチ・膠原病」「骨関節疾患」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 10 | 藤原　俊之 | 【循環器疾患・呼吸器疾患のリハビリテーション】<br>心疾患、呼吸器疾患の診断、評価、リハビリテーション治療について学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「循環器疾患」「呼吸器疾患」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 11 | 藤原　俊之 | 【がんのリハビリテーション】<br>がんによって生じる様々な障害について学ぶとともに、その評価、リハビリテーション治療、緩和的医療について学ぶ | 講義 | 【予習】<br>教科書「悪性腫瘍（がん）」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 12 | 藤原　俊之 | 【小児のリハビリテーション】<br>精神運動発達の評価とともに、脳性麻痺を中心とする小児疾患の評価、リハビリテーション治療について学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「脳性麻痺および小児疾患」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 13 | 藤原　俊之 | 【高次脳機能障害のリハビリテーション】<br>失語症、記憶障害、認知症などを含む法事脳機能障害の診断、評価、リハビリテーション治療について学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「高次脳機能障害の評価」「言語障害の評価とリハビリテーション」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 14 | 藤原　俊之 | 【切断のリハビリテーション】<br>切断の評価、義肢の処方を含むリハビリテーション治療について学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「切断と義肢」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |
| 15 | 藤原　俊之 | 【地域リハビリテーション】<br>地域医療におけるリハビリテーション医療の役割、地域包括ケアシステムについて学ぶ。 | 講義 | 【予習】<br>教科書「地域包括ケアシステム」の部分をよく読んでおくこと。予習90分・復習90分 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 医療倫理論 | 授業形態 | |
| 英語科目名 | Medical Ethics | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 青木 茂樹 | ナンバリング | PBP2201 |
| 担当教員 | 青木 茂樹 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 現代社会の国際化、多様化に伴い、ある集団が集合知として共有してきた無形の規範を倫理として明確にしていく必要が増してきている。本講義では、特に医療安全管理学の一環としての、医療者として必要な倫理という観点から、生命倫理、医の倫理、職業倫理、研究倫理につき、できるだけ観念的ではなく実践的な授業を進める。前半は、生命倫理・医の倫理の歴史を含めた概略、20世紀以降特に明文化されたヘルシンキ宣言、リスボン宣言などの考え方から始め、医療と死生観・緩和医療などの問題、職業倫理などの問題を扱う。後半は、実践的に倫理と接遇、研究倫理と研究不正について授業を進めるとともに、医療系倫理のe-learning（CITI）を受講し受講証を得ることも1つの目標とする。 |
| 到達目標 | 1. 医療倫理や生命倫理の対象を理解する。<br>2. 医療や生命科学において発生する倫理問題を説明できる。<br>3. 一般市民としてその問題にどのように向き合い、対処するべきかの基本的な課題を理解する。<br>4. 実際にその問題に立ち会った際の立ち居振る舞いを想定できる。<br>5. APRIN研究倫理e-learningコースの受講" |
| 授業の位置づけ | 保健医療福祉とリハビリテーションの理念 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1-C2 |
| 履修上の注意、履修要件 | 1. 各自必ず予習を行うこと。<br>2. 専門用語に関しては予め調べて理解しておくこと。<br>3. 復習を心がけ知識を定着させるように習慣づけること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業の参加度30％・定期試験70％ |
| 評価基準 | APRIN研究倫理e-learningコースの受講" |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 特になし | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 医師としての病院での臨床経験を活かし、講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 青木 | オリエンテーション<br>・授業の進め方、評価方法などについて説明する。<br>・医療者に必要な倫理：生命倫理・患者の権利、研究倫理 | | 【予習】90分<br>事前配布プリントを確認しておくこと<br>【復習】90分<br>配布プリントに目を通し、講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む |
| 2 | 青木 | 生命倫理の基本：生命倫理・医の倫理の歴史を含めた概略<br>・ニュルンベルク領とヘルシンキ宣言、ベルモントレポートと倫理指針<br>医療倫理の基本：患者の権利とインフォームド･コンセント(IC) | | 【予習】90分<br>事前配布プリントを確認しておくこと<br>【復習】90分<br>配布プリントに目を通し、講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む |
| 3 | 青木 | 職業倫理としての医療倫理：守秘義務について<br>研究倫理：倫理委員会と研究・論文の不正 | | 【予習】90分<br>事前配布プリントを確認しておくこと<br>【復習】90分<br>配布プリントに目を通し、講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 青木 | 研究倫理①<br>責任ある研究行為について学ぶ | | 【予習】90分<br>APRIN主体に責任ある研究行為について学ぶ<br>【復習】90分<br>講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む |
| 5 | 青木 | 研究倫理②<br>研究における不正行為について学ぶ | | 【予習】90分<br>APRIN主体に研究における不正行為について学ぶ<br>【復習】90分<br>講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む |
| 6 | 青木 | 研究倫理③<br>データの扱いについて学ぶ | | 【予習】90分<br>APRIN主体にデータの取り扱いについて学ぶ<br>【復習】90分<br>講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む |
| 7 | 青木 | 研究倫理④<br>盗用について学ぶ | | 【予習】90分<br>APRIN主体に論文等の盗用などの不正について学ぶ<br>【復習】90分<br>講義内容を確認・理解・習得して次回の講義に臨む |
| 8 | 青木 | まとめ<br>生命倫理と患者の権利<br>研究倫理と研究不正 | | 【予習】90分<br>これまでの授業を振り返っておく<br>【復習】90分<br>医療倫理について各自がまとめておく |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 医療安全管理学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Medical Quality and Safety Management | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 川﨑 志保理 | ナンバリング | PBP2202 |
| 担当教員 | 川﨑 志保理 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | ある公立大学附属病院での患者取り違い事故があった1999年を医療安全元年と考えるとすでに20年近くが経過し、2004年日本医療機能評価機構への事故報告、2015年には医療事故調査制度による死亡事例の報告が義務付けられた。これらの背景を踏まえ、我々の大学病院では早期から医療安全管理部門を設置して、医療事故が発生した際にも院内で調査や再発予防を行うことができるといったひとつの医療安全文化を定着させた。また当院が認証を受けたJCI（国際医療機能評価機構）が定める「全部署間で統一された医療安全」を推進すべく、大学病院におけるこれらの経験を踏まえて、プライマリケアや慢性疾患の治療、高齢者やがん終末期の治療を行う機会の多い診療放射線技師及び理学療法士の業務における医療安全の基礎から実践の会得を目標とする。また医療安全の対応を十分に行ってきても紛争は発生してしまうものである。このような患者と医療側との間の紛争の解決手段としてのADR（裁判外紛争解決）についても解説を加える。 |
| 到達目標 | ・医療安全の基礎から実践の会得<br>1. 医療事故とその対応法について概説できる。<br>2. 患者中心の医療の内容を概説できる。<br>3. 臨床倫理の考え方を概説できる。<br>4. 医療社会における医療安全管理の重要性を概説できる。<br>・医療者-患者間の紛争の予防と解決<br>1. 過去の医療紛争から得られた再発予防を概説できる<br>2. 患者クレームに対する対応を概説できる |
| 授業の位置づけ | 専門基礎分野　保健医療福祉とリハビリテーションの理念 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 理学DP1-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 医療事故は医療過誤（ミス）とは異なりどんなに細心の注意を払っても発生しうるという特徴を理解し、発生時の検証、再発予防が重要である旨を常に意識するように心掛け、疑問を解決する学修姿勢をもって講義に臨むこと。医療安全管理学は暗記の学問ではなく、過去の事例から学び予防する学問であると理解することが重要である。毎回、履修する項目は異なり、一貫した授業内容の積み重ねの上に成り立つため、欠席せずに授業内容を修得すること。やむを得ず欠席した場合はすぐにプリント、課題などで自己学修をすることが必要である。復習は授業ごとの課題や小テストでしっかりと知識を定着させることが肝要である。将来は患者と直接接触することに主眼をおき、実践的な立場を重視した授業を行う。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 講義中の課題（小テスト、ロールプレイなど）（20%）、定期試験（80%）により評価する。 |
| 評価基準 | 講義中の課題（小テスト、ロールプレイなど）（20%）、定期試験（80%）により評価する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 【テキスト】<br>・リハビリテーション リスク管理 第4版：ハンドブック　亀田メディカルセンター　メディカルビュー社<br>【参考書】<br>・医療訴訟 事例から学ぶ　桑原博道（著）　梶谷　篤（著）　岩井　完（著）　川﨑志保理（著）　小林弘幸（監修）、日本外科学会<br>・医療安全ことはじめ　中島和江　児玉安司　医学書院<br>・リハベーシック　安全管理学・救急医療学　内山靖　藤井浩美　立石雅子　医歯薬出版 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | shiori@juntendo.ac.jp　医療安全機能管理部門室（4号館3階）　事前メール連絡で随時対応<br><br>授業の内容に関する連絡以外は教務課（保健医療学部）まで問い合わせください。 |
| 担当教員の実務経験 | 病院での臨床経験を活かし、実際の症例に関する内容交えて講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 小林　弘幸 | 医療管理・安全学総論　　－医療現場におけるリスクマネージメントの重要性－ | 講義 | 【予習】（90分）<br>医療安全に関する新聞報道を読むこと |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（90分）<br>過去の医療事故報道を調べてみること |
| 2 | 川﨑志保理 | 医療者－患者関係　－医療安全の立場から－ | 講義 | 【予習】（90分）<br>医療者と患者との診療契約について調べておくこと<br>【復習】（90分）<br>医療側の義務と患者側の義務について調べること |
| 3 | 鈴木　麻衣 | 患者満足度と医療の質・安全 | 講義 | 【予習】（90分）<br>接遇と厚遇について調べておくこと<br>【復習】（90分）<br>医療の質・安全を得るために何を心掛けるかを再確認すること |
| 4 | 桑原　博道 | リハビリテーション中に起きた医療事故と法的責任 | 講義 | 【予習】（90分）<br>リハビリテーション中に発生しうる医療事故の種類を考えていくこと<br>【復習】（90分）<br>学んだ事例につき対処法や再発予防をまとめて将来に活かせるようにまとめること |
| 5 | 梶谷　篤 | 医療現場における患者個人情報保護 | 講義 | 【予習】（90分）<br>個人情報保護法の歴史を調べておくこと<br>【復習】（90分）<br>患者に特徴的な個人情報管理をまとめておくこと |
| 6 | 岩井　完 | 患者クレームに対する対応　－ADR（裁判外紛争解決）－ | 講義 | 【予習】（90分）<br>ADRについて調べておくこと<br>【復習】（90分）<br>授業で得られた患者クレームへの対処法を将来に活かすべくまとめておくこと |
| 7 | 松本　雅弘 | リスク管理に必要な薬剤の知識 | 講義 | 【予習】（90分）<br>重大リスクを有する薬剤につき調べておくこと<br>【復習】（90分）<br>リハビリテーションに影響を与える薬剤や注意すべき薬剤をまとめておくこと |
| 8 | 唐澤　沙織 | 患者の転倒・転落のリスクと予防 | 講義 | 【予習】（90分）<br>病院における転倒・転落の動向を調べておくこと<br>【復習】（90分）<br>リハビリテーション中の転倒・転落事故の予防と病院での転倒・転落を予防するためのリハビリテーションを分類して将来に活かすべくまとめておくこと |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 地域包括マネジメント論 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Community-Inclusive Management | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 澤　龍一 | ナンバリング | PBP2203 |
| 担当教員 | 澤　龍一、藤原　俊之 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 人口動態や保健・医療・福祉・介護ニーズの変化に伴い、国民の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができるような包括的な支援・サービス提供体制の構築が求められている。このような住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供されるケアシステムのことを地域包括ケアシステムという。本講義では、地域包括ケアシステムの理解を通じて、医療・地域保健の現場で理学療法士が果たすべき役割や他職種連携の重要性を学ぶ。講義は、座学及びグループワークによる授業形式から、地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培い、臨床から地域の健康を広く担える人材となる能力を身につけることを最終的な目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 地域包括ケアシステムの概要を理解し、求められる理学療法士像を説明することが出来る。<br>(2) 地域マネジメントにおける理学療法士の役割を説明することが出来る。 |
| 授業の位置づけ | 本講義では地域包括ケアシステムの概要について学修をし、同システムにおける理学療法士の役割を理解することを目的としている。国の掲げる地域包括ケアシステムの方向性、関係諸制度や他職種との連携について学修することで、理学療法士の専門性を見極めて地域で活躍する基礎を養う。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C Ⅱ<br>理学DP1-C Ⅱ<br>理学DP2-C Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | 厚生労働省HP等を活用し、地域包括ケアシステムについて調べてください。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 【成績評価方法】<br>講義中に実施する小テスト（30%）、定期テスト（50%）、日々の学習態度（20%）を統合して評価する。<br>【成績評価基準】<br>地域包括ケアにおいて、理学療法や理学療法士の位置づけを説明することが出来るか。 |
| 評価基準 | 地域包括ケアシステムの概要について説明することが出来るか<br>地域マネジメントにおける理学療法士の役割を説明することが出来るか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて、授業内やJuntendo Passportを使用して返却 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 特になし | | | | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 必要に応じて講義前・後に資料を配布します。 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 事前メールにて随時対応または水曜日16:00-17:00 保健医療学部理学療法学科（御茶ノ水センタービル）508号室 |
| 担当教員の実務経験 | 担当教員は本講義を教える上で十分な臨床経験、教育経験、研究経験を有している。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 澤龍一 | 【オリエンテーション、地域包括ケアシステム①】<br>(1) 授業計画や進め方について説明する。<br>(2) 地域包括ケアシステムの概要を学修する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>「地域包括ケアシステム」という用語を調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内容について復習しておくこと。 |
| 2 | 澤龍一 | 【地域包括ケアシステム②】<br>(1) 地域包括支援センターについて学修する。<br>(2) 地域包括ケアシステムにおける「すまいとすまい方」について学修する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>「地域包括支援センター」という用語を調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内容について復習しておくこと。 |
| 3 | 澤龍一 | 【地域包括ケアシステム③】 | 講義、グループワー | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | (1) 予防の概念について学修する<br>(2) 地域包括ケアシステムにおける「介護予防」について学修する | ク | 一次予防、二次予防、三次予防を調べておくこと。<br>介護予防を調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内容について復習しておくこと。 |
| 4 | 藤原俊之 | 【病院からみた地域マネジメント：補装具外来】<br>（1）補装具外来の役割と意義について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>補装具の支給制度について調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内容について復習しておくこと。 |
| 5 | 藤原俊之 | 【病院からみた地域マネジメント：外来リハビリテーション】<br>（1）医療機関における外来リハビリテーション診療について学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>地域包括ケアシステムにおける外来リハビリテーションについて調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内容について復習しておくこと。 |
| 6 | 澤龍一 | 【ヘルスリテラシー・ヘルスコミュニケーション・行動変容】<br>（1）ヘルスリテラシーについて学修する。<br>（2）ヘルスコミュニケーションについて学修する。<br>（3）行動変容理論について学修する。 | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、行動変容についてその概要を予習しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内容について復習しておくこと。 |
| 7 | 澤龍一<br>講師招聘予定 | 【地域包括マネジメントの実際】<br>(1) 行政職員の視点から地域マネジメント活動を学修する。<br>(2) 地域包括ケアシステムにおいて行政職員が求めているリハビリテーション専門職の関わりについて学修する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>地域包括ケアシステムにおけるリハビリテーション専門職の役割を調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内容について復習しておくこと。 |
| 8 | 澤龍一<br>講師招聘予定 | 【理学療法士による地域マネジメントの実際】<br>(1) 理学療法士が地域で実践している具体的な地域マネジメント活動を学習する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>理学療法士が働きながら実践できる地域マネジメントについてアイディアを考えておくこと。<br>【復習】（90分）<br>授業内容について復習しておくこと。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | チーム医療論 | 授業形態 | |
| 英語科目名 | Team Medical Care | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | PBP2204 |
| 担当教員 | 高橋　哲也 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 今日の医療は急激に高度化・細分化し、疾病構造・人口構造も大きく変わってきている。医療の現場では、様々な職種の医療専門職者が協働するチーム医療が基本となり、複数の医療専門職者の知識を結集しなければならない。リハビリテーション医療においても、患者中心のあるべき医療の姿を学び、医療サービス提供のための病院の組織やそこで働く様々な医療専門職者の役割を正しく理解し、チーム医療の重要性を認識する必要がある。<br>適切な医療を実践する基盤を構築するためには、各医療専門職者の視点から明らかになった情報や問題点を共有し、チームとしての対応策を立案し、各々の専門性を活かしながら問題解決を図り、組織や社会へと貢献することが重要である。<br>本講義では、リハビリテーション医療にかかわりのある医療専門職者の活動と役割を知り、専門職間の連携の重要性について理解することを目的とする。<br>（オムニバス方式／全8回） |
| 到達目標 | ・医療の流れ、病院での医療専門職や医療従事者の役割、様々なチーム医療の実践を説明することができる。<br>・チーム医療に必要な基本的知識・技術を説明することができる。<br>・チーム医療の中で、理学療法士の役割を説明することができる。<br>・理学療法士の専門性を活かし積極的にチーム医療に参画する方法を考えることができる。 |
| 授業の位置づけ | 専門基礎分野　保健医療福祉とリハビリテーションの理念 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-3C1、理学DP-3C1,4C1,5C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | チーム医療について理解を深めるために、臨床実習ⅠおよびⅡを十分に振り返って臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 成績評価方法：期末試験（100%） |
| 評価基準 | 成績評価方法：期末試験（100%） |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 適宜、JUNTENDO-PASSPORTのクロスプロファイル機能を使用して行う。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 指定教科書【なし】<br>適宜、資料を配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜日17：00-18：00　保健医療学部理学療法学科（御茶ノ水センタービル）507号室<br>te-takahashi@juntendo.ac.jp　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 担当する医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、理学療法士は、本講座を教授する十分な臨床経験、教育経験、研究の経験を要している。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋　哲也 | リハビリテーション医療にかかわりのある医療専門職者について解説し、チーム医療の重要性、必要性、役割について解説する。さらにチーム医療の欠かせない専門職間の連携の重要性について解説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>チーム医療について事前に調べて確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 2 | 小林　弘幸 | チーム医療における医師の専門性・役割・責任を理解し、問題解決を通して、チームとして患者や組織、社会へどのように貢献することができるかを解説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>チーム医療における医師の役割について事前に調べて確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 岡田　綾 | 臨床で医師の診断・治療に関連する業務から患者の療養生活の支援に至るまで幅広い業務を担当する看護師が、どのように専門性を発揮しながら多種多様な医療専門職者と連携し、チーム医療を推進しているか理解する。①医療チームにおける看護師の役割を理解する。②専門看護師・認定看護師の役割と専門ケアチームとの連携を理解する。③外来から病棟、病棟から在宅療養へとシームレスな医療・看護を継続するための多職種者による関わりのあり方について理解する。 | 講義 | 【予習】（60分）厚生労働省「チーム医療の推進に関する検討会報告書」平成22年3月19日を読み（厚労省ホームページ参照）内容をまとめておく<br>【復習】（60分）授業で学んだ、患者を中心とした医療チームの連携のあり方についてまとめる。" |
| 4 | 荒川　隆太郎 | 薬剤師の任務である①医薬品の安全管理、②医薬品の適正使用について説明する。また、最近の医薬品や薬物療法の進歩と薬剤師の専門性の進化、チーム医療の中での薬剤師の役割、薬剤師が現在活躍する代表的なチーム医療の活動等を中心に、薬剤師の役割を紹介する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>チーム医療における薬剤師の役割について事前に調べて確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 5 | 芳士戸　治義 | 本講義では、①診療放射線技師業務の概要と接遇、②患者と医療従事者の被ばく管理、③MRI検査室での医療事故対策について紹介し、リハビリテーション医療との共有部分について解説する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>チーム医療における診療放射線技師の役割について事前に調べて確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 6 | 高橋哲也<br>北原エリ子 | 理学療法士が活躍する代表的なチーム医療の活動等を中心に、チーム医療の中での理学療法士の役割を紹介する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>チーム医療の中での理学療法士の役割について事前に調べて確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 7 | 高橋哲也<br>阿瀬寛幸 | 理学療法士と作業療法士の共通点と相違点について解説する。また、作業療法士が活躍する代表的なチーム医療の活動等を中心に、チーム医療の中での作業療法士の役割を紹介する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>チーム医療における作業療法士の役割について事前に調べて確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 8 | 高橋哲也<br>富田春菜 | 言語聴覚士が活躍する代表的なチーム医療の活動等を中心に、チーム医療の中での言語聴覚士の役割を紹介する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>チーム医療における言語聴覚士の役割について事前に調べて確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 理学療法概論 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Introduction to Physical Therapy | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | SFP3000 |
| 担当教員 | 高橋　哲也、眞壁 寿、松田 雅弘 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、理学療法及び理学療法士を理解することを目的として、理学療法の歴史、理学療法の対象、研究、職域、業務の実際について学修する。更に対象者の特徴、障害の分類、障害受容、理学療法士に求められる資質、コミュニケーションスキルなどについても学修する。これらの総合的理解を通じて、今後の履修科目の必要性、重要性を理解し、学修意欲向上、今後の理学療法士の方向性を知る。理学療法学は医学、障害学、社会福祉学等の複数領域に跨ることから、幅広く関連領域についての教養を取り入れることにも配慮する。 |
| 到達目標 | 1）理学療法の定義、理学療法士に求められる能力、理学療法の役割など、理学療法の基本的特徴を説明できる<br>2）理学療法の基本モデルや理学療法の対象と範囲を説明できる<br>3）理学療法の対象となる主な病態、機能障害を説明できる<br>4）理学療法の対象となる主な疾患を説明できる<br>5）理学療法の病期の区分方法、病期に基づいた理学療法（地域・予防を含む）を説明できる<br>6）理学療法の歴史について説明できる<br>7）理学療法に関連する法規について説明できる<br>8）理学療法に関連する保険制度について説明できる<br>9）世界の理学療法の現状と課題について説明できる |
| 授業の位置づけ | 本科目は理学療法学の基本であり、理学療法の定義、歴史、対象、法律、研究、 職域、業務の実際について学修し、専門科目に対する知的好奇心を拡げる基盤と 位置付ける。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-2、理学DP-1・2・5 |
| 履修上の注意、履修要件 | 理学療法概論は、本学科で学ぶ「理学療法学」の基礎になる科目であるため、事前資料や指定教科書をよく読んで、積極的な学修姿勢で臨むこと。また、順天堂関連病院の各講師の講義は各分野の最前線に触れることができる貴重な機会であることから、問題意識と新たな知識に触れる好奇心を持って臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 小テスト（40%）、定期試験（60%）により評価する。 |
| 評価基準 | ・理学療法の定義を理解できているか<br>・理学療法の歴史、対象、範囲、法律、研究、職域、保険制度などが理解できて いるか<br>・世界の理学療法の現状と課題について理解できているか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じてJUNTENDO-PASSPORTのクロスプロファイル機能を使用して行う。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 理学療法学概論　第7版 | 奈良勲・高橋哲也・内山靖(編) | 医歯薬出版 | 978-4-263-26586-4 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| ・そのほか、配布講義資料を使用する |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜日17：00-18：00　保健医療学部理学療法学科（御茶ノ水センタービル）507号室<br>te-takahashi@juntendo.ac.jp　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 平成元年に理学療法士免許を取得。<br>平成元年4月～平成7年6月　聖マリアンナ医科大学病院　理学療法士<br>平成8年4月～平成9年3月　石岡循環器脳神経外科病院　理学療法士<br>平成10年9月～平成19年3月　群馬県立心臓血管センター　リハビリテーション課長<br>平成31年4月～現在　順天堂大学医学部附属順天堂医院リハビリテーション室室長補佐 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋哲也 | 理学療法学序説１<br>１）理学療法の定義、理学療法士に求められる能力、理学療法の役割を知ることで、理学療法の基本的特徴を理解する。<br>２）授業の始めに小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の「第8章　理学療法（士）の役割とその職域」を読んでおくこと<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 2 | 高橋哲也 | 理学療法学序説２<br>１）理学療法の基本モデル、クリニカルリーズニング、理学療法の対象と範囲を知ることで、理学療法の基本的特徴を理解する。<br>２）授業の始めに小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の「第5章　理学療法の基盤」を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 3 | 高橋哲也<br>松田雅弘 | 理学療法の対象となる主な病態<br>１）関節可動域制限、筋力低下、疼痛、持久性低下、その他の機能障害を知ることで、理学療法の対象となる主な病態を理解する。<br>２）授業の始めに小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の「第7章　理学療法の対象と治療手段」を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 4 | 高橋哲也<br>松田雅弘 | 理学療法の対象となる主な疾患<br>１）精神領域の理学療法、産業理学療法、被災地の理学療法支援、動物の理学療法、女性保健の理学療法などを知ることで、理学療法の新たな対象を理解する。<br>２）授業の始めに小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の「第14章　理学療法の開拓職域」を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 5 | 高橋哲也<br>松田雅弘 | 理学療法の学問的体系化と研究法<br>１）理学療法の学問的体系を知り、理学療法の研究範囲や研究分野について理解する。<br>２）授業の始めに小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の「第6章　理学療法の学問的体系化と研究法」を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 6 | 高橋哲也<br>吉田久雄 | 理学療法士になるということ | 講義 | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 7 | 高橋哲也<br>北原エリ子 | 小児理学療法の現状と課題 | 講義 | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 8 | 高橋哲也<br>保苅吉秀 | 脳卒中の理学療法の現状と課題 | 講義 | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 9 | 高橋哲也<br>國枝洋太 | 認知症の理学療法の現状と課題 | 講義 | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 10 | 高橋哲也<br>相澤純也 | スポーツ理学療法の現状と課題 | 講義 | 【予習】（90分）<br>事前配布された資料を確認しておくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること |
| 11 | 高橋哲也<br>眞壁寿 | 理学療法の歴史<br>１）医学史の概要、理学療法の歴史・変遷、世界の理学療法（士）の歴史を知ることで、理学療法を発展を理解する。<br>２）授業の始めに小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の「第3章　理学療法の歴史」を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 12 | 高橋哲也<br>眞壁寿 | 理学療法に関連する法規<br>１）理学療法士及び作業療法士法に加え、医療関連法規、保健関連法規、福祉関連法規、医療事故，医療過誤訴訟、理学療法診療記録を知ることで、理学療法に関連する法規を理解 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の「第4章　理学療法士をとりまく法律制度」を読んでおくこと<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | する。<br>２）授業の始めに小テストによる知識の確認を行う。 | | 講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 13 | 高橋哲也<br>眞壁寿 | 理学療法と保険制度<br>１）わが国の地域包括ケアや社会保険制度の概要、医療保険制度、介護保険制度をを理解する。<br>２）授業の始めに小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>教科書の「第13章　地域理学療法―地域包括ケアの展開に向けて―」を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 14 | 高橋哲也 | 世界の理学療法<br>１）世界の理学療法の現状と課題、世界の理学療法養成の教育課程（内容）、世界理学療法連盟の歴史・意義・活動、アジア地域の理学療法を知ることで、世界の理学療法を理解する。<br>２）授業の始めに小テストによる知識の確認を行う。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>事前に配布される資料を読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>講義資料を再度見直し、しっかりと知識を定着させること。次回の講義冒頭のミニテスト（一部英語）の準備をすること。 |
| 15 | 高橋哲也<br>眞壁寿<br>松田雅弘 | 理学療法概論のまとめ | 講義 | 【予習】（90分）<br>これまでの講義で生じた疑問、質問、感想をまとめ出席すること<br>【復習】（90分）<br>教科書全体を見直し、定期試験に備える |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 日常生活活動学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Activities of Daily Living | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 森沢 知之 | ナンバリング | SFP3001 |
| 担当教員 | 森沢 知之、松田 雅弘、中村　絵美、澤　龍一 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義の目的は、日常生活活動の概念と範囲を理解し、理学療法の治療目標の主体をなす日常生活活動の自立に向けた評価方法及び動作獲得や介助・支援の方法を修得することである。正常な日常生活活動を理解した上で、高齢者及び理学療法の対象となる代表的な疾患（脳卒中片麻痺、パーキンソン病、頚髄損傷、関節リウマチ、COPD、心不全など）が日常生活活動に及ぼす影響を学修する。各疾患や状態に応じた基本的なADL評価法（動作分析、FIM、BIなど）を理解・実践し、日常生活活動に関する問題点を抽出する能力を育む。またリハビリテーション工学、職業リハビリテーション、社会リハビリテーションなどの様々な分野からの包括的アプローチについて学ぶ。 |
| 到達目標 | ・理学療法とADLの位置づけを説明することができる。<br>・ADL評価の目的を説明することができる。<br>・主なADL評価方法を理解して説明することできる。<br>・健常者の各種ADL動作を分析することができる。<br>・ADLを支援する福祉機器の特徴と適用を説明することができる。<br>・各疾患のADL障害の特徴を理解して説明することができる。<br>・ADL指導の実際について症例を通して検討することができる。 |
| 授業の位置づけ | ・日常生活活動学は全ての理学療法に関わる基礎的な授業である。2年前期に開講される「日常生活活動学実習」へとつながる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1・2・3、理学DP-1・2・3・4・5 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・各回の講義前後には必ず予習、復習を行うこと。<br>・各講義終了前に講義内容の確認テストを行う。<br>・講義中や講義終了後、わからない部分があれば、必ず担当教員に質問すること。<br>・講義中は積極的に発言すること。<br>・グループワーク時には、積極的に議論に参加すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | ・定期試験（60%）、講義中の課題（30%）、日々の学習状況（10%）との合計点により最終評価を行う。 |
| 評価基準 | ・日常生活活動の概念と範囲を理解し、理学療法の治療目標の主体をなす日常生活活動の自立に向けた評価方法及び動作獲得や介助・支援の方法を説明できる。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| ・授業内やJuntendo Passportを使用して返却する。<br>・小テストの結果は小テスト終了直後に正答をフィードバックする。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学（第5版） | 鶴見隆正 | 医学書院 | 978-4-260-04751-7 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| ・配布講義資料を使用する。 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | ・事前メールにて随時対応。 |
| 担当教員の実務経験 | ・兵庫医科大学病院等での臨床経験を活かし、実際の症例に関する内容を交えて講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 森沢　知之 | 【オリエンテーション、ADL総論①】<br>ADLの概念・意義・範囲・理学療法での位置づけを学修する。ADLを学ぶ上で最も基礎的な内容であり、以降の授業にも反映されるため、よく理解しておく必要がある。授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う。 | ・講義 | 【予習】（90分）<br>1. ADLの概念、歴史的推移について調べておくこと。<br>2. ADLの範囲について調べておくこと<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 森沢　知之<br>伊澤　奈々 | 【ADL総論②】<br>ICIDHとICF、ノーマリゼーション、QOLについて学修する。授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う。 | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>ICIDH、ICF、ノーマリゼーション、QOLについて調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 3 | 森沢　知之 | 【ADLの評価①Barthel Index】<br>ADL評価の目的、評価項目、活用方法を学修する。授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う。 | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>ADL評価を構成する主なADL動作、Barthel Indexについて調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 4 | 森沢　知之 | 【ADLの評価②FIM】<br>Functional Independence Measureの特徴と評価方法について学修する。授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う。 | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>Functional Independence Measureについて調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 5 | 森沢　知之 | 【基本動作の運動学的分析】<br>重力と重心、物体の安定性、てこの原理などADL動作を行う上での運動学的分析について学修する。授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>1. ヒトの重心および物体の安定性に関与する因子について調べておくこと。<br>2. てこの種類と原理について調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 6 | 森沢　知之 | 【ADLの基本動作① 起居動作】<br>寝返り・起き上がり動作の分析について学修する。授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う。 | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>基本的な寝返り・起き上がり動作の方法について各自実践して確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 7 | 森沢　知之 | 【ADLの基本動作② 立ち上がり動作】<br>立ち上がり動作の分析について学修する。授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う。 | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>基本的な立ち上がり動作の方法について各自実践して確認しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 8 | 森沢　知之 | 【ADLを支援する機器①】<br>福祉用具ついて学修する。授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う。 | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>福祉用具について調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 9 | 森沢　知之 | 【ADLを支援する機器②】<br>歩行補助具等・車椅子などの種類と適用について学修する。授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う。 | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>歩行補助具（杖・歩行器など）の種類について調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 10 | 森沢　知之 | 【住居や屋外の生活環境】<br>日常生活に影響を及ぼす生活環境（屋内・屋外）について学修する。授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う。 | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>障害者が自宅で生活する際に、自立した生活活動が困難になりやすい場所を整理しておくこと。<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 11 | 森沢　知之 | 【疾患別ADL①　神経系障害患者】<br>脳卒中片麻痺、神経筋疾患患者などのADL障害を学修する。 | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>神経系障害患者におけるADL障害の特徴について調べておくこと。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 神経系障害患者のADL障害についてグループワークを行う。<br>授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う。 | | 【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 12 | 森沢　知之 | 【疾患別ADL②　運動器疾患患者】<br>変形性関節症、慢性関節リウマチ患者などのADL障害を学修する。運動器疾患患者のADL障害についてグループワークを行う。授業の最後には確認テストを行い、理解の確認を行う。 | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>運動器疾患患者におけるADL障害の特徴について調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 13 | 森沢　知之 | 【症例検討①（グループワーク）】<br>ADL障害を抱える患者の問題点を抽出し、ADL支援機器の選択、住環境の改善計画、ADL指導についてグループワークを行う。 | ・グループワーク | 【予習】（90分）<br>各疾患におけるADL支援機器の選択、住環境の改善計画、ADL指導方法について調べておくこと。<br>【復習】（90分）<br>確認テストの内容は、臨床に直結する重要な知識であり、再度見直し、知識を定着させること |
| 14 | 森沢　知之 | 【症例検討②（プレゼンテーション）】<br>グループワークでまとめた内容についてプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションを行う。 | ・グループワーク<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>各グループでプレゼンテーションと質疑応答の準備をしっかりしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>グループワークで行った内容について、各自、再度見直し、知識を定着させること。 |
| 15 | 森沢　知之 | 【症例検討③（プレゼンテーション）】<br>グループワークでまとめた内容についてプレゼンテーションを行い、全員でディスカッションを行う。 | ・グループワーク<br>・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>各グループでプレゼンテーションと質疑応答の準備をしっかりしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>グループワークで行った内容について、各自、再度見直し、知識を定着させること。 |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 日常生活活動学実習 | 授業形態 | 実技 |
| 英語科目名 | Practice of Activities of Daily Living | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 中村　絵美 | ナンバリング | SFP3002 |
| 担当教員 | 中村　絵美、松田 雅弘、森沢 知之、澤　龍一 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 1年次後期科目である日常生活活動学で学んだ知識を基礎に、日常生活活動に関する理学療法の一連の流れ（ADL評価、問題点の抽出、治療や介助・支援方法）を理解し、実践できる力を身に付けることを目標とする。基本的な起居移乗動作、入浴動作、排泄動作、着衣動作、セルフケア、車椅子操作などの動作獲得や介助・支援の方法を修得した上で、代表的な疾患（脳卒中片麻痺、パーキンソン病、頚髄損傷、関節リウマチ、COPD、心不全など）の特性を理解し、各疾患に応じた日常生活活動の方法について実習を通して学修する。また指導用のパンフレットなどを作成し、患者・家族や他者へ説明する能力を育む。更に障害を有する人々が日常生活のなかで感じる障壁について実際に学生自身が障害（模擬）を体験するフィールドワークを実施し、生活のしにくさについて学びを深める。 |
| 到達目標 | ・各種ADL評価の目的を説明できる．<br>・問診によるADL聴取，起居・移乗動作，車いす操作技術を修得している．<br>・杖などの応用歩行，階段昇降の指導・介助の方法を修得している．<br>・主なADL評価方法を理解し，実践できる．<br>・ADL評価の結果から，問題点を抽出することができる．<br>・各疾患に対する適切なADL動作指導・介助を選択・実践できる |
| 授業の位置づけ | 1年次後期の日常生活活動学の講義で学んだ内容を基に行う実技実習科目である。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP2-C2, DP2-C3, DP2-C4, DP2-C5, DP5-C2, DP5-C3, DP6-C2, DP6-C3 |
| 履修上の注意、履修要件 | 実技演習は，実際の臨床場面と同等とし，身だしなみ・態度等に留意して参加してください．（装飾品・爪・服装） |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 確認小テスト(20%），グループワーク(10%），実技試験(40%），定期筆記試験(30%）の総合点で評価する． |
| 評価基準 | 対象者に合わせた適切なADL評価およびADL動作指導・介助を選択・実践できる。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却 | |
| テキスト | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 標準理学療法学　日常生活活動学・生活環境学　第5版 | 鶴見隆正・隆島研吾　編 | 医学書院 | 978-4-260-03256-8 |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| 授業の際に提示する | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜：9:00～10:30　※担当教員により変更の可能性あり（授業内に確認）<br>他：事前メールにて連絡をとったうえで随時対応． |
| 担当教員の実務経験 | ・各教員とも理学療法士の教育歴，または病院においてADL指導の経験を持っている．<br>・また各教員とも現在も順天堂医院での臨床業務に携わりADL指導を行っている． |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【オリエンテーション・実習準備】<br>1年後期の日常生活活動学で学んだ知識を基礎に日常生活活動に関する理学療法の一連の流れについて学修する．<br>また，患者に接する際の注意点（リスク管理）について理解する． | 講義 | 【予習】<br>臨床（実習）で患者を触るときと同じ準備をおこない，身だしなみにも留意すること．<br>【復習】<br>実技演習を行う際の，リスク管理は臨床に直結する重要となるため，実習期間中常に心掛けておくこと |
| 2 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【ADL評価の要点と活用方法】<br>ADL評価法に共通する身のまわり動作の評価ポイント，その評価時期・目的・方法の選択について | 講義・実技 | 【予習】（60分）<br>基本的ADLの評価法（BI・FIM）について確認しておくこと．<br>【復習】<br>臨床に直結する知識であるため，対象者に合わせた評価方法・目的・時期の選択が可能となる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | よう理解を深め，説明できるようしておくこと． |
| 3・4 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【起居動作①】<br>寝返り・起き上がり動作とその介助方法 | 講義・実技 | 【予習】(60分)<br>基本的な寝返り・起き上がり動作の方法について確認しておくこと．<br>【復習】<br>実施した内容については，臨床に直結する技術であるため，対象者に合わせた方法の提示・介助が可能になるよう繰り返し練習し，習得させること． |
| 5・6 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【起居動作②】<br>立ち上がり動作とその介助方法 | 講義・実技 | 【予習】(60分)<br>基本的な立ち上がり動作の方法について確認しておくこと．<br>【復習】<br>実施した内容については，臨床に直結する技術であるため，対象者に合わせた方法の提示・介助が可能になるよう繰り返し練習し，習得させること． |
| 7・8 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【移乗動作①】<br>補助具を使用しない移乗動作の方法およびその介助方法（車椅子-ベッド間） | 講義・実技 | 【予習】(60分)<br>基本的な移乗動作の方法について確認しておくこと．<br>【復習】<br>実施した内容については，臨床に直結する技術であるため，対象者に合わせた方法の提示・介助が可能になるよう繰り返し練習し，習得させること． |
| 9・10 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【移乗動作②】<br>補助具を使用しない移乗の介助と<br>移乗補助具の使用（リフターなど） | 講義・実技 | 【予習】(60分)<br>補助具を使用した移乗動作の方法について確認しておくこと．<br>【復習】<br>実施した内容については，臨床に直結する技術であるため，対象者に合わせた方法の提示・介助が可能になるよう繰り返し練習し，習得させること． |
| 11・12 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【移動動作①】<br>平地歩行，階段昇降，応用歩行，歩行補助具 | 講義・実技 | 【予習】(60分)<br>平地歩行，階段昇降，応用歩行の動作について確認しておくこと．また歩行補助具の種類について復習しておくこと．<br>【復習】<br>実施した内容については，臨床に直結する技術であるため，対象者に合わせた方法の提示・介助が可能になるよう繰り返し練習し，習得させること． |
| 13・14 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【移動動作②】<br>車椅子の駆動と介助方法 | 講義・実技 | 【予習】(60分)<br>車椅子の種類と各部位の名称について確認しておくこと．<br>【復習】<br>実施した内容については，臨床に直結する技術であるため，対象者に合わせた方法の提示・介助が可能になるよう繰り返し練習し，習得させること． |
| 15・16 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【移動動作③】<br>障害者体験によるフィールドワーク | 実技・発表 | 【予習】(60分)<br>移動動作①・②で学修した内容を確認しておくこと．<br>【復習】<br>実施した内容については，臨床に直結する技術であるため，対象者に合わせた方法の提示・介助が可能になるよう繰り返し練習し，習得させること． |
| 17・18 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【セルフケア】<br>疾患を有する場合の更衣動作，トイレ動作<br>自助具・日常生活用具の体験 | 講義・実技 | 【予習】(60分)<br>更衣・トイレ動作について確認しておくこと．また自助具・日常生活用具の使用方法について確認しておくこと．<br>【復習】<br>実施した内容については，臨床に直結する技術であるため，対象者に合わせた方法の提示・介助が可能になるよう繰り返し練習し，習得させること． |
| 19・20 | 中村　絵美<br>松田　雅弘 | 【症例検討①（グループワーク・プレゼンテーション）】<br>ADL障害を抱える症例に対して，適切な評価（量的・質的（動作分析））を行い，評価結果から問題点の抽出，各ADL動作の | グループワーク・発表 | 【予習】(60分)<br>各グループ，事前に紹介された症例のADLを評価するために必要な評価方法を選択しておくこ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 森沢　智之<br>澤　龍一 | 指導についてグループワークを行い，まとめた内容について実技をふまえてプレゼンテーションを行う． | | と．<br>【復習】<br>グループワークで行った内容について，各自再度見直し，知識・技術を定着させること． |
| 21・22 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【症例検討②（グループワーク・プレゼンテーション）】<br>ADL障害を抱える症例に対して，適切な評価（量的・質的（動作分析））を行い，評価結果から問題点の抽出，各ADL動作の指導についてグループワークを行い，まとめた内容について実技をふまえてプレゼンテーションを行う． | グループワーク・発表 | 【予習】(60分)<br>各グループ，事前に紹介された症例のADLを評価するために必要な評価方法を選択しておくこと．<br>【復習】<br>グループワークで行った内容について，各自再度見直し，知識・技術を定着させること． |
| 23・24 | 中村　絵美<br>松田　雅弘<br>森沢　智之<br>澤　龍一 | 【まとめ】<br>各ADL動作およびその介助方法について学習の総括をする．授業の最後には確認テストを行い，理解の確認を行う． | 実技・発表 | 【予習】(60分)<br>実習授業で行ったこれまでの内容を復習しておくこと．<br>【復習】<br>実施した内容については，臨床に直結する技術であるため，対象者に合わせた方法の提示・介助が可能になるよう繰り返し練習し，習得させること． |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 理学療法基礎ゼミナール | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Physical Therapy Basic Seminar | 開講学期 | 2022年度前期、2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | SFP3003 |
| 担当教員 | 高橋　哲也、宮森　隆行、眞壁 寿、松田 雅弘、森沢 知之、飛山 義憲、藤野 雄次、髙橋 容子、春山　幸志郎、相澤　純也、山口　智史、齊藤　正和、中村　絵美、澤　龍一、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 理学療法基礎ゼミナールでは、理学療法の各領域について深く学ぶとともに理学療法に関連する課題を理解することを目的とする。さらに、少人数によるゼミナール形式で実施することにより学生の主体的・能動的な学習能力を形成する。グループワークによる文献を検索、収集し、吟味し整理および発表を行うことで「調べる力」「報告する力」「議論する力」を養うとともに、能動的に理学療法を深く理解しようとする姿勢を育成する。 |
| 到達目標 | 1）理学療法の領域を理解することができる<br>2）各領域における主要な疾患について、文献検索や収集ができる<br>3）各領域における課題について理解できる |
| 授業の位置づけ | フレッシャーズゼミナールで形成された、学習に主体的、能動的に取り組む姿勢の基盤をさらに発展させる。また、このような主体的・能動的な学習姿勢および各領域に対する理解を専門科目において活用するとともに、理学療法基礎ゼミナールへと発展させる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1, 理学DP1 - C2①：医療人として社会からの期待を意識し、適切に行動できる<br>共通DP1 - C3①：健康総合大学である順天堂大学で学んだ者として「仁」の精神に基づき、思いやりを持った行動ができる<br>共通DP3, 理学DP5 - C1①：自分の目標に向け適切な情報収集ができ、活用できる<br>理学DP2 - C1①：患者、家族、他の医療職種と信頼関係が構築でき、良好なコミュニケーションがとれる<br>理学DP2 - C1③：わかりやすい言葉を使いながら、必要な医療情報を共有し、正確な意思疎通・プレゼンテーションができる |
| 履修上の注意、履修要件 | 理学療法に関連する領域を学習するため、フレッシャーズゼミナールや臨床実習Ⅰを十分に振り返って臨むこと。さらに、少人数のグループ学習において、能動的な学習姿勢および自立的な態度を期待する。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 課題発表（60%）、日々の学習状況（40%） |
| 評価基準 | ・文献を検索、収集し、吟味できるか<br>・他者が理解しやすい発表をできるか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| JUNTENDO-PASSPORTのクラスプロファイル機能を使用して行う。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜日16：00～18：00　保健医療学部理学療法学科（御茶ノ水センタービル）507号室<br>te-takahashi@juntendo.ac.jp　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 全科目担当者 | 理学療法の領域（総論）および神経系理学療法（小児、物理療法含む）、スポーツ系理学療法について学習する。 | 講義 | 【予習】フレッシャーズゼミナールで学習した神経系理学療法のトピックスについて復習する（90分）<br>【復習】神経系理学療法についてまとめる（90分） |
| 2 | 全科目担当者 | 内部障害系理学療法、運動器系理学療法および地域理学療法について学習する。 | 講義 | 【予習】フレッシャーズゼミナールで学習した内部障害系理学療法、運動器系理学療法のトピックスについて復習する（90分）<br>【復習】内部障害系理学療法、運動器系理学療法および地域理学療法についてまとめる（90分） |
| 3 | 全科目担当者 | 各領域の主要疾患について文献を検索、収集し、吟味し理解する。 | グループワーク、発表 | 【予習】これまでに学習した各領域について学習する（90分）<br>【復習】まとめた文献について復習し、理解する（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4 | 全科目担当者 | 各領域の主要疾患について文献を検索、収集し、吟味し理解する。 | グループワーク、発表 | 【予習】これまでに学習した各領域について学習する（90分）<br>【復習】まとめた文献について復習し、理解する（90分） |
| 5 | 全科目担当者 | 各領域の主要疾患について文献を検索、収集し、吟味し理解する。 | グループワーク、発表 | 【予習】これまでに学習した各領域について学習する（90分）<br>【復習】まとめた文献について復習し、理解する（90分） |
| 6 | 全科目担当者 | 各領域の主要疾患について文献を検索、収集し、吟味し理解する。 | グループワーク、発表 | 【予習】これまでに学習した各領域について学習する（90分）<br>【復習】まとめた文献について復習し、理解する（90分） |
| 7 | 全科目担当者 | 各領域の主要疾患について文献を検索、収集し、吟味し理解する。 | グループワーク、発表 | 【予習】これまでに学習した各領域について学習する（90分）<br>【復習】まとめた文献について復習し、理解する（90分） |
| 8 | 全科目担当者 | 神経系理学療法の領域における課題について理解し考察する。 | 講義、グループワーク、発表 | 【予習】神経系理学療法の領域について予習する（90分）<br>【復習】神経系理学療法の課題およびグループワークの結果について復習する（90分） |
| 9 | 全科目担当者 | スポーツ理学療法の領域における課題について理解し考察する。 | 講義、グループワーク、発表 | 【予習】スポーツ理学療法の領域について予習する（90分）<br>【復習】スポーツ理学療法の課題およびグループワークの結果について復習する（90分） |
| 10 | 全科目担当者 | 内部障害系理学療法の領域における課題について理解し考察する。 | 講義、グループワーク、発表 | 【予習】内部障害系理学療法の領域について予習する（90分）<br>【復習】内部障害系理学療法の課題およびグループワークの結果について復習する（90分） |
| 11 | 全科目担当者 | 運動器系理学療法の領域における課題について理解し考察する。 | 講義、グループワーク、発表 | 【予習】運動器系理学療法の領域について予習する（90分）<br>【復習】運動器系理学療法の課題およびグループワークの結果について復習する（90分） |
| 12 | 全科目担当者 | 地域理学療法の領域における課題について理解し考察する。 | 講義、グループワーク、発表 | 【予習】地域理学療法の領域について予習する（90分）<br>【復習】地域理学療法の課題およびグループワークの結果について復習する（90分） |
| 13 | 全科目担当者 | 3年生の卒業研究について理解し、研究への理解を深める。 | 講義、グループワーク | 【予習】各領域の課題を復習して臨む（90分）<br>【復習】3年生の卒業研究に関する文献を復習する（90分） |
| 14 | 全科目担当者 | 3年生の卒業研究について理解し、研究への理解を深める。 | 講義、グループワーク | 【予習】各領域の課題を復習して臨む（90分）<br>【復習】3年生の卒業研究に関する文献を復習する（90分） |
| 15 | 全科目担当者 | 3年生の卒業研究についての理解を深め、各領域に対する自身の関心について吟味する。 | グループワーク | 【予習】各領域の課題や3年生の卒業研究について復習して臨む（90分）<br>【復習】自身の関心について十分吟味する（90分） |
| 16 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 17 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 18 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 19 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習 | グループワーク、発 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | 表 | 調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 20 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 21 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 22 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 23 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 24 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 25 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 26 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 27 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 28 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 29 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| 30 | 全科目担当者 | 学年間の相互学習<br>学年間でのグループワークを行い、最終的にプレゼンテーションを行う。 | グループワーク、発表 | 【予習】相互学習に向けて与えられた課題を調べ、準備すること。またプレゼンテーションに向けての準備も行うこと。（90分）<br>【復習】相互学習で得られた知識を十分に復習すること。（90分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 理学療法管理学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Physical Therapy Management | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | SFP3004 |
| 担当教員 | 高橋　哲也、松田 雅弘、飛山 義憲、相澤　純也 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義ではより質の高い理学療法を実施するため、理学療法を行ううえで必要な管理やマネジメントについて学修することを目標とする。授業では理学療法と国際生活機能分類との関係について理解し、また医療費や診療報酬体系、保健、医療、福祉に関する制度（医療保険、介護保険制度を含む）だけでなく、理学療法教育や臨床実習における管理、理学療法士に必要な職業倫理や社会的役割について学修する。さらに、理学療法業務のマネジメントについても学び、業務に関連する管理・マネジメントについても理解する。 |
| 到達目標 | ・理学療法士に必要な職業倫理、関連法規などを説明できる<br>・保健、医療と理学療法とのかかわりや診療報酬体系について説明できる<br>・理学療法士としてのキャリア形成を理解し、理学療法を行う際のICFや業務に関連する管理・マネジメントを説明できる |
| 授業の位置づけ | 本講義では内部障害系理学療法学や神経系理学療法学、運動器系理学療法学などの専門科目で学修した知識をさらに発展させ、実際の保健、医療、福祉の場においてどのように実践すべきかを学修する。さらに、その後の臨床実習において本講義で得た知識を活用し発展させる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1, 理学DP1- C1①：医の倫理・生命倫理および患者の権利について理解し、医療人としての倫理観を身につけ、それに沿って行動できる<br>共通DP1, 理学DP1- C1②：患者の人権を尊重し、守秘義務を果たすことができる<br>共通DP1, 理学DP1- C1③：インフォームド・コンセントを理解し、実践できる<br>共通DP1, 理学DP1- C1④：社会資源を使って育成されていることを認識し、医療人としての責任感をもって行動できる<br>共通DP2, 理学DP3, 4- C1⑤：医療安全の重要性を理解し、理学療法に伴う基本的なリスク管理ができる<br>共通DP2, 理学DP3, 4- C1⑥：保健・福祉・社会保障などの知識を身につけ、予防医療および地域医療に参加できる |
| 履修上の注意、履修要件 | 1年次の理学療法概論をよく復習したうえで受講すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 小テスト（50%）、期末試験（50%）を統合して評価する。 |
| 評価基準 | ・理学療法士に必要な職業倫理、関連法規を理解できているか<br>・保健、医療と理学療法とのかかわりや診療報酬体系について説明できるか<br>・理学療法を行う際のICFや業務に関連する管理・マネジメントについて説明できるか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| JUNTENDO-PASSPORTのクラスプロファイル機能を使用して行う。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 理学療法管理学 15レクチャーシリーズ　理学療法テキスト | 責任編集：長野　聖（四條畷学園大学），総編集：石川　朗（神戸大学） | 中山書店 | 978-4-521-74813-9 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜日16：00～18：00　保健医療学部理学療法学科（御茶ノ水センタービル）507号室<br>te-takahashi@juntendo.ac.jp　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 臨床経験および臨床の管理経験に基づき、理学療法を管理する能力を養成する。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋 哲也 | 理学療法管理学総論とリスクマネジメント<br>理学療法を行ううえで必要な管理、マネジメントの総論および理学療法実施上のリスクマネジメントについて事例を踏まえながら学習する。 | 講義により学習する。 | 【予習】教科書の11レクチャー、リスク管理を予習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 2 | 高橋 哲也 | 医療費と診療報酬<br>わが国における医療費と診療報酬の支払いのしくみ、理学療法士がかかわるリハビリテーション料の算定・加算について学習する。 | 講義により学習する。 | 【予習】教科書の7レクチャー、診療・介護報酬と収益構造を予習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 高橋 哲也 | 診療報酬の仕組みと理学療法士の社会的役割<br>人件費とコスト、給与の背景を理解するとともに、診療報酬がどのように決定されるかを学習し、さらに理学療法士がどのように社会に貢献していくべきかを学習する。 | 講義により学習する。 | 【予習】1年次の理学療法概論で学習した理学療法士の社会的役割について復習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 4 | 高橋 哲也 | 社会保障と医療保険制度<br>日本の社会保障の構成要素と役割を理解する。理学療法業務に必要な医療保険制度の概要を理解する。 | 講義により学習する。 | 【予習】教科書の4、5レクチャー、社会保障のしくみと医療保険制度について予習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 5 | 飛山 義憲 | 予防医療と地域保健、産業保健<br>保健と医療の連携、理学療法士の保健、予防へのかかわりについて学習する。 | 講義により学習する。 | 【予習】教科書の8レクチャー、保健・医療・介護・福祉の連携を予習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 6 | 飛山 義憲 | 理学療法士の権利擁護と職業倫理<br>理学療法士に必要な倫理やハラスメントについて学習する。 | 講義により学習する。 | 【予習】教科書の13レクチャー、権利擁護と職業倫理を予習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 7 | 飛山 義憲 | 理学療法士と関連法規<br>理学療法士に関連する理学療法士及び作業療法士法などを中心に関連法規を学習する。 | 講義により学習する。 | 【予習】1年次の理学療法概論を復習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 8 | 高橋 哲也<br>吉田 久雄 | 理学療法士にとってのキャリア形成、生涯学習<br>理学療法士の資格を取得した後のキャリア形成の方法や、その後の生涯学習の必要性と重要性について学習する。 | 講義により学習する。 | 【予習】1年次の理学療法概論で学習した理学療法士の働き方について復習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 9 | 高橋 哲也<br>松田 雅弘 | 臨床実習管理<br>臨床実習がどのように管理、マネジメントされているかを学習する。 | 講義により学習する。 | 【予習】教科書の14レクチャー、教育管理を予習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 10 | 相澤 純也 | 情報管理<br>理学療法業務に不可欠な情報収集、記録の意義と管理、コミュニケーション技術について理解する。 | 講義により学習する。 | 【予習】教科書の10レクチャー、情報管理について予習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 11 | 高橋 哲也<br>北原 エリ子 | 感染症管理<br>スタンダードプリコーションを含めた理学療法に必要な感染症対策について学習する。 | 講義により学習する。 | 【予習】12レクチャー、感染症管理を予習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 12 | 高橋 哲也<br>北原 エリ子 | 理学療法業務のマネジメント<br>理学療法業務の実際の流れについて学習する。また、管理者側からみた業務や労務管理、人事考課などについて学習する。 | 講義により学習する。 | 【予習】教科書の9レクチャー、業務管理を予習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 13 | 高橋 哲也 | 理学療法士と職能活動<br>理学療法士の職能活動を理学療法士協会の活動などから学習する。また、理学療法士の政治・政策への関与についても学習する。 | 講義により学習する。 | 【予習】教科書の9レクチャー、15レクチャー予習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 14 | 相澤 純也 | 専門職とチームケア<br>理学療法に関わる専門職と事務職の役割、診療報酬上のチーム医療の実例を学び、チームケアを理解する。 | 講義により学習する。 | 【予習】教科書の3レクチャー、専門職とチームケアを予習すること。（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| 15 | 相澤 純也 | 学会、ガイドラインとの関わり<br>理学療法に関連する主な学会の概要を理解する。理学療法の実施、指導の指針となるガイドラインの概要を理解する。 | 講義により学習する。 | 【予習】以下を確認しておくこと。<br>http://jspt.japanpt.or.jp/<br>http://jspt.japanpt.or.jp/guideline/（90分）<br>【復習】授業資料、学習したことをまとめ、説明できるようにすること。（90分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 検査・測定学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Examination and Evaluation | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 飛山 義憲 | ナンバリング | SFP3100 |
| 担当教員 | 飛山 義憲、宮森　隆行、髙橋 容子、澤　龍一 | | |

授業概要

| | |
|---|---|
| 全体内容 | 本講義では、理学療法における理学療法評価の目的や重要性を理解するとともに、理学療法評価の骨幹となる検査や測定に関する知識を正しく理解し実践できることを目的とする。主として、関節可動域測定や筋力検査の目的や意義、方法に関する基礎知識を修得するとともに、その実施方法について実習を交えて学修する。 |
| 到達目標 | 1)　理学療法評価の概要や目的を理解する。<br>2)　関節可動域の測定方法について説明ができ、実際の測定ができる。<br>3)　徒手筋力検査の検査方法について説明ができ、下肢の検査ができる。 |
| 授業の位置づけ | 本授業では解剖学や運動学で学修する知識を基に関節可動域測定や徒手筋力検査の学修を行うため、解剖学や運動学の科目で得られた知識をさらに発展させる。また、本授業で習得した関節可動域測定や徒手筋力検査は運動器系理学療法学や神経系理学療法学などの専門科目において活用されるため、本授業で得られた知識を専門科目へと発展させる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2, 理学DP3,4 -C1①：身体機能と構造、疾病・障害・治療を理解し、説明できる<br>共通DP2, 理学DP3,4 -C1②：医学的知識に基づき患者の状況・ニーズを評価できる |
| 履修上の注意、履修要件 | 本講義では関節の運動方向や、基本軸および移動軸の決定の際に骨のランドマークについての理解および知識が必須であるため、解剖学で学修したこれらの点を復習して授業に臨む。<br>また、関節の運動を引き起こす筋の名称および作用についても理解が必要なため、同時期に開講される運動学の知識も併せて学修する。 |

成績評価の方法

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 小テスト（30%）、実技課題（30%）、期末試験（40%）を統合して評価するが、期末試験は60%以上の得点率を必須とする。 |
| 評価基準 | 関節可動域測定、下肢の徒手筋力検査について実施方法を理解し、実践できるレベルに到達しているか。また実技の実践方法について、十分な知識を基に詳細に考察することができるか。 |

試験・課題等に対するフィードバック方法

小テストについては、回答後の結果開示の際に正答および解説を表示し、リンクを開示し随時復習を可能にする。

テキスト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 新・徒手筋力検査法　原著第10版 | Dale Avers, Marybeth Brown 著　津山直一, 中村耕三 訳 | 協同医書出版社 | 978-4-7639-0041-8 | |
| 理学療法評価学　第3版 | 内山 靖 / 岩井 信彦 | 医学書院 | 978-4-260-03639-9 | |

参考文献

解剖学および運動学指定のテキスト

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜日13：00～16：00　保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）503号室<br>事前メール連絡で随時対応；y.hiyama.cj@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | 臨床経験に基づき、検査・測定を実践する能力を養成する。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 飛山 義憲 | 検査・測定の概要、関節可動域測定について<br>(1) 検査・測定の進め方と妥当性、信頼性について理解する。<br>(2) 検査・測定におけるオリエンテーションとインフォームドコンセントについて理解する。<br>(3) 関節可動域の概要と一般的な計測方法について理解する。<br>(4) 関節可動域に必要なランドマークの触診について学習する。 | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】解剖学で学習した関節の名称、運動方向について復習する。（90分）<br>【復習】関節可動域測定に必要な知識とランドマークの触診方法をまとめる。（90分） |
| 2 | 飛山 義憲 | 膝関節、足関節、足部の関節可動域測定 | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】実技に向けて膝関節、足関節、足部の運動方向およびランドマークについてまと |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | める。（90分）<br>【復習】膝関節、足関節、足部の関節可動域測定の実践方法についてまとめる。（90分） |
| 3 | 飛山 義憲 | 股関節の関節可動域測定 | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】実技に向けて股関節の運動方向およびランドマークについてまとめる。（90分）<br>【復習】股関節の関節可動域測定の実践方法についてまとめる。（90分） |
| 4 | 飛山 義憲 | 肩関節の関節可動域測定 | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】実技に向けて肩関節の運動方向およびランドマークについてまとめる。（90分）<br>【復習】肩関節の関節可動域測定の実践方法についてまとめる。（90分） |
| 5 | 飛山 義憲 | 肩甲帯、肘関節、前腕、手の関節可動域測定 | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】実技に向けて肩甲帯、肘関節、前腕、手の運動方向およびランドマークについてまとめる。（90分）<br>【復習】肩甲帯、肘関節、前腕、手の関節可動域測定の実践方法についてまとめる。（90分） |
| 6 | 飛山 義憲 | 頸部、胸腰部の関節可動域測定 | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】実技に向けて頸部、胸腰部の運動方向およびランドマークについてまとめる。（90分）<br>【復習】頸部、胸腰部の関節可動域測定の実践方法についてまとめる。（90分） |
| 7 | 飛山 義憲 | 手指、足趾の関節可動域測定、関節可動域測定のまとめ | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】実技に向けて手指、足趾の運動方向およびランドマークについてまとめ、さらにこれまで学習した関節可動域測定について復習する。（90分）<br>【復習】これまでに学習した関節可動域測定の実践方法について改めて復習し、資料を見ずに実践できるようにする。（90分） |
| 8 | 飛山 義憲 | 関節可動域測定の実技課題 | これまでの授業で行った関節可動域測定の結果をグループワークによりゼミごとにまとめ、検者間信頼性について討議する。さらに、検者間信頼性を高める方法についての討議を行い発表する。 | 【予習】これまでに学習した関節可動域測定の方法をまとめ、測定すべき項目をすべて終える。（90分）<br>【復習】関節可動域測定の方法について改めて復習し、検者間信頼性を高める方法について理解を深める。（90分） |
| 9 | 飛山 義憲 | 股関節の徒手筋力検査（屈曲、屈曲、外転、外旋および膝屈曲） | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】該当する股関節の筋について復習し、起始停止および作用についてまとめる。（90分）<br>【復習】学習した股関節の徒手筋力検査の実践方法についてまとめる。（90分） |
| 10 | 飛山 義憲 | 股関節の徒手筋力検査（伸展および伸展の変法） | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】該当する股関節の筋について復習し、起始停止および作用についてまとめる。（90分）<br>【復習】学習した股関節の徒手筋力検査の実践方法についてまとめる。（90分） |
| 11 | 飛山 義憲 | 股関節の徒手筋力検査（外転、内転、外旋、内旋） | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】該当する股関節の筋について復習し、起始停止および作用についてまとめる。（90分）<br>【復習】学習した股関節の徒手筋力検査の実践方法についてまとめる。（90分） |
| 12 | 飛山 義憲 | 膝関節（屈曲、伸展）、足関節（底屈、背屈と足の内がえし）の徒手筋力検査 | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】該当する膝関節および足関節の筋について復習し、起始停止および作用についてまとめる。（90分）<br>【復習】学習した膝関節および足関節の徒手筋力検査の実践方法についてまとめる。（90分） |
| 13 | 飛山 義憲 | 足関節（内がえし、底屈を伴う外がえし）、足趾の徒手筋力検査 | 講義および演習により学習を行う。 | 【予習】該当する足関節および足趾の筋について復習し、起始停止および作用についてまとめる。（90分）<br>【復習】学習した足関節および足趾の徒手筋 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 力検査の実践方法についてまとめる。（90分） |
| 14 | 飛山 義憲 | 徒手筋力検査の総復習 | 演習により学習を行う。 | 【予習】下肢の徒手筋力検査の知識をまとめる。（90分）<br>【復習】次週の実技テストに向け、下肢の徒手筋力検査の実践方法についてまとめる。（90分） |
| 15 | 飛山　義憲 | 関節可動域測定、徒手筋力検査の実技テスト | 演習により学習を行う。 | 【予習】実技テストに向けて関節可動域測定、下肢の徒手筋力検査の知識をまとめる。（90分）<br>【復習】関節可動域測定、下肢の徒手筋力検査の実践方法についてまとめる。（90分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 検査・測定学演習 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Physical Therapy Practice in Examination and Evaluation | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 宮森　隆行 | ナンバリング | SFP3101 |
| 担当教員 | 宮森　隆行、飛山 義憲、髙橋 容子、澤　龍一 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本演習では、理学療法における検査や測定を含む理学療法評価の流れ、理学療法評価における基本的な検査や測定を演習を通して実践し、学修することを目的とする。検査・測定学において学修した循環機能検査や形態測定、関節可動域測定、筋力検査、整形外科疾患検査、疼痛評価、知覚検査、反射検査などの各種測定、検査に関する基礎知識に基づき、学生間での演習を通じて実践する。また検査や測定の演習から得られた結果を記録し、結果を解釈する評価過程についても演習を通じて学修する。本演習では、学生間での演習を通じて、インフォームドコンセントを含む患者への倫理的配慮やコミュニケーション、医療従事者としての心構え等についても学修することとする。 |
| 到達目標 | ・検査・測定にあたり十分なオリエンテーションができる。<br>・関節可動域測定や徒手筋力検査など検査・測定学において学んだ測定および検査を規定された方法に沿って実践できる。 |
| 授業の位置づけ | 本演習は、理学療法の基本的な検査・測定技術である関節可動域測定や筋力測定、疼痛評価・知覚検査などを正確に実施できることを目的とするとともに、得られた結果に対して、解剖学・生理学・運動学などの知識を用いて制限因子等を評価することを学修する。本演習で習得した知識・技術は、２年次の臨床実習Ⅱ（検査・測定）にて発展させる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-CⅠ、DP2-CⅠ<br>理学DP1-CⅠ、DP2-CⅠ、DP3-CⅠ、DP4-CⅠ |
| 履修上の注意、履修要件 | 解剖学、生理学、運動学についての理解が必須であるため、よく復習をして授業に臨むこと。また検査・測定学において学んだ知識を復習しておくこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 期末試験（70%）及び小テスト（30%）との合計点により最終評価を行う。 |
| 評価基準 | 関節可動域測定および上肢、顔面の徒手筋力検査について実施方法を理解し、実践できるレベルに到達しているか。また、実技の実践方法について、十分な知識を基に詳細に考察することができるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 小テストについては、回答後の結果開示の際に正答および解説を表示し、リンクを開示し随時復習を可能にする。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 新・徒手筋力検査法　原著第10版 | Dale Avers，MarybethBrown 著　津山直一，中村耕三 訳 | 協同医書出版社 | 978-4-7639-0041-8 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 内山靖　岩井信彦（編）理学療法評価学　第3版　医学書院 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜日13：00～16：00　保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）508号室<br>事前メール連絡で随時対応；t.miyamori.hi@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | 臨床経験に基づき、検査・測定を実践する能力を養成する。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【検査・測定のオリエンテーション、循環機能検査】<br>検査・測定のオリエンテーションの方法やインフォームドコンセントを得る方法を学習し、演習する。また、血圧などの循環機能検査について演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ循環機能検査の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 2 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【形態測定、知覚検査、反射検査】<br>周径や上肢長、下肢長などの形態測定、知覚検査、反射検査の演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ形態・知覚・反射検査方法の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 3 | 飛山　義憲 | 【疼痛評価、整形外科疾患検査】 | 講義および演習によ | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 疼痛評価の方法や注意点、また各種整形外科疾患検査の演習を行う。 | り学修を行う。 | 検査・測定学で学んだ疼痛評価、整形外科疾患検査の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 4 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【肩関節の検査・測定（1）】<br>肩関節の関節可動域測定についての演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ肩関節の関節可動域測定について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 5 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【肩関節の検査・測定（2）】<br>肩関節の徒手筋力検査についての演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ肩関節の徒手筋力検査について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 6 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【肩甲帯の検査・測定（1）】<br>肩甲帯の関節可動域測定についての演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ肩甲帯の関節可動域測定について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 7 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【肩甲帯の検査・測定（2）】<br>肩甲帯の徒手筋力検査についての演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ肩甲帯の徒手筋力検査について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 8 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【上肢の検査・測定（1）】<br>上肢の関節可動域測定についての演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ上肢の関節可動域測定について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 9 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【上肢の検査・測定（2）】<br>上肢の徒手筋力検査についての演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ上肢の徒手筋力検査について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 10 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【股関節の検査・測定（1）】<br>股関節の関節可動域についての演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ股関節の関節可動域測定について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 11 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【股関節の検査・測定（2）】<br>股関節の徒手筋力検査についての演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ股関節の徒手筋力検査について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 12 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【膝、足関節の検査・測定（1）】<br>膝、足関節の関節可動域についての演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ膝、足関節の関節可動域測定について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 13 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【膝、足関節の検査・測定（2）】<br>膝、足関節の徒手筋力検査についての演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ膝、足関節の徒手筋力検査について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 14 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行 | 【頸部、体幹の検査・測定】<br>頸部、体幹の関節可動域測定、徒手筋力検査について演習を | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ頸部、体幹の関節可動 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 行う。 | | 域測定、徒手筋力検査について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 15 | 飛山　義憲<br>宮森　隆行<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【顔面などその他の検査】<br>顔面の徒手筋力検査などについて演習を行う。 | 講義および演習により学修を行う。 | 【予習】（90分）<br>検査・測定学で学んだ顔面の徒手筋力検査について復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>演習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 運動療法評価学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Evaluation in Therapeutic Exercise | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 齊藤　正和 | ナンバリング | SFP3102 |
| 担当教員 | 齊藤　正和、宮森　隆行、飛山 義憲 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、理学療法の中心的技術である運動療法の歴史的変遷や論理的枠組みについて学ぶ。運動療法の理論、目的、方法、適応などついて、解剖学、運動学、生理学などの専門基礎科目を基盤として学ぶ。また基本的な運動療法や評価に関する知識に加えて、運動器系、神経系、内部障害系などの障害別の運動療法の原理や臨床で適用可能な知識の修得を目指す。更に運動療法に伴うリスクを最小限にするための評価に基づいた運動療法について学修する。加えて運動療法の安全性、妥当性及び効果を判断する際の評価項目や測定値の精度、信頼性、妥当性について学修する。 |
| 到達目標 | ・運動療法の目的と原理を説明することができる。<br>・運動療法を行ううえで重要なリスク管理を理解し、評価に基づく運動療法を実施することができる。<br>・疾患や症状に応じた基本的な運動療法の目的や手技及び評価方法について説明することができる。 |
| 授業の位置づけ | 解剖学、生理学、運動学で学んだ知識を活用し、疾患や病態ごとに必要となる理学療法評価、運動療法の目的や実施方法について学習する授業の位置づけとする。<br>理学療法評価の結果に基づく、基本的な運動療法プログラムの立案について学習し、運動器系理学療法学、神経系理学療法学、内部障害系理学療法学などの疾患別理学療法の授業の基礎的な位置づけとする。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 理学DP2-CP1<br>理学DP2-CP2<br>理学DP2-CP3<br>理学DP2-CP4<br>理学DP2-CP5<br>理学DP6-CP1<br>理学DP6-CP2<br>理学DP6-CP3<br>理学DP6-CP4<br>理学DP6-CP5<br>理学DP7-CP1<br>理学DP7-CP2<br>理学DP7-CP3<br>理学DP7-CP4<br>理学DP7-CP5 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・解剖学、生理学授業で学んだことの復習を行うこと。<br>・各講義前後には必ず予習、復習を行うこと。<br>・各講義終了前に講義内容のミニテストを行う。<br>・不明な部分があれば講義終了後に担当教員に積極的に質問すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業毎に実施する小テスト（40%）<br>期末テスト(60%) |
| 評価基準 | ・疾患や症状に応じた運動療法の目的を説明することができるか？<br>・運動療法の原理を説明することができるか？<br>・疾患や症状に応じた運動療法を行ううえで重要なリスク管理を理解しているか？<br>・疾患や症状に応じた理学療法評価の結果を解釈し、結果に基づき運動療法プログラムを立案できるか？ |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Google classroomを利用して行う | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| ・運動療法学 第2版 障害別アプローチの理論と実際, 文光堂, 編集 市橋則明<br>・別途、講義資料を配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | メールにて随時対応する。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 齊藤　正和 | オリエンテーション、運動療法の原則や設定と理論 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】運動療法の歴史、運動療法の目的や原則について調べる（90分）<br>【復習】運動療法の歴史、運動療法の目的や原則について整理する（90分） |
| 2 | 齊藤　正和 | 加齢による機能、能力の変化 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】高齢者の運動機能や能力低下の特徴ついて調べる（90分）<br>【復習】高齢者の運動機能や能力低下の特徴ついて整理する（90分） |
| 3 | 齊藤　正和 | 運動による呼吸、循環機能の変化 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】安静時および運動時の呼吸・循環機能について調べる（90分）<br>【復習】安静時および運動時の呼吸・循環機能について整理する（90分） |
| 4 | 宮森　隆行 | 運動による筋の変化 | 講義、グループワーク、ディスカッション講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】運動による筋肉の変化について調べる（90分）<br>【復習】運動による筋肉の変化について整理する（90分） |
| 5 | 飛山　義憲 | 関節可動域に対する運動療法と評価法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】関節可動域の評価法および運動療法の特徴について調べる（90分）<br>【復習】関節可動域の評価法および運動療法の特徴について整理する（90分） |
| 6 | 飛山　義憲 | 筋力低下に対する運動療法と評価法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】筋力低下の評価法や運動療法の特徴について調べる（90分）<br>【復習】筋力低下の評価法や運動療法の特徴について整理する（90分） |
| 7 | 飛山　義憲 | 運動学習 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】運動学習についてついて調べる（90分）<br>【復習】運動学習について整理する（90分） |
| 8 | 宮森　隆行 | 持久力低下に対する運動療法と評価法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】持久力低下の評価法や運動療法の特徴について調べる（90分）<br>【復習】持久力低下の評価法や運動療法の特徴について整理する（90分） |
| 9 | 宮森　隆行 | 歩行障害に対する評価と運動療法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】歩行障害に対する運動療法と評価法について調べる（90分）<br>【復習】歩行障害に対する運動療法と評価法について整理する（90分） |
| 10 | 宮森　隆行 | 姿勢障害に対する評価と運動療法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】姿勢障害に対する評価と運動療法の特徴について調べる（90分）<br>【復習】姿勢障害に対する評価と運動療法の特徴について整理する（90分） |
| 11 | 宮森　隆行 | 協調性障害に対する評価と運動療法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】協調性障害の評価法および運動療法の特徴について調べる（90分）<br>【復習】協調性障害の評価法および運動療法の特徴について整理する（90分） |
| 12 | 飛山　義憲 | バランス障害に対する評価と運動療法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】バランス障害の評価法や運動療法の特徴について調べる（90分）<br>【復習】バランス障害の評価法や運動療法の特徴について整理する（90分） |
| 13 | 齊藤　正和 | 呼吸障害に対する評価と運動療法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】呼吸障害の評価法や運動療法の特徴について調べる（90分）<br>【復習】呼吸障害の評価法や運動療法の特徴について整理する（90分） |
| 14 | 齊藤　正和 | 循環障害の評価と運動療法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】循環障害の評価法や運動療法の特徴について調べる（90分）<br>【復習】循環障害の評価法や運動療法の特徴について整理する（90分） |
| 15 | 齊藤　正和 | 高齢者の機能、能力障害に対する評価と運動療法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】高齢者特有の機能、能力低下などの評価法や運動療法について調べる（90分）<br>【復習】高齢者特有の機能、能力低下などの評価法や運動療法について整理する（90分） |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 運動療法評価学実習 | 授業形態 | 実験・実習 |
| 英語科目名 | Practice of Therapeutic Exercise Evaluation | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 宮森　隆行 | ナンバリング | SFP3103 |
| 担当教員 | 宮森　隆行、藤野 雄次、齊藤　正和、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本実習は、理学療法の中心的技術である運動療法及び評価についての理論を実際に体得することを目的とする。本実習は、運動学、解剖学、生理学などの専門基礎科目を基盤とする科目である。運動器系・神経系・内部障害系など様々な疾患や症状に対応する運動療法と評価の原理と方法を学習する。ストレッチ、レジスタンストレーニング、バランストレーニング、歩行障害に対する運動療法、心拍数や自覚的運動強度に基づく運動処方、高齢者に対する運動療法などの基本的な手技を習得することを目的とする。また運動療法機器や運動療法評価に用いる機器の使用法や測定値の解釈について、教科書と資料を用いた実習に加え、各実習の課題、グループ発表、小テストを実施する。 |
| 到達目標 | 1) 運動に対する生体の反応を理解する。<br>2) 機能、能力障害に対する評価および運動療法の実施方法について理解する。 |
| 授業の位置づけ | 本授業では、運動療法評価学で学修した運動療法を行う場合の基礎知識を用いて、各種障害に対する運動療法を学修する。具体的には、関節可動域制限、筋力低下、持久力低下、バランス・姿勢障害、協調性運動障害、循環と代謝に焦点を当て、障害分類、評価の進め方、運動療法の進め方について理解を深め、実践する。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C Ⅰ、DP2-C Ⅰ<br>理学DP1-C Ⅰ、DP2-C Ⅰ、DP3-C Ⅰ、DP4-C Ⅰ、DP5-C Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | 前期に学習した運動療法評価学を十分に復習して臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 実習課題(20%)、グループ発表(10%)、小テスト(30%)、定期試験（40%)による。 |
| 評価基準 | 各種運動療法の評価内容および方法を理解し、実施できるレベルに到達しているか。また、リスク管理の下で運動療法を安全に実施することができるかを基準とする。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 小テストについては授業内で解説を行い、後日Juntendo Passportに解説をアップロードする。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 運動療法学　第2版 | 市橋則明編 | 文光堂 | 978-4-8306-4503-7 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 火曜日：15:00-17:00　本郷・お茶の水キャンパス　保健医療学部理学療法学科　5階<br>t.miyamori.hi@juntendo.ac.jp（事前メールにて随時対応） |
| 担当教員の実務経験 | 臨床経験に基づき、理学療法を実践する能力を養成する。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 齊藤 | 運動による呼吸，循環機能の反応（1） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 2 | 齊藤 | 運動による呼吸，循環機能の反応（2） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 3 | 齊藤 | 持久力低下に対する評価と運動療法（1） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 4 | 齊藤 | 持久力低下に対する評価と運動療法（2） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 5 | 齊藤 | 持久力低下に対する評価と運動療法（3） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 6 | 齊藤 | 持久力低下に対する評価と運動療法（4） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 7 | 宮森 | 運動による筋の反応（1） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 8 | 宮森 | 運動による筋の反応（2） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 9 | 宮森 | 筋力低下に対する評価と運動療法（1） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 10 | 宮森 | 筋力低下に対する評価と運動療法（2） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 11 | 宮森 | 筋力低下に対する評価と運動療法（3） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 12 | 宮森 | 筋力低下に対する評価と運動療法（4） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 13 | 宮森 | 関節可動域制限に対する評価と運動療法（1） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 14 | 宮森 | 関節可動域制限に対する評価と運動療法（2） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 15 | 宮森 | 関節可動域制限に対する評価と運動療法（3） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 16 | 宮森 | 関節可動域制限に対する評価と運動療法（4） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 17 | 宮森 | 姿勢障害に対する評価と運動療法（1） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 18 | 宮森 | 姿勢障害に対する評価と運動療法（2） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 19 | 宮森 | 姿勢障害に対する評価と運動療法（3） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 20 | 齊藤 | バランス障害に対する評価と運動療法（1） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 21 | 齊藤 | バランス障害に対する評価と運動療法（2） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 22 | 齊藤 | バランス障害に対する評価と運動療法（3） | 講義および実習により学習を行う。 | 【予習】（90分）<br>該当部分の解剖学、生理学の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| 23 | 宮森 | まとめ | これまでの運動療法の理論と実践についてグループディスカッションを行う。 | 【予習】（90分）<br>これまでの実習の復習をしておくこと。<br>【復習】（90分）<br>実習内容を総復習し、しっかりと知識を定着させること。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 理学療法画像評価学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Clinical Imaging Evaluation in Physical Therapy | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 京極　伸介 | ナンバリング | SFP3104 |
| 担当教員 | 京極　伸介 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、放射線の特徴、各種画像診断機器（一般撮影装置、X線透視装置、CT装置、MRI装置、血管造影装置、核医学装置、超音波装置など）、それらから得られる各種画像の特徴と基本的な読影方法について講義する。また理学療法の対象となる中枢神経疾患（脳卒中、脳血管障害、脊髄損傷など）、整形外科疾患（骨折、変形性関節症、椎間板ヘルニア、靭帯損傷など）、呼吸器疾患（肺炎、慢性閉塞性肺疾患など）、心疾患（心不全、心筋梗塞など）の画像の特徴について臨床例を供覧し、理学療法への活用について教授する。 |
| 到達目標 | 各種画像診断機器の特徴を理解し説明できる。<br>リハビリテーションの対象となる代表的疾患の画像所見について理解し説明できる。<br>画像所見を理解し、それに応じた適切なリハビリテーションプランを選択できる。 |
| 授業の位置づけ | 専門分野　理学療法評価学 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP3-C1<br>人体の機能や構造および疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身についていること。<br>理学療法を必要としている人々に対して、科学的根拠に基づき理学療法を実践できること。 |
| 履修上の注意、履修要件 | 事前に解剖学の復習をし、正常人体解剖を理解しておくこと。<br>講義で学ぶ画像解剖と人体解剖をリンクさせ、理解を深める。<br>事前あるいは事後に配布される資料やテキストを参考に知識をまとめる。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験（９０％）と出席状況（１０％）の合計点より最終評価を行う。 |
| 評価基準 | 成績不良と判定された場合は再試験あるいは課題レポート提出の対象となる。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| juntendo-passportによる情報配信あるいは紙ベースでの資料配付を検討 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 事前メールにて随時対応<br>skyogoku@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | 1年次前期の「キャリアデザインゼミナール」、2年次前期の「放射線診断学」、２年次後期の「X線撮影技術学II(血管造影・ＭＲＩ)」を担当している。<br>医師としての臨床経験を活かし、学生指導にあたる。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>5月10日（火）スタート | 京極伸介 | 【総論】<br>画像診断の歴史と各種画像診断装置の概説について学習する。 | | 【予習】（９０分）<br>画像診断機器についてテキストで予習し、概略を理解しておくこと。<br>【復習】（９０分）<br>事前あるいは事後に配布された資料を見直し、必要事項を補足し整理しておくこと。 |
| 2 | | 【脳】<br>脳の正常像を学習し、その上で脳卒中、脳血管障害、頭部外傷の画像所見を学習する。 | | 【予習】（９０分）<br>この領域の解剖について解剖学講義の復習をしておくこと。<br>【復習】（９０分）<br>事前あるいは事後に配布された資料を見直し、必要事項を補足し整理しておくこと。 |
| 3 | | 【脊椎・脊髄】<br>脊椎・脊髄に関して変形性脊椎症、ヘルニア、圧迫骨折、外傷の画像所見を学習する。 | | 【予習】（９０分）<br>この領域の解剖について解剖学講義の復習をしておくこと。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（９０分）<br>事前あるいは事後に配布された資料を見直し、必要事項を補足し整理しておくこと。 |
| 4 | | 【骨・関節】<br>整形外科領域の骨折、スポーツ外傷、退行性変化などの画像所見を学習する。 | | 【予習】（９０分）<br>この領域の解剖について解剖学講義の復習をし、３次元的にイメージしておくこと。<br>【復習】（９０分）<br>事前あるいは事後に配布された資料を見直し、必要事項を補足し整理しておくこと。 |
| 5 | | 【呼吸器】<br>胸部の正常像を理解し、肺炎、慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）の画像所見について学習する。 | | 【予習】（９０分）<br>この領域の解剖について解剖学講義の復習をし、３次元的にイメージしておくこと。<br>【復習】（９０分）<br>事前あるいは事後に配布された資料を見直し、必要事項を補足し整理しておくこと。 |
| 6 | | 【心・大血管】<br>循環器系の検査や正常像を理解し、心不全、心筋梗塞の画像所見を学習する。 | | 【予習】（９０分）<br>この領域の解剖について解剖学講義の復習をし、３次元的にイメージしておくこと。<br>【復習】（９０分）<br>事前あるいは事後に配布された資料を見直し、必要事項を補足し整理しておくこと。 |
| 7 | | 【まとめ小テスト】<br>これまでの範囲からのまとめ小テストを実施<br>終了後、問題解説を行う。 | | 【予習】（９０分）<br>この領域の解剖について解剖学講義の復習をし、３次元的にイメージしておくこと。<br>【復習】（９０分）<br>事前あるいは事後に配布された資料を見直し、必要事項を補足し整理しておくこと。 |
| 8 | 京極伸介 | 【まとめ総括】<br>前回のまとめ小テストでの誤答が多い問題について分析し、解説を追加する。 | | これまでの講義を振り返り、疑問点や理解不足の項目があれば自身で調べたり、教員に質問すること。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 物理療法学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Physical Agents | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 山口　智史 | ナンバリング | SFP3200 |
| 担当教員 | 山口　智史 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 物理療法の目的である機能障害や活動制限、参加制約の評価、治療、予防を実践するための物理療法の知識（評価手法、物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌、実施方法の手順）についての講義である。本講義では、物理療法で使用される電気生理的エネルギーや生物物理学的エネルギーによる生体反応を理解し、適応及び禁忌についての知識を習得することが主目的である。また物理療法の適応となる病態の理解から、その病態に適した物理療法を選択し、正しく使用するための実施方法と効果判定について教授する。評価手法においては、超音波検査法や電気生理学的検査法などについて教授する。また最新の物理療法に関する知見についても講義し、臨床で使用するための基礎と応用について教授する。 |
| 到達目標 | 1. 物理療法による生体反応、適応および禁忌について説明することができる。<br>2. 物理療法の正しい実施方法、効果判定方法について説明することができる。<br>3. 病態に適した物理療法を選択し、理学療法プログラムに取り入れることができる。 |
| 授業の位置づけ | 物理療法学は、神経系、筋骨格系、循環（心臓・血管）、代謝などの解剖学・生理学・病理学などの科目で学習する知識と高等学校で学習する程度の物理（特に、電磁気学、波、熱、力学）に関する知識を応用する必要がある。また、物理療法学実習の科目では、本授業で学んだ知識を基に、物理療法機器の操作などの実習を行う必要がある。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-C Ⅰ、理学DP2-C Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | 物理療法学を十分に理解するためには、解剖学・生理学・病理学などの知識と高等学校で学習する程度の物理（特に、電磁気学、波、熱、力学）に関する知識が必要となる。履修前に、神経系、筋骨格系、循環（心臓・血管）、代謝などの解剖学・生理学・病理学と物理に関する復習を行うことが重要である。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験、授業内課題、授業態度を総合して、全体で100％として評価する。<br>1. 定期試験　：筆記試験により知識の理解度を60％の割合で評価する。<br>2. 授業内課題：小テスト、レポート、プレゼンテーションなどにより、課題の達成度を20％の割合で評価する。<br>3. 授業態度：授業への参加や積極性を判断し、20％の割合で評価する。 |
| 評価基準 | 1. 物理療法による生体反応、適応および禁忌について説明することができるか。<br>2. 物理療法の正しい実施方法、効果判定方法について説明することができるか。<br>3. 病態に適した物理療法を選択し、理学療法プログラムに取り入れることができるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 課題提出締切後、授業内で返却する。講義に関する質問などは、次回講義の最初に解説する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 物理療法学（標準理学療法学専門分野） | 網本 和 / 菅原 憲一 | 医学書院 | 978-4-260-03948-2 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| エビデンスから身につける物理療法、庄本康治、羊土社 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 火曜日：11:00～12:00 |
| 担当教員の実務経験 | 日本理学療法士協会が認定する専門理学療法士（物理療法）取得、日本理学療法士協会の物理療法研究会・副理事長、日本物理療法学会理事、International Society for Electrophysical Agents in Physical Therapy (ISEAPT) executive committee member, Sub Group of WCPT |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 山口　智史 | 【物理療法学総論】<br>物理療法の歴史、定義、各種物理療法の紹介、臨床場面での物理療法の使用例について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>物理療法の種類について、教科書で確認し、それぞれの目的を大まかに理解する。<br>【復習】（90分）<br>各種物理療法について、目的によって分類することで、適応について大まかに理解する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 山口　智史 | 【物理療法に関わる評価Ⅰ】<br>病態に合わせて適切な物理療法を選択するための、疼痛評価、超音波検査法などの方法とデータ解釈について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>疼痛の評価について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>疼痛の評価について、実際に使用する。 |
| 3 | 山口　智史 | 【炎症の病態と物理療法】<br>炎症の理解、炎症治療に用いられる物理療法（寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法（TENS）など）の生理的作用、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>炎症の病理について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>炎症が生じる過程で、各種物理療法がどのような影響を与えることができるのかを整理する。 |
| 4 | 山口　智史 | 【疼痛の病態と物理療法Ⅰ】<br>急性期疼痛の理解、疼痛治療に用いられる物理療法（寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法（TENS）など）の生理的作用、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>急性期疼痛について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>急性期疼痛に対して、各種物理療法がどのような影響を与えることができるのかを整理する。 |
| 5 | 山口　智史 | 【疼痛の病態と物理療法Ⅱ】<br>亜急性期疼痛の理解、亜急性期疼痛の治療に用いられる物理療法（温熱療法、超音波療法、電気刺激療法（TENS・NMES）など）の生理的作用、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>亜急性期の疼痛について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>亜急性期の疼痛に対して、各種物理療法がどのような影響を与えることができるのかを整理する。 |
| 6 | 山口　智史 | 【疼痛の病態と物理療法Ⅲ】<br>慢性期疼痛の理解、慢性期疼痛の治療に用いられる物理療法（温熱療法、光線療法、振動刺激療法など）の生理的作用、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>慢性期疼痛について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>慢性期の疼痛に対して、各種物理療法がどのような影響を与えることができるのかを整理する。 |
| 7 | 山口　智史 | 【関節可動域制限と物理療法】<br>関節可動域制限の理解、関節可動域制限の治療に用いられる物理療法（超音波療法、持続性他動運動（CPM）など）の生理学的作用、治療内容、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>関節可動域制限の病理について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>関節可動域制限に対して、各種物理療法がどのような影響を与えることができるのかを整理する。 |
| 8 | 山口　智史 | 【物理療法に関わる評価Ⅱ】<br>病態に合わせて、適切な物理療法を選択するための電気生理学的評価（誘発筋電図・経頭蓋磁気刺激など）の方法とデータ解釈について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>生理学（特に脊髄反射）と解剖学（運動関連脳領域）について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>各種の評価によって、何がわかるのかを整理する。 |
| 9 | 山口　智史 | 【中枢神経疾患の症状と物理療法Ⅰ】<br>痙縮の病態の理解、痙縮治療に用いられる物理療法（電気刺激療法（TES）、振動刺激療法など）の生理学的作用、治療内容、適応と禁忌、実施方法について講義する。廃用性筋力低下の理解、廃用性筋力低下の治療に用いられる物理療法（電気刺激療法（NMES）、パルス磁気刺激など）の生理学的作用、治療内容、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>痙縮の病態と廃用性筋力低下について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>痙縮と廃用性筋力低下に対して、各種物理療法がどのような影響を与えることができるのかを整理する。 |
| 10 | 山口　智史 | 【中枢神経疾患の症状と物理療法Ⅱ】<br>運動麻痺の理解、運動麻痺の治療に用いられる物理療法（電気刺激療法（FES）、バイオフィードバック療法など）の生理学的作用、治療内容、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>運動麻痺（特に運動に関わる解剖学）について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>運動麻痺に対して、各種物理療法がどのような影響を与えることができるのかを整理する。 |
| 11 | 山口　智史 | 【創傷の病態と物理療法】<br>創傷と組織回復の理解、創傷治療に用いられる物理療法（超音波療法、水治療法、電気刺激療法など）の生理学的作用、治療内容、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）創傷と組織回復の過程について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）創傷に対して、各種物理療法がどのような影響を与えることができるのかを整理する。 |
| 12 | 山口　智史 | 【スポーツ傷害の物理療法】<br>スポーツ傷害に用いられる物理療法（電気刺激療法、超音波療法、寒冷療法、ショックウェーブ療法など）の生理学的作用、治療内容、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>スポーツ傷害の症状について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>スポーツ傷害に対して、各種物理療法がどの |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | ような影響を与えることができるのかを整理する。 |
| 13 | 山口　智史 | 【運動器疾患の物理療法】<br>運動器疾患（頸部痛・腰痛や術後）に用いられる物理療法（脊椎牽引療法、水治療法、温熱療法など）の生理学的作用、治療内容、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>運動器疾患（頸部痛・腰痛や術後）について、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>運動器疾患（頸部痛・腰痛や術後）に対して、各種物理療法がどのような影響を与えることができるのかを整理する。 |
| 14 | 山口　智史 | 【中枢神経疾患の物理療法】<br>主に脳卒中や脊髄損傷後の電気刺激療法と運動療法の併用治療による生理学的作用、治療内容、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>脳卒中や脊髄損傷後の症状ついて、教科書で確認する。<br>【復習】（90分）<br>電気刺激療法と運動療法の併用治療が、どのような疾患や症状に適用できるのかを考察する。 |
| 15 | 山口　智史 | 【最新の物理療法】<br>最新の物理療法に関わる知見として、各種物理療法と運動療法の併用、非侵襲的脳刺激法（経頭蓋直流電気刺激など）など生理学的作用、治療内容、適応と禁忌、実施方法について講義する。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>これまでの講義で学んだ物理療法の適応について確認する。<br>【復習】（90分）<br>従来の物理療法と比べて、最新の物理療法の違いを考察し、その適応と可能性を考察する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 物理療法学実習 | 授業形態 | 実験・実習 |
| 英語科目名 | Practice of Electrophysical Agents | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 山口　智史 | ナンバリング | SFP3201 |
| 担当教員 | 山口　智史、髙橋 容子、春山　幸志郎 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 「物理療法学」で得た知識（評価手法、物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌、実施方法の手順）について、実技演習を通して、具体的な手順や実施方法について学ぶことが目的である。実技演習では、学生同士でオリエンテーションや機器操作を行い、自ら物理療法を体験することで、臨床で実施するための一連の流れについて習得する。さらに物理療法に関する知識について復習し、中枢神経疾患や運動器疾患、スポーツ傷害などに対しての物理療法と理学療法を併用した治療について、応用実践ついても教授する。また機器の安全性確認、メンテナンスの方法についても教授し、臨床で物理療法を実施する理学療法士として、安全確実に試行できるようになることが目標である。 |
| 到達目標 | 1. 物理療法による生体反応、適応および禁忌を理解し、病態に応じた適切な物理療法を選択することができる。<br>2. 物理療法に用いる機器を、適切な手順で操作することができる。<br>3. 物理療法前後の生体反応から、その効果について論理的に説明することができる。 |
| 授業の位置づけ | 物理療法学実習は、神経系、筋骨格系、循環（心臓・血管）、代謝などの解剖学・生理学・病理学などの科目で学習する知識と高等学校で学習する程度の物理（特に、電磁気学、波、熱、力学）に関する知識を応用する必要がある。また、同時に開講されている「物理療法学」で得た知識として、評価手法、物理療法の原理、目的、生理的作用、適応、禁忌、実施方法の手順を利用して、実技演習を遂行することで、具体的な手順や実施方法を習得する必要がある。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-CⅠ、理学DP3-CⅠ、理学DP4-CⅠ |
| 履修上の注意、履修要件 | 講義では、肩や大腿を露出できる服装で出席すること。物理療法学実習の内容を十分に理解するためには、解剖学・生理学・病理学などの知識と高等学校で学習する程度の物理（特に、電磁気学、波、熱、力学）に関する知識が必要となる。履修前に、神経系、筋骨格系、循環（心臓・血管）、代謝などの解剖学・生理学・病理学と物理に関する復習および物理療法学の復習を行うことが重要である。また、物理療法学で学んだ知識に基づいて、実験と実習を行う必要があるが、機器を使用するため、特にリスク管理については復習が必須となる。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験、授業内課題、授業態度を総合して、全体で100％として評価する。<br>１．定期試験　：筆記試験により知識の理解度を60％の割合で評価する。<br>２．授業内課題：小テスト、レポート、プレゼンテーション、グループディスカッション、実技などにより、課題の達成度を20％の割合で評価する。<br>３．授業態度：授業への参加や積極性を判断し、20％の割合で評価する。 |
| 評価基準 | 1. 物理療法による生体反応、適応および禁忌を理解し、病態に応じた適切な物理療法を選択することができるか。<br>2. 物理療法に用いる機器を、適切な手順で操作することができるか。<br>3. 物理療法前後の生体反応から、その効果について論理的に説明することができるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 課題提出締切後、授業内で返却する。レポート課題は、次回講義以降で返却とフィードバックする。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 物理療法学（標準理学療法学専門分野） | 網本 和 / 菅原 憲一 | 医学書院 | 978-4-260-03948-2 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| エビデンスから身につける物理療法、庄本康治、羊土社 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 火曜日11:00～12:00（山口智史） |
| 担当教員の実務経験 | 日本理学療法士協会が認定する専門理学療法士（物理療法）取得、日本理学療法士協会の物理療法研究会・副理事長、日本物理療法学会理事、International Society for Electrophysical Agents in Physical Therapy (ISEAPT) executive committee member, Sub Group of WCPT |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1,2 | 山口 智史、髙橋 容子、春山 幸志郎 | 「物理療法学総論」<br>各種物理療法の紹介と実技のオリエンテーションを実施する。 | 実験・実習 | [予習]（90分 ）<br>物理療法の種類について、教科書で確認し、それぞれの名称と目的を大まかに理解する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | [復習]（90分）<br>物理療法で用いる道具や機器の名称と目的、基本リスクについての知識を整理する。 |
| 3,4 | 山口 智史、<br>髙橋 容子、<br>春山 幸志郎 | 「物理療法に関わる評価Ⅰ」<br>疼痛評価、超音波検査法などの実技やグループワーク を通して、評価の実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>疼痛評価の種類を教科書で確認する。また超音波検査法の評価目的と概要について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>疼痛評価の種類と目的、超音波検査法の実施方法の知識を整理する。 |
| 5,6 | 山口 智史、<br>髙橋 容子、<br>春山 幸志郎 | 「炎症の病態と物理療法」<br>炎症の理解、炎症治療に用いられる物理療法（寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法（TENS）など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>炎症の病理について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>炎症に対する物理療法の適応と禁忌、実施方法の知識を整理する。実施前後の生体反応をもとにした効果判定についての知識を整理する。 |
| 7,8 | 山口 智史、<br>髙橋 容子、<br>春山 幸志郎 | 「疼痛の病態と物理療法Ⅰ」<br>急性期疼痛の理解、疼痛治療に用いられる物理療法（寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法（TENS）など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>急性期疼痛について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>急性期疼痛に対する物理療法の適応と禁忌、実施方法の知識を整理する。実施前後の生体反応をもとにした効果判定についての知識を整理する。 |
| 9,10 | 山口 智史、<br>髙橋 容子、<br>春山 幸志郎 | 「疼痛の病態と物理療法Ⅱ」<br>亜急性期疼痛の理解、亜急性期疼痛の治療に用いられる物理療法（温熱療法、超音波療法、電気刺激療法（TENS・NMES）など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>亜急性期の疼痛について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>亜急性期の疼痛に対する物理療法の適応と禁忌、実施方法の知識を整理する。実施前後の生体反応をもとにした効果判定についての知識を整理する。 |
| 11,12 | 山口 智史、<br>髙橋 容子、<br>春山 幸志郎 | 「疼痛の病態と物理療法Ⅲ」<br>慢性期疼痛の理解、慢性期疼痛の治療に用いられる物理療法（温熱療法、光線療法、振動刺激療法など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>慢性期疼痛について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>慢性期の疼痛に対する物理療法の適応と禁忌、実施方法の知識を整理する。実施前後の生体反応をもとにした効果判定についての知識を整理する。 |
| 13,14 | 山口 智史、<br>髙橋 容子、<br>春山 幸志郎 | 「関節可動域制限と物理療法」<br>関節可動域制限の理解、関節可動域制限の治療に用いられる物理療法（超音波療法、持続性他動運動（CPM）など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>関節可動域制限の病理について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>関節可動域制限に対する物理療法の適応と禁忌、実施方法の知識を整理する。実施前後の生体反応をもとにした効果判定についての知識を整理する。 |
| 15,16 | 山口 智史、<br>髙橋 容子、<br>春山 幸志郎 | 「物理療法に関わる評価Ⅱ」<br>病態に合わせて、適切な物理療法を選択するための電気生理学的評価（誘発筋電図・経頭蓋磁気刺激など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>生理学（特に脊髄反射）と解剖学（運動関連脳領域）について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>電気生理学的評価の種類と目的、超音波検査法の実施方法の知識を整理する。 |
| 17,18 | 山口 智史、<br>髙橋 容子、<br>春山 幸志郎 | 「中枢神経疾患の症状と物理療法Ⅰ」<br>痙縮の病態の理解、痙縮治療に用いられる物理療法（電気刺激療法（TES）、振動刺激療法など）の実技やグループワークを通して、治療方法の実際を教授する。<br><br>「中枢神経疾患の症状と物理療法Ⅱ」<br>廃用性筋力低下の理解、廃用性筋力低下の治療に用いられる物理療法（電気刺激療法（NMES）、パルス磁気刺激など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>痙縮および廃用性筋力低下の病態について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>痙縮および廃用性筋力低下に対する物理療法の実施方法および実施前後の生体反応をもとにした効果判定について整理する。 |
| 19,20 | 山口 智史、<br>髙橋 容子、<br>春山 幸志郎 | 「中枢神経疾患の症状と物理療法Ⅲ」<br>運動麻痺の理解、運動麻痺の治療に用いられる物理療法（電気刺激療法（FES）、バイオフィードバック療法など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>運動麻痺（特に運動に関わる解剖学）について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>運動麻痺に対する物理療法の適応と禁忌、実 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 施方法の知識を整理する。実施前後の生体反応をもとにした効果判定についての知識を整理する。 |
| 21,22 | 山口 智史、髙橋 容子、春山 幸志郎 | 「創傷の病態と物理療法」<br>創傷と組織回復の理解、創傷治療に用いられる物理療法（超音波療法、水治療法、電気刺激療法など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>創傷と組織回復の過程について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>創傷に対する物理療法の適応と禁忌、実施方法の知識を整理する。実施前後の生体反応をもとにした効果判定についての知識を整理する。 |
| 23,24 | 山口 智史、髙橋 容子、春山 幸志郎 | 「スポーツ傷害の物理療法」<br>スポーツ傷害に用いられる物理療法（電気刺激療法、超音波療法、寒冷療法、ショックウェーブ療法など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>スポーツ傷害の症状について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>スポーツ傷害に対する物理療法の適応と禁忌、実施方法の知識を整理する。実施前後の生体反応をもとにした効果判定についての知識を整理する。 |
| 25,26 | 山口 智史、髙橋 容子、春山 幸志郎 | 「運動器疾患の物理療法」<br>運動器疾患（頸部痛・腰痛や術後）に用いられる物理療法（脊椎牽引療法、水治療法、温熱療法など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>運動器疾患（頸部痛・腰痛や術後）について、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>運動器疾患（頸部痛・腰痛や術後）に対する物理療法の適応と禁忌、実施方法の知識を整理する。実施前後の生体反応をもとにした効果判定についての知識を整理する。 |
| 27,28 | 山口 智史、髙橋 容子、春山 幸志郎 | 「中枢神経疾患の物理療法」<br>主に脳卒中や脊髄損傷後の電気刺激療法と運動療法の併用治療の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>脳卒中や脊髄損傷後の症状ついて、教科書で確認する。<br>[復習]（90分）<br>電気刺激療法と運動療法の併用治療の実施方法および実施前後の生体反応をもとにした効果判定について整理する。 |
| 29,30 | 山口 智史、髙橋 容子、春山 幸志郎 | 「最新の物理療法」<br>最新の物理療法に関わる知見として、各種物理療法と運動療法の併用、非侵襲的脳刺激法（経頭蓋直流電気刺激など）の実技やグループワークを通して、実施方法を教授する。 | 実験・実習 | [予習]（90分）<br>これまでの講義で学んだ物理療法の適応について確認する。<br>[復習]（90分）<br>最新の物理療法の実施方法を整理し、従来の物理療法との適応や可能性について考察する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 運動器系理学療法学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Musculoskeletal Physical Therapy | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 飛山 義憲 | ナンバリング | SFP3202 |
| 担当教員 | 飛山 義憲、相澤　純也、中村　絵美 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、骨、関節、筋及びそれらを制御する神経系が関与する運動器系疾患を正しく理解し、運動器系疾患に対する理学療法を学ぶことを目的とする。情報収集や関節可動域測定、徒手筋力検査などの各種検査を始め、整形外科疾患検査などの疾患特異的な検査も含めた基本的技術を学び、得られた評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点の抽出を行う一連の理学療法評価を理解し、自ら実践する能力を身に付ける。また評価の妥当性や信頼性についても学び、どのような理学療法評価を実施するべきかを自ら考える能力を養う。更に得られた問題点に対してどのような治療プログラムを立案するべきか、治療をどのように実施するべきかを学修し、運動器系疾患に対する基本的な理学療法評価、治療プログラムの立案を自ら実践することを目標とする。 |
| 到達目標 | ・運動器系疾患を理解できる。<br>・各疾患において評価すべき事項を挙げることができる。<br>・評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点を抽出できる。<br>・問題点に基づき適切な治療プログラムを立案できる。 |
| 授業の位置づけ | 本授業では解剖学や運動学、検査・測定学や運動療法評価学で学修した知識を基に、運動器疾患に対する評価方法や介入方法について学修する。また、本授業で学修した知識は、運動器系理学療法学実習において実際に実技で行うことができるよう発展させる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2, 理学DP3, 4-C1①：身体機能と構造、疾病・障害・治療を理解し、説明できる<br>共通DP2, 理学DP3, 4-C1②：医学的知識に基づき患者の状況・ニーズを評価できる<br>共通DP2, 理学DP3, 4-C1③：エビデンスに基づく理学療法を理解し、それに基づく基本的な理学療法を計画、実践できる |
| 履修上の注意、履修要件 | 事前に解剖学、検査・測定学及び検査・測定学演習の予習を行い、積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 期末試験（70%）及び小テスト（30%）との合計点により最終評価を行う。 |
| 評価基準 | 授業で扱う運動器疾患に関して症状や障害を理解し、それらに対する理学療法評価を挙げ、実施方法を説明することができるか。<br>また、授業で扱う運動器疾患の典型的な問題点に対する標準的な介入方法を挙げ、実施方法を説明することができるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 小テストについては授業内で解説を行い、後日Juntendo Passportに解説をアップロードする。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ | 神野哲也／監，相澤純也，中丸宏二／編 | 羊土社 | 978-4-7581-0787-7 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 解剖学および運動学、検査・測定学、運動療法評価学指定のテキスト |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜日13：00～16：00　保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）503号室<br>事前メール連絡で随時対応；y.hiyama.cj@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | 臨床経験に基づき、理学療法を実践する能力を養成する。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 飛山　義憲 | 【運動器系疾患の理学療法の概要】<br>運動器系疾患の理学療法評価及び理学療法をどのように進めていくべきかを概観する。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>検査・測定学における理学療法評価の流れについて復習しておくこと。 |
| 2 | 飛山　義憲 | 【脊柱、体幹における理学療法評価】<br>脊柱、体幹における理学療法評価の進め方について学ぶ。主にアライメント評価、関節可動域測定、徒手筋力検査、整形外科疾患検査を用いた評価を学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>脊柱、体幹の解剖学及び運動学、関節可動域測定、徒手筋力検査、整形外科疾患検査について復習しておくこと。 |
| 3 | 飛山　義憲 | 【肩甲帯、上肢における理学療法評価】<br>肩甲帯、上肢における理学療法評価の進め方について学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>肩甲帯、上肢の解剖学及び運動学、関節可動 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 主にアライメント評価、関節可動域測定、徒手筋力検査、整形外科疾患検査を用いた評価を学ぶ。 | | 域測定、徒手筋力検査、整形外科疾患検査について復習しておくこと。 |
| 4 | 飛山　義憲 | 【骨盤帯、股関節における理学療法評価】<br>骨盤帯、股関節における理学療法評価の進め方について学ぶ。主に形態測定、アライメント評価、関節可動域測定、徒手筋力検査、整形外科疾患検査を用いた評価を学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>骨盤帯、股関節の解剖学及び運動学、形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、整形外科疾患検査について復習しておくこと。 |
| 5 | 飛山　義憲 | 【膝関節及び足関節、足部における理学療法評価】<br>膝関節及び足関節、足部における理学療法評価の進め方について学ぶ。主に形態測定、アライメント評価、関節可動域測定、徒手筋力検査、整形外科疾患検査を用いた評価を学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>膝関節及び足関節、足部の解剖学及び運動学、形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、整形外科疾患検査について復習しておくこと。 |
| 6 | 飛山　義憲 | 【変形性膝関節症及び人工膝関節置換術に対する理学療法（1）】<br>罹患者数の多い変形性膝関節症と、変形性膝関節症に対する観血的療法である人工膝関節置換術後の理学療法について学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>第5回の膝関節における理学療法評価の復習、変形性膝関節症に関する復習を行っておくこと。 |
| 7 | 飛山　義憲 | 【変形性膝関節症及び人工膝関節置換術に対する理学療法（2）】<br>前回に引き続き、変形性膝関節症と人工膝関節置換術後の理学療法について学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>第6回の復習を十分に行うこと。 |
| 8 | 飛山　義憲 | 【変形性股関節症及び人工股関節置換術に対する理学療法（1）】<br>代表的な関節疾患の一つである変形性股関節症と、変形性股関節症に対する観血的療法である人工股関節置換術後の理学療法について学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>第4回の股関節における理学療法評価の復習、変形性股関節症に関する復習を行っておくこと。 |
| 9 | 飛山　義憲 | 【変形性股関節症及び人工股関節置換術に対する理学療法（2）】<br>前回に引き続き、変形性股関節症と人工股関節置換術後の理学療法について学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>第8回の復習を十分に行うこと。 |
| 10 | 飛山　義憲 | 【大腿骨近位部骨折に対する術後の理学療法（1）】<br>高齢者に多い大腿骨近位部骨折に対する術後の理学療法について学ぶ。特に、大腿骨頸部骨折と大腿骨転子部骨折の違いについて学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>股関節の解剖学、第4回の股関節における理学療法評価の復習を行うこと。 |
| 11 | 飛山　義憲 | 【大腿骨近位部骨折に対する術後の理学療法（2）】<br>前回に引き続き、大腿骨近位部骨折に対する術後の理学療法について学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>第10回の復習を十分に行うこと。 |
| 12 | 飛山　義憲 | 【腰部疾患に対する理学療法（1）】<br>腰部疾患について、特に腰椎椎間板ヘルニア及び脊柱管狭窄症、脊椎圧迫骨折に対する理学療法について学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>脊柱や体幹の解剖学、第2回の脊柱、体幹における理学療法評価の復習を行っておくこと。 |
| 13 | 飛山　義憲 | 【腰部疾患に対する理学療法（2）】<br>前回に引き続き、腰椎椎間板ヘルニア及び脊柱管狭窄症、圧迫骨折に対する理学療法について学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>第12回の復習を十分に行うこと。 |
| 14 | 飛山　義憲 | 【膝靭帯（半月板含む）損傷及び術後の理学療法（1）】<br>膝靭帯の中でも特に前十字靭帯再建術後の理学療法、半月板損傷に対する理学療法について学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>膝関節の解剖学、第5回の膝関節における理学療法評価の復習を行うこと。 |
| 15 | 飛山　義憲 | 【膝靭帯（半月板含む）損傷及び術後の理学療法（2）】<br>前回に引き続き、前十字靭帯再建術後の理学療法、半月板損傷に対する理学療法について学ぶ。 | 講義により授業を行う。 | 【予習】<br>第14回の復習を十分に行うこと。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 運動器系理学療法学実習 | 授業形態 | 実技 |
| 英語科目名 | Practice of Musculoskeletal Physical Therapy | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 飛山 義憲 | ナンバリング | SFP3203 |
| 担当教員 | 飛山 義憲、相澤　純也、中村　絵美 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本実習では、運動器系理学療法学において学修した理学療法評価や治療に関する知識、技術を更に発展させ、運動器系疾患に対する理学療法に関する知識や技術を実習を通して習得することを目的とする。本実習では、グループワークを中心とし、模擬患者を設定し、模擬患者の概要から学生が自ら適切な理学療法評価項目を立案し、模擬患者に対して理学療法評価を実践する。また得られた評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点を抽出し、問題点に対して治療プログラムを立案し、実践する。以上の理学療法を学生が主体的に進めることで学生が主体的に理学療法を実践する能力を養成する。特に運動器系理学療法学で学んだ理学療法評価や治療プログラムをどのように実践するべきかを学ぶことに重点を置き、学修を進める。 |
| 到達目標 | ・疾患の概要から適切な評価項目を挙げることができる。<br>・理学療法評価を実践できる。<br>・評価結果に基づいて統合と解釈を行い、問題点を抽出できる。<br>・抽出された問題点に基づき適切な治療プログラムを立案し、実践できる。 |
| 授業の位置づけ | 本授業では運動器系理学療法学で学修した運動器疾患に対する評価や介入を実習形式で実践する。さらに、本授業で学修した実践方法を臨床実習において行うことができるよう発展させる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2, 理学DP3, 4-C1①：身体機能と構造、疾病・障害・治療を理解し、説明できる<br>共通DP2, 理学DP3, 4-C1②：医学的知識に基づき患者の状況・ニーズを評価できる<br>共通DP2, 理学DP3, 4-C1③：エビデンスに基づく理学療法を理解し、それに基づく基本的な理学療法を計画、実践できる |
| 履修上の注意、履修要件 | 事前に運動器系理学療法学の復習を行い、積極的な態度で授業に臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 期末試験（70%）及び小テスト（30%）との合計点により最終評価を行う。 |
| 評価基準 | 授業で扱う運動器疾患の典型的な問題点に対する評価方法や介入方法を説明し、実際に実践することができるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 小テストについては授業内で解説を行い、後日Juntendo Passportに解説をアップロードする。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ | 神野哲也／監，相澤純也，中丸宏二／編 | 羊土社 | 978-4-7581-0787-7 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| 解剖学、運動学、検査・測定学、運動療法評価学で指定されたテキスト | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜日13：00～16：00　保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）503号室<br>事前メール連絡で随時対応；y.hiyama.cj@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | 臨床経験に基づき、理学療法を実践する能力を養成する。 |
| 備考 | |
| 授業計画 | |

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【変形性膝関節症及び人工膝関節置換術に対する理学療法（1）】<br>変形性膝関節症の特徴及び人工膝関節置換術の手術方法、術後の特徴を概観し、評価項目を列挙するためのグループワークを行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>運動器系理学療法学において学習した変形性膝関節症及び人工膝関節置換術に対する理学療法について復習しておくこと。 |
| 2 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【変形性膝関節症及び人工膝関節置換術に対する理学療法（2）】<br>各グループにおいて模擬患者を設定し、前回列挙した評価項目を実践し、実際に理学療法評価を行い、評価結果をまとめる。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>列挙した評価項目を正しく実施できるよう、評価方法について復習しておくこと。 |
| 3 | 飛山　義憲 | 【変形性膝関節症及び人工膝関節置換術に対する理学療法 | 講義および演習によ | 【予習】 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 相澤　純也<br>中村　絵美 | （3）】<br>前回の理学療法評価で得られた結果に基づき、グループワークで統合と解釈を行い、問題点の抽出を行う。また抽出された問題点に対する治療プログラムの立案を行う。 | る実技練習を行う。 | 前回得られた評価結果の統合と解釈を行い、問題点を事前に考えておくこと。またその問題点に対する治療プログラムを考えておくこと。 |
| 4 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【変形性膝関節症及び人工膝関節置換術に対する理学療法（4）】<br>前回立案した治療プログラムを模擬患者に対して実践する。理学療法評価から治療までの一連の流れの復習を行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>実際にどのように治療プログラムを実施するべきか考えておくこと。 |
| 5 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【変形性股関節症及び人工股関節置換術に対する理学療法（1）】<br>変形性股関節症の特徴及び人工股関節置換術の手術方法、術後の特徴を概観し、評価項目を列挙するためのグループワークを行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>運動器系理学療法学において学習した変形性股関節症及び人工股関節置換術に対する理学療法について復習しておくこと。 |
| 6 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【変形性股関節症及び人工股関節置換術に対する理学療法（2）】<br>各グループにおいて模擬患者を設定し、前回列挙した評価項目を実践し、実際に理学療法評価を行い、評価結果をまとめる。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>列挙した評価項目を正しく実施できるよう、評価方法について復習しておくこと。特に人工股関節置換術後は脱臼の危険性があることを考慮に入れること。 |
| 7 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【変形性股関節症及び人工股関節置換術に対する理学療法（3）】<br>前回の理学療法評価で得られた結果に基づき、グループワークで統合と解釈を行い、問題点の抽出を行う。また抽出された問題点に対する治療プログラムの立案を行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>前回得られた評価結果の統合と解釈を行い、問題点を事前に考えておくこと。またその問題点に対する治療プログラムを考えておくこと。 |
| 8 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【変形性股関節症及び人工股関節置換術に対する理学療法（4）】<br>前回立案した治療プログラムを模擬患者に対して実践する。理学療法評価から治療までの一連の流れの復習を行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>実際にどのように治療プログラムを実施するべきか考えておくこと。脱臼肢位を避けることを前提に考えること。 |
| 9 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【大腿骨近位部骨折に対する術後の理学療法（1）】<br>大腿骨近位部骨折の特徴及び大腿骨近位部骨折に対する手術方法、術後の特徴を概観し、評価項目を列挙するためのグループワークを行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>運動器系理学療法学において学習した大腿骨近位部骨折に対する理学療法について復習しておくこと。 |
| 10 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【大腿骨近位部骨折に対する術後の理学療法（2）】<br>各グループにおいて模擬患者を設定し、前回列挙した評価項目を実践し、実際に理学療法評価を行い、評価結果をまとめる。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>列挙した評価項目を正しく実施できるよう、評価方法について復習しておくこと。特に人工骨頭置換術を施行した場合は脱臼の危険性があることを考慮に入れること。 |
| 11 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【大腿骨近位部骨折に対する術後の理学療法（3）】<br>前回の理学療法評価で得られた結果に基づき、グループワークで統合と解釈を行い、問題点の抽出を行う。また抽出された問題点に対する治療プログラムの立案を行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>前回得られた評価結果の統合と解釈を行い、問題点を事前に考えておくこと。またその問題点に対する治療プログラムを考えておくこと。 |
| 12 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【大腿骨近位部骨折に対する術後の理学療法（4）】<br>前回立案した治療プログラムを模擬患者に対して実践する。理学療法評価から治療までの一連の流れの復習を行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>実際にどのように治療プログラムを実施するべきか考えておくこと。人工骨頭置換術の場合は脱臼肢位を避けることを前提に考えること。 |
| 13 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【腰部疾患に対する理学療法（1）】<br>腰椎椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症、脊椎圧迫骨折の特徴及び手術方法、術後の特徴を概観し、評価項目を列挙するためのグループワークを行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>運動器系理学療法学において学習した腰部疾患に対する理学療法について復習しておくこと。 |
| 14 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【腰部疾患に対する理学療法（2）】<br>各グループにおいて模擬患者を設定し、前回列挙した評価項目を実践し、実際に理学療法評価を行い、評価結果をまとめる。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>列挙した評価項目を正しく実施できるよう、評価方法について復習しておくこと。 |
| 15 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【腰部疾患に対する理学療法（3）】<br>前回の理学療法評価で得られた結果に基づき、グループワークで統合と解釈を行い、問題点の抽出を行う。また抽出された問題点に対する治療プログラムの立案を行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>前回得られた評価結果の統合と解釈を行い、問題点を事前に考えておくこと。またその問題点に対する治療プログラムを考えておくこと。 |
| 16 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【腰部疾患に対する理学療法（4）】<br>前回立案した治療プログラムを模擬患者に対して実践する。理学療法評価から治療までの一連の流れの復習を行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>実際にどのように治療プログラムを実施するべきか考えておくこと。 |
| 17 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【膝靭帯（半月板含む）損傷及び術後の理学療法（1）】<br>膝靭帯の中でも特に前十字靭帯損傷及び半月板損傷の特徴及び手術方法、術後の特徴を概観し、評価項目を列挙するためのグループワークを行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>運動器系理学療法学において学習した前十字靭帯再建術及び半月板損傷に対する理学療法について復習しておくこと。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 18 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【膝靭帯（半月板含む）損傷及び術後の理学療法（2）】<br>各グループにおいて模擬患者を設定し、前回列挙した評価項目を実践し、実際に理学療法評価を行い、評価結果をまとめる。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>列挙した評価項目を正しく実施できるよう、評価方法について復習しておくこと。<br>特に、前十字靭帯再建術後は時期によって禁忌事項があるため注意すること。 |
| 19 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【膝靭帯（半月板含む）損傷及び術後の理学療法（3）】<br>前回の理学療法評価で得られた結果に基づき、グループワークで統合と解釈を行い、問題点の抽出を行う。また抽出された問題点に対する治療プログラムの立案を行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>前回得られた評価結果の統合と解釈を行い、問題点を事前に考えておくこと。またその問題点に対する治療プログラムを考えておくこと。 |
| 20 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【膝靭帯（半月板含む）損傷及び術後の理学療法（4）】<br>前回立案した治療プログラムを模擬患者に対して実践する。理学療法評価から治療までの一連の流れの復習を行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>実際にどのように治療プログラムを実施するべきか考えておくこと。術後経過の時期を考慮すること。 |
| 21 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【肩関節の運動器系疾患に対する理学療法】<br>肩関節の運動器系疾患として肩関節腱板断裂や肩関節脱臼などに対する理学療法について概観し、理学療法評価、理学療法を実践する。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>肩関節の運動器系疾患についての復習を行っておくこと。 |
| 22 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【その他の運動器系疾患に対する理学療法（1）】<br>関節リウマチや骨折などに対する理学療法について概観し、理学療法評価、理学療法を実践する。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>関節リウマチ、骨折についての復習を行っておくこと。 |
| 23 | 飛山　義憲<br>相澤　純也<br>中村　絵美 | 【その他の運動器系疾患に対する理学療法（2）】<br>前回に引き続き、関節リウマチや骨折などに対する理学療法について概観し、理学療法評価、理学療法を実践する。その他全体のまとめを行う。 | 講義および演習による実技練習を行う。 | 【予習】<br>関節リウマチ、骨折についての復習を行っておくこと。まとめを行うため、これまでの復習を行い、疑問点を明らかにしておくこと。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 神経系理学療法学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Neurological Physical Therapy | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 眞壁 寿 | ナンバリング | SFP3204 |
| 担当教員 | 眞壁 寿、藤野 雄次、春山　幸志郎、山口　智史 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 神経系疾患への理学療法は、理学療法の大きな柱の1つである。Evidence-Based Medicine（EBM）に基づいた理学療法プログラムを取捨選択できる能力を本講義で修得する。講義では、脳卒中急性期、回復期、維持期などの各病期に応じた理学療法評価、理学療法プログラム、リスク管理、早期離床に向けたアプローチ、機能予後、リハビリテーションエビデンスレベルなどを教授する。また頭部外傷・脳腫瘍・高次脳機能障害を有した疾患に対する理学療法、パーキンソン病・脊髄小脳変性症・多発性硬化症の変性疾患に対する理学療法、重症筋無力症・多発性神経炎・脊髄損傷に対する理学療法などを教授する。 |
| 到達目標 | ・脳卒中の病期に応じた基本的な理学療法評価、理学療法プログラム、リスク管理を理解し、説明できる。<br>・脳卒中の機能予後、リハビリテーションエビデンスレベルを理解し、説明できる。<br>・代表的な神経筋疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症、多発性神経炎、脊髄損傷など）の基本的な理学療法評価、理学療法プログラム、リスク管理を理解し、説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 神経系理学療法は理学療法の大きな柱の1つです。各種神経系疾患の理学療法評価、理学療法プログラムを学習します。エビデンスに基づいた理学療法プログラムを取捨選択できる能力を養います。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-C Ⅰ、共通DP3-C Ⅰ、理学DP3-C Ⅰ、理学DP4-C Ⅰ、理学DP5-C Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | 神経系理学療法は臨床での大きな柱のひとつです。EBMに基づいた理学療法プログラムを取捨選択できる能力をこの授業で養ってください。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験（100%）により評価する。 |
| 評価基準 | ・脳卒中の病期に応じた基本的な理学療法評価、理学療法プログラム、リスク管理を理解し、説明できる。<br>・脳卒中の機能予後、リハビリテーションエビデンスレベルを理解し、説明できる。<br>・代表的な神経筋疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、重症筋無力症、多発性神経炎、脊髄損傷など）の基本的な理学療法評価、理学療法プログラム、リスク管理を理解し、説明できる。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内やJuntendo Passportを使用して返却 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 15レクチャーシリーズ神経障害理学療法学 Ⅰ | 石川朗 | 中山書店 | 978-4-521-74496-4 | |
| 15レクチャーシリーズ神経障害理学療法学 Ⅱ | 石川朗 | 中山書店 | 978-4-521-74497-1 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| ビジュアル実践リハ　脳・神経系リハビリテーション　潮見泰蔵（編）　羊土社（参考書）<br>脳卒中治療ガイドライン2015　日本脳卒中学会　脳卒中ガイドライン委員会（参考書）<br>脳卒中急性期における看護ケアとリハビリテーション完全ガイド　曷川元（編）　慧文社（参考書） |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜日9：00～10：30保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）505号室<br>h.makabe.lv@juntendo.ac.jp （御茶ノ水センタービル5階505号室）　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 病院での臨床経験を活かし、実際の症例に関する内容を交えて講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 眞壁　寿 | 脳卒中の理学療法（急性期）<br>神経学的所見、意識障害、運動麻痺、感覚障害、筋緊張。反射、失調、脳神経、バランス、画像所見の診かた。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・意識障害（JCS、GCS）<br>・運動麻痺<br>・感覚障害<br>・脳神経<br>【復習】（90分）<br>・筋緊張 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | ・反射、失調、バランス<br>・脳画像 |
| 2 | 眞壁　寿 | 脳卒中の理学療法（急性期）<br>脳血管障害分類、脳梗塞の分類、脳出血、BAD、 主な脳卒中評価指標、理学療法開始基準、留意すべき点、注意すべき合併症、中止基準、急性期トレーニング。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・脳血管障害分類<br>・脳梗塞、脳出血の分類<br>【復習】（90分）<br>・脳卒中評価指標<br>・理学療法開始基準<br>・リスク管理 |
| 3 | 眞壁　寿 | 脳卒中の理学療法（回復期）<br>麻痺の評価、Brunnstrom Stage test、Japan Stroke Scale、Stroke Impairment Assessment Set、NIH Stroke Scale。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・麻痺の評価<br>・Brunnstrom Stage test<br>【復習】（90分）<br>・Japan Stroke Scale<br>・Stroke Impairment Assessment Set<br>・NIH Stroke Scale |
| 4 | 眞壁　寿 | 脳卒中の理学療法（回復期）<br>筋力、可動域、バランス、ADL評価、移動能力評価、高次脳機能評価、疼痛、動作指導、下肢装具、環境整備。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・脳卒中ADL評価、移動能力評価<br>・高次脳機能評価<br>【復習】（90分）<br>・高次脳機能評価<br>・疼痛、動作指導、<br>・下肢装具、環境整備 |
| 5 | 眞壁　寿 | 脳卒中の理学療法（維持期）<br>生活環境、生活空間、各種サービス、維持期アプローチのポイント。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・脳卒中維持期に利用できる各種サービス<br><br>【復習】（90分）<br>・脳卒中維持期に利用できる各種サービス<br>・生活環境、生活空間<br>・維持期アプローチのポイント |
| 6 | 眞壁　寿 | 脳卒中の理学療法（維持期）<br>維持期理学療法プログラムの実際。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・維持期理学療法プログラムの実際<br><br>【復習】（90分）<br>・維持期理学療法プログラムの実際 |
| 7 | 眞壁　寿 | 脳卒中理学療法のエビデンスレベル<br>主な障害・問題点に対するリハビリテーションのエビデンスレベル。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・脳卒中理学療法のエビデンスレベル<br>・主な障害・問題点に対するリハビリテーションのエビデンスレベル<br>【復習】（90分）<br>・脳卒中理学療法のエビデンスレベル<br>・主な障害・問題点に対するリハビリテーションのエビデンスレベル |
| 8 | 眞壁　寿 | クモ膜下出血の理学療法<br>理学療法プログラムの進め方と注意点。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・クモ膜下出血の病態、治療<br>【復習】（90分）<br>・クモ膜下出血の理学療法プログラムの進め方と注意点 |
| 9 | 眞壁　寿 | 頭部外傷・脳腫瘍の理学療法<br>理学療法プログラムの進め方と注意点。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・頭部外傷・脳腫瘍の病態、治療<br>【復習】（90分）<br>・頭部外傷・脳腫瘍の理学療法プログラムと注意点。 |
| 10 | 眞壁　寿 | 高次脳機能障害と理学療法<br>自覚的視覚的垂直判断、自覚的姿勢的垂直判断、Pushing 評価（SCP、BLS）。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・脳の構造、機能局在と高次脳機能障害との関係<br>【復習】（90分）<br>・各種高次脳機能障害の特徴とその評価<br>・自覚的視覚的垂直判断、自覚的姿勢的垂直判断<br>・Pushing 評価（SCP、BLS） |
| 11 | 眞壁　寿 | パーキンソン病の理学療法<br>症状、重症度分類、主な評価項目、理学療法プログラム。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・パーキンソン病の病態、治療<br>【復習】（90分）<br>・症状、重症度分類<br>・主な評価<br>・理学療法プログラム。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 12 | 眞壁　寿 | 脊髄小脳変性症と多発性硬化症の理学療法、症状、重症度分類、Kurtzke機能別障害評価、理学療法プログラム。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・脊髄小脳変性症と多発性硬化症の病態、治療<br>【復習】（90分）<br>・重症度分類<br>・Kurtzke機能別障害評価<br>・理学療法プログラム |
| 13 | 眞壁　寿 | 筋萎縮性側索硬化症の理学療法、症状、ALS機能評価、重症度評価、ALSAQ-40、理学療法プログラム、生活環境、家族指導。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・筋萎縮性側索硬化症の病態、治療<br>【復習】（90分）<br>・ALS機能評価、重症度評価<br>・ALSAQ-40<br>・理学療法プログラム<br>・生活環境、家族指導 |
| 14 | 眞壁　寿 | 重症筋無力症・多発神経炎の理学療法、症状、筋力低下、易疲労性、MG-ADLスコア、GBS重症度分類、理学療法プログラム。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・重症筋無力症と多発性神経炎の病態、治療<br>【復習】（90分）<br>・MG-ADLスコア<br>・GBS重症度分類<br>・理学療法プログラム |
| 15 | 眞壁　寿 | 脊髄損傷の理学療法、症状、呼吸障害、排尿障害、Zancolli分類、ASIA機能障害尺度。 | 講義 | 【予習】（90分）<br>・脊髄損傷の病態、治療<br>【復習】（90分）<br>・Zancolli分類<br>・ASIA機能障害尺度<br>・脊髄損傷の理学療法 |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 神経系理学療法学実習 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Practice of Neurological Physical Therapy | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 眞壁 寿 | ナンバリング | SFP3205 |
| 担当教員 | 眞壁 寿、藤野 雄次、髙橋 容子、春山　幸志郎、山口　智史 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本実習では、脳卒中患者を中心とする神経系疾患の理学療法の評価、アプローチ手法を教授する。早期離床に向けた実践的アプローチ、リスク管理、移乗動作、歩行動作訓練、機能の回復と維持に向けた自立度評価、歩行耐久性、バランス、歩容、サーキットトレーニング、ホームエクササイズなどを教授する。また近年、神経系疾患に対する新たな治療戦略として注目されているニューロリハビリテーションの基礎的な知識とその応用の可能性についても教授する。具体的には、①脳卒中患者の意識レベル、反射、運動麻痺などの神経学的評価、リスク管理、重症度、移動能力、バランス、歩行などの基礎的な評価とアプローチ手法を学ぶ。②脳卒中患者の回復にむけたポジショニング、体位変換、早期離床、起き上がり、起立、移乗動作、歩行、サーキットトレーニング、ホームエクササイズなどの基礎的なアプローチ手法を学ぶ。③神経系疾患に対する装具療法、ロボットアシスト歩行、CI療法、HANDS療法、BMI療法、電気刺激療法、バイオフィードバック療法、ニューロリハビリテーションなどの基礎的事項を学ぶ。 |
| 到達目標 | ・脳卒中患者の意識レベル、反射、運動麻痺などの神経学的評価、リスク管理、重症度、移動能力、バランス、歩行などの基礎的な評価とアプローチができる。<br>・脳卒中患者の機能回復、代償戦略に基づいたポジショニング、体位変換、早期離床、起き上がり、起立、移乗動作、歩行などの基礎的なアプローチができる。パーキンソン病患者、脊髄損傷患者の基本的理学療法の進め方について理解できる。<br>・神経系疾患に対する運動学習理論や課題設定、ニューロリハビリテーションなどの基礎的事項を理解し、説明できる。 |
| 授業の位置づけ | ・神経系理学療法学で習得した神経系疾患に対する理学療法の流れや実践的内容を演習を通して理解し、臨床実習での実践の基礎を形成する。<br>・神経系疾患に対して用いられる基本的評価方法を実践を通して習得する。<br>・神経系理学療法に必要なリスク管理や患者の全体像の理解の要点を理解する。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-CⅠ、共通DP3-CⅠ、理学DP3-CⅠ、理学DP4-CⅠ、理学DP5-CⅠ |
| 履修上の注意、履修要件 | 神経系理学療法の中心となる科目です。神経系理学療法学の講義内容を復習したうえで臨んでください。特に脳卒中、パーキンソン病、脊髄損傷の病態や機能障害、能力低下について充分な予習、復習をお願いします。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 筆記試験（約70％）、演習内容のルーブリック評価（約30%）で成績評価する。 |
| 評価基準 | ・神経系理学療法学で習得した神経系疾患に対する理学療法の流れや実践的内容を演習を通して実践できる。<br>・神経系疾患に対して用いられる基本的評価方法を実践できる。<br>・神経系理学療法に必要なリスク管理や患者の全体像の理解の要点を説明できる。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 実習内やJuntendo Passportを使用して返却 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 神経診察クローズアップ | 鈴木則宏 | MEDICAL VIEW | 978-4-7583-0380-4 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| リハ実践テクニック　脳卒中　千田富義　髙見彰淑（編）MEDICAL VIEW<br>神経障害理学療法学I　石川朗（総編集）中山書店<br>神経障害理学療法学II　石川朗（総編集）中山書店<br>脳卒中片麻痺患者に対する歩行リハビリテーション　阿部浩明、大畑光司（編）　MEDICAL VIEW<br>リハビリテーションのためのニューロサイエンス　浦川将（編）　MEDICAL VIEW<br>理学療法MOOK19 ニューロリハと理学療法　大畑光司（編）　三輪書店 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 毎週火曜日　15：00～17：00　事前メールにて随時対応<br>眞壁　寿：h.makabe.lv@juntendo.ac.jp （御茶ノ水センタービル5階505号室）<br>山口智史：t.yamaguchi.ja@juntendo.ac.jp（御茶ノ水センタービル5階504号室）<br>髙橋容子：y.takahashi.jk@juntendo.ac.jp （御茶ノ水センタービル5階508号室）<br>春山幸志郎：k.haruyama.us@juntendo.ac.jp（御茶ノ水センタービル5階508号室） |
| 担当教員の実務経験 | 病院での臨床経験を活かし、実際の症例に関する内容を交えて実習を行う。 |
| 備考 | |
| 授業計画 | |

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 初回ガイダンス<br>脳卒中回復期の基本的理学療法の流れについて、モデルケースを提示しながら評価手法とアプローチ方法を学ぶ。 | 講義・グループワーク | 【予習】（90分）<br>脳卒中に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、アプローチまでの一連の流れなど。<br>【復習】（90分）<br>脳卒中に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、アプローチまでの一連の流れなど。 |
| 2 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 提示するモデルケースの情報を基に、脳卒中に対する一連の理学療法の流れを実際に演習する。 | 講義・グループワーク | 【予習】（90分）<br>脳卒中に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、アプローチまでの一連の流れなど。<br>【復習】（90分）<br>脳卒中に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、アプローチまでの一連の流れなど。 |
| 3<br>2コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中の病態とそれに応じた運動障害（運動麻痺・協調運動障害）の評価方法を実技指導を通して実践する。<br>・運動麻痺：バレー徴候、Brunnstrom recovery stageなど<br>・協調運動障害：鼻指鼻試験、踵膝試験、Scale for the assessment and rating of ataxia（SARA）など | 講義・実技 | 【予習】（90分）<br>運動障害（運動麻痺・協調運動障害）の病態とその理学療法評価を学習を行う（神経系理学療法学の復習）。<br><br>【復習】（90分）<br>運動障害（運動麻痺・協調運動障害）の病態とその理学療法評価、具体的な手技の学習を行う。 |
| 4 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中の病態とそれに応じた運動障害（運動麻痺・協調運動障害）の評価方法を実技指導を通して実践する。<br>・運動麻痺：バレー徴候、Brunnstrom recovery stageなど<br>・協調運動障害：鼻指鼻試験、踵膝試験、Scale for the assessment and rating of ataxia（SARA）など | 講義・実技 | 【予習】（90分）<br>運動障害（運動麻痺・協調運動障害）の病態とその理学療法評価を学習を行う（神経系理学療法学の復習）。<br><br>【復習】（90分）<br>運動障害（運動麻痺・協調運動障害）の病態とその理学療法評価、具体的な手技の学習を行う。 |
| 5<br>2コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中の病態とそれに応じた反射・筋緊張異常の評価方法を実技指導を通して実践する。<br>・深部腱反射・表在反射・病的反射など<br>・被動性検査（modified Ashworth Scale含む）・懸振性検査・クローヌスなど | 講義・実技 | 【予習】（90分）<br>反射・筋緊張異常の病態とその理学療法評価を学習を行う（神経系理学療法学の復習）。<br><br>【復習】（90分）<br>反射・筋緊張異常の病態とその理学療法評価、具体的な手技の学習を行う。 |
| 6 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中の病態とそれに応じた反射・筋緊張異常の評価方法を実技指導を通して実践する。<br>・深部腱反射・表在反射・病的反射など<br>・被動性検査（modified Ashworth Scale含む）・懸振性検査・クローヌスなど | 講義・実技 | 【予習】（90分）<br>反射・筋緊張異常の病態とその理学療法評価を学習を行う（神経系理学療法学の復習）。<br><br>【復習】（90分）<br>反射・筋緊張異常の病態とその理学療法評価、具体的な手技の学習を行う。 |
| 7<br>2コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中の病態とそれに応じた感覚機能・脳神経異常の評価方法を実技指導を通して実践する。<br>・感覚検査：表在感覚・深部感覚・複合感覚など<br>・脳神経検査：視野・眼球運動・顔面運動・聴覚など | 講義・実技 | 【予習】（90分）<br>感覚・脳神経異常の病態とその理学療法評価を学習を行う（神経系理学療法学の復習）。<br><br>【復習】（90分）<br>感覚・脳神経異常の病態とその理学療法評価、具体的な手技の学習を行う。 |
| 8 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中の病態とそれに応じた感覚機能・脳神経異常の評価方法を実技指導を通して実践する。<br>・感覚検査：表在感覚・深部感覚・複合感覚など<br>・脳神経検査：視野・眼球運動・顔面運動・聴覚など | 講義・実技 | 【予習】（90分）<br>感覚・脳神経異常の病態とその理学療法評価を学習を行う（神経系理学療法学の復習）。<br><br>【復習】（90分）<br>感覚・脳神経異常の病態とその理学療法評価、具体的な手技の学習を行う。 |
| 9<br>2コマ<br>連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 3-8回で学習した実技内容について、学生は習得のための主体的な実技練習を実施し、教員は適宜、指導を行う。<br>・検査項目：運動麻痺・協調運動障害・反射・筋緊張・感覚・脳神経など | 実技・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>3-8回で実施した実技内容を振り返り、改めて学習しておく。<br><br>【復習】（90分）<br>練習した実技内容について、知識と技術を整 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 理したうえで不足部分を復習し、手技の反復練習を行う。 |
| 10 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 3-8回で学習した実技内容について、学生は習得のための主体的な実技練習を実施し、教員は適宜指導を行う。<br>・検査項目：運動麻痺・協調運動障害・反射・筋緊張・感覚・脳神経など | 実技・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>3-8回で実施した実技内容を振り返り、改めて学習しておく。<br><br>【復習】（90分）<br>練習した実技内容について、知識と技術を整理したうえで不足部分を復習し、手技の反復練習を行う。 |
| 11<br>2コマ連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 3-10回で学習した実技内容について、学生間で模擬患者を設定し基本的手技習得の確認を行う。<br>・検査項目：運動麻痺・協調運動障害・反射・筋緊張・感覚・脳神経など | 実技・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>3-10回で実施した実技内容を振り返り、基本的手技が適切に行えるように学習しておく。<br><br>【復習】（90分）<br>練習した実技内容について、知識と技術を整理したうえで不足部分を復習し、手技の反復練習を行う。 |
| 12 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 3-10回で学習した実技内容について、学生間で模擬患者を設定し基本的手技習得の確認を行う。<br>・検査項目：運動麻痺・協調運動障害・反射・筋緊張・感覚・脳神経など | 実技・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>3-10回で実施した実技内容を振り返り、基本的手技が適切に行えるように学習しておく。<br><br>【復習】（90分）<br>練習した実技内容について、知識と技術を整理したうえで不足部分を復習し、手技の反復練習を行う。 |
| 13<br>2コマ連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 基本的手技習得の確認を行った結果について、再習得が必要と判断された場合は再度実技チェックを行う。必要時、実技や配慮事項についてのフィードバックを受ける。<br>・検査項目：運動麻痺・協調運動障害・反射・筋緊張・感覚・脳神経など | 実技・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>3-12回で実施した実技内容を振り返り、基本的手技が適切に行えるように学習しておく。<br><br>【復習】（90分）<br>練習した実技内容について、知識と技術を整理したうえで不足部分を復習し、手技の反復練習を行う。 |
| 14 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 基本的手技習得の確認を行った結果について、再習得が必要と判断された場合は再度実技チェックを行う。必要時、実技や配慮事項についてのフィードバックを受ける。<br>・検査項目：運動麻痺・協調運動障害・反射・筋緊張・感覚・脳神経など | 実技・ディスカッション | 【予習】（90分）<br>3-12回で実施した実技内容を振り返り、基本的手技が適切に行えるように学習しておく。<br><br>【復習】（90分）<br>練習した実技内容について、知識と技術を整理したうえで不足部分を復習し、手技の反復練習を行う。 |
| 15<br>2コマ連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中者の基本動作・日常生活活動の問題点を確認し、姿勢や動作の観察・分析を通して病態との関連を理解する。 | 講義・実技・演習 | 【予習】（90分）<br>脳卒中者における姿勢や動作の特徴や問題について振り返り、関連する病態を含め学習する（神経系理学療法学の復習）。<br><br>【復習】（90分）<br>脳卒中者における姿勢や動作の特徴や問題について振り返り、観察・分析を通しての病態理解を復習する。 |
| 16 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中者の基本動作・日常生活活動の問題点を確認し、姿勢や動作の観察・分析を通して病態との関連を理解する。 | 講義・実技・演習 | 【予習】（90分）<br>脳卒中者における姿勢や動作の特徴や問題について振り返り、関連する病態を含め学習する（神経系理学療法学の復習）。<br><br>【復習】（90分）<br>脳卒中者における姿勢や動作の特徴や問題について振り返り、観察・分析を通しての病態理解を復習する。 |
| 17<br>2コマ連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中者のバランス・歩行などの実践的動作の問題点を確認し、姿勢や動作の観察・分析を通して病態との関連を理解する。 | 講義・実技・演習 | 【予習】（90分）<br>脳卒中者におけるバランスや歩行の特徴や問題について振り返り、関連する病態を含め学習する（神経系理学療法学の復習）。<br><br>【復習】（90分）<br>脳卒中者におけるバランスや歩行の特徴や問題について振り返り、観察・分析を通しての病態理解を復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 18 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中者のバランス・歩行などの実践的動作の問題点を確認し、姿勢や動作の観察・分析を通して病態との関連を理解する。 | 講義・実技・演習 | 【予習】（90分）<br>脳卒中者におけるバランスや歩行の特徴や問題について振り返り、関連する病態を含め学習する（神経系理学療法学の復習）。<br><br>【復習】（90分）<br>脳卒中者におけるバランスや歩行の特徴や問題について振り返り、観察・分析を通しての病態理解を復習する。 |
| 19<br>2コマ連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中回復期の評価結果とそれに基づく統合と解釈、予後予測、目標設定について、モデルケースを通して考え方を学ぶ。 | 講義・演習 | 【予習】（90分）<br>理学療法における統合と解釈の基本概念、予後予測、目標設定について予め学習しておく。<br><br>【復習】（90分）<br>理学療法における統合と解釈の基本概念、予後予測、目標設定について再度学習を行う。 |
| 20 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脳卒中回復期の評価結果とそれに基づく統合と解釈、予後予測、目標設定について、モデルケースを通して考え方を学ぶ。 | 講義・演習 | 【予習】（90分）<br>理学療法における統合と解釈の基本概念、予後予測、目標設定について予め学習しておく。<br><br>【復習】（90分）<br>理学療法における統合と解釈の基本概念、予後予測、目標設定について再度学習を行う。 |
| 21<br>2コマ連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | パーキンソン病の基本的理学療法の流れについて、モデルケースを通して評価手法とアプローチ方法を学ぶ。 | 講義・演習・グループワーク | 【予習】（90分）<br>パーキンソン病に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、アプローチまでの一連の流れなど。<br><br>【復習】（90分）<br>パーキンソン病に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、アプローチまでの一連の流れなど。 |
| 22 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | パーキンソン病の基本的理学療法の流れについて、モデルケースを通して評価手法とアプローチ方法を学ぶ。 | 講義・演習・グループワーク | 【予習】（90分）<br>パーキンソン病に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、アプローチまでの一連の流れなど。<br><br>【復習】（90分）<br>パーキンソン病に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、アプローチまでの一連の流れなど。 |
| 23<br>2コマ連続 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脊髄損傷の基本的理学療法の流れについて、モデルケースを通して評価手法とアプローチ方法を学ぶ。 | 講義・演習・グループワーク | 【予習】（90分）<br>脊髄損傷に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、ADL、アプローチまでの一連の流れなど。<br><br>【復習】（90分）<br>脊髄損傷に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、ADL、アプローチまでの一連の流れなど。 |
| 24 | 眞壁　寿<br>山口　智史<br>春山　幸志郎<br>高橋　容子 | 脊髄損傷の基本的理学療法の流れについて、モデルケースを通して評価手法とアプローチ方法を学ぶ。 | 講義・演習・グループワーク | 【予習】（90分）<br>脊髄損傷に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、ADL、アプローチまでの一連の流れなど。<br><br>【復習】（90分）<br>脊髄損傷に対する情報収集項目、基本的評価項目、リスク管理、ADL、アプローチまでの一連の流れなど。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 内部障害系理学療法学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Cardiopulmonary Physical Therapy | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 森沢 知之 | ナンバリング | SFP3206 |
| 担当教員 | 森沢 知之、高橋　哲也、齊藤　正和、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | ・本講義は、基礎医学で学んだ知識を基に、内部障害疾患（循環器疾患・呼吸器疾患・代謝性疾患）に対する理学療法評価の理論と技術を修得することを目的とする。内部障害系理学療法における代表疾患（虚血性心疾患、心不全、大血管疾患、末梢動脈疾患、COPD、肺炎、胸腹部外科手術前後、糖尿病、慢性腎不全など）の特性と病態を理解した上で、各疾患や病態に応じたフィジカルアセスメント（視診・触診・聴診・打診）や各検査測定（血圧・脈拍測定、心電図測定、肺機能検査など）を自ら実践できるように学修する。そのために解剖生理、疾患の特性と病態、各評価方法の意義と結果の解釈を系統的に学ぶ。またグループワークを通して、理学療法評価の結果から問題点を抽出し、リスクの層別化ができる力を育む。 |
| 到達目標 | ・内部障害系理学療法の評価に必要な解剖、生理を説明することができる。<br>・内部障害系理学療法の代表疾患を挙げ、その特性と病態を説明することができる。<br>・内部障害系理学療法の評価法を理解し、実践することができる。<br>・内部障害系理学療法の評価結果から問題点を抽出し、重症度の層別化することができる。 |
| 授業の位置づけ | ・基礎医学で学んだ知識（特に内科学）を基に、内部障害系理学療法学の理論と技術を学修する。また３年前期に開講される「内部障害系理学療法学演習」につながる授業である。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C1　共通DP2-C1　共通DP3-C1　理学DP1-C1　理学DP2-C1　理学DP3-C1　理学DP4-C1　理学DP5-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・基礎医学で学習した循環、呼吸、代謝系に関連する解剖・生理学、運動学の復習を十分にしておくこと。<br>・各回の講義前後には必ず予習、復習を行うこと（各講義開始前に前回講義内容の確認テストを行う）。<br>・講義中や講義終了後、わからない部分があれば、必ず担当教員に質問すること。<br>・講義中は積極的に発言すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | ・定期試験の結果（50%）、確認テストの結果（30%）、講義中の課題（20%）の合計点より最終評価を行う。 |
| 評価基準 | ・内部障害疾患に対する理学療法評価の理論と技術を理解した上で、評価結果から問題点を抽出し、重症度の層別化することができる。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| ・授業内やJuntendo Passportを使用して返却。<br>・確認テストの結果は確認テスト終了直後に正答をフィードバックする。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最新理学療法学講座　内部障害理学療法学 | 高橋哲也 | 医歯薬出版株式会社 | 978-4-263-26738-7 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| ・講義時に随時テキストを配布する。 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | ・事前メールにて随時対応。 |
| 担当教員の実務経験 | ・各教員〔高橋哲也（群馬県立心臓血管センターなど）、齊藤正和（榊原記念病院など）、森沢知之（兵庫医科大学病院など）〕が病院での臨床経験を活かし、実際の症例に関する内容を交えて講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【内部障害系理学療法総論】<br>内部障害系理学療法の対象疾患、理学療法の目的や効果、ガイドライン・エビデンスなどの総論を学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第1章を読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 2 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【心不全の理学療法】<br>　心不全の病態、重症度分類を理解し、心不全患者に対する理学療法や疾病管理について学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第3章Ⅲを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 3 | 高橋哲也 | 【心電図1】 | ・講義 | 【予習】教科書第3章Ⅶを読んでくること |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 森沢知之<br>齊藤正和 | 心電図の基本について学ぶ | ・ディスカッション | （90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 4 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【心電図2】<br>不整脈について学ぶ。なぜ不整脈が問題なのか、不整脈の重症度を学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第3章Ⅶを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 5 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【心電図3】<br>虚血、梗塞時の心電図変化について学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第3章Ⅶを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 6 | 森沢知之<br>高橋哲也<br>齊藤正和 | 【虚血性心疾患の理学療法】<br>狭心症、心筋梗塞の病態、重症度、治療を理解し、虚血性心疾患に対する理学療法や疾病管理について学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第3章Ⅱを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 7 | 齊藤正和<br>高橋哲也<br>森沢知之 | 【大血管・末梢動脈疾患】<br>大血管疾患の病態、重症度、治療法を理解し、大血管疾患患者の理学療法や疾病管理について学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第3章Ⅳを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 8 | 齊藤正和<br>高橋哲也<br>森沢知之 | 【糖尿病】<br>糖尿病の病態、重症度、合併症、治療法を理解し、糖尿病患者に対する理学療法や疾病管理について学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第4章Ⅳを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 9 | 齊藤正和<br>高橋哲也<br>森沢知之 | 【慢性腎臓病①】<br>慢性腎臓病の病態、重症度、合併症を理解し、慢性腎臓病患者に対する理学療法について学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第4章Ⅴを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 10 | 齊藤正和<br>高橋哲也<br>森沢知之 | 【慢性腎臓病②】<br>透析療法および透析患者特有の合併症を理解し、透析患者に対する理学療法や疾病管理について学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第4章Ⅴを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 11 | 森沢知之<br>高橋哲也<br>齊藤正和 | 【呼吸不全の病態と呼吸理学療法総論】<br>呼吸不全の病態を理解し、呼吸不全に対する理学療法の対象、目的、効果、ガイドライン・エビデンスなどの総論を学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第2章Ⅰ, Ⅲを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストに向けて授業内容を復習すること（90分） |
| 12 | 森沢知之<br>高橋哲也<br>齊藤正和 | 【呼吸器系疾患の特性と病態】<br>COPD、肺炎、胸腹部外科手術前後など代表的な呼吸器疾患の病態、重症度、治療を理解し、これらの疾患に対する理学療法について学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第2章Ⅳ～Ⅸを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 13 | 森沢知之<br>高橋哲也<br>齊藤正和 | 【呼吸理学療法の評価】<br>呼吸理学療法に必要な評価法（身体所見、パルスオキシメータ、肺機能検査、呼吸筋力など）について学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第2章Ⅱを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 14 | 森沢知之<br>高橋哲也<br>齊藤正和 | 【呼吸器疾患の運動療法】<br>呼吸器疾患の運動療法について学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第2章Ⅺ～ⅩⅥを読んでくること（90分）<br>【復習】確認テストの結果も踏まえて授業内容を復習すること（90分） |
| 15 | 森沢知之<br>高橋哲也<br>齊藤正和 | 【総まとめ】<br>循環器疾患、代謝性疾患、呼吸器疾患の理学療法についてのまとめを行う | ・講義<br>・ディスカッション<br>・グループワーク | 【予習】１～14回目までの資料や教科書に目を通し、全般的に復習しておくこと（90分）<br>【復習】講義での学習内容を復習し、よく理解しておくこと（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 内部障害系理学療法学実習 | 授業形態 | |
| 英語科目名 | Practice of Cardiopulmonary Physical Therapy | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | SFP3207 |
| 担当教員 | 高橋　哲也、森沢 知之、齊藤　正和、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | ・本実習は、基礎医学や内部障害理学療法学で学んだ知識を基に、内部障害疾患（循環器疾患・呼吸器疾患・代謝性疾患）に対する理学療法の理論と評価・治療技術を修得することを目的とする。内部障害系理学療法における代表疾患（虚血性心疾患、心不全、大血管疾患、末梢動脈疾患、COPD、肺炎、胸腹部外科手術前後、糖尿病、慢性腎不全など）の特性と病態を理解した上で、各疾患や病態に応じたフィジカルアセスメント（視診・触診・聴診・打診）や各検査測定（血圧・脈拍測定、心電図測定、肺機能検査など）を習得する。また内部障害患者の症例を通して、問題点を抽出し、理学療法プログラムの立案ができる力を育む。 |
| 到達目標 | ・内部障害理学療法に必要なフィジカルアセスメントを理解し、実践することができる。<br>・心肺運動負荷試験を実践し、運動処方の作成することができる。<br>・吸引の知識と技術を習得し、実践することができる。<br>・血管機能評価の知識と技術を習得し、実践することができる。<br>・内部障害患者の症例を通して、問題点を抽出し、理学療法プログラムの立案することができる。 |
| 授業の位置づけ | ・2年後期の「内部障害系理学療法学」で学修した知識と技術をもとに学修する。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | ・共通DP1-C1・2-C1・3-C1、理学DP1-C1・2-C1・3-C1・4-C1・5-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・内部障害理学療法学で学習した循環、呼吸、代謝系の理学療法について復習を十分にしておくこと。<br>・各回の実習前後には必ず予習、復習を行うこと。<br>・実習中や講義終了後、わからない部分があれば、必ず担当教員に質問すること。<br>・積極的に実習に参加し、発言すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | ・定期試験の結果（50%）、実技テストの結果（30%）、講義中の課題（20%）の合計点より最終評価を行う。 |
| 評価基準 | ・内部障害系理学療法の知識と技術を習得した上で、内部障害患者の症例を通して問題点を抽出し、理学療法プログラムの立案することができる。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| ・授業内やJuntendo Passportを使用して返却。<br>・確認テストの結果は確認テスト終了直後に正答をフィードバックする。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最新理学療法学講座　内部障害理学療法学 | 高橋哲也 | 医歯薬出版株式会社 | 978-4-263-26738-7 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| ・講義時に随時テキストを配布する<br>・（準備が望ましい参考書）　伊藤春樹監修　CPXポケットマニュアル　医歯薬出版 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | ・事前メールにて随時対応。 |
| 担当教員の実務経験 | 担当する教員〔高橋哲也（群馬県立心臓血管センターなど）、齊藤正和（榊原記念病院など）、森沢知之（兵庫医科大学病院など）〕が病院での臨床経験を活かし、実際の症例に関する内容を交え講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【心肺運動負荷試験①】<br>呼気ガス分析装置を用いた心肺運動負荷試験の知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅲ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 2 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【心肺運動負荷試験②】<br>呼気ガス分析装置を用いた心肺運動負荷試験の知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅲ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 3 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【運動処方の作成①】<br>心肺運動負荷試験の結果に基づいた運動処方を作成する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅲ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 4 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【運動処方の作成②】<br>心肺運動負荷試験の結果に基づいた運動処方を作成する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅲ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 5 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【胸部Ｘ線写真①】<br>理学療法に必要な胸部X線写真の知識を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】胸部X線について予習すること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 6 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【胸部Ｘ線写真②】<br>理学療法に必要な胸部X線写真の知識を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】胸部X線について予習すること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 7 | 森沢知之<br>齊藤正和<br>高橋哲也 | 【呼吸器疾患のフィジカルアセスメント①】<br>呼吸器疾患に必要なフィジカルアセスメント（視診、触診など）の知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅱ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 8 | 森沢知之<br>齊藤正和<br>高橋哲也 | 【呼吸器疾患のフィジカルアセスメント②】<br>呼吸器疾患に必要なフィジカルアセスメント（視診、触診など）の知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅱ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 9 | 森沢知之<br>齊藤正和<br>高橋哲也 | 【呼吸器疾患のフィジカルアセスメント③】<br>呼吸器疾患に必要なフィジカルアセスメント（聴診、打診など）の知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅱ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 10 | 森沢知之<br>齊藤正和<br>高橋哲也 | 【呼吸器疾患のフィジカルアセスメント④】<br>呼吸器疾患に必要なフィジカルアセスメント（聴診、打診など）の知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅱ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 11 | 森沢知之<br>齊藤正和<br>高橋哲也 | 【吸引①】<br>理学療法士に必要な吸引の知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅱ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 12 | 森沢知之<br>齊藤正和<br>高橋哲也 | 【吸引②】<br>理学療法士に必要な吸引の知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅱ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 13 | 齊藤正和<br>高橋哲也<br>森沢知之 | 【循環器疾患のフィジカルアセスメント①】<br>循環器疾患に必要なフィジカルアセスメント（触診、聴診など）・血圧測定の知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅲ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 14 | 齊藤正和<br>高橋哲也<br>森沢知之 | 【循環器疾患のフィジカルアセスメント②】<br>循環器疾患に必要なフィジカルアセスメント（触診、聴診など）・血圧測定の知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅲ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 15 | 齊藤正和<br>高橋哲也<br>森沢知之 | 【運動耐容能の評価①】<br>6分間歩行試験、シャトルウォーキングテストの知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅱ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 16 | 齊藤正和<br>高橋哲也<br>森沢知之 | 【運動耐容能の評価②】<br>6分間歩行試験、シャトルウォーキングテストの知識と技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅱ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 17 | 齊藤正和<br>高橋哲也<br>森沢知之 | 【血管機能評価①】<br>安静時および運動後の血管機能評価（足関節上腕血比: ABI）の知識、技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅲ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 18 | 齊藤正和<br>高橋哲也<br>森沢知之 | 【血管機能評価②】<br>安静時および運動後の血管機能評価（足関節上腕血比: ABI）の知識、技術を習得する | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】教科書第Ⅲ章を読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 19 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【グループワーク①】<br>グループワークを通して、循環器・代謝性疾患の理学療法の知識を深める | ・グループワーク | 【予習】これまで学修した内容についてよく復習しておくこと（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 20 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【グループワーク②】<br>グループワークを通して、循環器・代謝性疾患の理学療法の知識を深める | ・グループワーク | 【予習】これまで学修した内容についてよく復習しておくこと（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 21 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【グループワーク③】<br>グループワークを通して、呼吸器疾患の理学療法の知識を深める | ・グループワーク | 【予習】これまで学修した内容についてよく復習しておくこと（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 22 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【グループワーク④】<br>グループワークを通して、呼吸器疾患の理学療法の知識を深める | ・グループワーク | 【予習】これまで学修した内容についてよく復習しておくこと（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する技術であるため，繰り返し練習し，習得すること（90分） |
| 23 | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【総まとめ】<br>これまでの授業内容・実習の総まとめを行う。 | ・演習<br>・ディスカッション | 【予習】これまで学修した内容についてよく復習して、質問があれば準備してお くこと（90分）<br>【復習】定期試験に向けて全体を復習しておくこと（90分） |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 発達障害系理学療法学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Physical Therapy in Developmental Disorders | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 松田 雅弘 | ナンバリング | SFP3208 |
| 担当教員 | 松田 雅弘、春山　幸志郎 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、人間発達学で学んだ受胎から発達していく過程での運動・認知を理解し、更に歩行や運動が習熟していく過程についての知識を深める。この発達期に生じる疾患の原因や病態、障害像を理解するとともに、脳性麻痺を代表とする中枢神経疾患などの発達障害を抱えた子どもたちの障害像を学び、療育と理学療法の展開について修得することを目指す。また講義中に動画や症例提示を行い、発達期特有の理学療法におけるクリニカルリーズニング、理学療法評価、治療プログラムの作成する能力を身に付けるとともに、関連する装具療法、福祉用具の活用などの展開について修得する。適宜、文献レビューも紹介し、国際的な視野にたち発達期における障害への理学療法を実践する能力を高める。 |
| 到達目標 | ・運動発達・認知発達の過程を理解し、その運動や認知の成り立ちを説明できる。<br>・発達期の中枢系疾患・運動器疾患の病態・障害像を理解して説明できる。<br>・発達期の疾患別理学療法の評価と治療、関連する装具・福祉用具の活用法について説明できる。<br>・発達期に関連する社会制度，在宅医療を理解して、説明できる。 |
| 授業の位置づけ | ・理学療法のなかでも発達期に生じる疾患のリハビリテーションについて概説する<br>・子どもを取り巻く社会制度の変遷について理解を深める |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP1-C Ⅰ、C Ⅱ<br>DP2-C Ⅰ<br>DP3-C Ⅰ<br>DP4-C Ⅰ<br>DP5-C Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | 人間発達学、小児科学を十分理解して望むこと。<br>各回の講義前後には必ず予習・復習を行うこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 期末試験　60%<br>小テスト　10%<br>反転講義の評価　30%<br>とし総合的に判断する。<br>（原則、欠席・遅刻・早退を認めない。事前にわかっている場合には担当教員に連絡すること） |
| 評価基準 | 期末試験　60%：教員による評価<br>小テスト　10%：教員による評価<br>反転講義の評価　30%：学生評価・教員評価<br><br>最終評価は総合的に判断する。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 【課題】<br>・JUNTENDO PASSPORTまたはGoogle classroomの機能を使用して提出とフィードバックを行う。<br>【試験】<br>・試験終了後に適宜フィードバックを行う。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 小児理学療法学 (15レクチャーシリーズ理学療法テキスト) | 奥田憲一, 松田雅弘 , 三浦利彦 , 石川 朗編集 | 中山書店 | 978-4521748160 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 【教科書】<br>小児理学療法学 (15レクチャーシリーズ理学療法テキスト)　奥田憲一, 松田雅弘 , 三浦利彦 , 石川 朗編集　ISBN：978-4521748160<br><br>【参考テキスト】<br>小児理学療法学テキスト改訂第3版　細田多穂監修　南江堂　ISBN：978-4-524-25533-7<br>発達を学ぶ-人間発達学レクチャー　森岡周　協同医書出版　ISBN：978-4763910776<br>Crosslink　小児理学療法学　藪中良彦　木元稔　坂本仁　メディカルビュー　ISBN 978-4-7583-2007-8<br>小児リハ評価ガイド　楠本泰士　友利幸之介　メディカルビュー　ISBN　978-4-7583-1948-5<br>【その他】<br>講義でプリント配布 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 毎週水曜日　15：00～17：00　その他は事前メールにて随時対応<br>t.matsuda.ye@juntendo.ac.jp　事前にメール連絡で随時対応 |

| | |
|---|---|
| 担当教員の実務経験 | 【教育経験】<br>植草学園大学、城西国際大学理学療法学科で7年間発達系理学療法の講義担当<br>埼玉県立大学、東京都立大学大学院で発達系理学療法の非常勤講師<br>順天堂大学理学療法学科で人間発達学、発達障害系理学療法学を担当<br>【実務経験】<br>・発達支援センター、療育機関、特別支援学校、保育所などでの理学療法士としての実務経験<br>・発達系理学療法に関する研究<br>・子どもロコモなどの運動器に関する啓蒙活動 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 松田　雅弘 | 【正常発達（胎児～新生児期）】<br>オリエンテーション、正常発達（1）－運動発達，原始反射，姿勢反射について学ぶ。 | 講義形式 | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学 (15レクチャーシリーズ理学療法テキスト)」第1章をよく読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>原始反射の種類と反応を覚える。 |
| 2 | 松田　雅弘 | 【正常発達（乳幼児期）】<br>正常発達（2）－認知・精神・上肢の発達について学ぶ | 講義形式 | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学 (15レクチャーシリーズ理学療法テキスト)」第2章をよく読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>歩行が可能になるまでの姿勢と運動の特徴、上肢の運動機能、認知・精神過程の発達について覚える。 |
| 3 | 松田　雅弘 | 【正常発達（運動と認知）】<br>発達障害概論と医学的治療，障害児に関わる制度について学ぶ | 講義形式 | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学 (15レクチャーシリーズ理学療法テキスト)」第3章をよく読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>広義の発達障害と狭義の発達障害を理解する<br>発達期に生じる疾病と発達への影響を理解する |
| 4 | 松田　雅弘 | 【発達障害系理学療法総論】<br>痙直型脳性麻痺（1）－総論 | 講義形式 | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学 (15レクチャーシリーズ理学療法テキスト)」第4章をよく読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>痙直型四肢麻痺・両麻痺・片麻痺の特徴的な痙性分布、代償運動により生じる姿勢や運動発達の特徴、理学療法評価と介入を理解する<br>脳性麻痺児に使用する補装具について理解する |
| 5 | 松田　雅弘 | 【脳性麻痺（痙直型脳性麻痺）】<br>痙直型脳性麻痺（2）－乳児期～幼児期について学ぶ | 講義形式 | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学 (15レクチャーシリーズ理学療法テキスト)」第5章をよく読んでおくこと<br>【復習】（90分）<br>痙直型四肢麻痺・両麻痺・片麻痺で特に出産後から幼児期にかけての理学療法の評価と治療について理解する。<br>特に発達の理解を深めて、乳幼児期に実践するべき理学療法の展開に焦点を当てる |
| 6 | 松田　雅弘 | 【脳性麻痺（痙直型脳性麻痺）】<br>痙直型脳性麻痺（2）－学童期～成人期について学ぶ | 講義形式 | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学 (15レクチャーシリーズ理学療法テキスト)」第6章をよく読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>痙直型四肢麻痺・両麻痺・片麻痺児で学齢期以降の発達の特徴を理解し，二次障害の予防と対応に必要な理学療法評価と介入を理解する。<br>また、活動性を促す方法を学校生活の観点も踏まえて理解する。 |
| 7 | 松田　雅弘 | 【脳性麻痺（アテトーゼ型）】 | 反転講義（学生によ | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 脳性麻痺児者（アテトーゼ型）の病態の理解を深め、理学療法の評価と治療について学ぶ。<br>脳性麻痺児者（失調・他）の病態の理解を深め、理学療法の評価と治療について学ぶ。 | るプレゼンテーション） | 「小児理学療法学（15レクチャーシリーズ理学療法テキスト）」第7章をよく読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>アテトーゼ型（AT）脳性麻痺に特徴的な運動障害（異常運動）、その他の脳性麻痺により生じる姿勢や運動発達の特徴、理学療法評価と介入を理解する |
| 8 | 松田　雅弘 | 【重症心身障害（重度脳性麻痺）】<br>重症心身障害児者に対する理解を深め、理学療法の評価と治療について学ぶ。 | 講義形式 | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学（15レクチャーシリーズ理学療法テキスト）」第8章をよく読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>重症心身障害（PIMD）の定義と概念について理解する。神経、呼吸、循環、骨筋系他の多様な疾患と合併症とライフステージにおける理学療法介入について理解する |
| 9 | 松田　雅弘 | 【二分脊椎・ペルテス病】（反転講義）<br>小児整形疾患（二分脊椎・ペルテス病）について理解し、理学療法の評価と治療を学ぶ | 反転講義（学生によるプレゼンテーション） | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学（15レクチャーシリーズ理学療法テキスト）」第9章をよく読んでおくこと。<br>反転講義を担当する班は準備を行う<br>【復習】（90分）<br>小児整形疾患（二分脊椎・ペルテス病）における疫学、原因、病態と全体像をとらえ、理学療法評価、介入方法、外科的手段と理学療法の役割について理解する |
| 10 | 松田　雅弘 | 【骨形成不全症，先天性多発性関節拘縮症，発育性股関節形成不全】（反転講義）<br>小児整形疾患（骨形成不全症・先天性多発性関節拘縮症・発育性股関節形成不全）の疾患、理学療法の評価と治療を学ぶ | 反転講義（学生によるプレゼンテーション） | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学（15レクチャーシリーズ理学療法テキスト）」第10章をよく読んでおくこと。<br>反転講義を担当する班は準備を行う<br>【復習】（90分）<br>小児整形疾患（骨形成不全症・先天性多発性関節拘縮症・発育性股関節形成不全）における疫学、原因、病態と全体像をとらえ、理学療法評価、介入方法、外科的手段と理学療法の役割について理解する |
| 11 | 松田　雅弘、<br>春山　幸志郎 | 【デュシェンヌ型筋ジストロフィー：その他の筋ジストロフィー、SMAなど】<br>デュシェンヌ型筋ジストロフィー、その他の筋ジストロフィー、SMAなどの疾患、障害像、理学療法の評価と治療について学ぶ。 | 講義形式 | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学（15レクチャーシリーズ理学療法テキスト）」第11章をよく読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>神経筋疾患の定義と代表疾患であるDMDの疫学、病態、障害像とライフステージに合わせた理学療法評価と介入方法について理解する。<br>DMD以外の筋ジストロフィー、SMAの病態、特徴についても理解する。 |
| 12 | 松田　雅弘 | 【ダウン症候群】<br>ダウン症候群に対する理学療法の評価と治療について学ぶ。 | 反転講義（学生によるプレゼンテーション） | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学（15レクチャーシリーズ理学療法テキスト）」第12章をよく読んでおくこと。<br>反転講義を担当する班は準備を行う<br>【復習】（90分）<br>ダウン症候群（DS）の原因、病態、循環器・消化器・認知機能面等の合併症をふまえ、ライフステージ（独歩獲得、就学前、学童期以降）に合わせた理学療法介入、社会的サービスについて理解する |
| 13 | 松田　雅弘 | 【低出生体重児・ハイリスク児の理学療法】（反転講義）<br>低出生体重児・ハイリスク児に対する理学療法の評価と治療について学ぶ。 | 反転講義（学生によるプレゼンテーション） | 【予習】（90分）<br>「小児理学療法学（15レクチャーシリーズ理学療法テキスト）」第13章をよく読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>低出生体重児・ハイリスク児の定義・合併用とリスク管理を踏まえた理学療法介入の意義、多職種連携について理解する |
| 14 | 松田　雅弘 | 【発達障害】（反転講義） | 反転講義（学生によ | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 発達障害の定義、その範囲と特徴、理学療法の評価と治療、社会的な支援について学ぶ。<br>特別支援学校、学校教育における就学支援に関する理学療法について学ぶ。 | るプレゼンテーション） | 「小児理学療法学（15レクチャーシリーズ理学療法テキスト）」第14、15章をよく読んでおくこと。<br>【復習】（90分）<br>発達障害の定義、その範囲と特徴を理解し、今後、増加すると思われる発達障害への理学療法介入の特徴について理解する |
| 15 | 松田　雅弘 | 【特別支援学校、学校教育における就学支援、発達障害系疾患の理学療法（まとめ）】<br>特別支援学校、学校教育における就学支援に関する理学療法について学ぶ。<br>発達障害系疾患におけるリハビリテーションのエビデンスについて学ぶ。 | 講義形式 | 【予習】（90分）<br>発達期系疾患の理学療法に関する治療のエビデンスを1つ調べる。<br>「小児理学療法学（15レクチャーシリーズ理学療法テキスト）」第15章をよく読んでくること。<br>【復習】（90分）<br>学校保健・特別支援教育における教育的理学療法について理解し、特別支援教育における理学療法士の役わりと関連職との関わりについて理解する<br>発達期系疾患の理学療法の全体像を把握したなかで、最新の評価・治療に関するエビデンスを理解する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | スポーツ理学療法学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Sports Physical Therapy | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 相澤　純也 | ナンバリング | SFP3209 |
| 担当教員 | 相澤　純也、宮森　隆行、中村　絵美 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義では、スポーツ外傷・障害について、その疫学的特徴、病態、発生メカニズム、リスクファクター、医学的治療を整理した上で、国際標準的なスポーツ理学療法におけるリハビリテーションについて講義する。アスリートに関わる専門職チーム、プライバシー保護について理解し、情報収集およびクリニカルテスト（痛み、筋力、関節可動域、エクササイズ・スポーツ制限など）と、エクササイズプログラム（コンディショニング、ストレッチング、ストレングスニング、徒手療法、テーピングなど）の基本的な方法について説明できることを主目標とする。授業は主要スポーツ外傷・障害を部位、病態別に取り上げて、リハビリテーションの流れを系統的に理解できる構成とする。 |
| 到達目標 | ・スポーツ理学療法の理解に必要な解剖・運動学、組織治癒過程、バイオメカニクス、評価の基本知識を説明できる。<br>・アスリートに関わる専門職チームの協力関係について説明できる（3E:12）。<br>・アスリートやチームのプライバシー保護の重要性について説明できる（3E:13）。<br>・リハビリテーションや再受傷予防の原則について説明できる（3E:11）。<br>・スポーツで求められる特異的な運動・動作と、これらが痛みや組織治癒過程に与える影響について説明できる（3A:1）。<br>・現在の異常が組織治癒の進行や質に及ぼす影響について説明できる（3A:2）。<br>・スポーツ外傷・障害のクリニカルテストの方法と結果解釈について説明できる（3A:5）。<br>・他の専門職による情報、アセスメント、治療と、スポーツ理学療法との関連性について説明できる（3A:6）。<br>・身体機能及び活動性の維持・向上やスポーツ復帰に向けたスポーツ理学療法の基本戦略について、そのリスクを含めて説明できる（3A:7）。<br>・アスリートのコンディション、重症度、日常生活制限、エクササイズ・スポーツ制限に関する情報収集項目について説明できる（3C:1）。<br>・急性、慢性の痛みに関する評価方法について説明できる（3C:3）。<br>・スポーツ外傷・障害に関連する特異的なスポーツ動作の観察と分析について説明できる（3C:4）。<br>・スポーツ外傷・障害ごとに、筋力、関節可動域、柔軟性などのクリニカルテストの方法及び結果解釈について説明できる（3C:5; 3D:1; 3D:2）。<br>・個別性、外傷・障害特異性、ルールを考慮した科学的根拠に基づくエクササイズプログラム（コンディショニング、ストレングスニング、ストレッチング）について説明できる（3E:2）。<br>・リハビリテーションのための基本的なマッサージや徒手療法について説明できる（3E:4）。<br>・安静、保護、治癒促進のための科学的根拠に基づくテーピングについて説明できる（3E:5）。<br>・身体機能やパフォーマンスのアウトカムとその重要性について説明できる（3F:3）<br>＊括弧内番号は参考書⑮「Sports Physiotherapy Competencies and Standards, Standards Relating to Competency 3: Rehabilitation」の項目番号 |
| 授業の位置づけ | 専門基礎科目である解剖学、生理学、運動学、整形外科学で得られた知識を基礎として学修する。2年後期のスポーツ理学療法学演習に不可欠な知識を学修する。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP7-C I |
| 履修上の注意、履修要件 | 各授業までに該当項目・部位に関連する下記について必ず予習し、授業後は学習内容を資料、テキスト、参考書等で再確認すること（小テストを実施することがある）。<br>・関節の構造と機能　　・筋の支配神経、起始・停止　　・キネマティクス、キネティクスの特徴<br>・骨指標、関節、筋の触診法　　・形態測定、関節可動域テスト、徒手筋力テストなど |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験（80%）と小テスト（20%）を統合して最終評価する。 |
| 評価基準 | ・主要なスポーツ外傷・障害ごとに、疫学的特徴、病態、発生メカニズム、リスクファクター、医学的治療について説明することができるか<br>・主要なスポーツ外傷・障害ごとに、情報収集およびクリニカルテスト（痛み、筋力、関節可動域、エクササイズ・スポーツ制限など）と、エクササイズプログラム（コンディショニング、ストレッチング、ストレングスニング、徒手療法、テーピングなど）の基本的な方法について説明することができるか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 学生個人もしくはグループへ試験の結果や要改善点などについてフィードバックする。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| スポーツ理学療法プラクティス 急性期治療とその技法 | 片寄正樹、他 | 文光堂 | 978-4-8306-4560-0 | |
| スポーツ理学療法プラクティス 機能評価診断とその技法 | 片寄正樹、他 | 文光堂 | 978-4-8306-4559-4 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| ① Roald Bahr（著）、赤坂清和（訳）：スポーツ外傷・障害ハンドブック 発生要因と予防戦略、医学書院、2015 |

② Peter Brukner（著）、籾山日出樹（訳）：臨床スポーツ医学、医学映像教育センター、2009
③ 古賀英之、他：予防に導くスポーツ整形外科、文光堂、2019
④ 相澤純也、他：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション、羊土社、2012
⑤ Scott K. Powers（著）、内藤久士（訳）：パワーズ運動生理学、メディカルサイエンスインターナショナル、2020
⑥ 相澤純也、他：整形外科理学療法ベストガイド上肢・脊椎編／下肢編、中外医学社、2018
⑦ 赤坂清和、他：改訂第2版スポーツ理学療法学、メジカルビュー、2018
⑧ 小橋由紋子：スポーツ診療のための画像診断、メディカルサイエンスインターナショナル、2016
⑨ 相澤純也、他：クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる、羊土社、2017
⑩ 青木治人、他：スポーツリハビリテーションの臨床、メディカルサイエンスインターナショナル、2019
⑪ Maria Constantinou（著）、赤坂清和（訳）：DVDで学ぶ理論と実践 治療的テーピング、医学映像教育センター、2012
⑫ James H. Clay（著）、大谷素明（訳）：改訂版 クリニカルマッサージ 一目でわかる筋解剖学と触診・治療の基本テクニック、医道の日本社、2009
⑬ David J. Magee（著）：Orthopedic physical assessment 7th ed., Saunders, 2020
⑭ Michael Gross（著）、 相澤純也（訳）：アナトミカルキネシオロジー、メディカルサイエンスインターナショナル、2021
⑮ International Federation of Sports Physical Therapy: Sports Physiotherapy Competencies and Standards, Standards Relating to Competency 3: Rehabilitation, https://ifspt.org/competencies/

| その他 | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 質問や面談希望はメールで随時受け付ける（j.aizawa.ue@juntendo.ac.jp）。 |
| 担当教員の実務経験 | ・順天堂医院リハビリテーション室でのスポーツ理学療法担当 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 相澤　純也 | スポーツ理学療法総論 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「Ⅰ、Ⅱ」<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 2 | 相澤　純也 | 膝外傷のスポーツ理学療法① | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「膝の靱帯損傷、半月板損傷」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 3 | 相澤　純也 | 膝外傷のスポーツ理学療法② | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「膝の靱帯損傷、半月板損傷」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 4 | 相澤　純也 | 膝外傷のスポーツ理学療法③ | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「膝の靱帯損傷、半月板損傷」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 5 | 相澤　純也 | 足関節外傷のスポーツ理学療法① | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「足関節捻挫」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 6 | 相澤　純也 | 足関節外傷のスポーツ理学療法② | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「足関節捻挫」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 7 | 宮森　隆行 | 股関節障害のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「グロインペイン」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 8 | 宮森　隆行 | 下肢の筋・腱損傷のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「ハムストリング肉離れ、アキレス腱断裂」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料、メモの再確認 |
| 9 | 中村　絵美 | 下肢障害のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「下肢のスポーツ障害」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 10 | 宮森　隆行 | 頭頸部外傷のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「頭頸部外傷」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 11 | 宮森　隆行 | 脊椎・脊柱障害のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「脊椎・脊柱、体幹」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 12 | 宮森　隆行 | 腰痛症のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「脊椎・脊柱、体幹」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 13 | 中村　絵美 | 肩関節外傷のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「肩関節外傷」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 14 | 中村　絵美 | 上肢障害のスポーツ理学療法① | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「上肢のスポーツ障害」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |
| 15 | 中村　絵美 | 上肢障害のスポーツ理学療法② | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、対教員や学生グループでの知識確認や討論を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「上肢のスポーツ障害」に関する部分<br>【復習】（90分）講義資料・メモの再確認 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 義肢装具学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Prosthetics and Orthotics | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 藤原　俊之 | ナンバリング | SFP3210 |
| 担当教員 | 藤原　俊之、池田 浩、髙橋 容子、和田　太 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 義肢装具はリハビリテーション医療において重要な治療の一つであり、日常生活、社会復帰を可能とする重要な手段である。本講義は、リハビリテーション医療で取り扱う義肢装具の構造、機能、種類、特徴、その適応、使用方法を広く理解することを目的とする。リハビリテーション治療において義肢装具を用いるためには障害のみならず病態の理解が不可欠であり、正しく適応を理解することが必要である。実際の治療や日常生活で障害に応じた義肢装具の選択、使用方法に関する基本的な知識を修得する。また義肢装具の作成に関しては、医師、義肢装具士等との緊密なチーム医療が必要であり、チーム医療における理学療法士の役割を理解する。 |
| 到達目標 | ・義肢学と装具学の概念や目的について理解し、リハビリテーション医学における義肢装具の役割を説明できる。<br>・義肢や装具を用いる疾患の病態や障害、患者に合わせた義肢や装具の種類と適合判定について理解し、説明できる。<br>・義肢や装具、補助具の構造と調節方法について理解し、説明できる。<br>・切断術後や装具療法の理学療法、およびチーム医療における理学療法士の役割について理解し、説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 本授業では、解剖学や運動学で学修する専門基礎知識、および整形外科学・神経内科学・小児科学・運動器系理学療法学・神経系理学療法学・人間発達学で学修する専門知識をもとに、疾患や障害に対する義肢装具の適応についての知識を発展させる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C Ⅰ, DP2-C Ⅰ, DP3-C Ⅰ<br>理学DP1-C Ⅰ ・ Ⅱ, DP2-C Ⅰ. DP3-C Ⅰ, DP4-C Ⅰ, DP5-C Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | 各回の講義前後には必ず予習、復習を行うこと（各講義開始前に前回講義内容の確認テストを行う）。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 確認テスト（30%）、定期試験（70%）の合計点による最終評価を行う。 |
| 評価基準 | ・義肢装具の目的について理解し、役割を説明できるか。<br>・義肢や装具を用いる疾患の病態や障害、患者に合わせた義肢や装具の種類と適合判定について理解し、説明できるか。<br>・義肢や装具、補助具の構造と調節方法について理解し、説明できるか。<br>・切断術後や装具療法の理学療法やチーム医療における理学療法士の役割について理解し、説明できるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 課題提出締め切り後、授業内で返却する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 義肢装具のチェックポイント 第9版 | 日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会 | 医学書院 | 426004589X ISBN-13 | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 初回の講義にて連絡する。 |
| 担当教員の実務経験 | 藤原俊之：義肢装具等適合判定医、義肢装具専門医、日本義肢装具学会学会員 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 藤原　俊之 | 【義肢装具学総論・装具学概論】<br>リハビリテーション医学における義肢装具の役割 | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅰ章「義肢装具の処方」、第Ⅲ章「材料学」、第Ⅳ章「切断術」、第Ⅵ章「装具のチェックポイント　1装具総論」、第Ⅸ章「補装具の支給」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 2 | 藤原　俊之 | 【下肢装具と歩行分析１】<br>健常者における歩行分析 | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅱ章「運動学―立位・歩行の制御と転倒、バランス障害」をよく読んでおくこと。運動学などで学んだ健常歩行や歩行解析についてよく復習しておくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 藤原　俊之 | 【下肢装具と歩行分析２】<br>患者における歩行分析 | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅱ章「運動学―立位・歩行の制御と転倒、バランス障害」をよく読んでおくこと。運動学などで学んだ健常歩行や歩行解析についてよく復習しておくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 4 | 藤原　俊之 | 【下肢装具】<br>下肢装具の種類、適合判定、調整、リハビリテーション | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「装具のチェックポイント　3 下肢装具の基礎と適合判定」、第Ⅶ章「疾患と装具のチェックポイント」の下肢装具に関する項目をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 5 | 藤原　俊之 | 【整形外科・スポーツ医学領域における装具療法】<br>整形外科・スポーツ医学領域で用いられる装具の種類、適合判定、調整、リハビリテーション | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅶ章「疾患と装具のチェックポイント　6 骨関節疾患」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 6 | 藤原　俊之 | 【上肢装具】<br>上肢装具の種類、適合判定、調整、リハビリテーション | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅵ章「装具のチェックポイント　2 上肢装具の基礎と適合判定」、第Ⅶ章「疾患と装具のチェックポイント」の上肢装具に関する項目をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 7 | 藤原　俊之 | 【体幹装具】<br>体幹装具の種類、適合判定、調整、リハビリテーション | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅵ章「装具のチェックポイント　4 体幹装具の基礎と適合判定」、第Ⅶ章「疾患と装具のチェックポイント」の体幹装具に関する項目をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 8 | 藤原　俊之 | 【義肢学概論】<br>義肢の種類、適合判定 | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「切断術」、第Ⅴ章「義肢のチェックポイント」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 9 | 藤原　俊之 | 【義足１】<br>大腿切断に対する大腿義足の種類、適合判定、調整、リハビリテーション | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「切断術」、第Ⅴ章「義肢のチェックポイント　2義足」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 10 | 藤原　俊之 | 【義足２】<br>下腿切断、股関節離断、膝関節離断、サイム切断、足根骨部切離術に対する下腿義足、股義足、膝義足、サイム義足、足部切断用義足の種類、適合判定、調整、リハビリテーション | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「切断術」、第Ⅴ章「義肢のチェックポイント　2義足」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 11 | 藤原　俊之 | 【義手】<br>上肢切断に対する義手の種類、適合判定、調整、リハビリテーション | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「切断術」、第Ⅴ章「義肢のチェックポイント　1義手（電動義手を含む）」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 12 | 藤原　俊之 | 【座位保持装置、車いす】<br>座位保持装置および車いすの種類、適合判定、調整、リハビリテーション | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅷ章「リハビリテーション機器のチェックポイント　1車椅子　2座位保持装置」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 13 | 藤原　俊之 | 【パラスポーツ領域における義肢装具】<br>パラスポーツ選手に対する義肢装具の種類、適合判定、調整、リハビリテーション | 講義 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅴ章「義肢のチェックポイント　2義足」、第Ⅷ章「リハビリテーション機器のチェックポイント　1車椅子」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 14 | 藤原　俊之 | 【義肢装具士の役割】<br>義肢装具士の役割、装具と義足の採型、調整、理学療法士に求めること | 講義 | 【予習・復習】<br>義肢装具の処方、材料学、切断術、装具のチェックポイント、補装具の支給についてよく復習しておくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |
| 15 | 藤原　俊之 | 【ロボット】<br>リハビリテーションで用いるロボットや先端医療機器 | 講義 | 【予習・復習】<br>運動学で学んだ身体運動のバイオメカニクスについてよく復習しておくこと。<br>学習時間：予習90分・復習90分 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 義肢装具学演習 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Physical Therapy Practice in Prosthetics and Orthotics | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 藤原　俊之 | ナンバリング | SFP3211 |
| 担当教員 | 藤原　俊之、池田 浩、髙橋 容子、作山　晃裕、和田　太 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 義肢装具の構造や機能を理解し、障害、病態に適した義肢装具を使用した理学療法を行うために必要な知識、技術を実際の義肢装具を用いた演習により習得することを目的とする。義肢装具の作製方法、各部品の構造、適合判定について演習を通して習得する。義肢装具を用いたADL動作、歩行の特徴を動作解析などの手法を用いて理解し、義肢装具療法とそれに必要な適切な理学療法を理解する。歩行また各義肢装具を用いた理学療法の方法についても義肢装具を用いた演習を通して習得する。また義肢装着に必要な適切な断端管理法についても演習を通して習得する。上肢装具、下肢装具、体幹装具、股義足、大腿義足、下腿義足、義手、座位保持装置、車いすに関して演習を通して、その機能、構造、適合判定の実際を学ぶ。 |
| 到達目標 | ・義肢学と装具学の概念、目的、臨床における実践について理解し、説明できる。<br>・義肢や装具を用いる疾患の病態や障害、患者に合わせた義肢や装具の種類と適合判定について理解し、説明、実践できる。<br>・義肢や装具、補助具の構造と調節方法について理解し、説明、実践できる。<br>・切断術後や装具療法の理学療法、およびチーム医療における理学療法士の役割を理解し、説明、実践できる。 |
| 授業の位置づけ | 本授業では、解剖学や運動学で学修する専門基礎知識、および整形外科学・神経内科学・小児科学・運動器系理学療法学・神経系理学療法学・人間発達学で学修する専門知識をもとに、疾患や障害に対する義肢装具の適応についての知識を発展させる。さらに、義肢装具学で学んだ知識もとに、義肢装具の選定、調節方法、人の身体への適応方法、リスク管理の実技の学修へ発展させる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-C Ⅰ, DP2-C Ⅰ, DP3-C Ⅰ<br>理学DP1-C Ⅰ・Ⅱ, DP2-C Ⅰ. DP3-C Ⅰ, DP4-C Ⅰ, DP5-C Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | 各回の講義前後には必ず予習、復習を行うこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 授業態度（10%）、レポート（50%）、プレゼンテーション（40%）の合計点による最終評価を行う。 |
| 評価基準 | 義肢装具の概要、目的、適応疾患、適合判定、調節方法、理学療法について説明・実践することができるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 課題提出締め切り後、授業内で返却する。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 義肢装具のチェックポイント 第９版 | 日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会 | 医学書院 | 426004589X | |

| |
|---|
| 参考文献 |
| 「義肢装具のチェックポイント」医学書院 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 初回の講義にて連絡する。 |
| 担当教員の実務経験 | 藤原俊之：義肢装具等適合判定医、義肢装具専門医、日本義肢装具学会学会員　髙橋容子：日本義肢装具学会学会員 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【下肢装具１】<br>下肢装具体験 | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「装具のチェックポイント　3 下肢装具の基礎と適合判定」、第Ⅶ章「疾患と装具のチェックポイント」の下肢装具に関する項目をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 2 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【下肢装具２】<br>下肢装具の調整とリハビリテーション | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「装具のチェックポイント　3 下肢装具の基礎と適合判定」、第Ⅶ章「疾患と装具のチェックポイント」の下肢装具に関する項目をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 池田　浩<br>髙橋　容子 | 【整形外科領域における装具療法１】<br>関節固定による運動障害体験１ | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>下肢関節の関節構造・運動学についてよく復習しておくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 4 | 池田　浩<br>髙橋　容子 | 【整形外科領域における装具療法２】<br>関節固定による運動障害体験２ | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>下肢関節の関節構造・運動学についてよく復習しておくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 5 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【上肢装具１】<br>上肢装具とリハビリテーション | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅵ章「装具のチェックポイント　２上肢装具の基礎と適合判定」、第Ⅶ章「疾患と装具のチェックポイント」の上肢装具に関する項目をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 6 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【上肢装具２】<br>スプリント作製 | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅵ章「装具のチェックポイント　２上肢装具の基礎と適合判定」、第Ⅶ章「疾患と装具のチェックポイント」の上肢装具に関する項目をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 7 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【下肢装具と歩行分析１】<br>健常者における歩行分析 | グループワーク、ディスカッション、発表 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅱ章「運動学―立位・歩行の制御と転倒、バランス障害」をよく読んでおくこと。運動学などで学んだ健常歩行や歩行解析についてよく復習しておくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 8 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【下肢装具と歩行分析２】<br>患者における歩行分析 | グループワーク、ディスカッション、発表 | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅱ章「運動学―立位・歩行の制御と転倒、バランス障害」をよく読んでおくこと。運動学などで学んだ健常歩行や歩行解析についてよく復習しておくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 9 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【義足１】<br>模擬義足体験、義足の調整とリハビリテーション | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「切断術」、第Ⅴ章「義肢のチェックポイント　２義足」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 10 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【義足２】<br>断端管理、断端長・周径計測 | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「切断術」、第Ⅴ章「義肢のチェックポイント　２義足」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 11 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【義足３】<br>義足での歩行観察１ | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「切断術」、第Ⅴ章「義肢のチェックポイント　２義足」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 12 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【義足４】<br>義足での歩行観察２ | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「切断術」、第Ⅴ章「義肢のチェックポイント　２義足」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 13 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【義手】<br>模擬義手体験 | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅳ章「切断術」、第Ⅴ章「義肢のチェックポイント　１義手（電動義手を含む）」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 14 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【車いす・座位保持装置】<br>車いすシーティング | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>教科書第Ⅷ章「リハビリテーション機器のチェックポイント　１車椅子　２座位保持装置」をよく読んでおくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |
| 15 | 藤原　俊之<br>髙橋　容子 | 【ロボット】<br>ロボット・先端医療機器体験 | 演習、グループワーク | 【予習・復習】<br>運動学で学んだ身体運動のバイオメカニクスについてよく復習しておくこと。<br>学習時間：予習30分、復習30分 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | リハビリテーション工学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Rehabilitation Engineering | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 藤原　俊之 | ナンバリング | SFP3212 |
| 担当教員 | 藤原　俊之、松田 雅弘 | | |

授業概要

| | |
|---|---|
| 全体内容 | リハビリテーション工学は工学的知識及び技術をリハビリテーション医学領域へ応用する学問である。車いす、電動車いす、コミュニケーションエイド、環境制御装置等自立支援機器をはじめとする介護福祉機器やロボットやブレーンマシーンインターフェース、電気刺激装置、非侵襲的中枢神経刺激装置などのリハビリテーション治療への応用機器や筋電図、脳波、脳機能画像などの生体信号計測装置や歩行分析装置、動作解析装置などの工学的技術のリハビリテーションへの応用について理解し、理学療法への応用について学修する。また地域リハビリテーションにおいてもQOLを改善させるために必要かつ適切な福祉機器を選定することができるように福祉機器の用途について理解する。 |
| 到達目標 | ・車いす、電動車いす、コミュニケーションエイド、環境制御装置等自立支援機器をはじめとする介護福祉機器の特徴を説明でき、福祉機器の活用について説明できる。<br>・ロボットやブレインマシーンインターフェース、電気刺激装置、非侵襲的中枢神経刺激装置のリハビリテーション応用について説明できる。<br>・筋電図、脳波、脳機能画像などの生体信号計測装置や歩行分析装置、動作解析装置などの工学的技術びリハビリテーションへの応用について説明できる。 |
| 授業の位置づけ | ・リハビリテーション医療は近年の科学技術の進歩で大きく変化している。AIやICTなどの技術を取り入れたリハビリテーションの展開が求められている。<br>・今後社会に出る理学療法士の育成には、これらの技術をどのように臨床現場で活かしていくことができるのかを考えるきっかけをつくる必要がある。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP1-C Ⅰ、Ⅱ<br>DP2-C Ⅰ<br>DP3- C Ⅰ<br>DP4-C Ⅰ<br>DP5-C Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | 1年次の「日常生活活動学」、2年次・3年次の各専門理学療法の分野の学修を基本とし、その応用的でかつ他分野の理解を深める学問である。将来のリハビリテーション領域での先端機器が活用できる準備ができるように受講して欲しい。 |

成績評価の方法

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 成績は下記の項目を総合的は判断する。<br>・小テスト20%<br>・レポート40%（2回）<br>・期末テスト40%<br>（規定以上の日数を出席すること、原則、欠席・遅刻・早退はなし。所定の方法で連絡すること） |
| 評価基準 | ・小テスト、レポート、期末テストはすべて教員の評価で実施する。<br>・毎回の講義をしっかり聴き、最新の情報を自ら調べる姿勢とその成果を評価する。 |

試験・課題等に対するフィードバック方法

【課題】
・JUNTENDO PASSPORTまたはGoogle classroomの機能を使用して提出とフィードバックを行う。

テキスト

参考文献

【参考図書】
・リハビリテーション工学と福祉機器：千野 直一・他編集、金原出版、2008
【その他】
・必要に応じて書籍の紹介、プリントを配布する。

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 月曜16：00～17：00　医局棟7階　リハビリテーション医学教授室　t-fujiwara@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 藤原　俊之 | 中枢神経系疾患に対する非侵襲的刺激法のリハビリテーション応用 | 講義形式 | 【予習】<br>（90分）中枢神経疾患で生じる運動障害と高次脳機能障害について確認する |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 中枢神経に対して外部より電気などの刺激を加えて、一時的に活動を操作する技術をNeuromodulationといい、近年多くの研究報告がみられる。その機序について学習する。 | | 【復習】<br>（90分）講義資料を復習する |
| 2 | 藤原　俊之 | 中枢神経疾患に対するHANS（Hybrid Assistive Neuromuscular Dynamic Stimulation）療法<br><br>麻痺を生じた手や指に対し、手関節固定装具と随意運動介助型電気刺激装置を装着して片麻痺上肢の機能改善を目指した治療の機序と方法について学習する。 | 講義形式 | 【予習】<br>（90分）中枢神経疾患で生じる運動障害と高次脳機能障害について確認する<br>【復習】<br>（90分）講義資料を復習する |
| 3 | 藤原　俊之<br>補永　薫 | 電動車いす、環境制御装置、介護福祉機器について学習する | 講義形式 | 【予習】電動車いす、環境制御装置、介護福祉機器について学習する<br>（90分）<br>【復習】<br>（90分）講義資料を復習する |
| 4 | 藤原　俊之<br>武見　充晃 | 脳波、脳機能画像などの生体信号計測装置のリハビリテーション応用 | 講義形式 | 【予習】<br>（90分）神経の活動電位などの生理学の内容を確認する。<br>【復習】<br>（90分）講義資料を復習する。 |
| 5 | 藤原　俊之<br>武見　充晃 | ブレインマシーンインターフェース（BMI）は脳情報を利用して、脳と機械を直接つなぎ、脳の内部を調べたり、脳の機能を強化、脳の疾患を治療する方法で、BMIについて学習する。 | 講義形式 | 【予習】<br>（90分）神経の活動電位などの生理学の内容を確認する。<br>【復習】<br>（90分）講義資料を復習する。 |
| 6 | 藤原　俊之<br>松田　雅弘 | ロボットのリハビリテーション応用<br><br>上肢または下肢に外骨格・内骨格型のロボットを装着して、上肢の運動または歩行の補助を行ったリハビリテーションについて学習する。 | 講義形式 | 【予習】<br>（90分）運動学の歩行について確認する。<br>【復習】<br>（90分）講義資料を復習する。 |
| 7 | 藤原　俊之<br>松田　雅弘 | 歩行分析装置、動作解析装置などの工学的技術びリハビリテーションへの応用<br>AIのリハビリテーション応用<br><br>ヒトの動作を視覚化・分析する方法について学ぶ。その動作を機械学習し、AIによる分析の最前線について学習する | 講義形式 | 【予習】<br>（90分）運動学の歩行について確認する。<br>【復習】<br>（90分）講義資料を復習する。 |
| 8 | 藤原　俊之<br>松田　雅弘 | 車いす、電動車いす、コミュニケーションエイド、環境制御装置等自立支援機器をはじめとする介護福祉機器の活用<br><br>補装具・自立支援機器は工学の発展にともなって高度化し、医療介護の現場へ導入されている。最新機器とエンドユーザーへの適応例などについて学ぶ | 講義形式 | 【予習】<br>（90分）補装具・自立支援機器について確認する。<br>【復習】<br>（90分）講義資料を復習する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 発達障害系理学療法学演習 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Physical Therapy Practice in Developmental Disorders | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 松田 雅弘 | ナンバリング | SFP3213 |
| 担当教員 | 松田 雅弘、藤野 雄次 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本演習では、発達障害系疾患の中でも特に中枢神経系障害に焦点を当て、人間発達学や小児科学、発達障害系理学療法学において学修した知識や論理的思考力をさらに発展させる。また人間発達における運動面だけではなく、その認知面を理解することで運動制御に必要な脳機能の発達の知識を深める。更に症例情報を基にクリニカルリーズニングの能力を高め、発達障害系疾患の最新のエビデンスを提示、文献レビューを通じて、実際の理学療法にどのように活かすべきかを議論し、科学性があり質の高い理学療法を実践する能力を養うことを目標とする。 |
| 到達目標 | ・運動発達・認知発達の過程を理解し、その運動や認知の成り立ちについての知見を調べ、それをまとめて論理的に説明できる。<br>・発達期の中枢系疾患・運動器疾患の病態・障害像を理解するために知見を調べ、それをまとめて論理的に説明できる。<br>・発達期の疾患別理学療法の評価と治療、関連する装具・福祉用具の活用法について、最新の知見を調べ、それをまとめて説明できる。<br>・発達期に関連する社会制度，在宅医療を理解して、最新の知見を調べ、それをまとめて説明できる。<br>・症例に対して適切な理学療法を選択し、その自己決定の判断基準について説明できる。 |
| 授業の位置づけ | ・理学療法のなかでも発達期に生じる疾患に対する理学療法の応用について学ぶ<br>・将来、大学病院、中枢神経疾患、または小児専門の療育センターや地域理学療法などを学ぶうえでは重要な演習となる |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP1-C Ⅰ、Ⅱ<br>DP2-C Ⅰ<br>DP3-C Ⅰ<br>DP4-C Ⅰ<br>DP5-C Ⅰ<br>DP6-C Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | 人間発達学、小児科学、発達障害系理学療法学を十分理解して望むこと。<br>課題などを出題するので、それについて文献、書籍などをよく調べレポートにまとめ、発表やグループディスカッションを行うこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | ・各講義に出題される課題、レポート、小テスト、他者評価　20％×5回<br>上記を総合的に評価する<br>（原則、欠席・遅刻・早退を認めない。事前に連絡すること） |
| 評価基準 | 各講義に出題される課題、レポート、小テスト、他者評価について教員と学生が評価を行う<br>最終評価は総合的に判断する |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 【課題】<br>・JUNTENDO PASSPORTまたはGoogle classroomの機能を使用して提出とフィードバックを行う。<br>・直接質問がある場合はt.matsuda.ye@juntendo.ac.jpにメールをしてから御茶の水センタービル5階で対応する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 【参考図書】<br>小児理学療法学テキスト改訂第3版　細田多穂監修　南江堂　ISBN：978-4-524-25533-7<br>発達を学ぶ-人間発達学レクチャー　森岡周　協同医書出版　ISBN：978-4763910776<br>Crosslink　小児理学療法学　藪中良彦　木元稔　坂本仁　メディカルビュー　ISBN 978-4-7583-2007-8<br>小児リハ評価ガイド　楠本泰士　友利幸之介　メディカルビュー　ISBN　978-4-7583-1948-5<br>【その他】<br>講義でプリント配布 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜日　12：10～13：10　保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）503号室<br>t.matsuda.ye@juntendo.ac.jp　事前にメール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 松田雅弘<br>【教育経験】<br>植草学園大学、城西国際大学理学療法学科で7年間発達系理学療法の講義担当<br>埼玉県立大学、東京都立大学大学院で発達系理学療法の非常勤講師<br>順天堂大学理学療法学科で人間発達学、発達障害系理学療法学の担当<br>【実務経験】<br>・発達支援センター、療育機関、特別支援学校、保育所などでの理学療法士としての実務経験<br>・発達系障害理学療法に関する研究<br>・子どもロコモなどの運動器に関する啓蒙活動<br>藤野雄次 |

| | |
|---|---|
| | 【実務経験】<br>・埼玉医科大学国際医療センターで理学療法士としての実務経験 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | オリエンテーション<br><br>【新生児期からの発達と効果的な発達の支援を学ぶ①】<br><br>・胎児から新生児にかけての脳の発達、運動の発達を知る | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>新生児期の発達の特徴と理学療法について確認する<br>【復習】（90分）<br>新生児期の脳・運動の発達の特徴について復習する |
| 2 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【新生児期からの発達と効果的な発達の支援を学ぶ②】<br><br>・胎児から新生児にかけての認知・社会性について学ぶ | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>新生児期の発達の特徴と理学療法について確認する<br>【復習】（90分）<br>新生児期の認知・社会性の発達の特徴について復習する |
| 3 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【新生児期からの発達と効果的な発達の支援を学ぶ③】<br><br>・胎児から新生児にかけての理学療法のエビデンスについて学ぶ | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>新生児期の発達の特徴と理学療法について確認する<br>【復習】（90分）<br>新生児期の理学療法のエビデンスについて復習する |
| 4 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【新生児期からの発達と効果的な発達の支援を学ぶ④】<br><br>・効果的な理学療法をまとめて、グループでディスカッションを行う | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>新生児期の発達の特徴と理学療法について確認する<br>発表の準備を行う<br>【復習】（90分）<br>新生児期の発達の特徴と理学療法について復習する |
| 5 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【新生児期からの発達と効果的な発達の支援を学ぶ⑤】<br><br>・効果的な理学療法をまとめて、グループで発表を行う | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>新生児期の発達の特徴と理学療法について確認する<br>発表の準備を行う<br>【復習】（90分）<br>新生児期の発達の特徴と理学療法について復習する |
| 6 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【幼児から学童期にかけての発達と効果的な発達の支援を学ぶ①】<br><br>・幼児から学童期の脳の発達、運動の発達を知る | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>幼児期から学童期の発達の特徴と理学療法について確認する<br><br>【復習】（90分）<br>幼児期から学童期の脳と運動の発達の特徴について復習する |
| 7 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【幼児から学童期にかけての発達と効果的な発達の支援を学ぶ①】<br><br>・幼児から学童期の認知、社会性について学ぶ | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>幼児期から学童期の発達の特徴と理学療法について確認する<br><br>【復習】（90分）<br>幼児期から学童期の認知と社会性の発達の特徴について復習する |
| 8 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【幼児から学童期にかけての発達と効果的な発達の支援を学ぶ③】<br><br>・幼児から学童期にかけての理学療法のエビデンスについて学ぶ | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>幼児期から学童期の発達の特徴と理学療法について確認する<br><br>【復習】（90分）<br>幼児期から学童期の理学療法のエビデンスについて復習する |
| 9 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【幼児から学童期にかけての発達と効果的な発達の支援を学ぶ④】<br><br>・効果的な理学療法をまとめて、グループでディスカッションを行う | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>幼児期から学童期の発達の特徴と理学療法について確認する<br>発表の準備を行う<br>【復習】（90分）<br>幼児期から学童期の発達の特徴と理学療法について復習する |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 10 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【幼児から学童期にかけての発達と効果的な発達の支援を学ぶ⑤】<br><br>・効果的な理学療法をまとめて、グループで発表を行う | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>幼児期から学童期の発達の特徴と理学療法について確認する<br>発表の準備を行う<br>【復習】（90分）<br>幼児期から学童期の発達の特徴と理学療法について復習する |
| 11 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【地域における医療技術・社会資源を生かした効果的な発達の支援を学ぶ①】<br><br>・医療技術の発展について学ぶ | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>発達期の子どもに対する医療技術の発展について確認する<br><br>【復習】（90分）<br>発達期の子どもに対する医療技術の発展について復習する |
| 12 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【地域における医療技術・社会資源を生かした効果的な発達の支援を学ぶ②】<br><br>・社会資源について学ぶ | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>発達期の子どもに対する社会資源の発展について確認する<br><br>【復習】（90分）<br>発達期の子どもに対する社会資源の発展について復習する |
| 13 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【地域における医療技術・社会資源を生かした効果的な発達の支援を学ぶ③】<br><br>・地域連携、特別支援学校について学ぶ | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>発達期の子どもに対する地域連携・特別支援学校について確認する<br><br>【復習】（90分）<br>発達期の子どもに対する地域連携・特別支援学校について復習する |
| 14 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【地域における医療技術・社会資源を生かした効果的な発達の支援を学ぶ④】<br><br>・グループでのディスカッション | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>・地域における医療技術・社会資源を生かした効果的な発達の支援について確認する<br>・発表準備を行う<br>【復習】（90分）<br>・地域における医療技術・社会資源を生かした効果的な発達の支援について復習する |
| 15 | 松田雅弘<br>藤野雄次 | 【地域における医療技術・社会資源を生かした効果的な発達の支援を学ぶ⑤】<br><br>・グループによる発表 | 講義<br>グループディスカッション<br>実技・実演<br>発表 | 【予習】（90分）<br>・地域における医療技術・社会資源を生かした効果的な発達の支援について確認する<br>・発表準備を行う<br>【復習】（90分）<br>・地域における医療技術・社会資源を生かした効果的な発達の支援について復習する |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | スポーツ理学療法学演習 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Physical Therapy Practice in Sports | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 池田 浩 | ナンバリング | SFP3214 |
| 担当教員 | 池田 浩、宮森　隆行、相澤　純也、中村　絵美 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本演習では、スポーツ理学療法学で習得した国際標準的なスポーツ理学療法におけるリハビリテーションの基本的知識・技術をベースとして、アスリート患者の特徴や各スポーツの特異的動作・環境・ルールを考慮した、より具体的なリハビリテーションについて演習する。情報収集及びクリニカルテスト（痛み、筋力、関節可動域、エクササイズ・スポーツ制限、パフォーマンスなど）とエクササイズプログラム（コンディショニング、ストレッチング、ストレングスニング、徒手療法、テーピングなど）、スポーツ復帰支援の基本的な方法について説明できることを主目標とする。リーズニング・介入の実践能力を高めるために、症例情報やケーススタディ論文を提示し、討論や実技トレーニングを設ける。 |
| 到達目標 | ・現在と過去の異常が組織治癒の進行や質に及ぼす影響について説明できる（3A:2）。<br>・スポーツ外傷・障害からの回復に影響する現在と過去のコンディション、痛み（急性、慢性）の経験、他部位の治療歴、合併症、心理・社会・文化的側面について説明できる（3A:3; 3A:4）。<br>・スポーツ外傷・障害のクリニカルテスト、パフォーマンステストの方法と結果解釈について説明できる（3A:5）。<br>・スポーツ理学療法における計測や介入に関する最近の論文を批判的に読むことができる（3B:1）。<br>・下記との関連性を考慮した病歴収集について説明できる：アスリートの優先事項とゴール；スポーツ特異的活動内容；心理社会的側面；診断や介入に至った現在及び過去のコンディションや治療（3C:2）。<br>・スポーツ外傷・障害及びチーム内役割に関連する特異的スポーツ動作の観察と分析について説明できる（3C:4）。<br>・スポーツ外傷・障害ごとに、筋力、関節可動域、柔軟性などのクリニカルテストや機能的パフォーマンステストの方法及び結果解釈について説明できる（3C:5; 3D:1; 3D:2）。<br>・様々な情報（理学療法評価、現病歴、既往歴、治療歴、心理社会的側面、特異的リハビリテーションゴール）から問題点を挙げて、機能的な診断を下す流れについて説明できる（3D:3）。<br>・個別性、科学的根拠、スポーツ特異性、既往・現病を考慮したプログラムとゴールについて説明できる（3D:4; 3D:5）。<br>・スポーツ参加までにかかる時間の専門的な判断について説明できる（3D:6）。<br>・他の専門職へのX線画像、MRI、手術などの急を要する紹介の必要性について説明できる（3E:1）。<br>・個別性、外傷・障害特異性、ルールを考慮した科学的根拠に基づくエクササイズプログラム（コンディショニング、ストレングスニング、ストレッチング）の計画について説明できる（3E:2）。<br>・スキル習得を含めた神経筋コントロール（静的、動的、反応、準備的）の向上のための科学的根拠と個別性を考慮したプログラム計画について説明できる（3E:3）。<br>・ウォームアップ、リカバリー、リハビリテーションのための基本的なマッサージや徒手療法を一部実施できる（3E:4）。<br>・安静、保護、治癒促進のための科学的根拠に基づくテーピングを一部実施できる（3E:5）。<br>・体力や患部外機能を維持するためのトレーニング計画について説明できる（3E:8）。<br>・スポーツやエクササイズへの復帰判断のタイミングについて説明できる（3E:10）。<br>・各種テストの再現性や妥当性を考慮した結果解釈について説明できる（3F:2）。<br>＊括弧内番号は参考書⑮「Sports Physiotherapy Competencies and Standards, Standards Relating to Competency 3: Rehabilitation」の項目番号 |
| 授業の位置づけ | 専門基礎科目である解剖学、生理学、運動学、整形外科学、スポーツ理学療法学で得られた知識を基礎として学修する。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP7-C Ⅰ |
| 履修上の注意、履修要件 | ・各授業までに該当項目・部位に関連する下記について必ず予習し、授業後は学習内容を配布資料、テキスト、参考書等で再確認すること（小テストを実施することがある）。<br>・関節の構造と機能　　・筋の支配神経、起始・停止　　・キネマティクス、キネティクスの特徴<br>・骨指標、関節、筋の触診法　　・形態測定、関節可動域テスト、徒手筋力テストなど<br>・2回目以降は評価や治療の実技練習をするため、動きやすく、身体各部を露出しやすい服装を準備しておくこと（Tシャツ、ハーフパンツなど）。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験（80%）と小テスト（20%）を統合して最終評価する。 |
| 評価基準 | ・アスリート患者の特徴や各スポーツの特異的動作・環境・ルールについて説明することができるか<br>・情報収集及びクリニカルテスト（痛み、筋力、関節可動域、エクササイズ・スポーツ制限、パフォーマンスなど）とエクササイズプログラム（コンディショニング、ストレッチング、ストレングスニング、徒手療法、テーピングなど）について説明することができるか<br>・スポーツ復帰支援の基本的な考え方や方法について説明することができるか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 学生個人もしくはグループへ試験の結果や要改善点などについて適時フィードバックする。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| スポーツ理学療法プラクティス 急性期治療とその技法 | 片寄正樹、他 | 文光堂 | 978-4-8306-4560-0 | |
| スポーツ理学療法プラクティ | 片寄正樹、他 | 文光堂 | 978-4-8306-4559-4 | |

| | |
|---|---|
| ス 機能評価診断とその技法 | |

参考文献

① Roald Bahr（著）、赤坂清和（訳）：スポーツ外傷・障害ハンドブック 発生要因と予防戦略、医学書院、2015
② Peter Brukner（著）、籾山日出樹（訳）：臨床スポーツ医学、医学映像教育センター、2009
③ 古賀英之、他：予防に導くスポーツ整形外科、文光堂、2019
④ 相澤純也、他：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション、羊土社、2012
⑤ Scott K. Powers（著）、内藤久士（訳）：パワーズ運動生理学、メディカルサイエンスインターナショナル、2020
⑥ 相澤純也、他：整形外科理学療法ベストガイド上肢・脊椎編／下肢編、中外医学社、2018
⑦ 赤坂清和、他：改訂第2版スポーツ理学療法学、メジカルビュー、2018
⑧ 小橋由紋子：スポーツ診療のための画像診断、メディカルサイエンスインターナショナル、2016
⑨ 相澤純也、他：クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる、羊土社、2017
⑩ 青木治人、他：スポーツリハビリテーションの臨床、メディカルサイエンスインターナショナル、2019
⑪ Maria Constantinou（著）、赤坂清和（訳）：DVDで学ぶ理論と実践 治療的テーピング、医学映像教育センター、2012
⑫ James H. Clay（著）、大谷素明（訳）：改訂版 クリニカルマッサージ 一目でわかる筋解剖学と触診・治療の基本テクニック、医道の日本社、2009
⑬ David J. Magee（著）：Orthopedic physical assessment 7th ed., Saunders, 2020
⑭ Michael Gross（著）、 相澤純也（訳）：アナトミカルキネシオロジー、メディカルサイエンスインターナショナル、2021
⑮ International Federation of Sports Physical Therapy: Sports Physiotherapy Competencies and Standards, Standards Relating to Competency 3: Rehabilitation, https://ifspt.org/competencies/

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 質問や面談希望はメールで随時受け付ける（j.aizawa.ue@juntendo.ac.jp） |
| 担当教員の実務経験 | ・順天堂医院リハビリテーション室でのスポーツ理学療法担当<br>・順天堂医院整形外科・スポーツ診療科での診療業務 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 池田　浩<br>相澤　純也<br>宮森　隆行<br>中村　絵美 | スポーツ理学療法総論<br>～医師と理学療法士の連携<br>スポーツ指導者とメディカルスタッフの連携～ | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「Ⅰ、Ⅱ」及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 2 | 相澤　純也 | 膝外傷のスポーツ理学療法① | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「膝の靭帯損傷、半月板損傷」に関連する部分、及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 3 | 相澤　純也 | 膝外傷のスポーツ理学療法② | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「膝の靭帯損傷、半月板損傷」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 4 | 相澤　純也 | 膝外傷のスポーツ理学療法③ | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「膝の靭帯損傷、半月板損傷」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 5 | 相澤　純也 | 足関節外傷のスポーツ理学療法① | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「足関節捻挫」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 6 | 相澤　純也 | 足関節捻挫のスポーツ理学療法② | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「足関節捻挫」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 7 | 宮森　隆行 | 股関節障害のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「股関節障害・グロインペイン」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 8 | 宮森　隆行 | 下肢の筋・腱損傷のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しなが | 【予習】（90分）テキスト①、②の「ハムストリングス肉離れ、アキレス腱断裂」に関す |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | ら適時、討論や実演を取り入れる。 | る部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 9 | 中村　絵美 | 下肢障害のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「下肢のスポーツ障害」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 10 | 宮森　隆行 | 頭頸部外傷のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「頭頸部外傷」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 11 | 宮森　隆行 | 脊椎・脊柱障害のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「脊椎・脊柱・体幹」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 12 | 宮森　隆行 | 腰痛症のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「脊椎・脊柱・体幹」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 13 | 中村　絵美 | 肩関節外傷のスポーツ理学療法 | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「肩関節外傷」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 14 | 中村絵美 | 上肢障害のスポーツ理学療法① | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「上肢のスポーツ障害」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |
| 15 | 中村　絵美 | 上肢障害のスポーツ理学療法② | スライドと配布資料をもとに講義しながら適時、討論や実演を取り入れる。 | 【予習】（90分）テキスト①、②の「上肢のスポーツ障害」に関する部分及び前期スポーツ理学療法学の講義資料<br>【復習】（90分）当日の講義資料やテキストを再確認 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 関節障害理学療法学演習 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Physical Therapy Practice in Arthropathy | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 飛山 義憲 | ナンバリング | SFP3215 |
| 担当教員 | 飛山 義憲、宮森　隆行、相澤　純也 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本授業では関節障害に対するエビデンスに基づく理学療法とその根拠を学修することで、関節障害に対する基礎的な知識や技術だけでなく、科学的な理学療法を考察する能力の基盤を養成することを目標とする。授業では関節障害に関する診療ガイドラインやシステマティックレビューを検索し、レビューすることで各関節障害に対し推奨される理学療法および最新の知見に関する知識を身につけるとともに、推奨される理学療法の根拠や具体的な実施方法について考察し、実際の理学療法にどのように活かすべきかを議論する。 |
| 到達目標 | ・代表的な関節障害について診療ガイドラインやシステマティックレビューを検索することができる<br>・診療ガイドラインやシステマティックレビューから推奨される理学療法や最新の知見を得ることができる<br>・推奨される理学療法について、その根拠を考えることができる |
| 授業の位置づけ | 本授業では診療ガイドラインやシステマティックレビューを読みとくことで運動器系理学療法学や運動器系理学療法学実習で学修した知識をさらに発展させる。さらに科学的な理学療法を考察する能力を養い、その後の臨床実習における実際の臨床場面において、その能力を活用し発展させる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2, 理学DP3, 4-C1①：身体機能と構造、疾病・障害・治療を理解し、説明できる<br>共通DP2, 理学DP3, 4-C1②：医学的知識に基づき患者の状況・ニーズを評価できる<br>共通DP2, 理学DP3, 4-C1③：エビデンスに基づく理学療法を理解し、それに基づく基本的な理学療法を計画、実践できる<br>共通DP3, 理学DP5-C1③：最新のエビデンスに基づく医学・医療情報の収集を継続的に実践できる |
| 履修上の注意、履修要件 | 本授業では診療ガイドラインやシステマティックレビューの検索を行うため、検索を行えるデバイスを持参すること。<br>運動器系理学療法学、運動器系理学療法学実習で学んだ理学療法について復習をして授業に臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 小テスト（50%）、期末試験（50%）を統合して評価するが、期末試験は60%以上の得点率を必須とする。 |
| 評価基準 | ・関節障害について診療ガイドラインやシステマティックレビューを検索することができるか。<br>・関節障害に対するエビデンスに基づく理学療法を理解できるか。<br>・エビデンスに基づく理学療法について、その根拠を考えることができるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 小テストについては解説をアップロードする。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| ビジュアル実践リハ　整形外科リハビリテーション　カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜日13：00～16：00　保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）503号室<br>事前メール連絡で随時対応；y.hiyama.cj@juntendo.ac.jp |
| 担当教員の実務経験 | 臨床経験に基づき、理学療法を実践する能力を養成する。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 飛山 義憲 | 変形性膝関節症の理学療法に関する診療ガイドライン | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】運動器系理学療法学、実習で学習した同疾患について復習してから臨む。（90分）<br>【復習】診療ガイドラインに基づいた理学療法をまとめる。（90分） |
| 2 | 飛山 義憲 | 変形性膝関節症、人工膝関節置換術前後の理学療法に関する診療ガイドライン | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】運動器系理学療法学、実習で学習した同疾患について復習してから臨む。（90分）<br>【復習】診療ガイドラインに基づいた理学療法をまとめる。（90分） |
| 3 | 飛山 義憲 | 人工膝関節置換術前後の理学療法に関する診療ガイドライン | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】診療ガイドラインを復習してから臨むこと。（90分）<br>【復習】変形性膝関節症、人工膝関節置換術前後の理学療法のエビデンスおよびディスカ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | ッションした根拠や実施方法についてまとめる。（90分） |
| 4 | 飛山 義憲 | 変形性股関節症の理学療法に関する診療ガイドライン | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】運動器系理学療法学、実習で学習した同疾患について復習してから臨む。（90分）<br>【復習】診療ガイドラインに基づいた理学療法をまとめる。（90分） |
| 5 | 飛山 義憲 | 変形性股関節症、人工股関節置換術前後の理学療法に関する診療ガイドライン | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】運動器系理学療法学、実習で学習した同疾患について復習してから臨む。（90分）<br>【復習】診療ガイドラインに基づいた理学療法をまとめる。（90分） |
| 6 | 飛山 義憲 | 人工股関節置換術前後の理学療法に関する診療ガイドライン | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】診療ガイドラインを復習してから臨むこと。（90分）<br>【復習】変形性膝関節症、人工膝関節置換術前後の理学療法のエビデンスおよびディスカッションした根拠や実施方法についてまとめる。（90分） |
| 7 | 相澤 純也 | 膝靭帯、半月板損傷および再建術、切除術、縫合術術後に関する診療ガイドラインやシステマティックレビュー | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】運動器系理学療法学、実習で学習した同疾患について復習してから臨む。（90分）<br>【復習】診療ガイドラインやシステマティックレビューに基づいた理学療法をまとめる。（90分） |
| 8 | 相澤 純也 | 膝靭帯、半月板損傷および再建術、切除術、縫合術術後に関する診療ガイドラインやシステマティックレビュー | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】診療ガイドラインを復習してから臨むこと。（90分）<br>【復習】膝靭帯、半月板損傷および再建術、切除術、縫合術術後の理学療法のエビデンスおよびディスカッションした根拠や実施方法についてまとめる。（90分） |
| 9 | 相澤 純也 | 膝靭帯、半月板損傷および再建術、切除術、縫合術術後に関する診療ガイドラインやシステマティックレビュー | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】診療ガイドラインを復習してから臨むこと。（90分）<br>【復習】膝靭帯、半月板損傷および再建術、切除術、縫合術術後の理学療法のエビデンスおよびディスカッションした根拠や実施方法についてまとめる。（90分） |
| 10 | 相澤 純也 | 足関節、足部疾患に関する診療ガイドラインやシステマティックレビュー | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】運動器系理学療法学、実習で学習した同疾患について復習してから臨む。（90分）<br>【復習】診療ガイドラインに基づいた理学療法をまとめる。（90分） |
| 11 | 相澤 純也 | 足関節、足部疾患に関する診療ガイドラインやシステマティックレビュー | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】診療ガイドラインを復習してから臨むこと。（90分）<br>【復習】足関節、足部疾患の理学療法のエビデンスおよびディスカッションした根拠や実施方法についてまとめる。（90分） |
| 12 | 宮森 隆行 | 脊椎疾患に関する診療ガイドラインやシステマティックレビュー | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】運動器系理学療法学、実習で学習した同疾患について復習してから臨む。（90分）<br>【復習】診療ガイドラインやシステマティックレビューに基づいた理学療法をまとめる。（90分） |
| 13 | 宮森 隆行 | 脊椎疾患に関する診療ガイドラインやシステマティックレビュー | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】診療ガイドラインを復習してから臨むこと。（90分）<br>【復習】脊椎疾患の理学療法のエビデンスおよびディスカッションした根拠や実施方法についてまとめる。（90分） |
| 14 | 宮森 隆行 | 肩関節疾患に関する診療ガイドラインやシステマティックレビュー | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】運動器系理学療法学、実習で学習した同疾患について復習してから臨む。（90分）<br>【復習】診療ガイドラインやシステマティックレビューに基づいた理学療法をまとめる。（90分） |
| 15 | 宮森 隆行 | 肩関節疾患に関する診療ガイドラインやシステマティックレビュー | グループワーク、ディスカッションにより学習を行う。 | 【予習】診療ガイドラインを復習してから臨むこと。（90分）<br>【復習】肩関節疾患の理学療法のエビデンス |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | およびディスカッションした根拠や実施方法についてまとめる。（90分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 認知神経理学療法学演習 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Physical Therapy Practice in Cognitive Neuroscience | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 山口　智史 | ナンバリング | SFP3216 |
| 担当教員 | 山口　智史、松田 雅弘、藤野 雄次 | | |

授業概要

| | |
|---|---|
| 全体内容 | 本演習では、中枢神経疾患に伴う脳機能障害のうち、特に認知神経機能に焦点を当て、神経系理学療法学や神経系理学療法学実習で学修した知識と技術をさらに発展させる。脳機能イメージングなどの認知神経科学の知見に基づき、脳機能障害を科学的に検証する能力の養成を目標とし、実際の理学療法にどのように応用すべきかを議論する。さらに国内外の文献レビューを通じて批判的に論文を考察する能力を養うことも目標とする。 |
| 到達目標 | ・脳の構造と機能について、脳機能イメージングの知見をもとに説明できる。<br>・神経への物理的な刺激法の神経生理学的機序について理解し、ニューロリハビリテーションにおける理学療法展開について説明できる。<br>・認知機能、高次脳機能が破綻した病態や障害像を理解でき、理学療法展開について説明できる。<br>・文献検索や課題をまとめる能力、プレゼンテーション能力を高め、論理的に報告できる。 |
| 授業の位置づけ | ・脳損傷による病態のうち、特に認知機能や高次脳機能の障害に伴う運動・動作障害に対する理学療法の応用について学ぶ。<br>・将来、病期を問わず中枢神経疾患に対する理学療法を学ぶうえで重要な演習となる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | ・脳損傷後の認知機能低下や高次脳機能障害と、それを支援する理学療法を学ぶ。理学DP1-CⅠおよびⅡ.「人間の生命・人権を尊重し、高い倫理観と豊かな人間性を備え、社会に貢献できる能力」や、理学DP3-CⅠ.「人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身についている」と深く関連する。<br>・自律的学習能力と科学的探究心を向上させる実施形態であり、理学DP5-Ⅰ.「理学療法学に対する向上心と研究心を持ち、生涯に亘って主体的に継続して学修に取り組むことができる能力」を身につけることができる。 |
| 履修上の注意、履修要件 | 神経系理学療法学、神経系理学療法学演習を十分理解して望むこと。<br>課題発表、課題レポートに関して担当教員にアドバイスを求め、積極的にグループワークに参加すること。 |

成績評価の方法

| | |
|---|---|
| 評価方法 | グループワークの取り組み・課題発表（70%）、小テスト（30%）の合計点により最終評価を行う。 |
| 評価基準 | 各講義に出題される課題、小テスト、他者評価について教員と学生が評価を行う。<br>最終評価は総合的に判断する。 |

試験・課題等に対するフィードバック方法

授業内やJ-PASS、Google Classroomを使用して返却。

テキスト

参考文献

【参考書】
・高次脳機能障害ABC　網本和編集　文光堂　ISBN：978-4830645297
・神経科学の最前線とリハビリテーション　里宇明元、牛場潤一監修　医歯薬出版　ISBN：978-4263215357
【その他】
・講義でプリント配布

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 毎週水曜日　15：00～17：00　その他は事前メールにて随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | ・授業回は1回あたり3コマ連続（90分×3）で行う。1コマ目は講義、2コマ目は実技・実演、3コマ目はグループディスカッションと発表とする。 |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 松田　雅弘<br>山口　智史<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | オリエンテーション<br><br>【脳損傷後の基本動作障害に対する評価と治療】<br>脳損傷後の基本動作障害の特徴を知り、評価や分析のポイントと理学療法の展開を学ぶ。 | 講義<br>実技・実演<br>グループディスカッション<br>発表 | 【予習】（30分）<br>脳損傷後の病態や動作障害の特徴、理学療法の評価と治療について確認する。<br>【復習】（30分）<br>脳構造と機能、脳損傷後の障害像について復習する。 |
| 2 | 松田　雅弘<br>山口　智史<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【脳損傷後の日常生活動作障害に対する評価と治療】<br>脳損傷後の日常生活における障害の特徴を知り、評価や分析のポイントと理学療法の展開を学ぶ。 | 講義<br>実技・実演<br>グループディスカッ | 【予習】（30分）<br>脳損傷後の病態や動作障害の特徴、理学療法の評価と治療について確認する。<br>【復習】（30分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | ション<br>発表 | 脳構造と機能、脳損傷後の障害像について復習する。 |
| 3 | 松田　雅弘<br>山口　智史<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【脳機能と運動・行為】<br>運動や行為に関連する高次脳機能障害のうち、半側空間無視について学ぶ。 | 講義<br>実技・実演<br>グループディスカッション<br>発表 | 【予習】（30分）<br>半側空間無視の病態、運動や行為に及ぼす影響について調べる。<br>【復習】（30分）<br>自身の行為が何故生じたのかについて、脳機能から考える。 |
| 4 | 松田　雅弘<br>山口　智史<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【脳機能と運動・行為】<br>運動や行為に関連する高次脳機能障害のうち、Pusher現象について学ぶ。 | 講義<br>実技・実演<br>グループディスカッション<br>発表 | 【予習】（30分）<br>Pusher現象の病態、評価、治療方法について調べる。<br>【復習】（30分）<br>脳損傷部位と運動障害・認知障害から理学療法展開を考える。 |
| 5 | 松田　雅弘<br>山口　智史<br>藤野　雄次<br>髙橋　容子 | 【脳機能と姿勢バランス】<br>脳機能と姿勢バランスの関連や、脳損傷後の姿勢バランス障害の評価・理学療法の展開について学ぶ。 | 講義<br>実技・実演<br>グループディスカッション<br>発表 | 【予習】（30分）<br>脳損傷後の姿勢バランス障害の評価、治療方法について調べる。<br>【復習】（30分）<br>脳機能障害と姿勢バランスから理学療法展開を考える。 |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 急性期理学療法学演習 | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Physical Therapy Practice in Acute Care | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | SFP3217 |
| 担当教員 | 高橋　哲也、森沢 知之、齊藤　正和、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本演習は、発症早期（特に集中治療室で）の急性期理学療法に焦点をおいた授業である。急性期理学療法に必要な病態理解、医学的管理方法、リスク管理を学ぶとともに、急性期理学療法の最適なプログラムを科学的に議論、考察できる能力を養成することを目標とする。そのために急性期理学療法に関する国内外の文献レビューを通じて、最新のエビデンスや知見を身に付け、今後の急性期理学療法の臨床や研究への活用や発展につながる能力を養うことも目標とする。 |
| 到達目標 | 1．ICUの理学療法を理解し、理学療法プログラムが立案できるようになる<br>2．採血データの基本を理解し、患者の状態が説明できるようになる<br>3．温度板の基本を理解し、病状や体調の変化を説明できるようになる<br>4．胸部X線写真やCTなどの画像所見の基本的読影ができるようになる<br>5．体位の違いによる生体の生理学的反応について説明できるようになる<br>6．急性炎症およびICU-acquired weaknessについて説明できるようになる |
| 授業の位置づけ | ・２年後期『内部障害系理学療法』、３年前期『内部障害系理学療法学実習』で学修した知識や技術からさらに専門性を高める内容である。１年前期『救命救急学』の知識も必要になる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | ・共通DP-1-C1・ 2-C1・3-C1、理学DP-1-C1・ 2-C1・3-C1・4-C1・5-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・急性期理学療法学演習は、特定機能病院や急性期総合病院の集中治療室における理学療法を学ぶため、急性期病院で働く意思のある者の受講を期待する。内部障害理学療法学で学んだ内容が基礎となるため、配布資料や内部障害理学療法学の指定教科書をよく読んで、積極的な学修姿勢で臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | ・確認テスト（40%）、定期試験（60%）により評価する |
| 評価基準 | ・急性期理学療法に必要な病態理解、医学的管理方法、リスク管理を理解し、急性期理学療法の最適なプログラムを科学的に議論、考察することができる。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| ・授業内やJuntendo Passportを使用して返却。<br>・確認テストの結果は確認テスト終了直後に正答をフィードバックする。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 特になし。必要に応じてプリントを授業の際に配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | ・事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 担当する教員〔高橋哲也（群馬県立心臓血管センターなど）、齊藤正和（榊原記念病院など）、森沢知之（兵庫医科大学病院など）〕が病院での臨床経験（１０年以上）を活かし、実際の症例に関する内容を交え講義を行う。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【ICUの理学療法①】<br>ICUの理学療法を理解し、離床プログラム、体位変換、移乗動作などを習得する。 | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【ICUの理学療法②】<br>ICUの理学療法を理解し、離床プログラム、体位変換、移乗動作などを習得する。 | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之 | 【ICUの理学療法③】<br>ICUの理学療法を理解し、離床プログラム、体位変換、移乗 | ・講義<br>・ディスカッション | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 齊藤正和 | 動作などを習得する。 | ・演習 | 【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【採血データと理学療法①】<br>採血データの基本を理解し、理学療法にどう活かすかを学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【採血データと理学療法②】<br>採血データの基本を理解し、理学療法にどう活かすかを学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【採血データと理学療法③】<br>採血データの基本を理解し、理学療法にどう活かすかを学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【温度板と理学療法①】<br>温度板の基本を理解し、理学療法にどう活かすかを学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【温度板と理学療法②】<br>温度板の基本を理解し、理学療法にどう活かすかを学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【温度板と理学療法③】<br>温度板の基本を理解し、理学療法にどう活かすかを学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【画像評価と理学療法①】<br>画像所見の見方を学習し、理学療法にどう活かすかを学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【画像評価と理学療法②】<br>画像所見の見方を学習し、理学療法にどう活かすかを学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【画像評価と理学療法③】<br>画像所見の見方を学習し、理学療法にどう活かすかを学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【炎症・ICU-AW①】<br>急性炎症およびICU-acquired weaknessについて学習し、理学療法にどう活かすかを学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【炎症・ICU-AW②】<br>急性炎症およびICU-acquired weaknessについて学習し、理学療法にどう活かすかを学ぶ | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>齊藤正和 | 【まとめ】<br>これまでの授業を通じて、全体的なまとめを行う | ・講義<br>・ディスカッション<br>・演習 | 【予習】事前配布資料をよく読んでくること（90分）<br>【復習】実施した内容は臨床に直結する知識・技術であるため，よく復習すること。確認テストに向けた準備をすること（90分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 高齢者理学療法学演習 | 授業形態 | |
| 英語科目名 | Physical Therapy Practice in Older People | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | SFP3218 |
| 担当教員 | 高橋　哲也、森沢 知之、澤　龍一、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本演習では、介護予防やフレイル予防を履修内容の中核とし、演習を通して、高齢者に対する理学療法の基本的な応用力を養うことを目的とする。そのため高齢者が抱える多くの問題点を包括的に捉えることができ、老年医学症候群やフレイルに陥る危険が高い高齢者を選定するための知識・能力の習得及び科学的根拠に基づく理学療法の実践に向けて臨床推察ができるようになることを目標とする。また文献レビューを通して高齢者が抱える共通の課題である老年症候群やフレイルに関する最新のエビデンスを理解し、他職種との連携を踏まえて、高齢者理学療法として、今後どのように活かすか討議する能力を養成することも目的とする。 |
| 到達目標 | (1) 高齢者に対する身体・認知機能の測定について、それぞれの指標の内容を説明することが出来る。<br>(2) 高齢者に対する身体・認知機能の測定について、適切な測定方法で実施することが出来る。<br>(3) 高齢者に対する身体・認知機能の測定について、測定結果を理解することが出来る。<br>(4) 高齢者に対する身体・認知機能の測定について、得られた結果を高齢者が分かりやすいように資料にまとめてフィードバックすることが出来る。 |
| 授業の位置づけ | 専門分野　理学療法治療学 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-1-C1, 2-C1, 3-C1　　理学DP-1-C1,2-C1,3-C1,4-C1,5-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 各回の講義前後には必ず予習、復習をおこなうこと。<br>グループワークやグループ発表には、積極的に議論に参加すること。<br>実習は、実際の臨床場面と同等とし、身だしなみ・態度等に留意して参加すること（装飾品・爪・服装）。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 【成績評価方法】<br>定期テスト（50%）、作成資料およびグループ発表（50%）を統合して評価する。 |
| 評価基準 | 【成績評価基準】<br>高齢者に対する理学療法に関して、身体・認知機能の測定の位置づけを説明することが出来るか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて授業内やJuntendo Passportを使用して返却。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 【テキスト】<br>なし（必要に応じて事前に講義資料の配布、また事後に適宜参考資料を配布する。）<br>【参考書】<br>Crosslink 理学療法学テキスト 高齢者理学療法学 MEDICAL VIEW | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜日17：00-18：00　保健医療学部理学療法学科（御茶ノ水センタービル）507号室<br>te-takahashi@juntendo.ac.jp　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 担当教員は本講義を教える上で十分な臨床経験、教育経験、研究経験を有している。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【初回ガイダンス、高齢者の身体・認知機能測定の概要】<br>(1) 授業計画や進め方について説明する。<br>(2) 高齢者の身体・認知機能の特徴について学習する。<br>(3) 高齢者の身体・認知機能測定の概要について学習する。 | | 【予習】（90分）<br>身体・認知機能の測定方法について、他科目を含めて資料を復習してから臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ測定方法について、復習すること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【グループワーク：身体・認知機能測定のマニュアル作成】<br>(1) 高齢者の身体・認知機能測定に関して実施マニュアルを作成する。 | | 【予習】（90分）<br>身体・認知機能の測定方法について、他科目を含めて資料を復習してから臨むこと。<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 授業で学んだ測定方法について、復習すること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【グループ発表：身体・認知機能測定の理解共有】<br>(1) 前回作成した、身体・認知機能測定の実施マニュアルについて、その内容を共有する。 | | 【予習】（90分）<br>授業で作成したマニュアルを基に、測定における注意点を説明しながら実演できるように準備して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ身体・認知機能の測定に関して、実施における注意点を復習すること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【実習：身体・認知機能の測定①】<br>(1) 作成したマニュアルに従って、身体・認知機能測定を実施する。 | | 【予習】（90分）<br>授業で作成したマニュアルを基に、注意点に配慮しながら測定を実施できるように準備して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ注意点を考慮して、測定を実施できるよう練習をすること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【実習：身体・認知機能の測定②】<br>(1) 作成したマニュアルに従って、身体・認知機能測定を実施する。 | | 【予習】（90分）<br>授業で作成したマニュアルを基に、注意点に配慮しながら測定を実施できるように準備して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ注意点を考慮して、測定を実施できるよう練習をすること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【実習：高齢者の身体・認知機能測定の実際①】<br>(1) 作成したマニュアルに従って、高齢者の身体・認知機能測定を実施する。 | | 【予習】（90分）<br>授業で作成したマニュアルを基に、注意点に配慮しながら測定を実施できるように準備して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ注意点を考慮して、測定を実施できるよう練習をすること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【実習：高齢者の身体・認知機能測定の実際②】<br>(1) 作成したマニュアルに従って、高齢者の身体・認知機能測定を実施する。 | | 【予習】（90分）<br>授業で作成したマニュアルを基に、注意点に配慮しながら測定を実施できるように準備して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ注意点を考慮して、測定を実施できるよう練習をすること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【実習：高齢者の身体・認知機能測定の実際③】<br>(1) 作成したマニュアルに従って、高齢者の身体・認知機能測定を実施する。 | | 【予習】（90分）<br>授業で作成したマニュアルを基に、注意点に配慮しながら測定を実施できるように準備して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ注意点を考慮して、測定を実施できるよう練習をすること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【実習：高齢者の身体・認知機能測定の実際④】<br>(1) 作成したマニュアルに従って、高齢者の身体・認知機能測定を実施する。 | | 【予習】（90分）<br>授業で作成したマニュアルを基に、注意点に配慮しながら測定を実施できるように準備して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ注意点を考慮して、測定を実施できるよう練習をすること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【実習：高齢者の身体・認知機能測定の実際⑤】<br>(1) 作成したマニュアルに従って、高齢者の身体・認知機能測定を実施する。 | | 【予習】（90分）<br>授業で作成したマニュアルを基に、注意点に配慮しながら測定を実施できるように準備して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ注意点を考慮して、測定を実施できるよう練習をすること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【グループワーク：フィードバック資料作成①】<br>(1) 高齢者への結果フィードバックについて学習する。<br>(2) 前回測定した身体・認知機能の結果を用いて、フィードバック資料を作成する。 | | 【予習】（90分）<br>前回実施した測定項目について、結果の見方や基準値などを確認して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ各測定指標の結果の見方や基準値について復習すること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【グループワーク：フィードバック資料作成②】<br>(1) 高齢者への結果フィードバックについて学習する。<br>(2) 前回測定した身体・認知機能の結果を用いて、フィードバック資料を作成する。 | | 【予習】（90分）<br>前回実施した測定項目について、結果の見方や基準値などを確認して臨むこと。<br>【復習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 授業で学んだ各測定指標の結果の見方や基準値について復習すること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【グループ発表：高齢者へのフィードバック①】<br>(1) 前回作成したフィードバック資料を用いて模擬フィードバックを実施する。 | | 【予習】（90分）<br>結果の見方や基準値を参考に、高齢者を想定したフィードバック資料を作成して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>グループ発表で出た質問やコメントを基に、フィードバック資料を修正すること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【グループ発表：高齢者へのフィードバック②】<br>(1) 前回作成したフィードバック資料を用いて模擬フィードバックを実施する。 | | 【予習】（90分）<br>結果の見方や基準値を参考に、高齢者を想定したフィードバック資料を作成して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>グループ発表で出た質問やコメントを基に、説明方法やフィードバック資料を修正すること。 |
| | 高橋哲也<br>森沢知之<br>澤龍一 | 【まとめ】<br>(1) 最終版のフィードバック資料を用いて、高齢者に対して結果返却を実施する。 | | 【予習】（90分）<br>結果の見方や基準値を参考に、高齢者を想定したフィードバック資料を作成して臨むこと。<br>【復習】（90分）<br>グループ発表で出た質問やコメントを基に、説明方法やフィードバック資料を修正すること。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 地域理学療法学I | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Community-Based Rehabilitation I | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 澤　龍一 | ナンバリング | SFP3300 |
| 担当教員 | 澤　龍一、宮森　隆行、中村　絵美 | | |

授業概要

| | |
|---|---|
| 全体内容 | 本講義は、公衆衛生領域での一次予防と二次予防の重要性を理解し、理学療法士として地域レベルでの健康増進に寄与できる知識・技術の修得並びに高齢者や障がい者及びその家族が住み慣れた地域において継続して生活できるよう、主として生活支援の視点で学術的・実践的活動ができる知識・技術の修得を目的とする。本講義は、保健活動を基盤とする領域（地域住民の健康増進、生活習慣病予防、ポピュレーションアプローチなど）、老年学を基盤とする領域（加齢の理解、高齢者のための機能評価、介護予防など）、在宅支援を基盤とする領域（訪問リハ、介護負担軽減のための介護者支援など）に大別して行う。この際、公衆衛生学の研究領域から得られた知見も併せて概説し、学際的に地域理学療法の重要性を学ぶ。 |
| 到達目標 | ・公衆衛生領域での一次予防と二次予防の重要性を理解して、説明できる<br>・理学療法士として地域レベルでの健康増進に寄与できる知識を習得し、説明することができる。<br>・高齢者や障がい者及びその家族が住み慣れた地域において継続して生活できるよう、主として生活支援の視点で学術的・実践的活動ができる知識を習得し、説明することができる。 |
| 授業の位置づけ | 本講義では生活支援の視点での理学療法士の役割を学修する。運動器系理学療法学や神経系理学療法学などの専門科目で学修した内容を病院ではなく地域というフィールドで活用するための基礎として学びながら、得られた知識を地域理学療法学 II で発展させる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1 C II<br>共通DP1 C III<br>共通DP2 C I<br>共通DP3 C I<br>理学DP1 C II<br>理学DP2 C I<br>理学DP3 C I<br>理学DP4 C I |
| 履修上の注意、履修要件 | 講義内容に不明な点があれば事前に関連する書籍やインターネット等で調べておくことが好ましい。 |

成績評価の方法

| | |
|---|---|
| 評価方法 | 各講義内での課題（60%）、課題発表（40%）により最終評価する。<br>【成績評価基準】<br>地域において、理学療法や理学療法士の位置づけを説明することが出来るか。 |
| 評価基準 | 公衆衛生領域における一次予防と二次予防の重要性について、それぞれの違いを明確にしながら説明することが出来るか<br>理学療法士として地域において健康増進に寄与するために必要となる、高齢者や障がい者の特性について説明することができるか |

試験・課題等に対するフィードバック方法

必要に応じて授業内やJuntendo Passportを使用して返却。

テキスト

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| Crosslink 理学療法学テキスト 地域理学療法学 | 浅川康吉 | メジカルビュー社 | 978-4-7583-2010-8 | |

参考文献

講義時に追加資料を配布

その他

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | 毎週月曜日　午後16:00～18:00　その他は事前メール受付で随時対応する。 |
| 担当教員の実務経験 | 担当教員は本講義を教える上で十分な臨床経験、教育経験、研究経験を有している。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 澤龍一 | 【地域理学療法を取り巻く社会背景】<br>地域保健・在宅医療にかかわる法整備と歴史背景について学ぶ。 | | 【予習】<br>地域理学療法という文言の意味を調べておくこと。 |
| 2 | 澤龍一 | 【公衆衛生学と地域理学療法】<br>一次予防と二次予防の重要性と公衆衛生学研究から得られた知見を概説し、理学療法が担える役割について学ぶ。 | | 【予習】<br>公衆衛生学について調べておくこと。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 3 | 澤龍一 | 【地域での疾病予防と健康増進①】<br>地域が抱える生活習慣病やメンタルヘルスに関する問題について学ぶ。 | | 【予習】<br>身体機能と精神機能の密接な関連について調べておくこと。 |
| 4 | 澤龍一 | 【地域での疾病予防と健康増進②】<br>理学療法士として、どのように地域の疾病予防と健康増進に関わることができるか学ぶ。 | | 【予習】<br>運動によって予防できる疾病にはどのようなものがあるのか調べておくこと。 |
| 5 | 澤龍一 | 【介護予防①】<br>加齢に伴う心身機能の変化を概説し、介護予防の重要性を学ぶ。 | | 【予習】<br>老化に伴う障害や疾病にはどのようなものがあるのか調べておくこと。 |
| 6 | 澤龍一 | 【介護予防②】<br>転倒予防、認知症予防について、多面的にアプローチする必要性を概説し、理学療法士が介護予防において担う役割を学ぶ。 | | 【予習】<br>認知症を予防する方法にはどのようなものがあるのか調べておくこと。 |
| 7 | 澤龍一 | 【行動変容に基づく介入方法】<br>ヘルスプロモーション活動の方法論を概説し、関係各所との連携方法や対象者とのコミュニケーション方法について学ぶ。 | | 【予習】<br>運動嫌いなひとに運動をしてもらうためには、どのようなことが必要か考えておくこと。 |
| 8 | 澤龍一 | 【健康づくりに関わるHealth literacy】<br>健康づくりに関わる健康情報の取捨選択の重要性を学び、地域の健康増進に関わる医療従事者として、健康情報の取り扱い方法を学ぶ。 | | 【予習】<br>怪しげな健康情報について調べておくこと。 |
| 9 | 澤龍一 | 【地域の健康を支える理学療法：発表準備】<br>地域での疾病予防、健康増進、介護予防について、理学療法士として果たせる役割や具体的な介入プログラムについてグループワークを通じて考え、資料にまとめる。 | | 【予習】<br>これまで学んだことを整理しておくこと。 |
| 10 | 澤龍一 | 【課題発表①】<br>事前に与えられた課題（地域での疾病予防、健康増進、介護予防方略について）に対して、各グループが発表を行う。 | | 【予習】<br>発表内容をきちんと理解し、原稿がなくても発表できるよう練習をしておく。<br>【復習】<br>他のグループの発表を整理し、自身のグループの発表の修正ポイントを考えてみること。 |
| 11 | 澤龍一 | 【地域での障がい者支援】<br>障害者総合支援法及び地域での障がい者への支援状況を学び、地域でどのように障がい者を支える必要があるか考えを深める。 | | 【予習】<br>障がい者を支援する施設の種類を調べておくこと。 |
| 12 | 澤龍一 | 【訪問理学療法の立案と実施展開】<br>訪問理学療法の概要と、その際の注意点について学び、多職種連携の重要性について理解する。 | | 【予習】<br>訪問理学療法を行う際に注意するべきポイントを考えておくこと。 |
| 13 | 澤龍一 | 【介護施設における理学療法】<br>高齢者介護施設等での理学療法の概要と、その際の注意点について学び、他職種連携の重要性について理解する。 | | 【予習】<br>高齢者介護施設において、レクリエーションは必要か否か、自分の意見をまとめておくこと。 |
| 14 | 澤龍一 | 【理学療法によるより良い在宅ケア：発表準備】<br>障がい者支援施設、訪問・高齢者介護施設等での理学療法において、理学療法士としてどのような取り組みが必要かグループワークを通じて考え、資料にまとめる。 | | 【予習】<br>これまで学んだことを整理しておくこと。 |
| 15 | 澤龍一 | 【課題発表②】<br>事前に与えられた課題（障がい者支援施設、訪問・高齢者介護施設等での理学療法）に対して、各グループが発表を行う。 | | 【予習】<br>発表内容をきちんと理解し、原稿がなくても発表できるよう練習をしておく。<br>【復習】<br>他のグループの発表を整理し、自身のグループの発表の修正ポイントを考えてみること。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 地域理学療法学II | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Community-Based Rehabilitation II | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 澤　龍一 | ナンバリング | SFP3301 |
| 担当教員 | 澤　龍一、眞壁 寿、春山　幸志郎 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本講義は、地域理学療法Ⅰで得た知識を発展させる。具体的には「模擬症例を通じた在宅における理学療法士の関わり」「予防理学療法」「産業理学療法」を実務者や障害当事者を招聘して話を聞くことで、改めて地域における理学療法士の役割の大きさを理解することを目的とする。講義全体を通じて、グループワークやディスカッションを活用しながら学修内容をアウトプットする機会を作ることで、医療専門職としてヘルスコミュニケーションの重要性の理解につなげていく。 |
| 到達目標 | (1) 予防という概念を理解し、様々な健康課題に対して予防的な観点から、理学療法士の役割を説明することが出来る。<br>(2) 症例に対して、生活機能の観点から問題点を抽出することが出来る。<br>(3) 産業保健分野における理学療法士の役割を説明することが出来る。 |
| 授業の位置づけ | 地域理学療法学Ⅰで学修した内容を発展させるとともに、予防的観点から理学療法士の役割を再考する。予防理学療法の対象として高齢者だけではなく働き世代をとらえることで産業分野における理学療法士の役割を学修する。講義内ではグループワーク・発表機会を設けることで、学修内容のアウトプットを積極的に行っていく。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1 C II<br>共通DP1 C III<br>共通DP2 C I<br>共通DP3 C I<br>理学DP1 C II<br>理学DP2 C I<br>理学DP3 C I<br>理学DP4 C I<br>理学DP5 C I |
| 履修上の注意、履修要件 | (1) 各回の講義前後には必ず予習、復習を行うこと。<br>(2) グループワーク時には、積極的に議論に参加すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 講義中に実施する小テスト（20%）、課題発表（30%）、定期試験（40%）、日々の学習状況（10%）を踏まえて統合して評価する。 |
| 評価基準 | (1) 理学療法士の予防領域における役割を理解した上で、予防の取り組みの重要性を説明することが出来るか<br>(2) 生活機能について、症例個人だけでなく、症例の生活する環境の側面からも問題点を抽出することが出来るか<br>(2) 産業理学療法を理解し、理学療法士の産業領域における役割を説明することが出来るか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 必要に応じて、授業内やJuntendo Passportを使用して返却 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 予防と産業の理学療法 | 樋口由美/浅田史成/牧迫飛雄馬 | 南江堂 | 978-4-524-24693-9 | |

| | |
|---|---|
| 参考文献 | |
| 講義の事前・事後に適宜資料を配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 事前メールにて随時対応または水曜日16:00-17:00 保健医療学部理学療法学科（御茶ノ水センタービル）508号室 |
| 担当教員の実務経験 | 担当教員は本講義を教える上で十分な臨床経験、教育経験、研究経験を有している。 |
| 備考 | |
| 授業計画 | |

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 澤龍一 | 【初回ガイダンス、フィールドワークの概要】<br>(1) 授業計画や進め方について説明する<br>(2) 講義内で実施するフィールドワークについて説明する | 講義 | 【予習】（90分）<br>フィールドワークのマニュアルを一読してから臨むこと<br>【復習】（90分）<br>フィールドワークの実施方法について、マニュアルを確認しながら復習すること |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 春山幸志郎、澤龍一 | 【間取り図作成】<br>(1) 生活環境評価としての間取り図作成を学修する | 講義<br>グループワーク | 【予習】（90分）<br>間取り図の書き方について、調べてから臨むこと<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ内容について復習すること |
| 3 | 春山幸志郎、澤龍一 | 【症例検討（ケアマネジメント）】<br>(1) 地域におけるケアマネジメントを模擬症例を基に学修する | グループワーク | 【予習】（90分）<br>介護保険サービスについて、調べてから臨むこと<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ内容について復習すること |
| 4 | 澤龍一 | 【認知症予防】<br>(1) 予防（一次予防・二次予防・三次予防）について学修する<br>(2) 予防理学療法の概要を学修する | 講義<br>グループワーク | 【予習】（90分）<br>予防（一次予防・二次予防・三次予防）とは何か、調べてから臨むこと<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ内容について復習すること |
| 5 | 春山幸志郎 | 【障害者の地域生活】<br>(1) 障害当事者の話を聞き、地域での生活を理解する<br>(2) (1) を基に、小グループで「理学療法士として在宅で関わるために」というテーマでディスカッションをする | 講義<br>ディスカッション | 【予習】（90分）<br><br>【復習】（90分） |
| 6 | 澤龍一 | 【理学療法の各専門領域における地域理学療法】<br>(1) 小児領域の地域での理学療法士の役割について学修する<br>(2) 内部障害領域（呼吸・心臓）の地域での理学療法士の役割について学修する | 講義 | 【予習】（90分）<br>これまでに学修した小児領域・内部障害領域の理学療法に関する基礎知識を調べてから臨むこと<br>【復習】（90分）<br>授業で学んだ内容について復習すること |
| 7 | 澤龍一<br>講師招聘予定 | 【産業理学療法①】<br>(1) 産業保健の概要を学修する | 講義 | 【予習】（90分）<br>産業保健について、調べてから臨むこと<br>【復習】（90分）<br>講義で学んだ内容について復習をすること |
| 8 | 澤龍一<br>講師招聘予定 | 【産業理学療法②】<br>(1) 産業保健分野における理学療法士の役割を学修する | 講義、グループワーク | 【予習】（90分）<br>産業保健分野の課題（頚部痛・腰痛）について、調べておくこと<br>【復習】（90分）<br>グループワークで学んだ内容について復習をして、知識を定着させること |
| 9 | 澤龍一<br>講師招聘予定 | 【産業理学療法③】<br>(1) 理学療法学を生かした企業での働きかたについて学修する | 講義 | 【予習】（90分）<br>企業で働いている「働き世代」が抱える健康課題について、調べてから臨むこと<br>【復習】（90分）<br>講義で学んだ内容を復習するとともに、それ以外にどのような理学療法の知識が企業で働く上で役立つか、考えてみること |
| 10 | 眞壁寿、春山幸志郎、澤龍一 | 【予防啓発への取り組み①】<br>(1) 予防的観点から行動変容を促すための地域での啓発活動について学修する<br>(2) エビデンスに基づいた資料作成の意義について学修する | 講義<br>グループワーク | 【予習】（90分）<br>ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、行動変容などを復習してから臨むこと<br>【復習】（90分）<br>グループ発表の内容やもらった質問を統合して、知識を深めること |
| 11 | 眞壁寿、春山幸志郎、澤龍一 | 【予防啓発への取り組み②】<br>(1) 予防的観点から行動変容を促すための資料を作成する | グループワーク、ディスカッション | 【予習】（90分）<br>ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、行動変容などを復習してから臨むこと<br>【復習】（90分）<br>グループ発表の内容やもらった質問を統合して、知識を深めること |
| | 眞壁寿、春山幸志郎、澤龍一 | 【予防啓発への取り組み②】<br>(1) 予防的観点から行動変容を促すための資料を作成する | グループワーク、ディスカッション | 【予習】（90分）<br>ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、行動変容などを復習してから臨むこと<br>【復習】（90分）<br>グループ発表の内容やもらった質問を統合して、知識を深めること |
| | 眞壁寿、春山幸志郎、澤龍一 | 【予防啓発への取り組み④】<br>(1) 予防的観点から行動変容を促すための資料を作成する<br>(2) グループ発表を通じて、ヘルスコミュニケーションの重要性を理解する | グループワーク、ディスカッション | 【予習】（90分）<br>ヘルスリテラシー、ヘルスコミュニケーション、行動変容などを復習してから臨むこと<br>【復習】（90分）<br>グループ発表の内容やもらった質問を統合して、知識を深めること |
| 14 | 澤龍一 | 【フィールドワーク①】 | フィールドワーク | 【予習】（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | (1) 高齢者を対象にした体力測定を経験する | | 測定マニュアルを読み込むとともに、測定の練習を行っておくこと<br><br>【復習】（90分）<br>実際に測定を経験して、高齢者とのコミュニケーションの難しさなど、測定技術以外に得た学びを統合して、体力測定を振り返っておくこと |
| 15 | 澤龍一 | 【フィールドワーク②】<br>(1) 高齢者を対象にした体力測定を経験する | フィールドワーク | 【予習】（90分）<br>測定マニュアルを読み込むとともに、測定の練習を行っておくこと<br><br>【復習】（90分）<br>実際に測定を経験して、高齢者とのコミュニケーションの難しさなど、測定技術以外に得た学びを統合して、体力測定を振り返っておくこと |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 臨床実習I（見学） | 授業形態 | 実験・実習 |
| 英語科目名 | Clinical Practice I(Early Clinical Exposure) | 開講学期 | 2022年度前期、2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | SFP3400 |
| 担当教員 | 高橋　哲也、宮森　隆行、眞壁 寿、松田 雅弘、森沢 知之、飛山 義憲、藤野 雄次、髙橋 容子、春山　幸志郎、相澤　純也、山口　智史、齊藤　正和、中村　絵美、澤　龍一、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 理学療法の臨床現場を見学し、臨床で勤務する理学療法士の姿から医療専門職としての立ち振る舞いや言葉遣いなど行動規範を学ぶ。また医療における理学療法業務の位置づけを理解するために、他の専門医療職とどのように連携してチーム医療を実践しているか、実際の体験を通して学修する。医療専門職としての倫理観に触れ、臨床で理学療法士がどのように働き、どのように理学療法が行われているかについて、自分の目で見たこと、経験したことをまとめ、今後の学修の動機付けとなることをねらいとする。本実習は、全て本学医学部附属順天堂医院で行い、本学教員も参加して行う。本実習を行う前には、学内で十分にオリエンテーションを行い、実習に臨む態度や知識を確認し評価する。また終了後にも報告会を行うなどし、臨床実習後の評価を実施する。 |
| 到達目標 | 1. 理学療法業務の実際を知り、理学療法士を目指す具体的イメージを持つことができる<br>2. 他の専門医療職とどのように連携してチーム医療を実践しているか理解することができる<br>3. 入院患者の理学療法を見学し、見学したことをメモに書き留めることができる<br>4. 見学内容を他者と共有し、議論することができる<br>5. 医療人としての基本的素養を習得する |
| 授業の位置づけ | 1年次から実施する臨床実習は4年間継続する臨床実習として最初の臨床現場での実習である。早期体験実習が該当し，対象者に評価・治療を行うのではなく，対象者や施設・医療スタッフに対して適切な態度で接すること，診療チームの一員としての理学療法士の役割について学ぶことを目的とする。主には対象者への対応等についての見学を実施する。<br>臨床実習で学んだことを1年次に履修している科目にも相互に活かし，通年として実施されるため見学の見る視点を増やしていき、専門性を高めていく。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP-1、４、５ |
| 履修上の注意、履修要件 | 1) 実習実施日は別途指示する。<br>2) 実習の手引き、順天堂医院　ポケットセーフティーマニュアル「接遇マナーの10箇条」「職業倫理」「感染予防対策」についてよく読んで理解してくること。<br>3) 服装・身だしなみが順天堂医院の実習にふさわしくないと判断された学生は、実習への参加はできない。<br>4) 実際の臨床現場を経験する貴重な時間になるため、積極的な学修姿勢で臨むこと。また、各分野の最前線に触れることができる貴重な機会であることから、問題意識と新たな知識に触れる好奇心を持って臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | (1)実習中の学ぶ姿勢や参加態度（各指導者が評価）　40%<br>(2)実習報告書（レポート）20%<br>(3)基礎知識の確認テスト　20%<br>(4)報告会での発表評価、他者からの評価　20% |
| 評価基準 | (1)実習中の学ぶ姿勢や参加態度（各指導者が評価）：臨床実習教育者が評価を行う<br>(2)実習報告書（レポート）20%：担当教員が評価を行う<br>(3)基礎知識の確認テスト　20%：担当教員が評価を行う<br>(4)報告会での発表評価、他者からの評価　20%：担当教員、学生が評価を行う<br><br>最終評価は総合的に判断する |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 直接、ポートフォリオの添削を行う。JUNTENDO-PASSPORTのクロスプロファイル機能を使用して行うこともある。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 特になし。必要に応じてプリントを配布する。 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜日16：00-18：00　保健医療学部理学療法学科（御茶ノ水センタービル）507号室<br>te-takahashi@juntendo.ac.jp　事前メール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | 全ての担当教員が5年以上の臨床経験を有する。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | オリエンテーション | ・臨床実習の手引きを配布し、臨床実習の進め方について説明を行う<br>・接遇とマナーに関して、臨床実習教育者から説明を行う | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>実習の手引きを再確認しておくこと |
| 2 | 高橋　哲也<br>北原　エリ子 | 臨床実習（見学）の心得 | | 【予習】（90分）<br>順天堂医院の特徴を調べておく<br>【復習】（90分）<br>順天堂医院の特徴を再確認しておく |
| 3 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 4 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 5 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習サマリー１－１ | | 【予習】（90分）<br>見学の情報をまとめる<br>【復習】（90分）<br>他者の発表の感想をまとめる |
| 6 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習サマリー１－２ | | 【予習】（90分）<br>見学の情報をまとめる<br>【復習】（90分）<br>他者の発表の感想をまとめる |
| 7 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 8 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 9 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 10 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 11 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習サマリー２－１ | | 【予習】（90分）<br>見学の情報をまとめる<br>【復習】（90分）<br>他者の発表の感想をまとめる |
| 12 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習サマリー２－２ | | 【予習】（90分）<br>見学の情報をまとめる<br>【復習】（90分）<br>他者の発表の感想をまとめる |
| 13 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 14 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 15 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 16 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 17 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習サマリー３－１ | | 【予習】（90分）<br>見学の情報をまとめる<br>【復習】（90分）<br>他者の発表の感想をまとめる |
| 18 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習サマリー３－２ | | 【予習】（90分）<br>見学の情報をまとめる<br>【復習】（90分）<br>他者の発表の感想をまとめる |
| 19 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>＠順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 20 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>＠順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 21 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習サマリー４－１ | | 【予習】（90分）<br>見学の情報をまとめる<br>【復習】（90分）<br>他者の発表の感想をまとめる |
| 22 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習サマリー４－２ | | 【予習】（90分）<br>見学の情報をまとめる<br>【復習】（90分）<br>他者の発表の感想をまとめる |
| 23 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>＠順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 24 | 高橋哲也<br>全科目担当者 | 臨床見学<br>＠順天堂大学医学部附属順天堂医院 | | 【予習】（90分）<br>実習の手引きをよく読んでくること<br>【復習】（90分）<br>見学の情報をまとめる |
| 25 | 高橋哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習サマリー５－１ | | 【予習】（90分）<br>見学の情報をまとめる<br>【復習】（90分）<br>他者の発表の感想をまとめる |
| 26 | 高橋哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習サマリー５－２ | | 【予習】（90分）<br>見学の情報をまとめる<br>【復習】（90分）<br>他者の発表の感想をまとめる |
| 27 | 高橋哲也<br>全科目担当者 | 総まとめ | | 【予習】（90分）<br>見学した内容をまとめる<br>【復習】（90分）<br>実習で得られたことをまとめる |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 臨床実習II（検査・測定） | 授業形態 | 実験・実習 |
| 英語科目名 | Clinical Practice II(Measurement) | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 2年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 眞壁 寿 | ナンバリング | SFP3401 |
| 担当教員 | 眞壁 寿、宮森　隆行、高橋　哲也、松田 雅弘、森沢 知之、飛山 義憲、藤野 雄次、髙橋 容子、春山　幸志郎、相澤　純也、山口　智史、齊藤　正和、中村　絵美、澤　龍一、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本実習では、理学療法士が実施する検査・測定の一部を臨床現場で体験し、検査・測定の基本的な技術と知識を身に付ける。臨床実習は医療従事者の一員として社会生活を過ごす貴重な機会であり、臨床実習I（見学）に引き続き、社会人として必要な態度やコミュニケーション技術を学修する。実際の症例に対して検査・測定を行う前に、学内でオリエンテーションや検査・測定の練習を十分に行い、また終了後は、知識や技術の習得・進歩を確認するために、実践ベースの報告会を実施する。本実習は、全て本学医学部附属病院で行い、本学教員も参加して行う。本実習を行う前には、学内で十分にオリエンテーションや検査・測定の練習を十分に行い、実習に臨む態度を確認し、知識や技術の確認試験を行う。また終了後は、知識や技術の習得・進歩を確認するために、実践ベースの報告会を実施する。 |
| 到達目標 | 1．これまで学修してきた基本的知識を動員し、対象者に必要な検査・測定法を 選択することができる<br>2．対象者と意思の疎通を図り、検査・測定の実施に対する同意が得られる。<br>3．対象者の状態を考慮して検査・測定を確実に実施できる。<br>4．検査・測定の記録をとり、結果を文書としてまとめることができる。<br>5．基本的な解釈を指導者の指導を受けて理解することができる。<br>6．自身の知識・技術を補うための具体的な学修計画を立案できる。 |
| 授業の位置づけ | 1年次より配置されている臨床実習で、1~2年次に学んだ理学療法の検査測定の体験・実習を行う。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-CⅠ、共通DP1-CⅡ、共通DP1-CⅢ、共通DP2-CⅠ、共通DP3-CⅠ、理学DP1-CⅠ、理学DP1-CⅡ、理学DP2-CⅠ、理学DP3-CⅠ、理学DP4-CⅠ、理学DP5-CⅠ |
| 履修上の注意、履修要件 | ・実習の手引き、順天堂医院　ポケットセーフティーマニュアル「接遇のマナー10箇条」「職業倫理」についてよく読んで理解してくること。<br>・服装・身だしなみが順天堂医院の実習にふさわしくないと判断された学生は、実習への参加はできない。<br>・遅刻・早退・欠席の場合は必ず事前に連絡すること。また、実習中の気分不良や実習後の体調不良についても速やかに連絡すること。<br>・実際の臨床現場を経験する貴重な時間になるため、積極的な学修姿勢で臨むこと。また、各分野の最前線に触れることができる貴重な機会であることから、問題意識と新たな知識に触れる好奇心を持って臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | １．成績評価方法<br>1）実習中の学ぶ姿勢や参加態度、検査測定技術と知識（各指導者が評価）40％<br>2）実習前テスト（解剖学・生理学・運動学・理学療法検査測定学の知識）20％<br>3）実習後実技評価、実習後発表の自己評価・他者評価・教員評価　20％<br>4）実習報告書　20％<br>２．成績評価基準<br>理学療法士が実施する検査・測定の一部を臨床現場で体験し、検査・測定の基本的な技術と知識を身に付けている。 |
| 評価基準 | 評価比率については上記に示す。臨床実習担当教員、臨床実習教育者、学生の３者によって評価を行う。<br>評価はルーブリックによって実施される。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| ・実習中・実習後に随時実施する。<br>・実習後の発表に関する他者評価のフィードバックを実施する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| ・特になし。必要に応じてプリントを配布する。<br>・「検査・測定学」「検査・測定学演習」など関連した講義の教科書・資料<br>・臨床実習教育の手引き（第6版）、日本理学療法士協会のPDF<br>・PT・OTのための臨床技能とOSCE　才藤栄一監修　金原出版　ISBN　978-4-307-75045-5 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜日　９：００～１０：３０　保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）503号室<br>t.matsuda.ye@juntendo.ac.jp　事前にメール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | ・各教員とも理学療法士の教育歴または病院における学生の指導経験を持っている。<br>・うち7名が日本理学療法士協会が実施している臨床次週指導者講習会を修了している。 |
| 備考 | |
| 授業計画 | |

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | オリエンテーション<br>臨床実習前知識の確認 | 学内実習 | 【予習】（90分）<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・解剖学、生理学、運動学、検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】（90分）<br>・実習の手引きを再確認しておくこと<br>・解剖学、生理学、運動学、検査・測定学、検査・測定学演習の内容について再学習しておくこと |
| 2 | 全科目担当者 | 臨床実習前実技能力の確認<br>臨床実習前OSCE<br>接遇について | 学内実習 | 【予習】（90分）<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】（90分）<br>・実習の手引きを再確認しておくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容について再学習しておくこと |
| 3 | 全科目担当者 | 臨床実習前実技能力の確認<br>臨床実習前OSCE<br>臨床実習Ⅱ（検査・測定）の心得 | 学内実習 | 【予習】（90分）<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】（90分）<br>・実習の手引きを再確認しておくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容について再学習しておくこと |
| 4 | 全科目担当者<br>実習指導者 | 臨床実習（検査・測定）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>@順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター<br>@順天堂大学医学部附属練馬病院<br>@順天堂大学医学部附属浦安病院<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】合わせて60分程度<br><br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 5 | 全科目担当者<br>実習指導者 | 臨床実習（検査・測定）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>@順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター<br>@順天堂大学医学部附属練馬病院<br>@順天堂大学医学部附属浦安病院<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】合わせて60分程度<br><br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 6 | 全科目担当者<br>実習指導者 | 臨床実習（検査・測定）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>@順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター<br>@順天堂大学医学部附属練馬病院<br>@順天堂大学医学部附属浦安病院<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】合わせて60分程度<br><br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 7 | 全科目担当者<br>実習指導者 | 臨床実習（検査・測定）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>@順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター<br>@順天堂大学医学部附属練馬病院<br>@順天堂大学医学部附属浦安病院<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】合わせて60分程度<br><br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 8 | 全科目担当者<br>実習指導者 | 臨床実習（検査・測定）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>@順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター<br>@順天堂大学医学部附属練馬病院<br>@順天堂大学医学部附属浦安病院<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】合わせて60分程度<br><br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 9 | 全科目担当者<br>実習指導者 | 臨床実習（検査・測定）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>@順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター<br>@順天堂大学医学部附属練馬病院<br>@順天堂大学医学部附属浦安病院<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】合わせて60分程度<br><br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 10 | 全科目担当者<br>実習指導者 | 臨床実習（検査・測定）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>@順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター<br>@順天堂大学医学部附属練馬病院<br>@順天堂大学医学部附属浦安病院<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】合わせて60分程度<br><br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 11 | 全科目担当者<br>実習指導者 | 臨床実習（検査・測定）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>@順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター<br>@順天堂大学医学部附属練馬病院<br>@順天堂大学医学部附属浦安病院<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】合わせて60分程度<br><br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 12 | 全科目担当者<br>実習指導者 | 臨床実習（検査・測定）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>@順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター<br>@順天堂大学医学部附属練馬病院<br>@順天堂大学医学部附属浦安病院<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】合わせて60分程度<br><br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 13 | 全科目担当者 | 臨床実習サマリー<br>臨床実習OSCE | 学内実習 | 【予習】<br>・検査・測定した内容をまとめる<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・実習で得られたことをまとめる |
| 14 | 全科目担当者 | 臨床実習サマリー<br>臨床実習OSCE | 学内実習 | 【予習】<br>・検査・測定した内容をまとめる<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・実習で得られたことをまとめる |
| 15 | 全科目担当者 | 臨床実習サマリー<br>臨床実習OSCE | 学内実習 | 【予習】<br>・検査・測定した内容をまとめる<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・実習で得られたことをまとめる |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 臨床実習III（評価） | 授業形態 | 実験・実習 |
| 英語科目名 | Clinical Practice III(Evaluation) | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 5単位 |
| 代表教員 | 眞壁 寿 | ナンバリング | SFP3402 |
| 担当教員 | 眞壁 寿、宮森　隆行、高橋　哲也、松田 雅弘、森沢 知之、飛山 義憲、藤野 雄次、髙橋 容子、春山　幸志郎、相澤　純也、山口　智史、齊藤　正和、中村　絵美、澤　龍一、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本実習では、臨床実習指導者による指導及び監督のもと、理学療法に必要な基本的な評価を学修する。個々のデータを収集、問題点を抽出して分析し、対象者の障害像を総合的に把握した後、患者の将来を予測し、治療目標及び治療計画を立案する過程を経験する。また評価実習は理学療法評価の一連の流れを理解し、次年度に実施されるインターン実習へ結び付ける教育期間として位置付けられる。具体的には、対象者と意志の疎通を図り、疾患・障害に応じた検査・測定を安全かつ確実に実施した後、結果を統合・解釈し、臨床実習指導者の助言を得て、問題点を抽出できるようになることを目標とする。更に評価結果を文書としてまとめ、評価結果を臨床実習指導者に報告できることも重要である。臨床実習を行う前には、学内でオリエンテーションや知識確認試験及び客観的臨床能力試験（OSCE）を行う。終了後にも報告会や必要に応じてOSCEを行うなどし、臨床実習後の評価を実施する。本実習を行う前には、学内でオリエンテーションや知識確認試験及び客観的臨床能力試験（OSCE）を行う。終了後にも報告会や必要に応じてOSCEを行うなどし、臨床実習後の評価を実施する。 |
| 到達目標 | 1. これまで学修してきた基本的知識を動員し、対象者に必要な検査・測定法を選択することができる<br>2. 対象者と意思の疎通を図り、検査・測定の実施に対する同意が得られる。<br>3. 対象者の状態を考慮して検査・測定を確実に実施できる。<br>4. 検査・測定の記録をとり、理学療法評価の結果を文書としてまとめることができる。<br>5. 基本的な解釈と得られた情報から障害像考え、問題点を抽出し、課題解決に向けた仮説の立案に対して臨床実習教育者の指導を受けて理解することができる。<br>6. 自身の知識・技術を補うための具体的な学修計画を立案できる。 |
| 授業の位置づけ | 1年次より年度ごとに配置されている臨床実習の1つで、対象者の理学療法評価の体験・実習、その解釈について学ぶ |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-CⅠ、共通DP1-CⅡ、共通DP1-CⅢ、共通DP2-CⅠ、共通DP3-CⅠ、理学DP1-CⅠ、理学DP1-CⅡ、理学DP2-CⅠ、理学DP3-CⅠ、理学DP4-CⅠ、理学DP5-CⅠ |
| 履修上の注意、履修要件 | ・実習の手引き、順天堂医院　ポケットセーフティーマニュアル「接遇のマナー10箇条」「職業倫理」についてよく読んで理解してくること。<br>・服装・身だしなみが順天堂医院の実習にふさわしくないと判断された学生は、実習への参加はできない。<br>・遅刻・早退・欠席の場合は必ず事前に連絡すること。また、実習中の気分不良や実習後の体調不良についても速やかに連絡すること。<br>・実際の臨床現場を経験する貴重な時間になるため、積極的な学修姿勢で臨むこと。また、各分野の最前線に触れることができる貴重な機会であることから、問題意識と新たな知識に触れる好奇心を持って臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | １．成績評価方法<br>1）実習中の学ぶ姿勢や参加態度、検査測定技術と知識（各指導者が評価）40％<br>2）実習前テスト（解剖学・生理学・運動学・理学療法検査測定学の知識）20％<br>3）実習後実技評価、実習後発表の自己評価・他者評価・教員評価　20％<br>4）実習報告書　20％<br>２．成績評価基準<br>臨床実習指導者の指導及び監督のもと、理学療法に必要な基本的な評価ができる。 |
| 評価基準 | 評価比率については上記に示す。臨床実習担当教員、臨床実習教育者、学生の３者によって評価を行う。<br>評価はルーブリックによって実施される。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| ・実習中・実習後に随時実施する。<br>・実習後の発表に関する他者評価のフィードバックを実施する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| ・特になし。必要に応じてプリントを配布する。<br>・「検査・測定学」「検査・測定学演習」など関連した講義の教科書・資料<br>・臨床実習教育の手引き（第6版）、日本理学療法士協会のPDF<br>・PT・OTのための臨床技能とOSCE　才藤栄一監修　金原出版　ISBN　978-4-307-75045-5 | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 木曜日　９：００～１０：３０　保健医療学部理学療法学科（御茶の水センタービル）503号室<br>t.matsuda.ye@juntendo.ac.jp　事前にメール連絡で随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | ・各教員とも理学療法士の教育歴または病院における学生の指導経験を持っている。<br>・うち7名が日本理学療法士協会が実施している臨床次週指導者講習会を修了している。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋哲也<br>眞壁寿<br>全科目担当者 | オリエンテーション<br>臨床実習前知識の確認テスト | 学内実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・解剖学、生理学、運動学、検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習の手引きを再確認しておくこと<br>・解剖学、生理学、運動学、検査・測定学、検査・測定学演習の内容について再学習しておくこと |
| 2 | 全科目担当者 | 臨床実習前実技能力の確認<br>臨床実習前OSCE<br>接遇について | 学内実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習の手引きを再確認しておくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容について再学習しておくこと |
| 3 | 全科目担当者 | 臨床実習前実技能力の確認<br>臨床実習前OSCE<br>臨床実習Ⅱ（検査・測定）の心得 | 学内実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習の手引きを再確認しておくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容について再学習しておくこと |
| 4 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 5 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 6 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 7 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 8 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 9 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 10 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 11 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 12 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 13 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 14 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 15 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 16 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 17 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 18 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 19 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 20 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 21 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 22 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 23 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 24 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 25 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 26 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価） | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | @順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 27 | 全科目担当者 | 臨床実習（評価）<br>@順天堂大学医学部附属順天堂医院<br>など外部臨床実習施設<br>(学生は1日実習予定) | 臨地実習 | 【予習】と【復習】で60分程度<br>【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・検査・測定学、検査・測定学演習の内容を復習しておくこと<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・検査・測定した内容をまとめる |
| 28 | 全科目担当者 | 臨床実習サマリー<br>臨床実習OSCE | 学内実習 | 【予習】<br>・検査・測定した内容をまとめる<br>・検査・測定学、検査・測定学演習を含む理学療法評価の内容を復習しておくこと、発表準備<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・実習で得られたことをまとめる |
| 29 | 全科目担当者 | 臨床実習サマリー<br>臨床実習OSCE | 学内実習 | 【予習】<br>・検査・測定した内容をまとめる<br>・検査・測定学、検査・測定学演習を含む理学療法評価の内容を復習しておくこと、発表準備<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・実習で得られたことをまとめる |
| 30 | 全科目担当者 | 臨床実習サマリー<br>臨床実習OSCE | 学内実習 | 【予習】<br>・検査・測定した内容をまとめる<br>・検査・測定学、検査・測定学演習を含む理学療法評価の内容を復習しておくこと、発表準備<br>【復習】<br>・実習ポートフォリオの作成<br>・実習で得られたことをまとめる |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 臨床実習IV（インターン） | 授業形態 | |
| 英語科目名 | Clinical Practice IV(Internship) | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 4年 | 単位数 | 12単位 |
| 代表教員 | 齊藤　正和 | ナンバリング | SFP3403 |
| 担当教員 | 齊藤　正和、宮森　隆行、高橋　哲也、眞壁 寿、松田 雅弘、森沢 知之、飛山 義憲、藤野 雄次、髙橋 容子、春山　幸志郎、相澤　純也、山口　智史、中村　絵美、澤　龍一、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本実習では、臨床実習指導者による指導及び監督のもと、理学療法を包括的に経験する。本実習では、評価により障害像を把握し、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定を経験する。ある程度の助言・指導のもとに基本的理学療法を遂行できるようになることを目標とする。本実習は、理学療法全般にわたる問題解決の方法を学修し、理学療法卒前教育を総括する教育期間として位置付けられる。卒業後に基本的理学療法を安全に実践できるためには、卒業時には理学療法の基本的な知識と技能を習得している必要がある。従って本実習は、卒後の臨床教育との接続を意識して、侵襲性の高い技術を除く基本的理学療法の実践能力を身に付ける教育期間として位置付けられる。本実習を行う前には、学内でオリエンテーションや知識確認試験及び客観的臨床能力試験（OSCE）を行う。終了後にも報告会や必要に応じてOSCEを行うなどし、臨床実習後の評価を実施する。 |
| 到達目標 | 1．これまで学修してきた基本的知識を動員し、対象者の状態を考慮して必要な検査・測定法を選択することができる。<br>2．検査・測定の記録をとり、理学療法評価の結果を文書としてまとめることができる。<br>3．基本的な解釈と得られた情報から障害像を考え、問題点を抽出し、課題解決に向けた仮説の立案について臨床実習教育者の指導を受けて理解することができる。<br>4．理学療法プログラムを選択し、その根拠について説明することができる。<br>5．対象者のリスク管理をしたうえで、臨床実習教育者の指導のもと運動療法、物理療法、義肢装具療法などを実施することができる。<br>6．実施内容を診療記録等に記載することができる。<br>7．自身の知識・技術を補うための具体的な学修計画を立案できる。 |
| 授業の位置づけ | 本実習は、専門基礎科目（人体の構造と機能及び心身の発達、疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進、保健医療福祉とリハビリテーションの理念）、専門科目（基礎理学療法学、理学療法評価学、理学療法治療学、臨床実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）に続いて学修し、臨床実習Ⅴにつながる科目である。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1、理学DP1、共通DP2、理学DP3、理学DP4、理学DP2 |
| 履修上の注意、履修要件 | 臨床実習IV（インターン）実習の手引きを熟読し、下記において十分に準備、配慮すること。<br>1．安全対策（医療安全、健康診断・抗体検査、感染症予防・対策、守秘義務、個人情報保護対策、ハラスメント、責任保険、他）<br>2．実習前オリエンテーション<br>3．出欠取り扱い<br>4．事故発生時対応<br>5．心構え（身だしなみ、時間厳守、礼節、他）<br>6．提出書類 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 臨床実習教育者による評価と、臨床実習担当教員（大学教員）による学内評価で構成される（臨床実習教育者：全体の40%、臨床実習担当教員：全体の60%）。 |
| 評価基準 | 1．これまで学修してきた基本的知識を動員し、対象者の状態を考慮して必要な検査・測定法を選択することができるか。<br>2．検査・測定の記録をとり、理学療法評価の結果を文書としてまとめることができるか。<br>3．基本的な解釈と得られた情報から障害像を考え、問題点を抽出し、課題解決に向けた仮説の立案について臨床実習教育者の指導を受けて理解することができるか。<br>4．理学療法プログラムを選択し、その根拠について説明することができるか。<br>5．対象者のリスク管理をしたうえで、臨床実習教育者の指導のもと運動療法、物理療法、義肢装具療法などを実施することができるか（水準Ⅰ）。<br>6．実施内容を診療記録等に記載することができるか。<br>7．自身の知識・技術を補うための具体的な学修計画を立案できるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 診療参加型の実習教育形態を原則とする。臨床実習教育者が担当する対象者に対して、助手の位置づけにて学生を診療に参加し、学生の能力や習熟度に合わせて「見学」→「協同参加」→「実施」の段階付けを経ながら実習を進める。臨床実習教育者は学生の臨床実習デイリーノート、技術項目チェックリストをもとに実習状況を把握して、必要な指導と助言を行う。学内臨床実習担当教員は、学内においてOSCEや知識確認試験、報告会などを通して、臨床実習の到達度や効果判定についてフィードバックする。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 臨床実習教育の手引き（第6版）．公益社団法人 日本理学療法士協会 https://www.japanpt.or.jp/activity/books/education_01/ | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 質問、面談希望は随時メールで受け付ける（相澤純也 j.aizawa.ue@juntendo.ac.jp） |
| 担当教員の実務経験 | 順天堂大学医学部附属順天堂医院リハビリテーション室での理学療法業務 |

| 備考 | |
|---|---|

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 理学療法学科教員 | 実習前オリエンテーションおよび実習前知識確認 | 講義、演習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>【復習】<br>・オリエンテーションの内容を復習し、不明な点は教員に確認すること<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 2 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 3 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 4 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 5 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 6 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 7 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 8 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 9 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 10 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 11 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 12 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 13 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 14 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| 15 | 理学療法学科教員 | 学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している医療機関）において見学・体験実習を行う。 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・実習施設の特徴を把握し、想定される担当症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する基本知識を確認しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した症例の疾患・病態、検査・測定、理学療法に関する情報について復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 臨床実習V（地域） | 授業形態 | 実験・実習 |
| 英語科目名 | Clinical Practice V(Community) | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 4年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 齊藤　正和 | ナンバリング | SFP3404 |
| 担当教員 | 齊藤　正和、宮森　隆行、高橋　哲也、眞壁 寿、松田 雅弘、森沢 知之、飛山 義憲、藤野 雄次、髙橋 容子、春山　幸志郎、相澤　純也、山口　智史、中村　絵美、澤　龍一、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 本実習では、臨床実習指導者による指導及び監督のもと、訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションを経験する。訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションでの理学療法を経験し、その業務内容や役割について説明できるようになることを目標とする。本実習は、地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割の理解と新たなキャリアデザインの機会として位置づけられる。本実習を行う前には、学内で十分にオリエンテーションを行い、実習に臨む態度や知識を確認し評価する。また終了後には報告会を行うなどし、臨床実習後の評価を実施する |
| 到達目標 | 1．対象者（および家族）の生活特性について理解し説明できる。<br>2．対象者（および家族）や関係者に対して適切なコミュニケーションをとることができ、必要とされる態度を理解し実践できる。<br>3．各事業所で提供しているサービス内容の特徴を理解し説明できる。<br>4．理学療法士および他の医療従事者の業務内容と役割を説明できる。<br>5．対象者のニーズを理解することができる。<br>6．地域における他職種との連携を理解し説明できる。<br>7．関係する保険制度（医療保険、介護保険など）について調べ示すことができる。<br>8．養成施設内での実習報告会等で上記について報告し、ディスカッションすることができる。 |
| 授業の位置づけ | 1~4年次の臨床実習で学んだ知識・技術を地域福祉の実践にまで拡張し、理学療法士の幅広いかかわり方を見学・体験する。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 保健医療学部理学療法学科の臨床実習はディプロマ・ポリシーのすべてに該当し、その実践の場となる。特に理学DP３．人体の機能や構造及び疾患の病態に応じた診断・治療を理解し、人々の健康・疾病・障害に対する観察力や判断力が身についていることに深く関連しており、学内の演習・実習を通じて学んだことを学外の施設で見学・体験し、理解を深める。<br>理学DP3-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | ・実習の手引きをよく読み、地域福祉の制度や理学療法について予習してくること。<br>・事前に指定された適切な服装・身だしなみで実習に臨むこと。<br>・遅刻・早退・欠席の場合は必ず事前に連絡すること。また、実習中の気分不良や実習後の体調不良についても速やかに連絡すること。<br>・実際の地域医療・福祉の現場を経験する貴重な時間になるため、積極的な学修姿勢で臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | ・実習中の学ぶ姿勢や参加態度、利用者とのかかわり方（各指導者が評価）　40%<br>・実習後発表の自己評価・他者評価・教員評価　30%<br>・実習報告書（教員が評価）　30% |
| 評価基準 | 臨床実習担当教員、臨床実習教育者、学生の3者によって評価を行う。評価はルーブリックによって実施される。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| ・実習中・実習後に随時実施する。<br>・実習後の発表に関する他者評価のフィードバックを実施する。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| ・臨床実習の手引き（第6版）、日本理学療法士協会HP<br>・地域理学療法学I・IIで使用したテキスト | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 水曜日　10：30～12：00　保健医療学部理学療法学科（御茶ノ水センタービル）508号室<br>k.haruyama.us@juntendo.ac.jp　（事前にメール連絡で随時対応） |
| 担当教員の実務経験 | ・各教員とも理学療法士の教育歴および病院における学生の指導経験を有している。 |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 実習前オリエンテーション<br>臨床実習前知識の確認 | 講義・演習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br><br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと |
| 2 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 3 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 4 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 5 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 6 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 7 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | ・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 8 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 9 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 10 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 11 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 12 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 13 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習（地域）<br>学生は個々の実施施設（理学療法士が勤務している通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを提供する事業所）において見学・体験実習を行う。<br>学生は1日実施予定 | 実習 | 【予習】<br>・実習の手引きをよく読んでおくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を再復習しておくこと<br>【予習】【復習】を合わせて60分程度 |
| 14 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習報告会（学内）<br>学生はグループ単位で臨床実習で見学・体験した内容について発表・質疑応答を行う。 | 発表・ディスカッション | 【予習】<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・実習ポートフォリオの作成 |
| 15 | 高橋　哲也<br>全科目担当者 | 臨床実習報告会（学内）<br>学生はグループ単位で臨床実習で見学・体験した内容について発表・質疑応答を行う。 | 発表・ディスカッション | 【予習】<br>・地域理学療法・地域包括マネジメント論の講義内容を復習しておくこと<br>・対象となる利用者の関連する疾患・障害・社会制度を予習しておくこと<br>【復習】<br>・実習で関与した利用者の疾患、障害、社会制度の情報を復習しておくこと<br>・実習ポートフォリオの作成 |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 理学療法研究法 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Research Methods in Physical Therapy | 開講学期 | 2022年度前期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 齊藤　正和 | ナンバリング | SFP3500 |
| 担当教員 | 齊藤　正和、相澤　純也、山口　智史 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 理学療法における研究の意義、目的及び研究を遂行する際の具体的な方法論について学修する。研究のテーマや仮説設定に向けた文献検索や資料収集、研究計画書の作成までの研究準備の一連の過程を学修する。研究計画書に準じて、測定、計測、調査を進め、データの整理や解析、統計学的な解析方法を学び、仮説の検証作業ができるようにする。また一連の研究過程で得られた結果から科学的根拠に基づく考察を考え、論文作成や研究発表を通して理学療法における研究の意義を学修する |
| 到達目標 | 理学療法における学術的な考え方を理解することができる<br>文献検索、研究計画の作成、データ収集、発表準備および論文作成方法など研究過程を学び、理学療法における研究方法を理解することができる。 |
| 授業の位置づけ | 必要な情報を適切に収集・活用できる能力を身につけるとともに、研究プロセスを理解し、自らの能力を点検・評価し生涯にわたる自立的学習能力と科学的探究心の習得を目指すための授業とする。<br>また、3年次の理学療法ゼミでの研究計画書作成、4年次の卒業研究を進めるための基礎的な知識の習得を目標とする授業の位置づけとする。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP1-CPⅢ2<br>共通DP1-CPⅢ4<br>理学DP3-CP1<br>理学DP3-CP2<br>理学DP3-CP3<br>理学DP3-CP4<br>理学DP3-CP5<br>理学DP3-CP6<br>理学DP8-CP1<br>理学DP8-CP2<br>理学DP8-CP3<br>理学DP8-CP4<br>理学DP8-CP5<br>理学DP8-CP6 |
| 履修上の注意、履修要件 | 提出課題（小テスト）で理解度の確認を行うとともに、グループワークではルーブリック評価により学習過程を評価します。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 課題 40%<br>学習過程（ルーブリック評価）60% |
| 評価基準 | 科学的根拠に基づく理学療法の考え方を理解することができるか？<br>文献検索ができるか？<br>研究計画の作成ができるか？<br>データ収集、発表準備および論文作成方法など研究過程が理解できるか？<br>理学療法における研究方法を理解することができるか？ |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 授業内で実施する | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| 参考書<br>1. 最新 理学療法学講座 理学療法研究法（医歯薬出版株式会社）<br>2. 標準理学療法学 理学療法研究法（第3版）（医学出版） | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 事前メールにて随時対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 齊藤正和 | 理学療法士にとっての研究とは | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】理学療法における研究の目的や意義について考えておくこと（90分）<br>【復習】理学療法における研究の目的や意義について復習すること（90分） |
| 2 | 齊藤正和 | 臨床研究の実際 | 講義 | 【予習】興味がある理学療法領域の臨床研究の実施方法について調べておくこと（90分）<br>【復習】興味がある理学療法領域の臨床研究の実施方法について復習すること（90分） |
| 3 | 齊藤正和 | 研究デザインとPICO | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】研究のデザイン、PICO、バイアスについて予習し、整理しておくこと。（90分）<br>【復習】研究のデザイン、PICO、バイアスについて復習すること。（90分） |
| 4 | 齊藤正和 | リサーチクエスチョンの作り方 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】クリニカルクエスチョン、リサーチクエスチョンについて予習し、整理する（90分）<br>【復習】クリニカルクエスチョン、リサーチクエスチョンについて復習する（90分） |
| 5 | 山口智史 | 研究計画の立案とバイアス | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】研究計画書に必要な項目について予習し、整理する（90分）<br>【復習】研究計画書に必要な項目を整理し、計画書の作成方法について復習する（90分） |
| 6 | 山口智史 | 論文の検索方法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】文献検索データベース、文献検索手順について予習し、整理する（90分）<br>【復習】文献検索データベース、文献検索手順について復習する（90分） |
| 7 | 山口智史 | 論文の読み方 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】研究論文を読む際の批判的吟味について予習し、整理する（90分）<br>【復習】研究論文を読む際の批判的吟味について復習する（90分） |
| 8 | 山口智史 | 研究倫理と倫理審査 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】研究倫理（捏造、改ざん、盗用、二重投稿、サラミ論文、不適切なオーサーシップ、引用、転載、利益相反）について予習し、整理する（90分）<br>【復習】研究倫理（捏造、改ざん、盗用、二重投稿、サラミ論文、不適切なオーサーシップ、引用、転載、利益相反）について復習する（90分） |
| 9 | 相澤純也 | データの種類、集計や統計手法 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】データの種類や集計や基本統計手法ついて予習し、整理する（90分）<br>【復習】データの種類や集計や基本統計手法ついて復習する（90分） |
| 10 | 相澤純也 | 学会発表、論文作成 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】発表スライド、模擬論文の作成方法について予習し、整理する（90分）<br>【復習】発表スライド、模擬論文の作成方法について復習する（90分） |
| 11 | 相澤純也 | ポスター、スライド作成 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】発表スライド、模擬論文の作成方法について予習し、整理する（90分）<br>【復習】発表スライド、模擬論文の作成方法について復習する（90分） |
| 12 | 相澤純也 | ポスター、スライド作成 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】発表スライド、模擬論文の作成方法について予習し、整理する（90分）<br>【復習】発表スライド、模擬論文の作成方法について復習する（90分） |
| 13 | 齊藤正和 | ポスター、スライド作成 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】発表スライド、模擬論文の作成方法について予習し、整理する（90分）<br>【復習】発表スライド、模擬論文の作成方法について復習する（90分） |
| 14 | 齊藤正和、山口智史、相澤純也 | 発表 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】分かりやすいプレゼンテーションの仕方について予習し、練習する（90分）<br>【復習】分かりやすいプレゼンテーションの仕方について復習する（90分） |
| 15 | 齊藤正和、山口智史、相澤純也 | 発表 | 講義、グループワーク、ディスカッション | 【予習】分かりやすいプレゼンテーションの仕方について予習し、練習する（90分）<br>【復習】分かりやすいプレゼンテーションの仕方について復習する（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 理学療法ゼミナール | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Physical Therapy Seminar | 開講学期 | 2022年度前期、2022年度後期 |
| 対象学年 | 3年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | SFP3501 |
| 担当教員 | 高橋　哲也、宮森　隆行、眞壁 寿、松田 雅弘、森沢 知之、飛山 義憲、藤野 雄次、髙橋 容子、春山　幸志郎、相澤　純也、山口　智史、齊藤　正和、中村　絵美、澤　龍一、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 少人数による1年間の理学療法ゼミナールでは、理学療法基礎ゼミナールの少人数グループを卒業研究テーマに応じた少人数グループに再編し、ゼミナール担当教員の指導下で理学療法に関連する具体的な卒業研究のテーマを決定し、研究実施計画を立案する。具体的には図書館を利用した先行研究の文献検索や収集、測定機器の取扱方法や、具体的な計測方法、統計学的処理方法、仮説の立案など、研究計画立案の一連の課程をグループワークによる協調の中で学ぶ。必要に応じて研究倫理審査を受ける。 |
| 到達目標 | ・卒業研究のテーマ、背景、目的、仮説、計測・分析方法、予想結果を記載した計画書をグループで作成し期限内に提出できる。<br>・当該研究の計画・実施に要する知識・技術について説明、実演できる。<br>・教員の指導のもとで必要に応じて、研究計画に対する倫理審査を受け承認を得ることができる。<br>・教員の指導のもとで必要に応じて予備的研究を実施できる。 |
| 授業の位置づけ | 基礎ゼミナール、理学療法研究法で学修した知識をもとに研究計画書を作成する。この計画書に基づいて4年次の卒業研究が行われる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP3、理学DP5 |
| 履修上の注意、履修要件 | 各ゼミナールまでに研究計画・実施に必要な、知識・技術について必ず予習する。ゼミナール後は学習、整理した内容を資料、参考書等で再確認する。出された課題は期限内に必ず提出する。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 研究計画書（80%）と計画発表（20%）を統合して最終評価する。発表評価ではルーブリックによる自己、他者評価を用いる。 |
| 評価基準 | ・卒業研究のテーマ、背景、目的、仮説、計測・分析方法、予想結果を記載した計画書をグループで作成し期限内に提出できるか。<br>・当該研究の計画・実施に要する知識・技術について説明、実演できるか。<br>・教員の指導のもとで必要に応じて、研究計画に対する倫理審査を受け承認を得ることができるか。<br>・教員の指導のもとで必要に応じて予備的研究を実施できるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 学生個人もしくはグループへメールや連絡システムを用いてフォードバックする。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 初回のオリエンテーションにて領域担当教員より連絡する。質問はメールでも随時受け付ける。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたオリエンテーション、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | グループワーク | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 2 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | グループワーク | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 3 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 4 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてま |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | とめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 5 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 6 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 7 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 8 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 9 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 10 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 11 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 12 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 13 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 14 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 15 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 16 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | で取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 17 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 18 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 19 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 20 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 21 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 22 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 23 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 24 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 25 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 26 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 27 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 28 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループ |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | で取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 29 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 30 | 理学療法学科教員 | 研究計画立案、計画書作成に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | | 【予習】（90分）研究計画やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 卒業研究 | 授業形態 | |
| 英語科目名 | Graduation Research | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 4年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | SFP3502 |
| 担当教員 | 高橋　哲也、宮森　隆行、眞壁 寿、松田 雅弘、森沢 知之、飛山 義憲、藤野 雄次、髙橋 容子、春山　幸志郎、相澤　純也、山口　智史、齊藤　正和、中村　絵美、澤　龍一、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 理学療法ゼミナールで立案した研究実施計画に沿って、データ収集、データ解析、統計学的処理を行う。また得られた結果から研究の目的の整合性を考え、結果を考察し、科学的根拠のある論文として完成させる。一連の過程の中で論理的思考を経験し、自分の考えを発表する手順と具体的方法を学ぶことで理学療法学における研究の重要性を学修する。最終的には卒業研究発表を行い、卒業論文を完成させる。 |
| 到達目標 | ・教員の指導のもとでデータ収集、データ解析、統計学的処理ができる。<br>・教員の指導のもとで得られた結果から研究の目的の整合性を考え、結果を考察し、科学的根拠のある論文を作成できる。<br>・研究の成果を発表会で発表できる。 |
| 授業の位置づけ | 基礎ゼミナール、理学療法研究法で学修した知識をもとに理学療法ゼミナールで作成した研究計画書に基づいて行われる。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP-3、理学DP5 |
| 履修上の注意、履修要件 | 各ゼミナールまでに研究実施に必要な、知識・技術について必ず予習する。ゼミナール後は学習、整理した内容を資料、参考書等で再確認する。出された課題は期限内に必ず提出する。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 研究論文（80%）と成果発表（20%）を統合して最終評価する。発表評価ではルーブリックによる自己、他者評価を用いる。 |
| 評価基準 | ・教員の指導のもとでデータ収集、データ解析、統計学的処理ができるか。<br>・教員の指導のもとで得られた結果から研究の目的の整合性を考え、結果を考察し、科学的根拠のある論文を作成できるか。<br>・研究の成果を発表会で発表できるか。 |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| 学生個人もしくはグループへメールや連絡システムを用いてフィードバックする。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 初回のオリエンテーションにて領域担当教員より連絡する。質問はメールでも随時受け付ける。 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたオリエンテーション、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | オリエンテーション、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 2 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 3 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 4 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 5 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 6 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 7 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 8 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 9 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 10 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 11 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 12 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 13 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| 14 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 15 | 理学療法学科教員 | 研究実施、成果発表に向けたディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション | 【予習】（90分）研究実施、成果発表やこれに要する知識、技術について個人、グループで調べる。<br>【復習】（90分）ゼミナールの内容についてまとめる。課題を出された場合には個人、グループで取り組み、教員の指示に従って必ず期限内に提出する。 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 理学療法学セミナー | 授業形態 | 演習 |
| 英語科目名 | Physical Therapy Applied Seminars | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 4年 | 単位数 | 1単位 |
| 代表教員 | 高橋　哲也 | ナンバリング | SFP3503 |
| 担当教員 | 高橋　哲也、宮森　隆行、眞壁 寿、松田 雅弘、森沢 知之、飛山 義憲、藤野 雄次、髙橋 容子、春山　幸志郎、相澤　純也、山口　智史、齊藤　正和、中村　絵美、澤　龍一、作山　晃裕 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 理学療法に必要な医学的基礎知識と理学療法専門知識を総復習する。これらの総復習には理学療法士国家試験の過去問をもとにした反復学修を基本とする。知識の定着を確認するため、模擬試験を複数回実施する。学修成果の確認のために模擬試験の解答や解説はグループ学修にて行い、互いに知識の不足を補い、効果的な復習方法を共有する。 |
| 到達目標 | ・理学療法評価の基本的な考え方について理解し、各疾患において必要な評価を挙げ、実践方法について説明できる。<br>・運動器疾患、神経疾患、内部障害疾患などに対する理学療法を理解し、実践方法について説明できる。 |
| 授業の位置づけ | これまでに学修した基礎科目および専門科目の知識を統合し、卒業に向けた知識の総まとめを行う。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | DP2, DP6, DP7-C1:身体機能と構造、疾病・障害・治療を理解し、説明できる。<br>DP2, DP6, DP7-C2:医学的知識に基づき患者の状況・ニーズを評価できる。<br>DP2, DP6, DP7-C3:エビデンスに基づく理学療法を理解し、それに基づく理学療法を計画、実践できる。<br>DP2, DP6, DP7-C4：患者の立場と心情を理解し、適切な理学療法を提供できる。 |
| 履修上の注意、履修要件 | これまでの総復習を十分にしたうえで臨むこと。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | 定期試験（一次試験、二次試験） |
| 評価基準 | 理学療法に必要な基礎知識と専門知識を身につけているか |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| Juntendo Passportを活用し課題のフィードバックを行う。 | |
| テキスト | |
| 参考文献 | |
| | |
| その他 | |
| 連絡先・オフィスアワー | 授業前後に対応 |
| 担当教員の実務経験 | |
| 備考 | |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高橋、眞壁 | 国家試験実地問題に関連し、運動器疾患に対する理学療法の考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 2 | 高橋、眞壁 | 国家試験実地問題に関連し、運動器疾患に対する理学療法の考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 3 | 高橋、眞壁 | 国家試験実地問題に関連し、運動器疾患に対する理学療法の考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 4 | 高橋、眞壁 | 国家試験実地問題に関連し、内部障害疾患に対する理学療法の考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 5 | 高橋、眞壁 | 国家試験実地問題に関連し、内部障害疾患に対する理学療法の考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 6 | 高橋、眞壁 | 国家試験実地問題に関連し、内部障害疾患に対する理学療法の考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 7 | 高橋、眞壁 | 国家試験実地問題に関連し、神経系疾患に対する理学療法の考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 8 | 高橋、眞壁 | 国家試験実地問題に関連し、神経系疾患に対する理学療法の考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 9 | 高橋、眞壁 | 国家試験実地問題に関連し、神経系疾患に対する理学療法の考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 10 | 高橋、眞壁 | 国家試験実地問題に関連し、理学療法評価についての考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 11 | 高橋、眞壁 | 国家試験実地問題に関連し、理学療法評価についての考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分）" |
| 12 | 高橋、眞壁 | 模擬試験に関連し、各疾患に対する理学療法および理学療法評価についての考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 13 | 高橋、眞壁 | 模擬試験に関連し、各疾患に対する理学療法および理学療法評価についての考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 14 | 高橋、眞壁 | 模擬試験に関連し、各疾患に対する理学療法および理学療法評価についての考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| 15 | 高橋、眞壁 | 模擬試験に関連し、各疾患に対する理学療法および理学療法評価についての考え方についてグループワークによりディスカッションし、理解を深める。 | グループワーク、ディスカッション | 【予習】提示された課題について調べる（90分）<br>【復習】提示された課題に対する考え方をまとめ、提出する（90分） |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目名 | 生化学 | 授業形態 | 講義 |
| 英語科目名 | Biochemistry | 開講学期 | 2022年度後期 |
| 対象学年 | 1年 | 単位数 | 2単位 |
| 代表教員 | 長岡　功 | ナンバリング | BAP1106 |
| 担当教員 | 長岡　功 | | |

| | |
|---|---|
| 授業概要 | |
| 全体内容 | 人体の機能や生命の維持がどのように行われているのか、さらには病気・病態の成り立ちや、それらの治療を理解するには、人体を構成する化学成分（生体物質）や体内での化学反応（代謝）を知る必要がある。本講義では、人体を化学的物質の集合体としてとらえ、どのように生命維持が行われているのかを化学的側面から講義する。まず人体の最小生命単位である細胞の構造・機能から始まり、生体物質の種類とその役割について学ぶ。つぎにそれぞれの生体物質や摂取した物質がどのように代謝され生命の維持に関わるのかを学ぶ。そして基礎的な人体の構造・機能を理解したうえで、これらの異常がどのような病態を起こし、病気の原因となるかを分子レベルで化学的に理解できるようにする。 |
| 到達目標 | ・生体を構成する分子、細胞の構造と機能を説明できる。<br>・アミノ酸およびタンパク質の化学構造とその特性を説明できる。<br>・酵素の種類、特性、反応機構を説明できる。<br>・主要な糖質の化学構造とその特性を説明できる。<br>・主要な脂質の化学構造とその特性を説明できる。<br>・糖質、脂質、タンパク質の消化・吸収について説明できる。<br>・エネルギー代謝調節機構を説明できる。<br>・核酸の化学構造とその特性、遺伝情報、DNAの複製機構について説明できる。<br>・ホルモンの種類と作用を説明できる。<br>・ビタミンの種類と作用を説明できる。<br>・内部環境の恒常性（ホメオスタシス）を説明できる。<br>・血液（血球成分・血漿成分）、尿、酸・塩基平衡について説明できる。 |
| 授業の位置づけ | 本講義では、人体を化学的物質の集合体としてとらえ、どのように生命維持が行われているのかを化学的側面から講義する。そして、これらの異常がどのような病態を起こし、病気の原因となるかを分子レベルで化学的に理解する。 |
| ディプロマ・ポリシー、コンピテンシーとの関連 | 共通DP2-C1<br>理学DP3-C1 |
| 履修上の注意、履修要件 | 各回の講義前後には必ず予習、復習を行うこと。講義前にプレテスト、講義後にポストテストを行い評価する。そのために、事前にテキストの関連項目､講義資料を確認しておくこと。また、講義後に、講義内容を復習すること。 |
| 成績評価の方法 | |
| 評価方法 | プレテスト・ポストテスト（30%）、日常の学習状況（平常点：10%）、定期試験（60%）を統合して評価する。 |
| 評価基準 | ・生体を構成している糖質、脂質、タンパク質、核酸、酵素、ビタミン等の構造と機能について説明できる。（定期試験）<br>・エネルギー代謝、糖質代謝、脂質代謝、アミノ酸及びタンパク質の代謝、核酸代謝について理解している。（定期試験）<br>・代謝の乱れと病気、免疫、器官の生化学及び遺伝の生化学について論じることができる。（定期試験）<br>・授業回数の3分の2以上の出席者のみを評価対象として、受講態度によって評価する。(平常点) |
| 試験・課題等に対するフィードバック方法 | |
| ・授業に関して課す小テスト（プレテスト・ポストテスト）については、WEB上（Gooleフォーム）で回答すると、正解、解説が示される。<br>・定期試験については、模範解答をJUNTENODO-PASSPORT上に示す。 | |
| テキスト | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| わかりやすい生化学－疾病と代謝・栄養の理解のために－第5版 | 監修：石黒伊三雄・篠原力雄 | ヌーヴェルヒロカワ | 9784861740695 | 定価 2,530円（税込） |

| |
|---|
| 参考文献 |
| ・最新臨床検査学講座 生化学：原諭吉・岡村直道・大城聰 編　医歯薬出版<br>・はじめの一歩の生化学 第3版：前川正夫・磯川桂太郎 著　羊土社<br>・生化学ドリル：田村隆明 著　南山堂<br>・講義資料をJUNTENODO-PASSPORTで事前に送付する。 |
| その他 |

| | |
|---|---|
| 連絡先・オフィスアワー | ・連絡先：nagaokai@juntendo.ac.jp<br>・オフィスアワー：毎週金曜日　17：00～18：00<br>・その他、随時、電子メールにて質問を受け付ける。 |
| 担当教員の実務経験 | 順天堂大学医学部において「生化学」の講義を担当していた経験を活かして、「生化学」の基礎と、その異常による疾患について講義を行う。 |
| 備考 | ・プレテストとポストテスト（Gooleフォーム）のURLは事前にJUNTENODO-PASSPORTで通知する。<br>・原則として対面授業であるが、オンライン授業を行うことがある。また、欠席者にはオンデマンド授業を行う。 |

授業計画

| 授業回 | 担当者 | 授業内容 | 授業方法 ※ | 予習・復習・レポート課題等と学習時間 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 長岡　功 | 【生体の成り立ちと生体分子】<br>生体を構成する分子、細胞の構造と機能について学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「生体の成り立ちと生体分子」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | 【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 2 | 長岡　功 | 【タンパク質の性質】<br>タンパク質を構成するアミノ酸、タンパク質の分類、タンパク質の構造について学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「タンパク質の性質」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 3 | 長岡　功 | 【酵素の性質と働き】<br>酵素の種類、特性、反応速度論、アイソエンザイムについて学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「酵素の性質と働き」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 4 | 長岡　功 | 【糖質の代謝】<br>糖の分類、消化と吸収、エネルギー代謝、血糖調節、糖尿病について学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「糖質の代謝」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 5 | 長岡　功 | 【脂質の代謝】<br>脂質の種類と科学的性質、代謝、リポタンパク質と代謝異常について学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「脂質の代謝」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 6 | 長岡　功 | 【アミノ酸およびタンパク質の代謝】<br>尿素回路、エネルギー代謝、アミノ酸からつくられる生理作用物質、アミノ酸の先天性代謝異常などについて学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「アミノ酸およびタンパク質の代謝」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 7 | 長岡　功 | 【核酸の役割】<br>核酸の種類とその特性、遺伝情報、核酸の分解、DNAの複製、遺伝子操作技術について学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「核酸の役割」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 8 | 長岡　功 | 【ホルモン】<br>ホルモンの種類と作用機序、各種のホルモン、ホルモン関連物質、内分泌疾患について学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「ホルモン」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 9 | 長岡　功 | 【ビタミン】<br>水溶性ビタミン、脂溶性ビタミンの種類と、それらの働き、欠乏症について学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「ビタミン」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 10 | 長岡　功 | 【内部環境の恒常性（ホメオスタシス）】<br>恒常性維持（ホメオスタシス）、神経系による調節、内分泌系による調節、免疫系による調節、ホルモンによるフィードバックについて学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「内部環境の恒常性（ホメオスタシス）」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 11 | 長岡　功 | 【消化・吸収と栄養価】<br>体に必要な栄養素、食品の摂取。消化・吸収、体が必要とするエネルギー量、必要な栄養素の量と質などについて学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「消化・吸収と栄養価」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 12 | 長岡　功 | 【体液】<br>水分、無機質と微量元素、酸・塩基平衡について学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「体液」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 13 | 長岡　功 | 【血液】<br>血液の構成とその働き、血球成分、血漿成分、血液凝固などについて学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「血液」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 14 | 長岡　功 | 【尿】<br>腎臓の機能、ろ過・再吸収・分泌、酸・塩基平衡と体液量の調節、尿の正常と異常、腎機能検査について学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「尿」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| 15 | 長岡　功 | 【免疫系、運動系、消化器系】<br>自然免疫、獲得免疫、筋肉の構造と収縮、筋肉代謝、筋疾患、肝臓、小腸の働きについて学ぶ。 | 講義 | 【予習】テキストの「免疫系、運動系、消化器系」の部分と講義資料を事前に学習し、プレテストを受ける。（90分）<br>【復習】授業後、講義内容を復習し、ポストテストを受ける。（90分） |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

※ アクティブラーニングの要素を取り入れている場合、その内容を明記（PBL、反転授業、グループワーク、討議、発表等）